講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション／「支援するってどんなこと？」　―介護福祉からの対人援助―を考える

【key words】
支援　パラダイムシフト　視座　視点　解釈　分析　ケア
【授業概要】
「支援」ということばと、援助・応援・お手伝いなどはどのように違うと思いますか?　医療・福祉職はまず「支援」とは何かを理解する必要があります。そのため、「支援」という言葉について介護福祉の視点から考えていく授業です。知識を身につけるのはもちろんですが、体験型学習を通して探求的な学習を行います。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業時体験、ワークを行うため上記に挙げたキーワードを調べましょう。

第２回　学校におけるコミュニケーションの不思議

【key words】
指導言、発問と質問、コミュニケーション
【授業概要】
授業を活性化し、子どもに考える力をつけるための必須アイテムである発問とは何か。質問との違いは何か。具体例を通して発問と質問の違いに触れ、実際の学校現場の様子を体感することで、学校におけるコミュニケーションの不思議を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、「発問とは何か」について、調べておくこと。

第３回　社会福祉士の専門性とコミュニケーション

【key words】
社会福祉士　バイステック　連携
【授業概要】
社会福祉士とは、どのような職業なのか概要を講義します。また、社会福祉士として連絡・調整を行なう時に必要なスキルは何かを演習を通して考え、社会福祉士を理解することを目的とします。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士及び介護福祉士法　第2条　社会福祉士の定義を読み

第４回　人を科学する　―臨床心理学の世界―

【key words】
多職種連携、守秘義務と情報共有、心理的アセスメント、自己課題発見、生涯学習
【授業概要】
「心」を科学的に分析するのが心理学です。人に関わる諸領域における多様な援助には、心理学的視点が重要となります。他者理解には自己理解が前提ですが、自分を知るのは、実はとても難しいことです。科学的に自分を知る方法の一つに人と人との交流パターンを分析する「エゴグラム」という心理テストがあります。授業では実際にやってみましょう。また，臨床現場（保険医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野）における心理師の専門技能と役割を学びましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：日常生活において、人の行動で気になること（問題）を一つ提案してください。なぜだろう？と疑問を感じることなど。

第５回　生きているってどういうこと～生命徴候を知ろう～

【key words】
バイタルサイン　救命救急処置　心肺蘇生法
【授業概要】
看護師を目指す者として、命の尊さや大切さを講義を通して学びます。また、バイタル測定から生命徴候を観察する方法を習得し、緊急時における救命処置を、本授業により身につけます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前課題：身の回りのＡＥＤ設置場所を、10か所以上確認しておく。
事後課題：講義終了時に感想（コメント）カードを提出する。

第６回　認知症高齢者の心をつかむコミュニケーション技法を学ぼう

【key words】
認知症、ユマニチュード
【授業概要】
認知症の特徴を理解した上で効果的なコミュニケーション技術と根拠について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
ＤＶＤ，パワーポイント、講義資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料の内容確認。

第７回　健康な小児の成長発達　～アニメキャラクターを通して小児の発達を学ぼう～

【key words】
乳児、幼児、学童、思春期
【授業概要】
新生児から中学までの成長発達を言語・遊び・運動をポイントにアニメキャラクターを通して学んでいく
【教科書ページ・参考文献】
医学書院　小児臨床看護概論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、外出先で見かけた子どもの行動、言動から年齢を予想してください。

第８回　ピア・カウンセリング入門！

【key words】
思春期、　ピア、　サポート、　カウンセリング、　自己決定
【授業概要】
ピア・カウンセリングスキルを使った、支援の方法を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
相談しやすい人はどんな人か、自分の体験の中から考えておいてください。

第９回　リハビリテーションと理学療法のこれから

【key words】
リハビリテーション、ノーマライゼーション、IL運動、理学療法
【授業概要】
リハビリテーションの言葉の意味から始まり、リハビリテーションの根幹となる思想や活動を紹介します。リハビリテーションの多様さと、それを支える専門職、さらにチームで活動する必要性についても説明します。そしてリハビリテーションの中核となる、理学療法についても、将来の方向性も含めて紹介してい行きます。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布いたします。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リハビリという言葉が、どこで良く使われているか、周囲の方々にインタビューしておいてください。

第１０回　理学療法士が担う治療と患者との関わり

【key words】
運動療法，物理療法，徒手療法
【授業概要】
理学療法士が担う治療についての知識を深め，多くの選択肢から治療をしていることを学ぶ。また，セラピストの知識や技術が患者さんに与える影響が大きいということや，マネージメント力がどのように問われているなどについて紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本理学療法士協会のホームページ（http://www.japanpt.or.jp/）から治療に関する内容を確認しておくこと。

	第１１回　「作業」って何だろう？ 【key words】 作業、生活行為、健康、well-being 【授業概要】 「作業」という言葉には、少し泥臭いようなイメージをもつ方もいるかと思います。しかし、作業療法の観点から捉える「作業」は、ひとの幅広い生活行為そのものを指します。人が健康的な生活を送るために、作業療法士はどのようなことを考え、どんな支援をしているのか、作業療法の概要についてご紹介します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。 第１２回　作業療法における治療支援と活躍の場 【key words】 作業療法、治療支援、領域 【授業概要】 作業療法の基本的な知識を学んだ上で、具体的な作業療法における治療支援について説明します。また、作業療法の中にも様々な専門性があり、各領域における特徴を説明し、作業療法に関する理解を深めることを目的とします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。 第１３回　受診時、保険証はなぜ必要？ 【key words】 保険証、保険診療、被保険者、保険者、保険医療機関、一部負担金 【授業概要】 医療機関受診時、保険証の提示で自己負担分3割で治療が受けられる仕組み（保険診療の仕組み）を学び、医療保障制度について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時、保険証、医療機関受診時の領収書、明細書がある人は持参して下さい。 第１４回　子どもの虐待はどうして起こるの？ 【key words】 児童虐待　養育　家族 【授業概要】 児童虐待の現状をお話しします。その中で、予防、発見防止、支援について、現在の対応システムに沿って理解していきたいと思います。また、専門職の役割についても考えてみたいと思います。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞やニュースを通じて、児童虐待の実態を把握しておいてください。 第１５回　教師の専門性と指導技術 【key words】 変わる学校、アクティブ・ラーニング、教師に求められる力量 【授業概要】 初め、2020年度からの新しいカリキュラムや教師の仕事等基礎的知識について、具体的事例で話します。次に、その知識を受け、「魅力的な先生」とは、どんな力量を持つ人なのか、グループワーク及び全体発表を行い、共有します。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校や教育に関するニュース・新聞記事に目を通しておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。

実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉現場、看護現場、リハビリ、医療事務、保育、学校現場の実務経験を持つ教員が今までの経験を活かしたオムニバス形式の授業を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　哲学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
	第２回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
	第３回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
	第４回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）
	第５回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）
	第６回	家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）
	第７回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）
	第８回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）
	第９回	国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章）
	第１０回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章）

	第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（二回以上の者）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00
評価方法	■筆記試験（□論述 □客観）　■レポート　□口答試験　□実地試験　□その他 評価配分：成績評価は、試験（60%）・レポート（20%）・授業取組み状況（20%）を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）　　咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　情報処理演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
村上　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 現代社会において欠かす事のできないパーソナルコンピューターの利用方法の習得を目的とする。 〔到達目標〕 レポート作成、研究発表において必要不可欠なWord、Excel、Powerpointを活用できるようにし、資料の作成、分析、発表などに役立つ様々な機能を習得する。
授業の概要	本講義では、Word、Excel、Powerpointの知識を深め、大学生活に必要な機能を積極的に活用できる能力を習得していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、自己紹介スライド作成、タイピング練習 【key words】 授業の進め方・自己紹介スライド 【授業概要】 授業の目的、目標、進め方、評価方法の説明・PowerPointで自己紹介スライドを作成 【教科書ページ・参考文献】 教科書なし。PP資料にてプロジェクターで説明 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までにUSBメモリを用意 第２回　情報化社会とリテラシー 【key words】 情報社会とは何か・情報リテラシーの必要性 【授業概要】 情報化社会とは何か・情報化の光と影・情報化社会のモラルやルール 【教科書ページ・参考文献】 PP資料にてプロジェクターで説明 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報化のメリット・デメリットを考える 第３回　Word (1)　Wordの基本操作、文章入力・編集 【key words】 Wordの基本操作・レポートの作成 【授業概要】 Wordの基礎知識・レポートの作成方法 【教科書ページ・参考文献】 P1～P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授授業で勉強した操作の復習 第４回　Word (2)　表・図表・図形の作成・編集① 【key words】 レポートの作成・編集 【授業概要】 簡単に文書を作成するための編集機能・段落番号・箇条書き・図、SmartArtグラフィックの挿入 【教科書ページ・参考文献】 P12～P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		授授業で勉強した操作の復習
	第５回	Word (3)　表・図表・図形の作成・編集② 【key words】 グラフィック機能の利用 【授業概要】 図、ワードアートの挿入・ページ罫線の設定 【教科書ページ・参考文献】 P34～P39 71,72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第６回	Word (4)　表現力をアップする機能 【key words】 表現力をアップする機能 【授業概要】 ページ罫線・ワードアート・段組み・タブとリーダーの設定・PDFファイルとして保存 【教科書ページ・参考文献】 P39～P43　P73～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第７回	Word (5)　長文の編集 【key words】 長文のレポートを編集 【授業概要】 ページ番号の挿入・改ページの挿入・見出しの設定・ナビゲーションウインドウの操作・見出しの入れ替え・スタイルの更新・脚注の挿入 【教科書ページ・参考文献】 P44～P53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第８回	Word (6)　文書の校閲 【key words】 文書の校閲 【授業概要】 自動文章校正機能・表記ゆれチェック・検索と置換・コメントの利用・変更履歴の利用 【教科書ページ・参考文献】 P54～P63　P76～P77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第９回	Word (7)　Wordのまとめ 【key words】 Wordのまとめ 【授業概要】 Wordで勉強した機能の復習 【教科書ページ・参考文献】 P71～P80　練習問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１０回	Excel (1)　Excelの基本操作・表の作成 【key words】 Excelの表の作成 【授業概要】 画面構成・データ入力・オートフィル機能・罫線の設定・数式の入力・関数の入力・表示形式・書式設定 【教科書ページ・参考文献】 P1～P16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 書式設定 【教科書ページ・参考文献】 P1～P16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１１回	Excel (2)　表の編集、印刷 【key words】 Excelの表の編集 【授業概要】 相対参照と絶対参照・書式のコピー・行と列の入れ替え・列幅のコピー・印刷機能・グラフ作成 【教科書ページ・参考文献】 P17～P34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１２回	Excel (3)　データベース機能 データベースの操作 【授業概要】 データの並べ替え・データの抽出・データの集計 【教科書ページ・参考文献】 P35～P48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１３回	Excel (4)　複数シート操作 【key words】

		複数のシートの操作 【授業概要】 シート間の集計・数式のコピー 【教科書ページ・参考文献】 P49～P52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１４回	Excel (5)　関数 【key words】 関数 【授業概要】 PHONETIC関数・COUNTA関数・COUNTIF関数・VLOOKUP関数・IF関数 【教科書ページ・参考文献】 P53～P67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１５回	Excel (6)　ユーザー定義の表示形式、条件付き書式 【key words】 ユーザー定義の表示形式・条件付き書式 【授業概要】 ユーザー定義の表示形式・条件付き書式の設定 【教科書ページ・参考文献】 P68～P88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１６回	Excel (7)　ピボットテーブルの作成 【key words】 Excel ピボットテーブルの作成　データベースの活用 【授業概要】 ピボットテーブルの作成・フィールドのグループ化・データの更新・テーブルの利用・集計行の表示 【教科書ページ・参考文献】 P89～P102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１７回	Excel (8)　マクロの作成、WordとExcelの連携 【key words】 マクロの活用・WordとExcelの連携 【授業概要】 マクロの作成・マクロの実行・マクロの保存・WordにExcelの表を取り込む 【教科書ページ・参考文献】 P103～P117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 マクロの作成・マクロの実行・マクロの保存・WordにExcelの表を取り込む 【教科書ページ・参考文献】 P103～P117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１８回	Excel (9)　Excelのまとめ 【key words】 EXCELのまとめ 【授業概要】 Excelで勉強した機能の復習 【教科書ページ・参考文献】 P125～P133　練習問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１９回	Powerpoint (1)　Powerpointの基本操作、プレゼンテーションの作成 【key words】 PowerPointの活用 【授業概要】 プレゼンテーションの新規作成・テーマの適用・新しいスライドの挿入・スライドショーの実行 【教科書ページ・参考文献】 P1～P15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第２０回	Powerpoint (2)　オブジェクトの挿入、構成の変更、特殊効果の設定 【key words】 PowerPointの活用 【授業概要】 オブジェクトの挿入・表の作成・グラフの作成・箇条書きテキストをSmartArtに変換・画面切り替え効果・アニメーションの設定 【教科書ページ・参考文献】 P16～Pc32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第２１回	Powerpoint (3)　他のアプリケーションの利用 【key words】 PowerPointの活用 【授業概要】

		プレゼンテーションの印刷・他のアプリケーションの利用・ワード文書の挿入・Excelブックの利用 【教科書ページ・参考文献】 P33～P41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第２２回	Powerpoint (4)　スライドマスターの作成、スライドショーの設定 【key words】 PowerPointの活用 【授業概要】 スライド共通のデザインの設定・スライドマスターの編集・ヘッダーとフッターの設定・スライドショーに役立つ機能の利用・リハーサルの実行 【教科書ページ・参考文献】 P42～P57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第２３回	Powerpoint (5)　Powerpointのまとめ 【key words】 PowerPointのまとめ 【授業概要】 PowerPointで勉強した機能の復習 【教科書ページ・参考文献】 P58～P63　練習問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第２４回	発表用資料の作成① 【key words】 プレゼンテーション発表準備 【授業概要】 プレゼンテーションの発表準備・テーマ決定・テーマに沿った資料収集・資料整理 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの資料収集 【授業概要】 プレゼンテーションの発表準備・テーマ決定・テーマに沿った資料収集・資料整理 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの資料収集
	第２５回	発表用資料の作成② 【key words】 プレゼンテーション発表準備 【授業概要】 プレゼンテーションの発表準備・集めた資料を使ってPowerpointでプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの資料収集
	第２６回	発表用資料の作成③ 【key words】 プレゼンテーション発表準備 【授業概要】 プレゼンテーションの発表準備・集めた資料を使ってPowerpointでプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの資料収集
	第２７回	発表用資料の作成④ 【key words】 プレゼンテーション発表準備 【授業概要】 プレゼンテーションの発表準備・プレゼンテーションの作成、仕上げ、リハーサル 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの発表準備
	第２８回	プレゼンテーション発表 【key words】 プレゼンテーション発表 【授業概要】 プレゼンテーションの発表・プレゼンテーションの評価 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの発表準備
	第２９回	プレゼンテーション発表 【key words】 プレゼンテーション発表 【授業概要】 プレゼンテーションの発表・プレゼンテーションの評価

	【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの発表準備 第３０回　プレゼンテーション発表 【key words】 プレゼンテーション発表 【授業概要】 プレゼンテーションの発表・プレゼンテーションの評価 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの発表準備
受講生に関わる情報および受講のルール	・USBフラッシュメモリーを各自用意し、毎回必ず持参すること。 ・演習は、毎回が成果の積み重ねとなるため、欠席で成果が途切れることのないよう心掛けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、すべての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	①平常点（出席状況・授業態度）（60%） ②試験（40%）
教科書	情報リテラシー Windows7 Word/Excel/PowerPoint2010対応 FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 企業や学校、自治体などの情報処理の授業およびセミナーなどの講師として長年従事した経験を活かし、社会に出て活用できる技術を指導している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　英語Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社①)・後期(社②)	1年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
五十嵐　久子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ケアを必要とする外国人と英語でやり取りをすることができる会話力を目指します①よく使われる臨床に関する英語表現を覚える②実際の場面を想像して正しい返答ができるようにする③医学・医療語彙を英語で学び、知識習得に役立つようにする
授業の概要	臨床に即した場面から患者とケアワーカーとの会話になじみ自然に発話できるようにする①基本的な英語表現を習得する②医療語彙を学ぶ③外国と日本の医療文化の違いと現状を学ぶ

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　第1章患者を迎える　May I have your name ?　場所（位置）を示す表現 第２回　第2章バイタルサイン測定　Ifeel like～　測定値の答え方　症状の表現 第３回　第3章痛みのアセスメント　痛みの表現　痛みの問診術 第４回　第4章症状　How many times (often)～？How long ～？様々な症状の表現 第５回　第5章体位変換/移乗　I'd like to ～　.Let me help ～ .　動きの表現　注意を喚起する言い方 第６回　第6章 診療科目　診療科と専門医　検査のための表現　人体器官 第７回　中間考査　第7章まとめと医学英語の構造　外国人の患者さんとのコミュニケーション　英単語の接頭辞・接尾辞 第８回　第8章日常生活援助　着替え、洗面、歯磨き、整髪及び食事の介助に使う表現 第９回　第9章与薬　薬剤の種類と効能　服薬方法を指示する英語表現 第１０回　第１0章排泄（排便/排尿）　排泄にかかわる表現　排尿の仕組み　語彙 第１１回　第１1章慢性疾患　患者の既往歴や生活習慣を尋ねる英語表現　慢性病とは？ 第１２回　第１２章急性期/手術室　急患や患者家族に対するERでの会話　患者の意識レベル・見当識を尋ねる英語表現 第１３回　第13章妊婦検診　日本での出産に向けた準備と検査　妊婦検診

	第１４回　　第14章まとめと医学英文読解　死因やがんに関する医学統計を読む 第１５回　　国境なき医療ボランティア　紛争地域や自然災害での医療ボランティアの活動
受講生に関わる情報および受講のルール	定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他
授業外時間にかかわる情報	英語が得意で将来、海外でのボランティアを希望する学生は英語検定試験を受験することを勧めたい
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期考査2回の合計
教科書	Talking with Your Patients in English 成美堂
参考書	英和辞典　　英英辞典　　英語検定試験問題集
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(F)・後期(G)	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
Zack　Grace			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	The goal of this class is to give future teachers a blueprint for what to teach children who are just beginning their English study. Students will learn a number of skills to incorporate into their future lessons. These skills include but are not limited to: how to design the class to fit the maturity level of children, how to incorporate games to support retention of key vocabulary, how to use humour to maintain student attention and motivation, how to identify various types of students, adjusting teaching style to fit the student and how to handle discipline with small children.
授業の概要	The class will be a combination of practicing teaching simple English lessons for children learning how to play games to reinforce key vocabulary and will include adult conversational English for use in everyday life.

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①One of the main ways students will learn how to teach children will be to simulate teaching senairos in the class room and in the kindergarten.	○			
②Students will be encouraged to solve problems in pairs and groups.		○		
③Part of the class will focus on why working with children is important for society. Students will be encouraged how their actions will affect the future citizens of Japan.			○	
④We will encourage creativity in problem solving by creating a safe environment for students to express ideas.				○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　Introductions. Talking about what you want to do. 【key words】 Verbs: go, eat, play, drink, watch. I want to go to, eat, play, watch, drink ~~. 【授業概要】 We will practice making simple sentances using games. 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第２回　Sentance structure SVO. Talking about what you don’t want to do.
【key words】
I don’t want to eat, drink, play, watch, go to ~~.
【授業概要】
Practice teaching simple sentances in groups of 5-6 students.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第３回　How to teach reading, introdutory phonics. Making questions.
【key words】
Do you want to eat, drink, play, watch, go to ~~?
【授業概要】
Practice making simple conversations.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第４回　Simple past tense. Talking about what you did.
【key words】
What did you eat for breakfast? I ate ~~. I drank ~~. I watched ~~. I played ~~. I went to ~~.
【授業概要】
Use the running game to practice sentances.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第５回　Using adjectives to expand sentances.
【key words】
Cute, delicious, nice, cool, strong, good, bad, etc.
【授業概要】
Talk about what we think about the world. I think cookies are delicious. I think dogs are cute.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第６回　Using prepositions to expand sentances.
【key words】
In, on, at, with, for, etc.
【授業概要】
Let’s play tennis in the gym. Let’s play baseball at school. Let’s watch a movie on Friday.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第７回　Talking about experiences. Making “Have you V O?” questions.
【key words】
eaten, drunk, played, watched, gone, etc.
【授業概要】
Have you eaten pizza at Potate? Have you watched Snow White?
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第８回　Making comparisons. Which do you think is bigger A or B?
【key words】
Bigger, cuter, more delicious, more beautiful, etc.
【授業概要】
Practice games to play in the kindergarden.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第９回　Introductory writing. Resturaunt conversation.
【key words】
I want to order ~~. What does ~~ have in it? Excuse me, we need a spoon, some pepper, etc.
【授業概要】
Teach the students the game “Go Fish”.
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
Students will prepare to work in the kindergarten.

第１０回　Discussing responsibities. I have to V O. I have to go to school on Friday, etc.
【key words】

	I have to V O. I don’t have to V O. 【授業概要】 Simple conversation including responciblilites. Are you free on Saturday? No, I have to go to work, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１１回　Identifiying nouns, countable, uncountable, proper nouns. 【key words】 A cookie, some cookies, a fish, some fish, etc. 【授業概要】 Practicing proper use of “a”, “some”, “many”, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１２回　Introducing friends and family. 【key words】 This is ~~, He is ~~, She is ~~, His, Her, etc. 【授業概要】 This is my friend. His name is Kenta. He is very kind. He is a university student, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１３回　Describing locations with prepositions. 【key words】 In, on, under, by, next to, behind, with, etc. 【授業概要】 The cup is on the table. The Starbucks is across from the Kaldi. My house is in Motoshimana-machi. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１４回　Preparing for the final exam. 【key words】 Review all vocabulary. 【授業概要】 Spend 5-10 minutes reviewing every lesson previously completed. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Preparing answers for final exam. 第１５回　Preparing for the final exam. 【key words】 Review all vocabulary. 【授業概要】 Spend 5-10 minutes reviewing every lesson previously completed. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Preparing answers for final exam.
受講生に関わる情報および受講のルール	Students are expected to respect each other. Speaking during the class lecture and using phones are also prohibited.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	Because the class will not have homework it is important to pay attention carefully and actively participate in class.
オフィスアワー	By appointment.
評価方法	The class will have one final exam. Additional credit will be earned by participating in the kindergarten class.
教科書	授業内で適宜配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　英語Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(G)・後期(F)	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
五十嵐　久子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 易しい英語で子供の幼稚園での出来事を実習生の目を通して学びます。簡単な会話や手遊び歌など実践でも役に立つアクティブィティを身につけましょう。 【到達目標】 ①基本的な語彙を増やす ②英語の構造を理解する ③わからない単語を類推する ④単語をわかりやすく言い換える
授業の概要	教科書の各章のリスニングを繰り返し、耳から英語に慣れる。動詞を聞き取って文脈から全体を類推する力を身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション：英語で自己紹介をする。自分の履歴（CV)を英語で書く。 第２回　第1章：子供の園保育園　(1) 不定冠詞 第３回　第1章：子供の園保育園　(2) 数量形容詞　所有格 第４回　第2章：えみの実習初日　（１）動詞の活用　規則動詞　不規則動詞 第５回　第2章えみの実習初日　(2) who　whoseの疑問文 第６回　第3章：さあ、出かけましょう　(1) 接続詞　前置詞 第７回　第3章：さあ、出かけましょう　(2) 前置詞と副詞の違い 第８回　第4章：バシャバシャ、水しぶき　(1) 不定詞　動名詞（主語　目的語） 第９回　第4章：バシャバシャ、水しぶき　(2)動名詞の作り方 第１０回　第5章：ホットケーキの日　(1)原型不定詞 第１１回　第5章：ホットケーキの日　(2)副詞　‘ly’　の作り方 第１２回　第6章：ごほんを読んで、お話聞かせて（１）定冠詞　疑問文　授与動詞

	第１３回　　第7章：スイカで遊ぼう　（1）接続詞 第１４回　　第8章：お誕生日会　（1）形容詞・副詞の比較級 第１５回　　第9章：子供と遊び　（1）数えられる名詞と数えられない名詞
受講生に関わる情報および受講のルール	定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他
授業外時間にかかわる情報	英語を園児や小学生に教えることを希望する学生は英語検定試験を受験することを勧めたい。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期考査2回の合計(100%)
教科書	Children's　Garden成美堂
参考書	英和辞典　　英英辞典　　Campus English　英語検定試験問題集
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　こころの学び　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
井上　新甫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 身心を修めて自主独立の気風を養う。 〔到達目標〕 学問と人生は一体。学問と事実は一体。これを知る。			
授業の概要	心こそ己の司令塔である。その司令塔が人生開拓の成否を握る。では心とは何か、司令塔とは何か。			
■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
授業計画	第１回　講義の概要 第２回　君、心を賤しむなかれ① 第３回　君、心を賤しむなかれ② 第４回　君、心を賤しむなかれ③ 第５回　心の歌をうたう① 第６回　心の歌をうたう② 第７回　心の歌をうたう③ 第８回　心の歌をうたう④ 第９回　人はだれもが聖人である① 第１０回　人はだれもが聖人である② 第１１回　われわれはどこから来て、どこへ行くのか① 第１２回　われわれはどこから来て、どこへ行くのか② 第１３回　日本人の心の故郷① 第１４回　日本人の心の故郷② 第１５回　授業の総括			
受講生に関わる情報および受講のルール	受講生は毎回、こまめにメモを取ることが望ましい。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	時々、質問や感想を書いてもらう。これにより学生の理解度と進捗状況を確認。			

授業外時間にかかわる情報	学問と人生は一体。ゆえに時間外すべての見聞・経験・情報はみな学問である。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	–
教科書	①井上新甫著・三輪執斎『四言教講義』通釈と解説 ②井上新甫著『神ながらの道』
参考書	井上新甫著『王陽明と儒教』、中江藤樹の『翁問答』、佐藤一斎の『四志四録』（言志録・言録後録・言録晩録・言録耋録の四部作）。『古事記』『日本書紀』。しかしあくまでも参考書であって授業をよく聞いていれば必ずしも読む必要はない。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　チームケア入門Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
大島由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。 [到達目標] 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション

【key words】
講義概要、チームケア、多職種連携、地域包括ケアシステム

【授業概要】
全8回の講義の進め方や評価方法等のオリエンテーション後、医療・福祉・教育領域において、なぜ今連携なのか、チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義について解説を行う。

【教科書・参考文献】
・教科書：配布資料のみ
・参考資料：講義内で紹介

【課題・予習・復習・授業準備】
課題：配布されたワークシートに沿い、自分の所属しているコースで取得が可能な資格／専門職を1つ取り上げ、具体的に、どんな仕事をしているのか」を簡単にまとめてくること。

第２回　チームケアを担う人々を理解する

【key words】
社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、特別支援学校教諭、中学校・高校教諭

【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークと解説を通じて理解を深める。

【教科書・参考文献】
・教科書：なし

		・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 次回持参課題：配布されたワークシートに沿い、自分の選択した専門職について以下の事柄を調べ、まとめること ①根拠法規、②対象者、③活躍の場、④具体的な業の内容、⑤他職種との連携、⑥その他
	第３回	チームケア・チーム医療を担う人々を理解する 【key words】 多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークを行い、他職を目指す学生にどのように説明することが望ましいかの検討を行う。また、呈示された事例へのチームでの対応の中で自職の担う役割についてグループでの検討を行い、自職の専門性に関する理解を深める。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：合同演習で使用する自職の紹介についての資料を班ごとに作成し、担任に添削を受けること 次回持参課題：配布されたワークシートに沿い、呈示された事例内での自職の関わりについて指定された班内で検討を行い、まとめること
	第４回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、他学部の学生との間でお互いが作成した資料を用いたグループワークを行い、それぞれの専門職に関する基本的理解について理解を深める。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：自職について調べた資料をグループの人数分、用意・持参すること
	第５回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。 【key words】 多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、共通の事例に対するそれぞれのかかわりについて他学部の学生との間でグループワークを行い、それぞれの専門職の専門性について理解を深める。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：自職の事例への関わりについてまとめた資料を持参すること
	第６回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会① 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割に関するこれまでの討議をもとに、多職種が連携することの意義について他学部の学生との間でグループワークを行い、その必要性や求められる姿勢について理解を深める。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：各グループ内で指定された時間の発表ができるよう準備を行なうこと
	第７回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会② 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域においてチームケアを行うことの意義についての討議結果について、演習参加者全員でのシェアリングを行い、多職種連携を行う中での自職の役割や他職との連携方法について考察を行う。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介

	第８回	【課題・予習・復習・授業準備】 課題：第4回～第7回の合同演習に関する振り返りを指定されたワークシートに行うこと 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 【key words】 多職種連携 【授業概要】 一連の学習過程について振り返りを行い、医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う専門職を目指す今後の学習に向けた目標設定や課題設定を行う。 【教科書・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：指定されたレポート課題
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ①予習：支持された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ③授業日程：履修者に対して6～7月を目安に掲示板にて8回の日程を提示するため、留意すること。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。 ④欠席・遅刻については大学事務局に必ず連絡を行い、後日授業担当教員に対応を確認すること。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学習ポートフォリオ内の感想の記載欄など	
授業外時間にかかわる情報	・自分の目指す職種等に関する調べ学習など、各回で課題が提示される予定である。それらに積極的に取り組むこと。 ・課題作成に用いた資料はフラットファイルなどに保管し、合同討議の際、参考にできるようにしておくこと。	
オフィスアワー	初回に指示する。	
評価方法	①グループワークでの取り組み50%。 ②ポートフォリオ評価50%。	
教科書	各回で資料を配布する。	
参考書	1. 鷹野和美著： チームケア論　　ぱる出版，2008. 2. 小松秀樹： 地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、 2015	
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない	

講義科目名称：　海外語学研修（カナダ）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュ二ケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第２回	研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。
	第３回	カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第４回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第５回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第６回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的

		な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第７回	英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第８回	英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第９回	英語研修(5)　日常英会話　危機管理 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第１０回	協定校での授業　会話、課外授業　　Meet with Program Team レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第１１回	協定校での授業　会話、課外授業　　Welcome &Program Orientation レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第１２回	協定校での授業　会話、課外授業　　Campus Orientation & Tour レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第１３回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第１４回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第１５回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業　Language History ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業　Language History ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Cu l ture② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業　　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Sports ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ① レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ② レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第29回	協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
	第30回	研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）

	研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 　し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　16:00～17:30　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　■プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦・小林　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　平成32年3月15日～3月23日

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第1回　研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 第2回　研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。 第3回　フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。 第4回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 第5回　医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。 第6回　医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。

	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第29回	研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
	第30回	研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）

	研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　5時限　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　対人援助の養成過程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけでなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Ⅰでは、学内で学ぶことが出来ない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目的としている。 【到達目標】 ①本学におけるボランティア活動について理解し、ボランティアに参加することができる。 ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。 ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を言語化できる。
授業の概要	ボランティア活動Ⅰは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動の狙いやこれまでの歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義及び演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション・本学におけるボランティア活動（1）概要とその意義 【key words】 授業概要、成績評価、本学におけるボランティア活動 【授業概要】 全30回の授業の概要と流れ、成績評価等について説明を行う。その後、本学におけるボランティア活動の成り立ちや意義、求められる姿勢等について解説を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p1-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：初回の講義で疑問に感じたこと・不安に感じたことについて配布されたワークシートにまとめ、次回持参すること 第２回　本学におけるボランティア活動（1）依頼ボランティア 【key words】 依頼ボランティア、地域貢献 【授業概要】 本学におけるボランティア活動の形態の1つである「依頼ボランティア」について、概要や成り立ち、その意義について地域連携センター教職員より説明を受け、理解を深める。また、実際の手続きについて説明を受け、依頼ボランティアが開始できるよう準備を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p5-11,16-21

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：次回の講義にてこれまで体験してきたボランティア活動やこれから関わりたい活動について取り扱うため、自分の経験や希望に関する考えをまとめておくこと

第３回　本学におけるボランティア活動（2）継続ボランティアの概要と意義

【key words】
継続ボランティア、将来の希望、目標設定

【授業概要】
本学におけるボランティア活動の形態の1つである「継続ボランティア」について、概要や成り立ち、その意義について説明を受け、理解を深める。また、今後の継続ボランティアに対する目標設定等をグループワークを交えながら検討する。

【教科書・参考文献】
教科書p12-15

【課題・予習・復習・授業準備】
課題：講義内で配布されたワークシートおよび学生紹介票について作成を行い、クラス担任に提出すること

第４回　本学におけるボランティア活動（3）継続ボランティアの具体的検討

【key words】
継続ボランティア、福祉施設のマナー、教育機関のマナー

【授業概要】
継続ボランティア先の検討に際して、具体的な事務手続きやその際に求められるマナーについて解説を行う。また、前回の講義にて作成・提出されたワークシートに基づき、各自が希望する領域／対象ごとに分かれ、それぞれの機関・対象に関する解説を受け、活動先の具体的検討を行う。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：第9回の講義までを目安に、各自で継続ボランティアの活動先について検討を行い、手続きを進めること

第５回　車椅子の使い方

【key words】
車椅子、運動機能の障害を持つ方への関わり

【授業概要】
短期大学部の介護福祉士養成課程の教員より、車椅子の使用方法等について説明を受け、実際に相互に使用する経験をすることで運動機能を持つ方への関わり方について理解を深める。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
特になし

第６回　ブラインドウォーク

【key words】
ブラインドウォーク、介助される側の感じ方

【授業概要】
短期大学部の介護福祉士養成課程の教員の指導の下で、ブラインドウォークを経験し、介助される側の感じ方や介助する側の関わり方の工夫について体験的に学ぶ。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：継続ボランティア活動希望先についてクラス担任に報告すること

第７回　前橋七夕まつりボランティア（1）七夕まつりと本学の関わりについて

【key words】
前橋七夕まつり、地域貢献、七夕伝説

【授業概要】
前橋市および同市商工会議所からの依頼を受けて例年参加している「前橋七夕まつり」におけるボランティア活動の概要やその経緯、求められている活動内容（会場装飾）について説明を受け、理解を深める。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：配布されたワークシートを用いて次回講義までに各自で装飾案を検討すること

第８回　前橋七夕まつりボランティア（2）班編成・役割分担と計画作成

【key words】
前橋七夕まつり、グループワーク

【授業概要】
指定を受けたグループに分かれ、各グループにて役割分担を行った後、活動の計画や内容について討議・検討する。

		【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：各グループにて計画書および予算書の作成を行い、次回提出すること
	第９回	前橋七夕まつりボランティア（3）計画に基づく作業1 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク 【授業概要】 各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を開始する。また、物品購入の際の事務手続きについて解説を行い、本学所定の手続きについて学ぶ。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は継続ボランティア活動の状況についてグループワークとプレゼンテーションを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと
	第１０回	継続ボランティアの振り返り（1）依頼から活動開始時の振り返り 【key words】 継続ボランティア、振り返り、活動の動機と目標 【授業概要】 これまでの継続ボランティアの振り返りとグループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、それぞれが自分の活動先を選んだ動機や設定した目標についてお互いの考えを共有し、今後の活動に向けた目標設定を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p4-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：グループ内でのプレゼンテーションを通じて得た感想と今後の継続ボランティアの目標について、所定のワークシートに記入を行い、提出すること。
	第１１回	前橋七夕まつりボランティア（4）計画に基づく作業2 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク 【授業概要】 各自で実施した現地の下見の情報を元に、各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を継続する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：七夕まつり当日の依頼ボランティアに参加する学生は別途配布される資料を確認すること
	第１２回	前橋七夕まつりボランティア（5）計画に基づく作業と取りまとめ 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク、個人総括 【授業概要】 各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を継続する。また、個人としての作業に臨んだ姿勢の総括や領収書等のとりまとめを開始する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は現地での設営と学内での作業の2つに分かれるため、役割分担等を行っておくこと。
	第１３回	前橋七夕まつりボランティア（6）現地での設営および活動の総括 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク、班の総括 【授業概要】 各グループの計画・分担に沿って、現地での設営と学内での総括の2つに分かれて作業を実施する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：個人総括・班総括・決算書等の作成を行い、次回持参すること
	第１４回	前橋七夕まつりボランティア（7）活動報告会 【key words】 前橋七夕まつり、グループワークの振り返り 【授業概要】 他専攻と合同で、前橋七夕まつりボランティアでの活動について班ごとにプレゼンテーションを行う。

【教科書・参考文献】
なし

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：次回は継続ボランティア活動の状況についてグループワークとプレゼンテーションを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと

第１５回　前期総括・継続ボランティア振り返り（2）後期に向けた中間報告

【key words】
継続ボランティア、振り返り、活動状況のモニタリング

【授業概要】
これまでの継続ボランティアの振り返りとグループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、それぞれが設定した目標・行っている活動・得られた学び・課題についてお互いの考えを共有し、後期の活動に向けた目標設定を行う。

【教科書・参考文献】
教科書p4-5

【課題・予習・復習・授業準備】
課題：グループ内でのプレゼンテーションを通じて得た感想と今後の継続ボランティアの目標について、所定のワークシートに記入を行い、提出すること。

第１６回　後期オリエンテーション（群馬県障害者スポーツ大会ボランティア説明）

【key words】
授業概要、障害者スポーツ、障害特性

【授業概要】
後期の授業予定について確認した後、参加予定の群馬県障害者スポーツ大会ボランティアの活動内容や留意点について、担当者より説明を受ける。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：次回は後期の継続ボランティア活動の目標についてとりまとめを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと

第１７回　継続ボランティア指導（1）後期に向けた個別の目標設定

【key words】
継続ボランティア、振り返り、目標設定

【授業概要】
参加予定の群馬県障害者スポーツ大会ボランティアでの体験を含め、これまでの継続ボランティアについて振り返りを行い、それぞれの将来への希望や志望する専門職、興味関心に応じた活動計画と目標設定を行う。

【教科書・参考文献】
教科書p4-5

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：次回は、今回作成した個別の計画と目標について、他専攻の学生を交えたグループワークを行うため、自分の考えや意見を他専攻の学生にも伝わるよう準備を行うこと。

第１８回　継続ボランティア指導（2）後期の目標設定に関するグループワーク

【key words】
継続ボランティア、将来の希望、目標設定

【授業概要】
各自が作成した後期の継続ボランティアに対する計画・目標について、グループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、現在の希望職種や進路に基づく目標と活動内容の対応について、お互いの考えを共有し、今後の活動への指針を得る。

【教科書・参考文献】
教科書p4-5

【課題・予習・復習・授業準備】
課題：グループワークとプレゼンテーションで得た学びについて、所定のワークシートに記録を行い、提出すること

第１９回　施設プレゼント（1）活動の概要、意義と目的

【key words】
高齢者福祉施設、地域貢献

【授業概要】
本学近隣の高齢者福祉施設との協働で実施している「施設プレゼント企画」の概要やその意義、目的について説明を受け、理解を深める。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：編成されたグループ間で協力いただく高齢者福祉施設の担当者との面会について調整を行うこと

第２０回　施設プレゼント（2）企画の構想準備

【key words】

高齢者福祉施設、グループワーク、施設の特徴

【授業概要】
各グループにて実施した高齢者福祉施設担当者との打ち合わせ内容を元に、企画内容の構想を練ること。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：各グループにて必要な物品等のリストアップを行うこと

第２１回　施設プレゼント（3）構想に基づく計画作成
【key words】
高齢者福祉施設、グループワーク、施設の特徴

【授業概要】
各グループにて決定した企画構想についてグループ間でプレゼンテーションを行い、全体の調整を行った上で、計画を作成し、製作を開始する。

【教科書・参考文献】
なし

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：役割分担に基づき、計画書・予算書を作成すること

第２２回　施設プレゼント（4）計画に基づく作業1
【key words】
高齢者福祉施設、グループワーク、施設の特徴

【授業概要】
各グループの計画に基づき、作業を実施する。

【教科書・参考文献】
なし

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：物品等の保管について各グループにて所定の事務手続きを行うこと

第２３回　施設プレゼント（5）計画に基づく作業2
【key words】
高齢者福祉施設、グループワーク、施設の特徴

【授業概要】
各グループの計画に基づき、作業を実施する。

【教科書・参考文献】
なし

【課題・予習・復習・授業準備】
特になし

第２４回　継続ボランティア指導（3）終結に向けた手続き
【key words】
継続ボランティア、終結・中断、お礼状

【授業概要】
継続ボランティアを終了・中断する際の手続きや留意点について解説を行い、お礼状の作成の演習を行う。

【教科書・参考文献】
教科書p15

【課題・予習・復習・授業準備】
課題：授業内で指示を受けたフォーマットでのお礼状について各自で作成を行い、クラス担任に添削を受けること

第２５回　施設プレゼント（6）計画に基づく作業3
【key words】
高齢者福祉施設、グループワーク、施設の特徴

【授業概要】
各グループの計画に基づき、作業を実施する。

【教科書・参考文献】
なし

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：グループ間の協議を適宜行うこと

第２６回　施設プレゼント（7）企画全体の取りまとめと個人総括
【key words】
高齢者福祉施設、グループワーク

【授業概要】
各グループの計画に基づいて作成されたプレゼントについて、企画としてのとりまとめと個人の総括を行う。

	【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は施設プレゼント企画での各グループの活動についてプレゼンテーションを行うため、グループ内でそれぞれの総括について共有し、まとめておくこと 第２７回　施設プレゼント（8）全体報告 【key words】 高齢者福祉施設、グループワーク、プレゼンテーション 【授業概要】 企画内での各グループの活動とそこで得られた学びと課題について、全体でプレゼンテーションを行い、それぞれの学びについて共有する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回・次々回と年間を通じた継続ボランティアの活動報告を行うため、指示に沿った形式のプレゼンテーションの準備を行うこと。 第２８回　継続ボランティア報告会（1）専攻別1 【key words】 継続ボランティア、学びと課題、プレゼンテーション 【授業概要】 受講生を3つに分け、それぞれの会場において、年間を通じた継続ボランティアの活動報告・相互評価を行う。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：ボランティア報告書のとりまとめを各自で行うこと 第２９回　継続ボランティア報告会（2）専攻別2 【key words】 継続ボランティア、学びと課題、プレゼンテーション 【授業概要】 受講生を3つに分け、それぞれの会場において、年間を通じた継続ボランティアの活動報告・相互評価を行う。また、前回の発表者の評価と合わせて各会場より1名の代表者を選出する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：ボランティア報告書のとりまとめを各自で行うこと 第３０回　継続ボランティア報告会（3）全体 【key words】 継続ボランティア、学びと課題、プレゼンテーション 【授業概要】 他専攻の代表者を含めた代表者によるプレゼンテーションを行い、年間のボランティア活動を通じて得られた学びについて共有し、次年度のボランティア活動に向けた目標設定を行う。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：指定の報告書やレポート等の作成
受講生に関わる情報および受講のルール	・実習に準じ、責任を持って参加すること。 ・施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。 ・継続ボランティアの活動先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。 ・「依頼ボランティア」「行事ボランティア」「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	依頼ボランティアに関する情報に掲示板、ボランティアセンターで各自が主体的に接触するよう心がけること
オフィスアワー	授業時に伝える。
評価方法	授業への取り組み60%、ボランティア先での活動40%で総合的に評価する。
教科書	ボランティアハンドブック（鈴木利定　監修　足立勤一　編著）
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	・福祉施設、教育機関の心理職 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
櫻井　秀雄・巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　対人援助の養成過程では、態度・価値観（マインド）、技能（スキル）、知識（理論）がバランスよく学習されることが重要と考えられている。特に、福祉の専門家としての態度や価値観は、すべての基盤になる部分であり、机上の学習だけでなく、現場の体験を通じて備わっていくものである。ボランティア活動Ⅰでは、学内で学ぶことが出来ない実際の対人支援の方法を現場（施設等）で学び、福祉に関わることへの心構えや援助職に求められる基本的なコミュニケーション技能を身につけることを目的としている。 【到達目標】 ①本学におけるボランティア活動について理解し、ボランティアに参加することができる。 ②各自の計画に基づき、積極的に活動することができる。 ③ボランティアの体験を通して得られた成果と課題を言語化できる。
授業の概要	ボランティア活動Ⅰは、本学園の建学の精神を身につけるための基礎的な科目として位置づけられている。本学のボランティア活動の狙いやこれまでの歴史を十分に理解した上で、各自のボランティア活動を進めていく。授業は、講義及び演習形式で、事前指導（ボランティア先施設の概要理解、活動計画の検討、活動上の注意事項など）、中間指導（ボランティア活動での疑問点や困っていることへの対応を協議する）、事後指導（活動の成果と反省）を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　ボランティア活動とは 【key words】 授業概要、成績評価、本学におけるボランティア活動 【授業概要】 全30回の授業の概要と流れ、成績評価等について説明を行う。その後、本学におけるボランティア活動で求められる姿勢等について解説を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p1-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：初回の講義で疑問に感じたこと・不安に感じたことについて配布されたワークシートにまとめ、次回持参すること 第２回　ボランティアセンターの役割　依頼ボランティアとは 【key words】 依頼ボランティア、地域貢献 【授業概要】 本学におけるボランティア活動の形態の1つである「依頼ボランティア」について、概要や成り立ち、その意義について地域連携センター教職員より説明を受け、理解を深める。また、実際の手続きについて説明を受け、依頼ボランティアが開始できるよう準備を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p5-11,16-21

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：次回の講義にてこれまで体験してきたボランティア活動やこれから関わりたい活動について取り扱うため、自分の経験や希望に関する考えをまとめておくこと

第３回　継続ボランティアを行なう施設や教育機関について

【key words】
継続ボランティア、将来の希望、目標設定

【授業概要】
本学におけるボランティア活動の形態の1つである「継続ボランティア」について、概要や成り立ち、その意義について説明を受け、理解を深める。また、今後の継続ボランティアに対する目標設定等をグループワークを交えながら検討する。

【教科書・参考文献】
教科書p26-27
【課題・予習・復習・授業準備】
課題：講義内で配布されたワークシートおよび学生紹介票について作成を行い、クラス担任に提出すること

第４回　継続ボランティアの活動報告書と事務書類の意義と作成方法

【key words】
継続ボランティア、福祉施設のマナー、教育機関のマナー

【授業概要】
継続ボランティア先の検討に際して、具体的な事務手続きやその際に求められるマナーについて解説を行う。また、前回の講義にて作成・提出されたワークシートに基づき、各自が希望する領域／対象ごとに分かれ、それぞれの機関・対象に関する解説を受け、活動先の具体的検討を行う。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：第9回の講義までを目安に、各自で継続ボランティアの活動先について検討を行い、手続きを進めること
【課題・予習・復習・授業準備】
特になし

第５回　ブラインドウォーク

【key words】
ブラインドウォーク、介助される側の感じ方

【授業概要】
短期大学部の介護福祉士養成課程の教員の指導の下で、ブラインドウォークを経験し、介助される側の感じ方や介助する側の関わり方の工夫について体験的に学ぶ。
【教科書・参考文献】
配布資料予定
【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：継続ボランティア活動希望先についてクラス担任に報告すること

第６回　車いすの使い方

【key words】
車椅子、運動機能の障害を持つ方への関わり

【授業概要】
短期大学部の介護福祉士養成課程の教員より、車椅子の使用方法等について説明を受け、実際に相互に使用する経験をすることで運動機能を持つ方への関わり方について理解を深める。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

第７回　前橋七夕まつりボランティア　七夕まつりと本学の関わりについて

【key words】
前橋七夕まつり、地域貢献

【授業概要】
前橋市および同市商工会議所からの依頼を受けて例年参加している「前橋七夕まつり」におけるボランティア活動の概要やその経緯、求められている活動内容（会場装飾）について説明を受け、理解を深める。

【教科書・参考文献】
配布資料予定

【課題・予習・復習・授業準備】
授業準備：配布されたワークシートを用いて次回講義までに各自で装飾案を検討すること

第８回　前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成
領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学
設営計画　運営計画　個人と班の総括

【key words】
前橋七夕まつり、グループワーク

【授業概要】
指定を受けたグループに分かれ、各グループにて役割分担を行った後、活動の計画や内容について討議・検討する。

【教科書・参考文献】

		なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：計画書および予算書の作成を開始すること
	第９回	前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学 設営計画　運営計画　個人と班の総括 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク 【授業概要】 各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を開始する。また、物品購入の際の事務手続きについて解説を行い、本学所定の手続きについて学ぶ。 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は継続ボランティア活動の状況についてグループワークとプレゼンテーションを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと 【教科書・参考文献】 なし
	第１０回	前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学 設営計画　運営計画　個人と班の総括 key words】 継続ボランティア、振り返り、活動の動機と目標 【授業概要】 これまでの継続ボランティアの振り返りとグループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、それぞれが自分の活動先を選んだ動機や設定した目標についてお互いの考えを共有し、今後の活動に向けた目標設定を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p4-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：グループ内でのプレゼンテーションを通じて得た感想と今後の継続ボランティアの目標について、所定のワークシートに記入を行い、提出すること。
	第１１回	前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学 設営計画　運営計画　個人と班の総括 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク 【授業概要】 各自で実施した現地の下見の情報を元に、各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を継続する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：七夕まつり当日の依頼ボランティアに参加する学生は別途配布される資料を確認すること
	第１２回	前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学 設営計画　運営計画　個人と班の総括 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク、個人総括 【授業概要】 各グループにて作成された計画書・予算書に沿って製作作業を継続する。また、個人としての作業に臨んだ姿勢の総括や領収書等のとりまとめを開始する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は現地での設営と学内での作業の2つに分かれるため、役割分担等を行っておくこと。
	第１３回	前橋七夕まつりボランティア準備　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　現地見学 設営計画　運営計画　個人と班の総括 【key words】 前橋七夕まつり、グループワーク、班の総括 【授業概要】 各グループの計画・分担に沿って、現地での設営と学内での総括の2つに分かれて作業を実施する。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】

		授業準備：個人総括・班総括・決算書等の作成を行い、次回持参すること
	第１４回	前橋七夕まつり報告会　全体総括 前橋七夕まつり、グループワークの振り返り 【授業概要】 他専攻と合同で、前橋七夕まつりボランティアでの活動について班ごとにプレゼンテーションを行う。 【教科書・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は継続ボランティア活動の状況についてグループワークとプレゼンテーションを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと
	第１５回	障害者スポーツ大会事前指導　前期総括 【key words】 継続ボランティア、振り返り、活動状況のモニタリング 【授業概要】 これまでの継続ボランティアの振り返りとグループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、それぞれが設定した目標・行っている活動・得られた学び・課題についてお互いの考えを共有し、後期の活動に向けた目標設定を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p4-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：グループ内でのプレゼンテーションを通じて得た感想と今後の継続ボランティアの目標について、所定のワークシートに記入を行い、提出すること。
	第１６回	後期の予定　障害者スポーツ大会報告会　全体総括 【key words】 授業概要、障害者スポーツ、障害特性 【授業概要】 後期の授業予定について確認した後、参加予定の群馬県障害者スポーツ大会ボランティアの活動内容や留意点について、担当者より説明を受ける。 【教科書・参考文献】 配布資料予定 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は後期の継続ボランティア活動の目標についてグループワークとプレゼンテーションを行うため、各自の報告書を振り返り、活動で感じたことや考えたことを確認しておくこと
	第１７回	継続ボランティア中間指導　活動の振返り・課題（個人） 【key words】 継続ボランティア、振り返り、目標設定 【授業概要】 参加予定の群馬県障害者スポーツ大会ボランティアでの体験を含め、これまでの継続ボランティアについて振り返りを行い、それぞれの将来への希望や志望する専門職、興味関心に応じた活動計画と目標設定を行う。 【教科書・参考文献】 教科書p4-5 【課題・予習・復習・授業準備】 授業準備：次回は、今回作成した個別の計画と目標について、他専攻の学生を交えたグループワークを行うため、自分の考えや意見を他専攻の学生にも伝わるよう準備を行うこと。
	第１８回	継続ボランティア中間指導　活動の振返り・課題（グループ） 【key words】 継続ボランティア、将来の希望、目標設定 【授業概要】 各自が作成した後期の継続ボランティアに対する計画・目標について、グループ内でのプレゼンテーションを行う。特に、現在の希望職種や進路に基づく目標と活動内容の対応について、お互いの考えを共有し、今後の活動への指針を得る。 【教科書・参考文献】 教科書p4-5 【課題・予習・復習・授業準備】 課題：グループワークとプレゼンテーションで得た学びについて、所定のワークシートに記録を行い、提出すること
	第１９回	継続ボランティア中間指導　全体報告　今後の計画作成
	第２０回	鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括
	第２１回	鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成 領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括

	第２２回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成　領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括 第２３回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成　領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括 第２４回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成　領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括 第２５回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成　領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括 第２６回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾　班編成　班の役割分担　作品の計画書作成　予算書作成　領収書と明細書の保管・管理の方法　作品の作成　個人と班の総括 第２７回　鈴蘭幼稚園クリスマス会壁面装飾報告　継続ボランティア報告の方法 第２８回　継続ボランティア報告（専攻別） 第２９回　継続ボランティア報告（専攻別） 第３０回　継続ボランティア全体報告　今後のボランティアの計画
受講生に関わる情報および受講のルール	・実習に準じ、責任を持って参加すること。 ・施設等で「ボランティアをさせていただいている」という謙虚さを忘れないこと。 ・継続ボランティアの活動先は、事前にその施設について十分に調べ、施設の概要を理解した上で決定すること。 ・「依頼ボランティア」「行事ボランティア」「地域・国際貢献ボランティア」の各活動にも積極的に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	依頼ボランティアに関する情報に掲示板、ボランティアセンターで各自が主体的に接触するよう心がけること
オフィスアワー	授業時に伝える。
評価方法	授業への取り組み60%、ボランティア先での活動40%で総合的に評価する。
教科書	ボランティアハンドブック（鈴木利定　監修　足立勤一　編著）
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助の基盤と専門職　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
尾方　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉士制度の創設の背景と社会福祉士の役割を学ぶとともに、ソーシャルワークの概念やソーシャルワークの形成過程を理解する。さらに、相談援助の理念や専門職としての「倫理綱領」が果たす役割やジェネラリスト・ソーシャルワークと総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景と効果について学ぶ。 【到達目標】 ①社会福祉士の果たす役割と専門職としての知識、技術、価値、倫理について理論的・体系的に理解する　②ジェネラリスト・ソーシャルワーク及び総合的かつ包括的な相談援助の必要性と効果について理解する。　③これらの学びから人間の尊厳と自立の必要性とその支援方法についての理解を深める。
授業の概要	相談援助の専門職としての社会福祉士の役割と意義について、担当教員の実践経験を踏まえた事例などを参考にしつつ考察する。また、ソーシャルワークの草創期から現在に至る基礎的な理論の成立過程を学ぶとともに、理論の特徴と課題などについても考察する。さらに、現在求められているジェネラリスト・ソーシャルワークや総合的かつ包括的な相談援助についての理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方等概説） ＜授業タイトル＞　オリエンテーション ＜keyword＞　講義の受け方 ＜授業概要＞　自己紹介と講義の進め方 ＜教科書ページ＞　目次 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　科目のイメージをつける 第２回　第１章　社会福祉士の役割と意義　　第１節社会福祉士の役割と意義 ＜授業タイトル＞　社会福祉の役割と意義 ＜keyword＞　社会福祉士 ＜授業概要＞　社会福祉法及び介護福祉士法における位置づけ ＜教科書ページ＞　P1~P7 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P8以降の予習 第３回　第１章　社会福祉士の役割と意義　　第２節現代社会と地域生活① ＜授業タイトル＞　現代社会と地域生活 ＜keyword＞　現在の社会状況 〈授業概要〉　統計からみる現代社会の状況、生活自立度、生活困窮について説明 ＜教科書ページ＞　P8~P12 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P8以降の予習 第４回　第１章　社会福祉士の役割と意義　　第２節現代社会と地域生活② ＜授業タイトル＞　現代社会と地域生活 ＜keyword＞　ひきこもり、チームアプローチ ＜授業概要＞　過疎地の生活機能低下、ひきこもりの定義、孤独死の増加、災害時の支援体制、チームアプローチなどについての資料や事例などを講義 ＜教科書ページ＞　P12~P22 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P23以降の予習 第５回　第２章　相談援助の定義と構成要素　　第１節　ソーシャルワークの概念 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの概念

		＜keyword＞　ソーシャルワーカーの定義、ウェルビーング ＜授業概要＞　IFSWとIASSW合同のグローバル定義とウェルビーングについて講義 ＜教科書ページ＞　P24~P36 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P37以降の予習
	第６回	第２章　相談援助の定義と構成要素　第2節　ソーシャルワークの構成要素① ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの構成要素 ＜keyword＞　クライエント、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源 ＜授業概要＞　ソーシャルワークには4つの構成要素があることを講義 〈教科書ページ〉 P37~P44 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P45以降の予習
	第７回	第２章　相談援助の定義と構成要素　第2節　ソーシャルワークの構成要素② ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの構成要素 ＜keyword＞　ソーシャルワーカーのスキル ＜授業概要＞　ソーシャルワーカーには価値・知識・スキルが求められること、自分のエコマップを作製（演習） ＜教科書ページ＞　P44~P49 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P50以降の予習
	第８回	第３章　相談援助の形成過程１　第１節　ソーシャルワークの源流 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの源流 ＜keyword＞　慈善組織協会（COS)、セツルメント活動 ＜授業概要＞　ソーシャルワークの前史やセツルメント活動などについて講義 ＜教科書ページ＞　P52~P60 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P61以降の予習
	第９回	第３章　相談援助の形成過程１　第２節　ソーシャルワークの基礎確立期 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの基礎確立期 ＜keyword＞　社会診断、方面委員制度 ＜授業概要＞　１９３０年代までのケースワーク確立の歴史についいて講義 ＜教科書ページ＞　P61~P67 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P68以降の予習
	第１０回	第４章　相談援助の形成過程Ⅱ　　第１節　ソーシャルワークの発展期 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの発展期 ＜keyword＞　診断主義、機能主義、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーション、GHQ ＜授業概要＞　１９４０年代から１９５０年代半ばまでのケースワーク理論の変遷と日本の動向について講義 ＜教科書ページ＞　P70~P77 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P78以降の予習
	第１１回	第４章　相談援助の形成過程Ⅱ　　第2節　ソーシャルワークの展開期　第３節　ソーシャルワークの統合化とジェネラリストソーシャルワーク ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの展開期、ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク ＜keyword＞　問題解決アプローチ、心理社会的アプローチ、ジェネラリストソーシャルワーク ＜授業概要＞　ソーシャルワークの１９５０年代半ばから１９６０年代以降の展開に関すること、ジェネラリストソーシャルワークについて講義 ＜教科書ページ＞　P78~P91 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P92以降の予習
	第１２回	第５章　相談援助の理念Ⅰ　　第１節　ソーシャルワーカーと価値 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワーカーと価値 ＜keyword＞　価値観、非審判的態度、受容 ＜授業概要＞　価値とは何か？、バイスティックの７原則について講義 ＜教科書ページ＞　P94~P98 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P99以降の予習
	第１３回	第５章　相談援助の理念Ⅰ　　第2節　ソーシャルワークの実践と価値 ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの実践と価値 ＜keyword＞　価値、理念、原則、人権、利用者本位 ＜授業概要＞　ソーシャルワーク実践に必要な価値や原理・原則について講義 ＜教科書ページ＞　P99~P106 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P107以降の予習
	第１４回	第５章　相談援助の理念Ⅰ　　第3節　ソーシャルワークの実践と権利擁護① ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの実践と権利擁護 ＜keyword＞　権利擁護、日本国憲法、措置と契約 ＜授業概要＞　権利擁護と日本国憲法との関係、人権侵害についての講義 ＜教科書ページ＞　P107~P110 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P111以降の予習
	第１５回	第５章　相談援助の理念Ⅰ　　第3節　ソーシャルワークの実践と権利擁護② ＜授業タイトル＞　ソーシャルワークの実践と権利擁護 ＜keyword＞　権利擁護、アドボカシー、介入レベル ＜授業概要＞　権利侵害と権利擁護の様態（ミクロ・メゾ関係、予防的対応、事後的対応）について講義。前期学習のまとめ。 ＜教科書ページ＞　P111~P119 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P120以降の予習
	第１６回	第６章　相談援助の理念Ⅱ　第１節　クライエントの尊厳と自己決定 ＜授業タイトル＞　クライエントの尊厳と自己決定 ＜keyword＞　自己決定、自己責任、自立支援、エンパワーメント、ストレングス ＜授業概要＞　自己決定という概念と自己責任の関係、自立支援の意味とストレングス等の関係性に関して講義 ＜教科書ページ＞　P122~P128 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P129以降の予習
	第１７回	第６章　相談援助の理念Ⅱ　第２節　ノーマライゼーションと社会的包摂 ＜授業タイトル＞　ノーマライゼーションと社会的包摂 ＜keyword＞　ノーマライゼーション、社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）

		＜授業概要＞　ノーマライゼーションという考え方の歴史、社会的包摂と社会的排除の考え方に関して講義 ＜教科書ページ＞　P129~P135 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P136以降の予習
	第１８回	第７章　専門職倫理と倫理的ジレンマ　第１節　専門職倫理の概念、第２節　倫理綱領の意義と内容 ＜授業タイトル＞　専門職倫理の概念と倫理綱領の意義と内容 ＜keyword＞　倫理、倫理綱領、行動規範、自己管理 ＜授業概要＞　倫理綱領の意味、日本社会福祉士会の倫理綱領及び行動規範に関して講義 ＜教科書ページ＞　P138~P149 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P150以降の予習
	第１９回	第７章　専門職倫理と倫理的ジレンマ　第３節　ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ ＜授業タイトル＞　ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ ＜keyword＞　倫理的ジレンマ、守秘義務、所属組織の価値 ＜授業概要＞　倫理的ジレンマの発生要因とそれに対する考え方に関して講義 ＜教科書ページ＞　P150~P158 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P159以降の予習
	第２０回	第８章　総合的かつ包括的な相談援助の全体像　第１節　「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景　第２節　地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ＜授業タイトル＞　総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ＜keyword＞　地域包括支援センター、障害者自立支援法、地域福祉計画、共助 ＜授業概要＞　これからのソーシャルワーク実践は地域を基盤とした総合相談的なソーシャルワークが悲痛ぷであること、またそれを実践するための４つの視座に関して講義 ＜教科書ページ＞　P160~P168 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P169以降の予習
	第２１回	第８章　総合的かつ包括的な相談援助の全体像　第３節　地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能 ＜授業タイトル＞　地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能 ＜keyword＞　専門的アプローチ、地域住民 ＜授業概要＞　岩間伸之氏の「地域を基盤としたソーシャルワーク八つの機能」を用い、地域でのソーシャルワーク実践方法について講義 ＜教科書ページ＞　P169~P174 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P175以降の予習
	第２２回	第９章　総合的かつ包括的な相談援助を支える理論　第１節　ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点　第２節ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 ＜授業タイトル＞　ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点、ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 ＜keyword＞　ジェネラリスト・ソーシャルワーク、エコシステム、エンパワメント ＜授業概要＞　岩間伸之氏の「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の内容を解説し、総合的かつ包括的な相談援助の基礎について講義 ＜教科書ページ＞　P178~P187 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P188以降の予習
	第２３回	第１０章　相談援助にかかる専門職の概念と範囲　第１節相談援助専門職の概念 ＜授業タイトル＞　相談援助専門職の概念 ＜keyword＞　認定社会福祉士、認定上級社会福祉士 ＜授業概要＞　専門職と認められるための必要な概念、社会福祉士の上位級、各専門職団体について講義 ＜教科書ページ＞　P190~P198 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P199以降の予習
	第２４回	第１０章　相談援助にかかる専門職の概念と範囲　第2節　相談援助専門職の範囲 ＜授業タイトル＞　相談援助専門職の範囲 ＜keyword＞　相談援助専門職、福祉事務所、児童相談所、独立型社会福祉士 ＜授業概要＞　社会福祉士の相談援助専門活動の分野が多岐に渡っていることについて講義 ＜教科書ページ＞　P199~P203 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P204以降の予習
	第２５回	第１０章　相談援助にかかる専門職の概念と範囲　第２節　相談援助専門職の範囲　第３節　諸外国の動向 ＜授業タイトル＞　相談援助専門職の範囲、諸外国の動向 ＜keyword＞　MSW,PSW,SSW ＜授業概要＞　医療、司法、教育などの各分野で活躍しているソーシャルワーカーについて講義 ＜教科書ページ＞　P204~P209 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P210以降の予習
	第２６回	第１１章　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能　第１節　個と地域の一体的支援機能　第２節　予防機能 ＜授業タイトル＞　個と地域の一体的支援機能と予防機能 ＜keyword＞　地域、コミュニティソーシャルワーカー、リスクマネジメント ＜授業概要＞　個と地域の一体的支援機能と予防的機能からの支援機能について講義　グループによる「事例検討」 ＜教科書ページ＞　P212~P228 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P229以降の予習
	第２７回	第１１章　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能　第３節　新しいニーズへの対応機能　第４節　総合的支援機能 ＜授業タイトル＞　新しいニーズへの対応と総合的支援機能 ＜keyword＞　自閉スペクトラム、ソーシャルワークアクション、ニューカマー、AD/HD ＜授業概要＞　地域システムの中で新しいニーズの発掘と、それをどのように行っていくかについて講義　グループによる「事例検討」 ＜教科書ページ＞　P229~P249 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P250以降の予習
	第２８回	第１１章　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能　第5節　多問題家族への支援

	＜授業タイトル＞　多問題家族への支援 ＜keyword＞　家族システム、エコシステム ＜授業概要＞　事例を通し家族とは何かを考える講義　グループによる「事例検討」 ＜教科書ページ＞　P250~P259 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P260以降の予習 第２９回　第１１章　総合的かつ包括的相談援助における専門的機能　第6節　権利擁護機能 ＜授業タイトル＞　権利擁護機能 ＜keyword＞　権利擁護（アドボカシー）、自己決定 ＜授業概要＞　権利擁護と自己決定の関係性に関して講義　グループによる「事例検討」 ＜教科書ページ＞　P260~P269 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　P270以降の予習 第３０回　第１１章　総合的かつ包括的相談援助における専門的機能　第7節　社会資源開発機能 ＜授業タイトル＞　社会資源開発機能、今までの授業のまとめ ＜keyword＞　社会資源 ＜授業概要＞　社会資源がなければそれを開発していく視点を持つソーシャルワーカーについて講義　グループによる「事例検討」 ＜教科書ページ＞　P270~最終 ＜課題・予習・復習授業準備指示など＞　授業の振り返りと試験対策の説明
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。常に講義の要点・課題等をノートに整理することに心がけること。授業の理解度を確認するためノートを前期・後期各2回指定された期日までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読して授業に臨むこと。なお、わからない単語等については予め辞書で調べるとともにノートに整理すること。なお、それでも不明な点についてはコメントカードにより質問すること。
オフィスアワー	木曜午後13：30～15：30
評価方法	定期試験80%。　ノート記載状況と授業参加姿勢に対する評価20%を基本とする。
教科書	新・社会福祉士養成講座「相談援助の基盤と専門職」（最新版）中央法規、「社会福祉用語辞典」最新版（ミネルヴァ書房）
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 国立病院（西群馬病院・高崎病院）→国立病院機構（高崎総合医療センター・西群馬病院・渋川医療センター）にて約３７年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務。 その間、国立病院ソーシャルワーカー協議会会長、群馬県医療ソーシャルワーカー協会会長を歴任。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレングスに着目した援助を行うとともに、家族や近隣、地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を通して学ぶことを目的とする。また、本演習によって相談援助実習等と理論との融合を目指し、実習において必要な知識・技術の基礎を理解し、説明できることを目的とする。 【到達目標】 ①福祉専門職として、自己覚知することの重要性を理解し、説明できる。 ②価値観の多様性について知るとともに、他者を理解するための方法論を学び、援助技術の活用の仕方を説明できる。 ③言語的及び非言語的コミュニケーションについて理解し、福祉専門職として他者との関わり方を想定して行動することができる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション　相談援助演習の意義・目的及び位置づけ　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項 【Key Word】 演習の概要　相談援助実習規定 【授業概要】 相談援助演習の位置づけを理解し演習に参加することができる。 相談援助実習の規定を理解し、相談援助実習に向かう姿勢の基礎を構築する。 自己紹介を通して自分自身の振り返り、人の話を聞く態度を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の目次序章を読みイメージを持つ
	第２回	社会福祉の基本的姿勢・定義（IFSWのソーシャルワークの定義、社会福祉士の定義等） 【Key Word】 IFSWのソーシャルワークのグローバル定義 バイステックの原則 【授業概要】 ソーシャルワークとは何かグローバル定義を使用し講義する。

		社会福祉を行うための基本的姿勢・原則を講義する。 【教科書ページ・参考文献】 P1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　バイステックの原則を読んでくる。
	第３回	社会資源の理解、社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握 【Key Word】 社会福祉資源　フォーマル　インフォーマル　内的資源 【授業概要】 社会福祉資源とはどのようなものなのかを講義する。 具体的に自分達が知っている社会資源を挙げていく。 　福祉社会資源とはどのようなものかを理解し、現在どれくらいの社会福祉資源を知っているのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近にある社会資源を考えてくる。
	第４回	自己覚知　自己概念を学ぶ 【Key Word】 自己理解　20答法 【授業概要】 対人援助を行う際に自己理解をしなければならないと言われているのはなぜなのかを講義し、20答法を利用し自己理解に繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 P20～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを読んでくる
	第５回	自己覚知　ジェノグラム　自分のルーツ家族関係 【Key Word】 ジェノグラム（家族関係図） 【授業概要】 社会福祉士としてジェノグラムの見方と書き方を理解する。ジェノグラムを使用することによりクライエントの家族関係を理解することにつながることを理解する。 自分自身のジェノグラムを書き、自分自身がおかれている状況を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族構成を3世代分調べてくる。
	第６回	自分の性格の把握 【Key Word】 自己理解　20答法 【授業概要】 対人援助を行う際に自己理解をしなければならないと言われているのはなぜなのかを講義し、20答法を利用し自己理解に繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 P20～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の嗜好について考えてくる。
	第７回	自己開示、他者理解 【Key Word】 ジョハリの窓　自己開示　返報性 【授業概要】 自己開示について理解し、自分自身の自己開示と相手からの自己開示をどのようにして受け止めるのかを体験する。 自己開示を行うことによりおこる作用について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P20～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の事を話せるように準備する。
	第８回	他者理解　共感と同情の違い 【Key Word】 共感　同情 【授業概要】 対人援助職としてクライエントを受容し、共感の態度で話を聞くことが重要だが、共感とはどの

ようなものなのか、同情とはどのようなことなのかを考え、共感しながら話を聞いているのかを考える。
ワークシートを使用し共感と同情の違いを考える。事例を通して共感の言葉がけを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P20～29

【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような時に同情しているのかを考えてくる。

第９回　多様な価値観
【Key Word】
価値観の違い

【授業概要】
価値観の違いは人と人との関係にどのような影響をもたらすのか、人によって価値観が違うこと、それを理解し合うこと、その難しさについてワークを通して理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P20～29

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が大切なものは何か、なぜ大切なのか説明できるようにしておく

第１０回　コミュニケーション技法（１）　コミュニケーションの基本
【Key Word】
コミュニケーション　言語的コミュニケーション　非言語的コミュニケーション　コミュニケーションの分類

【授業概要】
コミュニケーションとは何か講義を行う。
普段何気なくおこなっいてるコミュニケーションを振り返りコミュニケーションとは何かを考える。　言語的コミュニケーションだけを使用し相手に伝える。どのようにすれば伝わるのか、受け取ることができるのか体感する。

【教科書ページ】
P30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまでの演習の振り返りをしておく。

第１１回　コミュニケーション技法（２）　言語的コミュニケーションの特徴
【Key Word】
言語的コミュニケーションの変化　非言語的コミュニケーションの使い方

【授業概要】
伝達ゲームを行い、言葉が変化していくことを理解する。
非言語的コミュニケーションを使用し相手に何がどの程度伝わるのかを理解する。
非言語的コミュニケーションの観察

【教科書ページ】
P30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
言語的コミュニケーションでどのようなことが伝わっているのか、考えてくる。

第１２回　コミュニケーション技法（３）　言語的コミュニケーション　コミュニケーションスタイル
【Key Word】
自分のコミュニケーションスタイル

【授業概要】
三人一組で、話手、聞き手、観察者になり話をする。普段の会話から自分自身のコミュニケーションスタイルを理解し、専門職としてクライエントとコミュニケーションをとる際注意する点を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどのような癖があるのか考えてくる。

第１３回　コミュニケーション技法（４）　非言語的コミュニケーションの特徴
【Key Word】
非言語的コミュニケーション

【授業概要】
非言語的コミュニケーションだけを使用し話し合いを行う。何がどのように伝わるのかを理解する。

【教科書ページ・参考資料】
P30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の中でどのような非言語を使用しているのか考えてくる。

第１４回　コミュニケーション技法（５）　非言語的コミュニケーションの観察

	言語的コミュニケーション　非言語的コミュニケーション 伝わり方　伝え方　聴き方 【授業概要】 これまでの演習を振り返り言語的コミュニケーションの特徴と非言語的コミュニケーションの特徴を理解する。 人と人の間で行われるコミュニケーションは言語・非言語両方が使われて意思の伝達をしている事を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについてまとめる。 第１５回　まとめ 【Key Word】 社会福祉士　社会資源　自己覚知　コミュニケーション 【授業概要】 これまでの演習Ｉを振り返り社会福祉士として身につけておく基本事項を理解する。利用者理解を深めるために復習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを読み、講義内容を振り返る。 今までの演習で考えたことを振り返り、まとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。 （２）学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。 （３）予備知識や技能 「相談援助の基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典（「相談援助の基盤と専門職」にて指定されたもの）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉行財政と福祉計画　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択／児童福祉コース・選択
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行政の組織と財政について知ることは、福祉専門職である社会福祉士にとって必要不可欠なことである。また、従来の対処療法的福祉サービスから計画に基づいた福祉サービスを実施することの効果や、住民主体の福祉を展開するため福祉専門職として必要な知識を推考し修得する。 【到達目標】 ①福祉の法制度の変遷と現状及び福祉行政の骨格や組織と社会福祉基礎構造改革について理解する。②福祉推進の基礎である財政の動向と利用者負担等について考察する。③福祉計画の目的・理論・技法について実践例を考察しつつ住民主体の計画とは何かを理解する。
授業の概要	福祉の制度や法制度の展開について時代背景と比較しつつ理解を深める。さらに、福祉サービスの基盤となる福祉行政の組織や財政との関連についても考察する。また、将来の動向を見据えた福祉サービスを推進するために何故福祉計画が必要か、計画の主体となるのは「行政組織なのか住民なのか」などについて考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方等概説）　福祉と制度 key word　人間の尊厳の保持　利用者本位　自立支援　住民参加　地域福祉の推進　情報公開 授業概要　授業の進め方や社会福祉の基本的事項について歴史的変遷や基本的事項について学ぶ 教科書頁　1～10 課題等　憲法に基づく生存権や幸福追求権などの基本的事項について予め確認しておくこと 第２回　福祉の法制度の展開① key word　戦後の福祉と福祉三法の確立 授業概要　戦後の社会福祉制度の成立や拡充期、見直し期に至る経緯を学ぶ 教科書頁　10～19 課題等　終戦後の日本の経済状況の動向を確認しておくこと 第３回　福祉の法制度の展開② key word　少子高齢化の進展と社会福祉サービスの変化 授業概要　従来の社会福祉制度の行き詰まりから福祉改革に至る経緯、その改善のための福祉計画の登場に　ついて学ぶ。さらには、現在の新たな福祉ニーズについて確認する 教科書頁　19～24 課題等　身近な生活の中から、新たな福祉ニーズについて考察しておくこと 第４回　福祉計画の概要 key word　対処療法的福祉サービスから安定的サービスの確立へ 授業概要　福祉計画の必油性とその対応のための基本的考え方、具体的な各種計画について概要を学ぶ 教科書頁　25～34 課題等　ソーシャルワークにおける間接援助について調べておく 第５回　福祉行政について key word　国と地方公共団体とは対等な立場 授業概要　三権分立の理解とともに、国の推進する行財政改革についての理解を深め、そう

	いった流れの中　　で福祉サービスへの影響を考察する。また、社会福祉と法律についての基本的な事項について学ぶ 教科書頁　35～46 課題等　身近な市町村福祉行政の組織について調べておく 第６回　福祉行政の組織と社会福祉基礎構造改革 key word　国と地方公共団体の組織と必置機関とは 授業概要　福祉サービスの推進主体となる国や地方公共団体の組織はどのようになっているのか、また、社　　会福祉事業法の改正に至る社会福祉基礎構造改革とはどのようなものか学ぶ 教科書頁　47～64 課題等　厚生労働省の組織や業務について予め確認しておく 第７回　福祉の財政について key word　制度・組織・人材・場所・財源 授業概要　福祉サービスの実施にあたって、財政はどのようになっているのかを学ぶことは非常に意義のあ　　ることである。特にここでは行政分野の財政の状況について学ぶ 教科書頁　81～85 課題等　社会福祉基礎構造改革の全体像について予備知識を得ておくこと 第８回　福祉行政の組織・団体と専門職① key word　改革理念「社会連帯・人の尊重・自立支援」 授業概要　社会福祉基礎構造改革の一連の流れを理解し、その基本的方向を理解する。また、具体的サービ　　スの実施にあたっての相談援助過程についても学ぶ 教科書頁　81～85 課題等　社会福祉基礎構造改革の全体像についての予備的知識を得ておくこと 第９回　福祉行政の組織・団体と専門職② key word　サービスの提供と専門職 授業概要　住民が福祉サービスを受けるには具体的にどのような手続きが必要か、また、どういった機関があるのかを学ぶ。さらにはそこで対応する各種の専門職について確認をする 教科書頁　86～106 課題等　専門職としての資格について調べてみる 第１０回　福祉計画の目的と意義 key word　福祉計画は住民主体と専門職の参加 授業概要　福祉計画の目的は何か。計画策定の主体は誰なのか。福祉現場の意見や将来推計の重要性と福祉　　計画。さらには、計画のサイクル的見直しと計画への住民参加の重要性を学ぶ 教科書頁　107～120 課題等　福祉の地域力と地域の福祉力について考えておくこと 第１１回　福祉計画の理論と技法 key word　ある姿の解明とあるべき姿の究明 授業概要　福祉計画の日常的視点や非日常的な視点、さらには社会体制にける計画の差異や計画の概念、お　　よび計画の主体としての係わりと留意点について学ぶ 教科書頁　121～129 課題等　ガバナンスとガバメントとの違いを調べておくこと 第１２回　福祉計計画におけるニーズの把握と計画の評価及び住民参加について key word　ニーズ把握は福祉計画の原点 授業概要　ニーズとは何か、ニーズの類型はどのように分類するのか、また、ニーズの把握方法はどのよう　　に行うのか。さらには、住民参加の具体的方法について学ぶ 教科書頁　140～162 課題等　住民参加がなぜ求められるのかを考察しておくこと 第１３回　福祉計画の実際（事例研究の視点と各福祉計画の根拠、老人福祉計画等について） key word　福祉計画は住民参加とともに住民合意が必要 授業概要　福祉計画の分析と枠組み、各計画の根拠とその概要や計画が必要になった背景も考察する 教科書頁　163～194 課題等　具体的事例を参考に計画全般についての必要性や方向性を確認しておくこと 第１４回　福祉計画の実際（障害者計画・障害福祉計画、次世代育成支援行動計画） key word　自立と共生　子育ての社会化 授業概要　障害者福祉計画にいたる国際的な動きとともに、国内における計画策定についての基本的視点等　　について学ぶ。さらに次世代育成支援計画に至る経過と今後の基本的な方向性などについて学ぶ 教科書頁　195～244 課題等　それぞれの計画の特徴等を整理しておくこと 第１５回　福祉計画の実際（地域福祉計画）　授業のまとめ key word　福祉のまちづくりと地域の社会資源の活用 授業概要　地域福祉計画の基礎となる考え方は「福祉分野の統合」「公民協働による福祉推進」など、様々　　な生活課題への対応が求められるとともに、地域においては新たな福祉ニーズが発生している。そ　　れらの原因と対策を住民主体となって策定している状況を学ぶ。また、教科のまとめを行う 教科書頁　245～257
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。教科書で予習・復習を行うこと。不明な単語等については辞書等で調べて授業に臨み、より質の高い授業展開に学生自ら取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料を整理するとともにノートに学習状況を記録すること。また、関係施設や行政機関等を訪問し、その状況をノートに記録すること。ノートは定期試験前に提出を求める。
オフィスアワー	木曜午後13：30～15：30
評価方法	定期試験80%。　授業への参画状況及びノート記載による評価20%を基本とする。

教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」（最新版）中央法規
参考書	社会福祉用語辞典（ミネルヴァ書房）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県職員として福祉行政及びその財源の確保や執行、各種計画策定に従事してきた。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理学研究法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
長谷川　貴之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学で用いられてきた研究法とそれぞれの長所、短所を理解する。 【到達目標】 実験・調査法・観察法の概念・長所・短所を理解する。 実験手続きのロジックを理解する。 検査法の信頼性・妥当性を理解する。
授業の概要	本講義では、心理学における研究法としての実験、調査、観察の概要を紹介する。また、その研究方法を用いた比較的有名な研究を紹介する。また、授業中に、実験や調査などの実施も行う予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　ガイダンス　実証 科学と実証　量的研究と質的研究 第２回　量的研究と質的研究　その長所と短所 第３回　実験的研究の紹介1（因果と相関　具体例を用いて） 第４回　実験的研究の紹介2（因果と相関　解釈をめぐる問題） 第５回　実験的研究の紹介3（実験群と統制群） 第６回　実験的研究の紹介4（バンデューラーのボボ人形実験） 第７回　振り返り　実験の用語の整理、研究対象への配慮（研究倫理） 第８回　観察的研究の紹介1　調査法（質問紙調査を題材として　集合的無知） 第９回　観察的研究の紹介2　調査法（質問紙調査を題材として　集合的無知） 第１０回　観察的研究の紹介3　調査法（調査におけるワーディング、計画） 第１１回　観察的研究の紹介4　観察法（質的研究） 第１２回　観察的研究の紹介5　観察法、検査法（質的研究） 第１３回　観察的研究の紹介6　検査法（質的研究）、到達テストの告知 第１４回　研究計画、研究における倫理、振り返り・到達テストの解説 第１５回　まとめ・到達テスト・テスト解説

受講生に関わる情報および受講のルール	メールによるコメントカードの提出が義務付けられている。開始時に小テストへの回答が求められる場合があるため、早めに着席していることが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。
評価方法	コメントカードでの評価合計(35%)、講義内小テスト（30%）、到達テスト（35%）
教科書	高野 陽太郎・ 岡 隆（編）　　心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　有斐閣アルマ　2004
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学習心理学（学習・言語心理学）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
趙　成河			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学習・言語心理学を学ぶための基礎知識習得を目的とする。 【到達目標】 古典的条件付け・オペラント条件付け・観察学習、言語についての概念説明ができる。 学習心理学、言語心理学に関連した用語、学習のプロセスについての知識をえる。
授業の概要	本講義では、初学者を対象に、学習心理学で見出された研究の解説を体系的に行うことになる。主な内容は、学習の基本的メカニズム、古典的条件付け、オペラント条件付け、概念学習、言語獲得および発達等を取り上げる。理解をより深化させるために、小テスト、アンケートの実施を予定している。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　心理学における学習とは 第２回　馴化（じゅんか）と鋭敏化 第３回　行動の観察と記録 第４回　行動の測定とグラフ化 第５回　古典的条件付け（1) 第６回　古典的条件付け（2) 第７回　古典的条件付け（3) 第８回　オペラント条件付け(1) 第９回　オペラント条件付け(2) 第１０回　オペラント条件付け(3) 第１１回　概念学習・観察学習・問題解決 第１２回　記憶と学習

	第１３回　　言語の獲得　発達心理学的観点から 第１４回　　言語が思考・認識に与える影響 第１５回　　まとめ・到達テスト
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 　講義の際に10分程度の小テストが行われる場合がある。実験・アンケート実施に伴い準備等の協力が求められることがある。 〔受講のルール〕 ノートを必ず冊子としてまとめておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（234・235教室）を予定している。
評価方法	小テスト・アンケートの提出(40%)、授業内発言・コメント（20%）、到達テスト（40%）
教科書	実森 正子 ・ 中島 定彦（著） 学習の心理―行動のメカニズムを探る（コンパクト新心理学ライブラリ　2） サイエンス社　2000
参考書	ミルテンバーガー（著）園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二（訳）（2006）行動変容法入門 二瓶社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした教育のあり方を理解する。 ②幼稚園や小学校を中心とした発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③遊びや学びの認知過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて説明できる。
授業の概要	【授業の概要】 幼児、児童及び生徒の教育に携わる者として、実際に教育現場等で出会う種々の出来事に対応するために必要とされる知識や考え方について学ぶ。さらに毎回の演習課題を通して、学生自身の体験も掘り起こしながら、保育者としてまた教育者としてよりよい指導を行う上での基礎となる考え方について検討する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　子ども理解における発達の把握

【授業概要】
・科目のオリエンテーションを行います
・子どもが発達するということと、教育との関連性について少し大きな視点で考えます。今の日本は、すべての子どもが少なくとも義務教育を体験し、大半が高校やさらに大学まで教育を受けています。つまりそれは、その期間に子どもたちは、心身共に大きな変化を教育の場で体験していくといことになります。
・授業の初めに、こうした子どもの発達のおおまかな流れについて振り返り、それぞれの時期に課題になることについて、考えを深めていきます。
【キーワード】
・ペダゴジーとエデゥケイション、ゲゼル、レディネスと成熟、ヴィゴツキー、発達の最近接領域
【教科書・参考文献】
・（2-3ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・自分が受けた教育について考えるワークをワークシートを用いて実施する
【アクティブラーニング】
・ワークシートを通して、互いの教育体験を確認し合うグループワークを実施します。

第２回　個人差や発達過程に応じた保育

【授業概要】
・学習は、学習者の認知的な偏りやパーソナリティなど、様々な個性との関係で、うまくいったりいかなかったりすることを確認します。
・実際の学習は学級集団を単位にして行われますが、そこではこうした個への配慮が欠けてしまうことが多くなることを理解し、個に応じた学びを実現するための方法について学びます。
【キーワード】
・プログラム学習、ティーチング・マシン、完全習得学習、習熟度別学習、ＴＴ、適正処遇交互作用
【教科書・参考文献】
・（102-111ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】

・教育に関する用語がたくさん出てくるので、後日ミニテストを実施し、理解度を確認する。
【アクティブラーニング】
・

第３回　身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
【授業概要】
・人は学ぶ力が非常に強く、生まれた瞬間から様々な体験を通して広い意味での学びは始まっていくことをまず確認します。
・すべての子どもにとって、家庭が最初の学びの場となり、そこで基本的な生活習慣や行動パターンなどを学びながら、やがて大きな社会に入っていくための準備として、社会が用意する集団教育の場としての学校に進むという道筋について、解説します。
・そうした場にどのような学びの環境があるかを理解し、子どもの感性や体験を伸ばすものはどのような事かについて考えていきます。
【キーワード】
・しつけ、社会化、遊びと社会的スキル、感覚、知覚、認知
【教科書・参考文献】
・（16-33ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・ワークシートを通して、互いの教育体験を確認し合うグループワークを実施します

第４回　環境としての保育者と子どもの発達
【授業概要】
・保育者も人ならば、子どもたちも個性ある人です。いくら子どもを理解し、よい保育者であろうとしても、人対人の関係の中で営まれる教育は、相性にも左右されてしまうのが現実です。
・保育者は、まず自らの個性を自覚し、その偏りに気づいていくことが大切です。
・ここでは、自分の振る舞いや関係づくりに変化をもたらすために開発されたＲＣＲＴを学び、自分のことを振り返ることのできる保育者は、なにができなくてはならないかを考えます。
【キーワード】
・学力と評価、教師のビリーフ、学力低下論争、指導と評価、ルーブリック、ＲＣＲＴ
【教科書・参考文献】
・（プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・

第５回　子ども相互のかかわりと関係づくり
【授業概要】
・子どもたちは、集団生活に適応していくにつれて、様々な仲間関係を作っていきます。当然その関係はつねに良好になるばかりではなく、時にぶつかり合い、時に互いを傷つけてしまうことにもなっていきます。
・子ども時代に豊かな関係を築いていくことを支援しつつ、より良い関係を作る力を磨いていく場をどうすれば作れるか。保育者にとって、大切な視点である仲間づくりの支援について学びます。
【キーワード】
・向社会的行動、社会化、遊びと社会的スキル、友達
【教科書・参考文献】
・（136-142ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・喧嘩など、仲間関係のもつれの場面を描いた絵を見ながら、どのような指導が必要かについてグループで考えていきます。

第６回　子ども集団と保育の環境
【授業概要】
・子どもたちは公私ともに仲間関係の中で多くの時間を過ごすようになります。その仲間関係の質は、保育や教育の質を少なからず左右することを確認し、どのような集団の構造が学びに適しているかを考えていきます。
【キーワード】
・ピグマリオン効果、ローゼンタール、通過儀礼、いじめ、不登校、ピア・サポート、インテグレーションとインクルージョン
【教科書・参考文献】
・（136-172ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・長い範囲からピックアップして授業をするので、全体に目を通しておくこと
【アクティブラーニング】
・

第７回　子どもの生活と学び
授業概要】
・子どもたちは日々新しい出来事と遭遇をしていきます。すでに持っている知識を用いて、新しい場面での問題に対処する問題解決的な場面を想定し、どのような応用的解決行動が生じるかを確認します。
・また、日々学んでいくことが、どのように他の場面に広がり、応用されていくかに関する基本原理を学ぶことで、日常生活における子どもの学習の姿をイメージできるようにしていきます。
【キーワード】
・問題解決、良定義、不良定義、領域固有性、学習の転移、熟達化
【教科書・参考文献】
・（54-59ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教科書該当範囲を読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・学習場面で出される問題をグループで実際に解きながら授業を進めていきます。

第８回　子どもの遊びと学び

【授業概要】
・人は学ぶ力が非常に強く、生まれた瞬間から様々な体験を通して広い意味での学びは始まっていくことをまず確認します。
・すべての子どもにとって、家庭が最初の学びの場となり、そこで基本的な生活習慣や行動パターンなどを学びながら、やがて大きな社会に入っていくための準備として、社会が用意する集団教育の場としての学校に進むという道筋について、解説します。
・多くの時間を過ごすこの学校という学びの場は、適応的に過ごせることばかりではないことも確認しつつ、子どもにとって、学びの場がどのようなものになりうるかをともに考えていきます。
【キーワード】
・しつけ、社会化、遊びと社会的スキル、パーテン、小学校、中学校、塾と学校、進路選択、大学
【教科書・参考文献】
・（16-33ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・ワークシートを通して、互いの教育体験を確認し合うグループワークを実施します。
発達と学びの理解①
【授業概要】
・心理学で明らかにされてきた、学習に関する基本原理について学びます。
【キーワード】
・強化、内発的動機とコンピテンス、原因帰属、学習性無力感、自己効力感
【教科書・参考文献】
・（34-45ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・

第９回　基本的生活習慣の獲得
【授業概要】
・食べる、寝る、身の回りのことを自分でやれるようになるなど、基本的な生活面をきちんと保てる力は、学ぶ力の基礎にもなります。家庭ですでに様々な生活習慣や文化を学んでくる子どもたちが、学校で改めて集団生活を通して基本的生活習慣を獲得するために必要なことについて学びます。
【キーワード】
・しつけ、基本的生活習慣、睡眠、食事、孤食、食卓風景
【教科書・参考文献】
・（16-20ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・

第１０回　自己主張と自己抑制
【授業概要】
・第一反抗期とも言われる自己主張をしたい心が伸びる時期に焦点を当て、そこで仲間や家族間で体験する自己抑制の大切さを学びます。
【キーワード】
・第一反抗期、マーラー個体文化理論、内発的動機、外発的動機、自己抑制
【教科書・参考文献】
・（34-44ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・

第１１回　主体性の形成
【授業概要】
・家庭や園という幼い子の学びの場において、徐々に自分がどんなことが好きで、何をやりたいかという気持ちを理解することができるようになります。こうして徐々に伸びていく主体性は、将来の学修や仕事への興味つながる大事なものであることを確認し、大人の関わり方として、主体性を伸ばすために大切なことは何かを検討をしていきます。
【キーワード】
・主体性　対　罪悪感、コンピテンシー、アイデンティティ、アイデンティティ拡散
【教科書・参考文献】
・（プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・例を通してグループワークをしながら授業を進めていきます。

第１２回　生涯にわたる生きる力の基礎を培う
【授業概要】
・園生活後半になれば、やがてくる小学校、そしてその先へ目を向け、子どもたちの適応能力を上げるような活動が大切になってきます。
・ここでは小学校以降、中心となる学ぶ生活に適応するための基礎について考え、それを支援する方策について学んでいきます。
【キーワード】
・小１プロブレム、学びからの逃走、規律、集団生活
【教科書・参考文献】
・（プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・例を通してグループワークをしながら授業を進めていきます。

	第１３回　発達と学びの連続性と就学支援 【授業概要】 ・現在、就学に関する移行の問題から、幼保小連携が重要とされています。小学校で集団での学習生活に入るにあたって、あらかじめ小学校とも連携をしながら、円滑に適応できるように、連続性のある適応のためのカリキュラムについて学びます。 【キーワード】 ・アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム、交流活動 【教科書・参考文献】 ・（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・例を通してグループワークをしながら授業を進めていきます。 第１４回　発達援助における協働 【授業概要】 ・子どもたちが健全に発達を遂げていくためには、担任一人の力だけではなく、多くの立場の大人たちが協働していくことが大切であることを確認します。 ・そして、子どもたちが生活や学びにつまづきやすい場面を想定し、どのように発達支援をしていくべきかについて、事例を基に考えます。 【キーワード】 ・養護教諭、保健室、ピア・サポート、いじめ、不登校、インテグレーションとインクルージョン 【教科書・参考文献】 ・（136-172ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・長い範囲からピックアップして授業をするので、全体に目を通しておくこと 【アクティブラーニング】 ・ 第１５回　現代社会における子どもの発達と保育の課題 【授業概要】 ・変化の激しい現代、子どもたちが大人として社会に出るまでもそうですが、出た後にも、長い人生を生きぬいていく基礎となる感性や知の基盤をいかにしたら育てられるかを考えます。 【キーワード】 ・生きる力、知識基盤型社会、問題解決力、悩む力、エゴ・ストレングス 【教科書・参考文献】 ・（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・試験課題提示をします。 【アクティブラーニング】 ・
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	毎回考えるテーマを決めて授業を行うので、授業後、授業内のテーマに関係する教育や心理学の図書、絵本、児童文学、映画などを探し報告する課題に取り組むこと。探したものは、報告用紙に簡潔にまとめて、次回の授業までに提出すること。
オフィスアワー	月曜　9時～12時
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点））
教科書	中沢　潤（2008）『よくわかる教育心理学』（ミネルヴァ書房）
参考書	清水益治他（編）修（2015）『基本保育シリーズ⑨　保育の心理学Ⅱ』（中央法規出版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　多角的、総合的な視点から、「子ども」と「保育」に対する考え方を学ぶ。さらに、保育に関する幅広い視野を身につ　け、子どもの発達にとってよりよい保育とは何かを考える。 【到達目標】 　1)保育の意義および保育所保育指針における保育の基本について理解する。 　2)保育の内容と方法の基本について理解する。 　3)保育の思想と歴史的変遷について理解する。 　4)保育の現状と課題について考察し、自身の保育に対する考え方について表現できる。
授業の概要	保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本を学ぶ。さらに保育の歴史的変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について分析する視点を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　保育の理念と概念－なぜ保育という言葉が生まれたのか？－ 【Key words】 保育、生理的早産、ポルトマン、養護と教育、子どもの最善の利益 【授業概要】 なぜ保育という言葉が生まれたのか、子どもとはどのような存在であるのかということと関連づけて考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１～８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。
	第２回	保育対象としての子ども－なぜ子どもを保育するのか？－ 【Key words】 子ども観、児童憲章、児童権利条約、 【授業概要】 子ども概念や子どもの置かれている状況、子ども観の変遷等についての理解を深め、「なぜ子どもを保育するのか？」について新しい視点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９～１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。
	第３回	福祉としての保育－なぜ保育所は必要なのか？－ 【Key words】 児童福祉法、保育所、ニーズ 【授業概要】 児童福祉法成立の過程や保育所を巡る統計データから、児童福祉施設としての保育所の必要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１７～２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。
	第４回	就学前教育・保育の基準－なぜ保育所保育指針は必要なのか？－

【Key words】
就学前教育、人的・物的環境、保育所保育指針
【授業概要】
就学前教育・保育の①法令上の位置づけ、②基準となる法令の概要、変遷、最新改訂と基準に基づく就学前教育・保育のあり方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２５～３２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第５回　発達過程に応じた保育－なぜ子どもの発達理解は必要なのか？－
【Key words】
発達過程、発達課題、遊びの発達
【授業概要】
保育内容が保育の対象となる子どもの発達過程を踏まえた発達の課題から生まれることを理解する。その上で、子どもの発達に関する理論を概観し、保育を行う際に発達を理解することの意義や大切さを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～４２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第６回　保育実践の構成原理－なぜ保育実践が成り立つのか？－
【Key words】
保育の目標、子ども観、保育観、全体的な計画、指導計画、環境構成
【授業概要】
幼児教育・保育の実践の基本である環境を通して行う保育、子どもの遊びを中心とした保育に関して、保育者がどのような方針や目標、計画を立てて日々の保育に取り組んでいるかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４３～５２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第７回　保育のねらいと内容－なぜごっこ遊びをするのか？－
【Key words】
５領域、環境構成、指導案
【授業概要】
養護と教育の一体性やねらいと内容の関連性を学ぶために、具体的な事例として「ごっこ遊び」を取り上げる。「ごっこ遊び」という総合的な活動を令に、保育のねらいと内容の基本的な考え方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５３～６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第８回　遊びと環境構成－なぜ保育所には遊具があるのか？－
【Key words】
環境構成、保育者の意図
【授業概要】
環境を通した保育について、遊びと環境構成をキーワードに考察する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～６８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第９回　保育実践のPDCAサイクル－なぜ保育者は記録をとるのか？－
【Key words】
ＰＤＣＡサイクル、省察、記録
【授業概要】
記録の様式や標準的な書き方を知る。そして、その記録をどのように活用するのか、活用していく上での意義を学ぶ。さらに、記録を通して保育実践のＰＤＣＡサイクルについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第１０回　保育の思想史－なぜフレーベルは幼稚園を作ったのか？－
【Key words】
ルソー、コメニウス、オウエン、フレーベル、エレンケイ、モンテッソーリ、デューイ
【授業概要】
静養における保育思想を概観し、思想生成の背景や思想の内実にも触れながら、今に生きる理念とは何かを考える。保育への思いや願いと突き合わせながら、思想や歴史との対話を通して、自らの保育観、子ども観につなげる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７７～８６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

第１１回　日本の保育の制度史（戦前）－なぜ幼稚園には机と椅子があるのか？－
【Key words】
留岡幸助、明治・大正・昭和・平成の保育の制度史
【授業概要】
保育の未来を考えるには、保育の現在を知らなければならず、保育の現在を知るためには、過去から学ぶしかない。保育制度を年代順に概観する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８７～９６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の学習内容のページを読んでおくこと。

	第１２回　日本の保育の制度史（戦後）－なぜ保育所と幼稚園があるのか？－ 【Key words】 倉橋惣三、誘導保育論、保育に欠ける、東京女子師範学校附属幼稚園 【授業概要】 戦後各時期の政策・制度・行政上、保育所と幼稚園がどう構想され、制度化されてきたか、両制度の接点にも配慮しながら理解する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９７～１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。 第１３回　保育における地域連携－なぜ保育所に地域の人が来るのか？－ 【Key words】 少子化対策、地域 【授業概要】 施策の範囲、目標と保育所保育の位置づけ、保育所保育と地域の関連性を確認した上で、保育所保育による地域支援の課題を学ぶ。子育ち・子育て支援の実践の動向だけでなく、その社会的背景や今後の可能性までを見据え、「保育者ができること」を考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１０５～１１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。 第１４回　保護者支援における保育士の役割－なぜ保育者は保護者に声をかけるのか？－ 【Key words】 保護者支援、母子保健法、乳幼児健康診査、乳児家庭全戸訪問事業 【授業概要】 保育者に求められている役割を確認し、保育者だからこそできる保護者支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１１３～１２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。 第１５回　保育職務の全体像－なぜあなたは保育者になりたいのか？－　補足：子ども・子育て支援制度 【Key words】 保育者の在職と離職、子ども・子育て支援新制度 【授業概要】 保育者という職業について、在職と離職、保育者としての学び、職務の多様さを知ることを通して「なぜ、あなたは保育者になりたいのか？」と自分に問いかけてみよう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２１～１２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の学習内容のページを読んでおくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中に生じた疑問はそのままにせず質問するなどの行動に移して学習を深めましょう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	子どもをめぐる現代の課題について常に関心を向けるとともに、保育者を志す者としての自覚と責任をもって、生活することを常に心がけてください。
オフィスアワー	授業時間内で説明します。
評価方法	筆記試験60%、授業態度20%、授業時に課す課題20%。総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	①改訂　なぜからはじめる保育原理　第2版　2018　建帛社 ②幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　　チャイルド本社
参考書	授業内において適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 なし アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　子ども家庭支援の心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「保育の対象の理解に関する科目」として設定されている授業である。保育の対象である子どもたちだけではなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とする。 【到達目標】（「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について（H30.6.24）」）に準ずる ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業の概要	教科書に基づき、毎回表題に掲げているテーマに関して基本的な知識をまず学習する。そして、発展的な問題としてプリント等で何らかの事例を提示し、何が理解と支援のポイントになるかを学生とともに考えながら授業を行っていく。毎回演習課題を設定し、全員で考えそれを共有しながら、保育者として子どもや保護者の力になるために何を考え何をすべきか学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第1回　科目オリテン・乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴（1-8ページ）

【授業概要】
・科目のオリエンテーションを行います。
・子どもにとって最初に出会う社会であり最重要な社会ともいえる家庭が子どもの心理に及ぼす影響を理解するために、まずは乳幼児期から学童期にかけての大まかな発達の流れについて確認をします。
・この過程で、親子が親子として成り立っていくことの大切さを改めて考えていきます。
【キーワード】
・基本的信頼感、応答と受容、愛着、共同注意と三項関係、行動範囲の拡大と自我・自己の発達、基本的生活習慣
【教科書・参考文献】
・（1-8ページ）
・参考書　稲垣栄洋（2019）『生き物の死にざま』（草思社）
【課題・予習・復習・授業準備】
・まずは教科書の該当部分を読み、用語調べを行っておくこと。
【アクティブラーニング】
・「なぜ、人間は「親子」を作り、育つのか？」について、他の動物とも比較しながら、意見を交換ししながら、人の独自性についての理解を深めていきます。

第2回　学童期の発達とその特徴および思春期の始まり（8-15ページ）

【授業概要】
・学校での生活を開始してから思春期に入り、特有の心身の変容を体験するまでの過程についてをおおまかに振り返り、この時期における親子関係を理解する前提となる発達の状態を確認します。
【キーワード】
・人生移行と環境移行、小1プロブレム、９，１０歳の節、二次的ことば、有能感と劣等感、第二

次性徴
【教科書・参考文献】
・（8-15ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・それぞれの思春期までの生活を振り返るワークシートを記入し提出すること。
・自己の理解を通して課題理解を進めます。
【アクティブラーニング】
・

第3回　思春期・青年期の親子関係・仲間関係と道徳性（16-18ページ）
【授業概要】
・思春期に注目をし、この時期に改めて親子の関係性が問われる問題に注目をします。
・大きな心身の変容を体験する時期をどうやって支えていくかについて、基本的な知識を学びながら考えていきます。
【キーワード】
・心理的離乳（ホリングワース）、ギャンググループ、チャムグループ、ピアグループ、コールバーグの道徳的発達理論
【教科書・参考文献】
・（16-18ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・アイデンティティ・ゲームなどを通し、体感的にこの時期の発達の課題を考えていきます。

第4回　心理社会的モラトリアムとアイデンティティ形成（18-24ページ）
【授業概要】
・中学校以降、多くは大学を卒業して社会に出るまで、親子の経済的な依存関係を基盤として子どもは社会が用意する教育の場で成長をしていきます。
・この青年期は大きな変化を体験する過程であるがために発達上の課題も多く出る時期であり、親子の関係性を改めて見つめ直す時期ともなることを理解し、この時期の子ども支援のポイントを掴んでいきます。
【キーワード】
・アイデンティティ形成、モラトリアム、アイデンティティ、アイデンティティ拡散、マーシャのアイデンティティ・ステイタス論
【教科書・参考文献】
・（18-24ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・アイデンティティに関係する歌や映画や小説を探し、どこにアイデンティティの問題が表現されているかについて説明できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・アイデンティティ・ゲームなどを通し、体感的にこの時期の発達の課題を考えていきます。

第5回　成人期から高齢期の発達の特徴（25-30ページ）
【授業概要】
・そもそも子どもを産む側となり、親として子どもに大きな影響を及ぼす世代の心理について基本的な知識を学びます。
・エリクソンの発達段階論にそいながら、約40年にわたす成人期の発達的変化についておおまかに知ることで、親世代が抱える課題の理解を深めていきます。
【キーワード】
・世代性（生殖性、ジェネラティビティ）、キャリアと大人にとっての自立、世代と世代のライフサイクルアイデンティティ形成、モラトリアム
【教科書・参考文献】
・（25-30ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・親への簡単なインタビューを行っておくこと。（課題はあらかじめ提示）
【アクティブラーニング】
・インタビューをしてきたことを通して、グループ内で親世代の心理を共有する。

第6回　老年期の課題と家族（30-36ページ）
【授業概要】
・発達の最終過程である老年期の特徴について理解を深めていきます。
・祖父母世代にあたるこの時期の男女は、家庭を時には大きく支え、時には混乱を与えたりもするが、間接的に大きな影響を与えることにもなることを理解し、子どもたちがこれから辿っていく人生の道筋を描くための基本的な知識を学びます。
【キーワード】
・喪失、流動性知能と結晶性知能、統合　対　絶望、希望
【教科書・参考文献】
・（30-36ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・老いや老年期を描いた映画や小説を探しておくこと。
【アクティブラーニング】
・「喪失のワーク」を通して感想を共有する。

第7回　家族システムと家族発達（37-42ページ）
【授業概要】
・子どもを取り巻く環境を、システムとしての家族という視点から考えていきます。
・家族システムを理解することで、子どもの問題を家族の問題として置き換える視点を養います。
【キーワード】
・保育環境、養育環境、システムとしての家族、ＩＰ、コペアレンティングと父性、母性の役割、生態学的システム論
【教科書・参考文献】
・（37-42ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・事例をもとにグループワークを行い、家族の問題について話し合います。

	第8回	家族の発達（42-48ページ） 【授業概要】 ・家族はそれ自体が一人の人のように、危機に出会いながら様々に変化をしていくという面があることを理解していきます。 ・また、時代の流れの中でも大きく変化をし、特に現代は多様な家族形態があることをよく理解し、子どもが生きて生活をする場の理解を深めていきます。 【キーワード】 ・複雑化・多様化、子どもの発達と家族の変容、空の巣症候群、祖父母的世代性 【教科書・参考文献】 ・（42-48ページ） 青木和雄（2003）『ハッピー・バースデイ』（金の星社）等を参考に 【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ、関係文献を読んでおくこと。 【アクティブラーニング】 ・事例をもとにグループワークを行い、家族の問題について話し合います。
	第9回	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達（49-61ページ） 【授業概要】 ・親子が成立した時点から、親は親としての子育てのスタイル（養育スタイル）を形成していきますが、それが常に子どもにとって良いものになるとは限らない事実を確認します。 ・親の不適切な養育についてよく理解し、どのような過程を経て養育スタイルが形成され、また世代間伝達をされていくかについて考え、子どもの生きる親子の実際の状況を描く力を磨きます。 【キーワード】 ・児童虐待、マルトリートメント、ＨＳＣ（アーロン）、愛着関係を阻害する諸要因、愛着の世代間伝達 【教科書・参考文献】 ・（49-61ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・不適切な養育を行ってしまう親の事例をもとにグループワークを行い、家族の問題について話し合
	第10回	愛着の重要性（プリント） 【授業概要】 ・最近の研究から、発達障害の急増の要因として、誤って愛着障害が算入されてしまっているという指摘をもとに、初期の親子関係の機能不全を背景として生じてくる子どもの問題を理解していきます。 ・愛着障害からもたらされる、子どもの生きる上での呪いや負債について考え、子どものこうした問題を取り除くために何が必要かを考えます。 【キーワード】 ・愛着形成の問題と人格障害、境界性人格障害の背後にある愛着の問題 【教科書・参考文献】 ・（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・プリントをもとにワークを行いながら、グループで意見を交換しながら授業を進めていきます。
	第11回	子育て環境の社会状況的変化とワークライフバランス（62-82ページ） 【授業概要】 ・家族の時代的変化をおおまかに学びながら、そこで引き起こされる家族のあり方の変化や、子育て上の問題について理解をしていきます。 【キーワード】 ・アロマザリング、拡大家族と複数養育、家族規模の縮小、ワーク・ワイフ・バランス 【教科書・参考文献】 ・（62-82ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・該当範囲が広いので、あらかじめ教科書該当部分に目を通しておくこと。 【アクティブラーニング】 ・
	第12回	多様な子育て家庭への支援（83-93ページ） 【授業概要】 ・多様な家庭の存在が前提となっている時代は、当然のことながら、多様な子育て家庭があり、それぞれの家庭で必要となる支援のポイントを理解することが重要となります。 ・ここでは、事例を通しながら、グループで話し合いながら、親の子育てを支援するには何が重要かについて理解する感性と力を磨いていきます。 【キーワード】 ・育児不安をもつ家庭、育児サポート環境のない夫婦共働き家庭等 【教科書・参考文献】 ・（83-93ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・事例をもとに、グループワークを行います。
	第13回	特別な配慮を必要とする家庭への支援（94-102ページ） 【授業概要】 ・現在、大きな社会問題となっている子どもの貧困の問題を筆頭に、虐待や親の精神障害の問題など、複雑に絡み合いながら、一様に家庭の養育機能を低下させてしまう大きな問題について理解を深めていきます。 【キーワード】 ・貧困家庭、虐待疑いのある家庭、保護者が精神障害等を抱える家庭、外国ルーツの家庭等 【教科書・参考文献】

	・（94-102ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・ジグソー学習を実施しながら、多様な問題についての理解を深めていきます。 第14回　基本的生活習慣と幼児期・学童期にみられる精神障害（103-125ページ） 【授業概要】 ・乳幼児期から児童期にかけて身につくことが望ましい基本的生活習慣を確認します。 ・そのうえで子どもの精神障害に関しての理解を深め、言葉ではなく身体表現で語られる子どもの内面の問題を理解する感覚を養います。 【キーワード】 ・不安障害、選択性緘黙症、強迫性障害、チック障害、身体表現性障害等 【教科書・参考文献】 ・（103-125ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・あらかじめ提示された課題を調べてきて互いに説明をするジグソー学習を行う予定です。 第15回　災害と子ども（136-146ページ） 【授業概要】 ・気候変動や人為的な問題によって大きな災害が生じる機会が増えていることから、これまでに生じた災害時に見られた家族や子育て上の問題に注目し、災害時にどのように子どもを守っていくかについて、基本的な事柄を理解していきます。 【キーワード】 ・ＰＴＳＤ、強い衝撃と子どもの回復力、災害と子どもの遊び　等 【教科書・参考文献】 ・（136-146ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・教科書を毎回持参すること。 ・授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理すること。 ・５回ごとをめどに「まとめ」や「調べ課題」を出す予定。 【受講のルール】 ・授業では、遅刻、居眠り、情報通信機器の操作などはせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）はしないこと。講義の妨げになる場合は、退出を命ずることもありうる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回考えるテーマを決めて授業を行う。授業後、授業内のテーマに関係する教育や心理学の図書、絵本、児童文学、映画などを紹介し、理解を深める活動を求めることがある。その際には報告書や感想文の提出を課題とし、評価の対象とするので積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	金曜9時～12時
評価方法	・総合評価は、以下の通しての割合で評価。総合得点60～69点：Ｃ　　70～79点：Ｂ　80～89点：Ａ　90点以上：Ｓ・期末試験70％、小レポート・感想文等提出物30％（30÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点満点：提出により得点））
教科書	本郷一夫・神谷哲司（編著、2019）『子ども家庭支援の心理学』（建帛社）
参考書	青木久子他（2001）『子ども理解とカウンセリングマインド』（萌文書林）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓・曽田　梨央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「遊び」は幼児にとって重要な学習である。保育や幼児教育の現場に於いて求められている表現活動について理解し、音楽を通して幼児が「遊び」から学ぶ資質・能力を養うことが出来るよう知識や技術を習得する。 【到達目標】 子どもの心身の発達や取り巻く環境等から保育内容を踏まえ、子どもの生活と遊びに於ける体験(身近な自然の音や音色・人の声・音楽等)や保育の日常生活を捉え、具体的展開のための技術を実践的に学ぶ。
授業の概要	（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌唱及び伴奏・コードを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 オリエンテーション・クラス分け 学生それぞれの進度に合わせた曲決め・バイエル50番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋手遊び3曲 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：曲の準備
	第２回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 正しく練習する習慣を身につける 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備
	第３回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）

ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備

第４回　学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語
【key words】
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備

第５回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
暗譜する力をつける
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備

第６回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備

第７回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備

第８回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
理論・ソルフェージュを理解しピアノ曲を表現豊かに演奏する技術
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備

第９回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法

【key words】
課題曲数（バイエル50番まで＋弾き歌い5曲暗譜）のクリアに向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備

第１０回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
リズム、ハーモニー、テンポをきちんと理解して演奏する
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１１回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
試験曲（バイエル50番以降のピアノ曲を1曲暗譜で仕上げる）を選曲
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１２回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：試験曲の決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１３回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：試験曲の暗譜
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１４回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験のためのリハーサル
【授業概要】
授業内課題をクリアする
試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ

第１６回　科目（後期）オリエンテーション

【key words】
後期授業概要
【授業概要】
前期に引き続きレベルアップを図る
学生それぞれの進度に合わせた曲決め（バイエル80番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋絵描き歌2曲）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１７回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１８回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１９回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２０回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２１回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２２回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２３回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２４回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法

	【key words】 ピアノ曲・弾き歌い 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２５回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２６回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 試験曲選曲（バイエル80番以降のピアノ曲1曲を暗譜） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２７回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の決定 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２８回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２９回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて・人前での演奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の仕上げと暗譜・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 授業内課題をクリアする 試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙とノートを準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜とノートは各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を

	確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験80％・授業内評価20％
教科書	①『バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社　②『新訂ピアノの森２』田丸信明編：GAKKEN　③『新訂ピアノの森３』田丸信明編：GAKKEN　④『ブルクミュラー　25の練習曲』全音楽譜出版社　⑤『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑥『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑦『こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社　⑧『続こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（図画工作）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児が表現を通してイメージを豊かにし感性を養うことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身　に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。 ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。 ③造形表現における身近な自然やものなどの様々な素材や教材、用具等に触れ、表現を体験することを通して、その特徴を理解し、幼児を想像して造形活動を構想することができる。 ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。
授業の概要	幼児の造形表現の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　（授業の概要説明、学習のための準備等の確認）　「表現」の意味の発見 第２回　子どもの「表現」とは　幼児期と造形表現の特質 第３回　幼稚園教育要領から　領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い 第４回　製作　ペットボトルの楽器　（身の回りの材料をつかって） 第５回　製作　二つ折りの動物　（紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。） 第６回　製作　吊する飾り　（保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる。） 第７回　子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期） 第８回　子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期） 第９回　子どもの描画の表現の傾向と類型（表現にあらわれる類型） 第１０回　子どもの描画の表現の傾向と類型（傾向と問題点） 第１１回　紙素材による制作方法について　（紙の様々な加工技術について　直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる） 第１２回　製作　物語の中の人物　（アイディアスケッチ、試作、製作） 第１３回　製作　物語の中の人物　（作製　有効な紙の加工技法を用いて製作） 第１４回　製作　物語の中の人物　（製作　仕上げ　鑑賞）

	第１５回　　色彩の基礎　（色の三属性） 第１６回　　色彩の基礎　（色彩の効果） 第１７回　　色彩の基礎　（形や色彩の組み合わせによる構成） 第１８回　　色彩の基礎　（形や色彩の組み合わせによる構成） 第１９回　　マーブリング（墨流し）の制作 第２０回　　マーブリング（墨流し）の制作　　墨流しをした紙を自由な形に切り、構成する 第２１回　　わたしのランチョンマット作成（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの 第２２回　　わたしのランチョンマット作成（染物） 第２３回　　フロッタージュ（こすりだし）身近な植物の葉や身の回りのものを色鉛筆等でこすり、形や凹凸の面白さを楽しむ 第２４回　　型押しあそび　自然の素材や身近なものを型押しして楽しむ 第２５回　　型押しあそび　型押ししたものを再構成して楽しむ 第２６回　　紙版画の制作　紙を切り取って貼り合わせ版をつくる 第２７回　　紙版画の制作　摺る 第２８回　　コラグラフの作成　身近な素材を貼り合わせて版をつくる 第２９回　　コラグラフの作成　摺る 第３０回　　まとめ　造形表現における環境の構成
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。 ○実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎時間授業修了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び小課題（５０％）
教科書	長谷喜久一著　　「図画工作」　　建帛社
参考書	鬼丸吉弘著　「児童画のロゴス　ー身体性と視覚」　勁草書房　　（２００５）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（体育）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　乳幼児の発育・発達に応じた運動遊びを実践的に学び、実際に子どもに指導できるようにすることを目的とする。 【到達目標】 ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助方法を理解できる。 ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ③さまざまな運動遊びの体験を通して、支援・援助方法が行える。
授業の概要	乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全に遊べるかを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　子どもの生活における運動遊びの必要性と目的 【key words】 健康　からだ　こころ　社会性 【授業概要】 運動遊びは、こころ、からだ、社会性の３つの要素の必要性があることを理解する。また、運動遊びの目標を、幼稚園教育要領と保育所指導指針の具体的なねらいを通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「乳幼児期の心身の発達」について学習しておく。
	第２回	乳幼児の心身の発達、運動遊びの指導の実際 【key words】 発育・発達　からだ　こころ 【授業概要】 幼児期の身体の発達の特徴（スキャモンの発達曲線、身長・体重の発育、身体各部分の比率、機能面の発達、身体発達の特徴）や運動能力の特徴（体力、運動能力、調整力、運動能力テスト）、こころの発達の特徴（情緒の発達、認知の発達、生活習慣の発達、パーソナリティーの発達）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p13～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「領域健康と他領域との関係、乳幼児期の運動能力の発達」について学習しておく。
	第３回	「歩く」「走る」運動遊び 【key words】 歩く　走る 【授業概要】 運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解

する。歩く運動では（しっかりと、おもちゃと、動物のものまねで、バランスをとって、リズミカルに、ゲーム等）走る運動では（早く歩く、自由に、まっすぐ、フォームをつくって、変化をつけて、障害物やゲーム等）について学ぶ。、

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p39～６０

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「ボール」運動遊びについて学習しておく。

第４回　教材「ボール」を使った運動遊び
【key words】
ボール　一体感
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。ボールを使った運動では（自由に、蹴って、渡して、投げて、打って、的に当て、ミニサッカーやドッチボール等）について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p６1～７２

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「縄」運動について学習しておく。

第５回　教材「縄」を使った運動遊び
【key words】
縄　一体感
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。縄を利用した運動では（またいで、上を歩いて、波・ヘビ跳び、大波・小波、一人跳び、縄体操、幅跳び、縄跳びリレー等）について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p７３～８３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「新聞紙」を利用した運動について学習しておく。

第６回　教材「新聞紙」を使った遊び
【key words】
新聞紙　一体感
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。新聞紙を利用した運動では（またいで、上を歩いて、丸めて、折りながら、跳ぶ、乗る、投げる、走る、くぐる等）の運動遊びについて学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p８４～83

第７回　教材「様々な道具」を使った遊び
【key words】
マット　跳び箱
【授業概要】
マットや跳び箱など様々な道具を用いて保育場面で子どものからだの発達に役立つか体験する。体験を通して、発達に関することだけでなく安全面での対策などを具体的に学ぶ。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「伝承遊び」運動について学習しておく。

第８回　伝承遊び、鬼遊び、集団遊び
【key words】
伝承　昔の遊び
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。伝承遊び（かくれんぼ、ダルマさん転んだ、ハンカチ落とし、かごめかごめ、花いちもんめ等）の内容や鬼遊びなど地域性、昔の風習、遊びの歌ことばを通じて昔からの幼児の遊びを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p84～９９

【

第９回　課題研究（班での計画・立案）
【key words】
グループ研究
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の準備をおこなう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「テーマ・内容」について学習しておく。

第１０回　課題研究（音楽に合わせたリズム運動準備）
【key words】
グループ研究
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の準備をおこなう
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「テーマ・内容・発表方法」について学習しておく。

第１１回　課題研究（発表準備）
【key words】
グループ研究
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の役割分担、リハーサル等をおこなう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」について相談、分担して、リハーサルをおこなっておく。

第１２回　課題研究発表（班別発表）
【key words】
研究発表　指導　協力
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」を実際におこなっておく。

第１３回　課題研究発表（班別発表）
【key words】
研究発表　指導　協力
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「「グループでの役割」を実際におこなっておく。

第１４回　課題研究発表（グループワーク）
【key words】
研究発表　指導　協力
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、発表を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループ別発表での課題」についてまとめておく。

第１５回　課題研究発表振り返り　まとめ
【key words】
保育　からだ　こころ　発育・発達
【授業概要】
幼児期のからだとこころの発達や特徴を踏まえた運動体験を通じて、運動遊びの指導の実際を理解することにより、運動遊びの目的の明確化と必要性を習得する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p1～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】

保育の表現技術（体育）に関してまとめたものをまとめ、授業内で発表。

受講生に関わる情報および受講のルール	【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 2人組や、グループで行う活動があるため、積極的に参加をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（16：00～17：30）
評価方法	実技・発表試験50%、レポート試験および提出物や授業への取り組みなど50%を総合的に評価する。
教科書	岩崎洋子　保育実用シリーズ　体育遊び120：チャイルド本社
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2010
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 子育て支援センター、児童養護施設にて勤務経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育内容（健康）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもを取り巻く健康の課題を知り、子どもの健康な心とからだを育てられる保育者を目指す。また、自分自身の健康を見直し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養えることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児教育の基本や領域「健康」について理解ができる。 ②子どもの健康をめぐる現状と課題を理解し、保育者として課題に向けてどのようなことができるか考えることができる。 ③「健康」と、遊び、生活習慣、環境構成、安全教育のつながりを理解し、態度や技能を身につけることができる。
授業の概要	子どもの発育・発達段階に沿って、心と体の両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに、環境教育、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　①健康とは　②領域「健康」について 【key words】 「健康とは」「他領域との関連」「幼児教育の基本」 【授業概要】 授業の概要について説明する。保育における健康という領域に関して知る。他の領域とどのように関連しているか学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P10～40 第２回　幼児教育の基本 【key words】 「幼児教育の目的と領域」「環境を通しての保育」「保育者のさまざまな役割」 【授業概要】 幼児期においてどのような子どもの姿を目的に保育をしていくか学ぶ。それに関してどのような環境でどのような役割を保育士が担っていくか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P10～35 第３回　子どもの育ちと領域「健康」 【key words】 「運動能力の発達」「情緒の安定」 【授業概要】 子どもの一般的な発達について理解する。情緒の安定の重要性について理解し、保育士がどのように保育の中でそれらを形成していくのか具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P41～54 第４回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題 【key words】

「生活習慣の形成」「子どもの発達と事故」
子どもの発達につれて、どのような危険が生じるのか理解する。また、生活習慣をどのように形成していくか学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P55～64

第５回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題
【key words】
「最近の子どもの姿」「運動能力を低下させた原因」「集団保育の役割」
【授業概要】
近年の子どもの姿について学び、どのように時代と共に変化しているか学ぶ。
集団保育における保育者の役割とは何か学ぶ。実際の事例を見ながら、子どもの遊びについて学び、指導の方法などを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P65～84

第６回　子どもの健康と遊び
【key words】
「乳児の遊び」「ルールのある遊び」
【授業概要】
子どもの遊びについて学び、遊びの意味について事例を通して理解する。またグループワークを行う。

【教科書ページ・参考文献】
P85～99

第７回　子どもの健康と遊び
【key words】
「遊具を使った遊び」「遊びの環境構成」
【授業概要】
保育園などの環境で、どのように遊具を使って遊びを展開するか学ぶ。また、そうした遊びの環境がどのように構成されているかグループワークなどを通して学ぶ。
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P100～112

第８回　子どもの健康と遊び
【key words】
「遊具を使った遊びの配慮事項」「環境設定」

【授業概要】
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P113～148

第９回　子どもの健康という領域に関して
【key words】
「健康における発達」「健康における遊び」「保育者の援助方法」
【授業概要】
これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に発達や遊び、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、理解度についても確認を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P10～148

第１０回　園生活と生活習慣
【key words】
「園生活の中での生活習慣」「園生活と食」「園生活と睡眠」
【授業概要】
園の中での生活における生活習慣の身につけ方や、食の重要性、睡眠の意味などについて事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P149～167

第１１回　園生活と生活習慣
【key words】
「園環境と当番活動」「生活習慣を育む保育者の役割」「生活習慣と家庭との連携」
【授業概要】
生活習慣を身につける中で、保育者はどのような役割を担っているのか学ぶ。また家庭ともどのように連携していくべきか事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P168～184

第１２回　園生活と生活習慣のまとめ
【key words】
「健康における生活習慣」「保育者の援助方法」
【授業概要】
これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に生活習慣や環境構成、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、

	理解度についても確認を行う。 P149～184 【教科書ページ・参考文献】 第１３回　子どもの健康と安全教育 【key words】 「安全教育の考え方」「遊びの中で育む安全の意識」「事故が起きた場合の対応」 【授業概要】 子どもにとって事故は日常的に起こるものである。その中で予防的な対応から実際に事故が起きた時の対応に関して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P185～202 第１４回　幼児教育の現代的課題と領域「健康」 【key words】 「現代社会における今日的課題」「保育者の役割」「生涯発達」 【授業概要】 社会的な課題や生涯発達における課題などを統計的な調査などを確認し、理解する。保育における健康が世界的にどのような状況であるか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P203～216 第１５回　全体の振り返り 【key words】 「健康の重要性」「健康における子どもの発達」「健康における保育の環境構成」 【授業概要】 これまでの授業を振り返り、具体的に健康という領域における保育者の役割について理解する。保育において健康がどのような意味を持つのか重要性について理解する 【教科書ページ・参考文献】 P10～P216
受講生に関わる情報および受講のルール	【資料の取り扱いについて】 授業にて資料を配布した際、欠席者は次回の授業までに教員の下へとりにくることとする。 【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 積極的な発言、意欲的な取り組みを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（12：40～13：10）
評価方法	授業中の課題・提出物等30％、筆記試験70％を総合的に評価する
教科書	倉持清美：事例で学ぶ保育内容　領域「健康」改訂版：萌文書林2010
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2010 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 子育て支援センター、児童養護施設などにて勤務経験有り アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
白石　憲一・乾　明美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。 【到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身についているのかを自身で判断できる。
授業の概要	既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション
【key words】
社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会福祉士国家試験の出題傾向やレポートの作成方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
14頁～21頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉振興・試験センターのHPを調べる。

第２回　学習目標，学習計画の立案
【key words】
社会福祉士国家試験
【授業概要】
今後の学習目標や学習計画を立案し、グループワークで意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
14頁～352頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士国家試験関係の参考書を調べる。

第３回　本学の国家試験対策の体制について
【key words】
社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会福祉士国家試験委員会の担当教員を紹介し、さらに本学での国家試験対策の取り組みについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
14頁～352頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士国家試験の出題科目を確認する。

	第４回	読解力テストの実施 【key words】 読解力 【授業概要】 読解力テストの実施し、各自が自分の読解力について把握する。 【教科書ページ・参考文献】 各教科の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各教科の教科書を使って、文章を読む練習をする。
	第５回	「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説 【key words】 相談援助の理論と方法 【授業概要】 社会福祉士国家試験の事例問題で、読解力の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験 【課題・予習・復習・授業準備指示】 319頁
	第６回	社会理論と社会システム① 【key words】 社会理論と社会システム、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会理論と社会システムの過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 202頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第７回	社会理論と社会システム② 【key words】 社会理論と社会システム、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会理論と社会システムの過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 202頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第８回	相談援助の基盤と専門職① 【key words】 相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験 【授業概要】 相談援助の基盤と専門職の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 310頁～330頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第９回	相談援助の基盤と専門職② 【key words】 相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験 【授業概要】 相談援助の基盤と専門職の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 310頁～330頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第１０回	第１回　月例テスト 【key words】 社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職の月例テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 202頁～223頁、290頁～306頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会理論と社会システムと心理学理論と心理的支援の社会福祉士国家試験の過去問題を理解する。
	第１１回	人体の構造と機能及び疾病 【key words】 人体の構造と機能及び疾病、社会福祉士国家試験 【授業概要】 人体の構造と機能及び疾病の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 262頁～289頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第１２回	福祉行財政と福祉計画

	【key words】 福祉行財政と福祉計画、社会福祉士国家試験 【授業概要】 福祉行財政と福祉計画の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 174頁～192頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第１３回　第2回　月例テスト 【key words】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画、社会福祉士国家試験 【授業概要】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の月例テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 262頁～289頁、174頁～192頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の社会福祉士国家試験の過去問題を理解する。 第１４回　学習目標と学習計画の振り返り 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 これまでの学習を振り返り、今後の学習計画を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士国家試験関係の参考書を調べる。 第１５回　期末テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会理論と社会システム、心理学理論と心理的支援の、人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の期末テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画、社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職の社会福祉士国家試験の過去問題を理解する。
受講生に関わる情報および受講のルール	各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。 各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学 習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験またはレポート20%、月例テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。
教科書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（ 出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
乾　明美・大島　由之・岡野　康幸・巣立　佳宏・櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。 ③昌賢祭の研究発表や制作を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの年間計画、授業の受け方、履修届等の確認） 【key words】学長等の訓話・講話、年間計画、履修届　他学間との理解･交流　初年次教育」 【授業概要】①フレッシャーズキャンプで、４年後の目標〈個人・クラス〉、クラスの目標を話し合い、目標作りをし、発表する。 ②以後、定期的に４年後の目標〈個人・クラス〉、クラスの目標の達成度について、話し合う。 【教科書ページ・参考文献】フレッシャーズキャンプのしおり 【課題・予習・復習・授業準備指示】31年度前後期の授業計画を確認し、提出日には必ず履修届を出すこと。また、手帳に自己の時間割をメモしておくことを指示。
	第２回	心身の健康プログラム①－生活の充実についてⅠ（防犯講座）：短大と合同 【key words】防犯、ネット被害 【授業概要】①生活安全、ネット犯罪・被害について、講話を聞く。（全体） ②男子と女子に分かれ、必要な防犯講話を聞く。 ③本時の学習をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】群馬県警作成のＤＶＤやパンフレットを教科書とする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】群馬県警からいただいたパンフレットや資料を読んでおくことを指示。
	第３回	心身の健康プログラム②－生活の充実についてⅡ（親睦スポーツ大会の準備） 【key words】　スポーツ　友情　仲間つくり　健康 【授業概要】①体育イベント委員が中心となり、ネットはり等の準備・片づけを行う。 ②親睦スポーツ大会の出場種目を練習する。 ③チーム内で作戦を考え、優勝めざし練習に励む。 【教科書ページ・参考文献】親睦スポーツ大会のパンフレット・ルール 【課題・予習・復習・授業準備指示】親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくことを指示。
	第４回	心身の健康プログラム③－生活の充実についてⅢ（親睦スポーツ大会）

【key words】　親睦スポーツ大会
【授業概要】①ぐんま総合スポーツセンターを会場に、全学親睦スポーツ大会で活動する。
②チーム内で作戦を考え、優勝めざし練習に励む。
③クラスや専攻、他学間の友人ともスポーツを通じて友情を育む。
【教科書ページ・参考文献】親睦スポーツ大会のパンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】スポーツを通じて、全学での仲間意識と友情を育む。親睦スポーツ大会のQRアンケートを通じて振り返りシートを作成しておく。

第５回　建学の精神と実践教育プログラム②－生活を科学するⅠ（雑巾作成、タオル、糸と針、はさみ用意）
【key words】　雑巾縫い、少年に日、家庭の日標語作成
【授業概要】①ミシン縫いと手縫いの違いについて理解する。
②実際に雑巾を縫う。特に、針や糸、はさみの準備・後始末について、きちんと行い安全に作業ができるよう配慮する。③少年に日、家庭の日標語作成
【教科書ページ・参考文献】「ミシン縫いと手縫いの違い」プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】雑巾縫い・標語作成が終わっていない場合は、締め切り期日までにしあげ、提出するよう指示。

第６回　心身の健康プログラム④生活の充実についてⅣ（対人関係に関する講話）：短大と合同
【Key　words】対人関係、協力、思いやり（講師：植原先生）
【授業概要】①対人関係の意義や友人関係の大切さを知り、学生生活の充実とともに不安の解消、自己実現について考えることができる。②社会の構成員として、人との交流や連携･協力について理解することができる。③友人の心が理解することができる、幅広い寛容な心を持つことができる。
【教科書ページ･参考文献】演習ファイル、講師のデジュメ
【課題･予習･復習・授業準備指示】講話のデジュメは、演習ファイルに綴じ込んでおくことを指示。

第７回　進路・資格取得プログラム②（基礎学力確認試験：自己能力を知る）
【key words】日本語力、数理能力、一般常識
【授業概要】①ＩＲ室で準備した基礎学力確認試験を実施。自己の学習課題を確認する。。
②自己課題に則り、自主学習をする。
【教科書ページ・参考文献】ＩＲ室と連携した基礎学力の点検とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】日本語や数理能力の復習とする。

第８回　学士力育成プログラム①（レポート作成Ⅰ、図書館の利用の仕方）
【key words】図書館、蔵書検索、レポートの書き方
【授業概要】①図書館職員を招き、「図書館の利用の仕方」の話しを伺う。
②蔵書検索に関しては、実際にＰＰ画面を見ながら学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】図書館職員の方が持参した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】図書館職員の方からいただいた資料を熟読し、積極的に本を借りるよう指示。

第９回　学視力育成プログラム②（情報の取り扱い方、情報を分析し利用する）
【key words】情報モラル、情報分析
【授業概要】①収集した情報を適切に管理するために必要な情報モラルを身につける②収集した情報をＩＣＴを利用して分析・評価をする。③検索・並び替え機能を利用して、利用しやすい資料作成法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】『知へのステップ第５版』（2019版、学習技術研究会　著書、くろしお出版　発行）
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストの第６・７章を読んでおくこと

第１０回　学士力育成プログラム③（レポート作成Ⅱ、レポートの書き方）：講師　岡野先生
【key words】レポートの書き方、作文・感想文との違い、情報をまとめる
【授業概要】①レポートと作文の相違を実例を通じて学ぶ②レポート執筆スケジュールに基づき執筆を始める。③パソコンを利用してレポートを推敲する。④ＩＣＴを活用してグループで情報の共有化を図る。（お互いにどのようなものに興味を持っているのかを共有化するため）
【教科書ページ・参考文献】『知へのステップ第５版』（2019版、学習技術研究会　著書、くろしお出版　発行）
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストの第６・７・８・９章を熟読して、レポートを推敲させる。

第１１回　学士力育成プログラム④（レポート作成Ⅲ：レポートの構成、執筆）
【key　words】レポートの構成、執筆
【授業概要】①『知へのステップ』を活用し、レポートの書き方の講義を受ける。大きなテーマの例「福祉と教育」②書きたいテーマを考え、構想を練る。
【教科書ページ、参考文献】『知へのステップ第5版』の第８・９章。
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストの熟読を行う。

第１２回　学士力育成プログラム⑤（レポート作成Ⅳ：レポー推敲と完成）
【key　words】レポートの推敲と完成
【授業概要】①『知へのステップ』を活用し、レポートの構成、執筆をする。大きなテーマ：「福祉と教育」②文章の推敲を行い、完成させる。
【教科書ページ、参考文献】『知へのステップ第５４版』の題８・９章
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストを熟読して最終推敲とまとめを自己点検する。

第１３回　地域貢献プログラム②地域とのかかわりⅠ（昌賢祭のテーマ設定）
【key　words】昌賢祭　制作・発表
【授業概要】①昌賢祭の意義、今までの学生による作成・発表について知る。②クラス、専攻で昌賢祭のテーマ、作成、発表内容を夏季休業中の課題として話し合う。③昌賢祭実行委員が主体になって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習授業・準備指示】夏季休業中の課題をきちんとやっておくことを指示。

第１４回　地域貢献プログラム③地域とのかかわりⅡ（昌賢祭のテーマ設定、夏季休業中にすべきこと）
【key　words】昌賢祭　制作・発表
【授業概要】※授業最初に、教務課職員から「前期定期試験の説明」を受けてから、各クラス・専攻に分かれる。
①クラスまたは専攻で、昌賢祭のテーマ、発表内容、夏季休業中の課題について話し合う。②昌

賢祭実行委員が主体になって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】夏季休業中の課題をきちんとやっておくことを指示。

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③前期総括（演習ファイルの整理、授業アンケート、夏季休業中の留意事項）
【key　words】前期総括　演習ファイル整理、授業アンケート　学生生活　環境美化活動
【授業概要】①演習ファイルの前期総括を記入する。②本授業の評価アンケートを行う。③環境美化活動を念入りに行う。
【教科書ページ・参考文献】演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】教員が演習ファイルを確認して、後期の演習課題を見つけるよう指示。

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④（学長訓話・学部長講話、後期の計画）
【key words】　学長等の訓話・講話
【授業概要】①学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学１年目の後期を意欲的にスタートする。
②後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】演習ファイル資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】演習ファイルの整理及びキャリアデザインノートの記入をしておく。

第１７回　地域貢献プログラム④地域とのかかわりⅢ（昌賢祭：各研究班　調査資料収集）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】クラスで討議した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、早目にやっておくよう指示。

第１８回　地域貢献プログラム⑤地域とのかかわりⅣ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、早目にやっておくよう指示。

第１９回　地域貢献プログラム⑥地域とのかかわりⅤ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、早目にやっておくよう指示。

第２０回　地域貢献プログラム⑦地域とのかかわりⅥ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、早目にやっておくよう指示。

第２１回　地域貢献プログラム⑧地域とのかかわりⅦ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、早目にやっておくよう指示。

第２２回　地域貢献プログラム⑨地域とのかかわりⅧ（昌賢祭当日　総括・発表）
【key words】　昌賢祭、制作・発表
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表を行う。
②昌賢祭委員と学生全員が主体となって発表する。
【教科書ページ・参考文献】今までの研究成果のまとめ資を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表について、来学された方のアンケートをまとめておくことを指示。

第２３回　地域貢献プログラム⑩地域とのかかわりⅨ（昌賢祭：振り返り）
【key words】　昌賢祭、制作・発表のまとめ
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭のまとめをおこなう。
②昌賢祭の振り返りシートを各自まとめ、各グループ毎に話し合う。③各グループ毎に全体会でその成果と課題等を発表する。
【教科書ページ・参考文献】振り返りシートを教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表成果について、きちんとまとめておくことを指示。

第２４回　心身の健康プログラム⑤－生活の充実についてⅤ（メンタルヘルスの維持促進）
【key words】　健康　こころ　精神衛生
【授業概要】①専門職教員を講師に招き、学生時代のメンタルヘルスについて講話をおこなう。
②名至るヘルスの大切さを理解し、不安の解消、自己実現に向けて考えることができる。③学生時代を充実した生活を送ることができるよう考えることができる。
【教科書ページ・参考文献】講師の配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】講師から配布された資料を熟読するよう指示。

第２５回　進路・資格取得プログラム③（学研　一般常識試験対策　就職常識試験）
【key words】日本語力、一般常識
【授業概要】①約60分間の一般常識試験に取り組む。②事後、自己採点をおこない、自己の長所、短所を把握しておく。③後日、各個人に成績、学習アドバイスが送付されるので、再度学習

	計画をたて、教養の向上意識を高める。 【教科書ページ・参考文献】試験問題等を教科書とする。 【課題･予習･復習・授業準備指示】試験に出された問題と自己点検内容をまとめておく。 第２６回　心身の健康プログラム⑥－生活の充実についてⅥ（消費者被害防止教育） 【key words】　消費者被害防止教育 【授業概要】①消費者被害防止について理解する。（群馬県消費生活課消費生活センター　講師） 【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする 【課題・予習・復習・授業準備指示】講師持参資料を熟読しておく。 第２７回　進路・資格取得プログラム④（四年生講話） 【key words】　４年生講話 【授業概要】①就職の決まった４年生をコースごとに招き、全体への講話、コース分科会での質疑応答を行う。 ②もっと聞きたい場合は、先輩とコンタクトを取り、話を聞くようにする。 ③２月中旬から３月中旬の三者面談も参考にし、自己の将来を考えるようにする。 ①各コースごとに４年生、約８名を招へいし、全体への講話を聞く。 ②専攻毎の分科会に分かれ、全体会より一層具体的な講話を聞く。 【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】演習ファイルを整理しておくよう指示。 第２８回　建学の精神と実践教育プログラム⑤（環境美化活動、クラス活動の振り返り） 【key words】　環境美化活動、委員活動 【授業概要】①１年間の環境美化活動と委員活動を省察する。 ②①の省察を基に、意見交流を図る。 【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする。 環境美化ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】演習ファイルを整理しておく。 第２９回　心身の健康プログラム⑦－生活の充実についてⅦ（デートＤＶ防止教育） 【key words】　ハラスメント、デートＤＶ 【授業概要】①デートＤＶについてパワーポイントを見ながら理解する。 ②代表学生によるロールプレイングを行う。 【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする 【課題・予習・復習・授業準備指示】いただいたデートＤＶに関する資料を熟読しておくよう指示。 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑥（後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動） 【key words】　後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動 【授業概要】①演習ファイルの総括頁、そのた該当ページを記入する。 ②本授業の評価アンケートを行う。 ③環境美化活動を念入りに行う。 【教科書ページ・参考文献】演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】教員が演習ファイルに書いたコメントを見て、２年次の演習の課題を見つけるよう指示。
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　基礎演習Ｉで使用した資料は、必ず基礎演習Ｉファイルに綴じておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	図書館・インターネット・ＩＣＴ（情報通信技術）の利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	基礎演習Ｉへの取り組み（５０%）、ワークシート（３０%）、基礎演習Ｉファイルの整理（２０％）を総合して評価する。
教科書	鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳〈〉中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年
参考書	その他、講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校教職経験者（幼稚園、小中高教職経験）、社会福祉関係（保育園、臨床心理士、社会福祉士、福祉行政）等社会福祉、子ども分野に経験豊富な教員団で構成して指導に当たっている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会調査の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択
担当教員			
大野　俊和・白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 社会福祉士受験のための知識習得を目的とする。 〔到達目標〕 社会調査の基本的な手続き・技法を理解・習得する。 量的調査・質的調査についての知識を得る。 調査における倫理について理解する。
授業の概要	本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。 講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポート作成方法についての解説がなされることになる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　授業ガイダンス　イントロダクション・社会調査の意義と目的 【key words】 社会調査 【授業概要】 社会調査の意義について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～188頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ブースによるロンドン調査を調べる。 第２回　社会調査の対象 【key words】 社会調査 【授業概要】 社会調査の意義について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～188頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ブースによるロンドン調査を調べる。 第３回　社会調査における倫理および個人情報保護 【key words】 研究倫理 【授業概要】 社会調査における研究倫理と個人情報保護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 158頁～164頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究倫理について調べる。 第４回　量的調査の方法　全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査 【key words】 無作為抽出 【授業概要】

		無作為抽出の方法について、具体例に即して学習する。 【教科書ページ・参考文献】 56頁～60頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第５回	量的調査の方法　全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査 【key words】 平均値、中央値、最頻値 【授業概要】 平均値、中央値、最頻値の計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 76頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第６回	量的調査の方法　測定とそれに関わる留意点 【key words】 分散、標準偏差 【授業概要】 分散、標準偏差の計算方法について計算する。 【教科書ページ・参考文献】 86頁～91頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第７回	量的調査の方法　質問紙作成の留意点　調査票の配布と回収 【key words】 調査票の作成・配布・回収 【授業概要】 社会調査の特徴と種類について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 56頁～75頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 官公庁の調査票を調べる。
	第８回	実際のデータを用いた相関 【key words】 散布図、相関係数 【授業概要】 二変量データから散布図を作図し、さらに相関係数の計算方法を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 91頁～102頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第９回	実際のデータを用いた相関 【key words】 excel、関数 【授業概要】 excelで利用可能な関数について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 174頁～176頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 excelの関数を調べる。
	第１０回	実際のデータを用いた相関 【key words】 相関 【授業概要】 excelを用いて、相関を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 91頁～93頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 にexcelの相関の関数について調べる。
	第１１回	質的調査の方法　観察法　参与観察・非参与観察 【key words】 質的調査 【授業概要】 質的調査の特徴と種類、調査設計、調査手続きについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁～138頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第１２回	質的調査の方法　面接法　自由面接法、構造化面接法、半構造化面接法 【key words】 インタビュー、観察 【授業概要】 インタビューと観察の種類について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 125頁～129頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第１３回	質的調査における記録の方法と留意点　コード化の問題について 【key words】 KJ法

	【授業概要】 KJ法について、具体例に基づいて分析を行い、学習する。 【教科書ページ・参考文献】 141頁～156頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 KJ法について調べる。 第１４回　質的調査のデータ整理と分析 【key words】 グランデッドセオリー 【授業概要】 グランデッドセオリーの手法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 139頁～141頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グランデッドセオリーについて調べる。 第１５回　まとめ・到達テスト 【key words】 excel 【授業概要】 excelを用いたデータ分析の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 166頁～188頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PC室・LL教室での講義・実習が主体となる。 〔受講のルール〕 データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。 マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識（if関数等）を前もって習得しておくことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持ってくること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。
評価方法	コメント評価（20%）、レポートの提出（30%）、到達テスト（30%）、小テスト（20%）。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座 第5巻 社会調査の基礎　第3版. 中央法規 2010
参考書	向後 千春・冨永 敦子　統計学がわかる（ファーストブック）.　技術評論者（購入義務はない） 2007
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　韓国語Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 第２回　　ハングルの母音、出会いの挨拶 第３回　　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶 第４回　　ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話 第５回　　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話 第６回　　ハングルのパッチム、お願いの時の会話 第７回　　ハングルの二重パッチム、お休みの時の挨拶 第８回　　ハングルの発音の法則　弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化 第９回　　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記 第１０回　　パソコンでのハングルの入力の仕方 第１１回　　～は～ですの文型、自己紹介

	第１２回　　～は何ですか？の文型　指示代名詞 第１３回　　疑問詞を用いての分の表現　（いつ、どこ、なに、だれ） 第１４回　　ある、ない、分かる、分からないの表現 第１５回　　読み書きのまとめ、日常会話の復習
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　韓国語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と 日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。 【到達目標】 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2) 月・日・番号・値段が言える。 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　否定文の表現　　助詞～も 第２回　　指示代名詞　（事物・場所）　　身の回りの単語 第３回　　家族の呼び名　助詞～の 第４回　　この～は誰の物ですかの文型 第５回　　位置関係の言葉 第６回　　何処に～がありますの文型　助詞～が　（主格助詞） 第７回　　助詞～に　（場所）、～と　（並列・羅列） 第８回　　動詞、形容詞の会話体　（です、ます）　の活用　助詞～を　（目的格） 第９回　　～で～をしますの文型　助詞～で 第１０回　　体の名称の単語　主要副詞語 第１１回　　時を表す言葉　疑問を表す言葉

	第１２回　　映像で学ぶハングル 第１３回　　尊敬型の活用　曜日 第１４回　　リウル変則用言、助詞～しに 第１５回　　まとめ　（助詞　活用　変則活用の復習）
受講生に関わる情報および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『 韓国語へ旅しよう （初級） 』　朝日出版社
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　ボランティア活動の企画及び実践を通して、対人支援の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。また、各種資格取得に伴う実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。 【到達目標】 グループで地域ボランティアの企画及び実践、考察を踏まえた報告を遂行できる。 地域ボランティアのグループ活動で個々人の役割を全うできる。 グループで行った活動について振り返り、個々人の今後の学習課題を明確化し、言語化できる。 継続ボランティア等で実践した内容について振り返り、得られた成果や今後の学習課題について言語化できる。
授業の概要	ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、地域を基盤とするボランティア活動の企画、実践を行う。また、後期には、それらの実践の振り返りを行った後、報告会を実施する。また、受講者個々人が実践した継続ボランティア等についても報告会を実施し、それぞれのボランティア活動で得られた成果や今後の学習課題の明確化を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション 【授業概要】前期の授業の進め方などについて説明を行う 【keywords】ボランティア活動の意義・目的、授業の進行スケジュール、評価方法 【教科書ページ・参考文献】シラバス、ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】シラバス、ボランティア活動ハンドブックを一読してから受講すること 第２回　前橋市職員による前橋・渋川シティマラソンのボランティア説明会 【授業概要】前橋・渋川シティマラソンのボランティアに関する理解を深める 【keywords】前橋・渋川シティマラソン、協働、挨拶 【教科書ページ・参考文献】前橋・渋川マラソンボランティアの資料、ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】前橋市職員の方から配布された資料を熟読し、当日に臨む。 第３回　NPOの活動の紹介 【授業概要】実際に活動しているNPOの活動について理解を深める 【keywords】特定非営利活動法人、ボランティア 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】特に指定しないが、県内で行っているNPOやNGOについて調べておくことが望ましい 第４回　前橋・渋川シティマラソンの振り返り 【授業概要】前橋・渋川シティマラソンの振り返りを行う 【keywords】前橋・渋川シティマラソンの振り返り 【教科書ページ・参考文献】前橋・渋川マラソンボランティアの資料、ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】当日の役割別に分かれ、振り返りを行う。そのため、各グループで事前に簡単な振り返りを行ってから受講することが望ましい

	第５回	前橋七夕祭りの説明 【授業概要】前橋で行われる七夕祭りの様子について理解を深める 【keywords】前橋七夕祭り、 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第６回	前橋七夕祭りの活動計画の検討① 【授業概要】実際に来客される対象者像を想起し、発達段階等に応じたプログラムを考える 【keywords】発達段階、レクリエーション 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第７回	前橋七夕祭りの活動計画の検討② 【授業概要】対象年齢などを絞った上で安全性などを考えたうえで、妥当な企画内容を選定する 【keywords】ヒヤリハット、子どもの動線 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第８回	前橋七夕祭りの活動準備① 【授業概要】七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、制作活動を行う 【keywords】七夕祭り、歴史、文化 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第９回	前橋七夕祭りの活動準備② 【授業概要】七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【keywords】七夕祭り、歴史、文化 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１０回	前橋七夕祭りの活動準備③ 【授業概要】七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【keywords】地域福祉計画、子育て支援 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１１回	前橋七夕祭りの活動準備④ 【授業概要】七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【keywords】子育て支援、前橋七夕祭り 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１２回	前橋七夕祭りの活動準備⑤（リハーサル） 【授業概要】企画のリハーサルを通して、当日の流れや安全面の課題について確認を行う 【keywords】マニュアル、チェックリスト、経費清算書 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１３回	会場への搬入および飾り付け 【授業概要】荷物の搬入や飾り付けを行う 【keywords】ヒヤリハット、インシデント、危機管理 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１４回	前橋七夕祭りの振り返りと報告会 【授業概要】七夕まつり企画の準備・企画中・企画後の課題について振り返りを行う 【keywords】PDCA、フィードバック 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】企画ごとに反省を行うため、事前にそれぞれの企画で簡単な振り返りを行うことが望ましい
	第１５回	前期の振り返り 【授業概要】前期の講義やボランティア活動について振り返りを行う 【keywords】ボランティアの意義 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】授業外に行ったボランティアの内容も含め振り返りを行う。後期の授業計画や実習志望先などと関連付け、自身の課題を十分に振り替えられるような状態を整えてから受講することが望ましい
	第１６回	後期オリエンテーション 【授業概要】後期の授業の進め方などについて説明を行う 【keywords】授業の進行スケジュール、ボランティア活動の意義・目的 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】シラバス、ボランティア活動ハンドブックを一読してから受講すること
	第１７回	ボランティア先の検討①（高齢、障害、児童など領域別に分類） 【授業概要】各グループに分かれ、ボランティア先の検討を行う 【keywords】市民活動、社会資源、地域福祉計画 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】大学近郊で行っているボランティアの情報などを事前に調べてから受講すること

	第１８回	ボランティア先の事前学習①(領域ごとにGW) 【授業概要】各グループに分かれ、ボランティア先の特性等について学ぶ 【keywords】ボランティアコーディネーター、ユニバーサルデザイン 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティア先の行っているサービスや利用者に関する事前情報を調べ、講義に資料を持ち込むことが望ましい
	第１９回	ボランティア先の事前学習②（領域ごとにGW） 【授業概要】各グループに分かれ、ボランティア先の特性等について学ぶ 【keywords】根拠法、サービス体系、対象者 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティア先の行っているサービスや利用者に関する事前情報を調べ、講義に資料を持ち込むことが望ましい
	第２０回	ボランティア先の事前学習③（計画立案、ボランティア先への依頼書作成など） 【授業概要】各グループに分かれ、ボランティア先へ依頼状の作成などを行う 【keywords】依頼状、ボランティア計画、差別的取扱い 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティア先の行っているサービスや利用者に関する事前情報を調べ、講義に資料を持ち込むことが望ましい
	第２１回	ボランティア先の事前学習③（計画立案、ボランティア先への依頼書作成など） 【授業概要】各グループに分かれ、ボランティアに関する計画書の作成などを行う 【keywords】エンパワーメント、QOL 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティア先の行っているサービスや利用者に関する事前情報を調べ、講義に資料を持ち込むことが望ましい
	第２２回	ボランティア先の下見・見学 【授業概要】実際に訪問するボランティア先の下見・見学を行う 【keywords】対人援助、バイスティックの７つの原則 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティア先への下見の依頼を行う。訪問の際には教員への相談を必ず行うこと。
	第２３回	ボランティア活動の準備① 【授業概要】グループ毎にボランティア活動に向けた準備を行う 【keywords】社会福祉協議会、デジタルディバイド 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第２４回	ボランティア活動の準備② 【授業概要】グループ毎にボランティア活動に向けた準備を行う 【keywords】ユニバーサルデザイン、PDCA、報告書 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第２５回	ボランティア活動の報告作成① 【授業概要】ボランティア活動の当日の様子、課題などについて報告を作成する 【keywords】アジェンダ、エビデンス、プレゼンテーション 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第２６回	ボランティア発表① 【授業概要】ボランティア活動の当日の様子、課題などについて報告を作成する 【keywords】アジェンダ、エビデンス、プレゼンテーション 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第２７回	ボランティア発表② 【授業概要】ボランティア活動の当日の様子、課題などについて報告を作成する 【keywords】アジェンダ、エビデンス、プレゼンテーション 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第２８回	ボランティア発表③ 【授業概要】グループ毎に当日の内容について発表を行う 【keywords】ボランティアの振り返り、コース内報告会 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと。資料の印刷などは教員の指示に従うこと。
	第２９回	１年間のボランティア体験の振り返り 【授業概要】１年間のボランティア体験の振り返りを行う 【keywords】ボランティアの振り返り 【教科書ページ・参考文献】ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】報告書の作成にあたっては、各グループで十分に計画を立てて取り組むこと。
	第３０回	まとめ 【授業概要】１年間のボランティア体験の振り返りを行う 【keywords】１年間の総括、発表 【教科書ページ・参考文献】発表資料、ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】授業外に行ったボランティアの内容も含め振り返りを行う。次年度に向け、自身の課題を十分に振り替えられるような状態を整えてから受講することが望ましい

受講生に関わる情報および受講のルール	グループ活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、それぞれの役割を全うすること。また、企画の各段階でワークシートの提出を指示する。成績評価にも含めるため期日を厳守すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実践する事。 ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事。 ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。 ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。 ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。
オフィスアワー	第１回オリエンテーションにて説明する。
評価方法	講義・演習への取り組み（ボランティア活動報告書を含む）（60%）、ボランティア報告会でのプレゼンテーション（40%）を総合的に評価する。評価の詳細はオリエンテーションにおいて説明する。
教科書	ボランティアハンドブック（鈴木利定　監修　／　足立勤一　他　編著）
参考書	適宜、授業中に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　ボランティア活動Ⅰで培った知識やコミュニケーション能力、ボランティア活動の経験を基礎とし、ボランティア活動の実践を行う。それらの体験を通して対人援助の方法や福祉サービスを担う人材としての心構えを身に付けることを目的とする。将来の自己実現に向けた目標を定め、その目標に向けた学生個々の課題を設定することを目指す。 本科目においてボランティア活動を実践することにより、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）幼稚園及び小学校の教育実習を遂行するための基礎となる知識や技術を習得することも期待できる。
授業の概要	ボランティア活動Ⅰを通して身に付けた知識やコミュニケーション能力を更に向上させるため、学生が主体となりボランティア活動の企画及び実践、それらの体験に基づく考察を一連の授業の中で行う。 本学では学内における机上の研究（知識）、ボランティア活動（精神・心構え）、実習（技術）というサイクルを通じて、優秀な福祉の人材を育成しようとしている。ボランティア活動では、学内で学ぶことのできないことを現場で学び、福祉に携わることへの心構え、また、人の心の機微「人間愛」を身に付けることを目的とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション key words】 授業の進行スケジュール 【授業概要】 前期の授業の進め方などについて説明を行う 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、ボランティア活動ハンドブックを一読してから受講すること 【アクティブラーニングについて】 第２回　前橋市職員よる前橋・渋川シティマラソンのボランティア説明会 【key words】 橋・渋川シティマラソン 【授業概要】 前橋・渋川シティマラソンのボランティアに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第３回　NPOの活動の紹介 【key words】 特定非営利活動法人、ボランティア 【授業概要】 実際に活動しているNPOの活動について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特に指定しないが、県内で行っているNPOやNGOについて調べておくことが望ましい

	第４回	前橋・渋川シティマラソンの振り返り 【key words】 前橋・渋川シティマラソン 【授業概要】 前橋・渋川シティマラソンの振り返りを行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 当日の役割別に分かれ、振り返りを行う。そのため、各グループで事前に簡単な振り返りを行ってから受講することが望ましい
	第５回	前橋七夕祭りの説明 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 前橋で行われる七夕祭りの様子について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第６回	前橋七夕祭りの活動計画の検討① 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 実際に来客される対象者像を想起し、発達段階等に応じたプログラムを考える 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第７回	前橋七夕祭りの活動計画の検討② 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 対象年齢などを絞った上で安全性などを考えたうえで、妥当な企画内容を選定する 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第８回	前橋七夕祭りの活動準備① 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第９回	前橋七夕祭りの活動準備② 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１０回	前橋七夕祭りの活動準備③ 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１１回	前橋七夕祭りの活動準備④ 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 七夕祭りの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１２回	前橋七夕祭りの活動準備⑤（リハーサル） 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 企画のリハーサルを通して、当日の流れや安全面の課題について確認を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと

	第１３回	会場への搬入および飾り付け 【key words】 前橋七夕祭り 【授業概要】 荷物の搬入や飾り付けを行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと
	第１４回	前橋七夕祭りの振り返りと報告会 【key words】 事前準備・ヒヤリハット 【授業概要】 七夕まつり企画の準備・企画中・企画後の課題について振り返りを行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 企画ごとに反省を行うため、事前にそれぞれの企画で簡単な振り返りを行うことが望ましい
	第１５回	前期の振り返り 【key words】 気持ちを込めたボランティア 【授業概要】 前期の講義やボランティア活動について振り返りを行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業外に行ったボランティアの内容も含め振り返りを行う。後期の授業計画や実習志望先などと関連付け、自身の課題を十分に振り替えられるような状態を整えてから受講することが望ましい
	第１６回	後期オリエンテーション（後期の流れ） 【key words】 授業の進行スケジュール 【授業概要】 後期の授業の進め方などについて説明を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、ボランティア活動ハンドブックを一読してから受講すること
	第１７回	前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの説明会 【key words】 子育て支援 【授業概要】 前年度の「前橋こども図書館での子育て支援」を参考にする 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第１８回	前橋こども図書館での子育て支援ボランティア活動計画の検討① 【key words】 子育て支援 【授業概要】 実際に来客される対象者像を想起し、発達段階等に応じたプログラムを考える 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第１９回	前橋あそか会職員による、あそか祭りボランティアの説明会 【key words】 あそか会 【授業概要】 前橋あそか会職員による、あそか祭りボランティアの説明を聞く 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第２０回	車いすの基本を復習（アリーナ） 【key words】 車いす 【授業概要】 介護の先生方に車いすの基本を教えてもらい、あそか会当日に活用出来るようにする 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 留意点や注意事項など忘れないようにまとめておく
	第２１回	あそか祭りボランティアの振り返りと報告会 【key words】 あそか会 【授業概要】 あそか祭りでの振り返りをし、反省点や改善点、良かったことや学べたことなどをグループで話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前にそれぞれ簡単な振り返りをしておくことが望ましい
	第２２回	前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの活動計画の検討② 【key words】

	子育て支援 【授業概要】 対象年齢などを絞った上で安全性などを考えたうえで、妥当な企画内容を選定する 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで毎週の作業の計画を立て、きちんと取り組むこと 第２３回　前橋こども図書館の下見、見学 【key words】 子育て支援 【授業概要】 実際に行う場所の下見、見学をすることで、当日の流れをイメージする。 安全性や配慮点、工夫が必要なことなど書き出してみる。 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２４回　前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの活動準備① 【key words】 子育て支援 【授業概要】 前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２５回　前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの活動準備② 【key words】 子育て支援 【授業概要】 前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２６回　前橋こども図書館」での子育て支援ボランティアの活動準備③ 【key words】 子育て支援 【授業概要】 前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの意義に対する理解を深めつつ、製作活動を行う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２７回　前橋こども図書館での子育て支援ボランティア活動の実践（土か日） 【key words】 子育て支援 【授業概要】 来場した子どもが楽しめ、保護者が安心して子どもを見守っていられる空間を提供する 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 十分な準備をし、時間厳守で臨む 第２８回　前橋こども図書館での子育て支援ボランティアの振り返り、報告会 【key words】 子育て支援 【授業概要】 前橋こども図書館での子育て支援ボランティアでの振り返りをし、反省点や改善点、良かったことや学べたことなどをグループで話し合う 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２９回　1年間のまとめ（活動報告書・礼状送付　ほか） 【key words】 礼状 【授業概要】 グループ毎に活動報告書・礼状を作成する 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成にあたっては、各グループで十分に計画を立てて取り組むこと 第３０回　社会福祉専攻と子ども専攻の後期の取り組み発表会 【key words】 【授業概要】 後期のボランティア活動で行ってきた活動について発表する 【教科書ページ・参考文献】 ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	①実習に準じ、責任を持って活動を行う。 ②継続ボランティア、依頼ボランティア等、総合的に活動すること。 ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。 ④ボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	保育や子育て支援に関することに常に留意すること。 保育実技に関する知識・技術を高めておくこと。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	講義への取り組む姿勢（30%）前期ボランティア・後期ボランティアに関するレポート（20%）継続・依頼ボランティアの活動報告書（50%）等を総合して評価する。
教科書	ボランティアハンドブック（鈴木利定　監修　／　足立勤一　他　編著）
参考書	講義内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園や小学校での、行事や奉仕活動などを行ってきた現場経験を活かし、学生にボランティア活動の基本を講じている。子ども向けの遊びや製作活動など、年齢を考慮した活動のアドバイスを行っている。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助実習指導Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習の意義について理解する。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 【到達目標】 ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。 ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。 ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。 ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。
授業の概要	相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業方法及び留意事項　相談援助実習資格試験について 【Key Word】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックを購入読んでおく
	第２回	相談援助実習の意義と目的の理解 【Key Word】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 なぜ社会福祉実習に行くのかを考えてくる。
	第３回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解（社会福祉士に求められる職業倫理）

【Key Word】
実習教育の流れ　倫理綱領　行動規範

【授業概要】
実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。相談援助実習の留意事項を解説する。社会福祉士の倫理綱領を読み、社会福祉士が守らなければならないことを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。

第４回　実習先機関・施設の理解（行政機関）

【Key Word】
実習が行なえる施設・機関　実習前学習

【授業概要】
事前学習の課題を整理し、事前学習のグループ分けを行い、グループ学習を行い発表の準備を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
福祉の行政機関の業務内容を調べてくる。

第５回　実習先機関・施設の理解（行政機関）

【Key Word】
福祉事務所　児童相談所

【授業概要】
行政関係施設①福祉事務所、②児童相談所に関するグループ学習の内容を発表する。

【教科書ページ・参考資料】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉協議会、地域包括支援センターについて疑問点や不明点をまとめる。

第６回　実習先機関・施設の理解（社会福祉協議会、地域包括支援センター）

【Key Word】
社会福祉協議会　地域包括支援センター

【授業概要】
市町村社会福祉協議会、地域包括支援センターに関するグループ学習の内容を発表する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
高齢者施設の種別と業務内容について調べてくる。

第７回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）

【Key Word】
高齢者者施設・事業

【授業概要】
高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要等調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。
事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
高齢者施設についての疑問点や不明点をまとめる。

第８回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）

【Key Word】
高齢者関係施設

【授業概要】
高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要、グループ学習で調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童福祉施設の種別と業務内容について調べてくる。

第９回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）

【Key Word】
児童福祉施設

【授業概要】
児童福祉施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童福祉施設についての疑問点や不明点をまとめる

第１０回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【Key Word】
児童福祉施設

【授業概要】
児童関係施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習内容の発表を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者関係施設の種別と業務内容について調べてくる。

第１１回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設）
【Key Word】
障害者施設・事業

【授業概要】
事前学習の課題を整理し、障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループ学習を行い発表の準備を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者関係施設についての疑問点や不明点をまとめる。

第１２回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設、医療福祉関連施設）
【Key Word】
障害者施設・事業

【授業概要】
障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループで調べた内容を発表する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
病院や更正保護施設について調べてくる。

第１３回　実習先機関・施設の理解（その他の機関・施設）
【Key Word】
病院　更正保護　独立社会福祉士

【授業概要】
病院、更生保護施設、独立型社会福祉士に関するグループ学習の内容を発表する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまで調べた内容と発表を振り返る。実習先希望調査を記入してくる。

第１４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【Key Word】
事前学習　関係法令・制度　社会資源

【授業概要】
社会福祉援助実習を行なうまでに事前学習をしておく必要性を理解する。
事前学習の内容を理解する。

【教科書ページ】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習の意義について考える。

第１５回　実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）　相談援助実習資格試験
【Key Word】
実習までの流れ

	【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでの流れについて理解する。 実習開始までに準備をしておく内容について理解する。 【教科書ページ】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉相談援助実習の意義についてもう一度考える。
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。 ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格履修試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。 ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等を基本を養う。 【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。 ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。 ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。 ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによるり実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【Key Word】 講義の進め方 【授業概要】 相談援助演習Ⅰの振り返り 相談援助演習Ⅱの流れと受講時のルール確認 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習Ⅰで行ったものを復習しておく。 第２回　ソーシャルワークの価値と倫理　倫理綱領 【Key Word】 傾聴　価値と倫理 【授業概要】 物語を読み、個人の考えをまとめた後グループになり話し合いを行う。まとまった意見を発表し、共感・受容、価値観の違いなどについて、ソーシャルワーカーとして利用者をどのように捉えることが重要になるのかを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。
	第３回	ソーシャルワークの価値と倫理　行動規範 【Key Word】 社会福祉士の倫理綱領　行動規範 【授業概要】 社会福祉士の倫理綱領を読み、自分自身が考える社会福祉士の価値を理解する。 グループになり専門職の倫理を考える、日本社会福祉士会の「倫理綱領」と比較し、社会福祉士としての「倫理綱領」とは何かを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範を読んで重要だと思う部分をまとめる。
	第４回	ソーシャルワーク実践　面接技法 面接の目的 【Key Word】 インテーク面接　非言語的コミュニケーション 【授業概要】 社会福祉士として行う面接とはどのようなものかビデオを見て考え、ワークシートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士が行う面接はどのようなものかを考えてくる。
	第５回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接に入る心構え 【Key Word】 構造化面接　SOLER 【授業概要】 面接に対する利用者の気持ちを理解する演習を行い、社会福祉士として面接を行う時の心構えと環境設定についてグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 インテーク面接の目的と意義について考えてくる。
	第６回	ソーシャルワーク実践　面接技法　インテーク面接 【Key Word】 インテーク面接　主訴　傾聴 【授業概要】 初めて会う社会福祉士に対する利用者の気持ちをグループで話し合う。利用者の気持ちを尊重した面接とはどのようなものか演習を行う。 インテーク面接の目的について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 傾聴と聞くの違いについて考えてくる
	第７回	ソーシャルワーク実践　面接技法　傾聴の方法 Key Word】 姿勢　態度　距離 【授業概要】 面接場面における非言語的コミュニケーションの重要性を知り、ソーシャルワーカーとして、姿勢・態度・距離などが利用者の話を促進させたり、逆に阻害させる要因になることを考えながら演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接のロールプレイを行うため社会福祉士の技法と利用者の気持ちをまとめておく。
	第８回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接の具体的技法 【Key Word】 ロールプレイ　面接技法 【授業概要】 三人一組になり、作成したシナリオに沿ってロールプレイを行なう。実際に行なって振り返りをグループと全体で行なう。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】

ロールプレイの振り返りをまとめる。

第９回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の意義と目的

【Key Word】
面接　記録

【授業概要】
　前回の振り返りを行い、面接とは何かを考える。その時のワーカーとしての心構えや使用する技術等についてまとめる。
　面接や支援を行なった結果を記録として残す目的を講義する。

【教科書ページ・参考文献】
P65～P75

【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録の種類について教科書を読んでくる。

第１０回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の種類

【Key Word】
逐語記録　要約記録　説明体記録

【授業概要】
記録の種類について講義を行い、それぞれがどのように記録をする時に使用されるのかを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P65～P75

【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録技法の事例を読んでくる。

第１１回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の内容と方法

【Key Word】
逐語記録　要約記録　説明体記録

【授業概要】
社会福祉士が記録に使用する用紙の説明を行う。説明を聞き、読んできた事例を面接用紙、アセスメント用紙にまとめる。
グループワークを行い読みやすい内容にするためにはどのようにすれば良いのか検討する。

【教科書ページ・参考文献】
P65～P75

【課題・予習・復習・授業準備指示】
書いた記録を書き直してくる。

第１２回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録における留意点

【Key Word】
逐語記録　要約記録　説明体記録

【授業概要】
前回の記録を使用し、読みやすい内容に改善する。
記録技法のまとめの講義を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P65～P75

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワークについて教科書を読んでくる。

第１３回　ケースワークの展開過程　ケースワーク

【Key Word】
ケースワークの展開過程　インテーク　アセスメント　プランニング

【授業概要】
ケースワークの展開過程の講義を行い、各段階を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。

第１４回　ケースワークの展開過程　ケースワーク

【Key Word】
モニタリング　評価　面接技法　記録技法

【授業概要】
展開過程の続きを講義し理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。事例を読んでくる。

第１５回　ケースワークの展開過程　ケースワーク

【Key Word】
アセスメント　情報収集・分析　アセスメント時の留意点

【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントではどのような情報を収集するのかを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94

【課題・予習・復習・授業準備指示】
プランニングの留意点について教科書を読んで、事例のプランニングを考えてくる。

第１６回　ケースワークの展開過程　ケースワーク

【Key Word】
プランニング　長期目標　短期目標　数値化

【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントした情報からプランニングを行う。
自分で考えてきたプランニングをグループで話し合い、援内容を具体的に考える。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94

【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの留意点について教科書を読んでくる。

第１７回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【Key Word】
グループダイナミクス　社会福祉士の役割

【授業概要】
グループワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、グループワークについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100

【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの展開過程について教科書を読んでくる。

第１８回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【Key Word】
準備期　開始期　作業期　終結

【授業概要】
グループワークの事例を読み、社会福祉士の役割と留意点を理解し、グループで、どのようにグループワークを進めていくのか検討を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。

第１９回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【Key Word】
準備期　開始期　作業期　終結

【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークについて教科書を読んでくる。

第２０回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク

【Key Word】
コミュニティワーク　ニーズ把握　地域計画　社会福祉士の役割

【授業概要】
コミュニティワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、コミュニティワークについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークの展開過程について教科書を読んでくる。

第２１回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク

【Key Word】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
コミュニティワークの事例を読み、コミュニティの役割と留意点を理解し、グループで、どのようにコミュニティワークを進めていくのか検討を行う。

【
教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。

第２２回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク

【Key Word】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについてまとめる。

第２３回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　治療モデル・環境モデル・生活モデル

【Key Word】
治療モデル　生活モデル

【授業概要】
事例を使用し、治療モデルと生活モデルのアセスメントやプランニングに違いについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
治療モデル　生活モデルの事例

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ストレングスモデルについて復習してくる。

第２４回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　ストレングスモデル

【Key Word】
ストレングスモデル　リフレーミング

【授業概要】
事例を使用し、ストレングスモデルでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
ストレングスモデルの事例

【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理社会的アプローチについて復習してくる。

第２５回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　心理社会的アプローチ

【Key Word】
社会心理的アプローチ　状況の中の人

【授業概要】
事例を使用し、社会心理的アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
心理社会的アプローチの事例

【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題解決アプローチについて復習してくる。

第２６回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　問題解決アプローチ

【Key Word】
問題解決アプローチ　4つのP

【授業概要】
事例を使用し、問題解決アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
問題解決アプローチの事例

【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機介入アプローチについて復習してくる。

第２７回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　危機介入アプローチ

【Key Word】
危機介入アプローチ　死の受容過程

	【授業概要】 事例を使用し、危機介入アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 危機介入アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動変容アプローチについて復習してくる。 第２８回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　行動変容アプローチ 【Key Word】 行動変容アプローチ　モデリング　オペラント条件付け 【授業概要】 事例を使用し、行動変容アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 行動変容アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 エンパワメントアプローチについて復習してくる。 第２９回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　エンパワメントアプローチ 【Key Word】 エンパワメントアプローチ　ストレングス　パワーレス 【授業概要】 事例を使用し、エンパワメントアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 エンパワメントアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族システム論アプローチについて復習してくる。 第３０回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　家族システム論 【Key Word】 家族システム　家族の相互作用 【授業概要】 事例を使用し、家族システムアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 家族システムアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれのアプローチ法についてまとめておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 　相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得すること
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会保障　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 １人ひとりが自らの責任と努力によって生活を営んでいますが、社会保障制度は、セーフティネットの機能を持っており、私たちの生活を生涯に渡って支え、基本的な安全・安心を与えている。社会保障制度について理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の用語及び歴史的理解。 ２．社会保障制度の目的・体系の理解。 ３．社会福祉及び国民生活への政策の理解。
授業の概要	まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士の社会保障の過去問を中心に、具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の目的・役割・課題について学習することも試みる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①社会保障の用語及び歴史的理解	◎		○	
②社会保障制度の目的・体系の理解				○
③社会福祉及び国民生活への政策の理解	◎	○		
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション、私たちの生活と社会保障

【授業概要】
社会福祉士国家試験出題基準及び精神保健福祉士国家試験出題基準における社会保障の位置づけを知る。また、社会保障の定義について知り、その概要について学習する。さらに、現代の社会保障における個人・政府・地方自治体及び社会福祉事業者の関わりについて知る。
【Key words】
社会保障、社会保障の体系、社会福祉事業者
【教科書ページ・参考文献】
p.ｉ～p.ix、社会福祉士国家試験出題基準、精神保健福祉士国家試験出題基準
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書の「はじめに」「目次」部分を参照して、今後の学習事項の概要を把握しておく。第1章第1節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。

第２回　社会保障の理念と機能

【授業概要】
社会保障と福祉国家の関係について理解する。また、日本国憲法及び基本的人権と社会保障の関係について理解する。さらに、社会保障全体についての目的及び機能について理解する。
【Key words】
福祉国家、日本国憲法第25条、社会保障の定義・目的
【教科書ページ・参考文献】
p.7～p.16
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第1章第2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。

第３回　社会保障の歴史

【授業概要】
社会保障がどのような経緯をたどって現在に至っているかを理解し、また社会保障制度の思想

		や哲学の知識や流れを全体的に把握する。 【Key words】 救貧法、社会保険法、恤救規則、救護法 【教科書ページ・参考文献】 p.17～p.40 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第2章を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。
	第４回	社会保障の構造 【授業概要】 社会保障の仕組みを役割や機能から体系的に理解する。また、社会保険の構造について整理し、その内容や特徴について理解する。さらに、社会扶助の構造について整理し、その内容や特徴について理解する。 【Key words】 社会保障制度の体系、社会保険、社会扶助、社会福祉 【教科書ページ・参考文献】 p.41～p.59 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第3章を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェックで質問された事項について、正解を調べておく。
	第５回	社会保障の財源と費用①社会保障の費用 【授業概要】 最新社会保障費用統計を見て、その特徴を理解する。また、部門別、機能別の社会保障給付費に関する統計を検討し、その特徴を理解する 【Key words】 社会保障費用統計、社会保障給付費、政策分野別・部門別・機能別社会保障給付費 【教科書ページ・参考文献】 p.62～p.68 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第4章第1節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェックで質問された事項について、正解を調べておく。
	第６回	社会保障の財源と費用②社会保障の財源・社会保障と経済 【授業概要】 社会保障の財源構成について理解する。まず、国及び地方の財政について、社会保障における役割を理解し、その上で、社会保障と国民経済の関係および国民負担率について現状を理解する。その上で、社会保障が経済活動にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。 【Key words】 社会保障関係費、国民経済、国民負担率 【教科書ページ・参考文献】 p.69～p.83 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第4章第2節・第3節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェックで質問された事項について、正解を調べておく。
	第７回	年金保険制度①公的年金制度の沿革と概要 【授業概要】 公的年金の概要について理解する。そのため、公的年金制度が現在の制度に至る過程について理解する。さらに、公的年金制度めぐる近年の改革について理解する。 【Key words】 国民皆年金体制、公的年金制度の沿革、社会保障・税一体改革 【教科書ページ・参考文献】 p.85～p.98 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第5章第1節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェックで質問された事項について、正解を調べておく。
	第８回	年金保険制度②国民年金 【授業概要】 国民年金の被保険者の種類について理解する。また、国民年金の3種類の給付について、要件、受給額、等を知る。さらに、国民年金に係る独自給付、上乗せ給付の制度を知る。 【Key words】 国民年金第1～3号被保険者、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金、付加年金、国民年金基金 【教科書ページ・参考文献】 p.99～p.107 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第5章第2節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック8で質問された事項について、正解を調べておく。
	第９回	年金保険制度③厚生年金保険、年金保険制度をめぐる最近の動向 【授業概要】 厚生年金の概要について理解する。また、厚生年金の3種類の給付について、要件、受給額、等を知る。 【Key words】 厚生年金適用事業所、老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金、厚生年金保険料率 【教科書ページ・参考文献】 p.108～p.116 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第5章第3節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック9で質問され

た事項について、正解を調べておく。

第１０回　年金制度④年金保険制度をめぐる最近の動向

【授業概要】
社会保障・税一体改革以来の年金制度をめぐる動向について理解する。そして、現在の年金制度に関する課題と今後の見通しについて知る。
【Key words】
社会保障制度改革国民会議、マクロ経済スライド、財政検証、所得代替率、厚生年金基金
【教科書ページ・参考文献】
p.117～p.124
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第5章第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック10で質問された事項について、正解を調べておく。

第１１回　医療保険①医療保険制度の沿革と概要

【授業概要】
医療保険制度がこれまでどのように形作られてきたかについて理解する。そして、医療保険制度の全体像について理解する。また、保険診療をめぐる利用者・医療機関・保険者の関係について理解する。
【Key words】
国民皆保険、高齢者の医療の確保に関する法律、被用者保険、地域保険
【教科書ページ・参考文献】
p.126～p.135
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第6章第1節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック11で質問された事項について、正解を調べておく。

第１２回　医療保険②健康保険、共済制度

【授業概要】
被用者保険である健康保険と共済制度について理解する。そのため、それぞれの保険の被保険者および保険者について理解する。また、共通する保険給付の内容について理解する。
【Key words】
健康保険、協会けんぽ、健康保険組合、療養の給付
【教科書ページ・参考文献】
p.136～p.140
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第6章第2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック12で質問された事項について、正解を調べておく。

第１３回　医療保険③国民健康保険、後期高齢者医療制度

【授業概要】
地域保険である国民健康保険について理解する。また、後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。
【Key words】
国民健康保険、国民健康保険組合、後期高齢者医療制度、高齢者の医療の確保に関する法律
【教科書ページ・参考文献】
p.141～p.150
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第6章第3節・第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック13で質問された事項について、正解を調べておく。

第１４回　医療保険④国民医療費、医療をめぐる最近の動向

【授業概要】
最新のデータにより国民医療費について理解する。また、最近の医療費や医療提供体制に関わる動向について理解する。
【Key words】
国民医療費、医療費適正化、混合医療の拡大、診療報酬改定
【教科書ページ・参考文献】
p.151～p.160
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第6章第5節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。国民医療費の統計をネット上で調べる。まとめチェック14で質問された事項について、正解を調べておく。

第１５回　前半のまとめ

【授業概要】
これまで学習した「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について、その概要を復習するため、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。
【Key words】
社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障の財源と費用、年金保険制度の具体的内容、医療保険制度の具体的内容
【教科書ページ・参考文献】
p.1～p.160
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉配布プリントを通読しておく。
〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。

第１６回　介護保険制度①介護保険制度創設の経緯

【授業概要】
介護保険制度が創設された背景と創設された経緯について、理解する。まず、介護保険制度創設以前の高齢者福祉・老人保健制度について概観し、介護保険の創設過程及び介護保険制度の見直しの経緯について学習する。
【Key words】

		措置から契約、介護保険法、介護保険法改正 【教科書ページ・参考文献】 p.161～p.166 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第7章第1節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック16で質問された事項について、正解を調べておく。
	第１７回	介護保険制度②介護保険制度の概要(保険者・被保険者・利用手続き) 【授業概要】 現在の介護保険制度の概要について、保険者・被保険者・利用手続きについて、学習する。被保険者については第1号被保険者と第2号被保険者の別について、またそれぞれの保険料について学習する。利用手続きについては、要介護認定を含む介護保険利用手順を理解する。 【Key words】 第1号被保険者・第2号被保険者、要介護認定、介護保険審査会 【教科書ページ・参考文献】 p.167～p.173 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第7章第2節1～4を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック17で質問された事項について、正解を調べておく。
	第１８回	介護保険制度③介護保険制度の概要 5保険給付 【授業概要】 介護保険の給付について、要介護1～5の認定を受けた要介護者を対象とした介護給付と要支援1～2の認定がされた要支援者を対象とした予防給付について、また地域密着型サービスについて、それらの内容を理解する。 【Key words】 要介護、要支援、介護給付、予防給付、施設サービス、居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス 【教科書ページ・参考文献】 p.173～p.180 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第7章第2節5を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック18で質問された事項について、正解を調べておく。
	第１９回	介護保険制度④介護保険制度の概要 6 運営、介護保険をめぐる最近の動向 【授業概要】 介護保険の給付について、市町村による地域密着型サービスについて、具体的な内容を理解する。また、介護保険財政及び地域支援事業について、理解する。 【Key words】 、介護保険財政、地域支援事業、地域包括支援センター、介護サービスの質、地域包括ケアシステム、介護保険民間事業者 【教科書ページ・参考文献】 p.181～p.185 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第7章第2節6、第3節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック19で質問された事項について、正解を調べておく。
	第２０回	労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険 【授業概要】 労働者に対する保険制度である雇用保険・労働者災害補償保険について、概要と沿革を理解する。今回は、労働者災害補償保険の対象。保険給付の内容及び給付の前提となる労災認定について、理解する。 【Key words】 労働保険、労働基準監督署、ハローワーク、労災認定 【教科書ページ・参考文献】 p.188～p.200 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第8章第1節・第2節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック20で質問された事項について、正解を調べておく。
	第２１回	労働保険制度②雇用保険、求職者支援、労働保険制度をめぐる最近の動向 【授業概要】 労働保険のうち、今回は雇用保険について、理解する。失業等給付の具体的な給付内容について、理解し、また雇用保険二事業について、その内容を理解する。雇用保険の財源構成についても理解する。さらに、最近の労働環境と労働保険の関係についても理解する。 【Key words】 p.201～p.213 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第8章第4節・第5節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック21で質問された事項について、正解を調べておく。
	第２２回	社会福祉制度①沿革と概要、生活保護制度 【授業概要】 社会福祉制度が整備されてきた経緯を学習し、社会福祉制度の現状を理解する。具体的に、社会福祉法の規定内容及び生活保護法の内容について、特に基本原理・生活保護の種類・保護施設について理解する。 【Key words】 措置から契約、社会福祉法、社会福祉事業、社会福祉財政、生活保護制度 【教科書ページ・参考文献】 p.215～p.230 【課題・予習・復習・授業準備】

〈予習〉教科書第9章第1節・第2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック22で質問された事項について、正解を調べておく。

第２３回　社会福祉制度②児童福祉、障害者福祉

【授業概要】
児童及び障害者を対象とした福祉施策について、児童福祉法及び障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした障害者福祉関連法にもとづき、理解する。
【Key words】
児童福祉法、児童福祉施設、障害者基本法、障害者総合支援法
【教科書ページ・参考文献】
p.231～p.240
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第9章第3節・第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック23で質問された事項について、正解を調べておく。

第２４回　社会福祉制度③母子・父子福祉、高齢者福祉、社会手当制度

【授業概要】
ひとり親家庭を支援するための福祉施策を理解する。また、介護保険を補完するための高齢者福祉施策として、老人福祉法及び高齢者虐待防止法を知る。税を財源とする金銭給付である社会手当制度について、具体的な施策を理解する。
【Key words】
母子・父子家庭、寡婦、老人福祉法、高齢者虐待防止法、児童手当、児童扶養手当
【教科書ページ・参考文献】
p.241～p.252
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書教科書第9章第5節～第7節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック24で質問された事項について、正解を調べておく。

第２５回　民間保険制度①民間保険と社会保険、民間保険の概要

【授業概要】
公的保険による所得補償では不十分な場合、それを補完するものとして重要な役割を有している民間保険について、公的保険との相違を中心に理解する。民間保険の諸原則及び保険給付の対象範囲について、理解する。
【Key words】
民間保険、生命保険、損害保険、第三分野の保険
【教科書ページ・参考文献】
p.253～p.263
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第10章第1節～第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック25で質問された事項について、正解を調べておく。

第２６回　民間保険制度②企業年金と個人年金

【授業概要】
公的年金を補完する役割を担っている企業年金と個人年金について、その概要と具体的なしくみについて理解する。
【Key words】
企業年金、確定拠出年金、確定給付年金、個人年金
【教科書ページ・参考文献】
p.264～p.270
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第10章第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック26で質問された事項について、正解を調べておく。

第２７回　社会保障が当面する課題①少子化対策響

【授業概要】
少子高齢化の現状と将来予測及び その問題点について検討した後、現在のさまざまな少子化対策について、理解する。
【Key words】
子育て支援、育児休業、保育サービス、ワーク・ライフ・バランス
【教科書ページ・参考文献】
p.271～p.284
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第11章第1・2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック27で質問された事項について、正解を調べておく。

第２８回　社会保障が当面する課題②労働市場と社会保障

【授業概要】
少子高齢化、人口減少期を迎えている日本における労働人口やその将来予測について検討し、それに関連する労働環境の整備について理解する。特に定年後の高齢労働者や子育てをしている女性労働者に係る具体的な労働環境整備に関する施策を理解する。
【Key words】
終身雇用、非正規労働者、ワーキング・プア、男女雇用機会均等法、高齢者の継続雇用
【教科書ページ・参考文献】
p.285～p.294
【課題・予習・復習・授業準備】
〈予習〉教科書第11章第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェックで質問された事項について、正解を調べておく。

第２９回　諸外国における社会保障制度

【授業概要】
人口の高齢化を迎えている欧米や東アジア諸国の社会保障制度について、2つの類型に分けて、検討した上で、具体的に7カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。社会保障

	に関わる諸協定について、理解する。 【Key words】 スウェーデンの社会保障、ドイツの社会保障、フランスの社会保障、イギリスの社会保障、アメリカの社会保障、中国の社会保障、韓国の社会保障、社会保障協定 【教科書ページ・参考文献】 p.295～p.322 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉教科書第12章を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック29で質問された事項について、正解を調べておく。 第３０回　総括的まとめ 【授業概要】 これまで学習してきた「年金保険」「医療保険」「介護保険」「労働保険」及び「社会福祉制度」について、その概要を復習するため、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。 【Key words】 年金保険、医療保険、介護保険、労働保険、社会福祉制度 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.322 【課題・予習・復習・授業準備】 〈予習〉配布プリントを通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・自己責任(無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。 ・毎日の自己研鑽により自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。 ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。
オフィスアワー	木曜日16時から17時
評価方法	期末試験（70%），ミニテスト（20%），課題提出（10%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（第６版）』中央法規出版（株）
参考書	社会福祉小六法・社会福祉用語辞典（最新版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人間関係論（産業・組織心理学）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
漆畑　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見を理解する。 【到達目標】 産業・組織心理学の基本的な知識・技法を理解・習得する。 自律型キャリア形成についてのプロセスを理解する。
授業の概要	本講義では、職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見について解説する。そこでは、ときに動機づけ（モチベーション）、リーダーシップ、人事評価、安全衛生管理とストレス、キャリア形成、組織論、広告、自律型キャリア形成といった概念について紹介していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　授業ガイダンス　イントロダクション・仕事への動機づけ 第２回　動機づけとは(歴史的背景、内容理論、職務満足、過程理論) 第３回　人事評価制度（人的資源管理と人事評価、人事評価） 第４回　人事評価制度（教育訓練、職務システム、報酬システム） 第５回　職場の人間関係と意思決定（集団での課題遂行、組織における意思決定） 第６回　職場の人間関係と意思決定（不機嫌な職場） 第７回　職場の人間関係と意思決定（キャリア発達・キャリア形成） 第８回　職場集団におけるリーダーシップ 第９回　職場のストレスとサポート（ストレスとは） 第１０回　職場のストレスとサポート（ストレスの原因と結果、職場におけるサポート） 第１１回　組織における協力と葛藤（職種間葛藤） 第１２回　組織における協力と葛藤（フリーライド問題） 第１３回　売り手と買い手の心理学（要請技法と悪徳商法、消費者調査とその分析） 第１４回　売り手と買い手の心理学（広告効果と広告情報処理、さまざまな広告） 第１５回　まとめ

受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。
評価方法	授業内小テスト50%、授業内コメントや発言20%、到達テスト30%
教科書	田中 堅一郎（編）　産業・組織心理学エッセンシャルズ　ナカニシヤ出版　2011
参考書	講義に際に適宜指定する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会的養護Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護及び子どもの権利について理解し、要保護家庭に対する支援方法について基本を学んでいく。 【到達目標】 1）児童虐待が急増している現況を認識し、子どもの人権を尊重する意識改革の実践に努めていく。 2)社会的養護の課題及び対応策について考察していく力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、児童の権利に関する条約等総括的に学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　・オリエンテーション・社会的養護とは何か

【key words】

【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。新聞紙を利用した運動では（またいで、上を歩いて、丸めて、折りながら、跳ぶ、乗る、投げる、走る、くぐる等）の運動遊びについて学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　ｐ８４～83

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「伝承遊び」運動について学習しておく。

第２回　・社会的養護の基本原則→・ウエルビーイングの実現

第３回　・現代社会に暮らす子どもと家庭→・現在の日本社会

第４回　・日本における家族の置かれた現状・子どもを生み育てることの意味

第５回　・家族は今→理想と現実の狭間で葛藤する家族

第６回　・子どもの権利

第７回　・子どもの権利のとらえ方・社会的擁護を必要とする子どもたちの権利

第８回　・子どもの養護の歴史→・日本の子どもの養護のはじまり・先駆的な取り組み　・日本の第二次境大戦後の子どもの養護

	第９回　　・子どもの養護の歴史→・子どもの養護の展開　・現在の子どもの養護に求められる発想の転換 第１０回　　・社会的養護の体系→・家庭・施設・里親 第１１回　　・社会的養護体系の課題・社会的養護の制度→児童相談所・市町村 第１２回　　・社会的養護の制度→・児童相談所・市町村 第１３回　　・社会的養護の制度→・家庭養護・ファミリーホーム等 第１４回　　・社会的養護の制度→・施設養護 第１５回　　・施設養護の特質→・施設養護の役割・施設で集団で暮らすということ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活なかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨まれたい。 〔受講のルール〕 ・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・社会的養護に関わる法令については、日頃から社会福祉小六法の活用を億劫がらずに習慣づけること。 ・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験80%、授業中の課題（授業確認のレポート提出）20%で総合評価します。 但し、定期試験が60%未満の場合は、再試験とします。
教科書	・ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著
参考書	・社会福祉小六法を授業時に持参すること。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 子育て支援センター、児童養護施設にて勤務経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　子どもの食と栄養　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
平石　仁恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもの保育が社会化している現代、身体的、社会的にも精神的にも安定し健康であるために乳幼児期からの食環境を整えたい。 【到達目標】 　人間形成の上で小児期の持つ意味は非常に大きい。小児にとって「遊ぶ」ことを通しての発達とならんで「食べる」ことを通しての体力作り、 　人間形成が極めて重要である。 　保育園・認定こども園利用が増加している現状をふまえ、食育は保育の根源となる。
授業の概要	なぜバランス良く食べなければいけないの、なぜ食事前に手洗いするの、元気の力の源は？ 食物アレルギー、食中毒のこわさなどを考慮しつつ食育が行われるよう一部実習を加え、知識・技術を習得し、保育の現場で実践できる能力を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方、評価法	
	第２回　栄養と食品に関する基礎知識	
	第３回　子どもの食生活の現状と課題	
	第４回　子どもの発育と発達	
	第５回　子どもの栄養と生理	
	第６回　献立作成と調理の基本　特別な配慮を要する子どもの食と栄養・アレルギー	
	第７回　授乳期　離乳期　幼児期の食生活	
	第８回　調理実習　（離乳食）	講義と実習
	第９回　〃　（幼児食・和食）	〃
	第１０回　〃　（幼児食・洋食）	〃
	第１１回　〃　（幼児食・おやつ）	〃
	第１２回　〃　（幼児食・弁当）	〃
	第１３回　〃　（幼児食・行事食）	〃
	第１４回　〃　（幼児食・カルシウム、鉄の多い食事）	〃
	第１５回　まとめ	ノート提出

受講生に関わる情報および受講のルール	講義中は受講生の迷惑にならないよう私語は厳禁 実習中はエプロン、三角巾、ハンドタオルを身につける 長つめ、マニキュア、アクセサリー禁止。髪は束ねる
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業時に指示する。
評価方法	筆記試験 50%　　授業への取り組み（身支度・ノート提出）50%
教科書	子どもの食と栄養演習　2,700円＋税　小川雄二　　建帛社
参考書	食品成分表
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会的養護Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護の基本理念について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。 【到達目標】 児童の権利擁護を基本理念とする要保護児童の保護、自立を支援していく児童福祉施実践を学び社会的養護の課題と対　応策について考察力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待は子どもの心身の成長に深刻な影響を与えており、これらの子どもの社会的養護の基本理念、法制度、施設現場の実践を学ぶ。そして将来保育現場や児童養護施設等児童福祉の専門職員を目指す者に対して現場で役に立つ実践的な知識の取得と支援力を養う学習をする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　・オリエンテーション・施設養護の基本原理→・運営指針の基本理念・基本原理
【key words】
「社会的養護とは」「第3者評価」「子どもの最善の利益」
【授業概要】
授業の概要について説明する。前期の振り返りを行う。施設養護における運営指針に関して学ぶ。第3者評価などの適切な施設へのアセスメントについて理解する。児童の権利に関する条約について理解し、子どもの最善の利益について学ぶ。
【教科書ページ】
P88～97

第２回　・施設養護の実際→・日常生活の支援
【key words】
「日常生活支援」「学習支援」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の生活について学ぶ。学習支援などどのような方々が関係しているかについても学ぶDVD教材を視聴し、児童養護施設の流れなどについて理解する
【教科書ページ・参考文献】
P98～104

第３回　・施設養護の実際→・自立支援
【key words】
「自立支援」「リービングケア」「アフターケア」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の入所前後、退所前後について学ぶ。ライフストーリーワークなど施設で生活する児童が行うワークなどについても理解していく。

【教科書ページ・参考文献】
P105～110

第４回　・施設養護の実際→・治療的援助を必要とする背景・子どもの行動特性・援助体制の整備
【key words】
「治療的援助」「行動特性」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童に対する心理的な治療について学ぶ。虐待を受けた子どもの行動、特徴、発達障害についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P111～120

	第５回	・施設養護の実際→・治療的支援・援助の実際 【key words】 「心理担当職員」「治療的かかわり」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の心理的な治療方法（例：遊戯療法、箱庭療法）について知る。具体的な事例を通して個別対応職員の治療的かかわりなどについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P111～120
	第６回	・施設養護の実際→・家族支援 【key words】 「家族再統合」「家族支援」「関係調整」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の家族との関係について学び、関係調整の方法について事例を通して理解する。家族関係を捉える視点を養う。ジェノグラムについても知る。 【教科書ページ・参考文献】 P121～133
	第７回	・施設養護の実際→・地域支援の必要性・地域支援の実際 【key words】 「地域支援」「トワイライトステイ」「虐待予防」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活のみならず、地域とのかかわりについて学ぶ。社会的養護を必要とする児童の施設が入所児童のみを対象としないことを理解し、どのように施設を活用しているか学ぶ。 レポート課題または小テストを実施し、理解度の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P121～133
	第８回	・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワーク・ソーシャルワークの構成要素等 【key words】 「ソーシャルワーク」「働きかけの多様性」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童へのソーシャルワークに関して学び、事例を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P134～144
	第９回	・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワークの展開過程・児童自立支援計画とソーシャルワーク・　ファミリーソーシャルワーカー（家庭支援専門相談員） 【key words】 「FSW」「家族面接」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設におけるFSWの役割について学び、家族面接の設定などについて具体的な事例を通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P134～144
	第１０回	・児童福祉施設の運営管理→・運営管理の仕組み（設立の経緯・理念・法人理事会等） 【key words】 「施設運営」「建物・運営形態」「職員配置」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の運営しについて学ぶ。最低基準や職員配置などを理解し、施設の運営にはどのようなことが必要か学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P145～160
	第１１回	・児童福祉施設の運営管理→・施設の設備及び運営に関する基準・措置制度・苦情解決等 【key words】 「勤務体制」「措置制度」「施設内虐待防止」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の職員の勤務体制について理解し、子どもの措置に関することや、施設での虐待防止に関して理解する。 小テストまたはレポート課題を実施し、理解度の確認を行う。 【教科書・参考文献】 P145～160
	第１２回	・児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理→・児童福祉を目指す学生に見られる傾向と特徴 【key words】 「援助者に求められる資質」「倫理観」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設を希望する学生に求められるものや、学ぶべきことについて理解する。また、勤務に関して職員としての倫理観など道徳的なことに関して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P161～171
	第１３回	・社会的養護のあるべき姿→・子どもの権利擁護・生活単位の小規模化・里親制度 【key words】 「社会的養護とソーシャルアクション」「小規模化と課題」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設におけるソーシャルアクションについて学び、グループ活動を通して小規模化などの課題解決の取り組みを行う。 【教科書ページ・参考文献】 P172～186
	第１４回	・社会的養護のあるべき姿→･社会的養護の地域化・授業の総まとめ 【key words】 「小規模住居型児童養育事業」「里親制度」「地域化」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の事業について学び、地域との連携に関してもこれまで学んだ知識を活用しながら検討する。

	【教科書ページ・参考文献】 P172～186 第１５回　社会的養護とは：全体の振り返り 【key words】 「社会的養護とは」「被虐待児」「家族とは」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活についてこれまで学んだ知識を復習する。実際の事例について検討し、課題解決能力を身につける。社会的養護を取り巻く社会との関係性など、様々な視点から多角的に検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P88～186
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨まれたい。 〔受講のルール〕 ・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。 ・欠席した際には、配布資料を次回までに教員の下へ取りに行くこと。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験70％、授業中の課題（レポートまたは小テスト提出）30％で総合評価します。 但し、定期試験が60％未満の場合は、再試験とします。
教科書	・ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著
参考書	・社会福祉小六法。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 子育て支援センター、児童養護施設にて勤務経験あり。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　介護技術Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	選択
担当教員			
岩﨑　文明			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活が送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。
授業の概要	介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　ガイダンス　介護とは・介護技術の基礎知識①
【key words】
授業内容を理解する。　演習時の実習室の使用上の注意事項の説明

【授業概要】
授業に対する意欲を促す。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２回　介護とは・介護技術の基礎知識②　（生活行為に関連したこころとからだのしくみ）
【key words】
介護とは何か、日常生活を送る上で様々な場面における支援方法を理解する。

【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１～６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第３回　人間関係を形成する技術①　（身体機能低下が及ぼす生活への影響）
【key words】
介護の基礎知識を理解する。
【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		復習をする。
	第４回	人間関係を形成する技術②　（生活環境の整備） 【key words】 介護の基本であるボディメカニクスの重要性を理解する。 【授業概要】 人間の身体機能は、活動していることで機能が健康的に維持されている。生活行為の基本になっているのが、身体のボディメカニクスであることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１１８～１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする
	第５回	人間関係を形成する技術③　（居室環境の整備・ベッドメーキング） 【key words】 居室環境の整備の必要性を理解する。 【授業概要】 快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１１２～１１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする
	第６回	人間関係を形成する技術④　（居室環境の整備・ベッドメーキング・シーツ交換） 【key words】 居室環境の整備の必要性を理解する。 【授業概要】 快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１１２～１１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。
	第７回	自立に向けた移動の介護①　（移動の意義と目的） 【key words】 高齢者の心身の状況を把握し、生活行為のための移動。移乗動作があるということを理解する。 【授業概要】 移動・移乗動作援助の原則を理解し、ベッド上での水平移動を学ぶ。寝返り・起き上がり動作を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１２７～１３３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。
	第８回	自立に向けた移動の介護②　（ボディメカニクス） 【key words】 車いすの各部の名称・車いすの種類・車いすの移乗方法を理解する。 【授業概要】 車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１３４～１３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。
	第９回	自立に向けた移動の介護③　（姿勢について） 【key words】 車いすの移乗方法を理解する。 【授業概要】 車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１３４～１４０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。
	第１０回	自立に向けた移動の介護④　（体位変換・移動・移乗援助の原則） 【key words】 杖歩行の動作歩行を理解する。 【授業概要】 杖歩行の方法を学ぶ。階段の昇降、障害物をまたぐ方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１４１～１４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１１回　自立に向けた移動の介護⑤　（ベッド上移動方法）
【key words】
安楽な姿勢の重要性と保持の援助方法を理解する。

【授業概要】
安楽な姿勢の保持の原則を学ぶ。転倒予防の重要性を学ぶ。視覚障害者への介助の留意点を学ぶ。認知症の人への移動介助の方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１４５～１５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１２回　自立に向けた移動の介護⑥　（車いすの構造と種類を理解）
【key words】
前期実技試験の課題を理解する。
【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回は入浴介助を実施するので、タオル1本、バスタオル1枚必ず持ってくるよう伝える。

第１３回　自立に向けた移動の介護⑦　（車いすへの移乗方法）
【key words】
安全・安心で的確な入浴介助方法を理解する。

【授業概要】
入浴の意義や目的を学ぶ。入浴に関するアセスメントのポイント、安全で的確な入浴の援助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７７～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回は入浴介助を実施するので、タオル1本、バスタオル1枚必ず持ってくるよう伝える。

第１４回　前期のまとめ①　（ベッドメーキング・体位変換・車いすへの移乗介助）
【key words】
特殊浴槽の場合の援助方法と一般浴の場合の援助方法を理解する。

【授業概要】
特殊浴槽と一般浴の介助方法を学ぶ。入浴後は、体調確認をし、水分補給をする。皮膚には、保湿剤を塗布し、乾燥を防ぐ。爪の手入れを行う。必要があれば福祉用具の活用もする。

【教科書ページ・参考文献】
p１７７～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１５回　前期のまとめ②　（ベッドメーキング・体位変換・車いすへの移乗介助）
【key words】
前期の振り返り
【授業概要】
前期の振り返りをする。前期実技試験の練習をする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回は清拭をするので、タオル1本とバスタオル1枚必ず持ってくることを伝える。

第１６回　杖歩行の技法と援助　（障害のある場合の介助方法）
【key words】
清拭の方法を学ぶ。
【授業概要】
全身清拭と部分清拭の仕方を学ぶ。足浴を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
p１８２～１８６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１７回　排泄介護①　（日常生活における排泄の意味・基本原則）
【key words】
整容行動、衣生活を調整する。介護の工夫の必要性を理解する。

【授業概要】
身だしなみの意義、目的を学ぶ。高齢者の特徴を学ぶ。衣服の脱健着患を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１８回　排泄介護②　（排泄援助の実際・布オムツ介助）
【key words】
衣服の着脱の基本は、脱健患脱である。基本にそって実施する。

【授業概要】
衣服の選択方法や着脱の留意点をよく把握し、着替えを実施する。感覚低下の人の場合、介助の留意点を考慮し、介助をする。様々な障害の場合を想定し、各グループで練習をする。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第１９回　排泄介護③　（排泄援助の実際・紙オムツ介助）
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。ポータブルトイレの支援方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第２０回　排泄介護④　（排泄援助の実際・ポータブルトイレ・差し込み便器での介助）
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。差し込み便器の介助方法を学ぶ。オムツの当て方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第２１回　衣服の着脱介護①　（身だしなみの意義と目的・衣服の着脱援助）
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。オムツ交換を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第２２回　衣服の着脱介護②　（衣服の交換）
【key words】
睡眠環境を整える支援の留意点を把握する。不眠状態にある人への援助方法を理解する。

【授業概要】
睡眠に関するアセスメントのポイントや安眠を促す介助の方法、不眠状態にある人への援助等々を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１９８～２０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習をする。

第２３回　睡眠の介護　（睡眠の意義と目的・安眠を支える介護）
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食品の栄養素・調理方法を学ぶ。身体構造も理解し、咀嚼・嚥下のメカニズムを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	復習をする。 第２４回　家政的管理技術①　（家政的管理とは・目的） 【key words】 食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。 【授業概要】 食事の重要性を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１５１～１５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。 第２５回　家政的管理技術②　（衣生活・住生活） 【key words】 後期実技試験の課題を理解する。 【授業概要】 グループ別に練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 練習をする。 第２６回　食事の介護①　（食事の意義と目的・高齢者の食事） 【key words】 後期実技試験の課題を理解する。 【授業概要】 グループ別に練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 練習をする。 第２７回　食事の介護②　（摂食・嚥下障害の食事介助・安全で的確な食事介助） 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。 第２８回　自助具・介護用具の活用方法 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習をする。 第２９回　福祉用具展示会場見学会 【key words】 自助具や福祉用具を実際に手に触れて、多くのことを学ぶ。 【授業概要】 校外（福祉用具展示場）に出向き、実際に手に触れて、多くのことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p３４０～３４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学会のレポート提出をする。 第３０回　まとめ（総括）　学生の振り返り（介護の考え方、介護を適切に行う能力と姿勢とは何か） 【key words】 1年間の振りかえ　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 実技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中の迷惑な行為、私語、携帯電話の使用は厳禁。演習時の教材の準備、後片付けは各グループで協力して行う。 教材は大切に使用し、整理・整頓を心掛ける。 演習時は学校指定のジャージを着用すること。イヤリング、ネックレス、腕時計はつけないこと。長

	い髪は束ねること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は幅広い多面的な知識と人との関わりが重要である。授業だけではなく実習やボランティア等で学んだことを活かし、総合的な視点で利用者を支援することが大切である。
オフィスアワー	初回の授業時、周知する。
評価方法	授業態度：20%、筆記試験・実技試験：80%
教科書	新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 老人施設・障害施設での介護経験あり アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　世界史　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
関根　正史			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	世界史の全範囲を半年間（90分×15回）で学習することが、極めて困難な課題であることは、多少でも世界史の知識を持つ者ならば容易に理解することができる。一般的に世界史を学習する場合は、ヨーロッパ世界、西アジア世界、南アジア世界、東アジア世界の四つの地域に区分をする。時間的な制約から人類の歴史に最も大きな影響を与えた「ヨーロッパの歴史」を主として「アジアの歴史」を従とした方法で世界史を学習する。
授業の概要	人類の歴史を概観すると、古代、中世、近代、現代と四つの時代に区分することが通常の方法である。その中から歴史の流れに沿って、地中海世界の成立、ヨーロッパ世界の形成と発展、近代ヨーロッパの誕生、市民社会の成立、帝国主義と二つの世界大戦、戦後世界と東西対立、現代の世界を学習した後、アジアの歴史は宗教を中心軸として学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　世界史オリエンテーション、歷史とは何か 第２回　ギリシアの都市国家とローマ帝国 第３回　ヨーロッパ世界の成立とキリスト教の誕生 第４回　封建制社会の成立・発展・衰退 第５回　東西ヨーロッパの分裂、ビザンツ帝国の盛衰 第６回　十字軍遠征と中世都市 第７回　中央集権国家の成立、絶対主義国家の盛衰 第８回　産業革命と三大市民革命 第９回　市民社会の成長、自由主義と国民主義 第１０回　帝国主義の成立、アジア・アフリカの民族主義運動 第１１回　二つの世界大戦 第１２回　戦後世界の形成と東西対立、現代世界の課題 第１３回　イスラーム教と西アジア 第１４回　ヒンドゥー教と南アジア 第１５回　儒教・仏教と東アジア
受講生に関わる情報および受講のルール	世界史の講義に必要な資料はその都度作成して配布する。教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立つ場合は、注意をした上でも態度が改まらない場合

	は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	時間外の自学自習に関係する情報は、必要に応じて参考文献を印刷して配布する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み態度（10%）・小論文（20%）・試験（70%）などを総合して評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　世界史　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
須田　幸秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	世界史の全範囲を半年間（90分×15回）で学習することが、極めて困難な課題であることは、多少でも世界史の知識を持つ者ならば容易に理解することができる。一般的に世界史を学習する場合は、ヨーロッパ世界、西アジア世界、南アジア世界、東アジア世界の四つの地域に区分をする。時間的な制約から人類の歴史に最も大きな影響を与えた「ヨーロッパの歴史」を主として「アジアの歴史」を従とした方法で世界史を学習する。
授業の概要	人類の歴史を概観すると、古代、中世、近代、現代と四つの時代に区分することが通常の方法である。その中から歴史の流れに沿って、地中海世界の成立、ヨーロッパ世界の形成と発展、近代ヨーロッパの誕生、市民社会の成立、帝国主義と二つの世界大戦、戦後世界と東西対立、現代の世界を学習した後、アジアの歴史は宗教を中心軸として学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　世界史オリエンテーション、歷史とは何か 第２回　ギリシアの都市国家とローマ帝国 第３回　ヨーロッパ世界の成立とキリスト教の誕生 第４回　封建制社会の成立・発展・衰退 第５回　東西ヨーロッパの分裂、ビザンツ帝国の盛衰 第６回　十字軍遠征と中世都市 第７回　中央集権国家の成立、絶対主義国家の盛衰 第８回　産業革命と三大市民革命 第９回　市民社会の成長、自由主義と国民主義 第１０回　帝国主義の成立、アジア・アフリカの民族主義運動 第１１回　二つの世界大戦 第１２回　戦後世界の形成と東西対立、現代世界の課題 第１３回　イスラーム教と西アジア 第１４回　ヒンドゥー教と南アジア 第１５回　儒教・仏教と東アジア
受講生に関わる情報および受講のルール	世界史の講義に必要な資料はその都度作成して配布する。教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立つ場合は、注意をした上でも態度が改まらない場合

	は、退席を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席は必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	時間外の自学自習に関係する情報は、必要に応じて参考文献を印刷して配布する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み態度（10%）・小論文（20%）・試験（70%）などを総合して評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会科教育法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。具体的な授業の到達目標は、①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること。②教材研究の方法、③学習指導案の作成、④模擬授業などを通して、⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること	◎			○
②教材研究の方法	◎			○
③学習指導案の作成		○		◎
④模擬授業など		◎		
⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる		◎	◎	
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【授業概要】授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法 授業のルール確認 教科書入手方法 第２回　　学習指導要領の概要　学習指導要領の概要 【授業概要】地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要、 示範授業①を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表１ 地理用語集作成１（アクティブラーニング＝ALと記述） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】板書計画、アクティブラーニング＝ALと記述 第３回　　社会科指導の基礎基本１ 【授業概要　】地理的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業②を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表２　AL 地理用語集作成２　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】年間指導計画 第４回　　社会科指導の基礎基本２ 【授業概要】歴史的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業③を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表３　AL 地理用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】授業展開例

	第５回	教材研究の方法1 【授業概要】地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など 示範授業④を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表４　AL 地理用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】地図帳の利用
	第６回	教材研究の方法２ 【授業概要】地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法、 示範授業⑤を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表５　AL 地理用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】教授用ノート、板書ノート
	第７回	教材研究の方法３ 【授業概要】歴史的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、歴史用語辞典など 示範授業を⑥通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 歴史的分野年間指導計画表１　AL 歴史用語集作成１　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】
	第８回	教材研究の方法４ 【授業概要】歴史的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法 示範授業⑦を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 歴史的分野年間指導計画表2　AL 歴史用語集作成２　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】
	第９回	学習評価の方法 【授業概要】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用 示範授業⑧を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 歴史的分野年間指導計画表３　AL 歴史用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオ
	第１０回	学習指導案と講義資料の作成方法 【授業概要】導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意 示範授業⑨を通じて授業展開例を示し、学習宇指導案作成の基本的事項を学び、併せて板書計画を考えさせる。 歴史的分野年間指導計画表４　AL 歴史用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】学習指導案と講義資料の作成
	第１１回	授業法を学ぶための示範授業⑩ 【授業概要】地理的分野「世界の様々な地域」を題材として授業法を学ぶ 歴史的分野年間指導計画表５　AL 歴史用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】世界の姿
	第１２回	授業法を学ぶための示範授業⑪ 【授業概要】地理的分野「日本のあまざまな地域」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【Key words】世界の姿
	第１３回	授業法を学ぶための示範授業⑫ 【授業概要】歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第１４回	授業法を学ぶための示範授業⑬ 【授業概要】歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準

		備
	第１５回	授業法を学ぶための示範授業⑭ 【授業概要】授業研究会、地理的分野、歴史的分野の示範授業で学習したことをまとめるプレゼンテーションと討議 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第１６回	後期授業計画オリエンテーション社会教師の基礎・基本 【授業概要】中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける方策を学ぶ 博物館、美術館などの活用や体験的学習、地域教材の扱い方やフィールドワークを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 東国文化副読本を使って、地域学習の方法を学ぶ
	第１７回	生徒の実態の把握方法 【授業概要】観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など C&S調査法（Q―U テスト）の活用 授業中の生徒指導について
	第１８回	情報機器と教材の活用法 【授業概要】インターネット、新聞、雑誌、年表、地図 群馬県総合教育センター　G-Tac　の活用方法
	第１９回	指導案作成① 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２０回	指導案作成② 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２１回	指導案作成③ 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２２回	模擬授業① 【授業概要】 地理的分野「世界のさまざまな地域」、を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２３回	模擬授業② 【授業概要】 地理的分野「日本のさまざまな地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２４回	模擬授業③ 【授業概要】 歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２５回	模擬授業④ 【授業概要】 歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
	第２６回	模擬授業⑤ 【授業概要】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備

	第２７回　　模擬授業⑥ 【授業概要】 地理的分野「日本の様々な地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備アクティブ 第２８回　　実践研究の方法、社会科教育の歴史 【授業概要】 社会科教育に関する学会の実践研究事例紹介、社会科教育論紹介、博物館学習紹介 昭和戦後の社会科の誕生、学習指導要領の変遷（１９４５年～１９７７年　１９７８年～現在） 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 第２９回　　学校教育の現状と課題 【授業概要】 アクティブラーニングによるジグソー、ディベート、シュミレーション、ロールプレイング、NIE いじめ、不登校、非行、貧困、虐待、働き方改革、ESD、コミニュケーションスクール 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要　１章　（文部科学省） 第３０回　　ふりかえりとまとめ 【授業概要】１年間を振り返り、学生間で意見交流、 教育実習に行くにあたっての課題等学生間で意見交流
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。 〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。スマホは必ず机上に置き、陰で使用しないこと。調べ学習に必要な場合があるので指示によっては活用する。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	質問や相談については、原則として授業の前後を活用する。なお、質問は内容により文書を作成して配布する。
評価方法	授業への取り組み態度（20%）、指導案と模擬授業（30%）、試験（50%）＝前期 授業への取り組み態度（20%）、指導案作成（30%）と模擬授業（30%）年間計画と板書例作成（20%）＝後期
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の歴史　　帝国書院 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 ５　国立教育政策研究所論文及び群馬県教育センター資料（担当教員が準備）
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会科教育法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
須田　幸秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。具体的な授業の到達目標は、社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること、教材研究の方法、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法） 第２回　学習指導要領の概要（地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要） 第３回　社会科指導の基礎基本①（地理的分野の内容、授業の展開方法、指導事例の紹介） 第４回　社会科指導の基礎基本②（歴史的分野の内容、授業の展開方法、指導事例の紹介） 第５回　教材研究の方法①（地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など） 第６回　教材研究の方法②（地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法） 第７回　教材研究の方法③（歴史的分野、教科書、指導書、歴史地図、年表、参考書、歴史用語辞典など） 第８回　教材研究の方法④（歴史的分野、教授用ノートの作り方、板書事項の作成方法） 第９回　学習評価の方法（総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用、ミニテスト①） 第１０回　学習指導案と講義資料の作成方法（導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意） 第１１回　模擬授業①（地理的分野「日本の地域区分」を題材として授業の細案を作成 第１２回　模擬授業②（地理的分野、授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成） 第１３回　模擬授業③（歴史的分野「弥生文化と邪馬台国」を題材として授業の細案を作成 第１４回　模擬授業④（歴史的分野、授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成） 第１５回　模擬授業⑤（授業研究会、地理的分野、歴史的分野の授業の準備で学習したこと） 第１６回　社会教師の基礎・基本（中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける）

	第１７回　　生徒の実態の把握方法（観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など） 第１８回　　情報機器と教材の活用法（インターネット、新聞、雑誌、年表、地図など） 第１９回　　模擬授業⑥（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」歴史班が中心となって振興） 第２０回　　学習指導案細案事前検討会①（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」） 第２１回　　模擬授業⑦（地理的分野「世界と比べた日本の平野」地理班が中心となって進行） 第２２回　　学習指導案細案事前検討会②（地理的分野「世界と比べた日本の平野」、ミニテスト②） 第２３回　　社会科教育の歴史①（明治・大正時代と戦前の社会科教育） 第２４回　　社会科教育の歴史②（戦後の社会科誕生の経緯） 第２５回　　学習指導要領の変遷①（1945～1977年） 第２６回　　学習指導要領の変遷②（1978年～現在） 第２７回　　実践研究の動向①（アクティブラーニングによるジグソー、ディベートなど） 第２８回　　実践研究の方法②（社会科教育に関する学会の実践研究事例の紹介） 第２９回　　学校教育の現状と課題、教師像の探求 第３０回　　１年間を振り返り、学生間で意見交流を図る
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。 〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業（30%）、小論文（20%）
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　新しい社会　歴史　　東京書籍 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 その他、配布する資料をテキストとして使用する。
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社 栗原久編著　「入門　社会・地歴・公民科教育－確かな実践力を身に付ける」梓出版社 その他、講義の中で随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　国語科概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の基本的な指導法を理解する。 【到達目標】 ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②国語科の基本的な指導方法を身に付けることができる。
授業の概要	１　学習指導要領及の内容が実際の国語科教科書にどのように具体化しているか、理解する。 ２　学習指導要領解説「国語編」を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。 ３　上記１と２を踏まえ、グループで教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション、国語科指導の基礎基本①（敬語１、範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説１）、教師の体験談１（初任時の失敗談） 【key words】 オリエンテーション、国語科指導の基礎基本、体験談 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバスの説明。15コマの概観と評価方法。 ②国語科指導の基礎基本として、敬語1、範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説1を学ぶ。 ③本授業と採用試験との関連、採用試験に向けての勉強方法。 ④国語指導の成功談・失敗談。 【教科書ページ・参考文献】 １　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」を読んでおくよう指示。
	第２回	国語科指導の基礎基本②（敬語２、文学史、学習指導要領及び解説２、配当漢字１年）、教師の体験談２（１年生は宇宙人） 【key words】 心構え、範読、国語科指導の基礎基本、体験談 【授業概要】 ①国語指導の基礎基本として、敬語2、文学史、配当漢字１年、言葉、文法、学習指導要領及び解説2を学ぶ。 ②国語指導の成功談・失敗談を聞く。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領国語およびその解説を熟読するよう指示。
１年配当漢字（80字）の筆順が正しく書けるようにしておくことを指示。

第３回　国語科指導の基礎基本③（文法１、板書法、学習指導要領及び解説３、配当漢字２年）、教師の体験談３（20代の頃）

【key words】
文法、板書法、配当漢字、国語科のワークシート、Ｔ・Ｔ、体験談

【授業概要】
①国語指導の基礎基本として、文法１（品詞、ら抜き言葉）、板書法の理論を学び、チョークの持ち方・書き方を実際に黒板での練習、学習指導要領及び解説3を学ぶ。
②２学年の配当漢字（160字）を学ぶ。
③発達段階に応じたワークシートの作成方法を知る。ノート指導との違いについて考える。
④教師の20代の頃の失敗談やＴ・Ｔについての体験談を聞く。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領国語およびその解説を熟読するよう指示。
２年配当漢字（160字）の筆順が正しく書けるようにしておくことを指示。

第４回　国語科指導の基礎基本④（文法２、教材の配列・系統、学習指導要領及び解説４、書写、配当漢字３・４年）、教師の体験談４（学級経営、教育委員会）

【key words】
文法、教材の配列、書写指導、体験談

【授業概要】
①国語指導の基礎基本として、文法２（文のねじれ、接続語・指示語）、学習指導要領及び解説4
②小学校児童用教科書、６冊を見て、１学年の横の配列、各学年４月の縦の配列の特徴について気付く。
③書写指導の基礎基本を理解する。（硬筆と毛筆の関係、指導時数）
④３・４学年の配当漢字（各200字）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領国語およびその解説を熟読するよう指示。
３・４年配当漢字（200字）の筆順が正しく書けるようにしておくことを指示。

第５回　学習指導案の作成方法（主な項目と作成の流れ、実際の学習指導案「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」から学ぶ）、配当漢字５・６年

【key words】
学習指導案（細案）の項目、教材研究

【授業概要】
①教師の提示した、国語科学習指導案（細案）「２年　かたかなで書く言葉」を見て、項目名とその内容について、理解する。
②教師は展開部分は、提示せず、学生が各班で考える。
③５・６学年の配当漢字（各185字、181字）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成を指示。
５・６年配当漢字（各185字、各181字）の筆順が正しく書けるようにしておくことを指示。

第６回　教材研究の仕方（実際に教科書教材「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」を用い、学ぶ。）

【key words】
教材研究、ワークシート、教材作り

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②教材づくりの方法：上記教材研究をしながら、作成する。（ワークシート、めあて短冊、絵カード等）
③６学年の配当漢字（181字）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成を指示。

第７回　学習指導案の作成（「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」について、Ａ班・Ｂ班に分かれ、グループで協力し作成する。）
【key words】
学習指導案、ワークシート、板書計画、教材作り

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成する。
②学習指導案のおおまかな項目は決められているが、自治体、学校、教科領域により異なるので、実習時には、指導教員の指示に従うよう話す。
【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。

第８回　模擬授業の準備（「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」について、Ａ班・Ｂ班で教材作成、授業シミュレーションを行う。）
【key words】
シミュレーション、教材研究
【授業概要】
①学習指導案に則り、担当する授業のシミュレーションを班ごとに行う。
②シミュレーションと学習指導案の練り直しを繰り返す。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。

第９回　模擬授業（Ａ班）、授業研究会（Ａ班）「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項　全３時間中の第２時」
【key words】
模擬授業、授業研究会、授業の視点
【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。

第１０回　模擬授業（Ｂ班）、授業研究会（Ｂ班）「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項　全３時間中の第３時」
【key words】
模擬授業、授業研究会、授業の視点
【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成を指示。また、「すみれとあり」の学習指導案の下書きを班ごとに仕上げておく。

第１１回　学習指導案の作成（「３年上　すみれとあり　説明文」について、Ａ班・Ｂ班に分かれ、グループで協力し作成する。）
【key words】
説明文の指導

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成する。
②説明文の教材研究の方法について、理解する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成することを指示。

第１２回　模擬授業の準備（「３年上　すみれとあり　説明文」について、Ａ班・Ｂ班で教材作成、授業シミュレーションを行う。）
【key words】
模擬授業準備

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を完成する。
②模擬授業がスムーズに流れるよう、シミュレーションし、学習指導案の手直しをする。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。

第１３回　模擬授業（Ｂ班）、授業研究会（Ｂ班）「３年上　すみれとあり　説明文　全18時間中の第４時」
【key words】
模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第１４回　模擬授業（Ａ班）、授業研究会（Ａ班）「３年上　すみれとあり　説明文　全18時間中の第５時」
【key words】
模擬授業、授業研究会、授業の視点
【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第１５回　学習指導要領及び解説のまとめ、教員採用試験の国語科領域について、シャトルカードを用いた半期の振り返りと発表
【key words】
一般教養（国語）、専門教養（国語）

【授業概要】
①教員採用試験での国語関連の過去問を実際に解き、傾向を理解する。
②自己の受験自治体の傾向と対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月

【課題・予習・復習・授業準備指示】
受験自治体の教員採用試験の過去問を解くように指示。

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。

	〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の国語科授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び、国語科児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方、模擬授業の実施・振り返りを行うなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会科概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。 【到達目標】 ①学習指導要領のポイントを理解すること。 ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。 ③各学年の学習内容を理解すること。 ④基礎となる考え方を理解すること。
授業の概要	「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイントについて学ぶ。 指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容を体系的にまとめる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①学習指導要領のポイント・ねらい・特色を理解する。	◎	◎	◎	○
②教科の目標及び各学年の目標を理解する。	◎	○	○	△
③各学年の学習目標と学習内容を理解する。	◎	◎	○	△
④基礎となる考え方を理解する。	◎	◎	◎	○
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント
【key words】
　主体的対話的で深い学び、生きる力
【授業概要】
　授業の進め方等について知る。楽手指導要領のポイントについて知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
　指導要領を読む。

第２回　社会科の目標、小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)
【key words】
　公民としての資質・能力の基礎の育成、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、
　人間性等
【授業概要】
　小学校社会科の目標の目標について知る。学年別目標について知る。
【教科書ページ・参考文献】
　P17～P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　指導要領を読む。

第３回　小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)、学年別学習内容構成(指導要領の見方②)
【key words】
　知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等、三つの区分、五つ

		の基本事項 【授業概要】 学年別目標について知る。学年別内容構成について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P48～P50、P70～P72、P97～100 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。
	第４回	第３学年の学習内容①・・身近な地域や市区町村の様子、地域に見られる生産や販売の仕事 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事について、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第５回	第３学年の学習内容②・・地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わり 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わりについて、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P41～P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第６回	第４学年の学習内容①・・都道府県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働き 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働きについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P51～P52、P62～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第７回	第４学年の学習内容②・・人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動について、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P53～P61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第８回	第５学年の学習内容①・・我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり 【key words】 国土と産業の学習 【授業概要】 我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活との関わりについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P73～P77、P91～P96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第９回	第５学年の学習内容②・・我が国の農業や水産業における食料生産、我が国の工業生産 【key words】 国土と産業の学習 【授業概要】 我が国の農業や水産業における食糧生産、我が国の工業生産について、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P77～P86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
	第１０回	第５学年の学習内容③・・我が国の産業と情報との関わり 【key words】 国土と産業の学習 【授業概要】 我が国の産業と情報との関わりについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、 また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

	P87～P91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 第１１回　第６学年の学習内容①・・我が国の政治の働き 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 我が国の政治の働きについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P100～P106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 第１２回　第６学年の学習内容②・・我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代) 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P106～P114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 第１３回　第６学年の学習内容③・・我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代) 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P106～P110、P114～P119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 第１４回　第６学年の学習内容④・・我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和) 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P106～P110、P120～P124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 第１５回　第６学年の学習内容⑤・・グローバル化する世界と日本の役割 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 グローバル化する世界と日本の役割について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、 また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P128～P134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようにしておくこと。 地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	定期試験及び授業後の確認テストにて評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　美術概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。 【到達目標】 ①造形活動の意義や特性について理解することができる。 ②学習指導要領に掲載されている図画工作科の目標及び内容等を理解することができる。 ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。 ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。
授業の概要	造形活動がいかに人間をリフレッシュさせてくれているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①造形活動の意義や特性について理解することができる。	◎	◎	○	◎
②学習指導要領に掲載されている図工科の目標及び内容等を理解することができる。	◎	○	○	○
③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。	○	◎	◎	◎
④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。	◎	○	◎	○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業の進め方の説明）　○芸術・美術の概念 【key words】 美術、図画工作科教育、小学校指導要領、アクティブラーニング 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○芸術・美術の概念　○造形教育の意義　○アクティブラーニングを踏まえて 【教科書ページ・参考文献】 教科書　「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　この講座を通して特にどんなことを学びたいか考えてくる。 第２回　造形教育の理念と構造　○自然主義の教育観と表現の意味の発見 【key words】 造形教育の理念、アイスナー、ルソー、自然主義教育観

【授業概要】
○造形教育の理念と構造　　自然主義教育観と表現の意味の発見、美的欲求と造形欲求
○無意識と表現(心の構造、無意識と表現)　　○無意識と児童画　　○理念の発展と推移、美術教育の主張　　○造形教育の構造(造形教育の特殊)
【教科書ページ・参考文献】
教科書　　「小学校図画工作科教育法」　　Ｐ１～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること

第３回　造形活動の意義と図画工作　　○「美術の機能」と図画工作科教育　　○美術を通した教育
【key words】
芸術の機能、ユング、無意識と児童画、コンテクスチャリズム、エッセンシャリズム
【授業概要】
○芸術の機能と図画工作教育　　○美術を通した教育（コンテクスチャリズム）と美術の教育（エッセンシャリズム）　　○諸感覚を目覚めさせる
【教科書ページ・参考文献】
教科書　「小学校図画工作科教育法」　　Ｐ１～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること

第４回　図画工作科の目標　　○教科の目標　　○学年の目標
【key words】
Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、領域、項目、事項、造形遊び、絵や立体、工作
【授業概要】
○教科の目標、学年の目標、目標及び内容構成の関連　　○図画工作科の内容
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法」　　Ｐ２８～４１　　○教科書　「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ９～１９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること

第５回　図画工作科の内容　　○内容の構成　　○各領域及び〔共通事項〕の内容
【key words】
内容の構成、　Ａ表現　　Ｂ鑑賞、　　〔共通事項〕
【授業概要】
○Ａ表現の内容　(造形遊び、絵や立体、工作)　　○Ｂ鑑賞の内容　　○〔共通事項〕の内容
○各学年の目標及び内容
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　　「小学校図画工作科教育法〕　　Ｐ２８～４１
○教科書　「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ２０～３４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること

第６回　指導計画の作成と内容の取扱い　　○指導計画作成上の配慮事項　　○内容の取扱いと指導上の配慮事項
【key words】
〔共通事項〕　配当時間,　鑑賞の指導,　共同製作,　版画表現,　事故防止、　各学年の材料や用具
【授業概要】
指導計画の作成と内容の取扱い
○指導計画作成上の配慮事項　　(共通事項、配当時間数、鑑賞の指導、共同製作、生活科との関連、道徳との関連)
○内容の取扱いと指導上の配慮事項　　(児童の特性を生かす、版画表現、焼きもの、材料や用具、事故防止、鑑賞)
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ１０４～１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること

第７回　「造形遊び」の指導　　○造形遊びの意義　　○各学年の造形遊びの目的・内容について
○段ボールを使った制作（小３，４年)
【key words】
造形遊び　　創造性　　自主性　　イメージ　　着想　　材料・場所・用具
【授業概要】
○「造形遊び」の指導　　・造形遊びの導入の経緯と意義　　・各科学年の造形遊びの目標・内容について　　・実践例から　「段ボールを使った製作」　(小３，４年)の教材研究　　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　　「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ４２～５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」　造形遊びで、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考えてみよう。

第８回　「絵に表す」の指導　　○初めての水彩絵の具の使い方指導（小３，４年）○水彩画の技法について（重ね塗り、にじみ、ぼかし等)
「絵に表す」の指導
【key words】
心象表現　　児童画の種類　　混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし、　絵画における思春期の危機
【授業概要】
○絵に表す活動の特質　　○初めての絵の具の使い方指導　　○水彩画の技法（混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし)　　○絵画における思春期の危機　　○実践例　　写生画　「花を描

く」　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ５５～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」　「絵に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考えてみよう。

第９回　「立体に表す」の指導
【key words】
心象表現　純粋美術　可塑性素材　立体性　素材性　触知性
【授業概要】
○立体に表す活動の特質　（立体性、素材性、触知性、心象性）　○題材化の視点　○各学年の立体に表す活動　○実践例　「１２年後のわたし」　人体の芯材の作り方　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」　「立体に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考えてみよう。

第１０回　「工作に表す」の指導
【key words】
応用美術（生活美術）　適応表現　試行錯誤　事故防止
○「つくる」ということの意味　○ものと人間の関係つくり　○工作の題材の基本　○工作の材料○工作の学習課題　○各学年の工作に表す活動　○実践例から　５，６年生の題材から「アミアミアミーゴ」教材研究
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」　「工作に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考えてみよう。

第１１回　「鑑賞活動の指導
【key words】
鑑賞、導入時の鑑賞，完成作品の相互鑑賞、独立した鑑賞活動
【授業概要】
鑑賞活動の指導　○導入時の鑑賞　○完成作品の相互鑑賞　○独立した鑑賞活動
鑑賞活動の特質　各学年の鑑賞
実践例から　５，６年生の題材から「カードをつかって」　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」　「鑑賞活動」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考えてみよう。

第１２回　子どもの絵の見方、育て方　（低・中学年）
【key words】
子どもの造形表現の発達　図式期、　擬実期、　空想画、　生活画、写生画（観察画）、基底線
【授業概要】
○図式期、擬実期の絵画の特徴、　写実期の芽生え　思春期の絵画の危機　発達段階とその指導　○様々な児童画を鑑賞し、それぞれの児童画の主題や表現のよいと思われるところについて、話し合い、また、どのような素材や材料、用具を使って指導をしているか調べる。
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ１５～２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。

第１３回　子どもの絵の見方、育て方　（中・高学年）
【key words】
生活画、想像画（空想画）、観察画（写生画）
【授業概要】
○児童画作品を見て、主題や表現のよいと思われることについて話し合う。どのような指導をしたと考えられるか、適切な描画材料や紙質についてなど話し合う。話し合いにより「絵に表す」活動の支援方法を考え合う。
【教科書ページ・参考文献】
○教科書　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ１３０～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。

第１４回　透視図法の表示練習　デッサンの基礎練習
【key words】
透視図法　消失点　アイレベル　円の透視図　タッチ　トーン　ハイライト
【授業概要】
透視図法の基礎練習　○一点透視図法　○二点透視図法　○円の透視図法
デッサンの基礎練習　○デッサンのこつ　タッチ　トーン　ハイライト　輪郭線
構造線　光と影の関係　稜線　○デッサン練習　立方体を描く　円柱を描く
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　「スーパー鉛筆デッサン」　絵画技法研究会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　円錐のデッサンに挑戦してみよう

	第１５回　　図画工作科教育の歴史　　現代の諸相　　まとめ 【key words】 臨画、図画、手工、自由画教育、民間美術教育運動 【授業概要】 １　戦前の様相(図画の歩み一臨画、自由画の台頭、手工教育)　２　図画工作科の登場と発展(試案としての学習指導要領、準教科書と検定教科書)　３　図画工作科の歩み　　４　現代の諸相　アクティブラーニングの指導 【教科書ページ・参考文献】 ○教科書　　「小学校図画工作科教育法］　Ｐ１６２～１８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「図画工作科教育の指導に大切なことは」コメントを書く
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。　必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。
オフィスアワー	毎授業後３０分間迄応じる。
評価方法	定期試験　７０％　実技制作作品及びレポート等　３０％
教科書	山口喜雄編著　「小学校図画工作科教育法」　建帛社、　文部科学省　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版
参考書	高階　秀爾監修　　「西洋美術史」　　美術出版社　　（２００７）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の学習指導要領に示された目標、内容などについて、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、実例を紹介したり児童用教科書を活用したり、実技を行ったりしながら具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　美術概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形　教育観を持つことができるようにする。 【到達目標】 ①造形活動の意義や特性について理解することができる。 ②学習指導要領に掲載されている図工科の目標及び内容等を理解することができる。 ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。 ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。
授業の概要	造形活動がいかに人間をリフレッシュさせてくれているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業の進め方の説明）　○芸術・美術の概念 第２回　造形教育の理念と構造　○自然主義の教育観と表現の意味の発見 第３回　造形活動の意義と図画工作　○「美術の機能」と図画工作科教育　○美術を通した教育 第４回　図画工作科の目標　○教科の目標　○学年の目標 第５回　図画工作科の内容　○内容の構成　○各領域及び〔共通事項〕の内容 第６回　指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　○内容の取扱いと指導上の配慮事項 第７回　「造形遊び」の指導　○造形遊びの意義　○各学年の造形遊びの目的・内容について　○段ボールを使った制作（小３，４年） 第８回　「絵に表す」の指導　○初めての水彩絵の具の使い方指導（小３，４年）○水彩画の技法について（重ね塗り、にじみ、ぼかし等） 第９回　「絵に表す」の指導　○にじみ、ぼかしの技法を使った小品制作　「花を描く」　（小５，６年） 第１０回　「立体に表す」の指導　○「立体に表す」活動の特質（立体性、素材性、触知性、心象性）○人体の針金の芯作りの制作（小５，６年） 第１１回　「工作に表す」の指導　○「紙工作」の指導の方法　○「おってたてたら」（小１，２年）○「幸せを運ぶカード」（小１，２年） 第１２回　「工作に表す」の指導　○「針金工作」の指導の方法　○「立ち上がれ！マイ・ライン」

	第１３回　　「鑑賞活動」の指導　　○「カードを使って（小５，６年）○「どんどんならべて」（小１，２年） 第１４回　　児童画の見方・育て方　　○思春期の絵画の危機の指導。　○様々な児童の作品のよさやおもしろさ、美しさを見付け、鑑賞し合う。 第１５回　　図画工作科教育の歴史　　現代の諸相　　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。　必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。
オフィスアワー	毎授業後３０分間迄応じる
評価方法	定期試験　７０％　　実技制作作品及びレポート等　３０％
教科書	新井哲夫編著　「小学校図画工作科の指導」　建帛社、　　文部科学省　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版
参考書	高階　秀爾監修　　「西洋美術史」　　美術出版社　　（２００７）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。 【到達目標】 ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。 ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。
授業の概要	履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。 社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる
	第２回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第３回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第４回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
	第５回	確認テスト【第1回】
	第６回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
	第７回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第８回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第９回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
	第１０回	確認テスト【第2回】

	第１１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第１２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク） 第１４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第１５回　まとめ 第１６回　オリエンテーション及び過去問等を解いてみる 第１７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第１９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２０回　確認テスト【第3回】 第２１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２５回　確認テスト【第4回】 第２６回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第３０回　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	①すでに履修済みの科目をグループワークを行うことから、教科書を持参することが望ましい。 ②グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚） ③解説はグループのメンバー分及び提出分をコピーしてくること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚） ②自分の担当の問題以外も調べておくことが望ましい。
オフィスアワー	【松永】火曜　10時～12時／金曜日　10時30分～12時　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。 【森田】第1回の授業時に説明する。
評価方法	定期試験50%、確認テスト20%、担当の問題の解説30%(※ただし、定期試験において、60 点に満たない場合は再試験とする。)
教科書	1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニン	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

グ	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
新木　恵一・益子　徹・江原　京子・吉澤　幸・梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。 〔到達目標〕 １　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。 ２　研究小論文の完成を目指す。 ３　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自立的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　建学の精神と実践教育プログラム①前期オリエンテーション（学長訓話・学部長講話、2年基礎演習Ⅱスケジュール、クラス裁量等）

【Key Word】
学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱのスケジュール
【授業概要】
・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学2年目を各自の目標が達成できるように、計画的に進めていくようにする。
・基礎演習Ⅱのスケジュールを確認する。
・クラス担任とクラス運営方針を確認し合い、2年次が充実した一年となるよう計画を立てる。
・本時の学習をワークシートにまとめ、担任に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
・鈴木利定・中田勝(2002)『咸有一徳』中央法規.
・平成31年度　授業概要
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を確認しながらワークシートをまとめ、担任に提出すること。
・次回、親睦スポーツ大会に向けた準備について、各クラスの体育委員を中心に進めること。

第２回　心身の健康プログラム①：親睦スポーツ大会に向けて（専攻別グループワーク）

【Key Word】
親睦スポーツ大会、健康、協働
【授業概要】
・体育イベント委員が中心となり、ネット張り等の準備・片づけを行う。
・専攻別グループワークを通して、親睦スポーツ大会の出場種目を練習する。
・チーム内で作戦を考え、優勝めざし練習に励む。
【教科書ページ・参考文献】
親睦スポーツ大会のパンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくこと。
	第３回	建学の精神と実践教育プログラム②：生活を科学するⅡ（雑巾を手縫いする）、環境美化活動の意義 【Key Word】 雑巾縫い、手縫いとミシン縫い、環境美化 【授業概要】 ・ミシン縫いと手縫いの違いについて理解する。 ・実際に雑巾を縫う。特に、針や糸、はさみの準備・後始末について、安全に作業ができるよう配慮する。 【教科書ページ・参考文献】 「ミシン縫いと手縫いの違い」プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 雑巾縫いが終わっていない場合は、明日までに仕上げ、提出すること。
	第４回	心身の健康プログラム②：学生生活の日常にひそむリスクを知る 【key Word】 学生生活、日常にひそむリスク、 【授業概要】 ・学生生活の日常にひそむリスクについて知る；男女関係、アルバイト、交通安全、SNS、宗教、薬物、アルコール、タバコ、マネートラブルについて、２学年の担当者から話を聞く。 ・本時の学習をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 「学生生活は危険がいっぱい」のパンフレットの活用。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・「学生生活は危険がいっぱい」のパンフレットを熟読し、学生生活が円滑におくれるようにすること。 ・本時の内容を確認しながらワークシートをまとめ、担任に提出すること。
	第５回	学士力育成プログラム①：図書館を使いこなそう 【Key Word】 図書館、蔵書検索レポートの書き方 【授業概要】 ・図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」の講義を受ける。 ・蔵書検索に関して、実際にＰＣ画面を見ながら学ぶ。 ・CiNii・論文検索の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 図書館司書が作成した資料を教科書とする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・図書館司書が作成した資料を熟読し、積極的に本を借りること。 ・本時の内容を確認しながらワークシートをまとめ、担任に提出すること。
	第６回	学士力育成プログラム②：研究小論文作成Ⅰ（作成の概要） 【Key Word】 研究小論文、小論文作成の概要 【授業概要】 ・小論文の書き方について学ぶ。 ・小論文の組み立て方を学ぶ（提示された小論文を読み解く）。 【教科書ページ・参考文献】 ・小論文の概要についての資料 ・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・小論文の概要と『知恵のステップ』を熟読し、小論文の書き方を確認すること。 ・本時の内容を確認しながらワークシートをまとめ、担任に提出すること。
	第７回	心身の健康プログラム③：子宮頸がんン検診啓発講話・ストレスを理解する/たばこの害 【Key Word】 心身の健康、子宮がん検診、ストレス理解、たばこの害 【授業概要】 ・前橋市　健康部　健康増進課、子育て支援課の講義を聞き、健康について考える。 ・子育て支援課:「体から考えるライフプラン」 ・健康増進課：「子宮頸がん検診について」 ・健康増進課：「たばこについて」 ・講義内容をまとめたものを担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 講義資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・健康を維持するために、日々の生活習慣を考えるきっかけとなったかどうかを検証すること。 ・講義内容をまとめ、担任に提出すること。
	第８回	学士力育成プログラム③：研究小論文作成Ⅱ（問いを立てる⇔テーマと背景） 【Key Word】 研究小論文、問いを立てる、テーマと背景 【授業概要】 ・小論文の問いの立て方について学ぶ。 ・小論文のテーマと背景について学ぶ（提示された小論文を読み解く）。 【教科書ページ・参考文献】 ・小論文の概要についての資料 ・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文の問いの立て方について再確認し、自身の小論文のテーマと背景を考えてくること。
	第９回	学士力育成プログラム④：研究小論文作成Ⅲ（先行研究の状況を調べる） 【Key Word】 研究小論文、先行研究 【授業概要】 ・先行研究の状況を調べる。 ・先行研究から自身の小論文のテーマを決める。 【教科書ページ・参考文献】

・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・先行研究の状況を調べ、自身の小論文の資料となる文献等を調べてくること。

第１０回　進路・資格取得プログラム①：年金セミナー
【Key Word】
年金セミナー
【授業概要】
・前橋年金事務所、総務調整課の方の講義を聞き、年金について理解を深める。
・本講義内容をまとめ、担任に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
年金セミナーの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本講義のまとめを行うことで、年金への理解が深められたかどうかを、確認すること。
・本時のまとめを担任に提出すること。

第１１回　学士力育成プログラム⑤：自己表現テスト
【Key Word】
自己表現、長所と短所、弱点
・自己表現テストに取り組む。
・終了後、自己採点を行い、自己の長所・弱点を把握しておく。
【教科書ページ・参考文献】
自己表現テスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自己採点を行い、自己の長所・弱点を把握しておくこと。
・用意した省察シートに則り、今後の学習計画を考えるようにすること。

第１２回　地域貢献プログラム①：地域とのかかわりⅠ（昌賢祭の意義・テーマ設定・計画立案　他）
【Key Word】
昌賢祭の意義、テーマ設定、計画立案
【授業概要】
・昌賢祭の意義、昨年度の制作・発表について知る。
・クラスで、昌賢祭のテーマ、制作・発表内容、計画を立てる
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次週の授業までに、クラスで発表するテーマを考えておくこと。
・必要な資料等の収集を行うこと。

第１３回　地域貢献プログラム②：地域とのかかわりⅠ（昌賢祭の意義・テーマ設定・計画立案　他）
【Key Word】
昌賢祭の意義、テーマ設定、制作・発表
【授業概要】
・前回の授業における話し合いを基に、今年度の制作・発表について考える。
・クラスで研究発表する昌賢祭のテーマ、制作・発表内容、夏季休業中の課題について話し合う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休暇中、テーマに沿った課題を進めておくこと。

第１４回　学士力育成プログラム⑥：研究小論文作成Ⅲ（研究方法を考える→夏季休業中の取り組み）
【Key Word】
研究小論文、研究方法、テーマ決め
【授業概要】
・前回の資料を基に小論文の書き方を確認する。
・小論文の研究方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・小論文のテーマに沿って資料の収集を行うこと。
・小論文の概要と『知恵のステップ』を熟読し、研究方法を考えておくこと。
・本時の内容を確認しながらワークシートをまとめ、担任に提出すること。

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③：前期総括：演習ファイル整理、自己点検、夏期休暇中の過ごし方　他
【Key Word】
前期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート
【授業概要】
・演習ファイルの該当ページを確認し、総括をまとめる。
・本授業の評価アンケートを行う。
・夏期休暇の過ごし方について、注意事項等
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教員が演習ファイルに書いたコメントを見て、後期の演習の課題を見つけること。
・夏期休暇中の有意義な過ごし方を確認しておくこと。
・昌賢祭の準備、小論文の資料収集とテーマ決定を行うこと。

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④：後期オリエンテーション：学長訓話、学部長講話、各委員会より、大学院進学等
【Key Word】
学長訓話、学部長講話、後期目標、大学院進学
【授業概要】
・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学2年次の後期を意欲的にスタートする。

・後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・演習ファイルの整理をしておくこと。
・本時のオリテンの内容をまとめ、担任に提出すること。

第１７回　学士力育成プログラム⑦：就職能力試験
【Key Word】
自己課題、一般常識、日本語力
【授業概要】
・就職能力試験の日本語力と数理能力分野の、自己の課題を確認する。
・自己課題に則り、自主学習をする。
【教科書ページ・参考文献】
就職課と連携した進路意識向上の試験とする。
学研就職能力試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本語や自己表現力を確認し、復習をしておくこと。

第１８回　学士力育成プログラム⑧：研究小論文Ⅳ（論文の表現と表記）
【Key Word】
研究小論文、論文の表現と表記
【授業概要】
・前期から進めている自身の小論文の表現と表記を確認する。
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版を使用し、表現と表記を確認する。
・各自、小論文を進める。
【教科書ページ・参考文献】
・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・小論文の進捗状況と次回までにやっておくことをまとめ、担任に提出すること。
・文献の収集等を行い、小論文を進めておくこと。

第１９回　学士力育成プログラム⑨：研究小論文Ⅴ（結果と考察）
【Key Word】
研究小論文、結果と考察
【授業概要】
・小論文の結果と考察を行う。
・各班に分かれ、小論文の完成に向けて助言をし合う。
・小論文の発表に向けて、レジュメを作成する。
【教科書ページ・参考文献】
・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・研究小論文の結果と考察を行い、小論文の完成に向けて進めておくこと。

第２０回　地域貢献プログラム③：地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【Key Word】
昌賢祭、制作・発表
【授業概要】
・クラス毎に、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の制作活動・発表準備計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の制作活動・発表準備を進めておくこと。

第２１回　地域貢献プログラム④：地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【Key Word】
昌賢祭、制作・発表
【授業概要】
・クラス毎に、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の制作活動・発表準備計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の制作活動・発表準備を進めておくこと。

第２２回　地域貢献プログラム⑤：地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【Key Word】
昌賢祭、制作・発表
【授業概要】
・クラス毎に、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の制作活動・発表準備計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の制作活動・発表準備を進めておくこと。

第２３回　地域貢献プログラム⑥：地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【Key Word】
昌賢祭、制作・発表
【授業概要】
・クラス毎に、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の制作活動・発表準備計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の制作活動・発表準備を進めておくこと。

第２４回　地域貢献プログラム⑦：地域とのかかわり

【Key Word】
昌賢祭、実践発表、地域とのかかわり
【授業概要】
・昌賢祭の実践発表を行う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の研究発表、発表準備計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の実践発表の総括。
・発表当日を迎え、地域の人たちとの交流ができたか、反応はどうであったか。

第２５回　地域貢献プログラム⑧：地域とのかかわり　（昌賢祭の振り返り）

【Key Word】
昌賢祭の振り返り
【授業概要】
・昌賢祭の振り返りを行う。
・研究発表に向けての準備、テーマの設定、発表内容等、振り返りシートに記入する。
・各班に分かれて、意見を出し合う。
・昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭の研究発表、昌賢祭の振り返りシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・昌賢祭の研究発表の振り返りを行い、課題を出し合い、次年度に繋げようにすること。
・振り返りシートをまとめ、担任に提出すること。

第２６回　進路・資格取得プログラム②：外部講師による講話

【Key Word】
外部講師による講話、進路、資格
【授業概要】
・外部講師を招聘し、卒後の進路、資格取得について考える。
・講義内容をまとめたものを担任に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
外部講師が持参した資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・外部講師の講話を聴いて、早い段階から将来を意識できるようにし、今やるべきことを意識できるようにしておくこと。
・講義内容をまとめ、担任に提出すること。

第２７回　進路・資格取得プログラム③：先輩学生（4年生）から伝えたいこと

【Key Word】
進路指導、職業理解・職業選択
【授業概要】
・各コースの４年生、５名程を招聘し、進路決定に向けた講話を聞く。
・専攻毎の分科会に分かれ、進路決定に向けた具体的な講話を聞く。
・4年生講話をまとめたものを担任に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
4年生の進路等を記したレジュメを使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各先輩の進路決定に至るまでの内容をまとめ、自身の進路について考えておくようにすること。
・4年生講話のまとめを担任に提出すること。

第２８回　学士力育成プログラム⑩：研究小論文Ⅵ（完成）

【Key Word】
研究小論文の完成
【授業概要】
・研究小論文の完成に向けた取り組みを行う。
・クラス内発表の準備をする（発表の順番、レジュメの内容等）
【教科書ページ・参考文献】
・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・研究小論文、クラス内発表の準備をしておくこと（レジュメの作成等）。
・研究小論文の提出締切日を確認しておくこと。

第２９回　学士力育成プログラム⑪：研究小論文Ⅶ（クラス内発表会）

【Key Word】
研究小論文クラス内発表会
【授業概要】
・研究小論文のクラス内発表会を実施する。
・真摯な態度で発表を聞き、メモを取る。
・発表した研究小論文に敬意を払い、意見・感想を述べる。
【教科書ページ・参考文献】
・小論文の概要についての資料
・学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・研究小論文の完成品を期日までに提出できるようにしておくこと。
・提出締切日を確認しておくこと。

第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤：後期総括：演習ファイル整理、自己点検　他

【Key Word】
後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート
【授業概要】
・演習ファイルの該当ページを記入し、後期総括をまとめる。
・本授業の授業評価アンケートを行う。
・2年次を振り返り、3年次に向けて計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】

	演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・2年次の振り返りをしっかり行い、3年次の課題を見つけようにすること。 ・春期休暇中にボランティアを行い、3年次の実習等に備えるようすること。 ・春期休暇中に各自が苦手としている科目等の復習を行い、基礎学力等を身に着けるようにすること。
受講生に関わる情報および受講のルール	1　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、講義メモ
授業外時間にかかわる情報	図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	研究小論文（４０％）、課題等の提出状況及び成果物（３０％）、取り組み状況（３０％）を総合して評価する。
教科書	1　鈴木利定・中田勝(2002)『咸有一徳』中央法規. 2　学習技術研究会(2002)『知へのステップ』くろしお出版.
参考書	授業で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　地域福祉の理論と方法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
井野　佳一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され，地域住民が主体となるまちづくり，地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場としてソーシャルワーク実践を理解する。また、福祉サービスの動向は少子高齢化の進展、それに伴う国の政策の方向を無視できないため、これらの理解も同時に進める。 【到達目標】 1）「地域」のとらえ方に関する理論を理解し，住民ニーズや解決すべき問題が把握できる（把握の方法を想定できる）。 2）コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し，住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。 3）ソーシャルワーカーとして協働すべきネットワークのあり方と地域組織化の過程が想定できる。 4）国等の政策を理解し、これに同調した事業の展開ができるとともに、必要に応じ行政機関等へ進言できる。
授業の概要	この講義では，地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し，受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得するとともに、少子高齢化の進展に伴う国等の政策の方向を正しく理解できる。集団や地域の捉え方に関する理論，地域ニーズの捉え方に関する視点，生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方，評価法，レポート課題など 第２回　少子高齢化社会と地域福祉 第３回　地域福祉の発展過程 第４回　地域自立生活の支援と地域福祉理論の発展、福祉圏域とは 第５回　地域福祉の主体と福祉教育 第６回　福祉教育の概念と内容、歩み 第７回　福祉計画の定義・現状・課題 第８回　行政組織と民間組織 第９回　地域福祉を進める各団体の役割と実際 第１０回　地域福祉実践のための各種法人、団体等の役割と実際 第１１回　コミュニティソーシャルワークの考え方と展開 第１２回　コミュニティソーシャルワークの展開と展開を進めるためのシステム

	第１３回　　専門多職種の連携とチームアプローチと住民・利用者等とのパートナーシップの保持 第１４回　　住民・利用者等の参加の意義と福祉行政への参画 第１５回　　ソーシャルサポートネットワークの考え方（助け合いの歴史と現代的なネットワーク） 第１６回　　ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、ソーシャルサポートの実践例 第１７回　　地域における社会資源の活用と調整・開発 第１８回　　地域における社会資源の活用と調整・開発、税制面での優遇と助成金の活用 第１９回　　地域における福祉ニーズの把握（アウトリーチの重要性） 第２０回　　地域における福祉ニーズの把握方法と実際 第２１回　　地域トータルケアシステムの必要性と考え方等 第２２回　　地域トータルケアシステムの展開方法、ソーシャルケア従事者の研修と組織化 第２３回　　福祉サービス評価が必要となった背景と利用者の権利保護 第２４回　　福祉サービス評価の考え方と方法・実際、プログラム評価とその展開 第２５回　　災害支援の考え方と方法 第２６回　　災害支援における地域福祉実践と課題 第２７回　　復習（社会福祉基礎構造改革の必要性と検討過程） 第２８回　　諸外国と日本の地域福祉推進の相違と今後　欧米諸国とアジア，日本の比較，文化の差異によるまちづくり 第２９回　　復習（地域福祉を担う人・団体） 第３０回　　復習（社会保障制度の発展と地域福祉）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業は教科書を中心に進めるが、必要に応じ講義の資料を配布する。その場合、予習した上で講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当箇所は可能な限り予習を行うものとする。次回の授業に該当する箇所は受講生個々で調べ予習を行うこと。また，必要に応じ時間外学習の課題としてWEB上でフォーラムを開設するので，ディスカッションに参加すること。 なお，定期試験での回答やレポートの提出のためには，授業中のトピックが極めて重要であるため，復習をすること。
オフィスアワー	授業中とその前後以外の時間には、アポイントを取っていただきたい。
評価方法	定期試験やレポート及び小課題60%　各回での考察40% これらに時間外学習の取り組みを加算する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　編　”新・社会福祉士養成講座　9　地域福祉の理論と方法”　中央法規出版　最新版
参考書	ベンクト・ニィリエ（ハンソン友子　訳）”再考・ノーマライゼーションの原理”現代書館（2008） 勝部麗子”ひとりぽっちをつくらない”全国社会福祉協議会（2016） 宮嶋望”いらない人間なんていない”フォレストブックス（2014）　など その他，授業のトピックスに合わせて紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習

	□ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助演習Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・柳澤　充・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。 【到達目標】 ①実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。 ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。 ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。 ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。 ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。
授業の概要	グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。　実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 授業概要】 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【key words】 シラバス、社会福祉士実習 【教科書ページ・参考文献】 ・『相談援助演習』（弘文堂）の目次，P13-17. ・実習へのガイドブックの目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で定めた書籍のページについて目を通してから受講すること
	第２回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【授業概要】就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【key words】医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
	第３回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【授業概要】就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【key words】医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ

（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第４回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助
【授業概要】就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第５回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【授業概要】虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第６回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【授業概要】虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第７回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【授業概要】虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第８回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.
及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第９回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１０回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１１回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【授業概要】高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１２回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【授業概要】高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１３回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【授業概要】高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１４回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【授業概要】障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１５回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【授業概要】障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１６回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【授業概要】障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１７回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【授業概要】成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】未成年後見人、成年後見人、身上監護
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１８回　事例研究　成年後見制度と相談援助
授業概要】成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】未成年後見人、成年後見人、身上監護
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第１９回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【授業概要】成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【key words】未成年後見人、成年後見人、身上監護
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第２０回　事例研究　苦情解決の対処方法
【授業概要】相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【key words】苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第２１回　事例研究　苦情解決の対処方法
【授業概要】相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【key words】苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第２２回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【key words】苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第２３回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

第２４回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してく

	ることを期待する。 第２５回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 第２６回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 第２７回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 第２８回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 第２９回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【授業概要】実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【key words】事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【教科書ページ・参考文献】『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 第３０回　演習まとめ 【授業概要】相談援助演習Ⅲでこれまで学習してきた内容についてのまとめを行う 【key words】第1～29回までに用いたkey words 【教科書ページ・参考文献】これまで扱ってきた『相談援助演習』（弘文堂）の範囲及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
受講生に関わる情報および受講のルール	(1) 履修上の注意 本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 (2) 学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。 (3) 予備知識や技能 上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助実習指導Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・柳澤　充・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習指導Ⅰを踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。 ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項（姿勢、倫理、技能等）を総合的に修得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。 【到達目標】 ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。 ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。 ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。
授業の概要	前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。 後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　前期オリエンテーション　授業方法と留意事項　実習先の確認 【Key Word】 実習前学習　実習への心構え 【授業概要】 今年度の実習指導Ⅱ・実習の流れの説明 各学生の状況確認 実習指導Ⅱ・実習の評価方法 事前学習一環として行った春休みボランティアの記録の提出 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出書類を整理しておく。 第２回　実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法） 【Key Word】 課題の発見　実習計画書　相談援助実習 【授業概要】 事前ボランティアを行なう中で自分自身の課題と相談員としての学ぶべきことは何かを考える。 その学ぶべきことはどのようにしたら実習で学べるのか文章にしていく。 学習の方法をグループで話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で学ぶことは何かを考えてくる。

第３回　実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性）
【Key Word】
実習課題　実習の留意点　実習計画

【授業概要】
　各種別に分かれ、先輩の実習体験談を聞き、不安に感じていることを質問し解消する機会とする。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習を行なっていく中で、現在疑問や不安に感じていることをまとめてくる。

第４回　実習先機関・施設の基本的理解　（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容）
【Key Word】
根拠法令　ニーズ　業務内容　多職種連携

【授業概要】
各実習先がどのような法令に基づいているのかを調べ、実習先の役割を知る。グループワークを行い施設・機関での社会福祉士の業務と多職種との関わりを話し合い、発表する。

【教科書ページ】
実習へのガイドブック
福祉小六法

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の業務について調べてくる。

第５回　相談援助実習資格試験
【Key Word】
社会福祉士　コミュニケーション

【授業概要】
社会福祉実習に向けた基礎知識や実習生としての態度に対して試験を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
相談援助の基盤と専門職

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今までの講義を復習しておく。

第６回　実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話）
【Key Word】
実習を行なうための心得

【授業概要】
　実習指導者より実習生に期待することについて講話をいただき、相談援助実習を行なうための心構えと実習において何を学びたいのかを考える機会にする。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へ向けての心構えを復習しておく。

第７回　実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解）
【Key Word】
契約書　合意書

【授業概要】
委託契約書と合意書の内容を講義し、実習生として遵守しなければならない事項を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
委託契約書、合意書を読んでくる。

第８回　実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機）
【Key Word】
実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習

【授業概要】
実習計画書と各段階（職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習）の実習で行なうことを講義し、自分の課題がどの段階で学べるのかを考え実習計画に取り入れていく。

【教科書ページ・参考文献】

		実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩の講話や実習指導者の講話を振り返っておく。
	第９回	実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題） Key Word】 実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 ワークシートを通して実習を通して学ばなければならないことを文章化し実習計画書を作成する。 【教科書ページ】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習計画を考えてくる。
	第１０回	実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」 Key Word】 実習計画書　実習生紹介票　誓約書 【授業概要】 実習生紹介票と誓約書の講義を行い、実習計画書、実習生紹介票、誓約書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習生紹介票、誓約書の内容を理解してくる。
	第１１回	実習プログラムの理解（個別支援プログラムの作成） 【Key Word】 職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 実習目標ワークシートと実習計画書をもとに23日間ある実習の課題と毎日の目標を考える。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習計画書を基にどのような実習が行なえるのか考えてくる。
	第１２回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項） 【Key Word】 事前オリエンテーション　実習中の諸注意 【授業概要】 事前オリエンテーションの意義、目的に対して講義を行う。オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方についてグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アポイントの方法について復習する。
	第１３回	記録方法の理解①（実習記録） 【Key Word】 実習日誌の目的　実習日誌の書き方 【授業概要】 　実習日誌の例を読み、自分ならこのように書くと思われる箇所に赤で修正を加える。近くの学生と修正した日誌を見せ合い、意見を分かち合う。出た意見を発表し全体で分かち合う。 　自分が書いた日誌を参考に利用者とのかかわりを思い出し、実習時にどのように日誌を書くのかを考えワークシートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日誌を書き直してくる。
	第１４回	実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理） Key Word】 実習生としての態度　個人情報保護　守秘義務 【授業概要】 実習の場面を想定したワークシートを使用し、実習生としてどのように答えるのか、どのような行動を取るのか考える。考えた内容を発表し全員で分かち合う。 個人情報の管理方法、SNSの使用について講義を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人情報とSNSの取り扱いについてまとめる。

第１５回　オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　巡回指導及び帰学日指導等

【Key Word】
実習プログラム　巡回指導　帰学日指導　PDCAサイクル

【授業概要】
実習に向けて学長先生より訓話、学部長先生より講話を頂く。
実習オリエンテーションで渡された実習プログラムを使用し、実習の内容や学ぶべき事を考える。
PDCAサイクルを使用し、実習中は実習計画の実行、評価、改善、計画を行いながら実習を行う。
巡回指導、帰学日指導について講話をし日程を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまでの講義の内容を復習してくる。

第１６回　記録方法の理解　実習報告書、実習レポート等　礼状作成

【Key Word】
実習報告書　実習レポート

【授業概要】
行ってきた実習の振り返りとして報告書を作成する。
実習レポートと実習プログラム表について説明を行い作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをするため、これまでの資料を整理しておく。

第１７回　実習評価の理解　自己評価

【Key Word】
実習評価表　自己評価

【授業概要】
実習評価表の説明を行い、行ってきた実習に対して振り返り、自分自身で評価を行う。
どのようなことができなかったのか、理由を考え、課題として行く。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。

第１８回　実習評価の理解　実習先評価　実習指導者の講評

【Key Word】
実習評価

【授業概要】
実習先から送られてきた評価表と自分の評価表を比較し、どのような差があったのか、なぜそのようになったのか理由を考え、課題とし、これから何を学習していくのかを考える。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。

第１９回　実習の振り返り（事前学習＊グループ討議と発表）

【Key Word】
実習事前学習

【授業概要】
実習を行なって、事前学習でやっていて良かった点、どのように役立ったのか、事前学習でもっとやっておけば良かった点、どのような場面でそのように思ったのか、それをどのように勉強したのかグループで話し合い、発表し分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習で使用したものを整理しておく。

第２０回　実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理＊グループ討議と発表）

【Key Word】
自己覚知

【授業概要】
実習中の自分自身が自己覚知で来た場面を振り返る。これから支援を行う中でどのように生かし

ていけるのか、また、他の人の意見を聞き自分自身はどのように考えるのか自己覚知を行い、グループで話し合い、発表する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。

第２１回　実習の振り返り（クライエントとの関わり、職員との関わり＊グループ討議と発表）
【Key Word】
コミュニケーション

【授業概要】
実習を振り返り、実習中にクライエントや職員との関わりで苦労した点を挙げ、自分がどのように対応したのかロールプレイを行い、クライエントの気持ちを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。

第２２回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【Key Word】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評

【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

第２３回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
Key Word】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評

【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

第２４回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
Key Word】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評

【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

第２５回　実習の総括　（※実習レポート等の完成）
Key Word】
実習表定評　自己表定評　実習指導者の講評

【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成し提出する。
実習プログラム表も提出する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
実習報告のパワーポイントを作成する。

第２６回　実習の総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）
【Key Word】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士

【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。

	【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 第２７回　実習の総括　クラス内実習報告会 【Key Word】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 第２８回　実習の総括　クラス内実習報告会 【Key Word】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 第２９回　実習の総括　クラス内実習報告会 【Key Word】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 クラスの代表を決定する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 第３０回　全体実習報告会 【Key Word】 実習総括　社会福祉援助実習 【授業概要】 各実習指導クラスの代表による実習報告　実習での体験を聞き対人援助を考える。　2年生は来年の実習に向け事前学習の一貫として体験を聞き、ワークシートをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。 ③欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位(180)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・柳澤　充・川端　奈津子・乾　明美・益子　徹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。
授業の概要	相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。 相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回

	第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1　将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2　社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3　健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4　実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5　実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6　社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者 7　ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8　相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9　相談援助実習資格試験に合格している者 10　学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
授業外時間にかかわる情報	【相談援助実習中止の措置】 相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1　重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2　利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3　心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。 4　守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5　実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6　実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき 7　実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③相談援助実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。 ※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のない教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　認知心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
安崎　文子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人はどのように考え行動するのか，人間の認知行動の基本を理解する。 【到達目標】 社会福祉の場面において，その知識が活用できるようにする。
授業の概要	知覚・認知心理学は，感覚や感情，思考や記憶，理解や推論といった人間の知覚・認知活動についてその仕組みと機能を探究する学問である。本講義では，臨床事例を紹介しながら，新たな知見や具体例を示しながら検討する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	ガイダンス・感覚 講義の進め方の確認・感覚の種類
	第２回	視知覚１ 視知覚の仕組みと機能，色彩、錯視、図と地
	第３回	視知覚２ 視知覚の仕組みと機能，奥行・運動知覚
	第４回	視覚認知 視覚認知の仕組みと機能，パターン認識，顔の認知，認知地図，失認症
	第５回	聴覚知覚・聴覚認知 聴知覚・聴認知の仕組みと機能，音楽と言語音，聴覚失認
	第６回	触覚・感性認知・その他の感覚 触覚・感性認知・味覚・嗅覚の仕組みと機能
	第７回	注意 認知を支える注意の働き
	第８回	短期記憶とワーキングメモリ 記憶の構造，ワーキングメモリの役割
	第９回	長期記憶・潜在記憶とプライミング 記憶と意識の関係，長期記憶の構造と機能
	第１０回	記憶の獲得と忘却・日常認知 展望記憶，自伝的記憶を含めた日常認知の過程と機能
	第１１回	思考と言語 問題解決と推論，人間の言語野特性と障害
	第１２回	概念と知識 概念モデル，知識概念のモデル
	第１３回	動機づけ・感情認知・社会脳 認知を支える動機づけ，社会脳，表情認知

	第１４回　　前頭葉機能 前頭葉機能，情動と抑制 第１５回　　まとめ 知覚・認知心理学のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。メールでのコメントの提出が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。
評価方法	定期試験60%，授業内の小テスト20%，授業態度20%で総合的に評価する
教科書	「認知心理学」有斐閣　箱田裕司ら
参考書	適宜、必要な文献を講義内で紹介する。また必要なプリントを配布する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をはじめとした子どもに対する援助職に求められる臨床心理学の基礎的知識の習得を目指す。特に、これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。 〔到達目標〕 ①子どものこころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになること。 ②子どもに対する心理査定の方法とその意義に関する基礎的な内容について説明できるようになること。 ③代表的な子どもに対する心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになること。
授業の概要	臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、子どもと保護者に関わる対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協同できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、そのなりたちや実践との関連を紹介する予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約、こころの異常・失調 (1)発達の遅れと偏り 【key words】 発達の遅れ、発達の偏り 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、事例を用いた演習を通じて、この講義で取り上げる子どものこころの異常／失調とそれを理解するために必要となる知識について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p22-25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：演習で使用した事例について「発達の遅れがあるかどうか」を調べ、その根拠とした資料を次回持参
	第２回	こころの異常・失調(2)困りごとを捉える4つの基準 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準、発達の可塑性 【授業概要】 臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について講義を通じて知識を得る。また、各自の作成したレポート課題を用いたグループワー

クを通じて、子どもの発達の異常（遅れ／偏り）を捉える視点について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p1-15

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第３回　〃　(3)ストレッサーとストレス反応、対処方略
【key words】
ストレッサー、ストレス反応、コーピング

【授業概要】
ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、保護者への対応を例に各自が作成したワークシートを用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p68-69

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。また、参考にした書籍を次回講義に持参すること。

第４回　〃　(4)発達の偏り①自閉的な子/不注意な子/多動な子とは
【key words】
発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害

【授業概要】
保育園や小学校をはじめ、さまざまな領域で正しい知識とそれに基づく対応が求められている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの特徴が教室や保育現場でどのようにあらわれうるかの視点について、各自が作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p81-97

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：次回は学内の様々な教室を移動しながら作業を行うため、バインダー等を用意することが望ましい

第５回　〃　(5)　〃　②学習指導上の困難さ
【key words】
発達障害、感覚過敏、環境調整
【授業概要】
代表的な発達障害で見られる感覚過敏による学習・生活上の困難と対応する環境調整について講義を通じて知識を学ぶ。また、学内の指定教室にて生じ得る困難と可能な環境調整についてのグループワークを行い、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p81-97

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：グループワークで使用したワークシートを各自で完成させ、次回持参すること

第６回　〃　(6)正常発達の中で見られる異常/困りごと
【key words】
発達課題、しつけ、第一次反抗期、認知発達段階

【授業概要】
発達障害をはじめとした器質的な異常が原因ではなく、正常発達の中で見られるさまざまな困りごとの背景とそれがもつ意味について講義を通じて知識を学ぶ。また、事例を用いたグループワークを通じて、それらの困りごとに対する保護者や子どもへの支援を考える際の枠組みについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p15-21,49-63

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。

第７回　心理療法の理論(1)精神分析的なアプローチ
【key words】
意識・前意識・無意識、イド・自我・超自我、防衛機制

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「精神分析的なアプローチ」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、この理論的枠組みを事例理解に活用する視点について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p7,40-42

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。

第８回　〃　(2)行動療法的なアプローチ①理論的背景とその技法

【key words】
レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「行動療法的なアプローチ」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、技法と理論的根拠の対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p183-184

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義の中で指示された仕組みが応用されている取り組みの例を3つ調べ、まとめたものを次回持参すること

第９回　〃　(3)　〃　②保育場面/教育場面での応用

【key words】
幼稚園嫌い、しつけ、引っ込み思案、系統的脱感作、トークンエコノミー法、SST

【授業概要】
行動療法の考え方に基づく幼稚園・保育園・小学校での実践とその仕組みについて講義を通じて知識を得る。また、その実践における留意点について各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p49-69,144-154

【課題・予習・復習・授業準備指示】

適宜指示

第１０回　心理査定(1)面接法

【key words】
構造化面接、半構造化面接、非構造化面接、ラポール

【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異とそれぞれの特長について、保護者との面談のロールプレイを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p109

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第１１回　心理療法の理論(4)カウンセリングと遊戯療法

【key words】
無条件の積極的尊重、共感的理解、純粋性、カタルシス、制限

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「カウンセリング・遊戯療法の考え方」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その効果を支えるメカニズムについて、各自の取り組んだ課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p43-48,178-181

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	適宜指示 第１２回　心理査定(2)観察法 【key words】 自然観察法、実験観察法、参加観察法、非参加観察法 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの手法の特長と保護者・子ども達への影響について、事例を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：次回取り上げるテーマに関して紹介した記事／映像について適宜閲覧しておくこと 第１３回　こころの異常・失調(7)愛着の問題に関連した異常/困りごと 【key words】 愛着、愛着障害、マルトリートメント、ストレンジシュチエーション法 【授業概要】 昨今の保育・教育・福祉領域で正しい理解と対応が求められている愛着の問題について講義を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p36,98-106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された心理検査について完成させて次回持参すること 第１４回　心理査定(3)検査法 【key words】 知能検査、質問紙法、投影法、作業検査法 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法の特徴、特に知能検査について講義を通じて知識を学ぶ。また、各自の完成させた検査結果を用いたグループワークを通じて査定結果の意味について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p110-118、173-177 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行い、これまでに紹介した臨床心理学の知識を用いた実践について講義・演習を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・社会福祉専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には必ず事前に相談すること。 ・初回のオリエンテーションに必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に担当教員に申し出ること。 ・課題として調べ学習や自分の考えをまとめるレポートの作成を求める機会が多いため、図書館，PC室／LL室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	レポート課題の提出：35%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価：35%、定期試験：40% （詳細は初回講義時に説明）
教科書	山口勝己（著）「子どもの理解と発達臨床」北大路書房（2007）
参考書	麻生 武・浜田寿美男(編)　よくわかる発達臨床心理学〔第4版〕　ミネルヴァ書房（2012）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理療法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理療法並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を理解し，事例への適用について考察することができるようになること。 ［到達目標］ ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用、その限界について説明できるようになること ②福祉，保健医療，教育等の領域における訪問による心理的支援や地域での実践の意義について説明できるようになること ③心理学的支援における留意点や倫理的配慮を想定できるようになること
授業の概要	心理療法は、臨床心理学の知見を応用した心理的支援の技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴が存在する。本講義では「心理的支援が実施できるようになること」ではなく、これまでの講義で学んできた「心理的支援に関する理解」を深め、対人援助職を目指す／対人援助職として活躍する中で、その知識を活用できるようになることを目指す。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①精神分析療法／力動的アプローチについて理解し、説明することができる。	◎	○		○
②）行動療法／行動的アプローチについて理解し、説明することができる。	○	◎	○	◎
③来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ　面接技術について理解し、説明することができる。	○	○	◎	
④家族療法／システムズ・アプローチについて理解し、説明することができる。	○			◎
⑤技法に特徴を持つ心理療法について理解し、説明することができる。	○	◎	○	◎
⑥『ことば』に頼らない心理療法について理解し、説明することができる。	○	◎	○	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーションと授業契約，心理療法とカウンセリングの歴史 【Key words】 臨床心理学の全体構造　カウンセリング／心理療法／臨床心理学の違い　日本の臨床心理学の課題 【授業概要】 日本の臨床心理学には、森田療法や内観療法といった心理療法もあるが、基本的には欧米からの移入によって成立し、発展したのが日本の臨床心理学の歴史である。そのような発展史を経て、現在、日本の臨床心理学は、大きな転換点に立っている。2001年よりスクールカウンセリングが

公式に導入され、専門活動として社会から認知される段階に至っている。その結果、外国から移入した各学派の理論を越えて、日本の社会的現実に根差した臨床心理学の統合と再構築が求められている。そのような日本の臨床心理学の歴史を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
P18　P25（6世界の臨床心理学の歴史　7日本の臨床心理学の歴史）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

第２回　基礎となる3つの考え方（１）精神分析療法／力動的アプローチ
【Key words】
Freud,S.　無意識と意識　精神分析の古典的技法（自由連想法・介入・会社ぅ・抵抗の分析・夢の分析・転移の分析）
【授業概要】
フロイトによる精神分析理論を学ぶ。フロイトは1893年以降、ヒステリー研究、強迫神経症の研究から基本的な理論を示した。精神分析理論では、意識的な力以上に、無意識の力が人の行動を決定していると考える。精神分析技法のひとつである自由連想法は無意識を意識化するための技法である。精神分析の古典的分析技法にはどのような技法があるのかを学習する。また、心的構造論とはどのような理論のか。そして精神性的発達理論、防衛機制を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P146～P153（3.精神分析 4.分析心理学）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からいくつかの発問（防衛機制の働き）に対して隣席で議論し、発表する。

第３回　基礎となる3つの考え方　（２）行動療法／行動的アプローチ
【Key words】
レスポンデント行動　オペラント行動　学習理論　古典的条件づけ　オペラント条件づけ
【授業概要】
行動療法は、アイゼンクによって「学習理論に基づく実験によって基礎づけられたすべての行動変容法」と定義された。現在の行動療法は、仮説検証を目指す実証的なアプローチを共通基盤に持ち、「行動科学から引き出された知識と系統的に利用して人間の問題の把握と編用意応用する技術の総体」として理解されている。授業では、行動療法における学習と行動を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P154～P157(5.行動療法)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、学習の結果としての不適応行動に対して隣席で議論し、発表する。

第４回　基礎となる3つの考え方　（３）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ　面接技術
【Key words】
クライエント　非指示的アプローチ　逐語記録　無条件の積極的関心　共感的理解　自己一致
【授業概要】
クライエント中心療法は、アメリカの心理療法家であるロジャーズによって提唱された。理論の基本は「個人は自分の内部に、自己理解の大きな資源、また、自己概念・基本的態度、自主的行動を変えるいい気な資源をもっている」というように、人間の成長可能性に最大の信頼を置いた。クライエントの成長可能性が最大限に開花するような場さえ提供されれば、クライエントは自然に心理的成長を遂げると考えた。このカウンセラーの仕事とは？　また自らの問題に取り組めるような場を提供するためにはどうすればよいのか？について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P142～P143（2.クライエント中心新療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、カウンセラーの仕事とは？
自らの問題に取り組めるような場を提供するためにはどうすればよいのか？隣席で議論し、発表する。

第５回　エビデンスを重視する心理療法：認知行動療法
【Key words】
認知行動理論　エビデンスベイスト　ABC理論　推論のあやまり　三項随伴性（刺激ー反応ー結果）
【授業概要】
認知行動療法は、実験心理学、行動科学、認知科学の知見を臨床実験に応用し、実証的な方法を用いて人間のさまざまな適応問題を改善しようとする心理療法である。現在、治療の有効性が厳しく審査される欧米において、クライエントの恩恵を最大限にすべく効率性を実証し、社会的な説明責任を全うしようとする認知行動療法が心理療法の中核的地位を占めるに至っている。その成り立ちを学ぶ。認知量が依拠するABC図式とは？推論の誤りとは？を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P158～P161（6.認知行動療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、推論の誤りの例を席で議論し、発表する。

第６回　問題に介入する心理療法（１）家族療法／システムズ・アプローチ
【Key words】
IP(Identitied Patient)　円環的因果律　家族システム論　家族療法の技法
【授業概要】

家族療法は個人を取り巻く家族をひとまとまりの単位として心理療法の対象とする。家族療法においては、他の心理療法では患者もしくはクライエントと呼んでいるような、問題行動や症状を呈している人物をIP(Identified Patient)と呼ぶ。IPとは「患者とみなされる人」という意味であり、IPが示す問題行動や症状は、個人だけではなく家族のSOSであるとみなされる。このような家族療法がどのような発展をしてきたのか、歴史と理論、理論の技法などを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P162～P165（7家族療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、家族療法における技法を使用した例を挙げ隣席で議論し、発表する。

第７回　問題に介入する心理療法（２）コミュニティ心理学とナラティヴ・セラピー
【Key words】
地域精神保健活動　心理的社会的問題　社会的文脈のなかの人間　人と環境への働きかけ　社会構成主義　相対主義的性質
【授業概要】
コミュニティ心理学は、1960年代の米国において、地域精神保健活動を母体として誕生した新しい心理学の分野である。その実践領域は、社会のなかで生じる心理社会的問題の諸領域に拡大しながら発展している。社会的なニーズの多様化、変化に応じて、コミュニティ心理学の実践の場も変容を続けている。したがって、コミュニティ心理学の定義にも多様なものがみられる。ここでは、コミュニティ心理学が基盤にもつ人間観や基本理念、などを学ぶ。
ナラティヴ・セラピーは、自己について語ることが自己を構成するという、社会構成主義的な自己論に立脚し、新たな語りを生むことが、新たな自己を構成することに通じるとみなす。セラピストの「無知の姿勢」の役割とは？どのようなことか学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～P171(8コミュニティ心理学 9ナラティヌ・セラピー)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、セラピストの「無知の姿勢」の役割について隣席で議論し、発表する。

第８回　日本独自の心理療法：動作法・森田療法・内観療法
【Key words】
森田療法の「ヒポコンドリー現象」　内観療法の「身調べ」　動作法の心身一元「現象」
【授業概要】
動作法は、ことばではなく、クライエントの動作を主な媒体として用いる心理療法である。森田療法の対象は、森田神経質と呼ばれている神経症、対人恐怖症、不安神症、強迫障害、パニック障害などがある。また、内観療法は、自分の「内を観る」ということである。内を観て自分を知るということは、心理療法において最も重要な作業である。以上の日本で生まれた心理療法について、理論と方法を学ぶ。動作法は実際に体験してみる。
【教科書ページ・参考文献】
P172～177（10動作法　11森田療法　12内観療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、心理療法：動作法・森田療法・内観療法の理論を臨席で議論し、発表する。

第９回　『ことば』に頼らない心理療法（１）遊戯療法
【Key words】
遊ぶことの意味　アクスラインの8原則　問題解決を促すかかわり
【授業概要】
遊戯療法では、子どもとセラピストが遊びに集中できるための枠組みが重要になる。枠組みとはどのようなものか、遊ぶことにはどのような意味があるのか学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p178～p179（1遊戯療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、遊ぶことにはどのような意味があるのかを臨席で議論し、発表する。

第１０回　『ことば』に頼らない心理療法　（２）表現療法・箱庭療法・コラージュ療法
【Key words】
「選ぶ」こと「箱」「置く」「切る」「貼る」こと　表現療法の意義
【授業概要】
箱庭療法はイメージを媒介する介入方法の一つである。たくさんのミニチュアからいくつかを「選んで」、それらを「箱」のなかに「置く」、このような作業がどうして介入効果を持つのであろうか、箱庭療法の意義をを学ぶ。表現療法・コラージュ療法の理論・技法を学ぶ。実際に体験する。
【教科書ページ・参考文献】
p180～p181（2箱庭療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際にコラージュ療法を体験して、感想や自分にとってどのような意味があったのかを発表する。

第１１回　技法に特徴を持つ心理療法（１）自律訓練法
【Key words】

	受動的注意集中　標準練習　特殊練習　黙想練習　気持ちが落ち着いている 【授業概要】 自律訓練法は、心身安定のための心理整理学的訓練法で、一定の言語公式を心の中で反復的に唱え、その公式の内容に受動的注意集中を行って、段階的に心理生理的再体制化をはかる方法である。その効果を体験的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P186　P187（5自律訓練法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際に自律訓練法を体験して、感想や自分にとってどのような変化・意味があったのかを発表する。
第１２回	技法に特徴を持つ心理療法　（２）アサーション・トレーニング 【Key words】 自己表現　アサーション　非主張的表現　攻撃的表現　「私もOK、あなたもOK」 【授業概要】 アサーションとは、「自分の気持ち・考え・意見・相手への希望などを伝えたいときには、なるべく素直に、正直に、その場にあった適切な方法で杖たる自己表現」することである。その根底には、人間一人ひとりが頃なる価値観や考えをもち、表現することを基本的人権として大切にしようとする理念がある。また、アサーションは自分だけでなく相手の権利でもある。相手も自分も大切にする表現とはどのようなものかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P196　P197（10アサーション・トレーニング） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際にアサーション・トレーニングを体験して、感想や自分にとってどのような変化・意味があったのかを発表する。
第１３回	集団に対する心理的支援：集団療法／エンカウンター／心理教育 【Key words】 ファシリテーターと複数のメンバー　グループ・ダイナミクス　対人関係 【授業概要】 集団療法は、集団を対象とした心理療法であり、セラピストあるいはファシリテーターと複数のメンバーによって行われる。効果としては、対人関係の体験学習、情報交換、自分が受け入れられる感覚を得ることなどがある、集団療法の種類や特徴を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P198～P207（1集団療法　4心理教育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際に「心理教育」における集団療法を体験して、感想や自分にとってどのような変化・意味があったのかを発表する。
第１４回	コミュニティにおける相談活動　被害者相談／異文化間カウンセリング／EAP 【Key words】 被害・被災とトラウマ反応　心理的反応　適応の援助　文化の問題　従業員援助プログラム　行動側面に注目 【授業概要】 自然災害に被災人や、工場・乗り物の事故、強盗・暴行・虐待・性暴力・ストーカーなどの被害に遭った人たちに対する支援やケアの必要性が社会的に注目されている。衝撃的で強いすとれすとなる出来事に巻き込まれたときに、さまざまな精神的な変調を生じることがあり、これをトラウマと呼んでいる。こうしたトラウマ体験への多様な心理的反応を知り、どのような対応ができるのか考える。また、異文化接触に伴う適応の援助とはどのようなことかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P218　P223（15被害者相談　6異文化間カウンセリング　7 EAP） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、被害者相談にはどのような相談があるのか理解して、その心理支援の在り方について隣席で議論し、発表する。
第１５回	コミュニティにおける相談活動　ターミナルケア／まとめ 【Key words】 死への心理的プロセス　ターミナルケア　緩和ケア　精神的ケアの重要性 【授業概要】 ターミナルケアとは、積極的治療を中止し、人生ののこりの時間をできるだけ少ない苦痛で、安らかに、質の高い時間の中で過ごすことを目的にしている。その意味で、ターミナルケアは治療(cure)ではなくケア(：看取り）なのである。 【教科書ページ・参考文献】 P226　P227（9ターミナルケア） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、心理療法のまとめを行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニング】 グループワーク　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、死へ心理的プロセスに同行する援助者としての精神的ケアについて、グループで話し合い、発表する。最後のまとめとして全授業の振り返りをして発表する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。

	〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・「意見交換」や「用語の他者説明」を促した際は、近くの学生と積極的に取り組むこと。 ・その他，詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	事前にシラバスの記載内容を確認し予習をしておくこと。各回の冒頭に、前回の講義内で紹介した心理療法に関する豆テストを実施する。したがって、授業内の指示に沿って復習や準備を行うこと。
オフィスアワー	火曜16時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	①ミニテスト　10%　　②調べ発表内容　10%　③グループディスカッション　10%　④課題　10%　⑤学期末試験　60% ＊出席が規定に満たしてはじめて評価の対象になる。
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育内容（表現）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	１単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「領域　表現」における理論的・実践的な学びを通じ、子どもの創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す 【到達目標】 ①乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、「領域　表現」の基本的理念を理解する ②乳幼児の身体や言葉の表現の特徴を知る ③子どもの育ちを支える、学生自身の「感性・表現」を磨く ④グループ活動を通じ、保育者に必要な他者との「協力」して「総意工夫する」態度を養う
授業の概要	本講義では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における「領域　表現」について基本的理解を深めると共に、グループ演習を通して仲間と協同して表現する体験的・共感的な活動を行う。また、乳幼児の表現活動を支える保育者としての役割を理解し、自分自身の表現力を養い、保育現場で実践できる力を培う。 （本講は保育に必要な理論を学ぶ意欲と、表現力を磨く積極的な参加態度・他者と協力する前向きな態度を要します）

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション 授業概要説明 第２回　おはなし　語り　　言語表現 授業内発表にむけての概要説明　表現とはどのようなことか確認する 練習の方法などを伝え、音読を繰り返しする チャイルドブック　ちいさな昔話51話より 第３回　造形による表現活動（新聞紙を使った空間表現） 新聞紙を使って自分なりの空間を作り出していく。また、指導案に結びつけ指導計画をたてる。 完成したものを写真を撮るなど記録しておく。 必要なもの　新聞紙・のり・テープなど 第４回　諸感覚を通しての感性と表現　①小麦粘土より 実際に小麦粘土で遊んでみることで、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える 指示にあった授業準備をしておく 完成したものを写真を撮るなど記録しておく。 小麦アレルギーの有無を確認する 汚れても良い服装 必要なもの　洗面器やボール 第５回　諸感覚を通しての感性と表現　②反省・改善・指導案まとめ 小麦粘土を通して、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える。指導案に配慮すべき点などを考え、表現と環境のつながりを知る 実際に行ってみて、体感したことや気づいたことを発表し、他者の意見を聞く 第６回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　①事例紹介・紙芝居の選択

	表現者としての保育者であることを知り、物語をより効果的に伝えられるようにする 第７回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　②指導案作成・発表 表現者としての保育者であることを知り、物語をより効果的に伝えられるようにする 他者の演じ方を見ることで、改善点や反省点に気づく 第８回　グループ表現活動　オペレッタを通して　①概要説明・グループ決め・調べ学習 グループ決め　お話の内容を深く読み、配役や演出を考える 時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合ってまとめておく 第９回　グループ表現活動　オペレッタを通して　②構想・演出・製作・練習 構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業 グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる。造形に対する感性と表現を考える。 時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく 第１０回　グループ表現活動　オペレッタを通して　③グループ練習 グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる 時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく 第１１回　グループ表現活動　オペレッタを通して　④　オペレッタ発表会 グループごとに練習してきたものを発表し、クラス全体で相互評価をし、表現とは何かを知る 改善・反省のための記録をとり、振り返る 第13回の発表にむけ、語りの中間発表をし、具体的な語りの方法を知る 第１２回　音・音楽による表現活動　音あそび（廃材を使った楽器作り　表現テーマ「クリスマス」） 身近な生活の音に耳を傾け、廃材から楽器を作り音を楽しむ テーマに沿って必要なものを準備しておく 必要なもの　　ペットボトルや空き缶・空箱などの廃材　　楽器作りに必要なもの　テープ　ハサミ　等 第１３回　表現活動を行う際の保育者の役割　「語り」発表 個々の課題である物語を発表する。人前で話すことで、言葉の伝え方やひきつけ方を体感する チャイルドブック　ちいさな昔話51話より 第１４回　表現活動を行う際の保育者の役割　まとめ 子どもの感性と表現を育む保育者としての存在について 第15回目の授業に備えて、今までの授業内容をまとめておく　資料整理など 第１５回　まとめ学習　総まとめ　ポスター製作 本講義で学び、体感した「表現」をまとめ、自己評価をする。 ポスター製作に向けた資料や必要な画材の準備をしておく 必要なもの　　本講の授業資料(写真など)　のり　ポスカ　マスキングテープ　ハサミ　等
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格・幼稚園免許取得の学生はすべての講義に出席すること ・最終授業内で、まとめ学習を行う。毎回の授業の記録をよくとることと、作品の記録用写真を撮っておくこと。 ・表現活動内で使用する教材は配布資料をもとに事前に用意しておく ・関係書類などの提出期限は守ること ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・ボランティア活動や実習において、子どもの遊びや表現活動を意識して観察をする ・グループでの活動や事前準備が必要な場合は確認をしておく
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	授業時の課題など30%　グループ活動・発表30%　筆記試験40%を総合的に評価する

教科書	平田智久・小林紀子・砂上史子編：保育内容「表現」：ミネルヴァ書房
参考書	授業中に適時指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ☐実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ☐協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習Ⅰ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸・川端　奈津子・吉澤　幸・巣立　佳宏・青木　純恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①保育所の役割と機能を理解する。 ②乳幼児を観察し理解する。 ③保育士の役割と仕事内容を理解する。 ④多様な保育内容を理解する。
授業の概要	-

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回

	第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	–
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	–
参考書	–
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表　現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。 ③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。	◎	◎	○	○
②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。	◎	○	○	○
③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。	◎	○	◎	◎
④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。	○	◎	○	◎
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 【key words】 シラバス、幼稚園教育要領、保育所保育指針、造形表現の特質 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　　○受講のために準備するもの　　○受講のルール

【教科書ページ・参考文献】
教科書 造形表現の指導　Ｐ１～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。

第２回　表現の本質　　表出と表現　　領域「表現」のねらいと内容　　造形表現の分類　　造形表現の特質
【key words】
自然主義の教育観、表現と表出、未分化、ルソー
【授業概要】
○幼児期と造形表現教育　（自然主義の教育観と表現の意味の発見）　○表現の分類　○表現と表出　　○領域の総合化と造形表現　○造形表現の特質　○子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割
【教科書ページ・参考文献】
教科書 造形表現の指導　Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。

第３回　幼児期と造形表現　　造形表現の指導のねらい
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、ねらい、内容、遊びの総合性
【授業概要】
○幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容　○保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容　○保育内容「５領域」の考え方　○遊びの総合性　○領域「表現」と小学校教科との関係
【教科書ページ・参考文献】
教科書 造形表現の指導　Ｐ３～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを図面に書いてくる。
はさみ、カッターナイフ持参

第４回　ポップアップカードの技法　　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○飛び出す仕組みのあるカードの利用契機　（誕生日、母の日、敬老の日、ありがとう、魚図鑑、動物図鑑、花図鑑、お菓子の国、お伽噺の世界等）　○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　○アイデアスケッチ　○試作　　○図面書き
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己のカード作品の続きを作る。

第５回　ボップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）－組み立て）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　（アイデアスケッチ　試作　図面書き　カッティング　折る（筋引き）　組み立て）
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　自己のカードを完成させる。

第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　　○図面の見方　（切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ）　　○製作工程　（図面書き→切る→筋付け→折る→組み立て→貼る）　○アイディアスケッチ　○試作　○図面書き　　○製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　ｍａｉｍａｉ　「はじめてり手作りカード」　　日本ヴォーグ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　完成しなかった作品は仕上げてくる。

第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」
【key words】
表現と表出、子どものリアリティー、リアリズム
【授業概要】
○表現と表出について　　○子どもと大人のリアリティーの違い、子どものリアリティー(感覚の総体としてのリアリズム)とは？　　○褒めるのではなく「認める」こと　　○子どもの感性と絵画表現(その子の表現をどう読み取るか)　　○幼児の絵の良い点を見つけ出して話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　　鬼丸吉弘　「児童画のロゴス」　　勁草書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　本日の資料（幼児の絵）の中から特によいと思った作品を選び、感想を書く。

第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　染めた紙で役に立つ小物づくり
【key words】
折り染め　浸透性のある紙　ジャバラ折り
【授業概要】
○織り染め製作　浸透性のある和紙（障子紙）に絵の具をつけると、色が広がって思いがけない模様ができる。　様々な紙の折り方（ジャバラ折り、四つ折り、二つ折り、ランダムに折る等）を工夫。絵の具の色や濃さ、つける量を工夫する。　○染まった紙で役立つ小物作りを考案・製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
染まった紙で生活に役立つ小物作りを考案する。
予習　どのような面白く楽しいパクパク人形をつくるか考案してくる。

第９回　教材研究　紙コップでつくるパクパク人形
【key words】
紙コップのパクパク人形
【授業概要】
紙コップのパクパク人形の製作　○アイデアスケッチをする。　○紙工作のどのような技法を使うか考える。　○紙コップを眞二つに切る。　○頭部と身体部をつないで口がパクパク動く人形をつくる。　○毛糸、色紙、色画用紙、和紙、フエルトペン、色鉛筆等を使って体や衣服をつくる。　○パクパク人形をつかった遊び方を考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　雑誌　「保育とカリキュラム」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品完成にむけて製作の続きをする。

第１０回　教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵
【key words】
吹き散らし　流し絵
【授業概要】
○吹き散らし製作　画用紙に水で溶いた絵の具をたらし、それを口で吹いたりストローで吹いて絵の具を散らして遊ぶ活動。　絵具の濃さを工夫する。　○口で吹く、ストローで吹く。
○流し絵製作　画用紙にスポイドで絵の具を落とし、画用紙を上下、左右、円形等に動かすことにより、絵の具をたらして遊ぶ活動。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ６０～６１
参考文献　「絵画あそび技法百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　でき上がった作品からイメージをふくらませ加筆して絵にする構想を考える。

第１１回　指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方、）
【key words】
指導計画の弾力的な取り扱い、未分化、総合的な活動、成長段階に即応、安全性
【授業概要】
○指導計画の必要性とその意義　○指導計画の基本　(幼児の実態把握、家庭の実態や要求、地域社会の実態や要求、幼稚園・保育所の環境状況)　○指導の目標(活動のねらい)の設定　○指導の内容(活動の展開)の構成
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１０９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　質問事項をまとめる。

第１２回　指導の過程（指導の段階）　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ
【key words】
指導の過程　事前準備　動機づけ、導入段階　相互評価
【授業概要】
○造形表現の指導の過程（指導の段階）　・事前の準備　・動機づけ（導入段階）の方法　①話し合いによる方法　②参考作品を見せる　③視聴覚的な器材を利用する方法　④環境とか雰囲気を整えること　・展開　（表現活動の主要部分、自主的意欲的に製作する）　・まとめ（作品完成後の相互評価、材料・用具の整理整頓の方法）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　質問事項をまとめる。

第１３回　紙レリーフの表現技法練習　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等）
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○壁面装飾をする目的　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、装飾的なもの、ニュースや情報の伝達等）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、髪の毛、帽子、服、建物、樹木、花)　○試作　○製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような紙レリーフ作品をつくるかアイデアを練ってくる。

第１４回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイデアスケッチ－試作－製作

【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○アイデアを練る　保育室の壁面を紙レリーフで表現する。　（季節感、行事関係、物語や空想の世界）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、帽子、服、髪の毛、建物、樹木、花等)　○製作　保育室の壁面を子どもたちが楽しめる紙レリーフで装飾する。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。

第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作
【key words】
紙レリーフ　ペーパースカルプチャー　感性　鑑賞　造形的な環境
【授業概要】
○壁面装飾の内容　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、情報伝達、その他）
○製作
○相互鑑賞をする
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。

第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　製作－鑑賞
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○製作　主体を引きたてる付属品の製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作り完成させる。

第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（教材展開催の展示の方法について）
【key words】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ
【授業概要】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ、準備
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０４～１０５、１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育教材展の構想・準備について構想を練ってくる。

第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方
【key words】
つくってみることによる教材研究
【授業概要】
○教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択、開発し、その教材つくりをする）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１２２，１１６、１０５、１０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材作品を仕上げる

第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
造形表現指導案、事前の準備、導入段階、動機づけ、参考作品、展開、まとめ
【授業概要】
○様々な子どもの実態や発達段階、環境等を配慮して、子どもが楽しめる創造的な造形活動を考える。(指導案作成)　○教材構想の視点(①はじめに子どもに経験させたいねらい・目標がある場合　②はじめに素材・材料がある場合　③素材を用いたり、場(環境)で経験、活動すること自体が目標の場合　)
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする

第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
指導案　つくってみることによる教材研究　子どものすがた　導入段階　展開　まとめの段階
【授業概要】
○指導案の作成　つくってみることによる教材研究が終わったら、指導案作成にうつる。
・教材名　・子どものすがた　・教材のねらい　・実習生のねらい　・準備
・導入段階　・展開　・まとめの段階（相互評価　）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする

第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー）
【key words】
伝承的な草花遊び、笹の葉の小舟、椿の葉によるぞうり作り、草相撲、しろつめ草の首かざり
【授業概要】
○自然物(植物の花や葉や実、小石や貝殻)の色や形の美しさ、おもしろさ、不思議さに共感
○自然に親しむことの大切さ　（自然の美しさ神秘さや自然特有の生命や時間－永遠－を伝えてくれる）　○草花を使った昔からの伝承遊びを伝える　○松ぼっくりの形の面白さ、不思議さ、美しさ　○松ぼっくりのミニクリスマスツリーを作る
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬保育の準備をする

第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー）
【key words】
デカルコマニー、あわせ絵、加筆、偶然にできる模様、イメージ
【授業概要】
○担当の学生による模擬保育「題材名　デカルコマニー」を行い、授業後反省会を行う。　○授業参観の着眼点(合わせ絵で偶然できる色々な形に興味を持って楽しく取り組めたか。できた形から何の形に見えるかイメージし、浮かんできたイメージを基に発想し、楽しく加筆できたか。)
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる

第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り）
【key words】
装飾物　シンボルマーク　サイン　機能的な技法
【授業概要】
○模擬保育　「身につける飾り」　身近な材料を利用して身につけるための仕組みや機能的な技法を工夫して飾りを製作する。
○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる

第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵）
【key words】
はじき絵、バチック、クレヨン、パス、ろうそく、
【授業概要】
○模擬保育　「はじき絵」　画用紙にクレヨン等で絵や模様を書き、水彩絵の具や墨などを適当な濃さに溶き、刷毛や太筆でさっと塗ると、絵や模様が絵や模様が絵の具をはじいて表れる。　○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５８～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる

第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵）
【key words】
画用紙のぬらし方、準備の仕方、加筆
【授業概要】
○模擬保育　「にじみ絵」　画用紙の表面を水でぬらし、水が乾かないうちに絵の具をたらしたり、筆で描いたりする。できあがって乾いたら、イメージをもとに加筆して絵に仕上げる。
○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる

第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（野菜の型押し版画）
【key words】
野菜類、ダンボール、発砲スチロール、布、タオル、スタンプインク
【授業概要】
○模擬保育　「野菜の型押し版画」　野菜を版にして型押しをする。並べ方を考えず,型押しを楽しむ。意図的に絵を描く。意図的に模様をつくる。　準備の方法（スタンプインクの作り方、野菜の他に版ができるもの）
○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５４～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる

第２７回　模擬保育、造形表現研究会⑥　（コラージュ）
【key words】
コラージュ　身の回りの紙　絵肌　グラビア
【授業概要】

	○模擬保育　「コラージュ」　様々な基礎技法を用いて製作した多様な絵肌の紙や身の回りにある広告や雑誌のグラビアなどの紙をちぎったり切ったりして組み合わせ方を工夫して表現する。 ○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 第２８回　教材研究発表会①　（教材名、本教材の目的・内容　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 第２９回　教材研究発表会②　（教材名、本教材の目的・内容　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 第３０回　造形表現のまとめ　（幼児の造形活動の支援の方法） 【key words】 子どもが表現の主体性をもつ　安全性　環境(条件設定)　成長段階に即応　興味・関心・意欲 【授業概要】 幼児の造形表現の支援の方法　○子どもが表現の主体性をもつ　○環境を充分に整える ○成長段階に即応すること　○表現への興味・関心・意欲をもたせる　○技術的なものにこだわらず、自然発生的に ○安全に配慮 【教科書ページ・参考文献】 教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　どのように造形表現の支援をすべきか感想を書く。
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　「保育内容　造形表現の指導　〔第４版〕」　建帛社
参考書	開　仁志編著　「保育指導案　大百科事典」　一藝社　（２０１２）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表　現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的　とする。 【到達目標】 １）幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ２）現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向　　けることができる。 ３）造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ４）保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 第２回　表現の本質　表出と表現　領域「表現」のねらいと内容　造形表現の分類　造形表現の特質 第３回　幼児期と造形表現　造形表現の指導のねらい 第４回　ポップアップカードの技法　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字） 第５回　ポップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）—組み立て） 第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等） 第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」 第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　染めた紙で役に立つ小物づくり 第９回　教材研究　紙コップでつくるパクパク人形 第１０回　教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵 第１１回　指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方） 第１２回　指導の過程（指導の段階）　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ

	第１３回　紙レリーフの表現技法練習　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等） 第１４回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイディアスケッチ－試作－製作 第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作 第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　制作－製作 第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（大学祭時の教材展開催の展示の方法について） 第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方 第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する） 第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する） 第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー） 第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー） 第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り） 第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵） 第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵） 第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（野菜の型押し版画） 第２７回　模擬保育、造形表現研究会⑥　（コラージュ） 第２８回　教材研究発表会①　（教材名、本教材の目的・内容　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 第２９回　教材研究発表会②　（教材名、本教材の目的・内容　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 第３０回　造形表現のまとめ　（幼児の造形活動の支援の方法）
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　「保育内容　造形表現の指導　〔第３版〕」　建帛社
参考書	開　仁志編著　「保育指導案　大百科事典」　一藝社　（２０１２）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート

	□グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習指導Ⅰ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・川端　奈津子・巣立　佳宏・青木　純恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。 ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。 ③発達年齢に合わせた保育実技等を習得し実践することができる。
授業の概要	本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅰ（保育所）、認可保育所、保育所保育指針 【授業概要】 保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて確認する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること。 第２回　　保育実習の流れ、依頼の仕方 【Key Word】 観察実習・参加実習、実習依頼、内諾 【授業概要】 実習全体の流れを知る。 実習依頼の流れを知り、地域ごとに実習先の調整を行う。 【教科書ページ】 教科書P14～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 引き続き、次週も実習園の調整を行うので、各自実習先に関して さらに調べておくこと。 第３回　　保育実習の具体的内容と実習計画 【Key Word】 見学・観察・参加実習、部分実習

【授業概要】
観察実習のポイントを確認し、参加～部分実習の内容を実例を
もとに考察していく。

【教科書ページ】
教科書P16～20

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P26～31を読んでくること。

第４回　実習施設の理解①実習園を知る

【Key Word】
保育方針・保育形態、デイリープログラム

【授業概要】
実習を行うにあたり、園ごとに保育方針・保育形態等が異なることを知る。
教科書のデイリープログラムを見比べて、園ごとの違いについて知る。
実習依頼先の最終調整を行う。
【教科書ページ】
教科書P26～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること

第５回　実習施設の理解②デイリープログラム

【Key Word】
設定保育・自由保育、登園・降園

【授業概要】
教科書の各園ごとのデイリープログラムを比較し、保育の流れを
確認していく。
実習先依頼に関して再度、地域ごとに調整を行う。

【教科書ページ】
教科書P29～31

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は保育実技を行うので、動きやすい服装で参加すること。

第６回　保育実技①集団遊び・リズム体操

【Key Word】
リズム体操・組遊び・集団遊び

【授業概要】
実習で役立つリズム体操・組遊び・集団遊びについて実践する。
1つずつの遊びを体験すると同時に、遊びの展開（流れ）に
ついても知る。

【教科書ページ】
配布プリント参照

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は、本日配布のプリントを持参すること。

第７回　保育実技②新聞紙遊び等

【Key Word】
遊びの流れ・指導案

【授業概要】
身近な素材（新聞紙）を使い、各年齢ごとの遊びの流れを知る。
また、天候によっても指導案を変える等の配慮も学ぶ。

【教科書ページ】
配布プリント参照。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～34を読んでくること。

第８回　観察実習のポイント

【Key Word】
見学・観察・参加実習

【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）の流れを確認し、見学～観察実習のポイント
を確認していく。

【教科書ページ】
教科書P32～34

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P34～35を読んでくること。

第９回　実習課題の明確化

【key words】
実習課題・実習目標、実習の目的
【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに、作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習の目的）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週、実習の目的の書類を記入し提出すること。

第１０回　個人調書と自己紹介

【Key Word】
個人調書（自己紹介表）自己紹介

【授業概要】
観察実習のポイントを確認し、参加～部分実習の内容を実例をもとに考察していく。

【教科書ページ】
教科書P34～35

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P36～37を読んでくること。

第１１回　実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等

【Key Word】
守秘義務・個人情報

【授業概要】
保育実習を行なうのにあたり、日誌や記録の取り扱いなど実習中～実習後にかけての注意事項を知る。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント及び教科書P9のコラムを読んでくること。

第１２回　実習の心構えと理解②実習生としての心構え

【Key Word】
専門職、資格取得

【授業概要】
実習を行なうのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な事項を確認していく。

【教科書ページ】
教科書P9、配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は、絵本の読み聞かせをグループごとに行なう。
各自、絵本を持参し、プリントも記入してくること。

第１３回　保育実技③読み聞かせについて

【Key Word】
導入の手遊び、対象年齢

【授業概要】
グループに分かれて、絵本の読み聞かせを行う。対象年齢に合わせ導入の手遊びも行う。読み聞かせを見た感想をまとめる。

【教科書ページ】
配布プリントに各自記入。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリントをまとめ持参すること。

第１４回　保育実技④紙芝居について

【Key Word】
導入の手遊び、対象年齢

【授業概要】
グループに分かれて、絵本の読み聞かせを行う。対象年齢に合わせ導入の手遊びも行う。読み聞かせを見た感想をまとめる。

【教科書ページ】
配布プリントに各自記入。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリントをまとめ持参すること。

第１５回　前期まとめ

【Key Word】
観察実習　部分実習　ボランティア

【授業概要】
前回行なった「紙芝居」の感想をグループごとにまとめ発表する。また夏期休暇中の計画等も各自行なう。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏期休暇中は、実習先および保育園・幼稚園、子ども関係の
イベント等に多く参加すること。参加して気づいた点を
配布プリントに記入すること。

第１６回　後期オリエンテーション

【Key Word】

保育実習Ⅰ（保育所）、責任実習、指導案

【授業概要】

保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて確認する。

保育実技⑤（視覚的教材等）準備について

【教科書ページ】

配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】

視覚的教材の材料を各自持参すること。

第１７回　保育実技⑤（視覚的教材等）

【Key Word】

保育実技、部分実習,視覚的教材

【授業概要】

各自、視覚的教材等を作成する。

【教科書ページ】

配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次週も製作の続きを行う。

第１８回　部分・責任実習について

【Key Word】

部分・責任実習

【授業概要】

部分実習について流れを知り、各年齢ごとの注意点を
確認する。

【教科書ページ】

配布プリント・指導案

【課題・予習・復習・授業準備指示】

指導案（見本）を持参すること。

第１９回　実習記録について①本日のねらいについて

【Key Word】
本日のねらい、実習計画、実習目的

【授業概要】
実習記録の書き方及び、実習目的について確認する。
各自、実習目的について考察する。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介の製作を進めておくこと。

第２０回　実習記録について②実習生の動き・気づいた点・環境構成の記入の仕方について

【Key Word】
責任実習、導入、指導案

【授業概要】
指導案の書き方について概要を知る。
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。

【教科書ページ】
配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。

資料等も準備しておくこと。

第２１回　部分実習のポイント（外部講師）

【Key Word】
部分実習のポイント、指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの部分実習についてのポイントを知る。
時間内に製作・実演・質問等も受け付ける。

【教科書ページ】
配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回作成した年齢以外の指導案の準備も各自進めておくこと。

第２２回　部分実習のポイント　指導案について①子どもの姿の記入について

【Key Word】
子どもの姿、指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。
時間内に添削も行なう。

【教科書ページ】
配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、保育実技教材を作成すること。

第２３回　部分実習のポイント　指導案について②年齢ごとの配慮点について

【Key Word】
指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。
時間内に添削も行なう。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介を完成させ実演の練習を進めておくこと。

第２４回　服装と身だしなみ・持ち物・実習園が実習生に期待すること

【Key Word】
報告・連絡・相談

【授業概要】
実習中の注意点について、連絡・報告などについて確認する。
特に実習終了後の注意点について確認する。

【教科書ページ】
配布プリント（保育実習Ｉチェックリスト）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育実習Ｉチェックリストをもとに各自準備を進めること。

第２５回　オリエンテーションについて、実習関係書類について

【Key Word】
オリエンテーション、準備物、提出物、報告の仕方

【授業概要】
実習に向かうにあたり、巡回指導者から注意点を確認
する。園や大学への連絡の仕方についても再度確認する。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介を完成させ実演の練習を進めておくこと。

第２６回　視覚的教材提出及び実演

【Key Word】
視覚的教材・自己紹介

【授業概要】
視覚的教材・自己紹介の実演　グループごとにまとめをする。

【教科書ページ】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案（見本）を持参すること。

第２７回　保育実習Ｉ（保育所）先輩の体験談

【Key Word】
保育実習Ｉ（保育所）実習記録、部分実習

	【授業概要】 実習を終えた４学年の学生より体験談を聞き 参考にする。 【教科書ページ】 配布プリント・ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自指導案の準備を進めること。 第２８回　実習記録・部分実習について 【Key Word】 実習記録・部分実習 【授業概要】 部分実習に向けた指導案の準備を行う。 時間内に添削も行なう。 【教科書ページ】 配布プリント・指導案 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自指導案の準備を進めること。 第２９回　実習直前指導 【Key Word】 保育実習Ⅰ（保育所）観察・参加実習　部分実習 【授業概要】 保育実習に向けた注意事項を行う。 提出書類等のチェックを行う。 【教科書ページ】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育実習Ⅰ提出物チェックシートを記入すること。 第３０回　まとめ 【Key Word】 実習記録、お礼状 【授業概要】 実習準備物の確認と実習終了後の流れを確認。 実習記録の提出とお礼状の書き方についても確認。 【教科書ページ】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習終了後の流れを確認すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。 ○提出物の期限は必ず守ること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価
教科書	「実習の記録と指導案」　山本　淳子　編著　ひかりのくに　、幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド　徳永 満理　編著　チャイルド本社
参考書	「実習へのガイドブック」　群馬医療福祉大学　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教育教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　児童文学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童文学について正しく理解し、単に子どもの本ではなくどんな年齢層にもアピールする魅力と、子どもの本の深さを理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①児童文学の成り立ちと発展の過程等について理解できる ②児童文学が扱うさまざまなテーマや主題に沿った各論について説明できる ③現在の子どもを取り巻く状況と児童文学の関係について考える
授業の概要	実際の作品に触れながら、児童文学の豊かな世界を鑑賞する。「児童文学とはなにか」だけではなく、絵本、童話、ファンタジーなど児童文学の周辺を取り巻く用語について整理し、正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など）・児童文学とは 【key words】 講義の受け方、本 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・個々にどんな文学に興味・関心があるのかを4～5人のグループで紹介し合う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp7～14（第1章児童文学理解の基本）　わたしの好きな子どもの本50冊　著中村美子 クリエータおすすめの絵本650冊　玄光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が子どもの頃、気に入っていた絵本を3冊思い出し、あらすじをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 4～5人のグループ内で、子どもの頃に気に入っていた絵本のあらすじ、またはその絵本のよさに ついて説明し合う
	第２回	子どもの本の分類 【key words】 「児童文学」と「絵本」の違い 【授業概要】 児童文学についての対象年齢や内容についての解説、説明。文学にも様々な形式やジャンルがあることを知る。「絵本」と「挿絵入りの本」の違い等についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp16～20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の題材「ロビンソンクルーソー」を読んでおく
	第３回	子どもの本の歴史 【key words】 二つの子ども観 【授業概要】 子どもの文化についての歴史的流れを知り、18世紀の「罪深き子ども」の概念について考える。 児童館に大きな変化を生じさせた「ロビンソンクルーソー」の影響について考え、他者と意見交換をする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp21～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回の準日として、神話や伝説で知っているものを書き出しておく
【アクティブラーニングについて】

第４回　神話　（日本神話、ギリシャ神話）　・　伝説
【key words】
伝承文芸
【授業概要】
日本誕生の神話（イザナミとイザナギやヤマタノオロチ　など）とギリシャ神話（ゼウスやアポロンなどの神々　など）の比較を楽しむ。
また伝説について調べ、他者とそれぞれが調べたもの を伝え合う。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第５回　日本の昔話
【key words】
「桃太郎」「竹取物語」
【授業概要】　日本の昔話に含まれる、人間の心の深層やあり方を読み解いていく。また、昔話が果たしてきた 役割について考え、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp62～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昔話の本や絵本を持参する

第６回　童話（グリム童話・イソップ童話・アンデルセン童話）
【key words】
童話の背景
【授業概要】
・各童話の特徴や、作者の特徴を知り、理解を深める。
・童話の中で伝えている「戒め」について考え、童話への興味・関心を高める。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp64～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知っている童話を書き出しておく

第７回　ファンタジーとリアリズム
【key words】
空想と魔法・架空の世界　　日常・家族・学校・友情・人生
【授業概要】
・関心現実の子どもが、別世界を体験するファンタジーには、その経験が主人公の子どもにどのような影響を与える要素があるか考える。擬人化されたファンタジーの、動物の視点の導入効果に注目してみる。
・19世紀と現在の家庭小説を比較し、家族の定義と営みなどに着目する。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回小テストを行うので、第1～7回までの復習をしておく

第８回　冒険物語
【key words】
主体性の目覚め
【授業概要】
・主人公が経験する波乱万丈の物語（探索・試練・挑戦・救出・サバイバル）は、なぜ人の心を惹き付けるのか、なぜ魅了させられるのか、考えていく。
・前半のまとめの小テストを行う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp101～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小テストで理解できていなかったところを復習する

第９回　歴史小説
【key words】
過去という舞台の上で
【授業概要】
・歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とする歴史物語と、時代設定を守りつつも架空の人物を配した歴史物語の比較を楽しむ。
・歴史的な事件を扱った歴史小説を取りあげ、どのような方法で小説家しているか、調べたり考えたりする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp116～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１０回　フィクションとノンフィクション
【key words】
想像力の本と知識の本
【授業概要】
・フィクションとノンフィクションの違いについて考え、ノンフィクションにおけるフィクション的手法においての効果のあり方を学ぶ。
・伝記に取り上げられる対象である人々は、時代を追って「偉人」であることから「個人」であることに変化してきていることについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp134～138
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１１回　わらべうた・童謡
【key words】
わらべうたと子どもの育ち
【授業概要】
・わらべうたについての基礎知識と3つの特性について学習する。またわらべうたから見える地域の特徴性について、出身地ごとに「どれにしようかな」を発表する。
・わらべうたを活かした保育を考える。（社会的な育ちと音楽的な育ち）

	・いろんなわらべうたに触れてみる。（子守唄、数え唄、悪口唄、からかい唄　　など） 【教科書ページ・参考文献】 レジュメを用意する 課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が子どもの頃に慣れ親しんできた「わらべうた」を思い出して書き出しておく 第１２回　子どものための詩 【key words】 わらべうたから現代詩まで 【授業概要】 ・詩のルーツを学習する。 ・詩とは、その言葉のもつ力を最大限に活かした「言語芸術」であるということを理解し、代表的な詩を例題に出し、その詩から感じるものをそれぞれ意見を出し合う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp166～171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に詩や俳句を書いてみる 第１３回　自分史 【key words】 自分が生きてきた歴史を振り返る 【授業概要】 ・自分が生きてきた歴史を箇条書きで書き出し、それを文章化していく。 ・自分が生きてきた時代の記録を振り返ってみる。 ・今までにかかわってきた人々や人間関係とともに、自分自身を振り返る。ありのままの自分を書き出し、客観視することでステップアップしていけるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 「自分詩の書き方・手引き」のレジュメを用意する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終授業日を提出日とし、A4用紙2～5枚程度にまとめる 第１４回　原作・アニメ・実写映画などの比較 【key words】 表現方法 【授業概要】 原作・アニメ・実写映画を鑑賞し、同じ登場人物、かつ同じ内容でも、表現方法の違いによって、別物のように見える理由について考え、意見を出し合う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp56～60　　ピクサーやジブリなどの作品 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業で使用する絵本・紙芝居の準備をしておく 第１５回　絵本、紙芝居、幼年文学 【key words】 知っておきたい読み聞かせのポイント 【授業概要】 ・絵本の読み聞かせの具体的な効果について学習する。 ・子どもの本・紙芝居の選び方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp201～222　　絵本・紙芝居 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自分史」のレポート提出
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業シラバスを確認し、積極的に授業jに取り組むこと・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。
オフィスアワー	月曜13：00～15：00　それ以外の時間帯はアポイントを取って下さい。
評価方法	レポート試験60%、授業への取組、授業時の課題、小テスト40%。
教科書	川端有子：児童文学の教科書
参考書	授業時に指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　児童文学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
鈴木　耕太郎			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 「児童文学」と呼ばれるジャンルの作品について、受講生ひとりひとりが理解を深め、その役割や意義についてさまざまな視点から考えられるようになることが本授業の目的となる。 [到達目標] 1:「児童文学」とは何かを理解し、その役割や意義を学ぶ。 2:「児童文学」の世界に触れ、それぞれの作品の楽しさ/おもしろさを自分のことばで述べることができるようになる。 3:「児童文学」にたくさん触れ、自分のおすすめの作品を紹介できるようになる。
授業の概要	ひとことで「児童文学」といっても、その範囲は広い。授業では「児童文学」の歴史やジャンルなど知識面を広げるとともに、なるべく多くの「児童文学」作品に触れ、それらが示す「世界」を共有してもらう。そのほか、本授業では以下のような取り組みをする。 ・毎回、講義時に絵本を中心とした児童文学作品を紹介する(10分弱)。 ・講義第9回目に受講生参加型の児童書限定「ビブリオバトル」を行う(ただし、受講人数次第で全員参加か希望者参加かを決める)。 ・講義第14回目に「絵本読み聞かせ大会」を行う(グループにわけておこなう)。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価のしかた・注意点など）/〈概要1〉児童文学とは何か？ 第２回　〈概要2〉児童文学の形式とジャンル 第３回　〈概要3〉児童文学の歴史（イギリス・アメリカ/日本） 第４回　【各論1】神話・伝説・昔話と子ども 第５回　【各論2】日本の説話文学から考える 第６回　【各論3】現代の伝説（現代伝説・都市伝説・学校の怪談）と子ども社会 第７回　【各論4】ファンタジーの世界（日常編） 第８回　【各論５】ファンタジーの世界（異世界編） 第９回　≪実践1≫児童書限定ビブリオバトル 第１０回　【各論6】戦争と平和の児童文学 第１１回　【各論7】ノンフィクション作品と子どもの成長 第１２回　【各論8】多様な絵本のおもしろさ（外国編） 第１３回　【各論9】多様な絵本のおもしろさ（日本編） 第１４回　≪実践2≫絵本読み聞かせ大会（グループワーク）

	第１５回　　【各論10】アニメ・マンガと児童文学
受講生に関わる情報および受講のルール	・なるべく前から詰めて座ること。 ・私語厳禁。遅刻にも厳しく対処する(2回の遅刻に1回の欠席とみなす）。 ・授業中、携帯電話などの使用(通話やゲーム、LINEなど)は原則認めない(教員が許可した場合に限る)。 ・5回以上、欠席した場合は定期試験は受験できないこととする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日常的に児童文学に触れておくこと。 ・小テストも不定期で実施するので、必ず復習は欠かさないこと。
オフィスアワー	原則は授業終了後、講師室で30分(ただし、月に1回は終了後10しか時間が取れない)
評価方法	①定期試験(記述式・論述あり)60%、②小レポート10%、③授業への取り組み・態度(毎回のコメントカード内容やグループワークなど)30%
教科書	特に指定しない(レジュメを用いる)
参考書	・川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版、2013年)　　・三宅興子、多田昌美『児童文学12の扉をひらく』(翰林書房、1999年)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（国語）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校国語科の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「国語科学習指導要領の目標と内容」、「解説」について理解することができる。 ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の「実践的指導力」を身に付けることができる。
授業の概要	１　国語科を指導する教師の基礎基本について学ぶ。 ２　実際の児童用の教科書を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等について学ぶ。 ３　上記１と２を踏まえ、個人で教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①(実際に教科書を見ながら、どのように具体化されているか考える。)

【key words】
学習指導要領と解説、国語科児童用教科書

【授業概要】
①本授業の意義とシラバスの説明。30コマの概観と評価方法の説明。
②「学習指導要領国語」と「その解説」の違いを理解する。
③次期学習指導要領改訂の要点を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

″小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊を読んでおくよう指示。
配当漢字１年生（80字）を正しい筆順で書けること、１年教科書上巻を熟読するよう指示。″

第２回　学習指導要領と解説の理解②（配当漢字、教科の目標、各学年の目標と内容、各領域と伝国・言語事項）

【key words】
学習指導要領と解説、配当漢字、目標と内容、伝国

【授業概要】
①学習指導要領国語の「教科の目標」「各学年の目標・内容」「内容の取扱い」「指導計画の作成」「授業時数」についてのおおよそを理解する。
②漢字の基本的な指導方法（空書き、漢字ミニ黒板、色別筆順カード、市販漢字ドリル、漢字ノート等）について理解する。
③クラスリーダーを中心に模擬授業者の年間の分担を決める。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

配当漢字２年生（160字）を正しい筆順で書けること、２年教科書上巻を熟読するよう指示。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくよう指示。

第３回　国語科教師の基礎基本①(国語科におけるＴ・Ｔ、ノート指導、ワークシート作成、書写の指導)

【key words】
国語科におけるＴ・Ｔ、ノート指導
【授業概要】
①国語科におけるＴ・Ｔの実践例を知る。
②ワークシートとノート指導の違いについて考える。
③専門教養（国語科）の過去問を知り、教員採用試験への準備をする。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配当漢字３年生（200字）を正しい筆順で書けること、３年教科書上巻を熟読するよう指示。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくよう指示。

第４回　国語科教師の基礎基本②(ことわざ・慣用句・故事成語、漢字・平仮名・片仮名の由来)

【key words】
ことわざ・慣用句・故事成語、漢字・平仮名・片仮名の由来

【授業概要】
①日本語（平仮名・片仮名・漢字・ローマ字）の由来について、理解する。
②ことわざ・慣用句・故事成語、漢字の知識を身に付ける。
③専門教養（国語科）の過去問を知り、解けるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配当漢字４年生（200字）を正しい筆順で書けること、４年教科書上巻を熟読するよう指示。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくよう指示。

第５回　国語科教師の基礎基本③（音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ、分かりやすい話し方、正しく整った文字の書き方）

【key words】
音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ

【授業概要】　【授業概要】
①音読・黙読・群読の意義と方法を実際に行いながら理解する。
②教科書、絵本等を用い、範読・読み聞かせの意義と方法を実際に行いながら理解する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配当漢字５年生（185字）を正しい筆順で書けること、５年教科書上巻を熟読するよう指示。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくよう指示。

第６回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方①（細案、Ｔ・Ｔの学習指導案の書き方、児童の実態の把握方法）

【key words】
教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方（Ｔ・Ｔ）

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②観察法、４観点によるレディネステスト等による児童の実態の把握方法を理解する。
③国語科におけるＴ・Ｔの学習指導案の書き方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配当漢字６年生（181字）を正しい筆順で書けること、６年教科書上巻を熟読するよう指示。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくよう指示。

第７回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方②（細案、児童の実態の書き方）　、漢字指導用黒板について

【key words】
教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②観察法、４観点によるレディネステスト等による児童の実態の把握方法及び学習指導案への書き方を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配当漢字６年生（181字）を正しい筆順で書けること、６年教科書上巻を熟読するよう指示。

第８回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方③（細案、考察・評価規準以降の書き方）

【key words】
教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②本時の学習の書き方について復習する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。

第９回　学習指導案事前検討会（説明文「めだか」：授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業（説明文）、学習指導案事前検討会、授業の視点

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②説明文の読解指導（1・2年）の基本的な指導方法について理解する。
③学習指導案における「授業の視点」について、理解する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１０回　模擬授業①、授業研究会①（説明文「めだか」）

【key words】
模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。

②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
1　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
2　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
3　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
4　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１１回　学習指導案事前検討会（物語文「一つの花」Ｔ・Ｔ：授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（物語文）、学習指導案事前検討会、国語科におけるＴ・Ｔ

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②物語文の読解指導（3・4年）の基本的な指導方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
1　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
2　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
3　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
4　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１２回　模擬授業②、授業研究会②（物語文「一つの花」Ｔ・Ｔ）
【key words】
模擬授業（物語文）、学習指導案事前検討会、国語科におけるＴ・Ｔ

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
1　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
2　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
3　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
4　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１３回　学習指導案事前検討会（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」：授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業（話すこと・聞くこと）、学習指導案事前検討会

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②話すこと・聞くことの討論指導（5・6年）の基本的な指導方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
1　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
2　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
3　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
4　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１４回　模擬授業③、授業研究会③（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」）
【key words】
模擬授業、授業研究会、討論会の指導法

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１５回　漢字の指導方法（漢字の基礎知識【漢字の成り立ち、音訓、平仮名・片仮名の由来等】、現場の漢字指導の実践例を紹介する

【key words】
漢字指導の実際

【授業概要】
①漢字の基礎知識（平仮名・片仮名の由来、漢字の成り立ち、配当漢字、漢字ゲーム）を身に付ける。
②漢字指導の実践例から学ぶ。
③漢字ドリル、漢字用小黒板の使い方を知る。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。
３～６年の毛筆課題を実際に書き、提出するよう指示。

第１６回　学習指導案事前検討会（文化「日本語のひびきを味わおう『春はあけぼの』」Ｔ・Ｔ：授業者は代表学生２名）

【key words】
模擬授業（文化「春はあけぼの」Ｔ・Ｔ））、学習指導案事前検討会

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②文化に関する古文指導（5・6年）の基本的な指導方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上下、計12冊」の伝国に関する教材を読んでおくよう指示。

第１７回　模擬授業④、授業研究会④（文化「日本語のひびきを味わおう『春はあけぼの』」）

【key words】
模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
【１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１８回　模擬授業⑤、授業研究会⑤（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第１９回　模擬授業⑥、授業研究会⑥（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自己の模擬授業準備をきちんと行っておくよう指示。特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくよう指示。模擬授業が終わった者は、省察をしておくよう指示。

第２０回　模擬授業⑦、授業研究会⑦（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

受験志望自治体の過去問（第１次試験、第二次試験）を徹底的にやることを指示。

第２１回　小論文の書き方①（構成、肉付け、推敲等について）、国語力①（文学史、漢字）
【key words】
小論文、文学史、漢字

【授業概要】
①教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。
②教採過去問の文学史・漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

受験志望自治体の過去問（第１次試験、第二次試験）を徹底的にやることを指示。

第２２回　小論文の書き方②（実際に書き、班で読み合い、推敲する。）、国語力②（ことわざ・故事成語、漢字）

【key words】
小論文、ことわざ、故事成語、漢字
【授業概要】
①教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。
②教採過去問のことわざ・故事成語、漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
受験志望自治体の過去問（第１次試験、第二次試験）を徹底的にやることを指示。

第２３回　書写について①（硬筆指導、毛筆指導、学習指導要領での位置づけ、書写の教科書）、国語力③（文法、漢字）

【key words】
硬筆、毛筆、文法

【授業概要】
①１～６年までの書写の学習内容と指導方法について、学習指導要領及び解説より知る。
②文法（文節、品詞等）、漢字の読み書きについて、過去問を解く。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
受験志望自治体の過去問（第１次試験、第二次試験）を徹底的にやることを指示。
次回、習字道具・半紙・新聞紙を用意するよう伝える。

第２４回　書写について②（実際に６年書写教科書より「友情」を書き、学生間で相互評価をしあう。習字道具の片づけ方法の検討。）

【key words】
毛筆、実技

【授業概要】
①6年毛筆「友情」を実際に書く。事前準備・事中の指導・事後指導（後片付け）、評価方法について学ぶ。
②学生間で作品の相互評価を行う。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己受験自治体の国語科関連過去問、予想問題を解くよう指示。

第２５回　教師の話し方・聞き方（実際の生活指導場面を提示し、児童に伝わる話し方・児童が安心する聞き方について協議する。）

【key words】
伝わる話し方、受容的な聞き方
【授業概要】
①面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。
②過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
③事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する

【教科書ページ・参考文献】
教員採用試験の論文（過去問）を書き、友達同士で添削し、必要に応じ教員に指導を依頼するのも可と指示。

１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２６回　コミュニケーション力の向上、集団討議①（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。）

【key words】
集団討議

【授業概要】
①面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。
②過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
③事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をするよう指示。

第２７回　コミュニケーション力の向上、集団討議②（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。）

【key words】
集団討議

【授業概要】
①過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
②事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をするよう指示。

第２８回　国語科指導に必要な専門教養①（説明文の指導、教採過去問より）

【key words】
専門教養

【授業概要】
①過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
②事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。

【教科書ページ・参考文献】
面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をするよう指示。

１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２９回　国語科指導に必要な専門教養②（物語文の指導、教採過去問より

【key words】
専門教養

【授業概要】
①過去に出た専門教養（国語）、教職教養（国語）について解かせ、自己の長所や弱点に気付く。
②グループ学習も取り入れ、仲間で学び合う雰囲気を醸成する。

【教科書ページ・参考文献】
１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。
２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版
３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。
４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

自己受験自治体の国語科関連過去問、予想問題を解くよう指示。

	第３０回　　１年間のまとめ（１年間の学習を振り返りシャトルカードに記入し、学生間で交流を図る。） 【key words】 国語科教師の心構え、意見交換 【授業概要】 ①児童に十分な国語科の力を身に付けさせることができる「実践的指導力」を備えた教師になるための自己課題を考える。 ②国語科の指導に関する図書を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 １　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、2018年2月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」教育出版 ３　牛頭哲宏他：『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版、2012年。 ４　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国語科指導に関する図書、教員採用試験の過去問題について学習することを指示。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	１　１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の国語科授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び、国語科児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方（細案）、模擬授業の実施・振り返りを行うなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（図工）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。 【到達目標】 ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。 ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。 ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。
授業の概要	図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　造形活動の意義 第２回　学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い　） 第３回　「造形遊び」の授業の実際　（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動） 第４回　「絵に表す」の授業の実際　（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動） 第５回　「立体に表す」の授業の実際　（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動） 第６回　「工作に表す」の授業の実際　（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動） 第７回　「鑑賞」の授業の実際　（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動） 第８回　授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等） 第９回　教材研究の方法　（各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。） 第１０回　指導案作成　（造形遊びの中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。） 第１１回　指導案作成　（各自が選択した題材について、指導案を作成する。） 第１２回　模擬授業＆授業研究会①　（造形遊び）　１，２年　「ならべて　つんで」 第１３回　模擬授業＆授業研究会②　（造形遊び）　３，４年　「切ってつないで大へんしん」 第１４回　教材研究　紙工作の指導方法　１，２年　「まどをひらいて」　用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等）

	第１５回　教材研究　紙工作の教材開発　３，４年　「幸せを運ぶカード」　飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える 第１６回　教材研究　紙工作の教材開発　５，６年　「おどれ！わりピンキャラクター」　紙工作の面白い立体化の仕組みを考える 第１７回　教材研究　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で各自が選択した題材について、教材研究をする。） 第１８回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。） 第１９回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。） 第２０回　模擬授業＆授業研究会③　（絵に表す）　３，４年　「まぼろしの花」 第２１回　模擬授業＆授業研究会④　（絵に表す）　５，６年　「物語から広がる世界」 第２２回　模擬授業＆授業研究会⑤　（立体に表す）　１，２年　「ごちそうパーティーをはじめよう」 第２３回　模擬授業＆授業研究会⑥　（工作に表す）　１，２年　「おってたてたら」 第２４回　模擬授業＆授業研究会⑦　（工作に表す）　３，４年　「サクサク　小刀名人」 第２５回　模擬授業＆授業研究会⑧　（工作に表す）　５，６年　「伝え合いたい思いや気持ち」 第２６回　模擬授業＆授業研究会⑨　（鑑賞活動）　１，２年　「でこぼこ　はっけん」 第２７回　模擬授業＆授業研究会⑩　（鑑賞活動）　５，６年　「何をかいているのかな？」 第２８回　教育評価の考え方と方法　○図画工作科の評価と考え方　○評価と評定の実際 第２９回　児童画の見方・育て方　（低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を把握し、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見出す。） 第３０回　まとめ　現代の諸相　図画工作科と教師の役割
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業で使用する資料を事前に配布し、目を通して授業に臨むようにする。また、機会に応じて復習テストを行う。 ○学生一人一人個別に模擬授業の指導を空き時間、放課後等に行う。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、指導案、模擬授業、教材作品等（５０％）
教科書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説（図画工作）」　日本文教出版、　新井哲夫編著「小学校図画工作の指導」　建帛社
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学校図書館メディアの構成　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。　〔到達目標〕 　①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。 ②「日本目録規則1987年版　改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。 ③「日本十進分類法　新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。
授業の概要	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　学校図書館メディアの教育的意義及び役割 【授業概要】 授業概要　配付資料に基づき学校図書館メディアの教育的意義･役割について解説する。 【Key Word】 学校図書館メディア 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・講義の目標を理解し、なぜ司書教諭資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。
	第２回	学校図書館メディアの種類と特性 【授業概要】 配付資料に基づき学校図書館メディアの種類と特性について解説する。 【Key Word】 学校図書館メディア、奥付 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・奥付とは何かを理解し､実例を挙げられるようにしておく。 ・学校図書館メディアの種類と特性について理解する。
	第３回	学校図書館メディアの選択と構成 【授業概要】 配付資料に基づき学校図書館メディアの選択について考察する。 【Key Word】 学校図書館メディア、資料選択論 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・「図書館の自由に関する宣言」に目を通しておく。 ・資料選択方針について理解する。
	第４回	学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能 【授業概要】 資料分類法の変遷について考察する。

【Key Word】
分類、資料分類法
【教科書ページ・参考文献】
pp6-10,pp184-187
【課題・予習・復習・授業準備指示】
分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表のれきしについて理解する。

第５回　学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要
【授業概要】
日本十進分類法について考察する。
【Key Word】
ＮＤＣ
【教科書ページ・参考文献】
pp187-200
【課題・予習・復習・授業準備指示】
類目表、綱目表、要目表について理解する。

第６回　学校図書館メディアの組織化（３）日本十進分類法の使い方①
【授業概要】
分類規定について考察し、分類作業を行う。分類･区分の分析的過程について補足する。
【Key Word】
ＮＤＣ、ブックトーク
【教科書ページ・参考文献】
pp200-256
【課題・予習・復習・授業準備指示】
分類演習について復習する。

第７回　学校図書館メディアの組織化（４）日本十進分類法の使い方②
【授業概要】
図書記号法について解説する。
【Key Word】
ＮＤＣ、図書記号法
【教科書ページ・参考文献】
pp256-262
【課題・予習・復習・授業準備指示】
別置法・図書記号法について理解する。

第８回　学校図書館メディアの組織化（５）日本十進分類法の使い方③
【授業概要】
図書以外の資料（メディア）の保管と運用について解説詩、考察する。
【Key Word】
ＮＤＣ
【教科書ページ・参考文献】
pp263-269
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書以外の資料の保管と運用について理解する。

第９回　学校図書館メディアの組織化（６）件名標目表
【授業概要】
基本件名標目表の使い方について解説する。
【Key Word】
件名標目、シソーラス
【教科書ページ・参考文献】
pp165-182
【課題・予習・復習・授業準備指示】
主題からのアプローチについて理解する。

第１０回　学校図書館メディアの組織化（７）目録の意義と機能
【授業概要】
目録の意義と機能について解説する。特別支援における学校図書館教育について考察する。
【Key Word】
目録法
【教科書ページ・参考文献】
pp13-36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目録とは何かを理解する。

第１１回　学校図書館メディアの組織化（８）日本目録規則の概要
【授業概要】
日本目録規則について解説し､考察する。
【Key Word】
日本目録規則
【教科書ページ・参考文献】
pp37-48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目録規則の意義と構成について理解する。

第１２回　学校図書館メディアの組織化（９）日本目録規則の使い方①
【授業概要】
日本目録規則の使い方について解説し、考察する。
【Key Word】
日本目録規則
【教科書ページ・参考文献】
pp49-134
【課題・予習・復習・授業準備指示】
欧米及び、日本の目録規則の歴史、書誌記録の国際標準化について理解する。

第１３回　学校図書館メディアの組織化（１０）日本目録規則の使い方②
【授業概要】
日本目録規則の使い方について考察する。

	【Key Word】 日本目録規則、件名標目表、主題目録法 【教科書ページ・参考文献】 pp135-163 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目録記入の実例集に目を通す。 第１４回　学校図書館メディアの組織化（１１）目録の電算化 【授業概要】 国立情報学研究所、国立国会図書館等の書誌情報ネットワークシステムを解説し、目録業務の電算化について考察する。 【Key Word】 ＯＰＡＣ、書誌ユーティリティ 【教科書ページ・参考文献】 pp18-33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。 ・コンピュータ目録の作成と検索について理解する。 第１５回　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、　まとめ 【授業概要】 現在の多様化した学習環境の中で、どのような学校図書館メディアの配置が望ましいかを考察する。 【Key Word】 学校図書館メディア、学習環境 【教科書ページ・参考文献】 全配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長･改善点について考察し、全講義を振り返る。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	「日本十進分類法　新訂10版」の第２次区分表（教科書にあり）を暗記すること。
オフィスアワー	授業後３０分程度は対応可能
評価方法	期末筆記試験　８０％、　授業の参加態度　２０％
教科書	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第２版）第一法規（最新版）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 進学塾教務職員として１年間勤務 公立小中学校の教員でも、学力テスト対策等を行います。日常の教科指導等とのバランスを考えて、学校図書館の活用と連動させ、学力を向上させる手立ても講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　情報メディアの活用　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。 ②データベースの構造を理解できる。 ③情報検索の理論と技法を習得する。 ④著作権法を理解できる。
授業の概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション、　メディア専門職としての司書教諭
【授業概要】
科目の位置付けとシラバスの説明／現代社会における期待される司書教諭像について考察する。
【Key Word】
高度情報通信ネットワーク社会、　司書教諭、　メディア専門職
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp1-15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本科目における小レポートの書き方について説明　　予習：教科書　pp16-33

第２回　高度情報通信社会と学校図書館
【授業概要】
現代社会における学校図書館の役割について考察する。
【Key Word】
高度情報通信ネットワーク社会、　ナレッジマネジメント、　学校図書館、　学習情報センター
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp16-33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp.34-47

第３回　情報メディアの発達
【授業概要】
本の歴史を中心に情報メディアの発達を解説する。
【Key Word】
情報メディア、　本、　コミュニケーション・メディア
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp34-47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp.48-61

第４回　情報メディアの特性と選択
【授業概要】
各種情報メディアの特性を解説し、選択の理論を考察する。
【Key Word】
情報メディア、　教授学習支援、　情報メディア環境
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp48-61

【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp62-76

第５回　視聴覚メディアの活用
【授業概要】
視聴覚メディアの特性とその活用方法について解説する。
【Key Word】
視聴覚メディア
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp62-76
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp77-92

第６回　教育用コンテンツの活用
【授業概要】
主なインターネットの教育用コンテンツの活用について解説する。
【Key Word】
教育用ソフトウエア、　教育用コンテンツ
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp77-92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp93-102

第７回　データベースと情報検索（１）データベースの構造
【授業概要】
データベースの構造について書誌データベースを例として解説する。
【Key Word】
データベース、　ファイル、　レコード、　フィールド
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp93-102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp102-110

第８回　データベースと情報検索（２）情報検索の技法
【授業概要】
情報検索の技法について解説する。
【Key Word】
論理演算、　トランケーション、　フィールド指定
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp102-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp111-129

第９回　インターネットによる情報活用（１）概説
【授業概要】
インターネットの仕組みについて解説する。
【Key Word】
ＴＣＰ／ＩＰ，　IPアドレス、　ホストネーム、　ドメインネーム
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp111-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出

第１０回　インターネットによる情報活用（２）情報検索演習
【授業概要】
本学図書館のホームページの情報検索ポータルを用いて情報検索演習を行う。
【Key Word】
情報検索、　ポータルサイト
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp130-162

第１１回　インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル
【授業概要】
インターネット利用による情報発信・情報共有・情報モラルについて解説する。
【Key Word】
教育用ポータルサイト、ショートカット、お気に入り（ブックマーク）、リンク集、情報共有、ネチケット
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp130-162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp163-166

第１２回　著作権とメディア（１）著作権法概説①著作物とは
【授業概要】
著作権法に基づく著作者の権利について解説する。
【Key Word】
知的所有権、　著作権、　著作者人格権、著作隣接権、　著作権法、　ベルヌ条約、　万国著作権条約
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp163-166
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp166-169

第１３回　著作権とメディア（２）著作権法概説②著作者人格権、著作隣接権
【授業概要】
著作権法上の権利の制限と図書館サービスの関連について解説する。
【Key Word】
図書館サービス、　権利の制限
【教科書ページ・参考文献】

	教科書　pp166-169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp169-170 第１４回　著作権とメディア（３）学校図書館と著作権 【授業概要】 学校図書館サービスにおける著作権問題について考察する。 【Key Word】 学校図書館、　著作権 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp169-170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小レポート作成・提出　　予習：教科書　pp171-179 第１５回　著作権とメディア（４）インターネットと著作権、　まとめ 【授業概要】 インターネット利用による著作権問題について考察する。 【Key Word】 インターネット、　著作権 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp171-179 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。
オフィスアワー	授業後30分程度は対応可能
評価方法	期末レポート（試験）　６０％　　授業中の小レポート　４０％
教科書	井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房（司書教諭テキストシリーズ０５）（最新版）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書(市町村臨時職員)として18年間勤務 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際、他教員の授業等のコーディネートについて講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 (1) 自身の学習状況を振り返り，国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。 (2) 解説や回答演習を通して，個々の学習方法を習慣化できる。 (3) 月例テストや各回の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。 なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　人体の構造と機能及び疾病 第３回　月例テスト 第４回　心理学理論と心理的支援 第５回　社会理論と社会システム 第６回　月例テスト 第７回　現代社会と福祉 第８回　地域福祉の理論と方法 第９回　福祉行財政と福祉計画 第１０回　月例テスト 第１１回　社会保障

	第１２回　　低所得者に対する支援と生活保護制度 第１３回　　保健医療サービス 第１４回　　権利擁護と成年後見制度 第１５回　　月例テスト 第１６回　　社会調査の基礎 第１７回　　相談援助の基盤と専門職 第１８回　　相談援助の理論と方法 第１９回　　月例テスト 第２０回　　福祉サービスの組織と経営 第２１回　　高齢者に対する支援と介護保険制度 第２２回　　障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第２３回　　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第２４回　　月例テスト 第２５回　　就労支援サービス 第２６回　　更生保護制度 第２７回　　月例テスト 第２８回　　重要項目解説　今後の学習方法の確認と整理 第２９回　　重要項目解説　合格に必要な知識の総まとめ 第３０回　　月例テスト
受講生に関わる情報および受講のルール	自主学習を前提とした学習方法や内容の解説を行う。したがって，各々が国家試験に関する学習時間を確保した上で国家試験合格に向けた学修を進めていることが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	国家試験の過去問題を用いた予習，復習をしていること。
オフィスアワー	第1回授業時に説明する。
評価方法	試験（月例テスト・定期試験）（60%），授業中の課題や提出物（40%）
教科書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク社会福祉士」（最新版）
参考書	社会福祉用語辞典など，適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　総合演習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
富澤　一央・新藤　健太・橋本　広信・永藤　夏美・真下　潔・時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・製作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。　②総合演習の集大成である課題研究・製作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的におこなう。 ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合　⑤進路･資格取得の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導･助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　総合演習Ⅰの内容説明 【key words】 学長等の訓話・講話、年間計画 【授業概要】 ①学長の訓話、学部長の講話を聞き、年度初めを意欲的にスタートする。 ②総合演習Ⅰの３０コマの計画を知り、学習内容の概要を知る。 【教科書ページ・参考文献】 「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 2019年度の授業計画を確認し、自スケジュールに記録する。特に、制服着用や提出物に留意することを伝える。次回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくよう指示。
	第２回	建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する（雑巾の製作をとおした日常生活の科学） 【key words】 雑巾の製作 【授業概要】 ①ミシン縫いと手縫いの違いについて、理解する。 ②実際に雑巾を縫う。特に針や糸、はさみの準備・後始末についてきちんと行い、安全に作業ができるよう配慮する。 ③雑巾縫い完成について時間差がでるので、早く完成した者は、自学自習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
雑巾縫いが終わっていない者は、明までにしあげ、提出するよう指示。

第３回　心身の健康プログラム①　心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会にむけて

【key words】
親睦スポーツ大会、安全面での配慮

【授業概要】
①体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくこと、会場までの行き方・駐車場について確認しておくことを指示。

第４回　心身の健康プログラム②　心身の充実について（２）　親睦スポーツ大会

【key words】
親睦スポーツ大会、安全面での配慮

【授業概要】
①体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。また、当日の集合時刻、会場での注意事項を伝える。
③チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくこと、会場までの行き方・駐車場について確認しておくことを指示。

第５回　進路・資格取得プログラム①　「就職・適性試験」

【key words】
就職適性

【授業概要】
①PS-U総合適性試験を受ける。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
回答受験後、即配付するので、復習をしておくことを指示。

第６回　学習統合プログラム①　国語の力をつける（国語の基礎基本：感じのいい話し方・聞き方）

【key words】
感じのいい話し方・聞き方

【授業概要】
①国語の４領域：話す・聞く・読む・書くの基礎基本である感じのいい話し方・聞き方について知る。
②理論だけでなく、グループワークを行い、各自話し手・聞き手を体感しながら、感じのいい話し方・聞き方について考える。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の話し方・聞き方について、振り返りをしておくよう指示。

第７回　学習統合プログラム②　国語の力をつける（文章の書き方の基礎基本：１ランク上の小論文を目指す）

【key words】
小論文の書き方

【授業概要】
①正しい漢字・主述のねじれ・句読点の打ち方・三段構成等について確認する。
②実際の小論文をみて、良さを学ぶ。また、推敲の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の就職で必要な小論文を書き、推敲をすることを指示。

第８回　学習統合プログラム③　「研究」とは―研究テーマの設定―

【key words】
研究テーマ

【授業概要】
①研究テーマの立て方について知る。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の興味関心のある研究テーマを複数考えてことを指示。

第９回　学習統合プログラム④　「研究」とは―研究の背景―

【key words】
研究テーマ、論文検索

【授業概要】
①研究テーマ、研究の背景について考える。
②論文検索の方法について、図書館職員より学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期成果物として、研究テーマ（研究の背景含む、A４判）を作成しておく。

第１０回　地域貢献プログラム①　昌賢祭研究発表にむけて―地域貢献と研究―（内容決定のための討議）

【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①クラス昌賢祭委員を中心に、クラス研究発表の内容を検討する。
②昌賢祭のテーマについて、クラス昌賢祭委員を中心に話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の研究発表で、できる準備を始めておくことを指示。

第１１回　地域貢献プログラム②　地域貢献講話（外部講師）

【key words】
障害をお持ちの方の講話

【授業概要】
①障害をお持ちの伊勢崎市議をお迎えし、講話を聞く。
②グループワークを行い、社会福祉を学ぶ者として、どのような支援ができるか、考える。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
将来の志望職種として、障害を持った人にどのような支援ができるか、まとめておくよう指示。

第１２回　学習統合プログラム⑤　課題研究にむけて　リーディング

【key words】
課題研究、リーディング

【授業概要】
①提示された論文を読み解く。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の志望職種に関する論文を読んでおくことを指示。

第１３回　学習統合プログラム⑥　課題研究にむけて　ライティング

【key words】
課題研究、ライティング

【授業概要】
①大学で必要なライティングについて知る。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の志望職種に関する論文を読んでおくことを指示。

第１４回　地域貢献プログラム③　昌賢祭での研究発表の内容決め

【key words】
昌賢祭での研究発表内容決め

【授業概要】
①昌賢祭委員を中心に、クラスでの研究発表の内容を決める。
②本演習の前期成果物を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期成果物を作成、推敲し、期限までに提出する。

第15回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の総括　「自己点検・自己評価」　夏休み中の目標

【key words】
前期総括、授業アンケート

【授業概要】
①前期総括を演習ファイルにまとめる。
②授業アンケートを行い、学生の視点から評価する。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期の本授業に関する本ファイルを整理しておくことを指示。

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　学年担任講話　連絡事項

【key words】
学長等の訓話・講話、後期計画

【授業概要】
①学長の訓話、学部長の講話を聞き、後期を意欲的にスタートする。
②総合演習Ｉ後期の１５コマの計画を知り、学習内容の概要を知る。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
2019年度の後期授業計画を確認し、自スケジュールに記録する。特に、制服着用や提出物に留意することを伝える。

第１７回　進路資格取得プログラム②　就職常識試験

【key words】
就職常識

【授業概要】
①就職常識試験を受ける。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をしておくことを指示。

第１８回　進路・資格プログラム③　外部講師　就職に関する講演

【key words】
就職、ハローワーク

【授業概要】
①ハローワーク前橋所長の就職に関する講話を聞く。
②講話の要点を記録し、自己の就職適性について、考える。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の職業適性について考えておくことを指示。

第１９回　地域貢献プログラム④　昌賢祭研究発表にむけて（計画）

【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画を立てる。
②昌賢祭研究発表について、具体物を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくよう指示。

第２０回　地域貢献プログラム⑤　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の準備と討議）

【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画、実際の準備制作等を始める。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくよう指示。

第２１回　地域貢献プログラム⑥　昌賢祭研究発表に向けて（発表資料・材料の準備と討議）

【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくよう指示。

第２２回　地域貢献プログラム⑦　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の調整：全体のアウトライン決定）

【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくよう指示。

第２３回　地域貢献プログラム⑧　昌賢祭のふり返り（活動に関する自己評価・相互評価・今後の展望と課題・提案）

【key words】
昌賢祭の振り返り

【授業概要】
①昌賢祭について振り返り、自己評価・相互評価を行う。
②昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の振り返りについて、整理しファイルに綴じてじておくよう指示。

第２４回　進路資格取得プログラム④　就職常識試験の振り返り

【key words】
就職常識試験

【授業概要】
①返された就職常識試験の朱書きをよく見て、復習する。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
就職常識試験での弱点を補強しておくことを指示。

第２５回　地域貢献プログラム⑨　　外部講師　社会福祉の現状

【key words】
社会福祉の現状

【授業概要】
①外部講師を招聘し、社会福祉の現状についての講話をいただく。
②講話の要点を記録し、社会福祉の現状について考える。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講話の要点を記録し、ファイルに綴じておくよう指示。

第２６回　地域貢献プログラム⑩　　外部講師　児童虐待の現状

【key words】
児童虐待の現状

【授業概要】
①外部講師を招聘し、児童虐待の現状についての講話をいただく。
②講話の要点を記録し、児童虐待の現状について考える。

【教科書ページ・参考文献】
「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講話の要点を記録し、ファイルに綴じておくよう指示。

第２７回　学習統合プログラム⑦　課題研究の振り返り

【key words】
課題研究、グループ研究

	【授業概要】 ①前期の課題研究を振り返る。 ②グループ編制をし、課題研究の執筆要綱を知る。 【教科書ページ・参考文献】 「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書くよう指示。 第２８回　学習統合プログラム⑧　課題研究の研究テーマ 【key words】 課題研究、研究テーマ 【授業概要】 ①先行研究について調べる。 ②先行研究、グループで研究したいことを鑑み、研究テーマを決定する。 【教科書ページ・参考文献】 「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書くよう指示。 第２９回　心身の健康プログラム③　クラス裁量、クラス経営のまとめ 【key words】 クラス裁量 【授業概要】 ①クラスリーダー、サブリーダーを中心に、１年のまとめとしてやりたいことを決める。 【教科書ページ・参考文献】 「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学生になるべく任せ、１年が振り返られ、かつ楽しい時間となるよう指示。 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期の総括　　総括レポート作成　春期休業中の活動について 【key words】 後期総括、授業アンケート 【授業概要】 ①後期総括を演習ファイルにまとめる。 ②授業アンケートを行い、学生の視点から評価する。 【教科書ページ・参考文献】 「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １年分の演習ファイルを整理しておくよう指示。
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講に係わる情報】 １　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	提出物（40%）　演習への取り組み・内容等（60%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」中央法規、「初編　伝習録」明治書院、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 英会話　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ﾍｸﾀｰ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。 [到達目標] 1.基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面に応じて聞きとり、それに応答できるようになること。 2.聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。 3.習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答するだけでなく）。
授業の概要	Listening, Speakingの練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアーでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　1. What do you think？ 〔内容〕 ・Do you think..? Yes, I do.　No, I don't. ・Interview a partner 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 goes with Nouns related to clothes 第２回　2. I'll get him some CDs. 〔内容〕 ・Buying presents ・What do you have? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 dress up shopping list 第３回　3. Do you mind if　I sit here？ 〔内容〕 ・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't 第４回　4. Review Lesson 〔内容〕 The First Three Lessons 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第５回　5. What was he doing？ 〔内容〕 ・適当な時制を用いる練習

	・Tell the story from the pictures ・what happened to you? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 過去形、過去進行形 Vocab related to injuries 第６回　6. What are you going to do？ 〔内容〕 ・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I may go ～, I am going to go ～ Vocab related to occupations 第７回　7. Where should I go if I want to go out？ 〔内容〕 ・Make new conversation using examples ・How will you find your way? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Vocab related to tourism what to take / why 第８回　8. Review Lesson 〔内容〕 Games, practice, and exercises 5,6 and 7 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第９回　9. Complaints 〔内容〕 ・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food?(Role Play) 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food 第１０回　10. The best way to travel辞書を活用 〔内容〕 ・In pairs decide.which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 比較級. Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞 第１１回　11. I wish it wasn't raining. 〔内容〕 ・Read the post card and talk about the things he wishes were different. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 性格を表す形容詞 第１２回　12. What have you been doing？ 〔内容〕 ・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to 第１３回　13. What would you do？ 〔内容〕 ・what would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 人格を表す形容詞 第１４回　14. What have you done？ 〔内容〕 ・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after:What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了形 使役動詞 I've had it dyed 第１５回　15. Review Lesson　(8-12) 〔内容〕 Games, exercises and practice. short test on whole syllabus
受講生に関わる情報および受講のルール	講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れないで積極的に会話する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）・その他（ミニテスト）
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。

評価方法	定期試験50%、授業への参加50%。
教科書	″Get Real 3″ New edition　　出版社 Macmillan
参考書	英和辞典・英英辞典
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉事務所運営論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新木　恵一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　行政組織の仕組みやそこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。
授業の概要	福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運の今日的課題等を学ぶものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　授業のすすめ方について
key word　社会福祉行政　専門職
授業概要　自己分析と自己理解　大学で学ぶことの意味について　授業の進め方について
課題等　教科書は事前に読了すること

第２回　現代社会と福祉事務所の運営
key word　社会福祉サービスとは　ソーシャルワーカー
授業概要　社会福祉事務所を取り巻く環境の変化。社会福祉の目的と福祉事務所の運営。社会福祉行政の執　行と福祉事務所の運営。
教科書頁　2～14

第３回　福祉事務所の成立と歴史的展開
key word　恤救法　社会事業法　救護法
授業概要　福祉事務所　社会福祉主事と生活保護法
教科書頁　15～49

第４回　福祉事務所の業務と組織①
key word　社会福祉法　社会福祉六法　社会福祉主事資格
授業概要　福祉事務所の組織　福祉事務所の業務
教科書頁　51～62

第５回　福祉事務所の業務と組織②
key word　セーフティーネット
授業概要　福祉事務所運営指針　福祉事務所の組織と業務の今日的課題
教科書頁　63～84

第６回　福祉事務と関係社会資源との連携
key word　生活問題　キーパーソン　児童相談所　社会福祉協議会　民生委員
授業概要　連携の意義と効果　福祉行政機関との連携　保健・医療機関との連携
教科書頁　71～83

第７回　福祉事務所の運営と民生委員の役割
key word　民生委員　自立支援プログラム
授業概要　福祉事務所運営面における民生委員の位置　福祉事務所に配置される主な専門職とその業務
福祉事務所の現任訓練
教科書頁　93～102

第８回　福祉事務所の専門職員とその役割
key word　スーパーバイザー　福祉司　現業員　現任訓練
授業概要　福祉事務所に配属される査察指導員・主な専門職と現任訓練について

	教科書頁　93～102 第９回　社会福祉主事の専門性と倫理 key word　社会福祉援助　ソーシャルワーカーの倫理　地方公務員の倫理 授業概要　社会福祉領域における専門性の位置　社会福祉主事の業務と援助実践　社会福祉主事の倫理 教科書頁　103～128 第１０回　社会福祉のレポートの書き方 key word　表記上の基本　段組み 授業概要　レポートの基本　引用に仕方　参考文献　ワードの使い方 教科書頁 第１１回　社会福祉主事の事務と社会福祉援助技術の展開 key word　スーパーバイザー　現業員　OJT 授業概要　無料低額宿泊所　生活保護制度　ハローワークのナビゲーター　児童手当等 教科書頁　129～156 第１２回　福祉事務所の業務に関する法制度 key word　生活のしづらさ　ソーシャルアクション　アドミストレーション 授業概要　対人援助の基本コンセプト　対人援助の最重要視点 教科書頁　157～176 第１３回　福祉事務所における自立支援の事例 key word　生活のしづらさ　ソーシャルアクション　アドミストレーション 授業概要　退陣援助の基本コンセプトと最重要視点 教科書頁　177～195 第１４回　福祉事務所の運営をめぐる課題と動向 key word　福祉事務所の運営を巡る課題と動向 授業概要　福祉事務所運営の現状における諸課題　社会福祉行政の新しい方向と福祉事務所の運営 教科書頁　196～216 第１５回　まとめ key word　アドボカシー　社会統合　自立支援　民生委員
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の前に教科書は読んで予習をし、学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど６０時間以上の授業外学修をすること。
オフィスアワー	研究室前に掲示をする。
評価方法	授業への取り組み姿勢(30%)と、レポート（７０％）で評価する。
教科書	宇山勝儀/船水浩行編著　『福祉事務所運営論』　［第４版］　ミネルバァ書房　2016年4月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉事務所ケースワーカー７年経験 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習Ⅱ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。 ②保育士としての資質・能力・技術を習得する。 ③多様な保育内容に参加する。 ④家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。
授業の概要	-

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回

	第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	-
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	–
参考書	–
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	子ども専攻・選択
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓・曽田　梨央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。 【到達目標】 保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。
授業の概要	5名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じて個別にレッスンする。それによりお互いの意識レベルを向上させる。有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個人レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目（前期）オリエンテーション
【key words】
前期授業概要
【授業概要】
クラス分け・書類記入・学生それぞれの進度に合わせた曲決め
実習や就職試験の内容に沿った課題を参考に教員と相談する（国歌・園歌・季節の歌・行事の歌・ピアノ曲）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２回　進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる）
【key words】
レパートリーを増やす
【授業概要】
ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第３回　進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる）
【key words】
レパートリーを増やす
【授業概要】
ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

	第４回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第５回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第６回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第７回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第８回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第９回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第１０回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第１１回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる） 【key words】 前期試験課題に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜） 【授業概要】 弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第１２回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて

【key words】
前期試験課題に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１３回　進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１４回　進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて：リハーサル
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて：仕上げ
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１７回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１８回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１９回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	個別指示 第２０回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上 【key words】 総合的な表現技術の向上 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２１回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上 【key words】 総合的な表現技術の向上 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２２回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２３回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２４回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２５回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス） 【key words】 お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２６回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス） 【key words】 お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２７回　お楽しみ会（保育・小学校現場の実際と表現活動指導について）：後期試験にむけて 【key words】 保育・小学校現場の実際と表現活動指導について 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い・コーラス・カップス 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示

	第２８回　進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２９回　進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に初等教育コースの学生は[学習指導要領（音楽）]を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、子どもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70％・授業内評価30％
教科書	①『バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社　②『新訂ピアノの森２』田丸信明編：GAKKEN　③『新訂ピアノの森３』田丸信明編：GAKKEN　④『ブルクミュラー　25の練習曲』全音楽譜出版社　⑤『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑥『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑦『こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社　⑧『続こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社　⑨『小学校教科書（音楽）』：初等教育コース
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育教職実践演習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・ 川端　奈津子・巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 これまで保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の履修を通じて習得してきた保育者・教育者として必要な資質能力の総仕上げとして、演習により主体的でかつ体験的・実践的に協働した学びを通して、保育者・教育者として必要な実践力を多角的に身につけることを目的としている。講義だけでなく、グループ討議や模擬保育など多様な形態の授業を通じて、これまで学んだ知識や技術をより精度の高いものにすることを目指す。 【到達目標】 講義や実習等で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めていきます。「保育職・教職に対する使命感・責任感」「社会性や対人関係能力」「子ども理解や学級経営力」「保育内容の指導力」を高め、保育者としての資質のさらなる向上を目指します。
授業の概要	保育現場に立つ前の総まとめとして、４年間の講義や実習で学んだ様々な体験をもとに、実践的指導力を有する保育者としてのスキル高める学習として、事例検討や模擬保育等のグループ討議を多く実施します。また、保育職・教職の意義や役割・責任感、保育者の専門性等のテーマにより、子ども専攻の複数の教員をはじめ、保育現場より外部講師を迎え、より幅広い保育実践力の向上を目指していきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 「保育士」「幼稚園教諭」「保育者」「保育者像」 【授業概要】 講義全体の流れや、講義の目的・目標を知り、理想の保育者像について考え、保育者を目指し始めてから今までの思いを各自整理していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1-12、授業概要（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P13-17をよく読んでおくこと。履修カルテを必ず持参すること。 第２回　　保育者への歩みと足跡　（履修カルテ記入・確認） 【key words】 「保育者」「保育者像」「実践的力量」「履修カルテ」 【授業概要】 「履修カルテ」の確認を通して、大学での これまでの学びの振り返りと整理を進めていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P13-17　履修カルテ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P20-30をよく読んでおくこと。特にP22-23を読み、自分なりの感想をまとめておくこと。 第３回　　子どもの理解の方法と実際①

【key words】
「個人記録」「保育マップ型記録」「保育カンファレンス」「子ども理解」
【授業概要】
保育における「子ども理解」の方法やその重要性について考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P20-30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P25-30をよく読んでおくこと。

第４回　子どもの理解の方法と実際②模擬保育
【key words】
「個人記録」「保育マップ型記録」「保育カンファレンス」「子ども理解」

【授業概要】
保育における「子ども理解」の方法やその重要性について考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P25-30

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P112-122をよく読んでおくこと。

第５回　園の安全管理
【key words】
「日常の安全管理」「事故防止マニュアル」「避難訓練」「リスクマネジメント」

【授業概要】
幼稚園・保育所の安全管理の考え方について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に基づいて考察し、乳幼児の事故の実態を踏まえて、園の安全管理体制の整備と危機管理の視点について考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P112-122

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P64-74をよく読んでおくこと。

第６回　協同的な学びと育ちへ
【key words】
「協同的な活動」「協同的な学び」

【授業概要】
子どもたちの協同的な学びと育ちを可能にする保育実践について考察し、協同的な学びの意義について理解し子どもが仲間と協同的な活動を展開できるまでの乳幼児期の発達過程を確認していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P64-74

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P100-110をよく読んでおくこと。

第７回　幼保小の接続
【key words】
「幼保小の連携」「小１プログレム」「幼保小の接続」「接続期のカリキュラム」

【授業概要】
幼保小の相違点、幼保小の接続のあり方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫について学んでいきます。配布資料によるディスカッション及びグループワークを行う。

【教科書ページ・参考文献】
P100-110

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P32-40をよく読んでおくこと。

第８回　気になる子どもの行動の理解と対応①
【key words】
「気になる子ども」「必要な配慮」「発達障害」
【授業概要】
保育現場で「気になる子ども」の理解と保育現場で「必要な配慮」等の対応について考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P32-40

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P32-40をよく読んでおくこと。

第９回　気になる子どもの行動の理解と対応②グループワーク
【key words】
「気になる子ども」「必要な配慮」「発達障害」
【授業概要】
保育現場で「気になる子ども」の理解と保育現場で「必要な配慮」等の対応について考察していきます。発達障害児の感覚を感じられる実習をグループごとに行う。

【教科書ページ・参考文献】
P32-40

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P90-98をよく読んでおくこと。

第１０回　保護者および地域との関係づくり

【key words】
「保護者との協働」「地域との協働」「関係機関との協働」

【授業概要】
保護者および地域との関係づくり、また地域の関係機関と、どのような関係を築きながら保育を展開していくべきかを考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P90-98

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P60-62、配布プリントをよく読んでおくこと。

第１１回　保育内容と保育方法の研究①

【key words】
「保育の形態」「指導計画」「模擬保育」「カンファレンス」

【授業概要】
グループごとに「模擬保育」を行い、その後、実践した「模擬保育」について
グループごとにカンファレンスを行います。

【教科書ページ・参考文献】
P60-62　配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P76-88をよく読んでおくこと。

第１２回　保育内容と保育方法の研究②グループワーク

【key words】
「保育内容」「保育方法」「保育の形態」「指導計画」

【授業概要】
幼稚園や保育園での「保育内容」や「保育方法」の基本的な考え方について確認し
多様な保育内容と保育方法、保育形態についての学びを深めていきます。

【教科書ページ・参考文献】
P76-88　配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P124-134をよく読んでおくこと。　配布プリント（指導案）

第１３回　保育者の専門性

【key words】
「保育者の専門性」「保育者の資質」「保育者の研修」「保育者の倫理」

【授業概要】
保育者の専門性の特質について考察していきます。次に保育者の成長について考察し研修などの取り組みや保育者の倫理のあり方について学んでいきます。

【教科書ページ・参考文献】
P124-134

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P136-139をよく読んでおくこと。

第１４回　保育職・教職に就くものとしての使命感・責任感（外部講師）

【key words】
「保育者・教職者の使命感・責任感」「保育観」「教育観」

【授業概要】
これまでの学びのまとめとして外部講師を招き、「保育者・教育者の使命感・責任感」をテーマに講話を行う。実際の保育現場での体験を聴き、自身の保育者・教育者像や保育者としての使命感・責任感について考察していきます。

【教科書ページ・参考文献】
P136-139

【課題・予習・復習・授業準備指示】
P140-147をよく読んでおくこと。

第１５回　自分の保育者像を目指して

【key words】
「保育者像」「保育観」「保育者の専門的知識」
【授業概要】
「保育者とは何か？」「保育者とはどのような存在なのか？」「保育者としてあるべき姿とは？」などを様々な保育理論、法や制度で求められる保育などを考慮して考え、自分の保育者像を捉えていきます。【教科書ページ・参考文献】
P140-147

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期テストに向け、各回のキーワードを良くまとめておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育・幼児教育に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。 実習やボランティア等での体験をまとめておくこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	グループ活動への参加状況（50%）提出物・レポート（50%）の総合評価。
教科書	保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み　　小櫃 智子　矢藤 誠慈郎　編著　わかば社
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習指導Ⅱ（保育所）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・川端　奈津子・巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。また責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。 ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。 ③発達年齢に合わせた指導案を作成し実践することができる。
授業の概要	本講義は保育所実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。特に責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅱ（保育所）、責任実習、指導案 【授業概要】 保育実習Ⅱ（保育所）の流れについて確認する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること。 第２回　保育実習Ⅰ（保育所）振り返り 【key words】 保育実習Ⅰ、保育実技、部分実習 【授業概要】 保育実習Ⅰに関して、各自振り返り及び自己評価を行なう。グループごとに反省点をまとめ発表する。保育実習Ⅱ希望園を地域ごとに調整する。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（自己評価票、実習終了報告書） 第３回　実習課題の明確化 【key words】 実習課題・実習目標、実習の目的 【授業概要】 保育実習Ⅱ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに、作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習の目的）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次週、実習の目的の書類を記入し提出すること。

第４回　実習の心構えと理解
【key words】
専門職、資格取得
【授業概要】
実習を行なうのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な事項を確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26、配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブック、配布プリントを良く参照すること。

第５回　責任実習のポイント　指導案について①4、5歳児のポイント
【key words】
責任実習、導入、指導案
【授業概要】
指導案の書き方について概要を知る。各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。　各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導質問等も受け付ける。

【教科書ページ・参考文献】　教科書P12～13、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】　各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。

第６回　責任実習のポイント　指導案について②3、4歳児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P60、配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。

第７回　責任実習のポイント　指導案について③未満児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P44、配布プリント（指導案）
【key words】

部分実習、責任実習、指導案、反省会

第８回　保育実習の具体的内容と実習計画
【授業概要】
実習の具体的な内容及び実習計画、実習の流れについて確認する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP64
【課題・予習・復習・授業準備指示】

視覚的教材について、演じ方も含めて良く練習しておくこと。

第９回　保育実技について（手作り教材等）
【key words】
視覚的教材
【授業概要】
各自作成した視覚的教材の発表を行なう。発表後、改善点を各自まとめる。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（視覚的教材について）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

実習先オリエンテーションの準備を行なっておくこと。

第１０回　オリエンテーションについて
【key words】
実習記録、園の概要、デイリープログラム、持ち物、責任実習

【授業概要】
実習先でのオリエンテーション時の注意点やポイントを中心に確認する。

	【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（オリエンテーションについて） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブッjクP28～29を熟読しておくこと。 第１１回　実習中の注意事項について　守秘義務・個人情報等 【key words】 守秘義務・個人情報、実習記録 【授業概要】 実習中の注意点について、特に守秘義務・個人情報等について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブッjクP28～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習巡回担当者に、挨拶ともに実習中のスケジュールなどを伝えておくこと。 第１２回　保育実習直前指導 【key words】 守秘義務・個人情報、実習記録 【授業概要】 実習中の注意点について、特に守秘義務・個人情報等について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブッjクP28～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習巡回担当者に、挨拶ともに実習中のスケジュールなどを伝えておくこと。 第１３回　保育実習Ⅱ（保育所）事後指導①自己評価表及び報告書の作成 【key words】 実習自己評価　実習報告書 【授業概要】 実習終了報告書の作成及び実習自己評価を行なう。随時、実習先からの評価面談も行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（実習終了報告書・実習自己評価票） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。 第１４回　保育実習Ⅱ（保育所）事後指導②グループワーク及び評価面談 【key words】 責任実習　実習課題　発達年齢 【授業概要】 責任実習を行った年齢別で、実習のまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。 第１５回　まとめ 【key words】 責任実習　実習課題　発達年齢 【授業概要】 責任実習の年齢別でまとめとしてグループ発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。 ○提出物の期限は必ず守ること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価
教科書	「実習の記録と指導案」　山本　淳子　編著　ひかりのくに

参考書	実習へのガイドブック　群馬医療福祉大学　　保育所保育指針　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習（小学校）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
20日間	4年次	4単位(160)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 〔到達目標〕 １　小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能を修得することができる。 ２　教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことができる。 ３　「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。
授業の概要	１　実習校での実習方針や実習計画に則り、実習を実施する。 ２　実習１週目の３日目位までは、「授業観察」「授業参加」を行う ３　学習指導は、全教科等を対象とし、実習担当教員との相談により決定する。 ４　「授業実習」と「研究授業」の合計７時間以上を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（管理職の講話、観察が中心） ○第１週 　実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。 　地域や実習校、特に配属学級の実態把握をする。 　授業参観をし、次週以降の授業実習に備える。 　実習録は、丁寧かつ正確に記録し、実習担当教員に提出し、指導を仰ぐ。
	第２回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（他学年・領域の観察、朝の会・帰りの会、教科の授業実習が中心） ○第２週 　朝の会、帰りの会、清掃、クラブ活動、委員会活動などの実践指導をする。 　実習校での学習指導案の形式を確認し、学習指導案の立案を始める。 　国語・算数等の授業実習を行う。
	第３回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（研究授業の準備、教科・領域の授業実習が中心） ○第３週 　本学実習規定に則り、授業実践を６時間行う。 　学級経営や学級事務について、実習担当教員の指導を受けながら、行う。 　研究授業に向け、学習指導案を作成する。
	第４回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（研究授業の実施と反省、実習録のまとめが中心） ○第４週 　総まとめとして、研究授業の実施、授業研究会を開いていただき、実習担当教員以外の管理職や大学巡回 　指導教員の指導を仰ぐ。 　実習録を期日までに提出し、指導をいただく。実習録の受け取り方法についても、きちんと確認する。 　お礼状を適切な時期に出す。

	第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	１　教育実習に参加する要件を備えていること。 ２　事前ガイダンスの受講および「小学校教育実習録」の提出を必須とする。 ３　本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。 ４　実習中、不適切な言動があった場合、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	教育実習録
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	実習校の評価（50%）、実習報告会（30%）、「教育実習録」の評価（20%）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任として指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。また、教育実習生の指導教員として数年間指導にあたった。それらの経験を活かし、学習指導や生活指導について、具体的な指導を行うことを通して、学生に実践的指導力を身に付けさせる。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉特講Ⅲで学習したことを基礎とし、社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 ①自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にする。 ②解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化する。 ③月例テストや各階の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習する。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 第２回　人体の構造と機能及び疾病 第３回　月例テスト 第４回　心理学理論と心理的支援 第５回　社会理論と社会システム 第６回　月例テスト 第７回　現代社会と福祉 第８回　地域福祉の理論と方法 第９回　福祉行財政と福祉計画 第１０回　月例テスト 第１１回　社会保障 第１２回　低所得者に対する支援と生活保護制度

	第１３回　　保健医療サービス 第１４回　　権利擁護と成年後見制度 第１５回　　月例テスト 第１６回　　社会調査の基礎 第１７回　　相談援助の基礎と専門職 第１８回　　相談援助の理論と方法 第１９回　　月例テスト 第２０回　　福祉サービスの組織と経営 第２１回　　高齢者に対する支援と介護保険制度 第２２回　　障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第２３回　　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第２４回　　月例テスト 第２５回　　就労支援サービス 第２６回　　更正保護制度 第２７回　　月例テスト 第２８回　　重要項目解説 第２９回　　重要項目解説 第３０回　　重要項目解説
受講生に関わる情報および受講のルール	自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと 模擬試験や国家試験の案内を行うため聞き逃さないようにすること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	個人での学習とグループ学習を併用し学習へのモチベーションを維持していくこと。
オフィスアワー	0
評価方法	試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座21　資料編　中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）　その他自分にあった参考書
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　総合演習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
松永　尚樹・長津　一博・鈴木　秀夫・森田　隆夫・川端　奈津子・山岸　裕美子・岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、３年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である課題研究・制作では、自発的なテーマ設定、資（史）料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。 ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。
授業の概要	内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の５つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義（外部講師）を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、４年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　建学の精神と実践教育プログラム①　学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画 第２回　進路・資格プログラム①　「自己表現テスト」 第３回　心身の健康プログラム①　心身のバランス（親睦スポーツ大会に向けた活動） 第４回　心身の健康プログラム②　心身のバランス・他者との連繋（親睦スポーツ大会） 第５回　建学の精神と実践教育プログラム②（生活を科学する－雑巾縫いをとおして） 第６回　学習統合プログラム①　課題研究・制作（ガイダンス） 第７回　進路・資格取得プログラム②　「自己表現テスト」のふりかえり 第８回　学習統合プログラム②　課題研究・制作 第９回　学習統合プログラム③　課題研究・制作

	第１０回　　学習統合プログラム④　課題研究・制作 第１１回　　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作 第１２回　　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作 第１３回　　地域貢献プログラム①　「地域での住民と行政サービスとの関わり」 第１４回　　進路資格取得プログラム③　「エントリー試験」 第１５回　　建学の精神と実践教育プログラム③　前期総括 第１６回　　建学の精神と実践教育プログラム④　学長訓話・学部長講話 第１７回　　進路・資格取得プログラム④　「エントリー試験」のふりかえり 第１８回　　地域貢献プログラム②　地域のネットワーク作り（クラス内研修） 第１９回　　地域貢献プログラム③　児童虐待の早期発見について 第２０回　　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作 第２１回　　心身の健康プログラム③　「ストレス社会をどう生きるか」 第２２回　　地域貢献プログラム④　「昌賢祭」での実践活動について 第２３回　　地域貢献プログラム⑤　「昌賢祭」実践活動 第２４回　　学習統合プログラム⑧　課題研究・制作 第２５回　　学習統合プログラム⑨　課題研究・制作 第２６回　　学習統合プログラム⑩　課題研究・制作（クラス内発表会①） 第２７回　　学習統合プログラム⑪　課題研究・制作（クラス内発表会②） 第２８回　　学習統合プログラム⑫　課題研究・制作（学年全体発表会） 第２９回　　心身の健康プログラム④　「１年のまとめ、クラス裁量」 第３０回　　建学の精神と実践教育プログラム⑤（後期総括）
受講生に関わる情報および受講のルール	１　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　遅刻・欠席をしないことはもとより、折り目正しく熱意のある受講態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の「学校行事」には、必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている内容を事前に把握し、わからない部分については授業にて解決するよう努力すること。課題研究・制作に共同で取り組む際は、まず綿密な計画を立て、進捗状況を確認しあうこと。また、不明な箇所については担当者に相談すること。
オフィスアワー	各担当者に確認すること。
評価方法	課題研究・制作（40%）、演習への取り組み・内容等（30%）、提出物（30%）の総合点とする。
教科書	『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナヴィゲーター』くろしお出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理学理論と心理的支援（心理学概論）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース／初等教育コース・必修／学校教育コース・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 さまざまな領域の心理学を学びながら、心理学的な考え方を身につけ、人間に対する視野を広げることを目的とする。 【到達目標】 ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。 ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。 ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。 ④心理的支援の方法と実際について理解できる。
授業の概要	はじめて心理学を専門的に学ぶ講義として，性格・感情・知覚・学習・認知・社会・発達・臨床といった心理学の主要領域について，広く概説を行う。また，心理学の基礎的な知識の習得を通じて，社会福祉士・精神保健福祉士・幼小中高特別支援学校教諭・保育士・公認心理師などをはじめとする対人援助職を目指す上で基本となる心理学的な観点からの人間理解・支援の方法について学ぶことを目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション

【key words】

【授業概要】
科目の位置づけおよび，評価方法等の説明。講義方式の導入を兼ね，調べ学習の方法とフォーマット、評価基準の説明を行い、教科書の使い方のレクチャーを行う。その後，次回の内容である性格検査について実施予定。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料のみ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で配布・実施した性格検査の採点・図表化を行い、次回授業時に持参すること。

第２回　性格（パーソナリティ）：性格とは何か（類型論と特性論），性格の測定方法

【key words】
性格の理論（類型論と特性論）、測定法（質問紙法・投影法・作業検査法）

【授業概要】
心理学における性格（パーソナリティ）の理論と測定法について、受講生の実施したレポート課題を用いて解説予定。
【教科書ページ・参考文献】
pp12-20
【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：「新生児微笑と社会的微笑」、「ハーロウのアカゲザルの実験」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。

第３回　感情：子ども～高齢者の感情の発達，対人援助場面における感情

【key words】

		新生児微笑と社会的微笑・愛着・感情の生起（ジェームズ・ランゲ説／キャノン・バード説） 【授業概要】 心理学における感情（情動）の理論について、「乳幼児期の愛着」、「感情の生起に関する理論の歴史的変遷」を中心に解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp22-35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、「接近-接近コンフリクト」と「回避-回避コンフリクト」、「接近-回避コンフリクト」の例を各3つずつ記入し、次回授業時に持参すること。
	第４回	欲求と動機づけ：「やる気」，「したいけどできない」葛藤と欲求不満，現実への適応と防衛機制 【key words】 マズローの欲求階層説・原因帰属と動機づけ・葛藤・防衛機制 【授業概要】 「～したい」に関する欲求・動機づけに関する諸理論と、それがなされない時の葛藤／欲求不満について、受講生のレポート課題を用いて解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp38-50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、この利用者に生じた変化を教科書p51の図3-2を参考にしながら、防衛機制として捉え、それぞれを解釈し、次回授業時に持参すること。
	第５回	感覚・知覚・認知：五感から入力された情報を私たちの脳はどのように理解しているか 【key words】 適刺激と刺激閾・知覚的体制化・社会的知覚・選択的注意 【授業概要】 人間の知覚・感覚に関する諸理論について，実例を体験しながら解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp52-62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：「洞察学習」・「観察学習」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。
	第６回	学習：条件づけと様々な学習 【key words】 古典的条件づけ・オペラント条件づけ・試行錯誤学習・洞察学習・観察学習 【授業概要】 学習理論について、代表的な実験を紹介しつつ解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp64-69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：「エピソード記憶」・「意味記憶」・「手続き記憶」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。
	第７回	記憶：記憶のメカニズムと種類 【key words】 記憶の種類と分類・維持／精緻化リハーサル・物忘れと認知症の差異 【授業概要】 記憶のメカニズムに関する心理学の諸理論について、実験を行いつつ解説する予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp70-74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：「流動性知能」・「結晶性知能」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。
	第８回	知能・創造性：人の知的能力をどのように理解するか 【key words】

		知的能力・知能検査・認識の発達 【授業概要】 知的能力に関する諸理論とその発達に関するピアジェの認識発達について解説を行う予定。また、知能検査の実物を用いた演習を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 pp76-87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：「ハロー効果」・「根本的な帰属の誤り」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。
	第９回	人間関係と集団：対人関係と対人認知，集団の心理学 【key words】 対人認知・自己呈示と自己開示・集団の働き 【授業概要】 他者の存在が人間の心理に与える様々な影響について、映像教材などを用いながら解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp90-103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、「自己紹介」の文面を作成し、次回授業時に持参すること。
	第１０回	対人交流とコミュニケーション：関わりを科学する 【key words】 説得的コミュニケーション・面接法・アサーション 【授業概要】 コミュニケーションに関する心理学の諸理論について、カウンセリングや心理査定としての面接法の技法を紹介しつつ、解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp106-117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、「人生の設計図」の図表を完成させ、次回授業時に持参すること。
	第１１回	発達の概念：乳幼児から高齢者に至る発達段階と発達課題 【key words】 発達曲線・アタッチメント・アイデンティティ 【授業概要】 乳児から青年、高齢者にいたる生涯発達の過程の各段階における心理的特徴について解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp120-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、「自分が“ストレス”を感じた時に，ストレス解消のために行う具体的な行動」について10個前後を記入し、次回授業時に持参すること
	第１２回	適応とストレス：ストレッサーとストレス反応，コーピング 【key words】 闘争-逃走反応・一般適応症候群・アパシー 【授業概要】 ストレッサーとストレス反応に関する理論と対処方略、不適応の結果としての諸症状について、受講生の作成したレポートを用いた演習と解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp150-171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された課題用紙に沿って、対象者にどのような支援やかかわりが考えられるかを検討し、記入したものを次回授業時に持参すること
	第１３回	面接・見立て・心理療法：援助技法として心理学を応用する 【key words】 心理査定と見立て・心理療法 【授業概要】

	心理療法について、代表的な理論と実践について解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp174-200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：「前向健忘」・「逆向健忘」のいずれかについて、講義内の指示に沿って調べたものをA4用紙1枚以内にまとめ、次回授業時に持参すること。 第１４回　脳と心：高次脳機能障害とは何か 【key words】 高次脳機能障害・神経心理学的検査 【授業概要】 脳の機能とその損傷による高次脳機能障害について、広く解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 pp202-211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでに返却されたレポート等を次回持参すること 第１５回　総括 【key words】 心理学史・ 【授業概要】 これまで14回の講義について、心理学の歴史とあわせて振り返りを行い、質問対応や試験に関するオリエンテーションを行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 講義内で指示。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・初回のオリエンテーションに必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に担当教員に申し出ること。 ・課題として調べ学習や自分の考えをまとめるレポートの作成を求める機会が多いため、図書館，PC室／LL室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 ［受講のルール］ ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などはマナーモードとした上で、机の上に置かないこと。また、各自の事情により、机上に置いておく必要がある場合には、各回の講義開始前に担当教員へ申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・シャトルカード ・講義内での豆テスト
授業外時間にかかわる情報	・次回内容の予習にあたる「用語調べ」をほぼ毎回の講義で課題とするため，シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて，講義内でグループワークを行う。これらへの積極的かつ真摯な取り組むを望む。 ・課題の作成等で困難を感じた際には、講義内で提示するオフィスアワー等を活用して質問／相談にくること。
オフィスアワー	初回に提示
評価方法	課題の提出：25%，課題内容／取り組みの評価：35%，定期試験：40%（詳細は初回講義時に説明を行う）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　編集　『新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援』第３版　中央法規出版　2015年
参考書	講義内で適宜指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉機関の心理職 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	□プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会理論と社会システム　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第２回	貧困問題 【key words】 貧困線、相対的貧困 【授業概要】 貧困の種類、健康格差について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貧困率の統計について確認する。
	第３回	アメリカの社会問題 【key words】 アメリカ、健康格差 【授業概要】 アメリカの健康格差の実態について、具体例に基づき学習する。 【教科書ページ・参考文献】 312頁～315頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
	第４回	アメリカの社会保障費用 【key words】 アメリカ、医療保険

【授業概要】
アメリカの医療保険の実態について、具体例に基づき学習する。
【教科書ページ・参考文献】
312頁～315頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第５回　福祉国家
【key words】
イギリス、アンデルセン
【授業概要】
イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
85頁～87頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
諸外国の社会保障制度について確認する。

第６回　虐待
【key words】
児童・障害者・高齢者虐待、DV
【授業概要】
虐待の種類と対応を中心に学習する。
【教科書ページ・参考文献】
220頁～223頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第７回　人口からみた社会変動
【key words】
合計特殊出生率、人口オーナス
【授業概要】
人口に関係する指標について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
72頁～85頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人口統計について確認する。

第８回　社会集団と組織
【key words】
官僚、集団の類型
【授業概要】
集団の諸類型について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
164頁～175頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第９回　生活の質
【key words】
幸福感
【授業概要】
幸福感の決定要因について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
99頁～104頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幸福感の統計について調べる。

第１０回　社会問題と福祉
【key words】
社会問題、福祉
【授業概要】
社会問題と福祉の関係について、実例に基づいて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
224頁～225頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１１回　社会的ジレンマ
【key words】
囚人のジレンマ、社会的ジレンマ
【授業概要】
囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
176頁～186頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１２回　児童虐待
【key words】
児童虐待
【授業概要】
現場での児童虐待の対応について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
220頁～223頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。

第１３回　ジェンダー

	【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁、158頁、235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。 第１４回　家族 【key words】 マードック、ウォーナー、オグバーン、パーソンズ 【授業概要】 家族の機能、制度としての家族について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 105頁～119頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 第１５回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 211頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（80%）と授業中の課題（20%）によって評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」（中央法規出版株式会社）
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード：

英文科目名称： moral education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を厚生・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力に育成に当たります。 【到達目標】 ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。
授業の概要	・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること） 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。 【Key Word】 受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にありませんが、遅刻をしないようにしてください。
	第２回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ 【授業概要】 これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。 【Key Word】 咸有一徳　仁　習慣 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P13～P26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。

	第３回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ 【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。 【Key Word】 古典　論語　仁　建学の精神 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P26～P37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。
	第４回	「仁」とは何か　「真心」とは何か 【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう 【Key Word】 仁　真心　惻隠の心　四端 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P39～P56 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。
	第５回	「至誠」とは何か 【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。 【Key Word】 至誠　尽くす　儒教　儒学 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P57～P70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。
	第６回	王陽明『伝習録』と建学の精神－仁について－ 【授業概要】 本学の建学精神は『論語』に現れる「仁」です。この「仁」の言葉の意味が、時代とともに深化していき思想的な意味が付与されていきます。なかでも王陽明の仁解釈「万物一体の仁」は、思想的にも大きな意味と影響を後世にもたらしました。『伝習録』の中から「仁」に関する言及をピックアップし、考えてみましょう。 【Key Word】 王陽明　伝習録　万物一体の仁 【教科書ページ・参考文献】 『咸有一徳』P14・P15『王陽明徐愛「伝習録集評」』P62～P88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回・次回ともに中国思想の分野に比重が高くなります。また普段馴染みのない語が多々現れます。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、キーワードを必ず図書館にある辞書類で調べておいてください。
	第７回	王陽明『伝習録』と教育理念－知行合一について－ 【授業概要】 本学の教育理念である「知行合一」は明代の思想家王守仁（王陽明）によって唱えられた思想です。「知」は知識、「行」は行動といった意味です。知識と行動を本来一つであることを王陽明は主張しております。これは哲学の観点から言えば認識論に関わります。また実践という視点からも論ずることができる問題です。我々は知識と行動の関係をどのように把握するのがよいのか、例題を通して考えてみましょう。 【Key Word】 知行合一　致良知 【教科書ページ・参考文献】 『王陽明徐愛「伝習録集評」』P90～P116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回も中国思想の分野に比重が高くなります。また普段馴染みのない語が多々現れます。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、キーワードを必ず図書館にある辞書類で調べておいてください。
	第８回	小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷 【授業概要】 この回より５週にわたり、学習指導要領に記されている「道徳」について考察していきます。この回では近代以降の日本の公教育の変遷について概説します。 【Key Word】 修身　道徳 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学制百年史』等から日本における公教育変遷の概略を理解しておくこと。
	第９回	小学校・中学校における道徳課題について 【授業概要】 小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から道徳教育の教科化が始まりました。

小学･中学生にはどのような道徳的課題があるのでしょうか。また教師としてどのように日常生活で生徒に接するべきなのか考えてみましょう。
【Key Word】
小学校学習指導要領　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領の中から関連部分を抜き出したプリントを配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
その日のうちに、講義で触れた学習指導要領の部分を再度読み直し、意味を定着させてください。

第１０回　道徳課題に基づき指導案を作成してみる
【授業概要】
次回以降の模擬授業に備え指導案を作成してもらいます。指導案・模擬授業で使用する題材は、中学校「道徳」の教科書に必ず収録されている「足袋の季節」です。どのようにして生徒み多面的な発想をもたらし、また道徳心を育むか。グループに分かれ指導案を作成し、次週以降の模擬授業に備えてもらいます。
【Key Word】
指導案作成　足袋の季節
【教科書ページ・参考文献】
「足袋の季節」はプリントを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
『学習指導要領』の授業を進める際の注意点をよく読んどいてください。

第１１回　模擬授業
【授業概要】
各班が作成した指導案に基づき「足袋の季節」の模擬授業をしてもらいます。模擬授業を見ている側にも、問題点の指摘や、参考になった点を発表してもらいます。発表･見学ともに積極的に参加して意見を出してもらいます。
【Key Word】
指導案　模擬授業　足袋の季節
【教科書ページ・参考文献】
前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。

第１２回　続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）
【授業概要】
前回に続き発表してもらいます。発表済みの班はこの日に訂正を加えた指導案を提出してもらいます。（この日、発表の版は次週に提出）指導案を作成したままでなく、見直し・訂正を加えた上で各班に提出してもらいます。
【Key Word】
指導案　模擬授業　足袋の季節
【教科書ページ・参考文献】
前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。

第１３回　家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察）
【授業概要】
社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。
【Key Word】
家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ
【教科書ページ・参考文献】
『咸有一徳』P71～P86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。

第１４回　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察）マナーについて
【授業概要】
前回に続き、今回は学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。
【Key Word】
学校生活　服装　環境美化活動
【教科書ページ・参考文献】
『咸有一徳』P87～P102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。

第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える）
【授業概要】
最近（2019・2.28現在）の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。
【Key Word】
時事問題
【教科書ページ・参考文献】
各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字

	でまとめてきてください。
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組んでもらいます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 ・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えてみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験６０％　課題２０％　発表２０％
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月　鈴木利定閲　中田勝著『王陽明徐愛「伝習録集評」』明徳出版社、2016年6月
参考書	『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月『中国文化史大事典』大修館書店、2013年5月『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　健康論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身のを通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。 【到達目標】 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。 ②日常的に栄養･休養･運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。 ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。
授業の概要	健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　健康を考える（意識、意義、人間の幸福） 【key words】WHOの健康の定義 【授業概要】シラバスの説明、「健康」を考えるをテーマに、健康の社会的マネジメント（健康を社会問題として考える、健康マネジメント施策の歴史と展開、ヘルスプロモーション）を学び、健康を考えることの大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学【key words】　生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　ｐ1-7 【課題・予習・復習・授業準備指示】「ヘルスマネジメント」について学習しておく。 第２回　ヘルスマネジメント論（我が国の動向、健康の個人的マネジメント） 【Key　words】健康政策　健康管理 【授業概要】わが国の動向（健康づくり政策、健康増進政策と個人の身体運動との関わり）、健康の個人的マネジメント（運動不足を生む現代的背景、健康と運動、“運動不足病”の始まり、分銅不足がもたらすもの、健康をつくるということ）を学び、健康管理の大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　ｐ8-p22 【課題・予習・復習・授業準備指示】「生活習慣」について学習しておく。 第３回　疾病予防論（生活習慣病） 【key　words】疾病　生活習慣 【授業概要】生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高脂血症、生活習慣病を予防するライフスタイル：運動、栄養、喫煙、飲酒、休養、・睡眠など）について学び、、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：　「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　ｐ23-p34 【課題・予習・復習・授業準備指示】「感染症」について学習しておく。 第４回　疾病予防論（感染症） 【key　words】疾病　感染症 【授業概要】感染症（近年の感染症の動向と感染症の発症要因、主な感染症とその対策、かぜ、とインフルエンザ、結核、ＨＩＶ，ＡＩＤＳ、感染経路、話題になった感染症）、について学

び、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法について習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ35-p43
【課題・予習･復習授業準備指示】「メンタルヘルス」について学習しておく。

第５回　メンタルヘルス論（精神の正常と異常、心身相関、精神障がいの分類）
【key　words】精神衛生　健康管理
【授業概要】精神の正常と異常（健康と病気、正常と異常、事例性）、心身相関（心身相関の問題、脳と精神現象、精神心理学、ニューロンと精神伝達物質）、精神障害の分類（伝統分類、操作的分類）について学び、心の健康とその保持を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ44-p52
【課題・予習・復習・授業準備指示】「青年期の心性と身体」について学習しておく。

第６回　メンタルヘルス論（青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療）
【key　words】精神衛生　健康管理
【授業概要】青年期の身体と心性（青年期の身体変化、青年期の心性）、青年期に多い精神障害とその治療（青年期の主な精神障害、疾病分類以外の視点からの状態像分類）、精神の健康増進と予防（キャンパス内、大学保健管理センター）について学び、心の健康とその保持について習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ53-p70
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体力」について学習しておく。

第７回　体力論（体力、体力診断、青少年の体力、青少年の体力、加齢と体力）

【key　words】体力
【授業概要】体力となにか（体力の概念、体力の分類、体力と健康とのかかわり）、体力診断（意義、歴史、新体力テストの概要）、青少年の体力（発育・発達と体力、体力の性差、体力の年次変化、運動習慣と体力）、加齢と体力（加齢の影響、加齢と体力の個人差、暦年齢と体力年齢）を学び、体力の把握とその増進方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ71-p96
【課題・予習・復習・授業準備指示】「運動プログラム」について学習しておく。

第８回　運動プログラム論（身体運動プログラムの考え方、運動の実際）
【key　words】運動プログラム
【授業概要】運動プログラムの考え方（意義、効果的な運動、プロセス、運動プログラムの自由度、運動の自覚的効果）、運動処方の実際（心肺機能を高める運動、筋力と筋持久力を高める運動）、運動処方の現実と課題を学び、具体的な体力増進のための方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】　　教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ97-p114
【課題・予習・復習・授業準備指示】「スポーツと健康」について学習しておく。

第９回　スポーツと健康論（スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習）
【key　words】運動　スキル
【授業概要】スポーツと健康をテーマに、スポーツと寿命（アスリートの寿命、運動と寿命）、スポーツとスキル（アスリートのスキル、スキルの個人差）、運動スキルの学習（運動スキルの学習と転移、ゴールデンエイジとシナプスの可塑性、運動システムとミラーシステム）を学び、個々の健康つくりにスポーツの大切さと応用方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】　　教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ115-p132
【課題・予習・復習・授業準備指示】「生涯スポーツ」について学習しておく。

第１０回　運動文化論（身体運動と文化、運動･スポーツの文化と思想、現代のスポーツ･身体運動）
【key　words】運動　文化
【授業概要】身体運動と文化（身体運動に対する視線、今日の健康ブームと身体観）、運動・スポーツの文化と思想（古代ギリシャ・ローマ時代の身体運動文化、中世・近世の身体文化、西洋の身体運動文化、日本における身体運動文化、中東の身体運動文化）、現代のスポーツ・身体運動（文化としてのスポーツ・身体運動、レジャーとしてのスポーツ）について学び、運動の持つ文化性に着目し運動の意味を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ133-p148
【課題・予習・復習・授業準備指示】「スポーツ基本法」について学習しておく。

第１１回　生涯スポーツ論（スポーツ行政と地域スポーツ）
【key　words】スポーツ基本法　総合型スポーツクラブ
【授業概要】生涯スポーツと健康生活の推進について、スポーツ基本法の生涯スポーツ振興施策で、種目の多様性、多世代、指導者、会員が集う拠点施設、自主的運営を掲げ、地域に根ざした自主的運営型・複合型スポーツクラブとして「総合型地域スポーツクラブ」を推進していることを学び、これからの健康つくりに地域住民が主体的に運営する生涯スポーツクラブの推進が重要であることを習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：（資料）スポーツ基本法　総合型地域スポーツクラブ：文部科学省　群馬県スポーツ協会
【課題・予習・復習・授業準備指示】「生涯スポーツ」についてまとめておく。

第１２回　食の健康論（食生活の推移、各栄養素の役割、ＰＦＣバランスと健康、スポーツと運動）
【key　words】食　食育　うぃよう　健康
【授業概要】日本人の食生活推移（食生活の変遷、食品群別摂取量の年次推移、エネルギー産生栄養素の年次推移、食料自給率、和食文化）、各栄養素の役割、食に関する日本の政策（食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方）、ＰＦＣバランスと健康（日本型食生活、ＰＦＣバランスと減量効果、糖質制限と健康）、スポーツと栄養（栄養摂取とリカバリー、運動パフォーマンスと栄養摂取）を学び、食生活のスポーツとの関連を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　　ｐ149-p175

	【課題・予習・復習・授業準備指示】「ラジオ体操」について学習しておく。 第１３回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践） 【key words】身体運動　リズム　健康 【授業概要】ラジオ体操皆の体操の基礎理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・皆の体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】「ラジオ体操」について学習しておく。 第１４回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践） 【key words】身体運動　リズム　健康 【授業概要】ラジオ体操・みんな体操の応用理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・みんなの体操の理解と指導方法を習得する。【教科書ページ・参考文献】教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】　「ラジオ体操、みんなの体操」についてまとめておく。 第１５回　まとめ 【key words】健康　運動　栄養　休養 【授業概要】現代の健康つくりに係わる様々な問題を取り上げ、現在あるいは未来に向かって生きていくためにどのように考えていけばよいのか質疑応答をおこなう。個々の健康つくりについて自己評価をおこなう。【教科書ページ・参考文献】教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　p 176-p183 【課題・予習・復習・授業準備指示】自分自身の健康つくりについてまとめておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関する情報] ・生涯の健康つくりとして、日常生活に応用できる態度で受講する。 ・新聞、ニュースでの最新の健康に関しての情報は、特に意識するよう習慣づける。 〔受講のルール〕 ・毎時間授業の「コメントカード」を提出する。 ・「健康つくりと運動」では、運動のできる服装で受講する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモをしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。
オフィスアワー	講義の初日に周知する　　他の時間の希望時はアポイントを頂きたい。
評価方法	筆記試験（70%）　日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点（30%）　総合評価で60%以上
教科書	電気通信大学健康・スポーツ科学部会編：　大学生のための「健康」論　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー：　道和書院：　2018
参考書	健康・体力つくり財団：「健康日本21」　健康・体力つくり財団　2010
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立高等学校保健体育科教諭及び管理職、群馬県教育委員会体育課指導主事、生涯スポーツ課課長補佐、群馬県障害福祉課、社会福祉課、保健福祉課、群馬県社会福祉事業団、群馬県ふれあいスポーツプラザ（障がい者スポーツセンター）指導課長等での経歴（延べ52年）経て健康･福祉…スポーツの授業に当たっている。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　スポーツ及びレクリエーション実技　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、福祉施設、病院、学校教育の現場等で活動できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.レクリエーション活動の意義を理解できる。 2.さまざまな活動を通して、企画・実践することができる。 3.他者への支援(指導)ができるようになる。
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲームを通じてレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション・レクリエーションの理解

【key words】
レクリエーション

【授業タイトル】
余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P62　学習課題の概要を確認しておくこと

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと

第２回　アイスブレーキング(実践)

【key words】
アイスブレーキング

【授業概要】
集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P246

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。

第３回　対象にあわせたレクリエーションワーク　対象に合わせたアレンジ方法①　アレンジの基本技術

【key words】
アレンジ
【授業概要】
対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」につい

てその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書304～315

【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。

第４回　対象にあわせたレクリエーションワーク　対象に合わせたアレンジ方法②　アレンジ法の応用
【key words】
アレンジの方法
【授業概要】
アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P316～325

【課題・予習・復習・授業準備指示】
アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。

第５回　対象にあわせたレクリエーションワーク　指導実習　室内でできるレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
対対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと

第６回　対象にあわせたレクリエーションワーク　指導実習　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム　遊びができることを確認する。

【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。

第７回　支援活動演習Ⅰ　レクリエーションプログラムの企画と運営①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第８回　支援活動演習Ⅰ　レクリエーションプログラムの企画と運営①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第９回　支援活動演習Ⅰ　レクリエーション評価とまとめ①　（企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。

第１０回　ニュースポーツ　　キンボール　　ルールの理解と基礎技術の獲得

【key words】
アレンジ　キンボール

【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。

第１１回　ニュースポーツ　　キンボール　　ゲーム

【key words】
アレンジ　キンボール

【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。

第１２回　支援活動演習Ⅱ　レクリエーションプログラムの企画と運営②-1　（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）

【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第１３回　支援活動演習Ⅱ　レクリエーションプログラムの企画と運営②-2　（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）

【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第１４回　支援活動演習Ⅱ　レクリエーション評価とまとめ②　（企画案の評価及び好評）

【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。

第１５回　前期の振り返り　まとめ

【key words】
レクリエーション支援

【授業概要】
前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
　前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと

第１６回　　レクリエーションダンス　（地域伝承踊り）
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
第１７回　　レクリエーションダンス　（介護予防体操含む）
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
第１８回　　コミュニケーション・ワーク　ホスピタリティとは
【key words】
ホスピタリティ、コミュニケーションワーク

【授業概要】
レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P226～P227

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。
第１９回　　コミュニケーション・ワーク　ホスピタリティの示し方
【key words】
ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム

【授業概要】
対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P228～235

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。
第２０回　　ニュースポーツ　　ユニバーサルホッケー　　ルールの理解と基礎技術の獲得
【key words】
ユニバーサルホッケー

【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。

第２１回　　ニュースポーツ　　ユニバーサルホッケー　　ゲーム
【key words】
ユニバーサルホッケー

【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
　対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。

第２２回　　支援活動演習Ⅲ　レクリエーションプログラムの企画と運営③-1　（制約のある空間での支援方

法/企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第２３回　支援活動演習Ⅲ　レクリエーションプログラムの企画と運営③-2　（制約のない空間での支援方法/(企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。

第２４回　支援活動演習Ⅲ　レクリエーション評価とまとめ③　（企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。

第２５回　目的に合わせたレクリエーションワーク　目的に合わせたレクリエーションワークとは
【key words】
よりより生の実現

【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P274～P277

【課題・予習・復習・授業準備指示】
CASE STUDY の事例を確認しておくこと

第２６回　目的に合わせたレクリエーションワーク　素材、アクティビティの選択
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス

【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287

【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。

第２７回　支援活動演習Ⅳ　レクリエーションプログラムの企画と運営④-1　（制約のある空間での支援方法/企画案の評価及び好評）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 第２８回　支援活動演習Ⅳ　レクリエーションプログラムの企画と運営④-2　（制約のない空間での支援方法/企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 第２９回　支援活動演習Ⅳ　レクリエーション評価とまとめ④　（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 第３０回　1年間の振り返り　まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと
受講生に関わる情報および受講のルール	・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更時は掲示する）
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価する。
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	必要に応じて紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域スポーツクラブでの指導経験あり アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　英語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社①・②)・後期(社③)	1年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
グジェビック　マレク			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	受講生は初歩的で実際的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。 （1）学生は単語同士がつながった場合の発音、文の中でのアクセント、イントネーションができる。 （2）語彙－学生は人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を使える。 （3）機能的な言語の構造－学生はさまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるようになる。 （4）文法－学生は英語の文法の基本的な原則を理解できる。
授業の概要	自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　Self-introduction. Meeting People（自己紹介、他の人を紹介すること） 第２回　Pastimes and Hobbies（他の人について話す、趣味・興味） 第３回　Would You Like One?（提供すること） 第４回　I Feel Like Doing It（提案すること、意図・意思を表す） 第５回　Let’s Do It Together!（招待する、理由を説明すること） 第６回　Jobs and Occupations（仕事について話す） 第７回　What Do You Do?（仕事の描写をすること、意見を表現すること） 第８回　Look! What Is He Doing?（いまのところ起こる活動、時間を数える） 第９回　What Are You Going to Be?（自分の経験について話す） 第１０回　Can You Read It?（能力を表す、能力不足を表す） 第１１回　When a Big One Strikes（可能性を、許可・同意する） 第１２回　The Last Trip to Tokyo（昔の出来事・経験について話す） 第１３回　A Game of Tennis（どちらが良い？どちらが一番良い？） 第１４回　Touring the States（アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか？） 第１５回　General review and test preparation（一般的な復習と試験の準備）

受講生に関わる情報および受講のルール	会話のコースなので、次の点がとても重要。 ●授業に出席すること ●授業の事柄を準備すること ●練習に参加すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	オリエンテーション時に指示する。
オフィスアワー	月 12:00-13:00 / 水 11:30-12:30
評価方法	1.学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績（70%） 2.授業へ積極的に参加しているかという点から総合的に評価する（30%）
教科書	『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2019)
参考書	授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　国際文化論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 国際文化論（intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。 【到達目標】 国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～ 第２回　和の文化（1）～その構造について～ 第３回　和の文化（2）～神の文化との比較～ 第４回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1） 第５回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～ 第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子 第７回　ヨーロッパ文明とEU、そしてEUの英国・トルコとの関わり 第８回　日本と中東（1） 第９回　日本と中東（2） 第１０回　湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動 第１１回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて 第１２回　「平和」実現への第一歩とは（1） 第１３回　「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～ 第１４回　国際文化論として考える国際リハビリテーション援助論 第１５回　個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の10分間は対応可能です。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　美術技法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	選択
担当教員			
本田　真芳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら作り出す喜びを味わう。造形的な創造活動の能力を培い、豊かな情操を養うことを目的とする。 【到達目標】 　①私たちの造形表現の歴史は、私たちが外界と内面とに感じる「美」との対話の歴史であることを知ることができる。 　②造形表現を学ぶ、あるいは教える目的は、まず造形表現の面白さに気づくことができる。 　③版画を歴史的に俯瞰した場合、印刷術の発展とは切っても切れない関係があることを知ることができる。
授業の概要	人は生きている限り様々な体験をし、様々な生活感情を持ち、命ある人間がその生活感情に基づき、何かを表そうとする意識を持った時、それが表現の原点であることを身につけ美術技法を通して、美しいものを作ろうという観念から版画の歴史、その流れを学び、版画の教育的意義を理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　　オリエンテーション　美術技法を考える　版画の材料と用具 第２回　　発想、表現　鑑賞について　版画の種類について 第３回　　美術の概念　木版画の伝統技法について 第４回　　木版画のいろいろな技法 第５回　　版画の歴史について考える　銅版画の流れ 第６回　　版画の種類について学ぶ　凸版凹版、平板、孔版の確認 第７回　　版画の種類について学ぶ　直接法と間接法 第８回　　基本技法を学ぶ　各技法による道具の確認 第９回　　基本技法を学ぶ　いろいろなものでドライポイントを試みる 第１０回　　製版の準備　ドライポイント　プレートを使用する 第１１回　　製版の準備　インクの詰め方、ふき取り方を学ぶ 第１２回　　製版の準備　プレス機の（圧）　いろいろな工夫を学ぶ 第１３回　　製版の実践・刷り　インクの硬さ、やわらかさについて学ぶ 第１４回　　製版の実践・刷り　インクの硬さ、やわらかさが適切であったかの確認

	第１５回　　製版の実践・刷り　紙による印刷効果の違いを学ぶ 第１６回　　基本技法を学ぶ　（メゾチント）について　黒の版面を削り作成する 第１７回　　基本技法を学ぶ　（ルーレット）について　ルーレットで不規則な点の下地を作る 第１８回　　基本技法を学ぶ　（エッチング）について　針で軽く絵を描き腐蝕させる技法 第１９回　　基本技法を学ぶ　（ソフトグランド）について　亀裂が生じた版を腐蝕する技法 第２０回　　基本技法を学ぶ　（アクアチント）について　松ヤニの粉末を使う技法 第２１回　　その他の技法　ステンシル、孔版、穴から絵具を刷り込んで作る技法 第２２回　　その他の技法　謄写版画、ロウ引きの原紙に鉄筆などで描く方法 第２３回　　凸版を刷る　実物版、紙版、木版、ゴム版等で作成する 第２４回　　版画のサインと限定番号　他の復刻作品と区別するために用いる 第２５回　　製版の実践　版材となる金属板を用意する 第２６回　　製版の実践　銅版の切り方、銅版カッターを使う、俗に「ひっかき」ともいう 第２７回　　紙の湿し方　銅版画の刷りのためには、前もって湿らせる必要がある 第２８回　　銅版画におけるプレス圧の決め方　ドライポイントプレートと銅版の違い 第２９回　　銅版画における刷り、インクの詰め方、インクの拭き取りについて 第３０回　　版の保存と構図等はどうであったか、他の作品の鑑賞
受講生に関わる情報および受講のルール	シラバスを確認し積極的に授業に取り組むこと。他の学生の迷惑になる行為は慎むこと。次の講義の資料等配布する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	作業内容を十分理解し授業に臨むこと。復習予習を必須とする。
オフィスアワー	授業前後10分対応可能
評価方法	課題作品 70%（作品の構成、バランス、プロポーション、コントラスト等で評価）　試験（レポート）　30%　総合で評価します。
教科書	長谷喜久一（著）　図画工作　建帛社
参考書	宮脇理（著）　ベーシック造形技法　建帛社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人体の構造と機能及び疾病　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者として、ふさわしい人格を形成できる。 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。 医療、福祉分野においてのコミュニケーション力、危機管理能力の形成がなされる。 　また、他者への伝達技法を学び取ることができる。
授業の概要	社会福祉専門職(又は医療専門職）に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　人体の成長・発達・老化　（身体の成長・発達　精神の成長・発達　老化に伴う身体的・精神的変化） 第２回　心身機能と身体構造の概要（1）　人体各部位の名称と方向用語 〃 第３回　心身機能と身体構造の概要（2）　各器官の構造と機能1) 〃 第４回　心身機能と身体構造の概要（3）　各器官の構造と機能2) 〃 第５回　心身機能と身体構造の概要（4）　各器官の構造と機能3) 〃 第６回　健康の捉え方　国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 〃 第７回　疾病の概要（1）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第８回　疾病の概要（2）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第９回　疾病の概要（3）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく

	第１０回　疾病の概要（4）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第１１回　障害の概要（1）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第１２回　障害の概要（2）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第１３回　障害の概要（3）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 第１４回　障害の概要（4）　理解度を判断しつつ配分を行い進めていく 〃 第１５回　リハビリテーションの概要　リハビリテーションの概念と範囲 〃
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連、前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病―医学一般』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 歯科医師 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保健医療サービス　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につけることができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として患者（利用者）のQOL（生活の質）の向上に寄与・支援できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　保健医療サービス・保健医療対策の概要 第２回　医療保険制度　医療保険制度の概要　医療費に関する政策動向 〃 第３回　診療報酬　診療報酬制度の概要 〃 第４回　介護保険制度・自立支援医療を含む公費負担医療制度 〃 第５回　医療施設等の概要　(1) 医療法による医療施設　(2) 保険医療政策による医療施設　(3) 診療報酬における医療施設　〃 第６回　介護保険法における施設/在宅支援システム 〃 第７回　生命倫理学　インフォームド・コンセント等 〃 第８回　保健医療サービスにおける専門職の役割（1）　医師・看護師・保健師制度・医療系療法士　等 〃 第９回　保健医療サービスにおける専門職の役割（2）　社会福祉専門職　等 〃 第１０回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（1）　医療ソーシャルワーカー業務指針 〃

	第１１回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（2）　MSWと業務の内容 ―理論編― 〃 第１２回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（3）　MSWと業務の内容 ―応用編― 〃 第１３回　保健医療サービス関係者との連携と実際（1）　医師・看護師・保健師との連携と実際 〃 第１４回　保健医療サービス関係者との連携と実際（2）　地域の社会資源との連携と実際 〃 第１５回　医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理　総括 〃
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。 各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連・前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。 教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容・資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会（編）　『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』最新版　中央法規出版 15－15に関してはオリジナルプリントを配布します。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 歯科医師 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　高齢者に対する支援と介護保険制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が活き活きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということはどのようなことかを知る。 【到達目標】 　①高齢者に対する全人的理解を図る。　②これまで行われてきた高齢者への福祉サービスの課題を把握し、なぜ介護保険制度が導入されたかを検証する。　③介護保険制度の現状の理解と今後の課題を検証する。　④介護に従事した時に役に立つレベルの介護保険制度の理解。　⑤今後の高齢者福祉サービスの在り方を考える。
授業の概要	我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかり理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方等概説） key word 「高齢者」と一括りにしない 授業概要　高齢者に対する支援と介護保険制度を学ぶにあたって学生の高齢者への意識等の確認 課題等　高齢者とはを考えてみる 第２回　高齢者の特性（社会的理解・身体的理解） key word　高齢者と老いを検証する 授業概要　高齢期における生活変化や家族と社会関係、生きがい、や安全確保、差別など社会的理解、身体　機能の変化等を学ぶ 教科書頁　1～8 課題等　高齢化率の推移等を確認してみよう 第３回　高齢者の特性（精神的理解・総合的理解） key word　高齢者個々に特性がある 授業概要　高齢者の身体的理解をする。ここでは加齢に伴う身体機能の変化や外見から見た高齢化と内面　から見た変化について検証するとともに、加齢に伴う基礎的運動機能の変化などから高齢者を総合　的に理解する 教科書頁　9～28 課題等　自分の生活と高齢者の生活を比較してみよう 第４回　少子高齢化と高齢者① key word　人生５０年時代から人生９０年時代へ 授業概要　我が国の高齢化は先進諸国に例を見ない速さで進行しており、その推移及びその大きな原因と　なった少子化等の動向について現状認識をする 教科書頁　29～40 課題等　少子化の要因を整理しておくこと 第５回　少子高齢化と高齢者②

key word　高齢化は重層的な課題を社会に投げかける
授業概要　高齢者を取り巻く諸問題とは何か、例えば健康問題や介護の問題、更には経済的な問題等々多く　の問題の発生が懸念されている。それらについて具体的な事例を含めて検証する。
教科書頁　41～60
課題等　ライフサイクルの変化について予め考えておくこと

第６回　高齢者保健福祉の発展①
keu word　老いを歴史から考える
授業概要　我が国の高齢者の定義はどのように変遷してきたのか、高齢者（老人）に対する福祉サービスは　どのようになされてきたのかを奈良時代までさかのぼってその起源から近代にいたるまでを検証す　る。
教科書頁　61～76
課題等　我が国の歴史と高齢者福祉の流れを突合してみる

第７回　高齢者保健福祉の発展②
key word　老年人口の急増とその対応は
授業概要　第二次世界大戦後、我が国の福祉制度は児童や障害者、貧困者に対する対応を中心に実施されて　いく。そうした中、新たな課題として老年人口の急増が表出し、その対応を図るため老人福祉法が　制定された。その経緯と現在の状況について歴史的に学ぶ。
教科書頁　77～86
課題等　介護の社会化とは何かを考え整理する

第８回　高齢者支援の関係法令①
key word　高齢者は一律に支えられる人ではない
授業概要　高齢者保健福祉推進の基本的考え方を示した「高齢社会対策基本法」や「高齢社会対策大綱」に　ついて、その理念や国等が行うべき施策について学ぶ
教科書頁　87～94
課題等　高齢者のとらえ方の変化を整理する

第９回　高齢者支援の関係法令②
key word　老人は敬愛される存在だけか？
授業概要　歴史的な救済制度とうについて学んできたなかで、社会の変化に伴い「老人福祉法が制定される　が、その基本的な理念や法の構成とその役割について学ぶ
教科書頁　95～99
課題等　老人福祉法を一読しておくこと

第１０回　高齢者支援の関係法令③
key word　高齢者と医療は切っても切れない
授業概要　高齢化に伴い多くの人々が加齢による身体機能の衰えや精神的課題を生じる。その対応を図るた　めの医療制度について基本的なことを学ぶ。また、高齢者の支援に関連して近年表出している虐待　や住宅問題等の課題との対策などについて学びを深める
教科書頁　100～124
課題等　新たな高齢者福祉について検討しておく

第１１回　第１回～第１０回までの総合的復習　（小テスト）
key word　高齢者を取り巻く環境は社会の縮図
授業内容　第１回から第１０回までの講義を総括するとともに、その成果を小テストで評価する
課題等　テストの結果を振り返り今後の学びに活かす

第１２回　介護保険制度の基本的枠組み①
key word　介護を社会で支える
授業概要　介護保険制度の最も初歩的・基本的な事項である「保険者」「被保険者」「サービス利用の方　法」「サービス内容」等について学ぶ
課題等　財源構成と対象者についてしっかり把握すること

第１３回　介護保険制度の基本的枠組み②
key word　高齢者の尊厳を支える
授業概要　介護保険制度の理念の把握と共に、介護保険制度創設から最近の制度改正に至る原因と改正内容　について学ぶ
教科書頁　131～138
課題等　制度改正後の状況についてしっかり把握すること

第１４回　介護保険制度の基本的枠組み③
key word　安定したサービス供給のために
授業概要　制度の基本的枠組みである保険者・被保険者について、より詳細な把握を行う。また、高齢者介　護に関する環境は大きく変化している。そこで、人材の確保や介護に対する意識の醸成等について　学ぶ
教科書頁　139～154
課題等　地域ケアとは何かを整理しておく

第１５回　前期授業の総括
key word　介護の普遍化
授業概要　第１回から第１４回までの講義を総括する
課題等　夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかりと復習しておくこと

第１６回　介護保険制度の仕組み①
key word　要介護認定とは何か
授業概要　介護保険サービスを受けるには要介護認定を受けてその該当者とならなければならない。そこ　で、給付体調者や要介護認定プロセスについて理解するとともに、受けられるサービスメニューを　把握する。
教科書頁　155～165
課題等　サービス項目について把握すること

第１７回　介護保険制度の仕組み②
key word　介護サービスは地域での実施が主体？

授業概要　　サービス事業者に支払われる介護報酬について学ぶとともに、新たなサービスとして整理された　　地域支援事業創設の背景等について学ぶ
教科書頁　　166～174
課題等　　地域で行うサービス内容について整理しておくこと

第１８回　介護保険制度の仕組み③
key word　地域包括支援センターの創設
授業概要　　制度改正により創設された地域包括支援センターの役割や人員配置等について学ぶ。さらには、　　介護保険制度を計画的に推進する
教科書頁　　175～180
課題等　　介護保険事業計画に網羅する事項について整理しておくこと

第１９回　介護保険制度総括
key word　サービスは質の確保が肝要
授業概要　　高齢者福祉サービスの主流となった介護保険制度の基本的な事項についての整理を行う。また、　　質の確保等に関するために求められる情報の公表や苦情への対応や「福祉サービス運営適正化委員　　会」等の役割を知る
教科書頁　　18～184
課題等　　質の確保の必要性について検討してみること

第２０回　介護保険サービスの体系①
key word　サービスの基本はなにか
授業概要　　サービスの対象者の変化や専門職の役割と実際について、特に中心となる各種職種ごとの具体的　　な業務や課題、資格の取得要件等について学ぶ
教科書頁　　185～192
課題等　　それぞれの専門職の役割を整理しておくこと

第２１回　介護保険サービスの体系②
key word　居宅と施設サービスの両立
授業概要　　専門職のフォローを行うとともにサービスの主体となる「居宅サービス」「施設サービス」には　　多くのサービス形態が存在しており、その内容について理解を深める
教科書頁　　192～202
課題等　　サービスの詳細について整理し把握しておくこと

第２２回　介護保険サービスの体系③　（小テスト）
key word　介護予防は元気な高齢者を創る
授業概要　　介護予防の必要性とどのような予防サービスが実施されているかを学ぶ。また、法改正により新　　たなサービスとして「地域密着型サービス」が創設されたことから、その概要についても学ぶ。　　「小テストの実施」
教科書頁　　203～212
課題等　　予防による効果について検証しておくこと

第２３回　高齢者を支援する組織と役割①
key word　実施主体は市町村
授業概要　　高齢者が安心して暮らし続けられる地域社会の仕組みづくりを進めるために、国等がそれぞれの　　役割を分担している。それぞれの役割について理解する。
教科書頁　　213～224
課題等　　サービス事業者や国民健康保険団体連合会の役割を確認すること

第２４回　高齢者を支援する組織と役割②
key word　地域を主体としたサービス体系の構築
授業概要　　地域における高齢者サービスの中心的機関である「地域包括支援センター」の組織体系と役割を　　知るとともに地域における民間の中核組織である「社会福祉協議会」や「NPO」の役割についても　　理解を深める
教科書頁　　225～248
課題等　　民間組織の役割を整理する

第２５回　高齢者支援の方法と実際①
key word　高齢者もパワーを有している
授業概要　　高齢者を多面的にアセスメントし、高齢者の持つ弱さや強さを知る。そこから支援とともに家族　　との関連や家族の果たす役割、地域のグループを活用した相談援助等について考察する
教科書頁　　249～255
課題等　　地域のグループはどのような組織があるか検証しておく

第２６回　高齢者支援の方法と実際②
key word　ストレス耐性の脆弱性を支える
授業概要　　高齢者を支えるケアマネジメントはどのように発展したか。その意義や実践面での対応等につい　　て学ぶ。また、各種事例からサービスの利用と地域連携等について検証する
教科書頁　　256～284
課題等　　事例を読み込み実践的支援を創造する

第２７回　高齢者を支援する専門職の役割と実際
key word　専門職によるチームケアで効果を
授業概要　　高齢者サービスにおいて多くの専門職がかかわることになるため、それぞれの職種について基本　　的理解と共に他職種連携についてその必要性と実践の展開について学ぶ
教科書頁　　285～300
課題等　　福祉・医療の専門職と効率的連携方法についての検討する

第２８回　介護の概念や対象①
key word　高齢者の全人的理解
授業概要　　社会福祉士として介護を学ぶ必要性や介護の範囲、さらには求められる専門性と理念と介護の対　　象者への理解など幅広い分野での知識の高揚を図る
教科書頁　　301～342
課題等　　これまで学んできたことをしっかり咀嚼し整理をしておくこと

第２９回　介護の概念や対象②
key word　自己決定と自助努力
授業概要　　介護サービスの目的は高齢者の自立を支援することであり、介護者や社会福祉士はどのような対　　応をとったら良いのかを学ぶ。また、介護サービスの範囲についても検証しこれから求29められる介　　護サービスの在り方について検討を重ねる

	第３０回　教科書頁　343～455 課題等　これまで学んできた総論的な部分であり、改めてしっかりと読み込んでおくこと 後期の総括 key word　介護の社会化を実現するために 授業概要　高齢者への支援は介護サービスは勿論のこと、医療や住宅、街づくりまで広範にわたることを改　めて整理するとともに、今後予想される超高齢社会への対応についても検証する
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。授業の理解度を確認するため前期・後期各１回の小テストを行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習をして授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカードにより質問するか、授業中若しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。なおマスコミに取り上げられた高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。
オフィスアワー	木曜午後13：30～15：30
評価方法	定期試験80%　小テスト20%
教科書	新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（最新版）中央法規
参考書	関係資料は適宜配布する。「社会福祉用語辞典（ミネルヴァ書房）」は授業に役立つので購入することが望ましい。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県介護高齢化において老人福祉や介護保険業務に従事 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助の基盤と専門職　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
柳澤　充			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての知識、技術、価値、倫理について理論的体系的に理解するとともに、ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて理解し説明することができる。
授業の概要	社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素やの形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。また、地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法、などについて説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト目次に目を通し、講義のイメージを持つこと
	第２回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ 【key words】 社会福祉士、名称独占、認定社会福祉士制度 【授業概要】 社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士の位置づけについて学ぶ。資格の特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP2～3（第1章社会福祉士の役割と意義） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「社会福祉士」、「名称独占」、「認定社会福祉士制度」について他者に説明できるように準備しておくこと。 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。 【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第３回　現代の社会福祉士に求められる専門性
【key words】
地域、福祉課題、総合的かつ包括的な相談援助、ソーシャルワークの本質、生活困窮者自立支援法
【授業概要】
広範化と深刻化する問題状況のなかで、それらに対応できるだけの専門性を高めるだけではなく、地域を基盤としたソーシャルワークの必要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P3～P6（第1章社会福祉士の役割と意義）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「ソーシャルワークの本質」、「生活困窮者自立支援法」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第４回　精神保健福祉士の役割と意義、現代社会とは
【key words】
精神保健福祉士、現代社会とは、産業構造の変化、雇用形態の変化、人口減少、少子化、高齢化、世帯人数、認知症高齢者
【授業概要】
精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。現代社会はどのような社会かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P6～P12（第1章社会福祉士の役割と意義）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「精神保健福祉士」、「産業構造の変化」、「雇用形態の変化」、「人口減少」、「少子化」、「高齢化」、「認知症高齢者」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第５回　地域での生活、地域や家庭内で起きていること、チームアプローチの必要性
【key words】
過疎地域、地域力の低下、災害支援、多様な問題、チームアプローチ

【授業概要】
過疎地域の問題点や地域力が低下している現状、災害時の問題、制度のはざまの多様な問題があることから、ソーシャルワークが必要であることを学ぶ。多職種が連携して支援するチームアプローチの必要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P12～P22（第1章社会福祉士の役割と意義）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「過疎地域」、「地域力の低下」、「災害支援」、「多様な問題」、「チームアプローチ」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第６回　ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、
グローバル定義、IFSW、IASSW、ウェルビーイング

【授業概要】
国際的な合意に基づくソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関して詳しく学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P24～PP34（第2章相談援助の定義と構成要素）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グローバル定義」、「IFSW」、「IASSW」、「ウェルビーイング」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第７回　グローバル定義以外の主だった定義
【key words】
全米ソーシャルワーカー協会（NASW）、旧定義

【授業概要】

グローバル定義以外のソーシャルワークの定義としてNASWの定義や旧定義を確認し定義の変容を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P34～P36（第2章相談援助の定義と構成要素）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「全米ソーシャルワーカー協会（NASW）」、「旧定義」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第８回　ソーシャルワークの構成要素（クライエント、ニーズ）
【key words】
構成要素、クライエント、クライエントシステム、ユーザー、コンシューマー、ニーズ

【授業概要】
ソーシャルワークを構成している4つの要素うち、クライエントとニーズとは何かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P37～P39（第2章相談援助の定義と構成要素）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ソーシャルワークの構成要素」、「クライエント」、「クライエントシステム」、「ユーザー」、「コンシューマー」、「ニーズ」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第９回　ソーシャルワークの構成要素（ソーシャルワーカー、社会資源）
【key words】
ソーシャルワーカー、価値、知識、スキル、社会資源

【授業概要】
ソーシャルワークを構成している4つの要素のうち、ソーシャルワーカーと社会資源とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P39～P49（第2章相談援助の定義と構成要素）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「価値」、「知識」、「スキル」、「社会資源」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１０回　ソーシャルワーク前史、慈善組織協会、
【key words】
慈善、四箇院、聖徳太子、行基、エリザベス救貧法、産業革命、新救貧法、ブース、ラウントリー、社会調査、横山源之助、COS
【授業概要】
ソーシャルワークが体系化される以前は宗教的な価値観に基づき慈善活動が行われていたことを学ぶ。COSが組織化される背景と目的について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P52～P56（第3章相談援助の形成過程Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「慈善」、「四箇院」、「聖徳太子」、「行基」、「エリザベス救貧法」、「産業革命」、「新救貧法」、「ブース」、「ラウントリー」、「社会調査」、「横山源之助」、「COS」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１１回　セツルメント、青少年団体
【key words】
セツルメント運動、バーネット、トインビー・ホール、隣保館、ハル・ハウス、YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウト、キングスレーホール

【授業概要】
セツルメント運動の成立過程と役割について学ぶ。青少年活動の役割と意義について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P56～P60（第3章相談援助の形成過程Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「セツルメント運動」、「バーネット」、「トインビー・ホール」、「隣保館」、「ハル・ハウス」、「YMCA」、「YWCA」、「ボーイスカウト」、「ガールスカウト」、「キングスレーホール」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１２回　ケースワークの確立、専門化するソーシャルワーク、世界恐慌・大不況とソーシャルワーク
【key words】
リッチモンド、友愛訪問、社会診断、医療ソーシャルワーク、キャボット、キャノン、ミルフォード会議、ジェネリックソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーション
【授業概要】
リッチモンドによりケースワークが体系化された過程を学ぶ。医療ソーシャルワークの歴史を学ぶ。ミルフォード会議でどのような議論があったのかを学ぶ。世界大恐慌とソーシャルワークの関係性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P61～P67（第3章相談援助の形成過程Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「リッチモンド」、「友愛訪問」、「社会診断」、「医療ソーシャルワーク」、「キャボット」、「キャノン」、「ミルフォード会議」、「ジェネリックソーシャルワーク」、「グループワーク」、「コミュニティーオーガニゼーション」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１３回　診断主義学派と機能主義学派、グループワークの形成、コミュニティーオーガニゼーション、日本での発展
【key words】
診断主義学派、フロイト、ハミルトン、機能主義学派、ランク、タフト、ロビンソン、グループワーク、コイル、ニューステッター、コミュニティーオーガニゼーション、ロスマン

【授業概要】
診断主義学派と機能主義学派の相違を学ぶ。グループワークとコミュニティーオーガニゼーションの形成過程を学ぶ。第二次世界大戦後の日本におけるソーシャルワークの発展過程について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P70～P77（第4章相談援助の形成過程Ⅱ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「診断主義学派」、「フロイト」、「ハミルトン」、「機能主義学派」、「ランク」、「タフト」、「ロビンソン」、「グループワーク」、「コイル」、「ニューステッター」、「コミュニティーオーガニゼーション」、「ロスマン」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１４回　社会不安とソーシャルワーク、問題解決アプローチ、ソーシャルワークモデルの乱立
【key words】
貧困の文化、貧困戦争、公民権運動、福祉権運動、パールマン、問題解決アプローチ、四つのP、ワーカビリティー、ケースワークは死んだ心理社会的アプローチ、ホリス、医学モデル、生活モデル、ソーシャルワークトリートメント

【授業概要】
第二次世界大戦後のアメリカの経済状況、社会問題とソーシャルワークの関係性について学ぶ。問題解決アプローチが登場したことによるソーシャルワークへの影響について学ぶ。1960年代以降のソーシャルワークのモデルについて学び、日本の動向について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P78～P85（第4章相談援助の形成過程Ⅱ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「貧困の文化」、「貧困戦争」、「公民権運動」、「福祉権運動」、「パールマン」、「問題解決アプローチ」、「四つのP」、「ワーカビリティー」、「ケースワークは死んだ」、「心理社会的アプローチ」、「ホリス」、「医学モデル」、「生活モデル」、「ソーシャルワークトリートメント」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１５回　ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立、ジェネラリストアプローチからジェネラリストソーシャルワークへ、前期まとめ
【key words】
ソーシャルワークの統合化、全米ソーシャルワーク協会、ミルフォード会議、シーボーム報告、

システム理論、コンビネーションアプローチ、マルチメソッドアプローチ、ジェネラリストアプローチ、ジェネラリストソーシャルワーク、エコロジカル・ソーシャルワーク、インターフェイス、相互作用、前期まとめ
【授業概要】
ケースワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーションが統合していく段階を学び、ジェネラリストソーシャルワークの成立過程を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P86～P91（第4章相談援助の形成過程Ⅱ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ソーシャルワークの統合化」、「全米ソーシャルワーク協会」、「ミルフォード会議」、「シーボーム報告」、「システム理論」、「コンビネーションアプローチ」、「マルチメソッドアプローチ」、「ジェネラリストアプローチ」、「ジェネラリストソーシャルワーク」、「エコロジカル・ソーシャルワーク」、「インターフェイス」、「相互作用」について他者に説明できるように準備しておくこと。
前期で学んだことを復習しておくこと。前期試験に向けて試験勉強をすること。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１６回　価値とは、専門職として共有する価値と個人の価値観
【key words】
価値の内在化、自己覚知、非審判的態度、受容

【授業概要】
価値の持ついくつかの意味について学ぶ。ソーシャルワーカーは専門職として共有する価値を基盤に実践していくことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P94～P98（第5章相談援助の理念Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「価値の内在化」、「自己覚知」、「非審判的態度」、「受容」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１７回　ソーシャルワーク実践の判断と価値、価値・理念・原則、ソーシャルワーク専門職として身につける価値

【key words】
価値、理念、原則、人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重、尊厳の保持、利用者本位、平等、民主主義
【授業概要】
価値はソーシャルワークの判断に影響を与えるということを学ぶ。ソーシャルワーク専門職としてグローバル定義に示されている人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重を身につける価値であることの理由を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P99～P106（第5章相談援助の理念Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「価値」、「理念」、「原則」、「人権」、「社会正義」、「集団的責任」、「多様性尊重」、「尊厳の保持」、「利用者本位」、「平等」、「民主主義」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１８回　権利擁護が必要とされる背景、深刻な人権侵害の顕在化、権利擁護の概念、権利擁護の態様、ソーシャルワーク実践としての権利擁護
【key words】
基本的人権、社会権、生存権、自由権、契約、判断能力、虐待、搾取、権利擁護の介入レベル

【授業概要】
権利擁護が必要とされる背景について学ぶ、。現代社会における権利擁護とは何か、ソーシャルワークが果たす権利擁護とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P107～P119（第5章相談援助の理念Ⅰ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「基本的人権」、「社会権」、「生存権」、「自由権」、「契約」、「判断能力」、「虐待」、「搾取」、「権利擁護の介入レベル」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第１９回　自己決定、自立支援、エンパワメントとストレングス視点
【key words】

自己決定、判断能力、自己責任、ミル、利用者本位、インフォームドコンセント、ノーマライゼーション、自己決定権、依存的自立、自立支援、エンパワメント、ストレングス

【授業概要】
自己決定概念の成立過程、自己決定と自己責任の関係性、自立の概念整理、エンパワメントとストレングス視点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P122～P128（第6章相談援助の理念Ⅱ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「自己決定」、「判断能力」、「自己責任」、「ミル」、「インフォームドコンセント」、「ノーマライゼーション」、「自己決定権」、、「依存的自立」、「自立支援」、「エンパワメント」、「ストレングス」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２０回　地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、社会的包摂
【key words】
ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ソーシャルエクスクルージョン、糸賀一雄、地域生活支援、ノーマライゼーション、バンク・ミケルセン、ニィリエ

【授業概要】
地域を基盤とした支援を展開するための重要概念としてのノーマライゼーションについて学ぶ。ノーマライゼーションの歴史を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P129～P135（第6章相談援助の理念Ⅱ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ノーマライゼーション」、「ソーシャルインクルージョン」、「ソーシャルエクスクルージョン」、「糸賀一雄」、「地域生活支援」、「ノーマライゼーション」、「バンク・ミケルセン」、「ニィリエ」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２１回　専門職と倫理、専門職倫理の必要性
【key words】
道徳観、専門職倫理、倫理的判断
【授業概要】
社会福祉の価値に基づいた適切な行為の基準を示すものとしての専門職倫理について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P138～P139（第7章専門職倫理と倫理的ジレンマ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「道徳観」、「専門職倫理」、「倫理的判断」について他者に説明できるように準備しておくこと。
日本社会福祉士会の行動規範をプリントアウトし一読した上で講義に臨むこと。講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２２回　倫理綱領の意義と内容、ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
【key words】
倫理綱領、行動規範、倫理的ジレンマ、ドルゴフ

【授業概要】
日本社会福祉士会の倫理綱領及び行動規範が示すものは何かを学ぶ。倫理的ジレンマとはどのような状況のことなのか、なぜジレンマが生じてしまうのか、最優先に考えるべき倫理とは何か、などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P140～P158（第7章専門職倫理と倫理的ジレンマ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「倫理綱領」、「行動規範」、「倫理的ジレンマ」、「ドルゴフ」について他者に説明できるように準備しておくこと。
日本社会福祉士会の行動規範をプリントアウトし一読した上で講義に臨むこと。講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２３回　総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
【key words】
地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、コミュニティーソーシャル

ワーカー、社会福祉基礎構造改革、予防的アプローチ、積極的アプローチ、ネットワーク

【授業概要】
わが国のソーシャルワークは「課題別」から「地域割」による実践へと変化していることを踏まえ、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助とは何かを学ぶ。地域を基盤とした相談援助における4つのパラダイムシフトについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P160～P168（第8章総合的かつ包括的な相談援助の全体像）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「地域を基盤としたソーシャルワーク」、「総合的かつ包括的な相談援助」、「コミュニティーソーシャルワーカー」、「社会福祉基礎構造改革」、「予防的アプローチ」、「積極的アプローチ」、「ネットワーク」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２４回　総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能
【key words】
広範なニーズへの対応、本人の解決能力の向上、連携と協働、個と地域の一体的支援、予防的支援、支援困難事例への対応、権利擁護活動、ソーシャルアクション

【授業概要】
地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、個と地域の一体的支援とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P169～P174（第8章総合的かつ包括的な相談援助の全体像）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「広範なニーズへの対応」、「本人の解決能力の向上」、「連携と協働」、「個と地域の一体的支援」、「予防的支援」、「支援困難」、「権利擁護活動」、「ソーシャルアクション」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２５回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点
【key words】
ジェネラリストソーシャルワーク、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助
【授業概要】
ジェネラリストソーシャルワークにより地域を基盤としたソーシャルワークや総合的かつ包括的な相談援助の実践が可能となることを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P176～P177（第9章総合的かつ包括的な相談援助を支える理論）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ジェネラリストソーシャルワーク」、「地域を基盤としたソーシャルワーク」、「総合的かつ包括的な相談援助」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２６回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質
【key words】
点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム
【授業概要】
ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質として、点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステムがあることを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P178～PP187（第9章総合的かつ包括的な相談援助を支える理論）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「点と面の融合」、「システム思考とエコシステム」、「本人主体」、「ストレングス・パースペクティブ」、「マルチシステム」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２７回　相談援助専門職の概念、相談援助専門職の範囲

【key words】
専門職の成立条件、職能団体、専門職

【授業概要】
社会的に専門職であると認知されるための成立条件とは何かについて学ぶ。専門職の職能団体にはどのような団体があるのか、また、その役割について学ぶ。相談援助専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P190～PP206（第10章相談援助にかかる専門職の概念と範囲）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「専門職の成立条件」、「職能団体」、「専門職」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２８回　相談援助専門職の範囲、諸外国の動向
【key words】
相談援助の専門職、イギリスの動向、アメリカの動向、スウェーデンの動向

【授業概要】
相談援助専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。諸外国のソーシャルワークをめぐる動向について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P199～P209（第10章相談援助にかかる専門職の概念と範囲）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「相談援助の専門職」、「イギリスの動向」、「アメリカの動向」、「スウェーデンの動向」について他者に説明できるように準備しておくこと。

講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第２９回　予防機能、新しいニーズへの対応機能、総合的支援機能
【key words】
総合的かつ包括的な相談援助、地域を基盤としたソーシャルワーク、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能

【授業概要】
現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P212～P249（第11章総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「総合的かつ包括的な相談援助」、「地域を基盤としたソーシャルワーク」、「個と地域の一体的支援機能」、「予防機能」、「新しいニーズ」、「総合的支援機能」について他者に説明できるように準備しておくこと。
講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べ（評価対象）をしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

第３０回　権利擁護機能、社会資源開発機能、後期まとめ
【key words】
家族システム、エコシステム、権利擁護、ケースアドボカシー、コーズアドボカシー、資源開発

【授業概要】
現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、多問題家族への支援、権利擁護機能、社会資源開発機能について学ぶ。後期まとめを行う。

【教科書ページ・参考文献】
P250～P275（第11章総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「家族システム」、「エコシステム」、「権利擁護」、「ケースアドボカシー」、「コーズアドボカシー」、「資源開発」について他者に説明できるように準備しておくこと。

後期で学んだことを復習しておくこと。後期試験に向けて試験勉強をすること。
【アクティブラーニングについて】　ディベート・ディスカッション○　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、教員からのいくつかの発問に対して隣席で議論し、発表する。

受講生に関わる情報および受講のルール	ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。 「意見交換」や「用語の他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと。 欠席、遅刻する場合は、学校に連絡すること。
毎回の授業に関する	コメントカード

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。授業開始時に前回復習のための「確認テスト」を行う。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	月曜日8時20分～10時30分　水曜日8時20分～10時30分
評価方法	定期試験60%、課題への取り組み40%とする。課題は1回の講義に対して①用語調べ3点、②授業メモ3点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4点で計10点の配点であり、半期ごとに評価を算定する。
教科書	①社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6　相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版、②山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版
参考書	適宜、紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の的〕 　高齢者、障害者、乳幼児等の社会的弱者やその福祉現場の仕事に携わる福祉専門職について理解を深め、人道的な支援や受容・共感的態度を身につける。 〔到達目標〕 ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について説明できる。 ②福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ④虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。
授業の概要	福祉心理学は、社会福祉の対象となるすべての人々とその支援者のウエルビーイング（well-being）のために、心理学的な手法を用いて支援していくことを探求する学問である。本授業では、発達及び加齢や障害の概念を学習することから始め、当事者と家族の福祉的な問題そして福祉従事者の抱える問題について整理し、これらの福祉心理学的な対応について学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　福祉心理学とは　福祉対象者への心理支援の必要性とあり方　－　社会福祉の展開と心理支援

【key words】
　社会福祉　ウェルビーイング　ノーマライゼーション 多職種連携（IPW）　福祉心理学
【授業概要】
　社会福祉の展開（福祉の定義、歴史、理念と現在の施策の概要）　心理支援の必要性（福祉心理学の概要と生活支援の重視）
【教科書ページ・参考文献】
　教科書 p.11 - p.22　プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.23 - p.38）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「福祉心理学の対象」を記入する。

第２回　生活を支える心理支援

【key words】
　自立支援　就労支援　社会的養護　里親委託　当事者運動　コミュニティ・ケア
【授業概要】
　福祉と人々の生活　福祉の制度と心理職　児童福祉（子ども家庭福祉と子育て）　障害を持った人たちの支援　生活困窮者の生活支援　高齢者の生活支援　不登校・ひきこもりの福祉的支援　地域福祉における心理支援　予防的支援と公認心理師の役割
【教科書ページ・参考文献】
　教科書　p.23 - p.38.　プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.39 - p.50）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「福祉心理学の役割」を記入する。

第３回　暴力被害者への心理支援

【key words】
　DV（ドメスティック・バイオレンス）　虐待　被害者支援　トラウマケア　暴力被害
【授業概要】
　夫婦間暴力　DVと子どもの虐待　その他の暴力
【教科書ページ・参考文献】

		教科書 p.39 - p.50　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.39 - p.50）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「DVについて」を記入する。
	第４回	高齢者への心理支援 【key words】 高齢者福祉関連法　地域ケア包括システム　新オレンジプラン　認知症（中核症状・周辺症状）　認知機能検査 【授業概要】 高齢者の現状と生活課題　高齢者福祉関連の法律と制度　高齢期の認知症　高齢者福祉領域における心理的支援の重要性 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.51 - p.66　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.67 - p.82）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「認知症について」を記入する。
	第５回	障害・疾病のある人への心理支援 【key words】 乳幼児検診　発達障害　自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)　発達障害者支援法　アウトリーチ 【授業概要】 障害・疾病のある人への福祉的支援と心理支援　事例から見る福祉心理学の実践　本人への発達支援と親子関係の調整　福祉サービス等の併用と効果　事例のまとめ 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.67 - p.82　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.83 - p.98）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「障害の概念について」を記入する。
	第６回	生活困窮・貧困者への心理支援 【key words】 貧困　生活保護　ホームレス 【授業概要】 生活困窮・貧困の背景と問題　生活困窮・貧困の実態と心理支援　公認心理師の役割と期待 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.83 - p.98　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.99 -　p.112）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第７回	福祉心理学的心理支援の実際 － 児童虐待への心理支援の実際 【key words】 児童虐待防止法　児童相談所　ネグレクト　児童福祉施設　児童心理治療施設　PTSD（心的外傷後ストレス障害） 【授業概要】 子どもの虐待相談件数の増大　児童虐待問題における児童相談所の役割　児童相談所における心理診断・支 援　児童福祉施設入所や里親委託時の支援　地域で家族を支援する、子どもは地域の一員として育つ 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.99 - p.112　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.113 - p.127）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第８回	子どもと親への心理支援の実際 【key words】 子育て支援　ひとり親家庭　婦人相談所　母子生活支援施設　児童家庭支援センター 【授業概要】 子育て支援　ひとり親家庭等の支援　要保護・要支援ケースへの支援　社会的養護における子どもと親への支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.113 - p.127　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.128 - p.139）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第９回	認知症高齢者の心理支援の実際 【key words】 アルツハイマー型認知症　認知機能障害　グループホーム　ユニットケア 【授業概要】 認知症の定義　認知症における症状の特徴とさまざまな心理問題　認知症高齢者の心理支援の実際 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.128 - p.139　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.140 - p.152）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１０回	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際 【key words】 社会的孤立　家族支援　多様性 【授業概要】 ひきこもりの心理支援　自殺予防の心理支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.140 - p.152　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.153 - p.167）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１１回　精神障害者への心理支援の実際 【key words】 精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害受容　権利擁護 【授業概要】 精神障害者を支える制度とサービス　精神障害者の困難さの理解　クラブハウス活動　就労に至ったAさんの事例　公認心理師に必要な基本姿勢 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.153 - p.167　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.168 - p.180）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１２回　家族・職員への心理支援の実際 【key words】 介護負担　家族支援 【授業概要】 福祉対象者の家族への心理支援　福祉施設職員等への心理支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.168 - p.180　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.181 - p.192）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１３回　福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ 【key words】 ケアマネージメント　専門職　多職種協働（IPW） 【授業概要】 多職種協働に関わる専門職とその役割　多職種協働とチームアプローチ　多職種協働における公認心理師の　役割 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.181 - p.192　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.193 - p.204）を一読。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１４回　IPW実践事例報告 【key words】 療養病床　地域包括ケアシステム　ケアプラン　グループケア　情報共有　介護職員　生活の質（QOL） 【授業概要】 療養病床でのIPWの実際と工夫　特別養護老人ホームでのIPWの実際と工夫　児童養護施設でのIPWの実際 と工夫　障害者生活介護施設でのIPWの実際と工夫　母子生活支援施設でのIPWの実際と工夫 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.193 - p.204　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１５回　福祉心理学のまとめ 【key words】 福祉心理学の対象　虐待　いじめ　認知症　発達　障害の概念 【授業概要】 福祉心理学のまとめと試験対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉心理学全体に対する復習と期末試験の対策。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・虐待を始めとして、乳幼児、高齢者、障害者に関する問題について、各種メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）で日常的に報道されているニュースに対して常に問題意識を持つように、主体的に捉えていく態度を日頃から養うこと。 〔受講のルール〕 ・事後学習として教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	中島健一編　公認心理師の基礎と実践　第17巻 福祉心理学　：遠見書房（2018/8/19）
参考書	佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著　福祉心理学総説　田研出版　(2013/1/25)

	適宜、授業時に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者福祉施設にて指導員として勤務した経験をもとに、福祉領域での心理臨床的な関わりの必要性や心理的支援の在り方について講ずる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉史　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。 【到達目標】 日本および各国の福祉史を見ることで、現在の日本の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。
授業の概要	日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション ＜key words＞ 講義の受け方 ＜授業概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する ＜教科書＞ 目次 第２回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷１　社会的状況の変遷 ＜key words＞ 封建社会、救貧 ＜授業概要＞ 中世イギリスの社会的背景から、救貧の芽生えについて概観する ＜教科書＞ １１０－１１３ 第３回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷２　救貧法の制定 ＜key words＞ 救貧法、 ＜授業概要＞ エリザベス救貧法につながる社会情勢の変化を概観する ＜教科書＞ １１４－１１５ 第４回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷３　エリザベス救貧法を中心に ＜key words＞ エリザベス救貧法 ＜授業概要＞ エリザベス救貧法について、その価値観について知る ＜教科書＞ 第５回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷４　近代の社会福祉について ＜key words＞ 産業革命、工場法、新救貧法 ＜授業概要＞ 産業革命等、社会状況の変化に伴う、救貧法の変容をたどっていく ＜教科書＞ １１６－１２３

	第６回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷５ ＜key words＞ 大戦、ヘヴァリッジ報告 ＜授業概要＞ 近代から現代に至る福祉構造の変化を捉えていく ＜教科書＞ １２６－１３１ 第７回　日本の社会福祉の歴史的変遷１　封建社会から近代社会へ ＜key words＞ 封建社会、明治維新、救貧制度 ＜授業概要＞ 封建社会から明治維新を経て近代国家としての救貧制度の変遷を見る。 ＜教科書＞ ６－９ 第８回　日本の社会福祉の歴史的変遷２　恤救規則を中心に ＜key words＞ 恤救規則 ＜授業概要＞ 恤救規則について、制定経緯と内容を時代的背景を基盤に見ていく ＜教科書＞ １０－ 第９回　日本の社会福祉の歴史的変遷３ ＜key words＞ 社会福祉の変容 ＜授業概要＞ 恤救規則以後の社会保障の変遷を概観する ＜教科書＞ １４－１６ 第１０回　日本の社会福祉の歴史的変遷４　戦後の社会福祉の変遷 ＜key words＞ 大戦後の復興、現代社会福祉の芽生え ＜授業概要＞ 太平洋戦争を挟んだ社会変容に伴う福祉の変化を見る ＜教科書＞ １８－２５ 第１１回　日本の社会福祉の歴史的変遷５ ＜key words＞ 現代の福祉、グローバル ＜授業概要＞ 現代社会につながる福祉システムの構築を概観する ＜教科書＞ ２６－３７ 第１２回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷１　世界恐慌からの社会福祉の変遷 ＜key words＞ 自助の伝統 ＜授業概要＞ アメリカの社会福祉の基盤である「自助」についてみる ＜教科書＞ １３２－１３３ 第１３回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷２ ＜key words＞ 社会保障法、ニューディール政策 ＜授業概要＞ 社会的醸成から、アメリカ独自の社会保障システム構築を学ぶ ＜教科書＞ 同上 第１４回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷３　現代の社会福祉の状況 ＜key words＞ 現代社会福祉の基盤 ＜授業概要＞ 現代社会福祉の基盤の構築をリードした施策の流れを知る。 ＜教科書＞ 同上 第１５回　まとめ まとめ 質疑応答
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業の中での質問等での参加など取り組み状況等　２０％
教科書	清水・朴　編著「よくわかる社会福祉の歴史」　ミネルヴァ書房

参考書	授業のなかで適宜伝える
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、児童福祉司、SV、言語聴覚士等） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉行財政と福祉計画　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉の行政・財政・福祉計画について学ぶ。 【到達目標】 社会福祉に関連する行政の実施体制や制度について理解することができる。 社会福祉に関連する財政について理解することができる。 各種の福祉計画の作成経緯や意義および現状を理解することができる。
授業の概要	福祉行政における国県と市町村の役割を、福祉財源を含めて国と地方との関係を学ぶ。また、福祉計画の目的や意義を考察し、地域住民の参加しての策定理論と方法を理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　授業のすすめ方について 第２回　福祉行財政と福祉計画 第３回　福祉行政と法制度 第４回　福祉財政と社会福祉 第５回　社会福祉の基礎構造改革 第６回　社会福祉の専門諸機関 第７回　福祉計画の目的と意義 第８回　福祉計画の事例研究分析の視点 第９回　福祉計画における評価 第１０回　福祉計画の事例研究の視点 第１１回　老人福祉計画・介護保険事業計画 第１２回　障害者計画・障害福祉計画 第１３回　次世代育成支援行動計画 第１４回　地域福祉計画 第１５回　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の前に必ず教科書を読んでおくこと。また、授業で学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加してください。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど６０時間以上の授業外学修をしてください。
オフィスアワー	火曜日　午前9時30分から12時
評価方法	授業への取り組み（30%）と試験またはレポート（70%）で評価する。これらに時間外学習の取り組みを加算する。
教科書	新社会福祉士養成講座　「福祉行財政よ福祉計画」　第５版　中央法規　２０１７年２月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　発達心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 誕生した瞬間から、人には多様な能力の獲得に代表されるような多くの変化が生じている。そこには、獲得だけではなく、多くの喪失も含まれている。人生とは、そうした変化に対応しながら自己を形成し維持するプロセスであるともいえる。 本講義では、人の生涯（Life）の中で起こる絶え間ない変化を”発達”として捉え、それを人生全体（生涯発達）の流れ（Life Cycle , Life Course）の中で意味づけし直し、どのような変化がどのような心理的影響を人に与えていくのかという、”発達の枠組み”を学んでいく。 【到達目標】 ①人の発達的変化における心理的過程を理解できる。 ②人の発達的変化を踏まえたうえで、各発達段階において顕著になる心理的特性を理解できる。 ③生涯発達の枠組みから見た各段階における心理的変化の意味や意義を理解し、各段階で人が背負う発達上の課題を説明することができる。
授業の概要	この授業では基本的に教科書のトピックに即しながら、生涯発達心理学の視点に立って各発達段階の一般的な心理的特性と発達的変化の過程を学習する。さらに、提示する参考資料を基に学習したことを応用し、具体的な人物の心理や発達的変化の意味や意義を考察し、学習の理解を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　発達とは何か 【授業概要】 ・（科目のオリエンテーションを行います) ・今秋から1年間をかけ、「発達に関する心理学」を学びます。 ・まず、人の連続的な変化の様相を「発達」としてとらえる見方について解説します。 ・また、あらゆる人は、誰かの子として生まれ、そこで育ち、どこかの社会に入り込み、やがて死と向き合いながら老いていくという基本的なライフサイクルを進む“旅”をしているというイメージについて考えます。 ・発達心理学とは、旅の過程で何が起き、どのような変化を基本的に遂げていくのかについて、一般的な人間形成の大きな流れを理解する学問であることを説明します。 【キーワード】 ・発達の原理、遺伝と環境、ワトソン、経験説、ゲゼル、成熟説、カマラ・アマラ 【教科書・参考文献】 ・（2-7ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・用語調べ課題の説明。発達のイメージとライフサイクルを絵でノートに描いてくること。 【アクティブラーニング】 ・描いた絵を通して、ライフサイクルのイメージに関するグループ学習を行う
	第２回	人間発達の特殊性と発達段階論 【授業概要】 ・人間の発達の独自性について考えるために、他の生き物と比較しながら理解をしていきます。 ・人の発達の時間的経過によって、どのような「発達の段階」と「発達の課題」が生まれるかを大ざっぱに考えていきます。 ・どのような発達を「良い発達」とするかに関する思想としての「優生思想」「新優生学」について考えを深め、発達を理解する視点を深めます。 【キーワード】

・ルクセンブルガーの図式、ジェンセンの環境閾値説、ブロンフェンブレンナー、生態学的システム、ワトソン、ゴールトン、優生学
【教科書・参考文献】
・（8-16ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・「遺伝と遺伝子」について調べ、仲間に説明できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・上記課題について、二者間で説明をしあう

第３回　胎生期から新生児期まで（個体の発生）
【授業概要】
・ここからは、発達段階に沿って、各時期の発達に関する心理に絡む用語や問題について学んでいきます。
・本時においては、「誕生以前」の発達プロセスについて解説をしていきます。
【キーワード】
・発達段階、発達課題、胎児期（卵体期、胎芽期、胎児期）、性の分化、母体保護法をめぐる議論（特にパーソン論）
【教科書・参考文献】
・（44-46ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・人工妊娠中絶について、どのような問題点があるかについて話し合う。できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・人工妊娠中絶について賛否を明らかにし、なぜそう考えるかについてディベート

第４回　誕生と新生児の特徴
【授業概要】
・生まれた時に“本能的にできる”こと（原始反射・原始行動）を学び、それを備えて生まれてくることの意味を考えていきます。
・さらに、誕生後の急激な発達において“生来備わっていた行動が消失すること”を確認し、そうしたメカニズムがなぜ存在するかを考えます。
・特に、脳内のシナプスの成長と再生に注目し、人間の発達プロセスの独自性から、その独特な存在のあり方をイメージできることを目指します。
【キーワード】
・合計特殊出生率、脳の発達、原始反射、原始行動、新生児微笑、シナプス
【教科書・参考文献】
・（50ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・原始行動、原始反射の種類、シナプスについて調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・「シナプスの刈込」の意味について話し合う

第５回　乳児期の発達
【授業概要】
・誕生から満1歳程度を乳児期と呼びますが、このわずかな時期に、人はどのような発達を遂げていくのかについて概観していきます。
・人が、特殊な未成熟状態で生まれてくることを確認し、それが親子の関わりを育むあり方について理解をしていきます。
・一度成立した親子関係において、様々な関係のタイプが築かれることを学び、この短い時期に親子の間で何が起きているのかについて、少し深めて考えてみます。
【キーワード】
・運動発達の順序、感覚協応、発達性協調運動障害、選好注視法（ファンツ）、馴化ー脱馴化
【教科書・参考文献】
・（52-56ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・新生児段階ですでにできることを考えてくること。
【アクティブラーニング】

第６回　対人関係の始まりと親子関係
【授業概要】
・誕生後、ある程度発達が進んでいくと、人との関係（対人関係）が形成されていきます。
・人生初期では、母子関係や親子関係が形成されていきますが、特に重要な母子関係に関する理論を学び、それがのちの人生全体に及ぼす影響について理解をしていきます。
・また、母子分離不安をキーワードに、子どもが心理面で健全に育つ前提となる土壌としての家族環境を考えていきます。
・最後に、家族機能として、父性性や母性性の両面がうまく働き、愛着が形成されること、そして、そのうえでの自立のプロセスが進むことなど、乳幼児期に果たされるべき心の仕事について解説をしていきます。
【キーワード】
・母性と父性、ボウルビィ、愛着（アタッチメント）、ハーロウ、エインズワース、ストレンジシチュエーション法（新奇場面法）、母性剥奪（マターナル・ディプリベーション）
【教科書・参考文献】
・（26-27、61-65ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・愛着理論について予習をしておくこと。
【アクティブラーニング】
・「赤ちゃんにとって何が一番大切ですか」という母親からの質問に答えるシミュレーションを行う

第７回　語彙の発達と学習
【授業概要】
・言葉を使って大人などとやりとりをするような生活が始まると、幼児期が始まります。
・この幼児期に急速に進むのが言葉の発達です。ここでは、言葉の発生と発達に関する基礎理論を学んでいきます。
・このことを通して言葉を持って生きるように生まれてくる、人間の独自性を考えていきます。
【キーワード】
・二項関係と三項関係、共同注意、叫喚発生、クーイング、喃語、一語発話、二語発話、語彙爆

		発、ピジン、チョムスキー、言語獲得装置、言語相対仮説 【教科書・参考文献】 ・（77-83、17-22㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・動物の話す言葉について調べてくること。 【アクティブラーニング】 ・動物の話す言葉と、人の言葉の違いをグループワークで考える
	第８回	幼児期の機能と発達・基本的生活習慣の獲得 【授業概要】 ・学習や適応に関する能力を、心理学では「知能」としてとらえます。 ・言葉の発達とともに伸びてくる知能と知能をとらえる検査について、基本的な事柄を学んでいきます。 【キーワード】 ・流動性知能、結晶性知能、二因子説、多因子説、多重知能理論、ビネー・シモン、ターマン、知能指数（ＩＱ）、ＣＡ、ＭＡ、ウェクスラー、ＷＰＰＳＩ、ＷＩＳＣ、ＷＡＩＳ、コース立方体組み合わせテスト 【教科書・参考文献】 ・（68-70㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・「人工知能」につい調べておくこと。 【アクティブラーニング】 ・人工知能が今できることを通して、人間の知能の働きをグループで考えます。
	第９回	幼児期の認知の特徴 【授業概要】 ・言葉を用いて身の回りの環境を整える力を備えることで生まれる、「子どもらしい認知の世界」について学んでいきます。 ・幼児の認知や思考の傾向性に関する心理学理論を学ぶことで、大人とは別の認知様式の中に子どもが生きているということ、また、子ども独自の内面世界を理解していきます。 【キーワード】 ・操作、シェマ、同化と調節、ピアジェ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、アニミズム、実念論、知的リアシズム、フェノメニズム、自己中心性と脱自己中心化、ＤＡＭ、頭足人、スクリブル 【教科書・参考文献】 ・（70-76、23-25㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・子どもの描く絵の特徴について調べておくこと 【アクティブラーニング】 ・絵を描いてグループ内で子どもの絵の特徴を理解する
	第１０回	幼児期の社会性（集団生活の始まり） 【授業概要】 ・子どもは発達とともに、家族の枠を超えて、対人関係を形成していきます。 ・そこで生まれてくる子ども同士の関係、つまり仲間関係を作る心理面の基礎能力や感性について、「心の理論」を中心に解説していきます。 【キーワード】 ・心の理論、誤信念課題、パーテン、遊びの分類、社会脳仮説、自閉症 【教科書・参考文献】 ・（77-89㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・子どもの頃の自分の遊びについてまとめておくこと 【アクティブラーニング】
	第１１回	児童期の発達（身体的発達的認知的変化の特徴） 【授業概要】 ・「道徳」が教科化された背景を最初に見ていきます。そのことを通して、子どもたちが生きている社会の問題や道徳性の課題について明らかにしていきます。 ・道徳性がどう生まれていくかについての心理学説を解説しながら、子どもの頃の「正義の感覚」について学びます。 ・コールバーグ理論を詳しく知ることを通して、さらに子ども独自の道徳性の世界を理解していきます。 【キーワード】 ・学校生活の始まり、道徳性の発達、コールバーグ、ハインツのジレンマ、思考実験 【教科書・参考文献】 ・（90-96㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・「ハインツのジレンマ」について調べ、自分なりの立場を明らかにしておくこと 【アクティブラーニング】 ・グループに分かれて、ハインツのジレンマなど、思考実験を通して自分や子どもの道徳的判断のあり方を検討します。
	第１２回	児童期の発達（対人関係の発達と社会的スキル） 【授業概要】 ・親に依存していた状態から、少しずつ子どもたちだけの世界を作り始めます。そうして、自律した自分を形成しながら、親や大人から自立した存在へと向かい始めます。 ・子ども同士の関係や集団関係を体験することで、子どもがどのような発達をしていくのかを考えます。 ・特に、ソーシャルスキルという言葉をキーワードにして、それを伸ばす訓練法も見ていきます。 【キーワード】 ・ギャング・エイジ、チャムシップ、ソーシャルスキル、ＳＳＴ、自己肯定感 【教科書・参考文献】 ・（96-99㌻） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・集団で遊んだ記憶を掘り起こし、そこで発達した能力を考えて整理しておくこと 【アクティブラーニング】 ・実際に、ＳＳＴの基本訓練となるウォーミングアップを体験してみます。グループで分かれ、

体験してみての感想を話し合います。

第１３回　発達障害

【授業概要】
・発達は常に順調に標準的に進むわけではなく、様々な偏りや障害を得ることがあります。
・特に現代注目されている発達障害について、基本的な考えを学ぶことで、子どもの発達を障害を通して考える視点を磨いていきたいと思います。
【キーワード】
・特別支援教育、発達障害者支援法、障害者基本法、学習障害（ＬＤ）、ＡＤＨＤ、高機能自閉症、アスペルガー症候群
【教科書・参考文献】
・（100-113ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・発達障害、学習障害の分類をあらかじめ調べておくこと。授業後は、図書館等で当事者が書いた本を読み、感想文を提出する課題に取り組むこと。
【アクティブラーニング】
・ＬＤの疑似体験を全員で行います。

第１４回　発達障害

【授業概要】
・前回までに学んだ発達の理論や発達障害について振り返るために、映画「ちづる」を鑑賞します。
・同年代の自閉症の女性の日常生活を切り取ったビデオを見ることで、学んだことを、これから関わる障害者や子どもたちの問題と結びつけて考える感覚を養います。
【キーワード】
・自閉症
【教科書・参考文献】
・（100-113ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・映画を見ての感想を、ワークシートに記載して次週までに提出すること。
【アクティブラーニング】

第１５回　エリクソンのライフサイクル論（児童期まで）

【授業概要】
・前期のまとめとして、誕生から死に至るまで、関連し合いながら一連の継続する発達過程を進むとしたエリク・エリクソンのライフサイクル論を学びます。
・ここでは、8段階あるエリクソンの発達理論の前半4段階を学びながら、これまで学んできたことを振り返り、まとめの課題を解説していきます。
【キーワード】
・エリクソン、エピジェネティック・チャート、ライフサイクル論、基本的信頼、コンピテンシー
【教科書・参考文献】
・（29-32ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・子ども時代までを総括するために、「子ども時代とは、どのような時代なのか」を考える
【アクティブラーニング】

第１６回　ライフサイクルとライフコース

【授業概要】
・後期の開始として、前期最後に学んだエリクソンのライフサイクル論を復習しながら、人生の後半を重視したレビンソンのライフサイクル論を学びます。
・人生の中盤から後半に向かっていく発達的変化の大まかな流れを知ることで、大人になるという課題の意味をおおまかにつかんでいきます。
【キーワード】
・レビンソン、移行期、安定期、レビンソンのライフサイクル論
【教科書・参考文献】
・（33-41ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・復習をしっかりしておくこと
【アクティブラーニング】
・

第１７回　青年期の身体的成熟と精神的未成熟

【授業概要】
・児童期までの土台の上に、徐々に自分の将来を描く作業に取り組み始めるのが、社会に入っていくための準備期間ともいえる青年期であり、ここで人は人生の大きな十字路に立つという視点から青年期の基本的発達課題を解説する。
【キーワード】
・ホール（Hall,S.）、疾風怒涛、ジェンダー、形式的操作、第二反抗期、青年期年期平穏説
【教科書・参考文献】
・（116-119ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・今の自分自身の内面の課題を見つめ、箇条書きにしておく。
【アクティブラーニング】
・ワークシートを用いて、それぞれの青年期の課題を比較し、何が課題になるかの理解を深めます。

第１８回　アイデンティティとは何か①

【授業概要】
・ワークを実施しながら、エリクソンのアイデンティティ理論の基本的な考え方について解説します。
・特に、「同一性」という言葉を中心に、青年期に何が同じままで何が変わるのかについて考えていきます。
【キーワード】
・ＴＳＴ、自明性の危機、アイデンティティ・クエスト、マーシャのアイデンティティ・ステイタス（地位）論

【教科書・参考文献】
・（119-120ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・あらかじめ、ＴＳＴについて実施してノートに記入しておくこと。
【アクティブラーニング】
・ワークシートを用いながら、自己の青年期を見つめながら、アイデンティティの本質とは何かを話し合います。

第１９回　アイデンティティとは何か②

【授業概要】
・アイデンティティ探索の課題において出会う、戸惑いや焦りなど、危機としてのアイデンティティ変容について学んでいきます。
・この学びを通して、危機を通して揺らぎながら成長をするという、発達の基本的な姿を理解していくことを目指します。
【キーワード】
・コンピテンシー、アイデンティティ拡散、理想自己、現実自己、自己一致、モラトリアム
【教科書・参考文献】
・（121-126ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・山田かまち、について調べておくこと
【アクティブラーニング】
・アイデンティティ・ゲームを実施しながら、その感想を通してモラトリアムについて話し合います。

第２０回　青年期のメンタルヘルスと問題行動①

【授業概要】
・青年期の変容過程においては、進むべき道を見失ったり、自分がわからなくなったり、様々な混乱をを体験することが多くなる。
・前に進めなくなる青年たちの多くが体験する問題を整理し、何が本質的な課題であり、そこから進むために必要な支援は何かを探索します。
・今回は、精神疾患とまではいえないものの、社会的適応が損なわれているような問題を中心に学んでいきます。
【キーワード】
・反社会的行動、非社会的行動、神経症、思春期臨床
【教科書・参考文献】
・（113-116ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・反社会的行動と非社会的行動について調べておくこと
【アクティブラーニング】
・少年法とその改正について、ディベート的に話し合います。

第２１回　青年期のメンタルヘルスと問題行動①

【授業概要】
・青年期には様々な形で、「病的」な状態になることが増え、「精神障害」や「精神疾患」のように、医療の対象になる状態になるものもあることを理解する。
・ここでは、精神病理としての青年期の危機の様相を学びながら、なおかつ、そこに横たわる「自立」や「アイデンティティ形成」の問題を捉える視点を学びます。
【キーワード】
・自傷、摂食障害、境界性人格障害、アタッチメントの問題、創造的退行
【教科書・参考文献】
・（140-146ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・できる限り映画か小説で「17歳のカルテ」を見ておくこと。
【アクティブラーニング】
・

第２２回　初期成人期の発達課題

【授業概要】
・社会人としての責任を負い始めることで青年期を終わらせ、徐々に「成人」としての自分を生き始める初期成人期の課題について理解していきます。
・社会人としての経験が浅い中で「役割」を求められる中で、「未解決の課題」が浮かび上がり、青年期以前の問題と向き合う必要性が出てくるプロセスなどを理解することで、初期成人期の課題の捉え方を深めます。
【キーワード】
・非実験性、責任、親密　対　孤立、ジェネラティビティ　対　停滞、スーパーのキャリア理論、ロストジェネレーション
【教科書・参考文献】
・（127-129ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ロストジェネレーションについて調べておくこと
【アクティブラーニング】
・「大人とは」をめぐって討論をします。

第２３回　成人期の発達課題と家族形成

【授業概要】
・エリクソンのライフサイクル論における、成人期の課題について、特に生殖性（ジェネラティビティ）という言葉を通して学んでいきます。
・また、成人期の大きな課題として多くの人が向かい合う、自分自身が新たな家族を形成するという課題について学び、家族の機能と機能しない家族の淵源について理解を深めます。
【キーワード】
・家族の機能、機能不全家族、家族システム論、母性、父性
【教科書・参考文献】
・（135-138）
【課題・予習・復習・授業準備】
・魚沼絹代（）『子供の問題いかに解決するか』（ＰＨＰ新書）からの抜き刷りを読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・「よい家族」とは？というテーマでディスカッションをします。

第２４回　成人期：世代と世代のライフサイクル（プリント）

【授業概要】
・成人期、特に親となった大人が自己の内部に抱いている心理的な問題によって、家族関係を破壊したり、子育て場面で深刻な問題となって現れたりすることについて理解していきます。
・このことから、特に虐待の問題や依存症の根っこにある、大人の不全感について理解を広げ、世代と世代のライフサイクルのつながり合いにつちえ理解を深めていきます。
【キーワード】
・コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【教科書・参考文献】
・（145-147ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・資料を読み切る時間がないので、授業後に熟読しておくこと
【アクティブラーニング】
・

第２５回　中年期の発達と危機、そして再生へ

【授業概要】
・かつてはあまり注目されなかった、青年期の発達、特に大人になってからしばらく生きたがために生じてくる「中年期の危機」とその意義（再生）について学んでいきます。
・特に中年期以降に、老いや社会的引退に向かって進む自己を自覚し始めるとき、再び問い直される人格のあり方と、その問い直しの意味について、ユングの「個性化」の理論を手掛かりに考えていきます。
【キーワード】
・コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【教科書・参考文献】
・（150-159ページ、ほかプリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・中年期の危機を描き出したていると思われる映画を提示するので、できる限り視聴しておくこと（『マディソン郡の橋』『アメリカン・ビューティ』など）。
【アクティブラーニング】
・映画のあらすじをおいながら、青年期の今感じることについてそれぞれの感想をシェアする。

第２６回　エイジングと心理的変化：「老い」への対応

【授業概要】
・ライフサイクルの最終段階である老年期の発達の特徴について、「老い」に注目しながらその基本的傾向について解説をしていきます。
【キーワード】
・加齢、クロガー、定年退職、役割の喪失、時計の時間、心の時間
【教科書・参考文献】
・（162-172ページ、ほかプリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・松島恭子編（2004）『ライフサイクルの心理療法』（創元社）の「私の終わりとの対話」（プリント）を読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・藤子不二雄『未来ドロボウ』のあらすじを用いて、「若さ」や「老い」の意味を話し合います。

第２７回　老年期の危機と統合

【授業概要】
・老年期には、「これまで生きてきた私と再び向き合い直す」という発達上の課題があり、人によりこの過去との向き合いの中に、さらなる「危機」を体験することを学んでいきます。
【キーワード】
・統合　対　絶望、老賢者、生き生きとした関わり合い、相互性（ミューチュアリティ）
【教科書・参考文献】
・（173-176ページ、ほかプリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・映画『ストレイト・ストーリー』をできる限りあらかじめ視聴しておくこと。
【アクティブラーニング】
・映画のあらすじを描いたプリントを通して、老年期の危機について話し合います。後期高齢期の疑似体験を実施する。

第２８回　死への対応：死に対する態度と準備

【授業概要】
・老年期の最終版の心の仕事は、死んでいくこととともいえる。それは、その日その瞬間が車で、生きている限り生き続けていくことだともいえます。
・数々の心身の不調や不安に襲われながらも、自己を統合し続けていくという老年期の心理的課題を理解するために、ある夫婦がそれぞれの最晩年を過ごした時間を捉えた映画を通して、リアリティのある老年期の姿を学びます。
【キーワード】
・統合　対　絶望、グリーフケア、モーニングケア
【教科書・参考文献】
・（177-188ページ、ほか映画解説プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・映画のあらすじを調べて予習しておくこと。
【アクティブラーニング】

第２９回　まとめ　”私”のライフサイクルが大きく変化する時　ゲスト講師（障害者）

【授業概要】
・生きることを支える職業を目指すものとして、病や事故などにより、ある日を境にしてそれまでと大きく人生を転換せざるを得ない方々の心理を学び、それでも生きていくことと、その支援に必要な心構えを学んでいきます。
・ゲスト講師の方の自己紹介と現状報告以外は、すべて学生からの質問に答える形式で進めるので、あらかじめ病や難病者の生活についてよく調べたうえで参加をしてもらいます。
【キーワード】
・統合　対　絶望、グリーフケア、モーニングケア
【教科書・参考文献】
・（解説プリント）

	【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ、「難病」について調べ、質問を一つ以上考えておくこと。 【アクティブラーニング】 ・当事者参加による交流授業 第３０回　まとめ　”私”のライフサイクルが閉じる時 【授業概要】 ・老年期に至り、「死」が現実のものとして意識されてくると、自分の人生を閉じるということが、リアリティをもつテーマとなります。 ・発達心理学の最後のテーマは、長い時間を築き上げてきた「私」の時間が終わることについて、映画も通しながら考え、人が生まれそして死んでいくという発達の意義を改めて考えていきます。 【キーワード】 ・ライフサイクル、死後のライフサイクル、スピリチュアル・ペイン、後悔 【教科書・参考文献】 ・（解説プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・授業前後に、映画『ワンダフルライフ』『ストレイト・ストーリー』を視聴するよう努力すること 【アクティブラーニング】 ・授業全体を振り返っての感想をシェアする。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・人生初期から終末期に至るまで長期間の発達を扱う。人の生涯全般に興味を持ち、人生そのものを深く考える姿勢を求める。 ・各発達段階の講義終了時などに、「まとめ課題」「調べ課題」など、ミニレポートの提出を求める予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、Ａ４用紙に簡潔にまとめておくこと（長くとも裏表1枚以内）。授業終了時にシャトルカードとともに提出したものを評価に加える。
オフィスアワー	木曜　17時30分～18時00分
評価方法	①事前用語学習（10点加点）（5枚以上を対象。5枚～10枚＝5点。11枚～20枚＝10点、21枚以上＝15点加点）、②授業時に課す「まとめ」もしくは「調べ」課題（30点）、③学期末筆記試験（前期分30点、後期分30点）（60点分）　総合評価は①～③を総合的に評価する。
教科書	高橋一公・中川佳子編著（2019）『生涯発達心理学１５講』（北大路書房）※第3版
参考書	・松島恭子『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』（創元社、2004）　その他適宜指示をする。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育心理学（教育・学校心理学）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・選択／福祉心理コース・学校教育コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした教育のあり方を理解する。 ②学校を中心とした発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を前提にした教育のあり方について、心理面から捉えるための基礎知識を学習するう。そして、学校を中心とした場で幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について解説し、学生自身の体験も掘り起こしながら、教育的な関わりのあり方を検討する。また、具体的学習場面を通して、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの特徴を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	教育の背景にある発達観について 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行います。 ・現在の日本では原則すべての子どもが少なくとも義務教育を体験し、大半が高校やさらに大学まで教育を受けています。それは、それぞれの子どもがそれぞれの学校・教育体験を得ており、良くも悪くも、それぞれの教育に対する感覚を備えていることを確認していきます。 ・そのうえで、それぞれの受けた教育を振り返り、教育と心の発達との関係や、学習がどのような結果を引き出しているかを考える時間を作ります。 ・初回のテーマとして、どのような子どもの発達観をもっていると、結果としてどのような教育への期待を持つようになるかについて考え、教育の背景にある発達観の重要性について検討します。 【キーワード】 ・ペダゴジーとエデゥケイション、ゲゼル、レディネスと成熟、ヴィゴツキー、発達の最近接領域 【教科書・参考文献】 ・（2-15ｼﾞｰ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・自分が受けた教育について考えるワークをワークシートを用いて実施する 【アクティブラーニング】 ・ワークシートを通して、互いの教育体験を確認し合うグループワークを実施します。
	第２回	学びの場について 【授業概要】 ・人は学ぶ力が非常に強く、生まれた瞬間から様々な体験を通して広い意味での学びは始まっていくことをまず確認します。 ・すべての子どもにとって、家庭が最初の学びの場となり、そこで基本的な生活習慣や行動パターンなどを学びながら、やがて大きな社会に入っていくための準備として、社会が用意する集団教育の場としての学校に進むという道筋について、解説します。 ・多くの時間を過ごすこの学校という学びの場は、適応的に過ごせることばかりではないことも確認しつつ、子どもにとって、学びの場がどのようなものになりうるかをともに考えていきま

す。
【キーワード】
・しつけ、社会化、遊びと社会的スキル、パーテン、小学校、中学校、塾と学校、進路選択、大学
【教科書・参考文献】
・（16-33ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・ワークシートを通して、互いの教育体験を確認し合うグループワークを実施します。

第３回　発達と学びの理解①
【授業概要】
・心理学で明らかにされてきた、学習に関する基本原理について学びます。
【キーワード】
・強化、内発的動機とコンピテンス、原因帰属、学習性無力感、自己効力感
【教科書・参考文献】
・（34-45ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・

第４回　発達と学びの理解②
【授業概要】
・行動の持続的変容を生じさせるものをすべて学習ととらえ、その基本原理を学んだ前提で、それを保持する過程としての記憶に関する基本理論について学びます。
【キーワード】
・記憶のメカニズムと発達、メタ記憶、ネットワーク理論、作業記憶、メタ認知と学習
【教科書・参考文献】
・（46-53ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・記憶に関する実験を実施しながら、その個人差についてグループ内で確認をしていきます。

第５回　発達と学びの理解③
【授業概要】
・学校での学習に即して、既存の知識を用いて新しい場面での問題に対処する問題解決的な場面を想定し、そのような応用的な解決行動が生じるかを確認します。
・また、日々学んでいくことが、どのように他の場面に広がり、応用されていくかに関する基本原理を学ぶことで、日常生活における子どもの学習の姿をイメージできるようにしていきます。
【キーワード】
・問題解決、良定義、不良定義、領域固有性、学習の転移、熟達化
【教科書・参考文献】
・（54-59ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教科書該当範囲を読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・学習場面で出される問題をグループで実際に解きながら授業を進めていきます。

第６回　発達と学びの理解④：9歳の壁
【授業概要】
・ピアジェの理論に即しながら、日常生活の体験だけではイメージしにくい課題を学習していくことの難しさについて解説します。
・小学校ではだいたい4年生くらいになる段階で、抽象的な内容の学習に進むことから、ここに壁が生じるという現象の背景にある認知能力の変化について学びます。
・そして、いかにして、このような壁を越えられるようにしていくかについて、実践的に検討をします。
【キーワード】
・9歳の壁、具体的操作と形式的操作、有意味学習、分散認知、一斉授業と共同学習
【教科書・参考文献】
・（60-67ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教科書該当範囲を読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・学習場面で出される問題をグループで実際に解きながら授業を進めていきます

第７回　発達と学びの支援①　数と言葉の使用
【授業概要】
・生まれたときには泣いたり笑ったりすることしかできない赤ちゃんの姿で生まれる子どもは、自然に言葉を覚え、数を数えるようになっていきます。こうした文章産出や計数、初期算数の能力やあり方について、研究を通して現在分かってきたことを解説し、学びの基礎能力について考えます。
【キーワード】
・リテラシー、文章産出、計数、初期算数
【教科書・参考文献】
・（68-77ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教科書該当範囲を読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・実際に、問屋から材料を仕入れて商売をする過程を想定し、素朴な計算でやりとりをすることを実践してみます。

第８回　発達と学びの支援②　主体的な学び
【授業概要】
・具体的な学校での学習場面を考えたとき、やはり授業時間が学びの中心になっていきます。ここでは、最近強調されるアクティブ・ラーニングにつながる、主体的な学びを目指した授業に関

わる理論や授業のあり方について学んでいきます。
【キーワード】
・ブルーナー、発見学習、有意味受容学習、先行オーガナイザー、仮説実験授業、板倉聖宜、共同学習、バズ学習、ジグソー学習　等
【教科書・参考文献】
・（90-95ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・仮説実験授業
【アクティブラーニング】
・仮説実験授業の教材を用いて、模擬的に授業を体験し、感想を全体で話し合います。

第９回　個に応じた学びの援助
【授業概要】
・学習は、学習者の認知的な偏りやパーソナリティなど、様々な個性との関係で、うまくいったりいかなかったりすることを確認します。
・実際の学習は学級集団を単位にして行われるが、そこではこうした個への配慮が欠けてしまうことが多くなることを理解し、個に応じた学びを実現するための方法について学びます。
【キーワード】
・プログラム学習、ティーチング・マシン、完全習得学習、習熟度別学習、ＴＴ、適正処遇交互作用
【教科書・参考文献】
・（102-111ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教育に関する用語がたくさん出てくるので、後日ミニテストを実施し、理解度を確認する。
【アクティブラーニング】
・

第１０回　知能と知能検査
【授業概要】
・学習は、学習者の認知的な偏りやパーソナリティなど、様々な個性との関係で、うまくいったりいかなかったりすることを確認します。
・実際の学習は学級集団を単位にして行われるが、そこではこうした個への配慮が欠けてしまうことが多くなることを理解し、個に応じた学びを実現するための方法について学びます。
【キーワード】
・プログラム学習、ティーチング・マシン、完全習得学習、習熟度別学習、ＴＴ、適正処遇交互作用
【教科書・参考文献】
・（112-117ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教育に関する用語がたくさん出てくるので、後日ミニテストを実施し、理解度を確認する。
【アクティブラーニング】
・

第１１回　アメリカ教育革命とヘッドスタート計画について
【授業概要】
・個に応じた学びや教授法、また知能検査などを学習してきたが、学習環境が整わない状況下に生まれ育った子どもたちは、学習への配慮も低く、知能検査の結果も低くなりがちであることを学ぶ。
・こうした不公平な状況を是正していくためにアメリカで進められた、特別な教育プログラムである、「ヘッドスタート計画」について学び、どのような方法が、多くの子どもの学びの環境を整えることにつながるかを考えていきます。
【キーワード】
・貧困との戦い、ヘッドスタート計画、セサミストリート
【教科書・参考文献】
・（プリント、映像教材）
【課題・予習・復習・授業準備】
・セサミストリートについて調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・

第１２回　適応の理論と支援について
【授業概要】
・教育が効果をもつためには、それを支える良好な人間関係が欠かせない。また、大半の学びが行われる学級が学びに適した状態にあるかどうかが重要な要素となることを確認します。
・そして、学習や学校生活に影響を与え、適応性に影響を及ぼす問題に目を向け、何らかの妨げを感じている子どもに気づき、良好な学習の場を築くために必要なことについて学んでいきます。
【キーワード】
・仲間関係の発達、性意識と性役割、部活動、道徳性と向社会的行動、コルバーグ理論
【教科書・参考文献】
・（122-131ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・学級の問題を扱った小説や映画を探し、そのあらすじを報告できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・どのような学級に、学びを妨げる要因が現れるかについてグループで話し合います。

第１３回　学級集団とその構造について
【授業概要】
・前回考えたような、教育の成立を妨げるような状況を生む最大の要因として、学級の構造の問題を取り上げます。
・誰もがどこかの学級に所属をする中で教育を受け、学習を進めるという形が確立されている中で、そこに子どもたちの学びや関係を傷つけたり阻害する要因は多く入り込む可能性があります。
・学級集団とその構造の基本を理解することで、問題を小さなうちに発見し、さらにそこから多くの成長を引き出すような学級のあり方を描ける教育者になることを目指し、まずは基本的な学級構造について学んでいきます。
【キーワード】
・ピグマリオン効果、ローゼンタール、通過儀礼、いじめ、不登校、ピア・サポート、摂食障

	害、非行、学習障害、インテグレーションとインクルージョン 【教科書・参考文献】 ・（136-172ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・長い範囲からピックアップして授業をするので、全体に目を通しておくこと 【アクティブラーニング】 ・ 第１４回　自我同一性の確立の課題について 【授業概要】 ・家庭や学校、学級という学びの場にある問題は、個人の内面の問題や進路の問題などに取り込まれながら、子どもを学びから遠ざけてしまいます。現在、保健室に来る子どもたちが増えているといわれる状況を確認し、様々な事例を取り上げながら、そこにある、子どもが大人になっていく過程で生じる問題について検討をしていきます。 【キーワード】 ・アイデンティティ、アイデンティティ拡散、保健室、養護教諭、子どもの貧困問題、虐待 【教科書・参考文献】 ・（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・子どもの貧困問題について調べておくこと 【アクティブラーニング】 ・事例を通して、話をしながら授業を進めていきます。 第１５回　教師のビリーフについて 【授業概要】 ・教育心理学の最終講義のテーマとして、教師の自己理解について考えます。 ・いくら子どもを理解し、よい教育者であろうとしても、人対人の関係の中で営まれる教育は、相性にも左右されてしまうのが現実です。 ・問題はそのことというよりも、そうしたことに気づかず、すべての子どもに同じように接しても教育の効果は異なるということ自体に気づかないまま、問題を子どものせいにしてしまうことにあることです。ここでは、教師が自らの偏りに気づき、自分の振る舞いや関係づくりに変化をもたらすために開発されたＲＣＲＴを学び、省察できる教育者を目指す基本を学びます。 【キーワード】 ・学力と評価、教師のビリーフ、学力低下論争、指導と評価、ルーブリック、ＲＣＲＴ 【教科書・参考文献】 ・（教科書174-199ページ、プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、Ａ４用紙に簡潔にまとめておくこと（長くとも裏表1枚以内）。授業終了時にシャトルカードとともに提出したものを評価に加える。
オフィスアワー	火曜　9時～11時
評価方法	①事前用語学習（10%）（15枚以上を対象。15枚～20枚＝5点。21枚～30枚＝10点）、②授業時に課す「まとめ」もしくは「調べ」課題（30%）（30点）、③学期末筆試験（60%）（60点分）　総合評価は　①～③を総合的に評価する。
教科書	中澤　潤編　『よくわかる教育心理学』（ミネルヴァ書房、2008）
参考書	小山義徳（編著）（2018）『基礎からまなぶ教育心理学』（サイエンス社）他　適宜指示をする。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	本科目「教育原理」は、教育職員免許法施行規則第６条付表第３欄の「教育の基礎倫理に関する科目」に含まれる「教育の理論並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する。本授業では、教育の理念・思想と歴史を学ぶことにより、現代の「教育」が抱え込んでいるさまざまな問題について知り、「教育」という公共的・社会的問題に対する自分なりの考え方の基礎を確立することを目指す。
授業の概要	教育概念並びに教育に関する歴史的思想に触れ、今日のわが国における教育の根拠となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。子どもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるかについて考察していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　自己紹介　授業の受け方　「教育原理」の語源
【授業概要】
自己紹介をする。授業の受け方・進め方、理解の深め方、評価の仕方、「教育原理」の語源について説明する。
【key words】
教育、原理
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 1~
【課題・予習・復習・授業準備】
小学校から高校までの受けてきた教育について考える。

第２回　DVD「フレネの学校」によって学校について考える。
【授業概要】
DVD「フランスのフレネの学校」を観て、学校とは何かを知る。
【key words】
新教育、フレネ、モンテッソーリ
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 8~、188~
【課題・予習・復習・授業準備】
学校の歴史について考えよう。

第３回　人間と教育　人間の特殊性
【授業概要】
人間と教育、人間の特殊性、オオカミに育てられたアマラとカマラ、アヴェロンの野生児についてから人間の生存原理について考える。
【key words】
カント、ゲゼル、ポルトマン、ルーソ
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 6~
【課題・予習・復習・授業準備】
学校、家庭生活、教育の関連性について考えておく。

第４回　教育目的の変遷（Ｉ）
【授業概要】
教育目的の変遷について知る。古代ギリシア時代、ローマ帝国時代、中世の「神の似姿」、ルネサンス　人文主義等。

【key words】
アテネ　カロカガティア、スパルタ　軍人養成、ローマ　雄弁術
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 12~
【課題・予習・復習・授業準備】
学校の目的について考えておく。

第５回　教育目的の変遷（Ⅱ）
【授業概要】
実学主義、ラトケ、コメニウス、啓蒙主義　公益的人間等の理想的人間像につて学ぶ。
【key words】
『大教授』、『世界図絵』、「母親学校への指針」、ラテン語、ドイツ語、チェコ語
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 17~
【課題・予習・復習・授業準備】
教育的条件を考える。

第６回　学校制度　教育制度
【授業概要】
学校制度、教育制度のとらえ方について説明する。
【key words】
単線型、複線型
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 134~
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が受けてきた学校制度について考えてみる。

第７回　わが国の学校教育
【授業概要】
わが国における学校教育について、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代、平成時代、令和時代の教育について学ぶ。
【key words】
義務教育、教科書
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 25~
【課題・予習・復習・授業準備】
昔と今の学校について考えてみよう。

第８回　教師像　人間形成と教師
【授業概要】
教師像、人間形成と教師、教師愛、教師の尊厳、教職の誕生について知る。
【key words】
アガペ、カリタス、エロス、伝統的教師像、聖職者的教師像、専門的教師像
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 145~
【課題・予習・復習・授業準備】
理想的教師像について考えよう。

第９回　教育の場
【授業概要】
教育の場、家庭教育、就学全教育、初等教育、中等教育、高等教育、リカレント教育についてその歴史的意義を知る。
【key words】
学校教育、社会教育、生涯教育
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 19~
【課題・予習・復習・授業準備】
学校以外の教育について考えよう。

第１０回　教育課程（Ⅰ）
【授業概要】
教育課程とは何か。教育課程の意義、教育課程の変遷について知る。
【key words】
教育課程、カリキュラム、教育課程の類型
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 69~
【課題・予習・復習・授業準備】
教育課程やカリキュラムについて考えよう。

第１１回　教育課程（Ⅱ）
【授業概要】
教育課程の編成の基本的原理と方法
【key words】
日案　月案、週案、年間計画、指導案
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 74~
【課題・予習・復習・授業準備】
指導案の作成について再確認しよう。

第１２回　カリキュラムマネジメント
【授業概要】
カリキュラムマネジメントの意義、カリキュラム評価について説明する。
【key words】
マネジメント、評価
【教科書ページ・参考文献】
岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 79~
【課題・予習・復習・授業準備】
評価、マネジメントについて考えておこう

第１３回　教育方法　学習指導法

	【授業概要】 教育の方法、学習指導法の類型について学ぶ。 【key words】 講義法、プロジェクト法、オープンクラス 【教科書ページ・参考文献】 岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 95~ 【課題・予習・復習・授業準備】 新しい教育方法の可能性について考えよう。 第１４回　DVD「深草子どもの家」 【授業概要】 DVD「深草子どもの家」（京都のモンテッソーリ園）を鑑賞から新しい子どもを発見する。 【key words】 新教育、子どもの成長、子どもの自由意志 【教科書ページ・参考文献】 岩田朝一編著 『教育学教程』学苑社 P. 165~ 【課題・予習・復習・授業準備】 なし 第１５回　ディスカッション　まとめ　アンケート実施 【授業概要】 ディスカッション　まとめ　アンケート実施 【key words】 教育原理 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。　将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	月曜日１０時３０分～１２時３０分。
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）で総合的に判断する。
教科書	岩田朝一編著 『教育学教程』 学苑社
参考書	小学校学習指導要領　幼稚園教育要領　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 江島正子著 『世界のモンテッソーリ教育』 サンパウロ社　授業中にもそのつど紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 東京モンテッソーリ教育研究所付属教員養成コース・東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター・広島モンテッソーリ教師養成コース アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の心理学Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 誕生の瞬間から大人に向かって変化をし続ける子どもの発達のあり方について、全般的なイメージを描くことが出来るようになる事を大きな目的とする。そのために、発達的変化の過程を幅広い視点から学ぶことがその基本となるが、子どもらしい心の特性を多角的に理解する視点を培い、保育者として子どもの行動や問題について発達的な意義を理解し、本人や保護者に助言するための知力を養う。 【到達目標】 ①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③乳幼児の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。
授業の概要	主に子どもの発達の様相について、発達心理学で明らかになっていることを中心に幅広く学習する。また、そこから実際の保育場面で生じる出来事に対する捉え方や考え方を提示し、１回の授業ごとに関連するトピックや実際の事例を通しながら、できる限り、学生自身が課題について考えられる授業を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：子どもの発達の理解とその意義（1-11ページ） 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行います。 ・人が子どもを見るとき何をどのように見るのかについて、一般的な視点、親の視点などに分けながら考え、専門職としてどのような観点で子どもの発達を理解すると良いかについて検討をしていきます。 ・また、特に子どもの発達を規定する要因の代表として、遺伝と環境に注目をし、それらの影響をどう考えるべきかについて解説をしていきます。 【キーワード】 ・遺伝と環境、発達段階、臨界期と敏感期、ブロンフェンブレンナーの生態学的システム、レジリエンス 【教科書・参考文献】 ・（1-11ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・「誰のおかげで生まれてきたか」という子どもの疑問に対して答えをグループで考えてみます。
	第２回	子どもの発達と保育（12-24ページ） 【授業概要】 ・保育や教育に携わる専門職として、自分が暗黙のうちに子どもへの関わり方を規定するような様々な「〇〇観」をもつことを確認します。 ・そのうえで、保育や教育に関係する者がは、どのような見方を持つべきかについて討論をしながら、よりよき「子ども観」について検討をしていきます。 【キーワード】 ・子ども観、保育観、アリエス、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー、レッジョ・エミリア、子ども・子育てをめぐる変化

【教科書・参考文献】
・（12-24ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・アリエスの「子どもの発見」という書について調べ、言葉の意味を説明できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・「子どもの発見」という言葉を手掛かりに、グループで「子どもとは？」について話し合います。

第３回　保育・教育を考える視点を養う（プリント）
【授業概要】
・これまでに確認した、レディネスの問題や遺伝と環境の関係性をふまえた上で、保育や教育とは、本質的に何をすることなのかについて、カマラとアマラの例を通して検討をしていきます。
・特に、生まれて育つ環境と、発達との関係性を軸にしながら、子どもを単純によりよい環境に移すということの是非について検討をし、子どもの発達にとって大切な事を考えます。
【キーワード】
・臨界期、敏感期、教育の適時性、カマラとアマラ、アヴェロンの野生児、カスパー・ハウザー
【教科書・参考文献】
・（プリント）
・西平直（2005）『教育人間学のために』（東京大学出版会）
【課題・予習・復習・授業準備】
・あらかじめ課題プリントを読んで感想をまとめておくこと。
【アクティブラーニング】
・「教育はカマラを幸せにしたか」という論考を通して、保育や教育とは何なのかについて、グループワークをし、意見を交換します。

第４回　身体・運動の発達（25-32ページ）
【授業概要】
・子どもが生まれた時点で、何ができる状態で生まれてきているかを考えることで、それらを備えて生まれてくる意味や、そのうち原始行動や原始反射が消失するメカニズムを考えることを通して、子どもの発達の本質的なあり方を考えていきます。
【キーワード】
・合計特殊出生率、脳の発達、シナプス、原始反射、原始行動、新生児微笑
【教科書・参考文献】
・（25-32ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・シナプスについて調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・グループで、「赤ちゃんが生まれてくるときの状態はなぜそうなっているのか？」について話し合います。

第５回　幼児期・児童期の認知発達（43-46ページ）
【授業概要】
・子どもの子どもらしさを生む一つの要因は、子どもらしい知覚や認知の特徴にあることを理解し、子どもが生きている認知的な基盤を理解していきます。
・それを通して、子どもの絵や発言の特徴を理解し、子どもらしい世界をのびのびと伸ばす支援を考えます。
【キーワード】
・ピアジェの認知発達の考え方、同化と調節、均衡化、シェマ、Ａ not Ｂエラー、新生児模倣、即時模倣、延滞模倣、表象、人見知り、アニミズム、ＤＡＭ
【教科書・参考文献】
・（33-35、ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・子どもの絵の特徴について調べておくこと
【アクティブラーニング】
・絵を描きながら、子どもの認知的世界を考えていきます。

第６回　幼児期後期・児童期の認知発達②（46-53ページ）
【授業概要】
・「心の理論」について解説し、児童期に入るあたりからそれが伸びてくる意味について解説します。
・また、遊びや学び中心の生活に適応する過程を控えて、仲間との良い関係を築くのに必要な力、つながるための力とは何かについて考えていきます。
【キーワード】
・心の理論、誤信念課題、三項関係、発達の最近接領域、足場かけ、時制の変化
【教科書・参考文献】
・（46-53ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・心の理論について調べておくこと
【アクティブラーニング】
・

第７回　言語の発達（54-64ページ）
【授業概要】
・言葉を使って大人などとやり取りをするような生活の始まりに伴って、幼児期が始まります。この幼児期に急速に発達をする言葉の発達に注目し、発達の基本的な流れを理解していきます。
・また、言葉を使って生きていく能力を備えている事に注目し、そこにある人の独自性について話し合います。
【キーワード】
・クーイング、喃語、ジャーゴン、共同注意、三項関係、表象、象徴機能、一語文、二語文、内言、外言
【教科書・参考文献】
・（54-64ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ピジンについて調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・「言葉を話して生きる能力」をなぜ人は獲得したのかについて、話し合います。

	第８回	感情の発達（65-77ページ） 【授業概要】 ・生まれながら人に備わる感情の分類や役割について学び、人が感情をもって生きる意味を考えていきます。 ・また、負の感情が備わっている意味、そして、それに適応的に対処をする能力の発達についても考え、感情があるからこそ成り立つ人と人の関係について考えます。 【キーワード】 ・生物学的機能、社会的機能、社会情動的発達、感情の分化、感情調整、感情理解、共感性、メンタライゼーション 【教科書・参考文献】 ・（65-77ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・「もしも感情がなくなったら」どのような世界になるかの思考実験を行い、感情の働きについて話し合います。
	第９回	社会性の発達①（78-83ページ） 【授業概要】 ・子ども同士がつながることによって、子ども独自の社会が生まれていきます。 ・こうした関係性を通してこそ育つ、社会性について学んでいきます。 【キーワード】 ・主我と客我、マークテスト、概念的自己、自己制御、向社会的行動と愛他的行動 【教科書・参考文献】 ・（78-83ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・自分が子どもの頃、友だちとどのような遊びをしていたかについて、ワークシートで振り返っておくこと。 【アクティブラーニング】 ・
	第１０回	社会性の発達②（83-89ページ） 【授業概要】 ・子どもは発達とともに家族の絆を越えて子ども同士の関係を築き始めるが、社会性や道徳性の側面では、どのような変化が起きているかを考えます。 【キーワード】 ・コールバーグ、道徳性の発達、社会的領域理論、日本版Vineland-Ⅱ適応行動尺度、Ｓ－Ｍ社会生活能力検査第３版、社会性発達チェックリスト 【教科書・参考文献】 ・（83-89ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・ 【アクティブラーニング】 ・思考実験的に、道徳的判断をしながら、グループでなぜそう判断するかの意見交換をしていきます。
	第１１回	仲間関係の発達（90-101ページ） 【授業概要】 ・「心の理論」や「遊びの発達」を通して、子ども時代における仲間関係の発達について見ていきます。 【キーワード】 ・パーテン、社会的参加、物をめぐるトラブル、クラス集団、社会化のエージェント、社会的スキル、ＳＳＴ 【教科書・参考文献】 ・（90-101ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・子どもの遊びの時代的変化について調べておくこと。 【アクティブラーニング】 ・児童用のＳＳＴの例を参考に、仲間関係を構築するＳＳＴを実践してみます。
	第１２回	子どもの表現を拓く：アフォーダンスの心理学（プリント） 【授業概要】 ・ギブソンによるアフォーダンス理論を学ぶことで、大人が想定をしていないところで生じる「遊び」や子どもの行動の危険予測について考えていきます。 ・実際に学内外に探索に出ながら、子どもの行動や感情を動かすアフォーダンスを探し、そうした力を活かした「夢の遊具」を考える課題に取り組みます。 【キーワード】 ・知覚と認知、ギブソン、アフォーダンス、遊具 【教科書・参考文献】 ・（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・後日、アフォーダンスを活かした「夢の遊具」について創造し、絵と文章で説明をする課題を提出すること。 【アクティブラーニング】 ・学内外にフィールドワークに出かけ、子どもの感情や行動を引き出すアフォーダンスを発見する課題に取り組みます。
	第１３回	子どもの知能と知能検査（105-109ページ） 【授業概要】 ・学習や適応に関する能力としての知能について、基本理論を学び、それを測定する検査について概観します。 ・知能について学ぶことで、小学校に入ってからの本格的な学習への姿勢を決めるものは何かについて、検討していきます。 【キーワード】 ・知能、流動性知能、結晶性知能、知能検査、知能指数、学習不振児、内発的動機づけ、外発的動機づけ、学習性無力感、自己決定理論、達成動機 【教科書・参考文献】

	・（105-109ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・様々な資格試験で必須の知識となる知能検査については、ミニテストを後日実施し、知識の習得を確実にしていきます。 【アクティブラーニング】 ・ 第１４回　特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援（126-138ページ） 【授業概要】 ・これまでに学んだことを振り返りながら、一部の機能がうまく働かないことで生じると仮定される様々な障害のうち、自閉症の子を撮影した映画を鑑賞し、実際の生活や家族の日常を理解していきます。 【キーワード】 ・自閉症、自閉症スペクトラム障害 【教科書・参考文献】 ・（126-138ページ） ・映画「ちづる」鑑賞 【課題・予習・復習・授業準備】 ・自閉症について調べておくこと 【アクティブラーニング】 ・ 第１５回　生活と遊びを通した学び（115-125ページ） 【授業概要】 ・子どもの高い学習能力について見ていきます。それは、日常目にすることから学んだり、体験から自然に学び取ることを含む学びです。 ・保育者・教育者として、子どもが何を学び取っているかに気づく力を磨くとともに、何を学んでもらいたいかを自覚しながら関わることの大切さについて考えて、授業のまとめとしていきます。 【キーワード】 ・ 【教科書・参考文献】 ・（115-125ページ） ・金森俊朗（2010）『「子どものために」は正しいのか』（学研出版）等 【課題・予習・復習・授業準備】 【アクティブラーニング】 ・仲間同士でのインタビューを行います。自分や仲間の体験を掘り起こしながら、学ぶということについて深めていきます。
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を自ら高めようと努力すること。 [受講のルール] ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、化粧、飲食行為等など）はしないこと。 ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話等）はカバンの中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・授業で紹介する図書、物語、絵本、映画などに積極的に触れ、子どもに関する豊かな知識や教養を広げていく姿勢を持つこと。 ・授業回数によって適宜調べ学習の課題を課す予定。提出物は評価対象になるので必ず出すこと。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①授業時に課す課題（小レポート等）（30%）　②学期末試験（70%）　①～②を総合的に評価する。
教科書	本郷一夫・飯島典子（編著）（2019）『保育の心理学』（建帛社）
参考書	適宜指示をする
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	-	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 音楽の基礎知識を理解し、それに伴い音楽的感性を養い指導に生かせるようにする。 【到達目標】 音楽の基礎的な知識を習得することは、単に教養を身につけるというだけでなく、それが良い演奏や良い指導につながることを理解させたい。楽譜の学習に伴って、ソルフェージュを取り入れ、実習することで演奏及び表現の感覚を養っていきたい。 また、西洋や日本の音楽史を学習することで、歴史上重要な作曲家の生涯や作品に触れたり、日本の音楽（民謡やわらべ歌）や諸外国の音楽に触れることにより、豊かな音楽感を習得させたい。
授業の概要	①保育者自身の音楽的感性や能力が、そのまま子どもに影響を及ぼすため、音楽の基礎的な知識を習得する。 ②正しいリズム感、即興的音楽活動をとらえる感覚を養うためのソルフェージュの学習や、コードネームの基礎について学習する。 ③移調の学習を通して弾き歌いに対する応用力を身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　前期オリエンテーション 第２回　楽譜の決まり・手遊び 第３回　音符と休符について・手遊び 第４回　音符の長さとリズムについて・リズム打ち・リズム遊び 第５回　音名について（日本名・英名） 第６回　変化記号・調号・異名同音について 第７回　拍子（単純拍子・複合拍子）・拍子記号 第８回　強弱記号・発想記号・反復記号について 第９回　音程について①（長音程・短音程） 第１０回　音程について②（完全音程） 第１１回　音階について①長音階 第１２回　音階について②長音階の調号と主音について 第１３回　音階について③短音階 第１４回　前期の復習

	第１５回　　前期のまとめ試験 第１６回　　後期オリエンテーション 第１７回　　音階について④近親調・属調・下属調 第１８回　　転調・移調について 第１９回　　移調の方法と練習問題 第２０回　　和声について①主要三和音・副三和音 第２１回　　和声について②転回形と七の和音 第２２回　　和声について③終止形（カデンツ） 第２３回　　和音記号とコードネームの関係について 第２４回　　楽式 第２５回　　楽器の種類と扱い方について（無音程打楽器と有音程打楽器） 第２６回　　合奏 第２７回　　音楽史（西洋音楽史） 第２８回　　音楽史（日本の音楽とわらべ歌等） 第２９回　　後期復習 第３０回　　後期のまとめ試験
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	改訂　音楽通論　教育芸術社
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 保育内容（環境）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
田中　輝幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 今日、多様化した環境の中で成長している子ども達を保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、領域「環境」に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取り巻く環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方と能力を身につけることを目的とします。 【到達目標】 ①子ども達をとりまく様々な環境について理解する。 ②乳幼児の発達と保育環境の設定の相互関係を理解する。 ③保育者としてより良い環境を見つけるための視点を身につける。
授業の概要	乳幼児の発達と保育環境の設定との相互関係を知り、保育環境の意義や役割について考え、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていきます。本講義では、多くの事例から子ども達を取り巻く環境について考え、保育者が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、どう援助すればよいか、それによってどう子どもの伸びる力を引き出すかなどを考察し学んでいきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか 【key words】 保育 環境 保育内容 領域 【授業概要】 「保育」「環境」の二つのキーワードから連想されるイメージを各自あげることから始まり、保育内容としての「環境」を学ぶ意義について考察していく。環境というキーワードでグループワークも行う。 【教科書ページ・参考文献】 P1～2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P3～11の事例をよく読んでおくこと。
	第２回	保育の基本とは 【key words】 保育の基本、生きる力 【授業概要】 乳幼児期に何を培うべきかなど、「保育の基本」を学び、事例を基に「乳幼児期の保育として大切にしたいこと」を具体的に学び考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P3～11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P12～19の事例をよく読んでおくこと。
	第３回	領域「環境」の位置づけ 【key words】 領域、教科との違い 【授業概要】 領域と教科の違いについて、様々な事例を基に考察し、具体的に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 P12～19 【課題・予習・復習・授業準備指示】

P20～23の事例を良く読んでおくこと。

第４回　子どもと環境とのかかわり（１）①身近な環境の捉え方

【key words】
身近な環境、身近な自然・生き物
【授業概要】
身近な環境の捉え方について考察し、子どもと「身近な自然・生き物」との関わりについて事例を基に具体的に考察し学んでいく。フィールドワークとして、学内の自然について調べる。

【教科書ページ・参考文献】
P20～23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P24～28の事例を良く読んでおくこと。

第５回　子どもと環境とのかかわり（１）②身近な自然・生き物とのかかわり

【key words】
身近な環境、身近な自然・生き物
【授業概要】
身近な環境の捉え方について考察し、子どもと「身近な自然・生き物」との関わりについて事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P24～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P29～31の事例を良く読んでおくこと。

第６回　子どもと環境とのかかわり（２）①物とのかかわり

【key words】
物、文字や記号
【授業概要】
子どもと「物」との関わりについて、 事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P29～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P31～35の事例を良く読んでおくこと。

第７回　子どもと環境とのかかわり（２）②文字や記号・数量とのかかわり

【key words】
文字や記号、数量
【授業概要】
子どもと「文字や記号」「数量」との関わりについて、事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P31～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P36～43の事例を良く読んでおくこと。

第８回　子どもと環境とのかかわり（３）情報や施設とのかかわり

【key words】
情報、行事、異文化、地域
【授業概要】
子どもと「情報や施設」「園内外行事」との関わりについて、様々な事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P36～43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P44～51の事例を良く読んでおくこと。

第９回　さまざまな保育環境について【ＤＶＤ学習】

【key words】
コーナー保育、自然保育、年中行事
【授業概要】
さまざまな保育環境について【ＤＶＤ学習】を行う。いくつかの園の保育について比較し、保育内容や保育環境についての考察を深めていく。ＤＶＤの感想をまとめグループワークを行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書は使用しない。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P44～51の事例を良く読んでおくこと

第１０回　園庭の自然や遊具とのかかわり

【key words】
園庭の自然、固定遊具

【授業概要】
子どもと園庭の自然や遊具とのかかわりについて、事例を基に具体的に考察していく。

【教科書ページ・参考文献】
P44～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P52～57の事例を良く読んでおくこと。

第１１回　室内の遊具・教材・設備とのかかわり

【key words】
室内の遊具・教材・設備

【授業概要】
子どもと「室内の遊具」「教材」「設備」との関わりについて、事例を基に具体的に考察していく。
【教科書ページ・参考文献】

	P52～57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～67の事例を良く読んでおくこと。 第１２回　飼育・栽培・園外保育 【key words】 飼育・栽培、当番活動、園外保育 【授業概要】 保育内容として行なわれる「飼育」「栽培」「園外保育」について、事例を基に具体的に考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P58～67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P81～90の事例を良く読んでおくこと。 第１３回　領域「環境」と保育の実際（１）環境を生活に取り入れる 【key words】 身の回りの生活環境の変化や法則性に気付く 【授業概要】 「身の回りの生活環境の変化や法則性に気付く」ことや「環境を生活に取り入れる」ことなどを事例を基に、具体的に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 P81～90 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P91～98の事例を良く読んでおくこと。 第１４回　領域「環境」と保育の実際（２）文字･数量の感覚を身に付ける 【key words】 思考力の芽生え、文字・数量の感覚を身に付ける 【授業概要】 保育内容のなかで、「思考力の芽生え」や「文字・数量の感覚を身に付ける」ことなどを事例を基に、具体的に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 P91～98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幼稚園教育要領及び保育所保育指針と照らし合わせて復習すること。 第１５回　まとめ 【key words】 幼児理解。保育内容の統合性、地域の資源の活用 【授業概要】 幼児教育では、保育者自身が保育環境に関心を持つことが非常に大切であり、地域の資源の活用も含めて保育内容を構成していく必要がある。 【教科書ページ・参考文献】 P108～111 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幼稚園教育要領及び保育所保育指針と照らし合わせて復習すること。
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。 ・保育所保育指針。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照すること。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	定期試験（60%）授業内レポート・小テスト（40%）の総合評価
教科書	演習 保育内容 環境　　柴崎 正行 編著　　建帛社
参考書	保育雑誌 ピコロ 学研　保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育原理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース・選択／学校教育コース・必修
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育の①理念並びに歴史及び思想、②教育課程の意義及び編成の基礎的理解を得る。新しい時代に必要とされる資質・能力の育成とカリキュラム･マネジメントを行うことの意義を理解する。 [到達目標] １　教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 ２　学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 ３　教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。
授業の概要	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を社会的背景に照らし合わせて考察し、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、教育の基本的概念を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 ・授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 毎回、【視点】にそった内容のミニレポートを課す。課題をミニレポートという形でまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。 ・講義内容によっては、資料、レジュメ等で進める回もある。 【Key Word】 教育の語源、教育の可能性・必要性、カント 【授業概要】 各自が捉える「教育」とは何かについて、意見・考えを述べる。　教育の語源に視点をあてながら、語源からみえる「教育」とは何かについて考える。 カントの命題である「人間は教育されなければならない唯一の被造物である」 から教育の可能性・必要性を考える。 【教科書ページ】 テキストP1～P7　第1章　なぜ教育学をまなぶのか 参考書：沼田裕之(2004)『＜問い＞としての教育学』第１章　どうして学ばなければならないのだろうか 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：教育の語源からみえてくる「教育」とは何か、カントの命題から教育の可能性・必要性を整理し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習:ソクラテスの助産術について事前に学習しておくこと。 第２回　子ども観と教育観（積極的教育、消極的教育、助産術） 【Key Word】 積極的教育、消極的教育、助産術、ソクラテス、ルソー

【授業概要】
子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉える。

【教科書ページ】
テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:アテネとスパルタの教育について調べておくこと。

第３回　教育における人間像　（古代１、古代２、中世、あるゆる人にあらゆるものを、国民、市民

【Key Word】
7自由科、アテネの教育、スパルタの教育

【授業概要】
教育における人間像について、古代、中世に遡り、国民、市民となっていった歴史的変遷を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP23～P27　第2章　学校はどのようにつくられたか-その歴史と課題
資料、レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：教育における人間像について、歴史的変遷から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題を熟読し、学校とは何かについて事前に学習しておくこと。
複線型、分岐型、単線型の就学システムについて調べておくこと。

第４回　近代学校の誕生と発展（下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態）

【Key Word】
下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態

【授業概要】
下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP28～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
テキストP243～付録：学校の系統図

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題を再度熟読し、義務教育の成立について事前に学習しておくこと。
義務教育について調べてくること。

第５回　日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）

Key Word】
学制、小学校令、学校教育法

【授業概要】
日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
資料：日本における義務教育の成立と展開

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：日本の義務教育の成立と展開について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:オープンスクールについて調べてくること。

第６回　多様化する学校・学校は誰のためにあるか（閉鎖性・開放性、オープンスクール）

【Key Word】
閉鎖性、開放性、オープンスクール

【授業概要】
近代国家が教育を支配する巧妙な支配方式であることを学び、教育を学校のみに閉じ込めてしまう閉鎖性の体制から開放性へと向う多様化する学校について考察する。改めて学校は誰のためにあるのかを確認する。

【教科書ページ】
テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
資料：閉鎖性・開放性、オープンスクール

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：閉鎖性から開放性へと向かう中で、学校は誰のためにあるのかを考察する。本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:児童中心主義を調べてくること。

第７回　教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）

【Key Word】
児童中心主義、教師中心主義、問題解、デューイ

【授業概要】
教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか
資料：教育実践を支える思想

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：児童中心主義とは何か、教師中心主義とは何かを確認し、教育実践を支える思想について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：テキストP131～　第6章　子どもに学ぶということを熟読し、教えることと、学ぶこととはどういったことなのか、について事前に学習しておくこと。

第８回　教えると学ぶ（教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子ども）

【Key Word】
教えると学ぶ、教師－教材－子ども

【授業概要】
教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子どもの関係性を読み解き、教えると学ぶとはどういったことなのか、について学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP131～　第6章　子どもに学ぶということ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：教えると学ぶとはどういったことなのか、について本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:教育課程について調べておくこと。

第９回　教育課程編成の主体（学校で何を教え、何を学ぶか）

【Key Word】
教育課程の編成、学習指導要領、教師

【授業概要】
教育課程編成の主体は何かを学び、学校で何を教え、何を学ぶのかを考察する。

【教科書ページ】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか
参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ.
文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：教育課程編成の主体とは何かを確認し、学校で何を教え、何を学ぶのかを教育課程編成から読み解き、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。
予習:テキストP71～　第4章　なぜ学習指導の転換が必要かを熟読し、教育課程の類型について、事前に学習しておくこと。

第１０回　教育課程の類型　（経験主義、系統主義）

【Key Word】
教育課程の類型、経験主義、系統主義

【授業概要】
教育課程の類型である経験主義と系統主義について学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP71～　第4章　なぜ学習指導の転換が必要か
参考書:田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ.
文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：教育課程の類型（経験主義、系統主義）について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。
予習:テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、と配布資料を熟読し、学習指導要領の変遷（小学校則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について事前に学習しておくこと。

第１１回　学習指導要領の変遷①（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）

【Key Word】
小学校教則、国民学校令施行規則、学習指導要領（試案）、経験主義

【授業概要】
学習指導要領の変遷（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか
参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ.
文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.
資料、レジュメ等：学習指導要領の変遷

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：学習指導要領の変遷（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。
予習:配布資料を熟読し、学習指導要領の変遷（告示としての学習指導要領）の特徴について事前に学習しておくこと。

第１２回　学習指導要領の変遷②（告示としての学習指導要領）

【Key Word】
改訂のねらいと特徴

	【授業概要】 告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴について学ぶ。 【教科書ページ】 テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか 参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ. 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領. 資料、レジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：学習指導要領の変遷（告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴）について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。 予習:配布資料を熟読し、教育課程編成の方法について事前に学習しておくこと。 第１３回　教育課程編成の方法 【Key Word】 新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の実現、主体的･対話的で深い学び 【授業概要】 教育課程編成の方法について学ぶ。 【教科書ページ】 テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか 参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ. 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領. 資料、レジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：教育課程編成の方法について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。 予習:カリキュラム･マネイジメントについて調べておくこと。 第１４回　カリキュラム・マネイジメントと評価 【Key Word】 カリキュラム・マネイジメント、評価 【授業概要】 カリキュラム・マネイジメントと評価について学ぶ。 【教科書ページ】 資料・レジュメ:カリキュラム・マネイジメントと評価 参考書：田村 知子他(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：カリキュラム・マネイジメントと評価について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出する。 予習:テキストP205～第９章　教師について考えるを熟読し、教師の仕事、教職の専門性について事前に学習しておくこと。 第１５回　教師について考える 【Key Word】 教師の仕事、教職の専門性 【授業概要】 教師の仕事とは何か、教職の専門性とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ】 テキストP205～第９章　教師について考える 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：教師の仕事、教職の専門性について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 教育原理の講義で学んだことを復習し、定期試験に向けて準備をしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著(2005)『新教育原理』有斐閣双書
参考書	田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領

	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉相談援助の基盤(専門)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神保健福祉の基本を学ぶ。精神保健福祉と社会福祉の共通点・相違点を明確にし二つの国家試験受験資格を取得できる福祉系大学の特色を生かし福祉の多方面、ジェネラルなソーシャルワークを学ぶ。 【到達目標】総合的かつ包括的相談援助の理念と方法を精神保健福祉学から次に精神科医療との協働・連携する方法に関する知識や技術を学び精神保健福祉士の倫理観、責任感、行動力の基盤を学ぶ。
授業の概要	精神保健福祉の総合的かつ包括的援助の理念と方法に関する知識と技術を学ぶ。精神科医療及び地域福祉サービスとの協働・連携する方法に関する知識と技術を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key word】 しばらくグループワーク体験学習を行う。 【授業概要】 プリントから精神保健福祉士の「お仕事」を概観する。 退院後生活環境相談員の誕生について理解させ、コミュニティーミーティングにつなげる。 【教科書ページ・参考文献】 ※プリントの配布
	第２回	精神保健福祉士制度の歩み 【key word】 しばらくグループワーク体験学習を行う。 【授業概要】 精神保健福祉士の歴史。 PSW(精神科ソーシャルワーカー) 教科書1～16P
	第３回	資格化と専門性 【key word】 しばらくグループワーク体験学習を行う。 【授業概要】 ①退院後生活環境相談員 ②社会福祉士と精神保健福祉士 ※社会構造の変化と医療構造の変化
	第４回	人間理解促進のための概念を学ぶ 【key word】 しばらくグループワーク体験学習を行う。 【授業概要】 抵抗、両価性、転移・逆転移。 支援関係のポイント。心理社会療法というソーシャルワーク。

【教科書ページ・参考文献】
51ｐハミルトン。54ｐホリス

第５回　退院促進の始まり、ゴッフマンてしている

【key word】
しばらくグループワーク体験学習を行う。
【授業概要】
大規模収容施設をアサイラムと言います。精神科病院のことです。そこで暮らすと自然にいつの間にか身につくことがあってそれを『スティグマ』と呼びます。社会学者のゴッフマンがつけました。
そこから抜け出すことを「治療共同体理論」として広めたのがイギリスの脱施設化です。

※ビバリッジ報告、五つの悪、知ってます？

第６回　精神科ソーシャルワークの説明

【key word】
しばらくグループワーク体験学習を行う。
【授業概要】
SWのグローバル定義と社会正義。アメリカのMSWと日本のMSW。ロールズの格差理論、センのケーパビリティー。

【教科書ページ・参考文献】
35～63P

第７回　精神障害者の人権

【key word】
しばらくグループワーク体験学習を行う。

【授業概要】
何人にも侵さざるべき基本的人権がある。
「措置入院」という強制入院がある。
日本では一時期、措置入院患者が多く居た。なぜか？

第８回　日本のＰＳＷ（精神保健福祉士）

【key word】
精神保健医療福祉の改革ビジョン。

【授業概要】
教科書に従って。

【教科書ページ・参考文献】
11P、130～136P

第９回　精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク

【key word】
エンパワーメント、ストレングス、リカバリー。
【授業概要】
コミュニティーミーティングの説明からシステム論、エコロジカル論、ナラティブアプローチまで。

【教科書ページ・参考文献】
85～95P

第１０回　ソーシャルワークの定義と構成要素

【key word】
人と状況の全体関連性。
【授業概要】
バイスティックの７つの原則と３つの方向「力動的相互作用」を扱う。（注・前本４７P）
SSTも少しやる。

【教科書ページ・参考文献】
57～58Pを中心に。

第１１回　ソーシャルワークと精神保健

【key word】
心理社会的アプローチを学ぶ。
【授業概要】
事例を検討する。
１）問題は何か２）どうしてそうなったか３）どうしたらいいか

【教科書ページ・参考文献】
教科書90P、図３－１の説明。

第１２回　人間理解のための重要な概念と「見立て」

【key word】
アセスメント⇒見立て……社会診断。

【授業概要】
隠れている本質を探る、見抜く。再び転移、両価性、抵抗。
※十分わかっていれば「分裂＝スプリット」
※未解決問題の理解。

第１３回　ソーシャルワークの展開過程

【key word】
相互作用、交互作用。

【授業概要】
グループワークにも展開過程がある。ケースワークにも。

	【教科書ページ・参考文献】 108～121P 第１４回　ケースワーク、グループワークのまとめ 【key word】 課題グループ、プログラム活動、治療グループ。 【授業概要】 教科書に従って。 【教科書ページ・参考文献】 120P～ 第１５回　生活支援とコミュニティーワーク 【key word】 生活のしずらさ 【授業概要】 地域で当たり前の生活を。 生活支援、コミュニティーワークとしての地域生活支援。 【教科書ページ・参考文献】 170Pを中心に
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健福祉相談援助の基盤
参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　倫理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
鈴木　育三			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	地球生命態の一部として存在する人類の直面している課題を、1. 自然との共生、2. 社会的存在としての人間の共生関係、3. 社会福祉の原点としての共生の倫理を、実践事例をあげながら〈共生学〉の視点から考察する。
授業の概要	講義時に指示する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　共生学（Sapientia Convivendi）について

第２回　自然との共生（1）生物多様性

第３回　〃　(2) 環境保護活動

第４回　〃　(3) 自然とライフ・サイクル

第５回　〃　(4) 自然学校の試み

第６回　社会的存在としての人間の歴史的現実　総論　(1) 戦争と平和

第７回　〃　(2) 共生と排除

第８回　〃　(3) 差別と抑圧

第９回　〃　(4) マイノリティとディアスポラ

第１０回　〃　(5) 貧困と格差社会

第１１回　社会福祉と共生の倫理　総論

第１２回　〃　(1) 人権思想の歴史

第１３回　〃　(2) 生存権（社会保障）の歴史

第１４回　共生の倫理　総括 (1) 質疑・応答

	第１５回　　共生の倫理　総括（2）　　〃
受講生に関わる情報および受講のルール	講義時に指示する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	講義時に指示する。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	出席・授業ごとのリアクション・ペーパー及び小論文
教科書	教科書は無いが、随時参考文献を紹介する。
参考書	講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 倫理学　　授業コード：

英文科目名称： ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会とは人と人との関係性のなかで構築されている。その中で我々は日々決断を求められている。その時に判断基準はあるのでしょうか。我々が普段下す判断を倫理学的に考察することで、よりよく生活をおくることが可能になります。 【到達目標】 ・倫理学の基礎的用語を理解し他者に説明できる。 ・倫理学的発想の構造に注目し、その内部構造を把握し、文章で説明できる。
授業の概要	・人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか、倫理学の思考に基づき考察する。 ・倫理的に考察することは、既存の思考に対する懐疑を生ずることもありますが、自分なりの答えを導くことにより新しいステップに行くことが可能になります。そのような訓練の場でもこの授業はあります。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　倫理学の問い 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。倫理学とはどのような学問なのか、例を出しながら説明していきます。 【Key Word】 受講の際の注意点 【教科書ページ・参考文献】 P3～P19 【課題・予習・復習・授業準備】 教科書「まえがき」と「第１講　倫理学の問い」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。
	第２回	絶対的価値は存在するか 【授業概要】 ２週にわたり「絶対的価値は存在するのか否か」を議論していきます。絶対の反対は相対ということになります。現在、世俗的には相対主義の考え方が主流です。しかし絶対的価値は存在しないのでしょうか。考えてみましょう。 【Key Word】 絶対　善悪の相対性　人為と自然 【教科書ページ・参考文献】 教科書P20～P37 【課題・予習・復習・授業準備】 「第２講　絶対的価値は存在するか」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。
	第３回	絶対的価値は存在しないか 【授業概要】 絶対の反対語である相対という視点から、絶対的価値について考えてみます。 【Key Word】 相対主義　道徳的相対主義の基本テーゼ 【教科書ページ・参考文献】 教科書P38～P54

【課題・予習・復習・授業準備】
「第３講　絶対的価値は存在しないか」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第４回　功利主義の基礎

【授業概要】
結果（帰結）を重視する「功利主義」の基礎について、例を提示しながら考えていきます。
【Key Word】
功利主義　最大多数の最大幸福　ベンサム　ミル
【教科書ページ・参考文献】
教科書P55～P72
【課題・予習・復習・授業準備】
「第４講　功利主義の基礎」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第５回　功利主義の諸問題

【授業概要】
功利主義の特徴を一言で現すならば「最大多数の最大幸福」となるでしょう。しかし多数に漏れた人たちはどうなるのでしょうか。功利主義の問題点について考えてみましょう。
【Key Word】
行為功利主義　規則功利主義　手段と目的
【教科書ページ・参考文献】
教科書P73～P90
【課題・予習・復習・授業準備】
「第５講　功利主義の諸問題」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第６回　功利性と道徳性

【授業概要】
なぜ、我々は道徳的行為を行なうのか。道徳的判断基準に功利性は卑しいのか。このことについて考えてみましょう。
【Key Word】
快楽主義　功利と道徳
【教科書ページ・参考文献】
教科書P91～P107
【課題・予習・復習・授業準備】
「第６講　功利性と道徳性」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第７回　カント倫理学の課題

【授業概要】
功利主義の対極に位置するのがカントの倫理学です。カントの倫理学は「善い意思」にのみ善を認めます。役に立つとといった功利的な視点は一切排除します。なぜ排除するのでしょうか。カントにおける義務の視点から考えていきましょう。
【Key Word】
カント　義務
【教科書ページ・参考文献】
教科書P108～P125
【課題・予習・復習・授業準備】
「第７講　カント倫理学の課題」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第８回　普遍化可能性の原理

【授業概要】
個別の事象から抽出して、そこに普遍性を見出すのが哲学です。しかし倫理学についても同じことが言えます。一見矛盾しているようでも、根底には普遍化可能なものがあります。しかし限度があるのも事実です。その瀬戸際について考察していきます。
【Key Word】
定言命法　形式的原理
【教科書ページ・参考文献】
教科書P126～P142
【課題・予習・復習・授業準備】
「第８講　普遍化可能性の原理」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第９回　人格性の原理

【授業概要】
人格性にどのような原理が見出されるのか、このことについて考察します。
【Key Word】
人格　ロックの人格概念
【教科書ページ・参考文献】
教科書P143～P160
【課題・予習・復習・授業準備】
「第９講　人格性の原理」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第１０回　道徳性の本質と限界

【授業概要】
道徳性の本質と限界について事例を基に考察します。
【Key Word】
自立と他律　事実判断と価値判断
【教科書ページ・参考文献】
教科書P161～P177
【課題・予習・復習・授業準備】
「第１０講　道徳性の本質と限界」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。

第１１回　道徳という制度

【授業概要】

	道徳は基本的には心情的なものですが、制度という視点から考察すると違う顔が現れます。制度という視点から考察していきます。 【Key Word】 道徳　制度 【教科書ページ・参考文献】 教科書P178～P196 【課題・予習・復習・授業準備】 「第１１講　道徳という制度」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。 第１２回　自由と道徳 自由と道徳は一見すると相反する関係のようですが、実はお互いに補完し合うことによって、人格を高めるものです。自由と道徳律の関係について考察します。 【Key Word】 自由意志 【教科書ページ・参考文献】 教科書P197～P216 【課題・予習・復習・授業準備】 「第１２講　自由と道徳」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。 第１３回　幸福と道徳 【授業概要】 人を幸福にするための倫理･道徳が、時には人を不幸にするという逆転現象が起こります。幸福と道徳の関係について考察します。 【Key Word】 幸福　道徳　義務 【教科書ページ・参考文献】 教科書P217～P235 【課題・予習・復習・授業準備】 「第１３講　幸福と道徳」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。 第１４回　愛と道徳 前回と同じようなことが愛と道徳の関係についても言えます。愛と道徳の関係について考察します。 【Key Word】 責任倫理と心情倫理 【教科書ページ・参考文献】 教科書P236～P253 【課題・予習・復習・授業準備】 「第１４講　愛と道徳」を必ず読んできてください。読んであるという前提の下に講義を進めます。 第１５回　総復習 【授業概要】 これまでに学び議論してきたことに基づいて、自分の倫理観にどのような影響を与えた（または与えなかった）かを文章にしてもらいます。また今までの講義で不明な点があれば、質問をしてください。個別にお答えいたします。 【Key Word】 倫理　道徳　自己 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備】 自分が興味を持った章をもう一度読み直してきてください。
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・講義では受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらいます。また課題について必ず調べてきてもらいます。要するに、アクティブラーニングを促します。 ・自分は何ができるのか。自問自答してみてください。それが倫理観の形成に繋がります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。講義で不明な点は、講師に質問するなり、図書館にある辞典類、『岩波哲学思想辞典』（岩波書店）『哲学辞典』（平凡社）で調べ、理解できるように努めてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　課題１５％　発表１５％
教科書	新田孝彦『入門講義　倫理学の視座』世界思想社２０００年９月
参考書	宇都宮芳明 熊野純彦編『倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1994年9月）加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫、1997年2月）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース・選択／学校教育コース／初等教育コース・必修
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。 【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	先ずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　人権①（～前文） 【key words】 憲法　基本原理 【授業概要】 ″社会規範について説明をする。 憲法の意義、歴史、基本原理を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ22～27 第２回　人権②（天皇～私人間効力） 【key words】 国民主権　平和主義　人権享有主体性 【授業概要】 ″日本国憲法の基本原理である国民主権、平和主義について説明をする。 基本的人権総論として、人権共有主体性等の説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ22～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ27～30 第３回　人権③（包括的基本権・法の下の平等） 【key words】 包括的基本権　法の下の平等 【授業概要】 新しい人権を生む１３条と自由とともに保障されている平等権について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ27～30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ30～32

	第４回	人権④（精神的自由（１）） 【key words】 精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　学問の自由 【授業概要】 精神的自由権について、思想良心の自由　信教の自由　学問の自由を題材に説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ30～32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ32～34
	第５回	人権⑤（精神的自由（２）） 【key words】 表現の自由　知る権利　検閲 【授業概要】 精神的自由の中心と位置付けられる表現の自由、そこから生まれる知る権利等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ32～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ34～35
	第６回	人権⑥（経済的自由） 【key words】 経済的自由　職業選択の自由　財産権　居住・移転の自由 【授業概要】 職業選択の自由、財産権等を題材とし、精神的自由と比較して経済的自由について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ34～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ35～37
	第７回	人権⑦（人身の自由） key words】 人身の自由　適性手続の保障 【授業概要】 人身の自由の保障と、そのための適正手続の重要性について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ35～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ37～39
	第８回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利） 【key words】 生存権　プログラム規定説　教育を受ける権利 【授業概要】 ″社会権につき自由権との比較のうえ説明する。 特に、福祉の基礎となる生存権に関する判例の考え方を紹介する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ37～39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ39～41
	第９回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務） 【key words】 労働権　参政権　国務請求権　国民の義務 【授業概要】 ″前回までに取り上げた人権以外の人権につき概説する。 国民の義務を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ39～41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ43～49
	第１０回	統治①（統治機構・国会） 【key words】 権力分立　立法権　国会　二院制 【授業概要】 日本国憲法が定める統治機構について説明をし、そのうちの立法権を担う国会につき説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ43～49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ49～51
	第１１回	統治②（内閣） 【key words】 行政権　内閣　議員内閣制 【授業概要】 ″行政権を担う内閣について説明をする。 国会との関係において議院内閣制を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ49～51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ52～57
	第１２回	統治③（裁判所Ｉ） 【key words】 司法権　裁判所　統治行為論　三審制

	【授業概要】 ″司法権の意義・範囲とその限界を説明する。 司法権を担う裁判所の組織について説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ52～57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ57～59 第１３回　統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む）） 【key words】 裁判官の独立　違憲審査権　裁判員制度 【授業概要】 ″裁判所を構成する裁判官の独立性、法律等を違憲とする違憲審査権につき説明をする。 あわせて、裁判員制度について概説する。″ 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ57～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐｐ59～63 第１４回　統治⑤（財政・地方自治） 【key words】 財政立憲主義　公金支出　地方自治の本旨 【授業概要】 社会福祉に関しても重要性を有する財政、地方自治について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ59～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、プリントを見直しておくこと 第１５回　まとめ 【key words】 憲法　人権　統治 【授業概要】 憲法に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
参考書	小六法（例：「ポケット六法」有斐閣，2018年）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会調査の基礎　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択
担当教員			
河内　和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学ぶことを目的とする. 【到達目標】 実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに，将来，保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける.
授業の概要	本講義では，種々の社会現象（e.g.，社会問題，流行）について調べ，解明するための理論と統計的方法について解説を行う．講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の２本立てから成るが，単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく，適宜，多様な具体例を提示しながら，事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする.

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　社会調査を学ぶにあたって 第２回　社会調査の目的　社会調査と社会福祉調査 第３回　社会調査の種類　量的調査と質的調査 第４回　社会調査のプロセス　調査実施のためのプロセス 第５回　標本抽出法Ⅰ　無作為標本抽出法と有意抽出法 第６回　標本抽出法Ⅱ　無作為標本抽出法の演習 第７回　データの収集法　調査票調査，他記式調査，自記式調査 第８回　調査票(アンケート)の作成　質問項目の執筆における留意点を中心に 第９回　データの処理・集計　データの数値化，単純集計・クロス集計 第１０回　統計分析Ⅰ　変数の種類と代表値 第１１回　統計分析Ⅱ　データの分散，シグマの法則 第１２回　統計分析Ⅲ　ピアソンの積率相関係数 第１３回　統計分析Ⅳ　クロス集計表の作成 第１４回　統計分析Ⅴ　クロス集計表の独立性の検定 第１５回　総括

受講生に関わる情報および受講のルール	アンケート(調査票)による統計調査の方法とその分析法に関する授業です．社会問題や世論などについてデータ(根拠)に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます．また，受講にあたっては恒常的に出席してください．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合もあり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること．
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応．
評価方法	定期試験（８０％）と平常点（２０％）（提出課題）で総合評価を行います．
教科書	轟 亮・杉野 勇(編)「入門・社会調査法[第3版] ―2ステップで基礎から学ぶ―」，法律文化社，2017年．
参考書	適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 英語Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	英語圏に片寄らないさまざまな文化圏の人物が、日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。			
授業の概要	日常英語表現の習得を念頭に置き、Dialogueで基本的な表現を学び、Expressionsではそれらを発信力の向上へつなげる。			
■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
授業計画	第１回　科目オリエンテーション 第２回　Toeicについて。 第３回　Convenience Stores 中国のコンビニエンス・ストアについて、日本との比較を食習慣の違いおよび接客態度の慣習の違いなどに着目する。 第４回　〃 第５回　Norimaki 隣の国、韓国の食文化と日本との類似を知る。 第６回　〃 第７回　“Hai” 外国語の一つとして、一般的に私達は「中国語」と類似するが、実際には多くの種類がある。その実情について学ぶ。 第８回　〃 第９回　Ramen 穀物である小麦と米の文化の分布とその発展について学ぶ。 第１０回　〃 第１１回　Flavors 特に東南アジアでは香辛料が重要な食文化の一部である。日本とは宗教的に異なる地域もあり、その違いを学ぶ。 第１２回　〃 第１３回　Valentine’s Day and International Women’s Day 日本と韓国はバレンタイン・デーが定着したようであるが、他のアジア諸国では「国際婦人デー」の方がよく知られている。 第１４回　Toeic Test練習。			

	第１５回　〃
受講生に関わる情報および受講のルール	テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に提示する。
オフィスアワー	授業時に提示する。
評価方法	定期試験の成績（60%）・授業への取り組み（40%）を総合的に評価する。
教科書	別に指示する。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　英語Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できることを目指す。そして実用的なコミュニケーション能力の向上を図る。
授業の概要	クイズ形式のIntroduction、異文化体験のDialog、関連した話題を短い文章でまとめたCultural Notes、表現練習のExpressionsで構成。日常生活で遭遇する異文化ギャップを通して、実際的な異文化コミュニケーションを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画

第１回　科目オリエンテーション

第２回　Car Names
「かっこいい」という感覚は国によって異なる。それは語感から来るものかもしれない。その理由を考えてみる。

第３回　Fakes
にせものが出回る現状を考えてみる。にせものと「似た物」の違いについてもその出現の背景を考察してみる。

第４回　〃

第５回　It Doesn’t Mean That
「言葉通りの意味ではない」のは日本語だけではない。コミュニケーションのルールの難しさについて学ぶ。

第６回　〃

第７回　The Draft
韓国の徴兵制について、最近では多くの日本人が知っている。

第８回　〃

第９回　The University System
オーストラリアの大学制度について学ぶ。アメリカの制度ではなく、イギリスの制度を基本にしている。

第１０回　〃

第１１回　Job－hunting
日本の学生にとって「就職活動」は大人への入り口とも言える。アメリカの学生はどうなのだろうか。

第１２回　〃

第１３回　Toeic Test練習。

	第１４回　〃 第１５回　〃
受講生に関わる情報および受講のルール	テキストに沿った形の演習形式を取るので、予習は欠かせない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業時に指示する。
評価方法	定期試験の成績（60%）・授業への取り組み（40%）を総合的に評価する。
教科書	別に指示する。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 【到達目標】 ・ピンインを見て発音ができるようになる。 ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう 【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。 【Key Word】 受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。
	第２回	発音の決まりごと（１） 【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音練習していきます。 【Key Word】 ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2・P3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
	第３回	発音の決まりごと（２） 【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。

【Key Word】
声調　併音
【教科書ページ・参考文献】
教科書P4～P7
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第４回　第０課　你好！（こんにちは　その1）
【授業概要】
外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。
【Key Word】
你好　併音
【教科書ページ・参考文献】
教科書P4・P5
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第５回　第０課　你好！（こんにちは　その2）
【授業概要】
今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう
【Key Word】
你好　併音　名前の尋ねかた
【教科書ページ・参考文献】
教科書P4・P5
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第６回　第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１）
【授業概要】
この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。
【Key Word】
是構文（名詞述語文）
【教科書ページ・参考文献】
P10・P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第７回　第１課　你是日本人吗？（日本人ですか　その２）
【授業概要】
前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【Key Word】
是　不是　也　吗
【教科書ページ・参考文献】
P10～P13
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第８回　第２課　这是什么？（これは何ですか　その１）
【授業概要】
この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。
【Key Word】
这个 那个 哪个
【教科書ページ・参考文献】
P14・P15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第９回　第２課　这是什么？（これは何ですか　その２）
【授業概要】
前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問
文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。

【Key Word】
什么 谁 哪里 的
【教科書ページ・参考文献】
P14～P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第１０回　第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１）

【授業概要】
日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。
【Key Word】
曜日の言い方
【教科書ページ・参考文献】
P18・P19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第１１回　第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２）

【授業概要】
前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動
詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【Key Word】
動詞文　S+V+0
【教科書ページ・参考文献】
P18～P21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第１２回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１）

【授業概要】
年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。
【Key Word】
年齢の尋ね方
【教科書ページ・参考文献】
P22・P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。

第１３回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２）

【授業概要】小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【Key Word】
年の言い方　数の数え方
【教科書ページ・参考文献】
P22～P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、小テストで間違えたところを中心に、再度テストをしますので、よく今回の小テストを見直してください。

第１４回　第５課　現在几点？（いま何時）

【授業概要】
講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。
【Key Word】
時間
【教科書ページ・参考文献】
P26～P29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。この回以降も、基本的に一人で発音の予習はしないでください。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。

第１５回　前期総復習

【授業概要】

	前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。 【Key Word】 総復習　発音　併音の綴り方 【教科書ページ・参考文献】 P3～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、１９９０年２月
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	２単位（１５）	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。 ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。 【到達目標】 ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定４級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１） 【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。 【Key Word】 家属　几 【教科書ページ・参考文献】 P30・P31 【課題・予習・復習・授業準備】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
	第２回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２） 【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 動詞“有” 【教科書ページ・参考文献】 P30～P33 【課題・予習・復習・授業準備】 P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
	第３回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１） 【授業概要】 所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。 【Key Word】

		動詞“在”所在・在所を表す 【教科書ページ・参考文献】 P34・P35 【課題・予習・復習・授業準備】 P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
	第４回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２） 【授業概要】 動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 連動文 【教科書ページ・参考文献】 P34～P37 【課題・予習・復習・授業準備】 P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
	第５回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１） 【授業概要】 この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。 【Key Word】 100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文） 【教科書ページ・参考文献】 P38・P39 【課題・予習・復習・授業準備】 P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
	第６回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２） 【授業概要】 電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 电话 番号として言うときの“一”の発音 【教科書ページ・参考文献】 P38～P41 【課題・予習・復習・授業準備】 p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
	第７回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１） 【授業概要】 中国語の基本構文はＳ+Ｖ+Ｏ（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。 【Key Word】 Ｓ+Ｖ+Ｏ　喜欢 【教科書ページ・参考文献】 P42・P43 【課題・予習・復習・授業準備】 P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
	第８回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２） 【授業概要】 “喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 喜欢　動詞 【教科書ページ・参考文献】 P42～P45 【課題・予習・復習・授業準備】 p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
	第９回	第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１） 【授業概要】 形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。 【Key Word】 副詞　很 真 【教科書ページ・参考文献】 P46・P47 【課題・予習・復習・授業準備】 P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
	第１０回	第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２） 【授業概要】 主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 主述述語文　吧 【教科書ページ・参考文献】

	P46～P47 【課題・予習・復習・授業準備】 p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 第１１回　第11課　 您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１） 【授業概要】 助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。 【Key Word】 助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください） 【教科書ページ・参考文献】 P50・P51 【課題・予習・復習・授業準備】 P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 第１２回　第11課　 您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２） 【授業概要】 お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 金額の数え方 【教科書ページ・参考文献】 P50～P53 【課題・予習・復習・授業準備】 p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 第１３回　第12課　 你打羽毛球打得很好！ 【授業概要】 様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。 【Key Word】 様態補語　得 【教科書ページ・参考文献】 P54・P55 【課題・予習・復習・授業準備】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 第１４回　第12課　 你打羽毛球打得很好！ 【授業概要】 助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【Key Word】 助動詞　会 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備】 p57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 第１５回　ドリル　総復習中国語のまとめ 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【Key Word】 復習　外国語を学ぶ意義 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します）
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂他「why？にこたえる　はじめての　中国語の文法書新訂版』同学社、２０１６年１１月　倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、１９７３年１月
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　経済学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 【到達目標】 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。
	第２回	貧困 【key words】 相対的貧困、イギリス 【授業概要】 貧困の種類と福祉施策の歴史について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民生活基礎調査」（厚生労働省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相対的貧困について調べる。
	第３回	社会保障と経済 【key words】 医療保険制度、アメリカ 【授業概要】 福祉施策と経済学との関わりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「社会保障」（中央法規） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アメリカの医療保険制度について調べる。
	第４回	経済学とジェンダー 【key words】 ジェンダー 【授業概要】 ジェンダーと経済学との関わりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】

4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ノーベル平和賞受賞者について調べる。

第５回　格差
【key words】
ジニ係数
【授業概要】
ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「格差と成長」（OECD）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジニ係数の統計数値を確認する。

第６回　GDP
【key words】
ＧＤＰ、三面等価の原則
【授業概要】
ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
「国民経済計算」（内閣府）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。

第７回　幸福の経済学
【key words】
幸福、相対所得仮説
【授業概要】
相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幸福感に関係する統計を確認する。

第８回　ストック経済学
【key words】
株価
【授業概要】
株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の株価を新聞で確認する。

第９回　経済成長
【key words】
ソロー、労働、資本、技術進歩
【授業概要】
新古典派の経済成長理論について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
経済成長率の統計を確認する。

第１０回　教育の経済学
【key words】
認知能力、非認知能力
【授業概要】
認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
認知能力、非認知能力について調べる。

第１１回　福祉と経済学
【key words】
福祉教育
【授業概要】
福祉と経済学との関わりについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治・大正時代の日本の経済状況について調べる。

第１２回　国際収支
【key words】
国際収支表
【授業概要】
国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
国際収支表の統計を確認する。

第１３回　国際金融
【key words】

	為替レート 【授業概要】 為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 為替レートの統計数字を確認する。 第１４回　金融 【key words】 貨幣ストック、金利、貨幣需要 【授業概要】 貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 金融に関係する統計数値を確認する。 第１５回　経済学と日本経済 【key words】 経済理論 【授業概要】 経済理論と経済現象の関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞を読む。
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（80%）と授業中の課題（20%）によって評価
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　チームケア入門Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり 方を修得する」 目的：事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 ［到達目標］ 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs)は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同とケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。 保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　・授業オリエンテーション ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割 第２回　・事例展開に関する調べ学習 第３回　・事例展開に関する調べ学習 ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）。 第４回　事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議（3学部小グループ）・報告準備。 第５回　事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議（3学部小グループ）・報告準備。

	第６回　明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。 第７回　明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。・体験者によるIPWの講義 第８回　事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができる。 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	別途指示をする。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.　2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　現代社会と福祉　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	必修
担当教員			
川島　良雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解する 【到達目標】 ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる ・福祉政策の構成要素について説明できる ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる
授業の概要	現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。 これに対して、社会的に緩和や解決を図るために社会福祉が存在している。 この社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目のオリエンテーション、社会福祉の新たな展開と福祉政策理解の枠組み
	第２回	社会福祉の歴史　①社会福祉の前史と福祉国家の成立
	第３回	社会福祉の歴史　②福祉国家の変容・現代社会の変化と福祉
	第４回	社会福祉の概念
	第５回	社会福祉の拡大と限定
	第６回	福祉政策の展開と社会福祉士
	第７回	福祉の思想と哲学
	第８回	社会政策と福祉政策・社会福祉政策
	第９回	福祉政策の体系
	第１０回	福祉政策の発展過程　①近代社会と福祉政策
	第１１回	福祉政策の発展過程　②高度経済成長期の福祉政策
	第１２回	少子高齢化時代の福祉政策　①福祉政策の調整と進展
	第１３回	少子高齢化時代の福祉政策　②1990年代以降の福祉政策
	第１４回	福祉政策における必要と資源

	第１５回　　中間まとめ～福祉とは何か？考えてみよう～ 第１６回　　福祉政策の理念 第１７回　　福祉政策資源の配分システム 第１８回　　福祉政策の関連領域　①人権擁護と福祉政策 第１９回　　福祉政策の関連領域　②保健医療と福祉政策 第２０回　　福祉政策の関連領域　③所得保障・雇用と福祉政策 第２１回　　福祉政策の関連領域　④教育と福祉政策 第２２回　　社会福祉制度の体系　①社会福祉制度の構造 第２３回　　社会福祉制度の体系　②社会福祉制度と福祉サービス 第２４回　　福祉サービスの提供 第２５回　　福祉サービスと援助活動 第２６回　　福祉政策の国際比較　①欧米型の福祉政策 第２７回　　福祉政策の国際比較　②東アジア諸国の福祉政策 第２８回　　福祉政策の課題と展望 第２９回　　包摂的福祉政策への展開 第３０回　　１年間のまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。 ・授業シラバスを必ず確認しておくこと。 ・授業の予習・復習は、必ず行い、積極的な態度で授業に臨むこと。 ・授業は、パワーポイントを使って行います。パワーポイントのスライドの内容、テキス、講義内容を基にノートを作成すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	・テキストをしっかり予習しましょう。 ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。
オフィスアワー	・授業終了後の30分間
評価方法	・中間の小ﾚﾎﾟｰﾄ　　40％ ・筆記試験　　60％
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版　2014
参考書	必要に応じて適宜指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　障害者に対する支援と障害者自立支援制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。 【到達目標】 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。 ②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。 ③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。
授業の概要	この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。 　障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズにそったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。	◎	○		
②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。	◎	○		
③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。			◎	○
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等） 【key words】 オリエンテーション／講義の進め方 【授業概要】 ①シラバスの確認 ②履修上の注意 ③コメントカードについて ④定期試験について ⑤教科書について ⑥予習・復習について

【教科書ページ・参考文献】
シラバス

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。

第２回　障害の概念と理念

【key words】
障害の概念／ICF／統合モデル

【授業概要】
①障害の概念と理念
②障害者の人権保障と福祉の理念

【教科書ページ・参考文献】
教科書p26～p30／p2～p14

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
※小テスト実施予定

第３回　障害者の生活実態とニーズ

【key words】
障害者人口の現状／手帳取得状況／生活実態・ニーズ／基本指針

【授業概要】
①障害者人口からみた課題
②障害種別にみる定義と生活実態・ニーズ
③課題に対する国の考え方

【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p25

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。　次回からは小六法を使用するので持参すること。
※小テスト実施予定

第４回　障害者福祉制度の発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）

【key words】
国連・障害者権利条約／国際障害者年／障害者権利条約／日本の障害者施策の歴史

【授業概要】
①国連・障害者権利条約
②日本における障害者福祉のあゆみ

【教科書ページ・参考文献】
教科書p2～p14

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、条約や法律は小六法を再度見ておくこと。
※小テスト実施予定

第５回　障害者福祉の法（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法）

【key words】
障害者基本法／身体障害者福祉法／知的障害者福祉法／精神保健福祉法

【授業概要】
①障害者基本法と障害者福祉の法体系
②対象別の法

【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89

【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、法律は小六法を再度見ておくこと。

第６回　障害者福祉の法（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消推進法、その他）

【key words】
発達障害者支援法／児童福祉法／子ども・子育て支援法／医療観察法／難病法／障害者虐待防止法

【授業概要】
①対象別の法
②差別の禁止、差別是正措置の法

【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。

		本日確認した、条約や法律は小六法を再度見ておくこと。障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレットを熟読すること。（全国社会福祉協議会） ※小テスト実施予定
	第７回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　経緯・理念・考え方） 【key words】 障害者総合支援法の経緯・理念・考え方 【授業概要】 ①障害者総合支援法までの経緯 ②障害者総合支援法の概要 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。
	第８回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　サービス内容・支給決定のプロセス） 【key words】 介護給付の種類／訓練等給付の種類／障害福祉サービスの支給決定／障害支援区分／利用者負担 【授業概要】 ①介護給付と訓練等給付 ②障害福祉サービスの支給決定、障害支援区分、利用者負担 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 サービス内容・支給決定のプロセスは覚えよう。
	第９回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　自立支援医療・審査請求） 【key words】 自立支援医療／補装具／相談支援／地域生活支援事業／苦情解決／審査請求／他法との適用関係 【授業概要】 ①自立支援医療 ②補装具 ③相談支援 ④地域生活支援事業 ⑤苦情解決と審査請求 ⑥障害者総合支援法と他法との適用関係 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定
	第１０回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む） 【key words】 障害者の就労実態／障害者雇用促進法／障害者優先調達推進法／ハローワーク等における支援／障害者職業センター／学校卒業後の進路保障 【授業概要】 ①障害者の就労実態 ②労働保障の制度 ③福祉と労働の統一的保障 【教科書ページ・参考文献】 教科書p187～p192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定
	第１１回	障害者の社会生活参加 【key words】 障害基礎年金／障害厚生年金／特別障害給付金／特別児童扶養手当法／特別児童扶養手当／障害児福祉手当／特別障害者手当／経過的福祉手当／労働者災害補償保険法／生活保護法／税制による負担軽減措置／各種の負担軽減措置 【授業概要】 ①障害者の低所得性と所得保障の課題 ②所得保障、経済的負担軽減の制度 【教科書ページ・参考文献】 教科書p76～p89 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 第１２回　障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 障害者の社会参加実態とニーズ／国連・障害者権利条約における社会参加の理念／障害者の社会参加における制度上の課題／情報アクセシビリティ／ユニバーサルデザイン／差別禁止と偏見／バリアフリー／バリアフリー新法 【授業概要】 ①障害者の社会参加実態とニーズ ②市民の障害理解と差別・偏見の実態とニーズ ③バリアフリー環境の整備 【教科書ページ・参考文献】 レジュメ　参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 第１３回　障害児の福祉サービス 【key words】 障害児支援／児童の権利に関する条約／障害者の権利に関する条約／母子保健法／障害児の福祉サービス／障害児福祉計画／児童福祉法／特別支援教育 【授業概要】 ①子ども期の特徴と障害児支援 ②2つの権利条約と障害児支援 ③障害の早期発見と早期対応 ④障害児の福祉サービス 【教科書ページ・参考文献】 教科書p154～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 第１４回　障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 障害者参加／障害福祉サービス利用における国、事業者の責務／障害者運動／生活のしづらさなどに関する調査／国・地方公共団体の役割／障害者基本計画／障害福祉計画 【授業概要】 ①障害者・関係団体の法参加、整備計画参加 ②障害者総合支援法等の国・自治体の役割と障害者参加 ③障害者基本法の障害者計画と障害者総合支援法の障害福祉計画 【教科書ページ・参考文献】 教科書p138～p139／p170～p182 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 第１５回　専門職の役割と実際（相談支援事業所の内容を含む）／多職種連携とネットワーキング 【key words】 職員配置／相談支援専門員／サービス管理責任者／サービス提供責任者／多職種連携／ネットワーク／チームアプローチ 【授業概要】 ①障害者福祉における実践 ②障害者支援に関わる専門職の役割 ③障害者福祉における国家資格とその社会的役割 【教科書ページ・参考文献】 p200～p253 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。定期試験に向けてしっかりレジュメを見ること。 ※小テスト実施予定
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。 授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則、友達等にプリントをもらってもらうこと。 単元の終わりに小テストを実施する。
毎回の授業に関する	コメントカード（web）

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。
オフィスアワー	火曜　10時～12時／金曜日　10時30分～12時　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、リアクションペーパー30%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　「新･社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規（最新版）
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　（株）みらい（最新版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	４単位(60)	必修
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童福祉の現状と課題を理解し、支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、社会福祉業務に必要な知識等を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。 ②社会福祉士や児童指導員等有資格者として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。
授業の概要	教科書により、前期は、子育ての現状と課題、次世代育成支援策、児童福祉ニーズ、権利保障、児童福祉の法体系、等について講義を行う。 後期は、障害児、児童の健全育成、子育て支援、社会的養護児童、非行児童、被虐待児等の現状支援策について講義を行う

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション ＜key words＞ 授業の受け方 ＜授業概要＞ 授業の受け方、予習復習、評価の方法などを説明 ＜教科書＞ 目次 第２回　少子高齢化社会と次世代育成支援 ＜key words＞ 少子化、次世代への課題 ＜授業概要＞ 現代までの社会状況を踏まえて、次の社会への課題や解決案を考える。 ＜教科書＞ 第３回　現代社会と子ども家庭の問題 ＜key words＞ 子育て、養育力、発達、子育て支援 ＜授業概要＞ 現代社会の子育て支援の必要性について考える。 ＜教科書＞ ３４－５５ 第４回　子どもの育ち、子育てニーズ ＜key words＞ 「子ども家庭福祉」、福祉的ニーズ ＜授業概要＞ 「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変遷とニーズの変化を学ぶ ＜教科書＞ ４７－５５ 第５回　子どものための福祉の原理・子ども家庭福祉の理念 ＜key words＞ 「子ども」とは ＜授業概要＞

「子ども」について多視点で学ぶ。
＜教科書＞
６－１０

第６回　子ども家庭の権利保障
＜key words＞
権利擁護、第三者評価
＜授業概要＞
子育て支援、養育支援の中での権利擁護について知る
＜教科書＞
１１６－１２３

第７回　児童福祉の発展１
＜key words＞
子ども家庭福祉の歴史
＜授業概要＞
歴史的視点で、児童福祉を理解する
＜教科書＞
１９－３３

第８回　児童福祉の発展２
同上

第９回　子ども家庭福祉の法体系
＜key words＞
法の理解
＜授業概要＞
児童福祉法及びその関連法について、概要を知る。
＜教科書＞
５６－８３

第１０回　子ども家庭福祉の実施体制１
＜key words＞
行政機関、児童福祉施設
＜授業概要＞
児童福祉の実施機関とそこにいる専門職の役割を知る
＜教科書＞
８４－９９

第１１回　子ども家庭福祉の実施体制２
同上

第１２回　子ども家庭福祉の財政
＜key words＞
福祉の財源
＜授業概要＞
児童福祉の財源（国、都道府県、市町村）の仕組みを知る
＜教科書＞
１００－１０４

第１３回　子ども家庭福祉の専門職
＜key words＞
専門職、任用条件
＜授業概要＞
児童福祉領域の専門職とその任用条件を知る。
＜教科書＞
１０５－１１５

第１４回　苦情解決と権利擁護
＜key words＞
権利擁護、苦情解決、第三者評価
＜授業概要＞
権利ノート等子どもの権利擁護について学ぶ
＜教科書＞
１１６－１２３

第１５回　母子保健
＜key words＞
母子保健の児童福祉で果たす役割
＜授業概要＞
母子保健が児童福祉領域で果たす役割について知る
＜教科書＞
１２７－１３９

第１６回　障害・難病のある子どもと家族への支援１
＜key words＞
障害児、病児
＜授業概要＞
障害児や難病児、病児に係る児童福祉の役割を概観する
＜教科書＞
１４０－１５５

第１７回　障害・難病のある子どもと家族への支援２
同上

第１８回　児童健全育成
＜key words＞
健全育成
＜授業概要＞
児童福祉における児童健全育成の動向と施策を学ぶ。
＜教科書＞

	１５６－１６４ 第１９回　保育１ ＜key words＞ 保育 ＜授業概要＞ 保育制度の概要と保育士の専門性及び役割について学ぶ ＜教科書＞ １６５－１７３ 第２０回　保育２ 同上 第２１回　子育て支援 ＜key words＞ 地域子育て支援 ＜授業概要＞ 地域子育て支援の意味と支援事業について学ぶ ＜教科書＞ １８４－１９４ 第２２回　ひとり親家庭の福祉１ ＜key words＞ 片親家庭、貧困 ＜授業概要＞ 一人親家庭に対する理解と法的支援について、社会状況に合わせて学ぶ ＜教科書＞ １９５－２０５ 第２３回　ひとり親家庭の福祉２ 同上 第２４回　児童の社会的養護１ ＜key words＞ 社会的養護、社会的養育、要保護児童 ＜授業概要＞ 社会的養護から社会的養育への変遷を子どもの発達という視点で概観する ＜教科書＞ ２０７－２３０ 第２５回　児童の社会的養護２ 同上 第２６回　非行児童・情緒障害児への支援１ ＜key words＞ 非行、情緒障害、発達障害 ＜授業概要＞ 非行、情緒障害、発達障害について、児童福祉的対応を概観する。 ＜教科書＞ ２３１－２４３ 第２７回　非行児童・情緒障害児への支援２ 同上 第２８回　児童虐待対策 ＜key words＞ 児童虐待 ＜授業概要＞ 児童虐待について、その予防、発見、防止、援助をおのおの学ぶ。 ＜教科書＞ ２４４－２６０ 第２９回　子ども家庭への援助活動 ＜key words＞ 施設ケア、連携、協働 ＜授業概要＞ 子ども家庭福祉のソーシャルワークの基本と施設ケアの基本を知る ＜教科書＞ 第３０回　まとめ まとめ 質疑応答
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業内容を基盤にして、自己学習につなげていくこと ・その他、授業のなかで伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	新・社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」　中央法規出版
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務経験のある教員による授業科目/ア	授業担当教員

クティブ・ラーニング	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、児童福祉司、SV、言語聴覚士等） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談援助の理論と方法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1)クライエントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2)社会福祉士が認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。3)クライエント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4)ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライエント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べることができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1)相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3)実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。 (16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライエントへの接近について解説を追加し、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3)連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①クライエントとその社会生活環境の関係性の何に対してソーシャルワーカーが関わりをもつのかを説明できる。 ②ソーシャルワーカーが認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。	◎	◎	◎	◎
③クライエントーソーシャルワーカー間援助関係の構造形成とその質について説明できる。 ④ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を、経時的に述べることができる。	◎	◎	◎	◎
⑤相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。	◎	○	○	○
⑥クライエントーソーシャルワーカー間の根底にある「契	◎	○	○	○

約」「介入」「面接」の特性を説明できる。				
⑦相談援助活動におけるアセスメントとモニタリングの着目項を具体的に述べることができる。	◎	○	◎	○
⑧相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。	◎	○	◎	◎
授業計画	第１回　科目オリエンテーション　現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士 【key words】 福祉ニーズ　ウェルビーイング　QOL　クライエント　ソーシャルワーカー 【授業概要】 クライエントという人とその社会生活という環境の双方とその相互関係に関わりをもつことになる、ソーシャルワーカーとソーシャルワークの全体像・構成要素を概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－25。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントを支援するためにソーシャルワーカーが自分自身をどのように準備しておくのかを理解しましょう。 第２回　クライエント-環境-社会資源-社会福祉士 【key words】 相互作用過程/関係　ストレングス/エンパワメント　介入　社会資源活用　ソーシャルワーカーの役割/機能 【授業概要】 社会生活上の問題から導き出されるクライエントのニーズの階層性と、それに対応するソーシャルワーカーの役割・機能を整理します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp27－51。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 その場面や課題に応じて担うソーシャルワーカーの役割・機能は複合的です。クライエントの生活全体を見すえる観点を理解しましょう。 第３回　人と環境の相互作用をシステムとして理解する 【key words】 システム理論　相互作用　援助関係 【授業概要】 人の生活の全体を理解する際に有用なシステム論の考え方を学び、関係要因が相互作用する中でソーシャルワーカーがクライエントと援助関係を形成する意義にふれます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp53－77。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 システム論モデルについては抽象的な印象をもつかもしれませんが、本来多面的な社会生活をありのまま理解していくのに重要な視点群を用意してくれます。 第４回　相談援助の構造 【key words】 援助関係　援助構造　よい関係　自己覚知 【授業概要】 相談援助を進めるのにあたって、ソーシャルワーカーがクライエントにとってどのような位置関係にいる必要があるのか、について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp78－90。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントへ関わることと同時並行してソーシャルワーカーが自分自身を観察する意識を養いましょう。 第５回　相談援助の展開過程 1　ケース発見 【key words】 相談援助の過程　相談援助の構造　ケース発見　ラポール形成　不安の除去 【授業概要】 相談援助の展開過程について、その目的と対象を整理し、各段階の概要とそれを支える基本概念を理解します。それをふまえて、クライエントをケースとして見出す際の留意点を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp91－102。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ソーシャルワーカーとの出会いの段階でクライエントがもっている心理社会的特性を理解しましょう。			

	第６回	相談援助の展開過程 2　受理面接 【key words】 主訴　傾聴　個別化　問題の要点　緊急度 【授業概要】 クライエントの主訴を理解し、ソーシャルワーカーが具体的に担える役割・機能を提示し、支援契約を結ぶ確認をする段階の意義を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp103－107。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 主訴をより理解するためには、人－環境に関する情報が必須で、次回のテーマとなります。
	第７回	相談援助の展開過程 3　問題の把握とニーズの確定 【key words】 ニーズ確定　人と環境の相互作用　アセスメント 【授業概要】 主訴を分析して問題の本質を理解し、具体的な支援のテーマであるニーズとして確認していくステップをたどります。その際、クライエントの現状を評価・把握する際に必須となる、人－環境に関する情報を多次元的に整理することも学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp108－117。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人－環境に関する情報群を分析的かつ総合的に整理し、クライエントの全体像を理解する視点を理解しましょう。
	第８回	相談援助の展開過程 4　評価から目標設定へ 【key words】 評価結果　目標設定　ニーズ　実現性　リスクの把握 【授業概要】 クライエントの生活問題の何をどのように判断して、支援の目標を設定するのかを具体的に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp118－126。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現時点で あるいは 今後 予測されるリスクについての意識と管理も、同時に考えていくことになります。
	第９回	相談援助の展開過程 5　支援計画の立案と実施 【key words】 援助計画　介護計画　ソーシャルワーク理論　支援チーム　ケース会議 【授業概要】 クライエントと生活問題の双方を全体的に理解する多視点＝多様な理論的視野の概要を理解し、明確化された目標に向けての援助計画の立案と介護計画の検討について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp123－130。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会資源の単なる提供ではなく、クライエントおよび家族の能力の活用を促す支援の具体化が基本です。
	第１０回	相談援助の展開過程 6　経過観察 【key words】 経過観察（モニタリング）　生活課題への取組状況の把握　新しい問題　状況の変化　記録 【授業概要】 計画にもとづく支援の提供が実際「的確に」進んでいるかを把握し、必要に応じて支援の修正などへつなげていく、経過観察（モニタリング）の内容を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp131－135。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支援に伴われた生活の開始時点は、クライエントが戸惑いを覚えやすい時期でもあります。その心理社会的状態を理解しましょう。
	第１１回	相談援助の展開過程 7　再評価 【key words】 再評価（再アセスメント）　支援の見直し　支援の強化　生活の継続　潜在的ニーズ 【授業概要】 経過観察よって確認されたクライエントの状況変化や新たなニーズについて、再度評価し、支援計画の調整を図ることを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp136－139。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支援開始後に、よりきめ細やかな問題対応などが具体化してくる場合があります。支援の修正や

目標の再設定は、クライエントの生活の継続性を支持するものです。

第１２回　相談援助の展開過程 8　支援終結
【key words】
支援の終結　分離不安　依存　自立

【授業概要】
支援は永久に続くものではなく、クライエントの自立性が確認されて一段落するものであることを理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp140－142。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

後任者に引き継ぐような場合も、ひとつの終結といえます。その準備についても、この機会に具体的に考えてみましょう。

第１３回　相談援助の展開過程 9　支援の効果測定
【key words】
支援計画の妥当性　支援の効果性　評価　アカウンタビリティ　エビデンス・ベースド・プラクティス
【授業概要】
支援の終結にあわせて行なう、計画の的確性、支援の効果性、クライエントが築いてきた力 の評価をすることについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp141－144。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援の過程を振り返るためには、記録を適切に残していくことが必須です。

第１４回　相談援助の展開過程10　地域支援
【key words】
地域ニーズ　地域資源の課題　予防的対応　サービス開発

【授業概要】
複数の個別的支援によって集約しうる地域ニーズを把握するとともに、問題の深刻化を回避するための予防的視点やサービス開発のためのソーシャルアクションを学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp144－148。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

個別的支援とともに地域社会へ目を向けることの意義を理解しましょう。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方学び始めました。十分に復習をして、Ｉ後期ひいては次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。

第１６回　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助の過程を実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　地域福祉とアウトリーチ
【key words】
アウトリーチ　インボランタリー・クライエント　社会的不適応　ケース発見　ニーズの掘り起こし
【授業概要】
アウトリーチを必要としている人たち、アウトリーチの機能と方法、アウトリーチを実践する際の留意点について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ149－159。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アウトリーチは、ソーシャルワーク実践上、来談対応と対をなす重要なクライエント接近方法です。

第１８回　相談援助活動における契約
【key words】
契約　合意形成　対等関係　目標設定　支援方法　目標達成

【授業概要】
相談援助過程の基本原則である クライエントとソーシャルワーカー間の各種合意とその総体の契約について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ161－173。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援においては、クライエントとの対等性やクライエントの自己決定を実現することが中核であり、そのために契約は重要な基盤です。

第１９回　相談援助活動におけるアセスメント 1　問題の多面的統合的とらえ方
【key words】
アセスメント特性　援助関係　バイステックの7原則　自己覚知　面接における言語反応

【授業概要】
ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性を理解し、クライエントがかかえた問題を多面的統合的にとらえるための面接構成の方法や援助関係の形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp175－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接では、基本的な知識、観察力、感受性、コミュニケーション力が実践的に求められてきます。特に、ソーシャルワーカーのクライエントに向けた言語反応は、具体的に理解して下さい。

第２０回　相談援助活動におけるアセスメント 2　得るべき情報項目と情報理解のための視覚化の手法
【key words】
統合的アセスメント　守秘義務　共感性と想像力　情報の分析と統合　エコマップ　ジェノグラム
【授業概要】
渡部（1999）をよりどころに、ジェネラリストソーシャルワーカーにおける統合的アセスメントの着目点16項目を学び、得られた情報群を視覚的に整理する方法を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－194。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントをとりまくさまざまな環境がかかわって問題がつくり出されることが多いので、背景情報の関係性をどのように整理するかについて注目しましょう。

第２１回　相談援助活動におけるアセスメント 3　得た情報の整理と活用
【key words】
情報の組織化　情報の関連性　情報の解釈と類推　情報の要約　ライフサイクル論

【授業概要】
アセスメント面接で得た情報を統合化し支援に利用するために必要な知識、想像力、分析・解析力、統合・要約についてまとめます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp195－198。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アセスメント力を高めるためには、ひとと社会を理解する目的のさまざまな分野の知見を学んでいく必要があります。ソーシャルワーカーとしての自己研鑽を意識しましょう。

第２２回　支援介入の意義と方法
【key words】
全体論的認識　直接的介入　間接的介入　介入の戦略　クリティカル・シンカー

【授業概要】
ミクロからマクロに至る広範囲なレベルにおけるソーシャルワーク介入の意義とその方法について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp199－215。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援介入を適切に行なうために、エビデンス・ベースドの考え方を十分理解しましょう。

第２３回　経過観察（モニタリング） 1 対象　方法・手順
【key words】
インプリメンテーション　モニタリング　対象者の明確化　モニタリングのスケジュールと手続き
【授業概要】
支援計画の実施（インプリメンテーション）に付帯する支援進捗の観察（モニタリング）の意義と具体的な手続きを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－226。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援目標に向かって、関係支援者間でのリアルタイムな情報共有や役割修正・強化を図る主旨・根拠を理解しましょう。

第２４回　経過観察（モニタリング） 2 状況分析から再アセスメントへ
【key words】
進捗状況の把握　ソーシャルワーカーの態度　クライエントの問題解決能力　再アセスメント
支援計画の修正
【授業概要】
モニタリングによって把握した多面的な情報の再統合とそれにもとづく支援計画の的確な修正について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp226－232。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

モニタリングの結果は、短期目標ごとに時系列的にまとめていくことが、多岐にわたる問題の整理につながります。

第２５回　相談援助活動の効果性の検証
【key words】
効果測定　実験計画法　プロセス評価　アウトカム評価　サービス開発

【授業概要】
支援実行が支援目標にかかわってどのように有効であったかを検証し、社会資源提供とニーズ充足の因果関係について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp233－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの人権がかかわるために、全て数理科学的に効果測定が実施できるわけではないですが、支援活動の根拠をもとうとすることは重要です。

第２６回　相談援助活動における面接
【key words】
面接の目的　焦点づけ・方向づけ　関与しながら待つ　構造化面接　非構造化面接

【授業概要】
支援の中核である面接の構造的特性を理解し、そこでのコミュニケーション展開について留意点をまとめます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp243－262。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

何のための面接か、今日のこの面接は次の何につながるのか、支援全体におけるその面接の意味をよく理解しましょう。

第２７回　記録をすること 1　意義と目的および種類
【key words】
記録業務　記録の活用目的　記録の種類

【授業概要】
最も基本となるケース記録・面接記録だけでなく、カンファレンス資料を含め、ケースワークに付帯して多様な記録業務がある認識と、記録は活用されて意味をもつという考え方を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp263－277。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

目にするかもしれない他者を意識して、適切な情報内容や表現で都度記載することが重要です。

第２８回　記録をすること 2　記録業務のIT化と倫理的配慮
【key words】
記録の形式　記録のIT化　個人情報の保護　個人情報の利用・共有　倫理

【授業概要】
記録の形式について概観した後、記録のIT化にともなってより一層注意を払うべき個人情報の保護と利用にかかる倫理を学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp278－287。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの個人情報を十分保護するとともに、関係支援者とその個人情報を共有することは、一件相反しますが、倫理観を持って工夫を考えることにより、支援に結びつけることができます。

第２９回　交渉と支援チーム連携
【key words】
多様で複雑な問題　多職種支援チーム　交渉・調整　エンパワメント　プレゼンテーション

【授業概要】
支援にかかわる多職種混成チームの連携のあり方と、クライエントの多様なニーズに呼応する支援を目的とした交渉の技術について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp289－309。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接も交渉も目的的なコミュニケーションの技術が必要です。支援チームが機能するためにも、チームメンバーが相互理解を意識し、意見交流を図らなければなりません。

	第３０回　　相談援助の理論と方法Ⅰのまとめ 【key words】 ― 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、次年度Ⅱへの接続を図ります。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を1年間学びました。十分に復習をして、次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅰ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理統計学(心理学統計法)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
河内　和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義は，心理学データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的とする． 【到達目標】 単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく，人の精神活動や行動に関する情報を統計学的根拠に則して読みとくことができる．
授業の概要	授業は講義形式での説明のほか，模擬データを配布して実際に統計処理を行い，その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める．

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　心理学研究の基礎としての統計学
【key words】
心理学，統計学
【授業概要】
心理統計学の授業を始めるにあたり，心理学研究の基礎としての統計学のあり方を解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第1章Pp.1-9.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２回　統計学の初歩Ⅰ　「統計をとる」ことの意義
【key words】
統計，統計学
【授業概要】
「統計をとる」ことの意義について，測定，記述統計，推測統計の概要にふれながら解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第2章Pp.10-12.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第３回　統計学の初歩Ⅱ　変数と尺度，シグマ(Σ)記号の意味
【key words】
変数，尺度，シグマ記号
【授業概要】
統計学の基礎概念である変数や尺度，シグマ記号について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3章Pp.13-16．第1章Pp.1-9.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
変数と尺度の対応関係について理解する．

第４回　度数分布Ⅰ　質的変数の度数分布
【key words】
度数，度数分布，質的変数
【授業概要】
度数の概念，質的変数の度数分布表について解説する．

【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章Pp.17-26.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：度数と相対度数の関係，グラフの使い分けについて理解する.

第５回　度数分布Ⅱ　量的変数の度数分布
【key words】
度数，度数分布，量的変数
【授業概要】
量的変数の度数分布について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章Pp.17-26.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「平均に関する課題レポート」の出題．復習：階級数の決定法について理解する.

第６回　基本統計量Ⅰ　代表値(平均値，中央値，最頻値)
【key words】
代表値
【授業概要】
データ分布の代表値として，平均値，中央値，最頻値について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章Pp.27-36.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：代表値の使い分けについて理解する.

第７回　基本統計量Ⅱ　散布度(分散，標準偏差)
【key words】
分散，標準偏差
【授業概要】
データ分布の散布度(散らばりの指標)として，分散，標準偏差について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第6章Pp.37-44.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：データ分布における「分散」の概念について理解する.

第８回　基本統計量Ⅲ　分布型(歪度，尖度，正規性)
【key words】
歪度，尖度，正規性
【授業概要】
データ分布の分布型として，歪度，尖度，正規性について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第7章第3節Pp.49-53.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：分布の正規性と情報判断の関係について理解する.

第９回　基本統計量Ⅳ　標準正規分布の使い方
【key words】
正規分布，標準正規分布
【授業概要】
標準正規分布表の使い方について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第7章第3節Pp.49-53.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「関連に関する課題レポート」の出題.

第１０回　相関と回帰Ⅰ　散布図，相関関係の理解
【key words】
散布図，相関関係
【授業概要】
2変量間の関係の図式と把握の仕方について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第8章Pp.61-83.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１１回　相関と回帰Ⅱ　ピアソンの積率相関係数
【key words】
相関係数
【授業概要】
ピアソンの積率相関係数について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第8章Pp.61-83.(特にPp.67-71.)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：係数の絶対値と相関の強さについて理解する．負の相関係数について理解する.

第１２回　相関と回帰Ⅲ　相関行列，多変数間の相関分析
【key words】
相関行列
【授業概要】

相関行列，多変数間の相関分析について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
授業内の配布資料を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：相関行列の見方について理解する．

第１３回　相関と回帰Ⅳ　回帰分析
【key words】
回帰分析
【授業概要】
単回帰分析について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
授業内の配布資料を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１４回　相関と回帰Ⅴ　回帰分析の応用(重回帰分析)
【key words】
重回帰分析
【授業概要】
社会福祉士国家試験対策も兼ねて重回帰分析の考え方について解説する．

【教科書ページ・参考文献】
教科書第9章Pp. 90-94.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：説明変数と目的変数の関係について理解する．

第１５回　前期の総括
【key words】
記述統計
【授業概要】
前期の総括として，記述統計のまとめを行い，前期定期試験への勉強法について解説する．

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

試験勉強をきちんと行う．
第１６回　統計的検定Ⅰ　母集団と標本
【key words】
母集団，標本，推測統計
【授業概要】
母集団と標本の関係を中心に推測統計の概要を解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第10章第1節Pp. 104-108.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：全数調査と標本調査の違いについて推測統計の視点から理解する．

第１７回　統計的検定Ⅱ　統計的検定の考え方
【key words】
統計的検定
【授業概要】
統計的検定の考え方について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第10章第3節Pp. 110-115.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：有意確率(P値)の見方について理解する．

第１８回　カイ2乗検定Ⅰ　ピアソンの適合度の検定
【key words】
適合度の検定
【授業概要】
ピアソンの適合度の検定について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１９回　カイ2乗検定Ⅱ　ピアソンの独立性の検定
【key words】
独立性の検定
【授業概要】
ピアソンの独立性の検定について解説する．
【教科書ページ・参考文献】
教科書第13章第1節Pp. 171-175.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２０回　t検定Ⅰ　対応のある標本の平均値の差の検定
【key words】

対応のある標本
【授業概要】
対応のある標本の平均値の差の検定について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第11章第2節Pp.126-128.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：標本の「対応」について理解する.

第２１回　t検定Ⅱ　独立2標本の平均値の差の検定
【key words】
独立2標本
【授業概要】
独立2標本の平均値の差の検定について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第11章第1節Pp.119-126.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：対応のある標本と独立2標本の違いについて理解する.

第２２回　t検定Ⅲ　ウェルチの方法による平均値の差の検定
【key words】
等分散性
【授業概要】
等分散性の仮定が満たされない独立2標本の平均値の差の検定について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第11章第1節Pp.119-126.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：分散，等分散性について理解する.

第２３回　分散分析Ⅰ　分散分析の考え方
【key words】
分散分析
【授業概要】
分散分析の考え方について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第12章第1節Pp.133-141.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２４回　分散分析Ⅱ　一元配置の分散分析
【key words】
一元配置
【授業概要】
一元配置の分散分析について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第12章第1節Pp.133-141.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２５回　分散分析Ⅲ　多重比較検定
【key words】
多重比較
【授業概要】
分散分析後の多重比較検定について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第12章第1節Pp.133-141.(特にPp.139-141.)
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２６回　その他の検定　中央値の検定　ほか
【key words】
中央値の検定
【授業概要】
ノンパラメトリック検定について代表的なものを紹介する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第13章第4節，第5節Pp.185-193.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２７回　統計的検定をめぐる諸問題　その限界と適用上の留意点
【key words】
検定の限界
【授業概要】
統計的検定の問題点や適用上の留意点について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２８回　多変量解析の概説Ⅰ　因子分析
多変量解析の概説Ⅰ
【key words】

	因子分析 【授業概要】 社会福祉士国家試験対策も兼ねて因子分析について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第9章第1節Pp.85-90. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第２９回　多変量解析の概説Ⅱ　クラスター分析 【key words】 クラスター分析 【授業概要】 社会福祉士国家試験対策も兼ねてクラスター分析について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第３０回　後期の総括 【key words】 推測統計 【授業概要】 前期の総括として，推測統計のまとめを行い，後期定期試験への勉強法について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験勉強をきちんと行う.
受講生に関わる情報および受講のルール	数学的素養はほとんど必要ありませんが，数値情報を読解するための根気と思考力を要します．十分な学習意欲・態度をもって臨んでください．また，受講に際しては必ず恒常的に出席してください．なお，欠席した場合は別途，授業外課題に取り組んで頂きます.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合あり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること.
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応.
評価方法	前期・後期の筆記試験の結果（８０％）と平常点（２０％）（宿題，演習課題）で総合評価を行います．演習課題は全て提出することが原則です.
教科書	松田文子・三宅幹子・橋本優花里(著)「わかって楽しい心理統計法入門 Ver.2」北大路書房，2012年.
参考書	適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　老人心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 老化が及ぼす様々な心理的影響について理解し、高齢者の心理に関する基礎的知識を習得するとともに，高齢者の抱える心理的諸問題についての理解を深めていくことを目的とする。同時に，高齢者への心理的支援についての知識や対応の仕方についての習得を目指す。 〔到達目標〕 ① 高齢者の心理的特徴について説明できる。 ② 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ③ 高齢者の生活状況について、身体・心理・社会的側面から説明できる。 ④ 認知症の症状理解に基づき、適切な支援方法を考案することができる。
授業の概要	本講義では、高齢者の基本的理解として老化が及ぼす心理的影響（感覚・知覚の老化、認知機能の老化など）や高齢者を取り囲む環境の変化に触れ、高齢者の抱える心理的な諸問題を取り上げ、その支援のあり方について考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　－ 高齢者心理学（老人心理学）とは

【key words】
老人（高齢者）　超高齢社会　老化　老化の特徴
【授業概要】
高齢者の定義、超高齢社会、高齢者心理学の目的と対象、老化と加齢の違い、老化の定義（アーキング: 蓄積性、進行性、内因性、有害性）老化の特徴、生理機能の低下、ストレス耐性の低下、老化に伴う増大（疾病羅漢率の増大、死亡率の増大）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.12-p.21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。
【アクティブラーニングについて】
ケースメソッド（実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例については４回を予定している。）

第２回　老化の特徴と老化現象

【key words】
老化現象　ライフサイクル　発達課題
【授業概要】
ライフサイクルと老年期の課題、高齢者の生活機能の偏差値モデル（シュロック）、老化現象、生理機能の老化、脳神経系機能の加齢変化、脳神経機能とは、加齢に伴う脳神経系機能の変化、脳神経系機能の加齢変　化がもたらす影響
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.2-p.5、p.22-p.31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第３回　高齢者の日常生活動作（ADL）、感覚・知覚

【key words】

ADL　手段的日常生活動作（IADL）　感覚　知覚　注意
【授業概要】
高齢者の日常生活能力（ADL、IADL）、高齢者の理解と対応（ペックによる中高年期の発達課題と心理的危機）、高齢者の感覚・知覚（加齢に伴う感覚の変化、感覚の加齢変化がもたらす影響）、知覚の加齢変　　化、知覚と注意
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.8-p.11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第４回　高齢者の認知機能 ①　－ 注意
【key words】
選択性注意　分配性注意　ストループ課題
【授業概要】
注意の種類（持続性注意、選択性注意、転換性注意、分配性注意）、意図的過程（注意の切り替え、切り替えコスト）、非意図的過程（ストループ課題、注意の捕捉、注意の解放）、日常場面の注意（中心視と周辺　視、加齢効果、自動車運転）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.52-p.61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第５回　高齢者の認知機能 ②　－ 知能
【key words】
知能の定義　知能検査　結晶性知能　流動性知能
【授業概要】
知能の定義と知能検査、高齢者の知能（結晶性知能、流動性知能）高齢期の知能（加齢と知能の関連、発達曲線）、高齢期の知能研究法（横断法、縦断法、系列法）、シャイエの知能発達曲線、高齢者の知能に影響　する諸要因（健康状態、性差、教育的背景）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.80-p.89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第６回　高齢期の認知機能 ③　－ 記憶
【key words】
記憶のモデル　感覚記憶　短期記憶　長期記憶　エビングハウスの忘却曲線
【授業概要】
高齢者の記憶、エビングハウスの忘却曲線　記憶のメカニズムとシステム（感覚記憶、短期記憶、長期記　憶）　記憶の種類（顕在記憶　潜在記憶　意味記憶　エピソード記憶）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.62-p.78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第７回　高齢者のパーソナリティ
【key words】
パーソナリティ（人格）　性格　パーソナリティ類型　適応機制　老年期における三つの喪失
【授業概要】
パーソナリティ（人格）とは、エリクソンの心理社会的発達段階、高齢者のパーソナリティと適応、ライ　チャードのパーソナリティの類型（円熟型、安楽椅子型、自己防衛型、他罰型、自罰型）、高齢期の適応、　適応機制（防衛機制。逃避規制、攻撃規制）、老年期における三つの喪失（健康、経済、役割）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.100-p.107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第８回　高齢者の感情と欲求
【key words】
感情　欲求　マズローの欲求階層説
【授業概要】
老年期の三つの喪失（経済的喪失、健康の喪失、役割の喪失）と適応、高齢者の感情、感情の加齢的変化、
欲求の加齢変化、マズローの欲求階層
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.108-p.117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。

第９回　高齢期の適応と精神障害
【key words】
死への適応　キューブラー・ロス　死の受容へのプロセス（五段階説）　障害の受容　精神障害の分類
【授業概要】
死への適応、キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」、死の受容へのプロセス（五段階説）、障害の受容、障害の受容過程、高齢期における精神障害、精神障害の分類（外因性精神障害、内因性精神障害、心因性精神障　害、神経症）、精神障害の三大症状、器質性疾患と機能性疾患、老年期精神障害の特徴
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.158-p.167
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１０回　高齢期のライフイベント 【key words】 ライフイベント　配偶者との死別 悲嘆のプロセス グリーフケア 生きがい 【授業概要】 配偶者との死別、複雑性悲嘆の診断基準、正常でない悲嘆反応の危険因子、死別後の悲嘆、通常の悲嘆と正常でない悲嘆、悲嘆のプロセス、グリーフケア、高齢期における役割の変化、生きがい、高齢者の日常生活　と就労 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.130-p.139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１１回　高齢期の認知症 【key words】 認知症　中核症状　周辺症状 アルツハイマー病　　脳血管障害 【授業概要】 老年期うつ病、老化による物忘れと認知症、変性疾患に伴う認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、血管性認知症）、認知症の中核症状と周辺症状 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１２回　高齢期の病気と健康増進 【key words】 老年症候群 廃用症候群 ヘルスプロモーション 【授業概要】 健常老化と病的老化、老年症候群と廃用症候群、高齢者を取り巻く環境上の問題、高齢者の健康・病気・疾病率、身体機能の障害と高齢者のADL、高齢者の健康改善の向上、ヘルスプロモーション、健康的な行動実　施の支援 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１３回　高齢者への心理的支援 ① 【key words】 施設入所老人への対応 動機づけ療法　施設職員の心理的負担 【授業概要】 高齢者への対応、社会的対応、施設入所老人への対応、現実見当識プログラム、再動機づけ療法、施設で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者への心理的援助、施設職員の心理的負担と援助、事故と高齢者 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書　p.172-p.173　p.184-p.185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１４回　高齢者への心理的支援 ② 【key words】 ソーシャルネットワーク　コンボイモデル　地域包括ケアシステム 【授業概要】 ソーシャルネットワーク、高齢期の対人関係、コンボイモデル、ソーシャルサポートの緩衝効果と直接効　果、ストレスの概念、高齢者福祉関連の法律と制度、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法、地域包　括ケアシステム 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書　p.140-p.141 p.152-p.153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。 次回の授業開始時に、「今回提示した課題」を記述する。 第１５回　老人心理学（高齢者心理学）のまとめ 【key words】 老人心理学　知能の二面性　記憶の種類　認知症 【授業概要】 高齢者心理の基礎、生理的老化の学説、高齢者の感覚と知覚（視覚、聴覚）、高齢者の知能、知能の二面性（結晶性と流動性）、高齢者の記憶、パーソナリティと適応、高齢者の喪失感、死への適応、老年期の精神　障害、認知症 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。老人心理学（高齢者心理学）の復習。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・事後学習として、教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 〔受講のルール〕 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	佐藤眞一・権藤恭之編著　（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）　よくわかる高齢者心理学　ミネルヴァ書房　2016年
参考書	適宜、授業時に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　障害児（者）心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　本講義では、障害児（者）の基本的理解として、障害が及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、行動など）を学び、重要な心理的な諸問題を取り上げ、その支援の在り方について理解を深める。 〔到達目標〕 ①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 ②障害が及ぼす心理的影響について理解できる。 ③障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
授業の概要	障害児（者）心理学では、まず身体障害、知的障害及び発達障害などの様々な障害の特性（心理や行動）を学び、各障害児（者）に対する心理社会的な支援のあり方について理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　－　障害とは何か、障害の捉え方

【key words】
障害の概念　国際障害分類　国際生活機能分類（ICF）　障害者差別解消法　合理的配慮
【授業概要】
科目のオリエンテーションとして、障害とは何か、世界保健機関（WHO）の国際障害分類及び国際生活機能分類に基づく障害の捉え方の説明。
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.251 - p.255
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「1 特殊教育から特別支援教育へ　p.11 - p.27」の予習。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【アクティブラーニングについて】
ケースメソッド（実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形式で検討する。事例検討は４回を予定。）

第２回　特殊教育から特別支援教育へ

【key words】
ノーマライゼーション　インテグレーション　インクルージョン特別支援教育の内容
【授業概要】
法改正までの経緯　特別支援教育への転換　特別支援教育の内容
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.11 - p.27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の予習　（教科書 p.28 - p.43）。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第３回　乳幼児期における障害とその支援

【key words】
発達　障害の早期発見・早期療育　母子保健法
【授業概要】
母子保健と乳幼児の育ち障害がわかる時期とその特徴　発達支援　保育所等における支援活動修学移行支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.28 - p.43

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業の「視覚障害について教科書 p.44 - p.72」の予習。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第４回　視覚障害児・者の理解と心理的援助

【key words】
視覚障害の定義　失明原因　盲と弱視　ロービジョン（low vision）
【授業概要】
視覚障害の概要と分類　医学的弱視と教育社会的弱視　視覚障害児の心理的特性　視覚障害のある人への支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.44 - p.72
【課題・予習・復習・授業準備指示】
視覚障害の復習と次回の聴覚障害（教科書 p.73 - p.94）の予習。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第５回　聴覚障害児・者の理解と心理的援助

【key words】
伝音性難聴　感音性難聴　デシベル(dB)　９歳の壁
【授業概要】
聴覚障害の概要と分類　伝音性難聴　感音性難聴　聴覚障害児の心理的特性　９歳の壁　聴覚障害のある人への支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.73 - p.94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
聴覚障害についての復習。　知的障害について（教科書 p.95 - p.106）の予習。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第６回　知的障害児・者の理解

【key words】
知的障害の定義、知的障害の病因、ダウン症候群　知能　知能指数
【授業概要】
用語の変遷（精神薄弱、精神遅滞、知的障害）　知的障害の定義と分類　知的障害の病因（病理的、生理　的、心理的　知的障害の疫学　知能の定義　知能指数
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.95 - p.106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害の復習と次回の知的障害児への心理的援助（教科書 p.107 - p.121）についての予習。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第７回　知的障害児・者への心理的援助

【key words】
知的発達　知的障害の知覚　知能特性　行動特性
【授業概要】
知的障害児の知能の発達と知能特性　行動特徴　知的障害のある人に必要な援助の全体像　臨床心理の専門家に求められる援助　心理アセスメント
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.107 - p.121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害についての復習。肢体不自由に関する予習。
次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第８回　肢体不自由児・者の理解

【key words】
運動障害　脳性麻痺（CP）　脳損傷と非脳損傷　幻肢（痛）
【授業概要】
肢体不自由の原因（脳損傷、非脳損傷）　脳性麻痺（CP）の定義と類型　幻肢（痛）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料 教科書 p.122 - p.136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肢体不自由、特に脳性麻痺についての復習。心理的援助（教科書 p.137 - p.153）についての予習。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第９回　肢体不自由児・者への心理的援助

【key words】
認知の障害　図-地の知覚障害　身体像（body image）　重複障害
【授業概要】
肢体不自由児の運動発達やコミュニケーションの発達、学力の問題　重複障害や重症心身障害の定義
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.137 - p.153
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肢体不自由の行動と重複障害についての復習。病弱（教科書 p.154 - p.168）についての予習。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第１０回　病弱児・者の理解と心理的援助

【key words】
病気の推移　ホスピタリズム　病弱　身体虚弱
【授業概要】
病弱の定義　病弱教育対象児の病気の推移　病弱教育対象児の病気の概要と心理的援助　病気の自己管理への心理的援助　ターミナル期の支援　二次的な発達や性格の偏り
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.154 - p.168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
病弱・身体虚弱の定義と種類そして病弱児の心理的な側面の復習。情緒障害（教科書 p.169 - p.182）の予習。次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第１１回　情緒障害児の理解と心理的援助

【key words】

	情緒障害　不登校　選択性緘黙症　外傷性ストレス障害（PTSD） 【授業概要】 情緒障害の定義　主として心理的な要因による情緒障害の分類　代表的な情緒障害の概要　情緒障害児に対する主な心理的支援 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.169 - p.182 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情緒障害、PTSDの復習。注意欠陥多動性障害（教科書 p.183-p.201）についての予習。 次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１２回　発達障害児・者の理解と心理的援助　①　ADHD（注意欠陥/多動性障害） 【key words】 発達障害　ADHD（注意欠陥/多動性障害）　発達障害者支援法 【授業概要】 発達障害者支援法　発達障害の定義　ADHD（注意欠陥/多動性障害）ADHDの本質と困難　ADHDの原因　ADHDの疫学　ADHDのアセスメント　ADHDのある人への援助　ADHDの薬物療法　ADHDのある人の家族への援助 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.183-p.201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情緒障害についての復習。発達障害についての予習。 次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１３回　発達障害児・者の理解と心理的援助　②　自閉症 【key words】 発達障害の定義　広汎性発達障害　自閉症　アスベルガー症候群　障害の三つ組 【授業概要】 広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の特徴　自閉症とは　自閉症やアスベルガー症候群がある人の特性　自閉症の原因と有病率　他の障害との関係　自閉症のアセスメント　自閉症のある人への　援助 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.202-p.217 【課題・予習・復習・授業準備指示】 広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の復習。学習障害（LD）の予習。 次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１４回　発達障害児・者の理解と心理的援助　③　LD（学習障害） 【key words】 学習障害(LD)　読字障害　算数障害　デイスレクシア 【授業概要】 LD（学習障害）とは　LD（学習障害）の原因と有病率　他の障害との関係　LDのアセスメント 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.218-p.233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習障害(LD) の復習。教科書 p.234-p.267の予習。 次回の授業開始時に、コメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１５回　家族支援と障害の受容　障害児（者）心理学のまとめ 【key words】 家族の支援　障害の受容　価値転換理論 【授業概要】 家族支援　障害の受容　障害者観の変遷　障害児（者）心理学の総括　期末試験の傾向と対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.234-p.267 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児（者）心理学のまとめ　定期試験対策
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・障害者の問題に関するメディア（新聞やインターネットなど）の情報を日頃から注意し、常に問題意識を養うこと。 〔受講のルール〕 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	古賀精治 ・田中新正 著)障害児・障害者心理学特論（放送大学大学院教材） 放送大学教育振興会; 新訂版（2013/3/1）
参考書	太田信夫監修　柿澤敏文編集　（シリーズ心理学と仕事15）　障害者心理学:　北大路書房(2017/7/21) 適宜、授業時に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 視覚障害者のための福祉施設（日本盲人職能開発センター）で点字やオプタコン訓練等のコミュ

	ニケーション指導員としての約５年間の勤務経験あり。その時の臨床経験を活かし、障害児（者）理解に対する必要な知識や心理的支援について講ずる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理学実験実習Ⅰ（心理学実験）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 実験計画や実験の手続きを理解できるようになる。 データの収集および適切な処理ができる。 独立変数・従属変数を操作・測定する統計的方法を学ぶ。 実験改善を発案する力を得る。 実験レポートを作成できるようになる。
授業の概要	通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　ガイダンス・相関と因果関係（講義） 第２回　相関と因果関係（講義） 第３回　錯視実験（実験・データ取得） 第４回　錯視実験（課題発表　データ分析，平均値・標準偏差） 第５回　錯視実験（解説） 第６回　統計グラフの書き方（エクセルを用いて） 第７回　ストループ課題（解説） 第８回　ストループ課題（実験） 第９回　ストループ課題（解説，　平均値,標準偏差） 第１０回　ストループ課題（説明,t検定） 第１１回　レポートの書き方・統計値の読み方、書き方 第１２回　記憶実験（解説） 第１３回　記憶実験（実験） 第１４回　記憶実験（解説） 第１５回　記憶実験（解説,t検定）

	第１６回　　後期ガイダンス 第１７回　　アクションスリップ（解説） 第１８回　　アクションスリップ（実験） 第１９回　　アクションスリップ（分析解説） 第２０回　　アクションスリップ（分析解説）　・課題提出 第２１回　　漢字とかなの処理過程（解説） 第２２回　　漢字とかなの処理過程（実験） 第２３回　　漢字とかなの処理過程（解説・分析） 第２４回　　漢字とかなの処理過程（解説・分析）・課題提出 第２５回　　統計グラフの書き方・ミニ課題提出・統計値の読み方 第２６回　　スキーマ課題（解説） 第２７回　　スキーマ課題（実験） 第２８回　　スキーマ課題（解説・分析,t検定） 第２９回　　スキーマ課題（解説・分析）　・課題提出 第３０回　　まとめおよびミニ課題提出
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 　事前にUSBメモリを用意することが望ましい。PC室またはLL教室を多用する。 〔受講のルール〕 各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。また、課題の作成は、時間外学習時に行う必要がある。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。金曜日3時限目（206研究室）を予定している。
評価方法	レポート(50%)、授業内小テスト（30%）、授業内でのコメント（20%）
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　青年心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもとおとなの間にある、そのどちらでもない数年間のあり方が、いかにその他の人生の時期とつながっているのかを理解する。 ②青年期に何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのかについて、アイデンティティ概念を手掛かりに深く捉えられる。 ③青年期に意識されてくる心理的なテーマについて、「問い」の形で整理しながら、それらがもつ人生上の意味を理解し説明できる。
授業の概要	教科書に沿って、一回につき１章分のテーマをとりあげ、青年心理学の基礎用語や知識を解説する。毎回の授業で、テーマに沿った「問い」の場面を想定し、思考実験や互いの考えを出し合い共有するような課題を設定する。また、事例の考察などを通してテーマに関する青年心理の理解を深める努力をしていく。 以上のように、毎回の授業において、自分自身の中にある青年心理について省察をしながら授業を展開する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：授業の目的・進め方等について、大学生が考える「青年らしさ」 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行います。 ・一般的に青年が背負う課題や問題を理解するにとどまらず、受講生自身の自己理解を広げかつ深め、進路探索にもつながる体験を得られることを目指します。 ・今回は「青年らしさ」に焦点を当てながら、青年期という発達段階の特質について皆さんと検討をしていきます。 【キーワード】 ・周辺人、疾風怒涛、第二の誕生、サモアの青春 【教科書・参考文献】 ・（2-8ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・シラバスを熟読しておくこと。 【アクティブラーニング】 ・グループに分かれて、「青年らしさ」について話し合う
	第２回	アイデンティティ 【授業概要】 ・青年期の発達課題の柱とみなされる「アイデンティティ」について、その概念の基礎について学んでいきます。 ・学習を進める上で、「自我体験」という現象に注目しながら、具体的な個人に展開されて現れるアイデンティティの諸相を見ながらアイデンティティ概念の理解を深めていきます。 ・さらに、受講生自身のアイデンティティとそのルーツについて考察を加えていきます。 【キーワード】 ・自我親和感（エゴシントニック）、自我異和感（エゴディストニック）、自我体験、役割実験、モラトリアム

【教科書・参考文献】
・（9-22ページ）
・吉野　弘「I was born」
・吉野源三郎『君たちはどう生きるか』　（プリント配布予定）
【課題・予習・復習・授業準備】
・教科書該当箇所を予習しておくこと
【アクティブラーニング】
・ワークシートを用いてアイデンティティについて検討し、グループ間で意見交流を行う

第３回　身体の発達：からだとこころ

【授業概要】
・男として、もしくは女として生まれてくることの意味を強く実感していくのが青年期であり、青年期に人は「性をもつ存在」としての自己と出会っていきます。
・それは同時に異性の発見ももたらしながら、恋愛や自分の身体への認識を形成することで、人をより個性的にしていくことになります。今回は、こうした身体の発達に伴う青年らしい心理について検討します。
【キーワード】
・第二次性徴、発達加速現象、早熟、晩熟、ボディ・イメージ、性役割葛藤、ジェンダー・アイデンティティ
【教科書・参考文献】
・（27-37ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・身体醜形障害について調べておくこと
【アクティブラーニング】
・身体醜形障害の事例を通して、身体への理解が及ぼす意識の変化について話し合います。

第４回　青年の自立：家族との関係

【授業概要】
・青年期の大きな課題である「自立」について、親子関係を軸にして検討します。
・特に、自立が親子関係、なかでも親自身の青年期の越え方が子への向き合い方を左右し、結果として青年の自立に影響を及ぼしていくという、ライフサイクルの絡み合いについても見ていきます。
【キーワード】
・ブロス、マーラー、第二の分離―固体化過程、心理的離乳の三段階
【教科書・参考文献】
・（40-53ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・高村光太郎の生涯についてあらかじめ調べておくこと
【アクティブラーニング】
・「シャイン」などの映画のシナリオを通して、青年の自立と親子関係について意見を交換します。

第５回　友人関係の発達：友人関係の昨日、チャムシップ

【授業概要】
・同年代の仲間との間における相互に指示的な「かかわり」や「つながり」である友人関係が青年期にもつ意味、意義について考えていきます。
・特に、友人関係の発達段階やそれぞれの青年にとっての「友人」の質がどのように決まっていくかについて理解を深めていきます。
【キーワード】
・ヤマアラシのジレンマ、親密圏、公共圏、友人の機能、チャムシップ、サリバン
【教科書・参考文献】
・（54-67ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・あらかじめ、「友情」を描いた小説やマンガ、映画などを探し、どこに青年らしい友情が描かれているかを説明できるようにしておくこと
【アクティブラーニング】
・それぞれが調べてきた青年期の友情を象徴する作品を発表し、なにが友人の条件となるかについて意見を交換する。

第６回　恋愛・結婚

【授業概要】
・思春期以降、異性間で強く働く「恋愛」感情を中心に、漠然とした未来の「結婚」への意識も含めた変化について検討していきます。
【キーワード】
・ジェンダー・アイデンティティ、母子分離、ルービン、ＳＶＲ理論、アンドロギュヌス
【教科書・参考文献】
・（68-80ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・恋愛名言集を調べ、自分の恋愛観をピッタリと表す言葉を抜き出しておくこと。
【アクティブラーニング】
・悩み相談の事例をもとに、青年期の恋愛についてどのように捉えるべきかについてグループ討議をします。

第７回　道徳性の発達

【授業概要】
・思念期に特に鋭敏化しやすい正義に関する判断や道徳性について学んでいきます。
・また、それぞれの青年が生きている文化特有の倫理・道徳観が、発達の過程で青年たちに無批判に取り込まれるメカニズムを理解します。
【キーワード】
・フロイト、スキナー、バンデューラ、ピアジェ、コールバーグ、ハインツのジレンマ課題
【教科書・参考文献】
・（96-108ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・コールバーグの道徳性理論について予習をしておくこと
【アクティブラーニング】
・いくつかのジレンマ課題を提示しながら道徳的な判断をし、その理由について話し合います。

第８回　青年の死生観：「死ぬ」ことをどう受けとめる？

【授業概要】
・青年期は自己が大きく変容する時期であるため、象徴的な次元で“子どもである自分”の終わりを体験する感覚を味わうことが増えることを理解していきます。
・中には、象徴的な次元にとどまらず、実際的な「死」に接近したり、自殺未遂や自殺をしてしまう者も出る現実を学びます。
・ユング理論の核ともなる、「死と再生」という概念を手掛かりに、青年期における死への接近の意味について考えていきます。
【キーワード】
・クインラン事件、クルーザン事件、カステンバウム、死生学、希死念慮、自殺念慮、死と再生
【教科書・参考文献】
・（136-147ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・安楽死と尊厳死について予習をしておくこと
【アクティブラーニング】
・生命倫理を考える実際の事例をもとに、青年期に死に接近することについて話し合いをします。

第９回　青年と時代
【授業概要】
・教科書の内容から少し離れ、レポート課題に向けた準備となるような内容を2回続けていきます。
・今回は、特に青年期の中でも「大学生」に焦点をあてて、様々な時代の中の大学生像を学んでいきます。この学びを通して、それぞれの時代に、青年たちが何を求め、どのような思いで大学という場に集ったのかを考えていきます。
【キーワード】
・大学史、大学数の推移、帝国大学、新制大学、大学大衆化、消費社会、シラケ、モラトリアム人間、バブル、記号消費論、ロスト・ジェネレーション
【教科書・参考文献】
・（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・大学のおおまかな変化の流れについて、それぞれ調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・それぞれの大学選択のプロセスを相互にインタビューしながら振り返り、グループ間で話し合いをします。

第１０回　現代大学生論
【授業概要】
・前回確認をした、学生の個人化やまじめ化、生徒化の流れをふまえた上で、受講生と同じ時代に生きる大学生の心理に関する研究を通して、「現代における大学と大学生の心理」について考えていきます。
・同年代の別の大学の学生たちがどのような思いで大学生活を送り、何に取り組み何を感じ、何を考えたかについて知ることで、受講者自身が、「大学生である自己」を見るときの見方を深めていくことを目指します。
【キーワード】
・インサイド・アウト、アウトサイド・イン、古典的モラトリアム、ビルドゥングスなきビルドゥングス
【教科書・参考文献】
・（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・一通り学んだ後に、「自分という大学生の特徴」について言葉にしていきます。

第１１回　青年が向き合う心の仕事①：自分とつながること
【授業概要】
・青年期後期になると、大人への入り口が見えてきます。そこで、様々な人生の十字路に立つ中で、それぞれの青年がもつ課題も浮かび上がってくるということをまず理解していきます。
・この時点で、過去に解決すべきであった未解決の課題が浮かび上がったり、治療や回復を要する課題があるために前に進めず停滞をし、その問題と改めて向き合う青年たちの存在を理解していきます。
・そして、特に「自分とつながる」課題に焦点を当て、青年の支援の基本的な視点について解説をしていきます。
【キーワード】
・アイデンティティ拡散、フツーの子、青年の問題行動、悩む力
【教科書・参考文献】
・（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・配布資料をあらかじめ読んでおくこと。
【アクティブラーニング】
・配布資料を通してグループ内で意見を交換します。

第１２回　青年が向き合う心の仕事②：青年期のつまづき（非行・問題行動）と心の成長
【授業概要】
・資料を通しながら、「荒れる心・欠ける心」の奥にある自立を妨げる問題を理解していきます。
・特にその心がもたらす結果としての非行・問題行動に焦点を当て、青年の引き起こす反社会的な行動の奥にある、発達的な意味、成長への願いについて検討をしていきます。
【キーワード】
・児童相談所、一時保護所、非行、少年院
【教科書・参考文献】
・（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備】
・少年院についてあらかじめ調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・配布資料を通してグループ内で意見を交換します。

第１３回　ロストジェネレーションから青年期を考える：働くことと青年
【授業概要】

	・「働くこと」は「愛すること」とともに、成熟した大人がクリアすべき課題だといえます。それは、直接的にアイデンティティの課題に答えを出すことにも関わってくる大事な問題として、青年にも捉えられ、青年が自己と向き合う契機になることを理解していきます。 ・ただし、働くということは、社会の状況と密接に関連したことであり、能力とは別に世代全体を巻き込むような大きな影響を与えるということも解説をしていきます。 ・これらのことを「ロスト・ジェネレーション」という言葉を手掛かりに学びながら、それぞれの進路探求を振り返ります。 【キーワード】 ・ロスト・ジェネレーション、メアリー・ブリントン、ワーキング・プア、ウィーク・タイズ、ストロング・タイズ、ＮＥＥＴ、早期離職、ポストモラトリアム 【教科書・参考文献】 ・（165-172ページ） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・それぞれの進路意識についてワークシートを作成しておくこと 【アクティブラーニング】 ・一通りの学習ののち、自らの職業選択について振り返り、グループ内で意見交換をしていきます。
	第１４回　物語を通して見る青年の人格の変容：教養小説、自己の相対化、自我体験 【授業概要】 ・様々な体験や出会いを通して主人公が自分自身を作り上げる過程を描いた物語は、教養小説と呼ばれますが、それらが青年期の自己形成の物語をピークとする内容であることをまず理解します。 ・そうした代表的な教養小説をとりあげながら、主人公である青年の自己の広がりや変容について考え、受講生の青年期のあり方と比較をしていきます。 【キーワード】 ・教養小説、ＴＥＭ、ゲーテ、トーマス・マン、夏目漱石、三田誠広 【教科書・参考文献】 ・（配布プリント） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・教材として上げる作品のあらすじについて調べておくこと。課題としてワークシートを埋める課題を課す予定。 【アクティブラーニング】 ・
	第１５回　青年と危機　そして、その向こう側へ：患者性（エリクソン）、歴史的アイデンティティ、青年と夢 【授業概要】 ・授業のまとめとして、映画を題材にしながら、これまで学んだことを振り返りながら、インタビュー課題に役立つような視点を探っていきます。 【キーワード】 ・患者性、歴史的アイデンティティ、夢、 【教科書・参考文献】 ・映画「遠い空の向こうに」 【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ映画を視聴をしておくこと。 【アクティブラーニング】 ・自分のインタビュー相手を想定して、質問を具体的に考え、実際にグループ内で役割交換しながら実践をしてみます。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・特に資格に関わる科目ではないが、青年期をリアルタイムで生きる大学生には積極的に受講をしてもらいたい。 ・知識を覚えるというより、それを自己や他者の理解に「応用」し考える問いを多く発する授業を行う。したがって、そうした問いに対して誠実に応え、考える姿勢を授業で求める。 　このような自己省察が耐えがたいと感じる学生は受講しないこと。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価にある通り、期末課題以外に、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	青年が主人公の物語、映画等を探索して3作品を目標に把握しておくこと。授業内でテーマに即して発表を求めることがある。授業後、テーマに関連した事件、出来事、物語、映画などを探し、授業理解を深めておくこと。
オフィスアワー	水曜日　9：00～11：30
評価方法	〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。 〈評価割合〉期末レポート試験70%、小レポート・ポートレート等提出物 30%（30点÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点））
教科書	・宮下一博監修・松島公望・橋本広信編著『ようこそ！青年心理学』（ナカニシヤ出版、2009）
参考書	・藤森旭人『小説・漫画・映画・音楽から学ぶ児童・青年期のこころの理解―精神力動的な視点から』（ミネルヴァ書房、2016）他　適宜指示
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公衆衛生学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職（又は医療専門職）としての各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べることができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。　又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　公衆衛生学概論　公衆衛生学の目的・範囲等 第２回　保健統計　公衆衛生学における人口問題　人口静態・人口動態・生命表 〃 第３回　衛生行政　機構・業務等及び地域保健・保健活動 〃 第４回　社会保障制度　概念・医療保障・医療供給システム 〃 第５回　環境衛生　大気・住居・振動・衣服・飲料水・産業廃棄物・公害等 〃 第６回　国民栄養と食品衛生　栄養学・食品衛生・食中毒 〃 第７回　母子保健　意義・歴史的背景・現状・出生率・母性保護 〃 第８回　成人保健・高齢者保健　成人病・高齢化社会・高齢者保健 〃 第９回　学校保健　目標・目的・内容・発育・保健管理・学校給食・衛生教育・学校体育 〃 第１０回　産業衛生　作業環境・労働時間と形態・職業病・産業災害 〃 第１１回　(1) 疫学と感染症　(2) 優生学と精神衛生　感染症　伝染病　遺伝・精神障害 〃 第１２回　医療福祉コミュニケーション　医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション 〃

	第１３回　医療福祉危機管理　医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法 〃 第１４回　口腔ケア　口腔ケア・オーラルリハビリテーション 〃 第１５回　総括　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容は、必ず教科書又は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。 又、そのノートのとり方を学んでいく事。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書・オリジナルプリントは書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他オリジナルプリントへの書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学』最新版　南江堂　15－6・8・12・13・14・15に関してはオリジナルプリントを配布します。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 保育内容（人間関係）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
廣池　利邦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	幼児が保育者や親との人間関係の発達の中で、どのように成長していくのかをしっかりと捉え、分析し、理解したうえで保育者としての適切な行動ができるようにする。現場の事例などを参考にしながら学習するので、実習に生かせるような学習効果が期待できる。
授業の概要	法律に基づいた保育内容（人間関係）の分析と解釈を通して、保育者としての正しい在り方について、事例の説明やグループディスカッションをしながら、幼児や親との人間関係について理解させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション ： シラバスの読み方と授業の進め方の説明。 第２回　保育内容の『ねらい』の解説 第３回　保育所保育指針の解説（1）、保育所保育指針の解説（2） 第４回　観察記録の分析 ： 幼児と親の人間関係の観察記録について。 第５回　保育所保育指針の解説（3）、保育所保育指針の解説（4） 第６回　保育所保育指針の解説（5）、保育所保育指針の解説（6） 第７回　遊びに関する分析 ： 集団活動に見る人間関係演習について。 第８回　保育所保育指針の解説（7）、保育所保育指針の解説（8） 第９回　保育所保育指針の解説（9）、保育所保育指針の解説（10） 第１０回　親子で学ぶこととは ： 意味と意義について考える。 第１１回　保育所保育指針の解説（11）、保育所保育指針の解説（12） 第１２回　保育所保育指針の解説（13）、保育所保育指針の解説（14） 第１３回　保育内容の取扱い ： 保育実施上の配慮事項について。幼稚園教育要綱に関する解説。 第１４回　DVD音楽映画鑑賞：「五つの銅貨」幼児期から子どもは大人の心を読んでいるということがわかる名画。 第１５回　保育内容（人間関係）のまとめ。
受講生に関わる情報および受講のルール	出席を重視し、授業態度を評価するので、積極的な授業参加と俊敏な反応を期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	日頃から子どもの行動に興味関心を持ち、特に親子や友達の関係における子どもの動きや反応を観察するように心がけること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。
教科書	廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容（人間関係）』あるふあ出版、2009
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育内容（言葉）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解する。子ども達の「言葉」の成長を支援できる保育者を目指す。 【到達目標】 ・領域「言葉」について理解し、保育・教育計画の立案と評価のための視点を得る。 ・理論を踏まえてどのように実践が行われているのか理解し、自らの実践に活かす力を養う。 ・言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援の方法を考えられるようにする。 ・子どもの言葉の発達を知り、言葉掛けの大切さを学ぶ。
授業の概要	５領域の「言葉」について基礎、実践、実技、発展という流れで学び、ステップアップしながら学習する。 生後間もない乳児への言葉掛けから就学時前の子どもへの言葉掛け、配慮が必要な子どもへの言葉掛け等、子どもの年齢や個人差、性格に合わせた言葉掛けを学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション、保育内容「言葉」の意義①　幼児教育と保育内容「言葉」 【key words】 人間と言葉 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。　・人間としてのコミュニケーションのはじまりについての段階を説明。　・かかわりから言葉へ繋がっていく働きについて。（さまざまな体験・経験を積み重ねながら、　言葉を広げる） 【教科書ページ・参考文献】 テキストp13～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【アクティブラーニングについて】
	第２回	保育内容「言葉」の意義②　幼児と言葉 【key words】 人間と言葉 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・人間としてのコミュニケーションのはじまりについての段階を説明。 ・かかわりから言葉へ繋がっていく働きについて。（さまざまな体験・経験を積み重ねながら、言葉を広げる） 【教科書ページ・参考文献】 テキストp13～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【アクティブラーニングについて】
	第３回	領域「言葉」のねらいと内容 【key words】 幼稚園教育要領と保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 【授業概要】 ・「ねらい」を達成するために、領域「言葉」ではどのような内容に沿って保育を展開することが望ましいのか考えていく。 ・領域「言葉」の内容を理解できるようにする。

【教科書ページ・参考文献】　テキストp25～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幼稚園教育要領と保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領のP15～の言葉の部分 を読んでおく
【アクティブラーニングについて】

第４回　子どもの言葉の発達①　言葉のめばえ
【key words】
言葉を育む環境　-生後間もない乳児への声かけから
【授業概要】
・言葉の発声訓練としての笑いと身体の動きについて説明する。
・喃語が言葉になるまでの保育者のかかわりと意味づけを考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp35～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の乳児期の様子を家の方に聞いてみる

第５回　子どもの言葉の発達②　言葉による世界の秩序化
【key words】
感情と経験を含めた言葉の理解
【授業概要】
・コミュニケーションの道具から思考の道具への移行について説明する。
・感情や経験と結びついた「自分なりの表現」とはどのようなものなのか具体例を挙げて考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp41～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第６回　子どもの言葉と環境
【key words】
発達初期の養育環境の重要性
【授業概要】
・愛着関係と言語発達について。また初期の養育環境とその後の言語発達。
・応答的環境と愛着関係について。
・話し言葉からはじまる言葉の理解と表現についての説明。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp47～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第７回　保育者の指導・支援１　０歳児から２歳児までの言葉と保育者のかかわり
【key words】
仕草から聞こえる言葉
【授業概要】
・やりとりの楽しさの経験の積み重ねが、言葉を使ったコミュニケーションへと発展していく過程の説明。
・２歳児の言葉の増加の背景には増徴機能やイメージの発達があげられることを、事例に基づき解説していく。
・０～２歳児向けの絵本を読んでみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp59～66　　絵本「がちゃがちゃ　どんどん」元永定正　「もけら　もけら」山下洋輔「かおかおどんなかお」柳原良平
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第８回　保育者の指導・支援２　３歳児から６歳児までの言葉と保育者のかかわり
【key words】
育ちの連続性と指導・支援の継続性
【授業概要】
・子どもの話したい気持ちを十分に聞き入れていくことの大切さについて。
・言い間違いを指摘することで子どもの自尊感情を損なう可能性もあるので、間違いを否定的に捉えず、自然に自己訂正ができるようになるように心がける支援法について。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp66～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第９回　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援①　言葉の発達が気になる子ども
【key words】
子どもの言葉の育ち
【授業概要】
・言葉の育ちにかかわる諸課題を挙げてみる。
・言葉の発達の遅れ（言葉含まれる3つの要素）、　発語の課題、意味の理解、コミュニケーションの課題　【教科書ページ・参考文献】
テキストp71～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第１０回　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援②　言葉の発達に障がい・課題を抱えている子どもの保護者とのかかわり
【key words】
保護者の気持ち
【授業概要】
・障がいを抱える子どもの保護者の気持ちを知る。
・生活環境が狭くなってしまわないよう、さまざまなことをつないでいく手段・方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストp80～91

	【アクティブラーニングについて】 第１１回　児童文化財１　　絵本、素話、紙芝居　など 【key words】 保育とお話 【授業概要】 ・絵本の種類、役割について。 ・ストーリーテリングの選び方、覚え方、語り方について。 ・紙芝居の演じ方の基本。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp95～108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 絵本を2～3冊持ってくる 【アクティブラーニングについて】 友達同士で絵本を読み合ってみる 第１２回　児童文化財２　言葉遊び・演じられる物語 【key words】 子どもと楽しむ言葉遊びの実践 【授業概要】 ・なぞなぞ、しりとり、ダジャレ、早口言葉、伝言ゲームなど実際にやってみる。 ・手遊びの紹介。伝承遊びのじっせん。 ・豊かな言葉の体験としての「演じられる物語」について楽しむ気持ちを育む。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp121～132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ことば遊び、手遊び、なぞなぞを考えておく 【アクティブラーニングについて】 知っている言葉遊びやなぞなぞを出し合う 第１３回　言葉の指導計画 【key words】 指導計画の考え方 【授業概要】 ・長期の指導計画と短期の指導計画について。 ・事例からみる「言葉」の指導計画を実際に書いてみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp137～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導計画の事例を見ておく 【アクティブラーニングについて】 第１４回　発展事例　保育内容「言葉」のまとめ 【key words】 愛着行動の重要性 【授業概要】 ・０歳～６歳の乳児から幼児の言葉の発達についての事例をいくつかあげ、これから現場で出会う子どもたちへの対応や支援を考えていく。 ・愛着行動によって子どもの精神の発達に与える影響の説明。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp147～153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １～１５回の内容をもう一度ノート、ワークシートを確認しておくこと 第１５回　言葉と国語教育　―小学校へ― 【key words】 国語へのつながりと学習のはじまり 【授業概要】 ・読み聞かせについて（読み聞かせの回数、配慮点、絵本を選ぶ基準など） ・読み聞かせと小学校教育へのつながり。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp155～164 音読の森①教育同人舎 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【アクティブラーニングについて】
受講生に関わる情報および受講のルール	保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は全ての講義に出席すること 予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高める 積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用は厳禁） ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述する こと 「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと 欠席、遅刻する場合は、学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	子どもの言葉の発達だけでなく、子どもの発達全般についての理解を深める。児童文化財を積極的に活用すること。
オフィスアワー	月曜10：30～12：00　　それ以外の時間は、アポイントを取って下さい。
評価方法	授業への取り組み、授業時に課す課題等３０％、筆記試験５０％、提出物２０％を総合的に評価する。
教科書	駒井美智子編：保育者を目指す人の保育内容「言葉」：みらい２０１２
参考書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育、保育要領　　チャイルド本社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニン	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

グ	具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習②ディスカッション・ディベート③グルー プワーク④プレゼンテーション 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 幼稚園教諭、小学校教諭の経験を活かし、子どもへの言葉かけや、言葉を取り巻く環境、言葉の 発達、問題について講じます。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習Ⅰ（施設）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能を具体的に理解する ②観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める ③既習の教科内容をふまえ、子ども・利用者への保育（養護・療育・介助・介護）及び保護者への支援を総合的に学ぶ ④保育（養護・療育・介助・介護）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する ⑤保育士等の専門職種職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ
授業の概要	■実習履修資格者 ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設で働く意志を強く持っているも者。 ②子どもの福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うにあたって適当と認められる者。 ③保育士資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。 ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」および「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込のある者 ■実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回

	第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習生に帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断される次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	―
授業外時間にかかわる情報	―
オフィスアワー	―
評価方法	①実習施設による評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習目標の達成状況（10%） ④実習日誌等記録の内容（10%） ⑤実習報告書の内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（10%） ＊実習が修了しても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。 ＊「保育実習指導（施設）Ｉ」の単位を同一年度で取得できなかった場合は、単位を認定しない。
教科書	群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学　2016
参考書	指定なし
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　障害児保育Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　現在の保育所・幼稚園には、診断の有無にかかわらず様々な発達課題をもつ子どもが在籍している。それら発達的ニーズがある子どもの特性を理解し、その支援方法を知るとともに、インクルーシブ保育の意義や家族への支援について基礎的知識を身につけることを目的とする。 【到達目標】 　①保育場面で出会うことの多い障害の特性と基本的な支援方針や配慮について説明できる。 　②保護者支援の基本的態度および関係機関との連携の重要性を説明できる。 　③インクルーシブ保育の意義について説明できる。
授業の概要	障害のある子への保育形態を理解した上で、保育場面で出会うことの多い障害について特性や支援について学び、個々の状態に合わせた支援提供のための取り組みや家族・関係機関との連携についても理解を深める。また、２学年後期の保育実習指導Ⅰ（施設）の基盤となる科目の一つでもあり、基礎的知識の定着は必須である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要や評価方法等の説明）　障害の概要と障害児保育の歴史的変遷 【Key words】 障害とは、ICFとICIDH、歴史的変遷、ノーマライゼーション、インクルーシブ保育 【授業概要】 「障害」や障害のある子どもを理解するための代表的な障害の概念としてICFとICIDHを紹介し、障害のある子どもたちがどのように生活し、社会からどのような待遇を受けてきたのか、その歴史的変遷をたどる。さらに、新しい障害児保育に関する施策について概観し、現在の障害児保育における課題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第２回	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解 社会的障壁と合理的配慮、障害者差別解消法、インクルーシブ保育 【授業概要】 特別な配慮が必要な子どもを保育所等で受け入れる際の基本的スタンスについて学ぶ。なぜ、地域社会への参加・包容（インクルージョン）が重要なのか、インクルージョンを進める際に必要となる合理的配慮について理解し、実際の保育場面で生じやすい場面を例に具体的に考える。さいごにインクルーシブ保育の基本となる合理的配慮の視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１６～２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第３回	肢体不自由児の理解と援助 【Key words】 肢体不自由とは、脳性マヒ、身体障害者手帳、特別支援教育、ＩＣＦ 【授業概要】 肢体不自由児の保育に必要な知識の習得を目的として、肢体不自由の概念、臨床像、起因疾患、

		心理特性について学び、その保育のねらいを理解し、肢体不自由についての体験演習を通して、その実態把握の仕方をＩＣＦの観点で学ぶ。さらには保育における他機関との連携の必要性と、肢体不自由児をめぐる教育の動向について知る。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２８～３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第４回	知的障害児の理解と援助 【Key words】 知的障害とは、療育手帳、ＩＱ、ダウン症、スモールステップ 【授業概要】 知的障害のとらえ過多について、その原因や症状、援助の観点について概説する。知的障害のある子どもが身体とこころの健康を保ちながら、保育所で質の高い生活を送るために、保育士にはどのような関わり方が求められるか。知的障害の特徴を学ぶとともに、実際の関わりの留意点について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３９～５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第５回	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助 【Key words】 視覚障害、聴覚障害、言語障害、吃音、デシベル、感音難聴と伝音難聴、視力・色覚・視野の障害 【授業概要】 「みる」「きく」「はなす」は、人が身の回りの世界をとらえ、青果とつながるための重要な機能である。これらの機能における障害は、対人コミュニケーションの困難にとどまらず、知的発達や運動発達にも大きく影響する。視覚・聴覚・言語障害の特性や援助の視点について学び、障害体験や演習を通して障害への理解を深める。さらに、保育における課題への理解を深めるための関連事項も紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ５２～６６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第６回	発達障害児の理解と援助（ＡＤＨＤ・ＬＤ・ＡＳＤ） 【Key words】 ＡＳＤ、ＡＤＨＤ、ＬＤ、構造化、TEACCHプログラム 【授業概要】 発達障害の特性と援助について理解を深める、発達障害の定義や、代表的な発達障害としてのADHD・LD・ASDの特徴について概観するとともに、発達障害の特性に基づいた保育の工夫について学ぶ。演習では、ADHDの特性に基づく保育を検討するための演習を行う。応用として、発達障害の背景にあると考えられる脳機能に関する最近の研究と二次障害の予防について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ６８～７８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第７回	重傷心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 【Key words】 大島分類、てんかん発作、医療的ケア、愛着、ボウルビィ、ＰＴＳＤ、愛着障害、ＡＡＣ 【授業概要】 障害児保育における課題の１つに、障害の重度化と多様化への対応が上げられる。本講では、重度化の問題として重傷心身障害児と医療的ケア児を、多様化の問題として心理・社会的な要因が背景にある愛着障害をとりあげる。最初に、障害と支援について解説し、発達の評価と代替コミュニケーションに関する演習をして、最後に重症心身障害児の心的反応について紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８０～９２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第８回	指導計画および個別の支援計画の作成 【Key words】 個別支援計画、個別の指導計画、記載内容、子どもの実態把握、具体的な指導内容、評価 【授業概要】 個別の支援計画や指導計画について学び、どのような内容が記載されるのかを理解し、さまざまな自治体や保育所で作成されている様式を見比べたり、実際に自分なりに作成するなどする。また、作成後に必要なことを理解するとともに、個別の支援計画や指導計画のかかえる課題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９４～１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。
	第９回	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い 【Key words】 環境への適応、身辺自立、遊び、人的環境としての保育者、並行通園、交流保育、問題行動 【授業概要】 障害のある子ども一人ひとりの発達をうながすとともに、子ども同士がかかわり、育ち合う生活や遊びの環境とはどのようなものか考える。まず、保育者が考慮すべき子どもの生活と遊びの発達と環境、障害児保育の形態、障害のある子どもとつながっていく過程について学ぶ。さらに、具体的なかかわりや環境構成のために必要なことを演習形式で学び、さいごに実際に障害児保育を行う際の留意事項をテーマに沿って考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１０６～１２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。

	第１０回　障害児保育における子どもの健康と安全 【Key words】 ヒヤリハット、安全管理、健康問題、障害児における健康と安全の学び 【授業概要】 障害児保育における健康と安全について留意すべき事を確認し、健康状態の把握と安全管理についての基本を学ぶ。具体的には、多岐にわたる障害の状態に応じた健康・安全上の問題について調査・整理し、議論することにより理解を深める。さらに、保育者が子どもに医行為などの処置を行うにあたっての条件を整理し確認する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２２～１２３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。 第１１回　職員間の連携・協働 【Key words】 園内外の連携と協働、障害の受容、保建センター、カンファレンス、 【授業概要】 障害のある子どもの成長・発達のためには、保育所の職員間の連携・協働だけでなく、保護者や専門機関、地域住民との連携・協働がひつようである。ここでは、保育所の職員と保護者、専門機関などとの連携・協働について学び、発達障害のある子どもについて関係者はどのように連携・協働したらよいか演習方式で学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３４～１４６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。 第１２回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 【Key words】 障害受容、ピアサポート、きょうだいへの支援 【授業概要】 障害のある子どもの保護者や家庭への支援の基本と応用について学ぶ。具体的には、保護者支援の基本姿勢や障害受容について学ぶ。演習として２つの異なる背景の事例を通して具体的な考え方や支援の方法を整理し、家庭への支援の応用として、当事者や保護者同士の交流や支え合いときょうだいへの支援についても理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４８～１５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。 第１３回　地域の専門機関との連携 【Key words】 【授業概要】 地域の専門機関との連携について、①なぜ連携が必要なのか、②どのような専門機関と連携するのか、③どのように連携していくとよいのかという３つの観点から概説し、その役割について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１６０～１７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。 第１４回　小学校との連携 【Key words】 就学時健康診断、通級指導教室、特別支援学校、特別支援学級、校内委員会。コーディネーター、教育支援員会 【授業概要】 子どもたちは幼稚園・保育所から小学校への入学（就学）を体験する。本講では小学校との連携のなかでも、より現実的で最も重要な「就学の際の支援」、いわゆる「移行支援」に注目し、①就学に関する基本的事柄、②移行支援の実際と課題、③移行支援の新たな取り組みと連携の重要性の３つを取り上げる。まず、①と②について解説し、③を中心に移行支援の取り組みを紹介し、そこからみえてくるさまざまな課題や可能性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１７２～１８４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業終了後はテキストと配付資料を中心に復習し、次回の小テストに備えること。 第１５回　福祉・教育における現状と課題 【Key words】 児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援、障害児相談支援 【授業概要】 障害児支援の目標は、地域で育ち、地域で暮らせる人を育てることである。育つ力の育成には、リハビリテーションなどの医療的支援の基盤として良質な保育が不可欠である。地域の子育て支援の拠点である保育所にも多くの障害児が在籍し、その支援が求められている現在、保育士が障害児に関連する法制度を学ぶことは重要である。本講では、近年変化している障害児支援のための制度の変化を知り、地域での連携の意義やその課題について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１８６～１９６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期試験に向けて、全範囲の復習をしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	・私語や携帯電話の操作を慎む ・授業で配布する資料の予備は保管しませんので、出席者からコピーをとるなど各自で対処して下さい。 ・毎回の授業で小テストを実施するので、前回授業の復習をして臨んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード

授業外時間にかかわる情報	障害のある子どもとかかわることのできるボランティアに積極的に参加し、授業で習ったことを確認する機会として下さい。
オフィスアワー	金曜日（10:30～12:00）
評価方法	筆記試験（７０％）　小テスト（３０％）
教科書	障害児保育　新基本保育シリーズ⑰　中央法規出版　2019
参考書	授業の中で適宜紹介します。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害児入所施設や児童相談所における障害のある子どもへの支援経験を生かし、より具体的で実践的な教授内容の発信に努めている。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会的養護内容　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要である。子どもの将来を見通した施設における社会的養護のあるべき姿と、その基本理念を中心に理解し考察していく。そして、現場での実践に活かしていくことを目的とする。
授業の概要	児童を取り巻く社会環境の変化は、子どもの心身の発達のみならず、家庭や社会環境にも影響を与えている。なかでも、家庭の変貌は著しく、児童福祉の領域における家庭の問題は、社会全体の問題である。問題解決が困難な時、社会資源の活用が必要である。本講義では、社会的養護の意義について資料を通して理解していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　社会的養護の内容とは（総論） 第２回　児童福祉施設入所の意義について 第３回　児童福祉施設の社会的養護について 第４回　児童福祉施設における子どもの心の理解 第５回　児童養護の方法の基本的な考え方 第６回　子どもの成長・発達の保障について 第７回　基本的な日常生活に関する社会的養護や心理治療的援助の内容 第８回　社会的養護における専門的援助・支援 第９回　母子生活支援施設における社会的養護 第１０回　児童養護施設における社会的養護 第１１回　福祉型障害児入所施設における社会的養護 第１２回　医療型障害児入所施設における社会的養護 第１３回　児童自立支援施設における社会的養護 第１４回　情緒障害児短期治療施設における社会的養護　児童福祉施設の援助者 第１５回　家庭支援の基本とその内容　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	・人との出会いを大切にする学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。 ・欠席・遅刻者の代返は認めない。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	0
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業に取り組む姿勢　＊リポート　＊提出物（提出期日厳守）＊定期試験
教科書	社会的養護内容　福永博文編者　北大路書房
参考書	指定しない
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓・曽田　梨央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅰ（音楽）にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、速やかに実践(パフォーマンス）できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。 【到達目標】 バイエル、ピアノの森、ブルグミュラー、ソナチネ等を演奏することができる。弾き歌いのレパートリーを増やし、ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画的表現と合わせて総合的にとらえ、発表や指導ができる。子どもの発達に即したパフォーマンスができる。
授業の概要	5名前後のグループに分かれ、学生それぞれの進度に応じて個別にレッスンする。弾き歌いについては基本的なピアノ伴奏法や歌唱法を授業する。また、総合的な表現の発表や指導ができるよう、子どもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入等について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目（前期）オリエンテーション

【key words】
前期授業概要
【授業概要】
オリエンテーション・クラス分け・学生それぞれの進度に合わせた曲決め（バイエル修了＋弾き歌い5曲暗譜）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・創作物語内容説明小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ピアノの森・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法/弾き歌いと身体表現

【key words】
1年次に修得した基本的な音楽知識とピアノ演奏技術を基礎としてレベルアップを図る
【授業概要】
ピアノ曲・身体表現・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

	第３回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ピアノの森・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法/弾き歌いと身体表現 【key words】 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 【授業概要】 ピアノ曲・身体表現・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第４回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ピアノの森・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法/弾き歌いと身体表現 【key words】 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 【授業概要】 ピアノ曲・身体表現・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第５回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（バイエル・ピアノの森・ブルグミュラー・ソナチネ等）：ピアノ演奏法/弾き歌いと身体表現 【key words】 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 【授業概要】 ピアノ曲・身体表現・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第６回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法 【key words】 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第７回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法 【key words】 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）

ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・カデンツ）：ピアノ演奏法
【key words】
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
試験曲（弾き歌いを2曲選曲し、当日1曲指定されたものを暗譜で演奏）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（試験曲数のクリアに向けて）
弾き歌いの練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲弾き歌い決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（試験曲数のクリアに向けて）
弾き歌いの練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こども

のうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲弾き歌いの練習と暗譜
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
弾き歌いの練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする）
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて：リハーサル
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする）
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ

第１６回　科目（後期）オリエンテーション　創作課題パフォーマンス内容についてのガイダンス及びＤＶＤ鑑賞
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
ガイダンス：創作物語、パフォーマンス内容の説明及びＤＶＤ鑑賞
ピアノ曲（ピアノの森以上）1曲
弾き歌い（季節・行事・生活・遊び歌等自分で選曲する）5曲暗譜
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ曲・弾き歌い）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・創作課題
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
創作物語：対象年齢を考慮した物語の流れを考える
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ曲・弾き歌い）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・創作課題
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
創作物語：対象年齢を考慮した物語の流れを考える
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ曲・弾き歌い）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・創作課題
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
創作物語：対象年齢を考慮した物語の流れを考える
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

	第２０回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（ピアノ曲・弾き歌い）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・創作課題 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作物語：対象年齢を考慮した物語の流れ・パフォーマンス方法を考える 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第２１回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・創作課題 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作物語：対象年齢を考慮した物語の流れ・パフォーマンス方法を考える 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第２２回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・ペープサート・パネルシアター・紙芝居等 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作課題の具体的な表現方法を考え、準備する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第２３回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・ペープサート・パネルシアター・紙芝居等 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作課題の具体的な表現方法を考え、準備する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第２４回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・ペープサート・パネルシアター・紙芝居等 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作課題の具体的な表現方法を考え、準備する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示
	第２５回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・ペープサート・パネルシアター・紙芝居等 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 創作課題の具体的な表現方法を考え、準備する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 創作課題全場面仕上げ
	第２６回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・創作課題）／パフォーマンス内容（ペープサート・紙芝居等）について 【key words】 弾き歌い・創作課題 【授業概要】 創作課題全場面リハーサル 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 創作課題改善

	第２７回　創作課題リハーサル① 【key words】 弾き歌い・創作課題 【授業概要】 創作課題全場面リハーサル 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 創作課題改善 第２８回　創作課題リハーサル② 【key words】 後期試験に向けて（全4場面の中から当日2場面を指定されパフォーマンスする） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い・創作課題の仕上げ 試験曲数のクリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第２９回　創作課題仕上げ 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い・創作課題の仕上げ 試験曲数のクリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い・創作課題の仕上げ 授業内課題をクリアする 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 創作課題の仕上げ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後の３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内課題20%・創作課題リハーサル10%
教科書	①『バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社　②『新訂ピアノの森２』田丸信明編：GAKKEN　③『新訂ピアノの森３』田丸信明編：GAKKEN　④『ブルクミュラー　25の練習曲』全音楽譜出版社　⑤『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑥『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑦『こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社　⑧『続こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　児童文化（演習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	２単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童文化財の作成を通して、児童文化に対する知識と技術を身につける。 保育現場での児童文化財のあり方を理解し、活用・実践がすぐに出来るようになる。 【到達目標】 保育実習などで、実際に子どもたちの前で絵本を読んだり、紙芝居を演じることが出来るようになる。 保育者になってからも、適切な児童文化財を選び用いることが出来るようになる。
授業の概要	保育者としての役割を理解し、実践につなげていくこと。子どもが児童文化に親しむ保育環境を理解し、実際の教材作りを通してなぜ児童文化財が必要なのかを体感する。また、グループ発表をする事で、実践の場ですぐに活用できるスキルを高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション
【key words】
授業概要説明
【授業概要】
授業概要説明
揃えてもらう教材の説明
【課題・予習・復習】
スケッチブック・折り紙など用意するものについて
【教科書ページ・参考文献】

第２回　保育実践としての児童文化　　折り紙の実践①
【key words】
折り紙
【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする
【課題・予習・復習】
新聞紙シアターの説明と準備について
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第３回　児童文化を保育に生かす　　新聞紙シアター　ペープサート　演じ方　　手遊び
【key words】
新聞紙シアター
【授業概要】
身近にある素材をつかった児童文化財。全員で手順を確認しながら技術を身に付ける。「ペーパーさんの大冒険」　　新聞紙を使った遊びを考え、グループで提案発表しながら遊ぶ。
ペープサートの演じ方や歴史を学ぶ　　保育雑誌「ピコロ」を活用して保育教材を作成する
【課題・予習・復習】
新聞紙用意
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第４回　児童文化財　パネルシアター　①　概要説明　展開の方法

【key words】
パネルシアター　概要説明　展開
【授業概要】
パネルシアターバッチリキットの中身を確認し、完成したものを見ることでイメージを膨らませる。
【課題・予習・復習】
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド
【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット
パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著　　他

第５回　児童文化財　パネルシアター　②　各自製作
【key words】
パネルシアター　製作
【授業概要】
作品作り
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。
【課題・予習・復習】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド
【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット
パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著　　他

第６回　児童文化財　パネルシアター　③　各自製作(着色)
【key words】
パネルシアター　着色
【授業概要】
作品作り
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。
【課題・予習・復習】
白いPペーパは自由に作るものであり、事前にパネルシアターの本から作るものを決めておく。
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド・貼れるボード
【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット
パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著　　他

第７回　児童文化財　パネルシアター　④　演じ方の練習
【key words】
パネルシアター　演じ方
【授業概要】
作品を完成させる。パネルを作成する。
各自演じ方の練習をする。
【課題・予習・復習】
完成しなかった場合は、次回の授業までに完成させておく。
【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット

第８回　児童文化財　パネルシアター　⑤　グループ内発表
【key words】
パネルシアター　グループ内発表
【授業概要】
実際に作成した作品を実演したり、他の人の作品を見る。
パネルシアターの作り方がわかったことで、実習や就職後でも作れ、レパートリーが増やせるようにしておく
【課題・予習・復習】
演じ方の練習
完成させておく
【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット
パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著　　他

第９回　折り紙の実践②
【key words】
折り紙
【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる
【課題・予習・復習】
計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第１０回　手づくりパペットシアター　①　　概要説明　展開の方法
【key words】
人形劇　絵本
【授業概要】
手づくりパペットシアターの概要と展開の方法を説明し、グループを決める
グループで協力して、課題の絵本の中から作りたい作品を選び、方向性を話し合う。
手づくりパペットシアターの概要と展開の方法を説明し、グループを決める
【課題・予習・復習】
グループで話し合って、必要なものを用意しておく
【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ベープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著　他
絵本(岡部用意)

第１１回　手づくりパペットシアター　②　グループワーク　台本づくり
【key words】
パペットシアター　構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業
【授業概要】
パペット・台本・演出を考え、製作から発表までの計画を具体的にたてる
グループごとにパペットシアターの構想・演出・製作・練習をすすめる。造形に対する感性と表現を考える。

・パペットはなるべく廃材を利用し、作品の上演時間は短めのショートスタイルとする。
・必要な材料を書き出し、準備しておく。

【課題・予習・復習】
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく
【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ベープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著　他

第１２回　手づくりパペットシアター　③　グループワーク　作成・練習
【key words】
手づくりパペットシアター　グループワーク　作成・練習
【授業概要】
パペット単体でも、保育現場で実際に使うことを考え、年齢や作業工程・使用方法を考える。
他者の意見を取り入れ、グループ全体で協力する

・セリフを考えるときに意見が分かれたときは、他のグループの意見を参考にしたり、通し練習を見てもらうなどする。
・パペットの動かし方や声の出し方を工夫する
・書記係りは進行の状況を記し、計画通りに進んでいるかチェックする。遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
【課題・予習・復習】
発表に向けて各グループで練習をしておく
【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ベープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著　他

第１３回　手づくりパペットシアター　④　グループワーク　発表
【key words】
手づくりパペットシアター　グループワーク　発表
【授業概要】
保育現場で使うときの注意点や配慮することなどを考え、レジュメにまとめる。
他者の作品を見たり、発表を聞くことで、改善点やアイディアを参考に出来るようにする。
グループごとに練習してきたものを発表し、クラス全体で相互評価をする。
手づくりパペットシアターの概要と展開の方法を説明し、グループを決める
【課題・予習・復習】
改善・反省のための記録をとり、振り返る
【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ベープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著　他

第１４回　児童文化を保育に生かす教材について
【key words】
保育教材
【授業概要】
保育雑誌ピコロから保育教材を作成し、保育現場でいつでも使えるように練習する。
【課題・予習・復習】
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第１５回　前期まとめ　折り紙の実践③
【key words】
折り紙　前期まとめ
【授業概要】
前期の講義内で作成したものを提出し、他者の作品にも目を向ける。
時間内に完成しなかったものについては、後期中に提出となる
後期の一回目で使うものを伝え、用意するようにする。
【課題・予習・復習】
次回提出できるようにしておく
【教科書ページ・参考文献】

ピコロ

第１６回　後期オリエンテーション　折り紙の実践④

【key words】
折り紙
【授業概要】
前期の授業で作成した折り紙のスケッチブックを提出する。
【課題・予習・復習】
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第１７回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）①　　紙芝居の歴史

【key words】
紙芝居　歴史
【授業概要】
保育現場での紙芝居の使用に向けた実践的な学び。また、日本の伝統的な児童文化財である紙芝居の歴史を学ぶ。
【課題・予習・復習】
次回の授業で必要なものを確認する
【教科書ページ・参考文献】
岡部レジュメ

第１８回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）②　　上演のポイント　選択・練習　幕紙づくり

【key words】
紙芝居　上演方法　幕紙
【授業概要】
紙芝居幕紙作り。幕紙の使い方を知り、作成し、実際に紙芝居を演じる。
【課題・予習・復習】
必要なもの　　紙芝居幕紙づくり　スティックのり・メンディングテープ・ハサミ・カッター・包装紙二色
【教科書ページ・参考文献】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者

第１９回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）③　　上演のポイント　発表

【key words】
紙芝居　実践　グループ
【授業概要】
人前で練習してきた紙芝居を上演することで、実際の保育現場において効果的に行えるようにする。
紙芝居の内容を聞き手である相手に伝えるための声の出し方とはどのようなものかなど、上演するときのテクニックを学ぶ。
【課題・予習・復習】
課題の紙芝居の練習をしておく
【教科書ページ・参考文献】
ばけこちゃんのおおそうじ(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのおしょうがつ(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのおつきみ(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのおべんとう(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのかさ(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのたなばた(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社
ばけこちゃんのひなまつり(おひさまこんにちわ年少向け)苅田澄子/童心社

第２０回　児童文化の実践　外部講師

【key words】
紙芝居　上演
【授業概要】
「紙芝居のたね」水出真弓先生を迎えて、本格的な紙芝居の上演を見る。授業で学んだことを実際に見て、間の取り方や環境設定・紙の抜き方・声の出し方を学ぶ。
【課題・予習・復習】
学んだ紙芝居の上演方法や気になったことをまとめておく
【教科書ページ・参考文献】

第２１回　保育と絵本　年齢にあった絵本について

【key words】
絵本　保育
【授業概要】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方をスライドで学び、絵本とはなにか、絵本を用いた保育の展開を学ぶ。
【課題・予習・復習】
次回確認テストをするため　復習をしておく
【教科書ページ・参考文献】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方　山梨県立図書館　確認シート
次回、絵本に関する確認のテストを行う。
次回、絵本を持参する。持っているものや図書館で借りたものなど。

第２２回　絵本　ブックトーク　グループワーク

【key words】
絵本　ブックトーク　グループワーク
【授業概要】
前回の確認テスト
自分自身が子どもたちの前に立ち、絵本を実演することを想定しながら、物語を相手に伝えるためにはどのようなポイントがあるのかを知る。また、前回の絵本のあり方について確認する。グループで一人一人が持参した絵本を読む。なぜこの絵本にしたのかや、対象年齢を言いブックリストをつくる。たくさんの絵本に触れ身近に感じる。
【課題・予習・復習】
確認テストで分からなかったことやもっと知りたいことを復習しておく
【教科書ページ・参考文献】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方　山梨県立図書館

第２３回　折り紙の実践⑤
【key words】
折り紙
【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。
【課題・予習・復習】
時間内に終わらなかったものは次回までに仕上げておく
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第２４回　児童文化を保育に生かすための教材について
【key words】
児童文化　保育
【授業概要】
保育雑誌ピコロから保育教材を作成し、保育現場でいつでも使えるように練習する。
【課題・予習・復習】
各自必要なものを用意しておく
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第２５回　シアタースタイルの児童文化財　年齢別場面別プログラムの作り方
【key words】
児童文化財　年齢別　プログラム
【授業概要】
子どもの発達を知り、年齢にあった手遊びなどを考え、実践的な児童文化財をもちいた保育内容を構成する。
就学前の子どもの育ちと文化的環境について。
子どもの発達やその時期にふさわしい児童文化財が整えられる環境づくりについて。
【課題・予習・復習】
【教科書ページ・参考文献】
ことばと表現力を育む児童文化　萌文書林
手づくりパペットシアターの概要と展開の方法を説明し、グループを決める
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編

第２６回　保育教材としての手作りおもちゃ①　各自製作
【key words】
手づくりおもちゃ
【授業概要】
年齢にあった児童文化財を選び、場面構成や導入、子どもたちの声掛けの仕方などを学ぶ
【課題・予習・復習】
各自必要なものを用意しておく
【教科書ページ・参考文献】
ことばと表現力を育む児童文化　萌文書林

第２７回　保育教材としての手作りおもちゃ②　各自製作　仕上げ
【key words】
手づくりおもちゃ　製作　仕上げ
【授業概要】
実践で使えるように丁寧に作業をし、仕上げる
授業時間内に終わらなかったものは次回の授業までに仕上げておく。
【課題・予習・復習】
各自　必要なものを用意しておく
【教科書ページ・参考文献】

第２８回　保育教材としての手作りおもちゃ③　あそびの展開の仕方について
【key words】
手づくりおもちゃ　展開方法
【授業概要】
保育教材としての手づくりおもちゃの意義を知り、ニーズにあったおもちゃを提供できるようにしておく。あそびの展開としては、対象年齢や導入の仕方・展開の方法を具体的に考えておくことで、対応できるようにしておく。レジュメにまとめる。
【課題・予習・復習】
展開方法を考えまとめる
【教科書ページ・参考文献】

第２９回　折り紙の実践⑥　　仕上げ
【key words】
折り紙　仕上げ　スケッチブック提出
【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。
【課題・予習・復習】
提出できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

第３０回　児童文化演習　まとめ　　児童文化財とをもちいた保育の実践　（保育者の専門性について）
【key words】
児童文化演習　まとめ　専門性
【授業概要】
通年で学んだことの振り返りをして、身につけてきた保育技術を発揮することが出来るように総復習する。
児童文化演習　まとめ　課題提出　実践方法の考察
【課題・予習・復習】
課題が提出できるようにしておく

	【教科書ページ・参考文献】
受講生に関わる情報および受講のルール	発表に備えて計画的に製作等すすめておくこと。授業シラバスを確認し、積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。グループ活動も行うので協調性をもって参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	自分自身が保育現場に立ち、児童文化財を用いた保育を展開している姿を想像しながら、演じたい作品を自らが選んだり、作成したものを色々な所で上演することで身に付けていく。また、時間内に完成しなかったものも、丁寧に自分自身のスキルアップのために完成させ、より自分のものにして欲しい。自分自身の幼少体験を思い出し、懐かしいおもちゃや絵本を見返したり、現在の絵本や玩具はどうなっているのかなど、話題を調べたり、実践的な体験を積みかさねてほしい。また、次回の授業の準備確認をし、必要な材料などを揃えておく。
オフィスアワー	授業終了30分
評価方法	出席状況、授業への参加態度・意欲、課題への取り組み、提出物、発表内容、試験などにより総合的に評価する。
教科書	パネルシアターバッチリキット　ひかりのくに　阿部恵
参考書	紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者 読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方　山梨県立図書館 ピコロ2019　学研プラス その他　授業中に随時紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所勤務の経験をいかして、保育現場での実践方法を指導する。また様々な事例を想定して、演習中心の授業を行い、対応できるスキルを身につけていく。 主に紙芝居の講演活動(様々な保育現場において)を行っている経験から、プログラムの立て方や子どもたちへの話し方、実際の上演方法を指導する。 制作物は作り上げ完了ではなく、その後実際に保育や教育にいかすことできるようグループ内で演習したり、他者の意見を参考にして改善していけるようにする。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習指導Ⅰ（施設）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	１単位（60）	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習における施設実習の意義と目的を理解し、施設保育士の倫理や役割を理解が深まる効果的な実習とするために必要な知識と態度を習得する。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し、実習生としての心得を身につけ実行できる。 ②実習施設の法的根拠、目的、利用児（者）の状況、１日の流れ、配置職員等を説明できる。 ③実習施設の利用児（者）に対する基礎的な支援方法を想定できる。 ④実習記録や関係書類を適切に記載することができる。
授業の概要	前期では、施設実習の意義と目的を確認し、様々な種別の実習施設について法的根拠、設置目的、業務内容等を広く学ぶ。さらに、事前学習として実習先へのボランティア活動を実施することで、実習施設についての理解を深めていく。 後期は、実習施設の概要や利用児（者）について理解した上で、実習計画書を作成する。また、実習日誌の書き方や関係書類の作成方法、実習オリエンテーションの対応方法や実習直前の再確認を行うなかで実習への意識を高めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（保育実習体系・授業概要・１年間の流れの確認） 【key words】 保育士資格　　保育実習Ⅰ（施設）　　保育実習指導Ⅰ（施設） 【授業概要】 保育士資格を取得するために必要な実習と実習教科目および実習のための要件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ・ガイドブックＰ７～１２　　・授業概要 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業概要をダウンロードして持参すること
	第２回	施設実習の意義と目的・実習先種別の理解 【key words】 施設実習の意義　　施設実習の目的　　施設実習の内容　　種別とは 【授業概要】 施設実習は、保育士養成課程における必修科目として保育実習Ⅰに位置づけられている。その意義と目的をりかいした上で、保育所以外の児童福祉施設（成人の福祉施設も含む）で働く保育士の仕事への理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ・ガイドブックＰ７～１２　　・教科書Ｐ８～１１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の「乳児院」に関するページを読んでおくこと
	第３回	実習施設の理解と実習内容①　乳児院 【key words】 乳児院　　社会的養護　　愛着形成　　担当制　　里親制度 【授業概要】 乳児院の概要や特徴を学び、子どもと担当者のあいだで愛着関係が形成されるよう、担当制で養育する取り組みや一人ひとりに合わせた養育について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。ま

た、入所の背景にある社会的問題についても考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２９・Ｐ６６～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第４回　実習施設の理解と実習内容②　児童養護施設
【key words】
児童養護施設　社会的養護　自立支援　児童虐待
【授業概要】
児童養護施設の概要や特徴を学び、子どもたちの自立支援をはじめとする施設の機能や、一人ひとりに合わせた支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、入所の背景にある社会的問題についても考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２８・Ｐ６４～６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教教科書の該当ページを一読しておくこと

第５回　実習施設の理解と実習内容③　児童相談所および一時保護所
【key words】
児童相談所　一時保護所の機能　守秘義務　児童虐待　児童福祉法
【授業概要】
一時保護所の概要と特徴を学ぶとともに、児童相談所の児童福祉司や児童心理司との連携、一時保護となる背景、一時保護所での生活について、とりわけ群馬県の状況を中心に概説する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１・Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第６回　実習施設の理解と実習内容④　福祉型障害児入所施設
【key words】
福祉型障害児入所施設　療育とは　加齢児　個別支援計画
【授業概要】
福祉型障害児入所施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた食事・着脱・排泄などの日常生活動作（ＡＤＬ）の支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、入所の背景にある社会的問題（養護上の問題）や退所にむけた自立の支援についても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２・Ｐ７２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第７回　実習施設の理解と実習内容⑤　医療型障害児入所施設
【key words】
医療型障害児入所施設　多職種連携　医療的ケア　重症心身障害
【授業概要】
医療型障害児入所施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた医療的視点を組み込んだ食事・着脱・排泄などのの支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、言葉を使いこなせない利用者の思いを共感的に理解する支援や入所の背景にある社会的問題（養護上の問題）についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２・Ｐ７２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第８回　実習生紹介表を書いてみよう
【key words】
実習生紹介表　実習生の心構え・マナー・礼儀
【授業概要】
実習生紹介表を記入するにあたり、実習生としての心構えや基本的態度について確認する。実習生紹介表が第一印象となることの重要性を理解し、それにふさわしい記入の文字や内容となるよう指導する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習用写真を学生課で１枚もらっておくこと

第９回　実習施設の理解と実習内容⑥　児童発達支援センター
【key words】
児童発達支援センター　療育　就学支援　家庭との連携　並行通園
【授業概要】
児童発達支援センターの概要や特徴を学び、一人ひとりの障害特性に合わせた生活指導や療育プログラムについて、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、保育所等と連携する並行通園のあり方や、就学にむけた支援、家庭との連携についても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３３・Ｐ７８～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第１０回　実習施設の理解と実習内容⑦　障害者支援施設
【key words】
障害者支援施設　障害者総合支援法　生活の質　余暇活動　高齢化
【授業概要】
障害者支援施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた支援をうけながら、「家」として日々の生活を楽しみながら過ごすこと。入所者の高齢化が進み、医療との密接な連携や生活への

配慮について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３４・Ｐ７８～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第１１回　実習施設の理解と実習内容⑧　障害福祉サービス事業所
【key words】
障害福祉サービス事業所　　生活介護　　就労移行支援　　就労継続支援Ａ／Ｂ型

【授業概要】
障害福祉サービス事業所の概要や特徴を学び、障害のある人が働くことへの支援の意義について確認する。障害の有無にかかわらず、一人の社会人としての社会参加として作業や就労が位置すくことをＤＶＤ視聴も加えて理解する。さらに、職員が個々の障害特性に合わせてどのような配慮をして環境整備を行っているかという視点を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３５・Ｐ８４～８５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを一読しておくこと

第１２回　障害のある子どもが楽しめるおもちゃを作ろう
【key words】
発達段階　　楽しさ　　興味関心
【授業概要】
障害のある子どもの発達段階を意識して、五感を使って家族とともに楽しめる遊び教材を手作りする（平成２８年度は「紙皿シアター」、平成２９年度は「パズル」を製作）。製作物は、たんぽぽ学園の子どもたちとの交流活動に参加する際のお土産として持参する。

【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を準備します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備物について前回の授業時に指示します

第１３回　先輩講話（前年度の実習生から話しを聴く）
【key words】
実習先理解　　不安感の軽減　　先輩の体験
【授業概要】
種別ごとのグループを作り、１グループに１人、先輩を招いて体験談を話してもらい、質疑応答によって実習先への理解を深めるとともに、不安感の軽減を図る。

【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ分けを前回の授業時に伝達します

第１４回　実習施設概要書の作成
【key words】
実習施設概要書　　記載要領　　自主学習
【授業概要】
実習施設の設置目的、業務内容および支援の内容等、基本的な知識を自ら情報収集して記載することにより、理解を定着させる。不明な点については夏休みの事前ボランティアの際に、実習先で確認して記載すること。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１０６～１１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までに調べられる範囲で記載してくること

第１５回　夏期休業中の事前学習指導
【key words】
事前ボランティア（心構え・マナー等を含む）　　ボランティア日誌
【授業概要】
夏期休業中に、実習の事前学習として自主的にボランティアを実施するのが恒例となっている。このボランティアを実施することで、本番の実習が新しい場所・人・環境とならず緊張を緩和する効果が大きいためである。それに際して注意点や記録の書き方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１０６～１１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏休みの課題（実習先施設概要書・事前ボランティア・ボランティア日誌）の提出期限厳守

第１６回　児童発達支援センターでの体験学習
【key words】
児童発達支援センター　　たんぽぽ学園　　障害のある子との関わりのポイント
【授業概要】
毎年、たんぽぽ学園の園児との交流活動を実施している。園の概要を聞いてから、学生と園児の１対１で主に体を動かして楽しむ活動に参加する事前学習の一環である。

【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
当日の諸注意をよく確認して臨むこと

第１７回　後期オリエンテーション　　・　実習計画書作成の説明
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習
【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実

習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この週の金曜までに１回目の実習計画書の下書きを提出すること

第１８回　実習計画書の作成①　個別添削指導による加筆修正
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習
【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この週の金曜までに２回目の実習計画書の下書きを提出すること

第１９回　実習計画書の作成②　完成　・　誓約書の記入
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習
【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７　　および　Ｐ１１８～１１９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この時間内に実習計画書が完成しない場合は、個別指導となる

第２０回　実習の名札を作ろう
【key words】
安全への配慮　　わかりやすさ　　親しみやすさ
【授業概要】
保育実習（施設を含む）と幼稚園実習で使用する名札の作成方法と、配慮するポイントについて学び、実際に自らでデザインを考え、材料をそろえ、製作する。

【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
裁縫セット、名札作製の材料　を持参すること

第２１回　実習日誌の書き方①　基本事項の確認
【key words】
実習日誌を書く意味　　記載要領　　考察とは　　ＰＤＣＡ
【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書とガイドブックは忘れずに持参すること

第２２回　実習日誌の書き方②　ＤＶＤを観て考察を記録する
【key words】
実習日誌を書く意味　　記載要領　　考察とは　　ＰＤＣＡ
【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書とガイドブックは忘れずに持参すること

第２３回　実習日誌の書き方③　話し言葉と書き言葉
【key words】
実習日誌を書く意味　　記載要領　　誤字脱字　　表現　　読みやすさ
【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書とガイドブックは忘れずに持参すること

第２４回　介護の基本技術
【key words】
支援の心構え　　支援のポイント（歯みがき・着脱・食事など）
【授業概要】

		短期大学部の先生を講師に、利用者の介護にたずさわる際の基本的な留意事項について、実践を交えて学ぶ。実際の実習では、実習指導者に指示を仰ぎながらの実践となるので、技術より心構えやマナー、配慮のポイントを重点に理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 別途、資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 体操服着用、長い髪はしばる等、介護技術を学ぶのにふさわしい身だしなみで臨むこと
	第２５回	実習オリエンテーションについて（目的・電話のかけ方・諸注意） 【key words】 実習オリエンテーションの意義　　訪問時の留意事項　　確認や指導を受ける事項 【授業概要】 実習開始日のおおむね１ヶ月前から実習先でのオリエンテーションがある。日程や内容確認は、学生が実習担当者に連絡をとり調整する。訪問時の留意事項や確認・指導を受ける事項について、漏れがないように理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ４８～５１　　ガイドブックＰ２０～２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々でやるべきことを確実に遂行すること
	第２６回	実習関係書類（実習日誌　・　巡回用案内地図　・　後期試験の対応　・　自家用車使用届等） 【key words】 実習に関係するさまざまな書類 【授業概要】 実習の前後において、様々な書類の作成・提出があるので、その記入や対応の方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ガイドブックＰ２２～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々でやるべきことを確実に遂行すること。とくに提出物について漏れがあると実習が行えない場合もある。
	第２７回	直前指導①　巡回指導への対応　　最近検査の説明　　実習反省会 【key words】 巡回指導とは　　細菌検査とは　　実習反省会 【授業概要】 細菌検査の実施および提出方法、結果の受け取りと実習先への提出を理解し確実に実行する。巡回指導は、原則１回で、留意事項を理解しておく。実習反省会の形態も実習先によりさまざまであるが、臨む際の注意事項を理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 ガイドブックＰ２２～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々でやるべきことを確実に遂行すること。とくに提出物について漏れがあると実習が行えない場合もある。
	第２８回	直前指導②　こんなときどうする？トラブルシューティング 【key words】 報告・連絡・相談　　心身の健康　　学生事故補償制度 【授業概要】 実際に先輩たちが遭遇した事例などをもとに、判断に迷ったり困ったりしたときの行動について理解する。新しい環境での実習で心身の不調をきたす場合もあり、その予防と対策についても学ぶ。さらに、学生事故補償制度も理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ５２～５８・Ｐ１１６～１２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習教員への「報告・連絡・相談」を徹底すること
	第２９回	直前指導③　種別グループ指導 【key words】 種別ごとの実習のポイントや配慮 【授業概要】 実習先の種別によって、学びの視点、実習のポイントや配慮事項は異なる。種別グループごとにミニレクチャーを行い、質疑応答を行いながら実習直前の不安軽減を図る。 【教科書ページ・参考文献】 種別ごとに資料を配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個々で事前学習をしっかり行っておくこと
	第３０回	直前指導④　実習終了後（礼状・日誌返却）の対応　　直前最終チェック 【key words】 実習事後処理　　礼状の書き方　　自己評価　　実習報告書 【授業概要】 実習終了後、すみやかに事後処理を行うため、その意義や方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書・ガイドブックで重要事項の最終確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事後処理について、漏れのないよう実行すること
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻や欠席は必ず事前に届け出ること。欠席分については補講が発生することがある。 ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意すること。配布書類の予備は保管しないので出席者からコピーをすること。	

	・書類の提出期限は絶対厳守。 ・日常の学校生活における身だしなみや礼儀作法など、実習生となるのに相応しくないと認められた場合は、実習が中止されることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・「障害児保育Ｉ」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「社会的養護」の科目と関連が深いので、いずれも積極的に学んでおく。 ・日頃から新聞やニュースの情報で「虐待」「貧困」「障害」などの語句に敏感になり、情報を得る努力をしておくこと。
オフィスアワー	金曜（１０：３０～１２：００）
評価方法	定期試験７０％　　提出物状況（期限厳守・内容）３０％
教科書	１　群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学２０１６ ２　施設実習パーフェクトガイド　わかば社２０１７
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　みらい２０１７
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害児入所施設、児童相談所等での障害のある子どもや社会的養護の対象児童への支援および相談援助の経験を生かし、より具体的で実践的な教授内容の発信に努めている。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育社会学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。 〔到達目標〕 ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。 ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。
授業の概要	・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。 ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー子どもの発達と社会化（人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握）
	第２回	家族集団と子どもの社会化（親からの社会化、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安）
	第３回	仲間集団と子どもの社会化（仲間集団の特徴、自発的選択性･対等性･流動性、重要な他者、一般化された他者）
	第４回	近隣集団と子どもの社会化（水平的関係、垂直的関係、地域社会の社会化機能の弱体化）
	第５回	学校集団と子どもの社会化（1）　ー学校の構造と組織ー（制度､集団､組織としての学校、教員と児童生徒）
	第６回	学校集団と子どもの社会化（2）　ー学校集団の社会化機能ー（制度的カリキュラムと隠れたカリキュラム）
	第７回	学校集団と子どもの社会化（3）　ーその現代的課題ー（社会構造の変化、価値観の多様化と学歴社会）
	第８回	マス・メディアと社会化環境（子どもの生活へのマス・メディアの影響、印刷メディア、電波メディア、疑似環境）
	第９回	ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴と情報化社会の諸問題、メディアリテラシー教育、情報モラル）
	第１０回	社会の変動と少年非行（少年非行の特徴と原因、逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪）
	第１１回	「命」を守る学校（１）　－学校安全の必要性ー
	第１２回	「命」を守る学校（２）　－学校の安全管理・安全教育ー
	第１３回	教育におけるジェンダーをめぐる諸問題（隠れたカリキュラムにおける性差別、女子差別撤廃条約、男女共学）

	第１４回　　学校から社会・職業への移行（フリーター、ニート、年功主義、キャリア教育） 第１５回　　生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、経験知と専門知、コミュニティ･スクール）
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問内容を加味する（10%） ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）
教科書	住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門」北樹出版　最新版
参考書	加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房　最新版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解できる。 〔到達目標〕 ・教職の意義、教員の役割について説明することができる。 ・教員の職務内容について主なものを挙げ、説明することができる。 ・教員の服務義務に関する具体的事例について、服務上の義務規定に照らして説明できる。 ・今求められている教師像や教員の使命について挙げ、自分自身の考えも述べることができる。
授業の概要	・学校教育の概要を理解し、教員の使命や服務義務について理解する。 ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。 ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えを構築する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①教職の意義、教員の役割について説明することができる。	○	○	◎	○
②教員の職務内容について主なものを挙げ、説明することができる。	◎	△	○	○
③教員の服務義務に関する具体的事例について、服務上の義務規定に照らして説明できる。	○	△	◎	○
④今求められている教師像や教員の使命について挙げ、自分自身の考えも述べることができる。	○	○	◎	○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション ー教師とは何か　（教師という言葉の概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力） 【key words】 教師、教員、教職員、教諭、資質能力 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明　：学習内容は、「教師」という言葉・概念、教師に求められる役割、優れた教師とは、教師の資質能力について 【教科書ページ・参考文献】 16～29p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の理想的な教師像をイメージする心構えを持つ。　次回に向けて教科書66～99ｐを読んでおく。 第２回　学習指導（1）ーカリキュラムを作成する（カリキュラムの概念、学校の教育課程の編成と管理、教育課程編成の基準） 【key words】 カリキュラム、教育課程の編成・管理、学習指導要領の改訂

【授業概要】
教師の仕事の中核をなす学習指導とその基盤であるカリキュラムの編成について、カリキュラムと学校の教育課程、学習指導要領及びその改訂の観点から考察する。

【教科書ページ・参考文献】
66～99ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

カリキュラムについて実際の学校の教育課程をみて具体的に理解し、その基盤である学習指導要領とその改訂の変遷について理解する。　次回に向けて教科書100～116ｐを読んでおく。

第３回　学習指導（2）ー授業力をつける（授業力とは、授業力を高める手立て、学習意欲を高める方法）
【key words】
学力、授業力の要素、教材解釈、教材開発、授業評価

【授業概要】
教師の資質能力と専門性に負うところの大きい「良い授業をつくる力」について、子どもの学力の現状、授業力が問われる背景、授業力の要素、授業力をつけるという観点から考察する。

【教科書ページ・参考文献】
100～116ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

模擬授業を想定し、授業力について具体的に理解し、自分自身の改善点について考える意欲を持つ。　次回に向けて教科書32～56ｐを読んでおく。

第４回　生徒指導ー子どもの心理と行動（学校生活への適応､不適応、反社会的問題行動と非社会的問題行動、子どもの心に寄り添う指導、子どもを見る視点）
【key words】
発達課題、適応、不適応、生徒理解、問題行動、規範意識

【授業概要】
児童生徒を理解する上で必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式について、学校生活における適応、不適応、生徒理解、問題行動の現状といった観点から考察し、問題行動に対する指導の在り方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
32～56ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

生徒指導の基盤である生徒理解について、その視点や方法について具体的に理解する。　次回に向けて教科書56～64ｐを読んでおく。

第５回　学級の経営ー集団で指導する（学級担任の仕事、学級経営充実のポイント、よい級風をつくる）
【key words】
学級経営、学級活動、学級集団
【授業概要】
教師が学級担任として直面する学級集団づくりについて、学級担任の仕事、学級経営と学級活動、学級活動と学級集団づくりといった観点から考察し、学級活動における生徒指導の在り方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
56～64ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学級集団づくりは、児童生徒一人一人の人間的成長に関わる教師の重要な仕事であることを理解する。　次回に向けて教科書152～158ｐ、167～173ｐを読み、自分自身の学校生活における教師の様子を想起してみる。

第６回　学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会、教育環境の醸成、組織力の向上）
【key words】
校務分掌、職員会議、企画調整会議（運営委員会）、教育環境の醸成、学校組織機能の向上

【授業概要】
現在の学校の組織構造について、校務分掌、職員会議、企画調整会議、学校運営への参画　といった観点から具体的に考察する。
【教科書ページ・参考文献】
152～158ｐ、　167～173p
参考書：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣ｱﾙﾏ（2013/12）137～145p

【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校組織と構成員の役割について知り、教師がチームを組んで学校運営にあたっていることを理解する。　　次回に向けて教科書158～167ｐを読んでおく。

第７回　学校の運営（学校評価、学校運営への協力、自己申告制度・人事考課制度）
【key words】
学校の教育目標、学校経営計画、学校評価、自己申告制度、人事考課制度

【授業概要】
学校は、全教育活動を通じて学校の教育目標の具現化を目指し、学校経営計画を立案し、P-D-C-Aのサイクルによって内部評価、外部評価を行い、学校運営の改善を図っている。教職員は自己目標の設定と自己評価等によって学校運営に協力することが重要であることを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
158～167ｐ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校は組織体である、したがって教員は「学校という組織の一員である」ということの意味について具体的に理解する。　　次回に向けて教科書118～132ｐを読んでおく。

第８回　教員の養成と任用（教職の専門職性、教職員と職務、教員の養成、教員の任用）
【key words】
県費負担教職員制度、教育委員会制度、教員免許状、教員免許更新制

【授業概要】
国や地方公共団体が法令に基づいて教育政策や施策を決定、実施していることを教育行政の仕組みを通して考察し、教員の養成、教職の専門職性、教員の資格、教員免許状、教員免許更新制及び任用について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
118～132ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教員になるための条件、専門職性や資格の取得、任用の在り方について理解を深める。　　次回に向けて教科書132～138ｐを読み、教員研修にはどんなものがあるか知っておく。

第９回　教師の資質向上と研修（研修の法的根拠、教員研修の実際、研修の種類、教員としての資質と研修）
【key words】
学校管理職研修、教職経験者研修、初任者研修、職務研修、校内研修

【授業概要】
教員は、それぞれの職能、専門分野、能力、適性、興味、関心等に応じて、常に資質能力を向上させる必要があり、そのために「絶えず研究と修養につとめなければならない」と規定されている。この意味を教師の資質能力のとらえ方、教師の力量形成と研修、教師の職能成長と研修、研修の種類といった観点から考察する。

【教科書ページ・参考文献】
132～138ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教育公務員と地方公務員の「研修を受ける機会が与えられなければならない」という規定の意味の違いについて理解する。　　次回に向けて教科書138～150ｐを読んでおく。

第１０回　教員の服務制度と勤務条件（服務制度、身分保障と分限・懲戒、勤務条件）
【key words】
任免、服務義務、分限、懲戒、時間外勤務

【授業概要】
公立学校の教員について、教員の採用と任免、教員の服務義務、身分保障と分限・懲戒、教員の勤務条件といった点から考察し、身分上も職務上も厳しい基準が設けられているが、見方によってはそれだけ守られていることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
138～150p
【課題・予習・復習・授業準備指示】

服務義務の学習では、具体的な事例が法令で示されている義務・禁止・制限のどれに該当するか結びつられるように例題を通して考える。　　次回に向けて教科書152～155ｐ、234～239ｐを読んでおく。

第１１回　時代の流れと教師像の変遷（1）一戦前期の学校教育と教師像（近代学校成立以前、近代学校の成立、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像）
【key words】
寺子屋、学制、被仰出書、森有礼、聖職教師像、国民教育、沢柳政太郎

【授業概要】
教師はそれぞれの時代において様々な歴史性を帯びて存在している。そこでまず、近代学校成立以前の教師、近代学校成立と教師、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像という観点から戦前期における教師像について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
152p～155ｐ、　234ｐ～239ｐ
参考書：「新しい時代の教職入門」有斐閣ｱﾙﾏ 174～184p

【課題・予習・復習・授業準備指示】

江戸・明治期から第二次世界大戦までの間、教師像はどのように変遷してきたかについて、教科書に描かれていることなどから理解する。　次回に向けて教科書240～256ｐを読んでおく。

第１２回　時代の流れと教師像の変遷（2）一戦後教育改革と教育の普及（戦後の教師像、現在の教師像）
【key words】
教育使節団、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、中央教育審議会、臨時教育審議会

【授業概要】
戦後、教育法制、学校制度等の改革、第三の教育改革といった教育改革が進められる中で、教師像はどのように変遷してきたかについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
240～256ｐ

	参考書：「新しい時代の教職入門」有斐閣ｱﾙﾏ 184～192p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 戦後の教育改革の流れとその中における教師像の変化についてとらえる。　　次回に向けて教科書176～187ｐを読んでおく。 第１３回　教育の今日的課題（1）ー道徳教育の充実（道徳が教科化された背景、「特別の教科 道徳」の概要） 【key words】 道徳教育、「特別の教科　道徳」 【授業概要】 教育の今日的課題の一つである道徳教育、特に「特別の教科　道徳」について、中教審答申及び学習指導要領（一部改正）を基に、その概要とそれが要請された背景について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料（平成26年中教審答申、平成27年「学習指導要領解説　道徳編」等抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と「特別の教科　道徳」の目標、内容の概要を理解した上で、なぜそれが教育の今日的課題なのか考える。　　次回に向けて小学校の外国語教育に関する資料を探してみる。 第１４回　教育の今日的課題（2）ー小学校の外国語教育（外国語教育に関わる学習指導要領改訂のポイント、教科のイメージ、外国語活動･外国語科の目標） 【key words】 コミュニケーション能力 【授業概要】 学習指導要領改訂の中で大きな変化の一つである小学校における外国語教育について取り上げ、これまでの成果と課題、目標の改善等について理解し、今後の方向性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料（平成28年12月中教審答申、平成29年3月改訂学習指導要領、同年7月初等教育資料抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校における外国語教育が改訂されたポイントと理由について考える。 第１５回　教育の今日的課題（3）ーチーム学校運営への対応（学校組織マネジメント） 【key words】 学校組織マネジメント 【授業概要】 学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の教育資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かし、能力を発揮して、子どもたちに必要な資質･能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」になることが求められていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（「チーム学校運営の推進等に関する法律案概要」「チームとしての学校の在り方(要約)」文科省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く環境の変化に伴って、学校運営の在り方にも変化が求められている。このような中で、これからの教師はどうあるべきか、教職に就く心構えについて考える。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず用意し、予習・復習に活用する。 ・学校教育に関する報道等に関心を持ち、常に問題意識を持って受講する。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努める。 〔受講のルール〕 ・授業中携帯電話､スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止する。 ・欠席した場合は、出席者から授業で配付した資料を受け取り、熟読しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。
オフィスアワー	火曜日　9時30分～10時00分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。 コメントカードに記載された質問には、必ず返答する。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）
教科書	佐藤徹（編著）「教職論ー教職に就くための基礎・基本ー」東海大学出版　最新版
参考書	秋田喜代美・佐藤学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ　最新版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	義務教育学校及び教育行政職の実務経験を活かし、教育職として必要な知識、技能、価値、倫理について講じます。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉科教育法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた 実践力を身につける。 【到達目標】 １．高校生が教科「福祉」を学ぶ意義を理解する。 ２．興味をもって学べるような授業を目指して、教科「福祉」の指導内容とその取扱いについて理解する。 ３．「福祉」を考える教員として必要な資質を育む。
授業の概要	「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と 教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が 根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義･役割について学ぶことを目的とするとともに、 今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。 １．福祉科教育の意義と福祉科教員の役割 ２．新学習指導要領に基づく教科「福祉」の指導内容とその取扱 ３．学習指導案の作成と模擬授業の実施

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション 自分のことを知ってもらう（プロフィール票の作成･提出） 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 第２回　障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について）　（感想文を提出） 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【keywords】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 第３回　対人援助技術の原則（コミュニケーション技術）

【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ
【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

第４回　コミュニケーションスキルを磨く･演習とビデオ視聴（コミュニケーション技術）
【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる
【keywords】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう

第５回　伝達について（コミュニケーション技術）
【授業概要】
図形を言語コミュニケーションのみで伝達し、その難しさを体験する
【keywords】
図形伝達　言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション　コミュニケーション手段
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備】
話す側・聴く側の態度についても学ぶ

第６回　信頼関係を結ぶ面接技術とは
【授業概要】
信頼関係を結ぶ面接技術について映像を通して学ぶ
【keywords】
面接技術　ラポール　信頼関係
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】

第７回　コンセンサス（合意）について（コミュニケーション技術）
【授業概要】
グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ
演習を通して学んだことをレポートにまとめる
【keywords】
コンセンサス
【教科書ページ・参考文献】
演習（ゲーム）の資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける

第８回　家族について考える　DVD 視聴
【授業概要】
映像を見て家族について考える
【keywords】
エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
家族についてあらためて考えてみよう

第９回　人の一生と社会福祉 家族援助事例検討
【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学ぶ
【keywords】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備】
身近でおきている問題について考えてみよう

第１０回　社会福祉制度（身近な問題から）
【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学び、わが国の社会福祉制度について学ぶ
【keywords】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備】
身近でおきている問題について考えてみよう

第１１回　正しい敬語の使い方（教師としての正しい言葉使い）
【授業概要】
教師として必要な敬語の使い方について学ぶ
【keywords】
尊敬語　謙譲語　丁寧語　若者用語
【教科書ページ・参考文献】

資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
日常会話の中で間違った敬語を使用していないか考えてみよう
第１２回　学習指導要領（福祉）　教科「福祉」９科目の指導内容
【授業概要】
福祉教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【keywords】
福祉教育　福祉体験学習　総合的な学習の時間
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した福祉体験学習についてまとめてみよう
第１３回　学習指導要領（課外活動）　部活動指導の現状
【授業概要】
課外活動の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【keywords】
部活動　体罰問題　課外活動
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した課外活動についてまとめてみよう
第１４回　学習指導要領（道徳教育）　人種問題・障害者問題 等
【授業概要】
道徳教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【keywords】
道徳教育　福祉教育　総合的な学習の時間
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した道徳教育についてまとめてみよう
第１５回　福祉科教育法(教科書・学習ノート・参考図書)注文
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、模擬授業について考える
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
第１６回　模擬授業について　指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数･内容等は受講者数によって変更があります）
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、担当する単元を決定し、模擬授業の指導案を作成してみる
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
第１７回　学習指導案の作成
【授業概要】
模擬授業を想定し、学習指導案を作成してみる
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
必要な資料収集の方法について考える
第１８回　模擬授業① 少子化時代の子ども子育て支援
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
第１９回　模擬授業② 子育て支援と保育
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
第２０回　模擬授業③ 障害のある子どもの福祉
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く
【keywords】

		社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２１回	模擬授業④ 子どものすこやかな成長への支援 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２２回	模擬授業⑤ 市町村と児童相談所の役割 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２３回	模擬授業⑥ 社会的養護と児童虐待への対応 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２４回	模擬授業⑦ 障害者福祉とは・身体障害者の現状と課題 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２５回	模擬授業⑧ 身体障害者福祉の推進・障害者の生活支援 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２６回	模擬授業⑨ 知的障害者の現状と課題・知的障害者の在宅支援と施設の役割 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２７回	模擬授業⑩ 人口の高齢化と高齢者福祉・高齢者の健康保持と社会参加 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２８回	模擬授業⑪ 介護保険制度（１）介護保険制度（２） 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生）
	第２９回	模擬授業⑫ 高齢者の在宅サービス（１）・高齢者の在宅サービス（２） 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【keywords】

	社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 第３０回　まとめ 【授業概要】 教えるということについて考える 【keywords】 大村はま 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】
受講生に関わる情報および受講のルール	「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科 教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の 視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底 になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習･介護技術等の科目も併せて履修すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。 模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を毎回提出すること。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	提出レポート（ 50%）と学習指導案及び模擬授業（ 50%）により評価する。
教科書	社会福祉基礎（ 実教出版）　（購入方法について詳しくは授業中に説明する）。
参考書	介護福祉基礎（実教出版）、コミュニケーション技術（実教出版）、生活支援技術　（実教出版）、介護過程（実教出版）、こころとからだの理解（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・必修
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・教育の方法について探求する。 ・教育のよりよい在り方を実践的に探る。 【到達目標】 ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。 ・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
授業の概要	教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション（講義方法、内容を評価、授業）
①【key word】講義方法と内容、評価、授業（教育と学び）
②【授業概要】
・講義の受け方等、授業のスタートにあたって留意事項の確認
・教育者としての自覚（教育の方法、佐藤学より）
③【教科書ページ、参考文献】
授業で配布した資料・テキスト「新しい時代の教育方法」
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
教室の風景、坊ちゃん（私の教師像記述プリント）、自己アピール（記述）
フィンランドの教育、学級を経営する（子どもと一緒につくる）を熟読する。
⑤【アクティブラーニングについて】
ディベート、ディスカッション（教師の問いに対して議論する）

第２回　変化する教室というところ
①【key word】 転換する学校、世界と日本の教育、21世紀の教室
②【授業概要】
・変貌する教室について考察する。
・「坊ちゃん」から教師像をさぐる。
・発表第1回、「教育事情」
③【教科書ページ、参考文献】
授業で配布した資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
フィンランドの教育の変化、pisa2015調査を熟読する。
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情について発表と討論と評価する。

第３回　授業の形
①【key word】教える、模倣的様式、変容的様式、コメニウス、ソクラテス、メノン
②【授業概要】
・教えるという行為の２つの意味について考察する。
具体的に模倣的様式と変容的様式から考え、日本の学校文化を見る。
・教育事情の発表、討論、評価を行う。
③【教科書ページ、参考文献】
授業で配布した資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】

私が薦めるこの1冊「高校生ワーキングプア」（NHK）「明治乙女物語」（文春）
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情について発表、討論、評価する。

第４回　時代の中の教師
①【key word】一斉教授法、森有礼、聖職者教師像、国民教育、教師専門職論
②【授業概要】
・教師はその時代において歴史性を背負いながら存在している。
現代の教師はどのような時代性をもって教育に当たっているのかを考察する。
・教育事情の発表
③【教科書ページ、参考文献】
授業で配布した資料・テキストP179-199
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
哲学について、時代の中の教師を熟読する。
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価する。

第５回　授業の歴史
①【key word】近代学校、学制、被仰出書、新教育、戦後新教育、
アメリカ教育使節団、試案、齊藤喜博、島小教育
②【授業概要】
・近代学校と授業の成立、新教育の展開と学びの改革、戦後新教育と授業の改革について考察する。
・教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
③【教科書ページ、参考文献】
授業で配布した資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布された資料を熟読する。学事奨励に関する被仰出書を熟読して理解する。
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価する。

第６回　教育の技術
①【key word】 教育技術、普遍性と個別性、集団づくり
②【授業概要】
・教育における技能と技術、普遍性と個別性、教育技術の創造性を考察する。
・集団づくりの意義と方法について教育的意義を考える。
・教育事情の発表
③【教科書ページ、参考文献】
配布資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育方法の歴史を熟読する。
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価する。

第７回　授業のデザイン
①【key word】授業の組織、授業の構造、教育をデザインし創造する。
②【授業概要】
・授業をデザインするためにその組織（授業づくりの過程）構造（教師の活動）、
創造（授業のデザインと実践のプロセス）から考察する。
・教育事情の発表
③【教科書ページ、参考文献】
配布資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育方法の歴史（近代以前、近代以後）を熟読する。
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。

第８回　授業をデザインして創造する
①【key word】デザイン、主題、過程の組織、個への対応、個と個のすり合わせ、
省察と反省
②【授業概要】
・教師はカリキュラムの単元の内容と、生徒の興味や関心を考慮しながら授業を
デザインすることについて考察する。
・教育事情の発表
③【教科書ページ、参考文献】
配布資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
学級を経営する「ベテランの実践を学ぼう」
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。

第９回　学習指導案の意義と作成手順
①【key word】学習指導案、授業（教育）目標づくり
②【授業概要】
・学習指導案の意義、記載の構成要素、作業手順について考察する。
学習指導案の作成に不可欠な授業目標づくりを考える。
・教育事情の発表
③【教科書ページ、参考文献】
配布資料・テキスト
④【課題・予習・復習・授業準備指示】
・日本教育の最大の問題点・・・田原総一郎
・指導要録（小・中・高）
・教師に必要な資質５
⑤【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。

第１０回　教師の姿勢と心構え
①【key word】教職員の職務、教育法規・教育行政、教職の服務と分限・懲戒

	②【授業概要】 ・教師としてあるべき姿を関係法規を中心に考察する。 ・教育事情の発表 ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育法規、教育行政の戦後70年 ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 第１１回　教材研究と教材解釈・展開のある授業とは ①【key word】教材研究、教材解釈、授業構成、齊藤善博、教師の姿勢・心構え ②【授業概要】 ・展開のある授業について教材の作成・利用、そして齊藤善博の「教育学のすすめ」によって考察する。 ・教育事情の発表 ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領の改訂、教師の姿勢・心構え ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 第１２回　仮説実験授業とは ①【key word】仮設―討論―検証、板倉聖宣、「科学教育の内容と方法」、発問 ②【授業概要】 ・「仮説実験授業」から授業の展開、授業書、討論の重要性について考察する。さらには授業づくりの核となる発問づくりについて考える。 ・教育事情の発表 ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 教師の表現―伝え方の極意― ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 第１３回　近代教育思想・教育方法と学習指導 ①【key word】ルソー、ペスタロッチ、カント、デューイ、教育方法とは ②【授業概要】 ・近代教育学者が提唱する教育方法を知って、現代の教育について考察する。さらには、教育方法と学習指導の関係について学習指導要領によって考察する。 ・教育事情の発表 ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育制度と学校、学習指導要領を熟読する。 ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 第１４回　欧米の近代教授理論の受容 ①【key word】一斉授業、開発授業、ヘルバルト学派、経験主義的学習指導法、新しい学力観 ②【授業概要】 ・日本教育の明治期の教授法から大正・昭和期に影響を及ぼした教授法と新学力観について考察する。 ・教育事情の発表 ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領の改訂、授業時数、教科書制度、デジタル教科書と教科書制度 ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 第１５回　学習指導と教授理論、講義の総括 ①【key word】学習指導、稲富栄次郎、問題解釈学習、デューイ、系統学習、砂沢喜代次、プログラム学習、発見学習、レディネス、ピアジェ、ヴィゴッキー ②【授業概要】 ・「学習指導」の意味、「教授理論と学習方法」、発達と学習の心理について研究し、考察する。 ・教育事情の発表 ・授業評価アンケートの実施（講義について感想を発表する） ③【教科書ページ、参考文献】 配布資料・テキスト ④【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの貧困対策と就学援助、外国人児童・生徒の教育、教育相談の充実 ⑤【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	・意欲的な学習態度であること。 ・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察し討論することによって客観的に検証・考察する。

オフィスアワー	水曜日の授業終了から12時まで。または授業終了から17時まで。
評価方法	提出物（レポート）、討論・発表内容と態度、定期試験による評価。いずれも60%を超えていること。
教科書	田中耕治・鶴田清司　新しい時代の教育方法　有斐閣
参考書	授業の中で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県立高等学校36年間の教育実務に携わった。 この学びと研究をもとに、教育関係科目を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	幼いこどもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。
授業の概要	幼児期の教育は、こどもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最善な教育方法を探究する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　自己紹介、授業の受け方・進め方、評価の仕方、教育方法
【授業の概要】
自己紹介、授業の受け方・進め方、評価の仕方、教育方法について説明をする。
【key words】
教育、保育、
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 1~-
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第２回　保育の基本と保育方法
【授業の概要】
保育の基本と保育方法、幼稚園や保育所での「保育」について知る。
【key words】
意図的教育、無意図的教育、保育、学校教育
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 1~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第３回　幼児理解とその方法
【授業の概要】
幼児理解とその方法、保育者の姿勢と留意点、発達、保育記録について学ぶ。
【key words】
幼児理解、発達の姿、集団の育ち
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 14~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第４回　環境構成と保育の展開
【授業の概要】
環境の構成の意味、保育の展開、文字や数の意味について教える。
【ke y words】
イメージ、楽しさ、遊び
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 27~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第５回　一人ひとりに応じた指導

【授業の概要】
一人ひとりに応じた指導、幼児の理解、家庭との連携について学ぶ。
【key words】
客観性、個人性
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 43~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第６回　遊びの指導
【授業の概要】
遊びの指導、保育における遊びの位置づけ、保育方法としての遊びについて学ぶ。
【key words】
遊び、教科、保育者の援助
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 53~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第７回　生活の指導
【授業の概要】
生活の指導、生活習慣、自立について知る。
【key words】
園、家庭、連携
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 65~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第８回　発達に応じた指導（Ⅰ）
【授業の概要】
発達に応じた指導、発達の特徴を配慮した指導とは何かを考える。
【key words】
発達の特徴。1歳児、2歳児
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 79~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第９回　発達に応じた指導（Ⅱ）
【授業の概要】
発達に応じた指導、3歳児、4歳児、5歳児の発達の特徴を配慮した指導とは何かについて考える。
【key words】
3歳児、4歳児、5歳児
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 97~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第１０回　さまざまな指導形態
【授業の概要】
さまざまな指導形態、保育、グループ活動、個別活動、学級全体の活動について比較してみよう。
【key words】
同年齢保育、異年齢保育
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 117~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第１１回　学び合い育ち合うクラスづくり
【授業の概要】
学び合い育ち合うクラスづくりを考えよう。
【key words】
クラス、学年、園
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 131~-
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第１２回　園内外の環境生かした保育
【授業の概要】
園内外の環境生かした保育について考えてみる。
【key words】
園内環境、園外環境
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 143~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ

第１３回　保育者に求められる専門性
【授業の概要】
保育者に求められる専門性について考えよう。
【key words】
保育の基本、子ども理解
【教科書ページ・参考文献】
神長美津子編著『保育方法』光生館　P. 155~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
専門職について考えよう。

	第１４回　　DVD　モンテッソーリ園　小テスト 【授業の概要】 DVD　モンテッソーリ園　小テスト 【key words】 新教育、新教育方法論 【教科書ページ・参考文献】 神長美津子編著『保育方法』光生館 第１５回　　まとめ　アンケート実施 【授業の概要】 まとめ　アンケート実施 【key words】 新教育方法論 【教科書ページ・参考文献】 神長美津子編著『保育方法』光生館
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	なし
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）などで総合的に判断する。
教科書	神長美津子編著 『保育方法』 光生館
参考書	江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社　そのつど授業中に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 東京モンテッソーリ教育研究所付属教員養成コース・東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター・広島モンテッソーリ教師養成コース アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	-	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習の事前事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。 [到達目標] １　学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。 ２　学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。 ３　生徒理解に努めることができる。
授業の概要	１　３年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。 ２　中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ることで、本実習に向けての意識を高める。 ３　学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教職への招待・ガイダンス　大学の事前指導で何を学ぶか 【授業にあたり】 　１　中学校もしくは高等学校への授業参観は、新年度に参観校と日程調整を行うため、提示した回での実施　　とならない場合がある。 　２　先輩学生の研究授業の参観も同様である。 　３　模擬授業の順番は、前期中の授業内で決定する。 　４　参考書として教員養成セミナーを使用する場合は、予め号数を指示するので、持参すること。 　５　授業内容の性質上、回が入れ替わることがある。 　※　１～５、いずれの場合も変更した内容については、提示する。 【Key Word】 教職とは、教育実習、教員免許状取得 【授業概要】 教職への招待・ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何か、次年度、実施される教育実習とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：教職への招待・ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：中学校もしくは高等学校教諭を目指した理由等をまとめ、次回、プレゼンテーションができるようにしておくこと。
	第２回	教職に就くにあたり：教師を目指した理由－プレゼンテーション－

【Key Word】
中学校/高等学校を振り返る、教師を目指した理由

【授業概要】
教職に就くにあたり、教師を目指した理由を中学校もしくは高等学校時代を振り返りながらプレゼンテーションを行う。

【教科書ページ】
・予め、プレゼンテーション用にまとめておいた冊子

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：各自がプレゼンした内容を聞いて、意見・感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P1を読み、教育実習の意義と目的・目標とは何かを事前に学習しておくこと。

第３回　教育実習の意義と目的
【Key Word】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力

【授業概要】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』Ｐ１、２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：実習生としての心構えとはどのようなことか、事前に考えてくること。

第４回　教育実習の課題と実習生としての心構え
【Key Word】
教育実習の課題、実習生としての心構え

【授業概要】
教育実習の課題、実習生としての心構えについて学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：教育実習の課題、実習生としての心構えについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：観察実習について、事前に調べておくこと。

第５回　観察実習の目的とその重要性
【Key Word】
教師の指導法、教師と生徒及び生徒間、学習適応

【授業概要】
『見ること』によって『学ぶ』観察実習の目的とその重要性を学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：観察実習の目的とその重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：学習指導案について調べてくること。

第６回　学習指導案とは何か
【Key Word】
授業の設計図、確かな学びの保障

【授業概要】
生徒の確かな学びを保障する、授業づくりの指針となる学習指導案とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：学習指導案とは何かについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：学習指導案の単元観、生徒観について調べてくること。

第７回　学習指導案の作成にあたり　①　単元観、生徒観
【Key Word】
単元観、生徒観

【授業概要】
学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～掲載されている中学校／高等学校の学習指導案に目を通しておくこと。

第８回　学習指導案の作成にあたり　②　授業のねらい、導入、展開、まとめ

【Key Word】
授業のねらい、導入、展開、まとめ

【授業概要】
授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について学ぶ。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
参観校について、ホームページ等で調べておくこと。

第９回　中学校授業参観／高等学校授業参観

【Key Word】
授業構成、生徒指導、教師の指導技術

【授業概要】
中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）／高等学校の授業参観（ショートホームルーム、公民科･福祉科）を通して、学校現場における教育活動の実際を知る。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・観察実習記録

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）／高等学校の授業参観（ショートホームルーム、公民科･福祉科）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見・感想をミニレポートにまとめて期日までに提出すること。

第１０回　中学校授業参観／高等学校授業参観の検討会

【Key Word】
授業構成、生徒指導、教師の指導技術

【授業概要】
前回、実施した中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）／高等学校の授業参観（ショートホームルーム、公民科･福祉科）の意見・感想を踏まえ、実習に向けた深い学びへと繋げる。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・学生の感想・意見をまとめた冊子

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）／高等学校の授業参観（ショートホームルーム、公民科･福祉科）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見交換会を行った内容をミニレポートにまとめ期日までに提出すること。

第１１回　先輩学生による研究授業の視聴（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）

【Key Word】
授業実習、各教科、学習指導案

【授業概要】
先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）を視聴し、授業実習の実際を知る。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・先輩学生の研究授業指導案

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：先輩学生の研究授業（中学校（社会科）／高等学校（公民科･福祉科）視聴をし、意見・感想をミニレポートにまとめ期日までに提出すること。

第１２回　先輩学生による研究授業の意見交換会　中学校（社会科）／高等学校（公民科･福祉科）

【Key Word】
授業実習、各教科、学習指導案

【授業概要】
前回、視聴した先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校：公民科･福祉科）について意見交換を行い、授業実習に向けた深い学びへ繋げる。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

・先輩学生の研究授業指導案
・学生の感想・意見をまとめた冊子

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）について、自身の意見と共通、あるいは、思ってもいなかった意見・感想について、ミニレポートにまとめて期日までに提出すること。
予習：板書について調べてくること。

第１３回　板書とは

【Key Word】
文字の大小、内容、記述、チョークの使い方

【授業概要】
板書とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ】
配布資料：板書とは何か、板書の要件

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：板書とは何か、板書の要件等について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：発問について調べてくること。

第１４回　発問とは

【Key Word】
発問と質問、指導言、子供の思考･認識過程

【授業概要】
発問とは何か、発問と質問の違いに言及し、子供の思考に働きかける発問の重要性について学ぶ。

【教科書ページ】
配布資料：発問とは

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発問とは何か、発問の重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：評価規準について調べてくること。

第１５回　評価規準について

【Key Word】
到達目標、評価の観点、学力観

【授業概要】
評価規準について学ぶ

【教科書ページ】
配布資料：評価規準について

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：評価規準とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
前期の授業で学んだことを復習し、後期から実施する模擬授業に備えておくこと。

第１６回　模擬授業の実践　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【受講にあたり】
・後期の授業は模擬授業の実践と授業研究を行う。授業者は、予め、模擬授業を行う単元を決め、学習指導案（提示した形）を作成し、教科書、資料等のコピーを提出する。
･学習指導案に沿って模擬授業が行えるように準備をしておくこと。
･授業日の前週に模擬授業の単元が授業者から提示されるため、どの回のタイトルも模擬授業の実践と明記しておくことを了承願いたい。
･KJ法を活用した授業研究も同様である。

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第１７回　模擬授業の実践　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第１８回　授業研究　(1)　①、②の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会

【Key Word】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ

【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　①、②をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業時にまとめておいたKJ法の用紙、模擬授業観察記録、生徒役のワークシート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題:模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法の意見：感想を提出すること。
次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書のコピーを期日までに提出すること。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第１９回　模擬授業の実践　③　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第２０回　模擬授業の実践　④　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第２１回　授業研究　(2)　③、④の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会

【Key Word】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ

【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　③、④をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業時にまとめておいたKJ法の用紙、模擬授業観察記録、生徒役のワークシート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題:模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法の意見：感想を提出すること。
次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書のコピーを期日までに提出すること。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第２２回　模擬授業の実践　⑤　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第２３回　模擬授業の実践　⑥　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施

【Key Word】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解

【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

第２４回　授業研究　(3)　⑤、⑥の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会

【Key Word】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ

【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　⑤、⑥をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業時にまとめておいたKJ法の用紙、模擬授業観察記録、生徒役のワークシート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題:模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法の意見：感想を提出すること。
次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書のコピーを期日までに提出すること。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。

	第２５回	模擬授業の実践　⑦　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施 【Key Word】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。
	第２６回	模擬授業の実践　⑧　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施 【Key Word】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。
	第２７回	授業研究　(4)　⑦、⑧の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会 【Key Word】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑦、⑧をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業時にまとめておいたKJ法の用紙、模擬授業観察記録、生徒役のワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題:模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法の意見：感想を提出すること。 次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書のコピーを期日までに提出すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。
	第２８回	模擬授業の実践　⑨　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施 【Key Word】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教

	科書、プリント等のコピーを提出すること。 第２９回　模擬授業の実践　⑩　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の授業実践を実施 【Key Word】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネ　ルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書、プリント等のコピーを提出すること。 第３０回　授業研究　(5)　⑨、⑩の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会、まとめ　本実習に向けて 【Key Word】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑨、⑩をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業時にまとめておいたKJ法の用紙、模擬授業観察記録、生徒役のワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題:模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法の意見：感想を提出すること。 次回の授業者は、指導案、ワークシート、板書計画等を作成し、模擬授業を行う箇所の教科書のコピーを期日までに提出すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業観察記録、生徒役ワークシート、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 教育実習事前指導で学んだことを活かし、次年度の本実習に向け、教材研究等準備をしておくこと。 後期試験に向け、事前に提示する課題に取り組んでおくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は３年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。　欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、 熱心な受講態度を求める。 ２　教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱 心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察　記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。ＫＪ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出する　こと。 ２　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、模擬授業の実践（３0%）、試験またはレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習実施に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応

	しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　日本史Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
冨田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　「歴史を学ぶ」ことの意義について理解する。 第２回　人物で学ぶ歴史・・・野口英世　野口英世についての資料を理解し、その生涯を考察する。 第３回　日本列島と日本人　〔・人類の誕生・日本列島の形成・旧石器文化〕 第４回　縄文文化　〔・自然環境の変化・縄文文化・三内丸山遺跡〕 第５回　弥生文化　〔・水稲と鉄器・生産と階級・小国の分立〕 第６回　古墳とヤマト王権　〔古墳の築造・大和と朝鮮・氏姓制度〕 第７回　飛鳥の朝廷　〔蘇我氏の台頭・厩戸王の政治・遣隋使〕 第８回　大化の改新　〔・政変の原因・改新の政治・近江の朝廷〕 第９回　平城京の政治　〔・平城京と遣唐使・政治と社会の変化〕 第１０回　摂関政治　〔・平安遷都・摂関政治・荘園と武士団〕 第１１回　院政　〔・院政・保元･平治の乱・平氏の栄華〕 第１２回　鎌倉幕府　〔・源平の争乱・鎌倉幕府・執権政治〕 第１３回　蒙古襲来　〔・蒙古襲来・得宗専制政治・幕府滅亡〕 第１４回　室町幕府　〔・建武の新政・動乱のふかまり・室町幕府〕 第１５回　応仁の乱～戦国の世　〔・応仁の乱・戦国大名〕

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・講義の進度にあわせ、予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・ノートをしっかりとり、積極的に授業に臨むこと。 ・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	岩宿遺跡・かみつけの里博物館・上野国分寺遺跡・県立歴史博物館等を巡検しレポートを提出する。
オフィスアワー	講義終了後20分
評価方法	試験（60%）、講義への参加態度・レポート・提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	講義内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　日本史Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
冨田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。 第２回　織田信長〔・天下布武・信長の政策・本能寺の変〕 第３回　豊臣秀吉〔・秀吉の全国統一・検地と刀狩・秀吉の対外政策〕 第４回　江戸幕府〔・関ヶ原の戦い・江戸幕府・大坂の役〕 第５回　将軍と大名〔・幕府の職制・大名の統制・参勤交代〕 第６回　幕政の改革Ⅰ･･･享保の改革 第７回　幕政の改革Ⅱ･･･寛政の改革 第８回　幕政の改革Ⅲ･･･天保の改革と幕末 第９回　明治維新〔・大政奉還・戊辰戦争・新政府の方針〕 第１０回　廃藩置県〔・廃藩置県・四民平等・地租改正〕 第１１回　殖産興業〔・官営工場・鉄道の敷設・松方財政〕 第１２回　文明開化〔・自由と権利の思想・小学校のはじまり・西洋風俗〕 第１３回　自由民権運動〔・士族の抵抗・自由民権運動・明治十四年の政変〕 第１４回　帝国議会〔・憲法の調査・大日本帝国憲法〕 第１５回　戦争と現代日本〔・戦争の世紀・私達の課題〕

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・ノートをしっかりとり、積極的に授業に臨むこと。 ・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	県立歴史博物館・世界遺産の産業遺産富岡製糸場等を巡検しレポートを提出する。
オフィスアワー	講義終了後20分
評価方法	試験（60%）、講義への参加態度・レポート・提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	全集　日本の歴史（小学館）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　地理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
大島　登志彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・地理の基礎教養を身につける。 ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。 ・フィールド調査を通して、調査内容をレポートし、それを発表する素養を身につける。
授業の概要	地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域においてフィールド調査によるレポートを書かせたうえで、要約して発表させ、地理学の調査活動の一端を実践させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　地理学の本質と中学校・高等学校における社会科・地歴科の教職 第２回　日本の文化財・遺産などの概況とレポート課題及びその調査方法 第３回　地球のあらましと世界地誌の概要 第４回　海外旅行に関する諸問題と世界観 第５回　世界の地形・国家と領域 第６回　世界の気候区分とその問題 第７回　最近の気候変化と温暖化 第８回　地図の基本と特徴 第９回　日本の地誌と地域区分 第１０回　群馬県の地理概要 第１１回　地震と自然災害 第１２回　レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など 第１３回　身近な地域の調査の発表と考察（1） 第１４回　身近な地域の調査の発表と考察（2） 第１５回　身近な地域の調査の発表と考察（3）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業への取り組みを重視します。すなわち、欠席・遅刻は減点し、おおむね欠席が4分の1を超過した場合、レポートや試験が良好でも、単位の取得は困難になります。 健康に留意し、欠席しないようにして下さい。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎回、穴うめ作業・演習問題を含んだプリントを配布します。地図帳とプリントでよく復習して下さい。 フィード調査を含むレポートを課します。地図を用意して現地に行って写真を撮り、レポートをしっかり書いてください。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（50%）、授業参加状況（25%）、レポートとそれを基にした授業中の発表（25%）を総合して評価します。
教科書	「社会科　中学生の地理」（帝国書院）　「中学校社会科地図」（帝国書院）
参考書	講義の中で適宜紹介していきます。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会科教育法Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「社会科学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」についての理解することができる。 ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。
授業の概要	1　社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。 2　実際の生徒用の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を通して「実践的な授業」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解（３分野の目標と内容）、社会科学習ゲーム 【key words】 学習指導要領、３分野の概観、社会科学習ゲーム 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバス、30コマの概観と評価方法について知る。 ②学習指導要領と解説を概観する。 ③地理・歴史・公民領域の主な指導内容について知る。 ④授業に生かせる学習ゲームについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高校入試問題を解き中学社会を概観してくること、地理の教科書を読んでくることを指示。
	第２回	社会科教師の基礎基本①、学習指導要領と解説の理解（地理的分野、生徒用地理教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 学習指導要領の目標・内容、学習指導要領解説、地図帳の指導 【授業概要】 ①学習指導要領と解説の関係を理解するとともに、地理的分野を概観する。 ②高校入試問題（社会科）より、中学社会を概観する。 ③生徒用地理教科書を用い、地理的分野を概観するとともに世界・日本の略地図が書けるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中

学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
歴史の教科書を読んでくることを指示。

第３回　社会科教師の基礎基本②、学習指導要領と解説の理解（歴史的分野、生徒用歴史教科書を用い指導事例を紹介する。）
【key words】
歴史的分野、年表の指導

【授業概要】
①学習指導要領と解説の歴史的分野を概観する。
②歴史教科書、年表、資料を活用し、社会科教師として必要な知識、特に、主な年号、教科書ゴシック重要語句は理解し、覚えるようにする。
③学習指導案略案（教師作成）を提示し、展開の具体化を考える。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案略案（教師作成）を提示し、展開の具体化を考えてくるよう指示。

第４回　社会科教師の基礎基本③、学習指導要領と解説の理解（公民的分野、生徒用公民教科書を用い指導事例を紹介する。）
【key words】
公民的分野、新聞やＴＶを活用した指導

【授業概要】
①学習指導要領と解説の歴史的分野を概観する。
②公民教科書、カルタ、クイズ等を活用し、社会科教師として必要な知識を身に付ける。
③学習指導案略案（教師作成）に基づく模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材の作成を指示。

第５回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、学習指導案略案の書き方、ミニテスト（第１回～第４回までの復習）
【key words】
教材づくり、略案の書き方

【授業概要】
①学習指導案略案（教師作成）を見て、作成方法を理解する。
②学習指導案略案（教師作成）を見て模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。
③ミニテスト（第１～４回の復習）を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材の作成を指示。「弥生文化と邪馬台国」のプゼンテーションの準備をしておくよう指示。

第６回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、プレゼンテーション（各自が調べたことを発表する。）
【key words】
教材研究、プレゼンテーション
【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照等、流れについて理解する。
②学習指導案略案（教師作成）に基づく模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。
③指導するのに必要な教師としての知識技能を班ごとに分かれプレゼンをする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材を基に、模擬授業の練習をするよう指示。「弥生文化と邪馬台国」のプゼンテーションの準備をしておくよう指示。

	第７回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、授業準備 【key words】 教材研究、授業準備 【授業概要】 ①模擬授業実施に向け、班内で協力し、略案、ワークシート、板書計画、教材作成を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導案解説を熟読し、社会科の指導法について学んでおくことを指示。「弥生文化と邪馬台国」のプゼンテーションの準備をしておくよう指示。
	第８回	模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①　　（授業者は代表学生２名） 【key words】 模擬授業、授業研究会 【授業概要】 ①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。 ②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業の準備を班毎に行うよう指示。
	第９回	学習指導案細案の書き方①（生徒の実態、実態把握のためのアンケート、指導方針） 【key words】 学習指導案細案、生徒の実態、指導方針 【授業概要】 ①学習指導案の書き方（生徒の実態、教材観、指導方針）について理解する。 ②４観点の内容と意味について理解する。 ③４観点に基づくレディネステストの作成方法について理解する。 ④板書の仕方、ワークシート作成について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業の準備を班毎に行うよう指示。
	第１０回	学習指導案細案の書き方②（目標、指導計画、評価規準） 【key words】 学習指導案細案、目標、指導計画、評価規準 【授業概要】 ①単元の目標と評価規準の関係、指導計画、本時のねらいと展開内の評価項目と評価方法の関係について知る。 ②模擬授業（公民的分野）の３つの班にわかれ、学習指導案細案作成、教材研究を行う。 ③班内で、授業者、ワークシート、板書計画、教材の仕事を分担し、準備・作成をする。 ④教師は、班内をめぐり、個別指導を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業（公民的分野）の実施に向け、準備することを指示。
	第１１回	学習指導案細案の書き方③（本時の学習、板書、ワークシート、掲示物） 【key words】 学習指導案細案作成、本時の学習、板書、ワークシート 【授業概要】 ①模擬授業（公民的分野）の３つの班にわかれ、学習指導案細案作成、教材研究を行う。 ②班内で、授業者、ワークシート、板書計画、教材の仕事を分担し、準備・作成をする。 ③教師は、班内をめぐり、個別指導を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中

学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業（公民的分野）の実施に向け、準備することを指示。

第１２回　模擬授業②（公民的分野「ちがいのちがい」）、授業研究会②　（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業、授業研究会、省察
【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
志望受験自治体の過去問題について調べるよう指示。

第１３回　社会科教師の基礎基本④「たくさんの知識を身に付けよう！」、地理的分野の必須な知識の習得、地図帳の指導例
【key words】
知識・技能の修得

【授業概要】
①地理的分野の教科書や地図帳を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期最初の授業でミニテストを実施するので、指示された地理的分野教科書の頁の学習をしておくよう指示。

第１４回　社会科教師の基礎基本⑤「たくさんの知識を身に付けよう！」、歴史的分野の必須な知識の習得、歴史年表の扱い方
【key words】
知識・技能の修得

【授業概要】
①歴史的分野の教科書や年表を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期最初の授業でミニテストを実施するので、指示された歴史的分野教科書の頁の学習をしておくよう指示。

第１５回　社会科教師の基礎基本⑥「たくさんの知識を身に付けよう！」、公民的分野の必須な知識の習得、新聞・ニュースの扱い方、シャトルカード前期のまとめ欄への記入
【key words】
知識・技能の修得

【授業概要】
①公民的分野の教科書や新聞等を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期最初の授業でミニテストを実施するので、指示された公民的分野教科書の頁の学習をしておくよう指示。

第１６回　後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム、ミニテスト（第１３回から１５回までの復習）
【key words】
後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム

【授業概要】
①後期の４つの模擬授業実施について、クラスリーダーを中心に話し合う。（公民班、歴史班、地理班、ＴＴ班）
②社会科学習や学級経営に生かせるゲームについて、体験しながら身に付ける。
③ミニテストを実施する。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ミニテストの直しと復習をする。

第１７回　学習指導案細案を作ろう！（公民的分野「民主主義と政治」）
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①学習指導案細案（公民的分野）について、理解する。
②４観点に基づくレディネステスト、レディネステスト結果と生徒の実態、生徒の実態と指導方針の関係について理解する。
③班ごとに、教材研究をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
公民班は、模擬授業の展開部分について次回まで、黒板または資料で発表できるよう指示。

第１８回　学習指導案事前検討会（公民的分野「民主主義と政治」）
【key words】
学習指導案細案検討

【授業概要】
①公民班は模擬授業の展開部分を板書または資料提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け、公民班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③他班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
他班は、次回の学習指導案事前検討会に向け、学習指導案細案、ワークシート、板書計画、教材を確実に行っておくことを指示。

第１９回　模擬授業③（公民的分野「民主主義と政治」）、授業研究会③（授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会、省察
【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
公民班は、模擬授業の省察を行う。他班は、学習指導案細案、ワークシート、板書計画、教材を確実に行っておくことを指示。

第２０回　学習指導案細案を作ろう！（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①歴史班は模擬授業の展開部分を板書または資料提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け、歴史班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。

第２１回　学習指導案事前検討会（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
【key words】
学習指導案細案検討

【授業概要】

①歷史班長からの学習指導案、ワークシート、板書計画の説明を受け、学生が進行し、検討会を行い、よりよい学習指導案等に修正する。
②①の検討会を受け、歷史班は学習指導案等の修正、地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
③公民班は、歷史班と地理班のサポートに入る。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歷史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第２２回　模擬授業④（歷史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」、授業研究会④（授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会、省察
【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歷史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第２３回　学習指導案細案を作ろう！（地理的分野「世界と比べた日本の平野）」
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①地理班は模擬授業の展開部分を提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け地理班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。他班は、自己の授業の省察を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歷史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第２４回　学習指導案事前検討会（地理的分野「世界と比べた日本の平野）」
【key words】
学習指導案細案検討

【授業概要】
①地理班長からの学習指導案、ワークシート、板書計画の説明を受け、学生が進行し、検討会を行い、よりよい学習指導案等に修正する。
②①の検討会を受け、地理班は学習指導案等の修正、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
③他班は、地理班のサポート、または自班の省察を行う。″

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歷史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。

第２５回　模擬授業⑤（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）、授業研究会⑤（授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業、授業研究会、省察
【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歷史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキス

トとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業の実施に向け、準備することを指示。授業が終わった班は、振り返りをするよう指示。次回、Ｔ・Ｔ、ノート指導とワークシートについて話し合うので指示された様式で資料を作成しておくことを指示。

第２６回　社会科授業におけるＴＴ、社会科におけるノート指導とワークシート（各自のレポートを基に討論会を行う。）
【key words】
Ｔ・Ｔ、Ｔ・Ｔの学習指導案
【授業概要】
①Ｔ・Ｔの意義、授業の仕方、学習指導案の作成について学生が作成した資料を用い、話し合う。
②学生が司会・板書をしながら進める。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Ｔ・Ｔ模擬授業の準備をしておくことを指示。

第２７回　模擬授業⑥（TT）、授業研究会⑥（授業者は代表学生２名）
【key words】
Ｔ・Ｔ、Ｔ・Ｔの指導方法

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
定期試験に向け、今までの総復習をしておくよう指示。また、自己の志望自治体の過去問題を解いておくよう指示。

第２８回　教育実習に必要な社会科教師の知識について①（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】
知識の修得

【授業概要】
①中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識を習得する。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
定期試験に向け、今までの総復習をしておくよう指示。また、自己の志望自治体の過去問題を解いておくよう指示。

第２９回　教育実習に必要な社会科教師の知識について②（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】
知識の修得

【授業概要】
①中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識を習得する。

【教科書ページ・参考文献】
①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

定期試験に向け、今までの総復習をしておくよう指示。また、自己の志望自治体の過去問題を解いておくよう指示。

第３０回　１年間のまとめ（含む教育理論）、シャトルカード後期のまとめ欄への記入
【key words】
教育理論、目指す教師像

【授業概要】
①生徒に十分な３分野の知識、資料活用能力、思考力、表現力を身に付け、考える社会科を実践できる教師を期待したい。
②社会科授業に使える教育理論について知る。

	③目指す教師像についてのプレゼンを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、「社会科中学生の地理」帝国書院、「新しい社会歴史」東京書籍、生徒用社会科地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、②「中学校学習指導要領（社会編）日本文教出版、③その他、授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期試験に向け、今までの総復習をしておくよう指示。また、自己の志望自治体の過去問題を解いておくよう指示。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書　「社会科中学生の地理」帝国書院、④中学校生徒用地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、⑤「中学校学習指導要領解説（社会編）平成29年７月」日本文教出版、⑥その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
参考書	・近藤裕幸：「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社、2012年　　・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会科教員免許状（中１、高１地歴・公民）を持ち、群馬県教育委員会指導主事として、中学校社会科教員の指導を４年間携わった。本授業では、担当教員が、示範授業（「弥生文化と邪馬台国」）を提示し、授業の流れを体得してもらうなど、現場経験を生かし、実践的な指導を行っている。公民に力点を置くが、大学３年次の教育実習に備え、３分野でも模擬授業を実施している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　知的障害教育Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。 【到達目標】 　①知的障害児の特性について理解できている。 　②知的障害教育の基本的な事項（教育課程、考え方、指導形態、指導方法など）が理解できている。 　③特別支援学校学習指導要領について理解できている。
授業の概要	講義を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児の学習指導要領の変遷、知的障害児のあゆみ、知的障害教育の歴史や知的障害児の現況について学習することにより、知的障害教育全般について幅広い知見を得る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション（知的障害とは　知的障害児の心理と行動傾向について）

【key words】
知的障害児　定義　障害程度　知能

【授業概要】
１５回の講義内容説明。　知的障害児の持つイメージについて。　知的障害児との接点を振り返る　知的障害児とは（障害の程度、心理、行動、知能、運動機能、認知、記憶等）について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
資料提示

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定された資料の範囲の次回の予習、今回の復習と整理。知的障害児との接点、知的障害児のイメージ、どう係わりたいかをレポート提出する。

第２回　発達障害との関係、　知的障害児の歴史　知的障害教育の歴史について

【key words】
知的障害　発達障害　学習指導要領

【授業概要】
発達障害との違い。　資料から障害児教育の歴史、外国、日本から眺める。

【教科書ページ・参考文献】
資料提示

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習と特別支援学校学習指導要領持参を指示する。

第３回　学習指導要領について　学習指導要領の変遷について

【key words】
知的障害　歴史　差別　学習指導要領　変遷

【授業概要】
知的障害児と知的障害教育　養護学校の義務化　学習指導要領の変遷、学習指導要領の位置づけ、学習指導要領の内容等について考える

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.２２－３５　特別支援学校学習指導要領及びその解説

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害児と教育の変遷について、学んだことを自分なりに復習し整理する。次回の予習。知

的障害児の理解を深める。

第４回　学習指導要領について　知的障害教育の教育課程について

【key words】
法的根拠　　解説　　教育課程　　今までの歩み

【授業概要】
知的障害児の指導として知的障害児の特性など考慮して、どのような配慮が必要かを考察し、さらに知的障害児教育の教育課程の現状について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp２２－３０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
人類の歴史の中から知的障害児と理念について理解を深め、自分なりにまとめておく。知的障害児に対してどのように係り、どのようなことができるか？授業で感じたことをまとめる。次回の予習。発表の準備。

第５回　教科・領域別の指導について

【key words】
知的障害教育の教育課程（続）　　教科別の指導について　　教科　　国語　算数　音楽　他

【授業概要】
知的障害教育の教育課程について理解する。他の障害児の教育課程と知的障害教育の教育課程の違いについても考察する。　そして、教科・領域別指導について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ.３８－５５、　８０－８７，　１０８－１１１　　特別支援学校学習指導要領及び解説

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特別支援学校学習指導要領、同解説を読み復習する。次回使用する資料配付、熟読しておく。

第６回　教科・領域を合わせた指導について（日常生活の指導）

【key words】
日常生活　　日常の生活　　遊び　　学習

【授業概要】
領域・教科を合わせた指導の一つである日常生活の指導について学ぶ。それぞれ領域、教科をする場合の教科の内容、及びメリット、デメリット等についても検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p.８８－９３　　１１２－１１５　　特別支援学校学習指導要領解説　　資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的と他の障害の教科の違い、教科の学習と合わせた指導の仕方など、混乱しないよう十分復習しておくこと。次回の資料配付、熟読しておく。

第７回　教科・領域を合わせた指導について（遊びの指導、生活単元学習）

【key words】
遊び　　生活　　学習　　集団　　単元

【授業概要】
知的障害特別支援学校で主に実施されている指導形態の一つである遊びの指導、生活単元学習について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ８８－.９３　　特別支援学校学習指導要領解説　　参考資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業のまとめ。前回同様、次回使用の配付資料を熟読しておく

第８回　教科・領域を合わせた指導について（生活単元学習）

【key words】
領域・教科を合わせた指導　　日常の活動　　単元

【授業概要】
知的障害特別支援学校で一番知られている「生活単元学習」についていくつか事例を挙げ、詳しく検討す　る。

【教科書ページ・参考文献】
参考：阿部芳久　知的障害児の特別支援教育入門　日本文化科学社　２００６他

【課題・予習・復習・授業準備指示】
領域・教科を合わせた指導について理解する。次回使用の配付資料を読んでおく。

第９回　教科・領域を合わせた指導について（作業学習）

【key words】
領域・教科　　園芸　　農業　　陶芸　　木工　　紙工　　各種の作業

【授業概要】
主に中学部や高等部において実施することの多い指導形態の１つである作業学習について、いくつかの事例を挙げ説明する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　阿部芳久　　知的障害児の特別支援教育入門　　日本文化科学社　２００６

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分でも作業学習について調べて理解を深める。

第１０回　自立活動の指導について

【key words】
自立活動　　養護・訓練　　６領域

【授業概要】
特別支援教育の教育課程では特に重要な自立活動について、変遷や概要、意義等について理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ９８－１０１、１１６－１２３　　参考書：前回同様

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動について復習し理解を深める。次回の準備。
知的障害児の教育における学習形態について自分なりの考えをレポート提出する。

第１１回　特別支援学校と特別支援学級の学級経営について

【key words】
教育現場の実情　　授業　　諸問題

	【授業概要】 県内の知的障害の特別支援学校の授業の様子を参観し、学校現場の授業の様子を知る （参観出来ない場合は各地の知的障害特別支援学校の様子を資料を通して知る） 【教科書ページ・参考文献】 教科書全般　　参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・参観（調査）した学校で感じたことや調査で出てきた課題などを含めた感じたことを提出する ・知的障害児・者の進路問題について調べておく 第１２回　特別支援学校と特別支援学級の指導方法について 【key words】 特別支援学校　知的障害　授業　知的障害教育 【授業概要】 前回に続いて各特別支援学校、特別支援学級で行われている教育実践の実際を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１３２－１３９　教科書　特別支援学校学習指導要領、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知的障害教育特別支援学校の現状と課題を理解する。 第１３回　個別の指導計画と個別の教育支援計画について 【key words】 個別支援　教育支援計画　指導計画 【授業概要】 個別の教育支援計画とは、また、個別の指導計画とは、個別の支援計画全般から眺めて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp.６０ー６３　参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児・者の一生を眺めて計画される観点から教育現場でおこなわれている各支援、指導計画を理解する 第１４回　学校卒業後の課題　進路問題について　キャリア教育について 【key words】 進路　トラブル　サポート　卒業後の課題　卒業前に対応する課題　キャリア教育 【授業概要】 知的障害者の学校卒業後の進路の現状、そこから見える課題と学校現場で求められている課題について考察する。学生各個人が調査したものを元に、そこから見えてくる課題や問題点を出しながら進め、直面してい　る問題から学校教育を見直してみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、５６－５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業以外でも情報を集めて、進路問題に対して障害者の直面する課題の認識を深める 第１５回　特別支援教育の展望と課題について 【key words】 学校卒業後の課題　社会生活　支援体制 【授業概要】 中学校卒業後すぐ社会に出る状態から後期教育の重視が叫ばれ、高等部進学が増えたが、新たなる課題が出てきた現状について講義する。講義等を通して知的障害教育の認識が深まったか話し合う。知的障害児の一　貫した取り組みの現状を理解し、どのような社会が今後どのような社会にしたいかを含め、自分の考えをま　とめて提出する。 【教科書ページ・参考文献】 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義で出てきた知的障害教育の問題点、課題等を整理し、概要をまとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①講義の回数に応じて若干授業内容がずれる場合がある。 〔受講のルール〕 ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。 ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。 ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表（内容、適切さ）４０％ ②筆記試験（客観的、論述）６０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	全日本特別支援教育研究連盟：「平成29年版特別支援学校新学習指導要領ポイント整理　特別支援教育」　東洋館出版社2018
参考書	授業の中で適宜紹介、またはプリント配付する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の実践を通して、障がい児の様々な問題を広い視野から講じます。

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　肢体不自由教育Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の基礎基本を習得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史等について概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテ-ション、肢体不自由の定義、合理的配慮 第２回　肢体不自由の骨格と関節、筋肉と神経系、脳機能と診断 第３回　肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化 第４回　肢体不自由の心理特性、行動特性 第５回　肢体不自由児の社会的理解 第６回　肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用、知能検査、運動検査の方法と活用 第７回　肢体不自由教育における　知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用 第８回　肢体不自由教育における　発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用 第９回　動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎 第１０回　肢体不自由教育の歴史　戦前、高木憲次、学校の設立 第１１回　肢体不自由教育の歴史　公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備、学習指導要領の制定と改訂 第１２回　肢体不自由教育の歴史　養護学校義務制、自立活動の成立と意義、特別支援学校の理念と制度 第１３回　肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題、通級による指導の現状と役割 第１４回　小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ、特別支援教育に関わる法令、個別の教育支援計画に基づく連携 第１５回　肢体不自由教育のまとめ

受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとしま　す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発言等）　定期試験
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　2017　ミネルヴア書房
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　特別支援教育総論　　授業コード：

英文科目名称：　Introduction to Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育とは何か、その全体像を理解すること。障害児教育の教育思想、歴史、制度、障害の特性、教育課程、教育方法の入門的な事項を学ぶことを通じて、特別支援教育の全体的な見通しを把握することが目的である。 【到達目標】 特別支援教育の教育思想，歴史，教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目標である。
授業の概要	目的に接近するため、障害児の心理・生理・病理を学ぶ意義や教育課程・指導方法を学ぶ必要を実践例を元に解説する。 「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」を教科書として用い、特別支援教育に関する基本的通知や学習指導要領等の文書を適宜参照しつつ、講義形式を中心に実施する。一部、project based learning (PBL)などのアクティブ学習を加える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	国際生活機能分類（ICF)による障害の定義と国連障害者の権利条約：教育支援資料　p.1～序論，p.5～ICF
	第２回	特別支援教育の理念と制度　：　文部省　初等中等教育局長「特別支援教育の推進について（通知）」平成19年
	第３回	障害児教育の歴史的変遷　盲唖学校の誕生と肢体不自由児療育の誕生など
	第４回	インクルーシブ教育の基礎　：　第１章　インクルーシブ発想とは
	第５回	インクルーシブ教育の実際　：　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか　PBL
	第６回	就学までの支援の仕組みとその実際　：　教育支援資料　第２編 教育相談・就学先決定のモデルプロセス
	第７回	1 視覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
	第８回	2 聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
	第９回	3 知的障害のある児童生徒に対する教育：その１　PBL
	第１０回	3 知的障害のある児童生徒に対する教育：その2　PBL
	第１１回	4 肢体不自由の児童生徒に対する教育：その1
	第１２回	5 肢体不自由の児童生徒に対する教育：その２　動作法実習
	第１３回	5 病弱の児童生徒に対する教育

	第１４回　　6 通常の小中学校の特別支援教育コーディネーターの役割　：新ガイドライン 第１５回　　インクルーシブ教育システムの方法論　：　第３章　インクルーシブ教育の実践って？
受講生に関わる情報および受講のルール	入門的な内容なので、受講の条件は無い。幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	途中で本を探して読む学習等を求めますので、特別支援教育に関する本を探すようにしておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分あるいは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　ショート・レポート　10%　最終レポート　60%
教科書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著）「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版
参考書	文科省 「教育支援資料」，「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年）（インターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 障害児支援法総論　　授業コード：

英文科目名称： Teaching Methods (Special Needs Education)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害児教育は、個々の教育的ニーズに応える教育的営みである。この講義では、どのように障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応えるか、講義・実習的アクティブラーニングを通じて、教育方法論について体験的に考えられるようになることを目的とする。 【到達目標】 特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することが必要である。自立活動を中心に方法論の比較が出来るようになることを目標とする。
授業の概要	心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む必修科目である。発達障害児等の指導についても講義する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	法令に基づいた義務教育としての特別支援教育　免許法、学習指導要領、自立活動と支援の方法論
	第２回	動作法１　基礎的な自己リラクセーション
	第３回	動作法２　基礎的な他者リラクセーション
	第４回	自立活動とICF　：　個別の教育支援計画と個別の指導計画
	第５回	特異な行動の理解と支援　：　いわゆる問題行動へのアプローチ
	第６回	インクルーシブ教育システム構築への道　前期の学習から学んだこと　PBL
	第７回	教育内容と教育方法は教育課程の両輪　どのような教育方法を学ぶ必要があるか？　PBL
	第８回	教育支援資料にみる障害児の教育方法1；自閉症児の支援方法
	第９回	教育支援資料にみる障害児の教育方法2；ADHD児の支援方法
	第１０回	教育支援資料にみる障害児の教育方法3；学習障害児の支援方法
	第１１回	教育支援資料にみる障害児の教育方法4；知的障害児の支援方法1
	第１２回	教育支援資料にみる障害児の教育方法5；知的障害児の支援方法2
	第１３回	感覚障害、肢体不自由への支援からみた動作支援
	第１４回	感覚障害、肢体不自由への支援からみた移動支援／環境把握支援
	第１５回	行動の自己コントロールといわゆる発達障害児等の対人関係の支援

受講生に関わる情報および受講のルール	指導法・支援法を中心とするが、生理・病理・心理の基礎的理解を前提に授業をするので、予習を充分に行うこと。実習的な授業も取り入れるので、動きやすい服装で受講して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	特別支援学校学習指導要領解説を入手し、部分的でも良いので予習しておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分ないしは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　実習への取り組み　10%　最終レポート　60%
教科書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著）「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版
参考書	文科省 「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編」「教育支援資料」，「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（新ガイドライン）（後半2編はインターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　重複障害教育総論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 （重度）重複障害児の実態把握、重複障害教育の理解、個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが重要と理解できる 【到達目標】 ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。 ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。 ③重複障害児の実践事例を読み込んで、その学習内容と方法が理解できている。
授業の概要	（重度）重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例を通して考察する。そして、（重度）重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション（重度・重複障害児とは。　歴史の中における重複障害児の実態とその教育実践）

【key words】
重複障害児　　重度・重複障害児　　重複障害児の歴史　　重複障害児の教育

【授業概要】
障害種について復習する　　重複障害児の概念　　重度・重複障害児とは　　重複障害児の実態　　重複障害児の捉え方　　重度・重複障害児の教育の変遷等について

【教科書ページ・参考文献】
参考：文部省：重複障害教育の手引き　東洋館出版　昭和４５
参考：文部省：重複障害児指導事例集　東洋館　昭和５８

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習とまとめ　　次回の予習テキスト「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp.1-１７）

第２回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その１）ヘレン・ケラーとサリバンとの対面

【key words】
視覚聴覚障害　　ヘレンの生育歴　　サリバンについて　　サリバンの教育方針と指導

【授業概要】
目の見えない世界、聞こえない世界の体験　　教育的観点からヘレンの初期の行動を読み取る
指導者サリバンの子どもに対する捉え方について

【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp.　１－１７）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習をする。

第３回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その２）ヘレン・ケラーの食事、しつけとサリバンの教育方針

【key words】
食事の作法　　つたみどりの家

【授業概要】
ヘレン・ケラーの学習前の様子　　学習の方法　　学習に対する取り組み　　学習上のトラブル　　身振りサインについて

【教科書ページ・参考文献】

教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １７－２６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習をする。

第４回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その３）つたみどりの家
【key words】
様々なトラブル　MUG　MILK　WATER　学習の混乱
【授業概要】
教科書の記事と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ２６－３３）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の映像と教科書の記述の比較。次回の予習をする。

第５回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その４）物には名前がある
【key words】
MUG　MILK　WATER　行動の変容
【授業概要】
教科書の記事と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ２６－３３）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の映像続きと教科書の記述の比較し整理する。次回の予習をする。

第６回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その５）物には名前があることが理解できたヘレン・ケラーのその後
【key words】
手話　単語　語い数　文章構成　疑問噴出
【授業概要】
ヘレン・ケラーが物に名前があると理解した後の様子を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ３３－７１）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今まで学習したヘレン・ケラーの歩みについてまとめる。感想文提出。　次回の予習をする。

第７回　（重度）重複障害児の理解　実地見学（施設もしくは学校）
【key words】
（重度）重複障害児の理解　実地見学（施設もしくは学校）
【授業概要】
特別支援学校もしくは入所施設にて、（重度）重複障害児の学習活動や日常の生活の様子を参観し、重複障害児の理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参観先から提供された資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観しての感想文を書く。次回の予習（配付資料）。

第８回　重複障害教育の実践事例検討②　Y盲学校における盲ろう児の指導実践
【key words】
視覚・聴覚障害　ことば　身ぶりサイン　発声　見本合わせ学習　手話
【授業概要】
戦後日本で行われた重複障害児の教育実践事例を検討し、重複障害教育について考察する
【教科書ページ・参考文献】
志村　太喜彌：　「重度･重複障害児の教育」コレール社１９８９　他資料提供
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本で実践された重複障害教育を理解する
次回の配付資料を熟読する

第９回　重複障害教育の実践事例検討③　G盲学校における弱視ろう児の指導実践
【key words】
弱視・聴覚障害　目の使い方　形の学習　文字の学習
【授業概要】
弱視で聴覚障害児の学習の様子を実践事例を通して学習する
【教科書ページ・参考文献】
大谷：「弱視難聴児の初期学習」　重複障害教育研究所研究報告書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の実践事例のまとめ　ヘレン・ケラーの教育との違い、共通点などを考察しレポート提出

第１０回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その１）自発行動の乏しい児童
【key words】
自発行動の乏しい重度・重複障害児　適切な支援　係わり方　教材教具　仰臥位　側臥位　自発　行動　幼児
【授業概要】
①重度・重複障害児の一般的な捉え方　一般的な理解　重度・重複障害児に対する教師の仕事とは　教材・教具の役割について。　②指導の実際（指導事例１）の検討
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ３－１１）（ｐｐ７１－７７）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重度・重複障害児について理解する　今日のまとめと自分の考えを整理する

第１１回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その２、３）側臥位。　手と足の働き
【key words】
触刺激　足の操作　自発　側臥位　手の操作
【授業概要】
指導事例２と指導事例３の検討。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】

	教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ７８－８８) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　　次回の事例４，５の予習 第１２回　重複障害教育の実践事例検討④重度・重複障害児の指導（その４、５）定頸困難。視覚障害のある重複障害児 【key words】 触刺激　　足の操作　　仰臥位　　手の操作　　姿勢の調整　　バランス 【授業概要】 指導事例４、５の検討。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp８９－９６) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　　次回の事例６，７の予習 第１３回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その６、７）前起こし。机座位 【key words】 手の操作　　垂直軸スイッチ　　視覚障害　　刺激の受容　　姿勢の調整　　前起こし 【授業概要】 指導事例６，７の検討。事例を読んで、関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ９７－１０７) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　　次回の事例８，９の予習 第１４回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その８、９）初期学習。意思の表出 【key words】 姿勢　　感覚と運動　　体の部分の役割 【授業概要】 教科書の実践事例８，９の検討。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。 今までの重度・重複障害児の実践事例を振り返り、検討する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法」（ｐｐ．１０８-１２０） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回使用する学習指導要領､同解説書から重複障害児の教育課程について、また、医療的ケアについて、進路問題等を調べる 第１５回　重複障害教育の展望と課課（医療的ケア、教育課程、自立活動、進路指導、諸課題） 【key words】 医療的ケア　　重複障害教育の教育課程　　重複障害教育の課題　　自立活動　　進路指導 【授業概要】 重複障害児の発達と学習、及び教育課程や自立活動、医療的ケアを含め、重複障害教育の課題と展望について考える。 【教科書ページ・参考文献】 医療的ケアの資料、特別支援学校学習指導要領及びその解説。 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法（ｐｐ.，１２－２５） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んできたことから課題と展望について考察する。重複障害教育に対する自分の意見をまとめてレ　　ポートを提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	①重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児の生活の様子を理解する。　②予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に熟読すること。 ③授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ④授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。授業の前に予習の確認としてミニテストも実施する。　②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。　③授業の一環として特別支援学校か入所施設を参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表（内容、適切さ）４０％　②筆記試験（正確性、客観的、論述）６０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	①アン・サリバン：「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」明治図書２０１０　②進　一鷹：「重度・重複障がい児の発達と指導法」　明治図書　２０１０
参考書	ヘレン・ケラー：「わたしの生涯」角川文庫　1973　他授業の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年　の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたことを通してそこから特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　数学概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 算数教育の背景となる基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方を働かせた数学的活動の理解を深め、小学校教師としての基本的知識と技能を養うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①算数指導の基本原理を理解し、算数指導に役立てることができる。 ②算数指導における用語・記号活用の意義や方法を理解し、算数指導に役立てることができる。 ③算数指導における操作活動や数学ゲームなど算数指導の充実を図る創造力を養い、算数指導に役立てることができる。 ④アルゴリズムの理解と整数論・集合論など数学的思考や活動に役立つ基本概念を学び、算数指導の質の向上に役立てることができる。 ⑤数学の基本的知識を理解し、教員採用試験（一般教養）の回答に役立てる。
授業の概要	テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著に基づき、小学校算数教育の背景となる基本概念を講義・意見交換などで理解を深めるとともに、関連する数学理論の基本的理解を深める。操作活動や教材作成など実際の算数授業を体験しながら資質向上を図る。授業は全員参で問題解答、操作活動、数学ゲームなどに取り組み、アクティブラーニングを旨とする。数学的思考はノートづくりから始まりノートづくりでまとまるものであり、授業ノートをレポートとする。ノート作成は各自創意工夫するものだが、試験にノート持ち込み可（テキスト不可）として考えて記録すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①算数指導の基本原理を理解し、算数指導に役立てることができる。	○			
②算数指導における用語・記号活用の意義や方法を理解し、算数指導に役立てることができる。	○	○	○	
③算数指導における操作活動や数学ゲームなど算数指導の充実を図る創造力を養い、算数指導に役立てることができる。	◎	○		○
④アルゴリズムの理解と整数論・集合論など数学的思考や活動に役立つ基本概念を学び、算数指導の質の向上に役立てることができる。	○			○
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動 【授業概要】 講義・演習　オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動　テキスト２４,25 公式用語理解（数） 【key words】 問題解決学習　問題解決の４つの段階、数学的な考え方（帰納的、類推的、演繹的、統合化、発展的、抽象化、単純化、一般化、特殊化、記号化、数量化、図形化） 【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２４，２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第２回　数の表し方（記数法・名数法）
【授業概要】
講義・演習　数の表し方（記数法・名数法）　テキスト１，２　数学広場（数の誕生・連続量）公式用語理解（四則計算）
【key words】
算数のねらい、十進位取り記数法、
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１，２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第３回　倍数・約数・素数・分数
【授業概要】
講義・演習　倍数・約数・素数・分数　テキスト３、４　数学広場（互除法、友愛数）　公式用語理解
（等式、分数）
【key words】
操作分数、量分数、数としての分数、割合分数、商分数、　最大公約数、最小公倍数
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　３，４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第４回　計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差）
【授業概要】
講義・演習　計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差）　テキスト５　数学広場（箱の中の数字当て）公式用語理解（アルゴリズム）
【key words】　増加、合併、求残、求差、
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第５回　かけ算、わり算と数直線（仮商，真商）
【授業概要】
″講義・演習　かけ算、わり算と数直線（仮商，真商）　テキスト８，１０　数学広場（外的スキーマ、概念形成）
公式用語理解（分数）″
【key words】
小数をかける掛け算の意味、少数で割る割り算の意味、割り算の計算の特徴
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第６回　少数、分数の掛け算割り算の説明
【授業概要】
講義・演習　少数、分数の掛け算割り算の説明　テキスト８，１１，１２　数学広場（循環小数）　公式用語理解（比と比例式）
【key words】
計算の意味、数の仕組み、計算の決まり、類推
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１１，１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第７回　量の比較や測定
【授業概要】
講義・演習　量の比較や測定　テキスト１３　数学広場（文字の数学）　公式用語理解（方程式）
【key words】
量の意味、量の性質、測定の考え方、体積（かさ）や重さの測定の考え方
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第８回　単位量当たりの大きさ
【授業概要】
講義・演習　単位量当たりの大きさ　テキスト１５　数学広場（　集合　）　公式用語理解（方程式２）
【key words】
単位量、割合、速さ
【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します

第９回　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積
【授業概要】
講義・演習　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積　テキスト１４　数学広場（三角形と多角形）
公式用語理解（図形１）″
【key words】
図形の構成要素、

	【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１０回　基本的な図形の概念 【授業概要】 講義・演習　基本的な図形の概念　テキスト１６　数学広場（タングラム）　公式用語理解（図形２） 【key words】 図形領域の系統性、対称概念、関係概念、操作概念、外延、内包 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１１回　帰納的な考え方と演繹的な考え方 【授業概要】 講義・演習　帰納的な考え方と演繹的な考え方　テキスト１７　数学広場（重心・ピタゴラスの定理　）公式用語理解（図形３） 【key words】 帰納的、演繹的、類推、特殊化、発展的 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１２回　正多角形と円・円周率 【授業概要】 講義・演習　正多角形と円・円周率　数学広場（円　）　テキスト１８　公式用語理解（図形４） 【key words】 円周率、正多角形、円の求積 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１３回　立体図形 【授業概要】 講義・演習　立体図形　テキスト１９　　数学広場（正多面体・準多面体）　公式用語理解（関数１） 【key words】 立体図形、 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１４回　関数的な考え方と式・グラフ 【授業概要】 講義・演習　関数的な考え方と式・グラフ　テキスト２０　数学広場　（ブラックボックス　）公式用語理解（関数２） 【key words】 関数の考え方、式、表、グラフ【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 第１５回　数学的活動を楽しむ 【授業概要】 講義・演習　算数的活動（数学的活動）を楽しむ　テキスト２３　数学広場（関数とグラフ）公式用語理解（関数３） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・三角定規、コンパス、ハサミ、USBメモリーは常時持参 ・テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著は必携 ・講義は小学校の授業を想定し、授業のルールを守り、誠実は授業態度で出席のこと。 ・演習は教員採用試験一般教養の数学問題に取り組みます。（数学広場・公式用語理解で扱い） ・授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を 伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験の対策を念頭に問題解答など演習の時間を毎回作るので準備すること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。

評価方法	・期末試験（４０％） ・毎時間の学習ノートをレポートとして提出。（４０％） ・授業参加の意欲（発言、発表、回答）（２０％）
教科書	「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著　教育出版
参考書	遠山啓「数学の広場」
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校数学教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成な当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　理科概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 　小学校理科の指導に必要な基礎・基本（知識・理解・技能）の修得、質の高い授業を計画し実行できる力の獲得 ［到達目標］ ①学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項の背景・趣旨・要点や、教科書の内容のすばらしさを理解する。 ②実際の授業場面を想定した授業の構想や設計ができ、学習指導の基礎・基本に則った授業ができる。
授業の概要	①小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本（理科を学ぶ意義、学習指導要領の趣旨や理科の目標・内容の理解、理科で育成を目指す資質・能力など）を身に付ける。 ②①の理解を基に、理科の標準的な学習過程を理解し、実験・観察、ものづくり、模擬授業などの経験をとおして、よりよい授業が実行できる力を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価方法の説明、講師・学生の自己紹介など） 【Key Word】 講義の概要、授業の受け方、評価方法、自己紹介 【授業概要】 ①「年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等を説明する。 ②自己紹介用アンケートに各自記入後、それをもとにクイズ形式で自己紹介を行う。 ③講義後の振り返りシートの記入上の約束事の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ１～28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○理科教科書(東書)､学習指導要領・解説（理科編）を購入しておくこと ○毎回配付されるワークシートを各自の方法でファイリングしておくこと
	第２回	１．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！ 【Key Word】 理科を学ぶ意義・理由 【授業概要】 ①「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について、自ら考え、班で議論して発表し、講師の考えを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ1～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○理科を学ぶ意義・理由について、日常生活での具体的場面で思い出し、考えを深めておくこと
	第３回	１.ふりこの学習（５年）をとおして、理科の本質を学ぼう！ ２.「種子が発芽する条件」（５年）を考えることをとおして、問題解決能力を再確認しよう！ 【Key Word】 ふりこ、条件、予想、理由（根拠）、結果、結論、問題解決の力、条件制御 【授業概要】 ①簡単なふりこを操作しながら、「ふりこの１往復する時間は、何が関係するのか」を考える。 ②条件ごとの予想と理由から計画を立て、結果から結論を考える。

		③理科では、「問題解決の力を養う」ことが大きな目標の１つになっていることを学ぶ。 ④種子が発芽するための条件を考える。 ⑤ふりこの実験や種子が発芽するための条件を学ぶことをとおして、「条件制御」の概念を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 5年の教科書Ｐ18～35、140～151、学習指導要領・解説Ｐ１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○「条件制御」の本質や意義から、非科学的なコマーシャル等の虚構を見破る力をつけること
	第４回	１.5年以外の、問題解決の能力（育成をめざす資質・能力）は何か、確認していこう！ ２.今の教科書の「工夫やすばらしさ」を、自ら発見してみよう！ 【Key Word】 問題解決の能力、育成をめざす資質・能力、教科書の工夫 【授業概要】 ①３・４・６年の問題解決の能力は何かを、教科書、学習指導要領・解説から考える。 ②自分の小学校時代の教科書と比べて、今の教科書の「すばらしいところ、異なるところ」を見つける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ１～28、３～６年の教科書：全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の工夫点を見つけ認識することは授業力向上に役立つので、他教科でも行っておくこと
	第５回	１.理科の核心である「教科の目標」について、学ぼう！ 【Key Word】 目標を学ぶ意義、理科の目標、学年の目標 【授業概要】 ①教科の目標を学ぶ意義と「理科の目標、学年の目標」の概要を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ１～28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他教科においても、学ぶ意義・理由を考えまとめておくこと（学習指導がぶれず深みがでる）
	第６回	１.３年の学年の目標を基に、４・５・６年の学年の目標を確認しよう！ ２.「理科の学習の学び方（進め方）」を確認しよう！ 【Key Word】 学年の目標、理科の学習の学び方（進め方）、学習過程 【授業概要】 ①４～６年の学年目標を学ぶ。 ②理科の学び方（学習過程）と それぞれの過程での大事な点（ポイント）をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ１～28、４～６年の教科書Ｐ2～3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理科の学び方（探求過程）は、小・中・高・大・社会で活用できるものなので、しっかりと意識化しておくこと
	第７回	１.ものづくりに挑戦しよう！ ２.作った車をどのように使って、どんな授業を行えばよいか、考えてみよう！ 【Key Word】 ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、結果、結論 【授業概要】 ①３年で学習する「風で動く車」「ゴムで動く車」を製作する。そのための条件、材料等を考える。 ②ものづくりが大切な理由を考える。 ③どんな問題（意識）で、授業をすすめればよいか、考える。結果や結論のまとめ方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ29～39、３年の教科書Ｐ94～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ものづくりに必要な材料を、100円ショップやホームセンター等を巡ってそろえること（教師になったとき役立つ）
	第８回	１.ものづくりを始めよう！ 【Key Word】 ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、ものづくり報告書、評価カード 【授業概要】 ①自分が作る車の概要（どんな車か、用意した材料・道具等）を発表する。 ②完成後、ものづくり報告書を書き、発表する。 ③他の人は、評価カードでその作品を評価し、それをもとに「ベストものづくり大賞」などを決める。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ29～39、３年の教科書Ｐ94～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義の時間内に作品が完成しなかった者は、次時までに作品を完成させ持ってくること
	第９回	１.自分の作った車で、実際に実験してみよう！ ２.実験した後の授業を構想し、実際にやってみよう！ 【Key Word】 実験、授業構想、考察、授業計画書づくり 【授業概要】 ①自分が作った車で実際に実験する。結果・結論・考察等をまとめる。 ②「結果→考えよう（考察）→結論」の部分の模擬授業を構想する（授業計画書づくり）。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ29～39、３年の教科書Ｐ94～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義の時間内に授業計画書が完成しなかった者は、次時までに授業計画書を完成させ持ってくること
	第１０回	１.授業計画書をもとに、模擬授業を行ってみよう（Ｎｏ１）！ 【Key Word】 授業計画書、模擬授業、授業評価カード

	【授業概要】 ①３人が１組になって、４５分間の授業を行う。そのための授業の流れや内容等を3人で検討する。 ②実際に模擬授業を行う。各班の授業を「授業評価カード」で評価する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ29～39、３年の教科書Ｐ94～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他班の模擬授業を受け、自班の授業計画に改善点が見つかった場合は、修正しておくこと 第１１回　１.授業計画書をもとに、模擬授業を行ってみよう（Ｎｏ２）！ 【Key Word】 授業計画書、模擬授業、授業評価カード、感想、反省点 【授業概要】 ①「結果→考えよう（考察）→結論」の各部分（１０～１５分間）の模擬授業を行う。 ②各班の授業を「授業評価カード」で評価する。 ③各授業者は、授業を初めて行ってみての「感想や反省点」を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ29～39、３年の教科書Ｐ94～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他班の模擬授業を受け、自班の授業計画に改善点が見つかった場合は、修正しておくこと 第１２回　１.5年「電流がつくる磁力」・6年「電気の利用」の学習内容を体験し、苦手意識を克服しよう（No１）！ 【Key Word】 電流がつくる磁力、電気の利用、苦手意識の克服、電流がうみ出す力 【授業概要】 ①この分野の学習を行う目的・理由を知る。 ②「９ 電流がうみ出す力」の内容を追体験する（No１）。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ66～67、Ｐ82～84、５年の教科書Ｐ126～139、６年の教科書Ｐ166～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ５・６年のエネルギー分野の内容を復習しておくこと 第１３回　１.5年「電流がつくる磁力」の学習内容を体験し、苦手意識を克服しよう（No２）！ 【Key Word】 電流がつくる磁力、電気の利用、苦手意識の克服、電流がうみ出す力 【授業概要】 ①「９ 電流がうみ出す力」の内容を追体験する（No２）。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ66～67、５年の教科書Ｐ126～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ５年のエネルギー分野の内容を復習しておくこと 第１４回　１.電磁石を利用した物として、モーターを作ってみよう（No１）！ ２.後期定期試験に向け、後期の講義内容をふり返ってみよう！ 【Key Word】 電磁石、モーター、鉄心、単極 【授業概要】 ①３つのモーター（鉄心のないモーター、鉄心のあるモーター、単極モーター）のうち、２つ作る。 ②後期定期試験の概要の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ66～67、５年の教科書Ｐ126～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期の講義内容をよく復習しておくこと 第１５回　１.電磁石を利用した物として、モーターを作ってみよう（No２）！ ２.半年間の講義をまとめる。 【Key Word】 電磁石、モーター、鉄心、単極、モーターが回る理由 【授業概要】 ①鉄心のないモーターは必ず作る。時間が許し本人が作りたければ、鉄心のあるモーター、単極モーターも作る。 ②モーターが回る理由を考え、絵と文で表現する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説Ｐ66～67、５年の教科書Ｐ126～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期定期試験に向け、毎回講義で配付したワークシートを中心にしっかりと勉強しておくこと
受講生に関わる情報および受講のルール	１幼稚園・小学校教諭・保育士など、教職を目指す者としての自覚をもって講義に臨むこと。 ２講義では、自らの思考力・判断力・表現力、コミュケーション力に磨きをかけることを目指して、積極的に意見や考えを発表すること。 ３振り返りシートに、講義の評価、自らの参加意欲・態度、感想、質疑を、毎回しっかりと書くこと。 ４毎回配布されるワークシートや参考資料の保管をきちんとしておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他（ワークシート）
授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの自然を観察し、自ら体験する習慣を付けておくこと。
オフィスアワー	・質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（３０％）、

	授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、振り返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新編 新しい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小学校教員（５年間）、公立中学校教員（１４年間）、県教育委員会学校指導課指導主事（３年間）、県教育委員会東部教育事務所学校教育課指導主事及び主任指導主事（３年間）、公立小学校教頭（２年間）、公立小・中学校長（小学校７年間、中学校３年間） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生活科概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。 【到達目標】 １）　植物・生き物・気象・年中行事について、子どもが関心を寄せる内容の説明ができる。 ２）　植物の栽培・生き物の飼育についての知識を身につける。 ３）　子どもにとって身近な人々や社会とのかかわりについて理解する。 ４）　上記の１）～３）を四季の変化の中に位置づけることができる。
授業の概要	四季をとおしての自然と人事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　ガイダンス　：　（生活科とは　生活科のめざすものと内容）

【key words】
身近な自然と社会　身近な文化　地域・家庭　保幼小連携　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

【授業概要】
生活科のめざすものと内容について解説する。また、どのような実践活動を行えば子どもたちが身近な自然や社会・文化について関心を持つことができるか、子どもたちが自分や友達の良さに気付くための活動にはどのようなものがあるかについて考える。最終提出物となる『生活科ずかん』の見本を見ながら、自分の作品をイメージする。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：『生活科ずかん』製作のための材料をそろえる。

第２回　身近な自然と文化のとらえ方　：　「ドリル」をやってみよう

【key words】
季節の草花　生き物（哺乳類・魚類・爬虫類・両生類・昆虫累・クモ類）　身近なものの原材料　年中行事　色々な職業

【授業概要】
幼児向け「ドリル」の問題に挑戦する。答え合わせをしながら、生活科の目指すものと知っておくべき事柄について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「ドリル」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春夏秋冬の自然と文化及び社会に興味を持ちながら、図書館にある幼児教育の雑誌と図鑑を見ておくこと（どこに何があるか確認）。

第３回　春の自然と文化　：　『生活科ずかん』作成にあたっての調べ方と諸注意

【key words】
『生活科ずかん』　春夏秋冬の植物・生き物・気象・行事・あそび　幼児教育雑誌　図

		鑑 【授業概要】 オリジナル『生活科ずかん』を手作りする意義を説明し、参考にすべき雑誌・図鑑・書籍などを紹介する。調べ方については、『生活科ずかん』の春の部の例を示すので理解し、自身の製作活動につなげる。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料：先輩たちの作った『生活科ずかん』 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：春夏秋冬の自然と文化に興味を持ち、図書館にある幼児教育系の雑誌・図鑑類を見ておく。 復習：授業で紹介された図書館にある雑誌・図鑑の種類や配架場所を確認しておくこと。
	第４回	春の自然と文化　：　春の植物・生き物 【key words】 春の植物　生き物の春の様子 【授業概要】 ブレーンストーミングにより春の植物・春に特徴がある生き物を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「春のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：春の植物と、春に特徴のある生き物を調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
	第５回	春の自然と文化　：　春の気象・あそび 【key words】 気象　植物を使ったあそび 【授業概要】 ブレーンストーミングにより春特有の気象や春ならではのあそび方を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「春のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：春ならではの植物を使ったあそびを調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
	第６回	春の自然と文化　：　春の行事 【key words】　春の行事 【授業概要】　ブレーンストーミングにより春の行事を出し合い、次にそれらについての意味や歴史的背景を解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「春のメモ」「雛人形と甲冑」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：春の行事を調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
	第７回	夏の自然と文化　：　夏の植物・生き物 【key words】 夏の植物　夏の生き物 【授業概要】 ブレーンストーミングにより夏の花や野菜、夏に現れる生き物を出し合う。その後、栽培のしかたや飼育のしかたを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「夏のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：夏の植物と生き物を調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
	第８回	夏の自然と文化　：　夏の気象・あそび 【key words】 夏の気象　夏ならではのあそび 【授業概要】 ブレーンストーミングにより、夏の様々な気象現象・夏ならではのあそびを出し合う。その後、ひとつひとつについて解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「夏のメモ」「虹をつくろう」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：夏の気象や夏ならではのあそびを調べる。
	第９回	夏の自然と文化　：　夏の行事 【key words】 夏の行事 【授業概要】 ブレーンストーミングにより夏の行事を出し合い、その後、行事を楽しく行う工夫を解説する。また、ムシ歯予防週間に因んだ実践を行う（折紙でコップを折り、水を入れてみる）。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「夏のメモ」「コップの折り方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：夏の行事にはどのようなものがあるか調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
	第１０回	秋の自然と文化　：　秋の植物・生き物 【key words】 秋の植物　秋に特徴のある生き物

	【授業概要】 ブレーンストーミングにより秋の植物や秋に特徴のあらわれる生き物を出し合う。その後、解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「秋のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：秋の植物・生き物を調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 第１１回　秋の自然と文化　：　秋の気象・あそび 【key words】 秋の気象　月の満ち欠け　秋の植物を使ったあそびや製作 【授業概要】 ブレーンストーミングにより秋の気象現象や秋ならではの植物を使ったあそび・製作を出し合う。その後、詳しく解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「秋のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：秋の雲や気象現象、月の満ち欠けについて調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 第１２回　秋の自然と文化　：　秋の行事 【key words】 秋の行事 【授業概要】 ブレーンストーミングにより秋の行事を出し合う。その後、文化的意味の解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「秋のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：秋の行事や風物について調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 第１３回　冬の自然と文化　：　冬の植物・生き物・気象 【key words】 冬の植物　冬の生き物のようす　冬の気象 【授業概要】 ブレーンストーミングにより冬の植物・生き物のようす・気象現象を出し合う。その後、代表的な動植物Ｙ日本の冬の気候について解説を行う。 雪の結晶の切紙を作る。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「冬のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：冬に咲く花・冬に特徴のある生き物・冬の独特な気象現象を調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 第１４回　冬の自然と文化　：　冬の行事 【key words】 冬の伝統行事　冬のあそび 【授業概要】 ブレーンストーミングにより冬の伝統行事を出し合い、その後、それらの行事の文化的意味あい、行事食やあそびなどについての解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「冬のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：冬の行事や屋内で行うあそびを調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 第１５回　日本の文化　：　生活の中の日本の文様 【key words】 幾何学模様　謎解き模様　古典文様　古典文学意匠 【授業概要】 生活の中で使われている色々な物の文様を紹介し、それらの意味の説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「日本の文様」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日常生活の中にある伝統的な文様をさがす。 復習：授業でとり上げた文様を生活用品・衣類などの中に探す。そして、何故その文様が描かれて（つけられて）いるのかについて考える。 課題・復習：今まで作ってきた、自身の『生活科ずかん』全体を集約し、提出に供える。
受講生に関わる情報および受講のルール	『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。 ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。 ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。 ・計画的に製作を行うこと。 ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること（コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。

オフィスアワー	金曜日　13：00〜15：00
評価方法	提出物（『生活科ずかん』）（７０％）・・・各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそび　を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。　授業への取り組み方（３０％）・・・発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。
教科書	加藤明・濱田純・吉田豊香ほか　『新編 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上、東京書籍、2016年
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　音楽概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校音楽科学習指導要領の目的・内容を理解し、音楽科の基本的な知識や能力を培い指導法を理解する。 【到達目標】 ①音楽科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②教科の目標及び各学年の目標と学習内容を理解し、音楽科の指導方法を身につけることができる。
授業の概要	音楽科を教えるための基本的な理論と知識を学習し、学習指導要領の学習内容が授業でどのうように具体化されているか理解し、内容に応じた指導法を学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） 第２回　　音楽の本質と要素 第３回　　音楽教育の目標と芸術教育の目標 第４回　　小学校音楽科目標の組み立て（教科目標・学年目標） 第５回　　総括目標（音楽性・情操・創造性） 第６回　　表現（歌唱・楽器・音づくり）・鑑賞・共通事項の具体的目標 第７回　　指導内容　表現（歌唱）　基礎技能 第８回　　指導内容　表現（歌唱）　リズム・音程・和声・読譜 第９回　　指導内容　表現（楽器）　楽器の種類・奏法・合奏 第１０回　　指導内容　表現（楽器）　指導上の問題点 第１１回　　指導内容　表現（音づくり） 第１２回　　指導内容　鑑賞　意義・聴き方について 第１３回　　指導内容　鑑賞　教材選択について 第１４回　　表現・鑑賞の各活動における共通事項との関連性について 第１５回　　音楽教育の他教育との関わりについて
受講生に関わる情報および受講のルール	予習や事前準備をしっかりして、積極的に授業に臨むこと。 　スマホ等の電源は切っておく。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。
オフィスアワー	授業寺に指示する。
評価方法	筆記試験80%　授業への取り組み（レポート提出・出欠等）20%
教科書	最新・初等科音楽教育法〔改訂版〕　音楽之友社
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　家庭科概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活（衣・食・住・家庭管理）に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。 【到達目標】 １）　衣・食・住・家庭管理に関する知識を、自身の生活の中に明確に位置づけることができる。 ２）　１）をいつでも引き出して実践することができる。 ３）　「家庭科」は、より良い家庭生活を構築するための教科であることを常に意識し、家族に対する「思い」を持ち続けることができる。
授業の概要	“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済の各分野についての基礎知識を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　ガイダンス　：　生活者としての習熟度チェックと生活の中の科学・文化の考え方

【key words】
衣生活　食生活　住生活　金銭管理（家計）　生活事象の中の科学・文化

【授業概要】
身辺の生活事象（衣・食・住・金銭管理）についての自身の知識をチェックし、「家庭科」に欠かせない日常生活に関する科学的・文化的な考え方を身につける。また、それにより生活の科学・生活の中の文化の面白さや奥深さに気付く。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「生活科学チェックテスト」（プリント）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第２回　家庭科への誘い　：　「家庭科」の特徴と家庭科教育の意義

【key words】
家庭科の歴史と意義　小学校高学年と家庭科　「生活を科学する」　「文化を伝承する」

【授業概要】
「家庭科」特有の“実践しながら学ぶ”ことの意味・意義について知る。また、「家庭科」は「家政学（生活科学）」の知見に基づく教科であるが、「家政学」の各領域における研究を紹介し、科学・文化が実生活に活用されている様子を知る。

【教科書ページ・参考文献】
10～22ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：10～22ページ

第３回　家族・家庭生活　：　家庭生活とは何か　家庭の仕事と生活時間　家族の現状

【key words】
家庭・家族　家庭生活の構造　家庭と社会　家庭生活を支える仕事（家事労働・家事分担）生活時間　児童虐待　子どもの貧困

【授業概要】

家庭生活の意義を学ぶとともに現代の家族の構造や現状について知る。また、家庭生活を支える仕事と生活時間について理解し、家庭生活における子どもたちの傾向について把握する。
【教科書ページ・参考文献】
24～46ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：24～46ページ

第４回　食生活　：　現代の食生活の課題　食事の役割と日常食の大切さ
【key words】
食事の役割　日常食　内食・中食・外食・旬　栄養素　食物アレルギー　行事食　食事のマナー
【授業概要】
現代の食をめぐる状況を知り、食事の役割・日常食の大切さについて考える。また、体に必要な栄養素の働きを理解するとともに食文化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
50～64ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：50～64ページ

第５回　食生活　：　栄養を考えた食事（献立を立てる）
【key words】
６つの基礎食品群　食事摂取基準　食事バランスガイド　夕食の献立
【授業概要】
身体を健康（健全）に保つための栄養の基礎について学び、「６つの基礎食品群（小学校では「３色食品群」）が判別できるようになる（「食事摂取基準」「食事バランスガイド」についても言及する）。
【教科書ページ・参考文献】
64～69ページ
配布資料：ワークシート（献立）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：64～69ページ
予習：栄養に関する情報を調べる（厚生労働省「日本人の食事摂取基準」・農林水産省「食事バランスガイド」・文部科学省「日本食品標準成分表」「食品成分データベース」）。
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」（記入用紙配布）開始。

第６回　食生活　：　調理の実際
【key words】
食品の購入・保存　計量　材料の洗い方・切り方　加熱調理（ゆでる・いためる・炊く）　後片付け
【授業概要】
調理するための基礎知識を身につける。「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」の結果を集約し、自身の食生活の問題点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
70～80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」
予習：70～80ページ

第７回　衣生活　：　衣服の機能と役割
【key words】
体温の調節　身体の保護　身体の清潔　生活や作業動作の向上　TPOの配慮　所属集団や職業の識別　自己表現　繊維　糸　布　暖かい着方・涼しい着方
【授業概要】
「衣服とは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、快適な衣生活を営むための知識（素材・着方）についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
82～90ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：82～90ページ

第８回　衣生活　：　衣服の手入れ
【key words】
界面活性剤の働き（浸透作用・乳化作用・分散作用・再付着防止作用）　洗濯の条件　衣服の取扱い表示　漂白　しみ抜き　柔軟仕上げ　のり付け　アイロンがけ　クリーニング業者による洗濯
【授業概要】
衣服の汚れを落とす目的と衣服の手入れの必要性を確認するとともに、正しい対処法（洗濯の方法・手順・用剤等）について学ぶ。
洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を理解し、生活に役立てることができるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
91～102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「各自の家庭で使用している洗剤の成分について調べる」
予習：91～102ページ

第９回　衣生活　：　布を用いた製作（手縫）
【key words】
裁縫用具　手縫いの基礎（玉結び・玉どめ・並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）　ミシン縫い
【授業概要】
布は他の素材と異なり温かみが感じられるものである。この布を用いて生活に役立つものを作る際の、手縫いの基礎について実践学習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
103～114ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：基礎縫いの作品を仕上げること（次回提出）。
予習：103～120ページ

第１０回　衣生活　：　布を用いた製作（ミシン縫い）

	【key words】 ミシンの各部名称　上糸のかけ方　下糸の出し方　返し縫い　ミシンの不調原因と対策 【授業概要】 第9回の手縫いに引き続き、ミシン縫いの実践を行う（試し縫い）。 【教科書ページ・参考文献】 114～120ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：114～120ページ 第１１回　住生活　：　住まいの機能と役割　室内環境とその調整 【key words】 保護的機能　生活機能　文化的機能　温熱環境　空気環境　光環境　音環境 【授業概要】 「住まいとは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、室内環境を快適に整えるための条件について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 112～136ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：112～136ページ 第１２回　住生活　：　住居の管理　バリアフリーとユニバーサルデザイン 【key words】 整理・整頓　清掃　バリアフリー　ユニバーサルデザイン 【授業概要】 日常行っている整理整頓や清掃について科学的に学ぶ。清掃については、第8回で学んだ洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を活用しながら、汚れの落とし方を科学する。また、バリアフリーの作りについて検討し合うとともに、ユニバーサルデザインの例を紹介し合う。 【教科書ページ・参考文献】 137～142ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：137～142ページ 課題：バリアフリーの例・ユニバーサルデザインの例を探す。 第１３回　消費生活・環境　：　家庭経済（家計）と消費者生活 【key words】 家計・収入・支出　電子マネー　契約（物を買う行為）　クレジットカードのしくみ　消費者問題 【授業概要】 企業と同様、家庭も経営が順調でなければ破綻する。家庭経済（家計）のしくみについて学ぶとともに、賢い消費者になるための物の選び方や支払い方について知る。 【教科書ページ・参考文献】 144～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：144～157ページ 第１４回　消費生活・環境 【key words】 SDGs（国連が提唱している持続可能な世界実現のための目標）　消費生活と環境　３Ｒ　５Ｒ　衣生活と環境　食生活と環境　住生活と環境 【授業概要】 ますます悪化する地球温暖化に対し、世界の人々が地球上の資源をどのように消費すべきかを考えながら暮らしていかなければならない。そのための国際的合意について知るとともに、衣・食・住及び消費と環境について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 158～163ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：158～163ページ 第１５回　生活文化 【key words】 四季の自然　色の呼び方　伝統模様　行事食　日本家屋　インテリア製品 【授業概要】 衣食住生活の中の日本独自の工夫や美意識について知り、それらは四季の変化に富む風土と深いつながりがあることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布配布：日本の文様（幾何学文様・情景をあらわす文様） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：衣食住に関する我が国独自の工夫や伝統について調べる。
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	試験（５０％）　提出物（30％）　授業における積極性（発言・発表等）（２０％）
教科書	佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）2004年　文部科学省　『小学校学習指導要領解説家庭編』 内野紀子・鳴海多恵子・石井克枝他　『小学校わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、2016年
参考書	0
実務経験のある教員	

による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　体育概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導に必要な知識・技能を習得し、実践できることを目的とする。 【到達目標】 ①生涯スポーツの基礎つくりになる理論と実技を身につけることができる。 ②児童の発育･発達段階に応じた教材の特性と内容を習得することができる。 ③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導･助言を行うことができる。。
授業の概要	１　体育科を指導するための基礎的な理論と知識を学習し、学習内容に応じた実技の基礎動作を習得する。　２　児童が各種の運動に親しみ、自ら進んで体力を高めることができるような方法を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　体育の特色（概念、改定の趣旨、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法と体育） 【key words】運動の教育　学習指導要領　総則と体育　スポーツ基本法　スポーツ基本計画 【授業概要】体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法の視点で、小学校教諭に必要な基本的知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９～ｐ２１　　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】「学習指導要領（体育）」について学習しておく。
	第２回	学習指導要領の読み方（概念、改定の趣旨、体育の目標） 【key words】生きる力　確かな学力　体系化　豊かなスポーツライフ　最低基準 【授業概要】学習指導要領の概要（生きる力、確かな学力、基本的考え方）、体育科改訂の趣旨（改訂と学校教育）、体育科の目標（小学校体育の目標、読み方と授業つくり、カリキュラムの構造）を学び、学校教育のアカウンタビリティに応えるべく、体育的学力の育成について習得する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２２～ｐ３５　　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】「発育･発達」について学習しておく。
	第３回	発育･発達（発育の概要、運動機能の発達、運動指導） 【key words】発育　発達　分化　統合 【授業概要】学童期の心身の変化のうち、形態的側面の発育の概要、機能的側面の運動機能の発達として捉え、その変化を理解する。また、この発育･発達を、体育活動でどのように運動指導に結びつけていくかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ３６～ｐ４８　　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生の体力」について学習しておく。
	第４回	小学生の体力（体力の理解、児童期の体力要素、運動手段、体力測定評価） 【key words】小学生の体力　神経系型　調整力　運動手段　体力テスト 【授業概要】こどもの現状を踏まえ、体力とその要素について理解したうえで、児童期の発育・発達の特徴を学び、急激に発達する神経系と、密接に関係する調整力やその他柔軟性の役割、無気パワー、基礎的持久力について学ぶ。また、運動手段の準備や体力測定評価を効果的に体育指導に生かすことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ４９～ｐ６３　　小学校

学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「こどもの生活」について学習しておく。

第５回　子どもの生活（環境の変化、運動、栄養、休養、生活リズム）
【key words】　変化する生活環境　３つの「間」の喪失　基本的生活習慣とリズム
【授業概要】児童期における「健康３原則」を、運動（遊び）・栄養・休養として、その経緯や現状（ＴＶ、少子･高齢化、人口減少社会等、）を実態から把握し、運動（遊び）、栄養、休養の面から、生活リズム向上のための取り組みを考え、子どもの健康的な生活を促進することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ６４～ｐ７６　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生に対する運動指導」について学習しておく。

第６回　小学生に対する運動指導（発達的視点に立つ構成要素、運動技能の捉え方、練習･指導、好き嫌い）
【key words】体育　発達　運動技能（スキル）　指導　運動嫌い
【授業概要】運動を学ぶことと、子どものトータルな発達との関係を確認し、運動を学ぶ際の中核である運動技能（スキル）についての捉え方や指導にあたり留意する事項を学ぶ。また、生涯にわたって運動に親しむことができるために、運動好きと運動嫌いについてその要因を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ７７～ｐ８９　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「子どもの安全」について学習しておく。

第７回　子どもの安全（学校安全、体育活動時における安全）
【key words】学校安全　安全管理　安全教育　ＢＬＳ教育　けがの処置
【授業概要】学校安全の意義とねらい、安全教育の意義と推進や、体育活動における安全（事故の現状、事故防止の基本的考え方、安全教育と安全管理、体育科授業での取り組み、けがへの対処、熱中症やその他の取り組み）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９０～ｐ１０３　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「保健」について学習しておく。

第８回　保健（毎日の生活と健康、育ちゆくからだと私、心の健康、ケガの防止、病気の予防）
【key words】生活と健康　思春期　こころの健康　手当　予防
【授業概要】保健領域の毎日の生活と健康（第３学年）、育ちゆく体とわたし（第４学年）、こころの健康・けがの防止（第５学年）、病気の予防（第６学年）の知識を習得する。また、修得した知識を活用する学習を通して、思考力や判断力を育成することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１０４～ｐ１１５　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」について学習しておく。

第９回　体つくり運動（体つくり運動とは、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、体力を高める運動）
【key words】体ほぐし　多様な動きをつくる運動（遊び）　体力を高める運動　気づき　調整　交流
【授業概要】　体つくり運動の概要、その内容である「体ほぐしの運動」、「多様な動きをつくる運動」、「体力を高める運動」の説明や、低・中・高学年での教材内容の取り扱いを学ぶ。また、実技として、体つくり運動の実践活動を取り入れ、その動きを通して「体つくり運動」の指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１１６～ｐ１２９　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」について学習しておく。

第１０回　器械運動（基本の動き、器械･器具を使っての運動遊び、器械運動）
【key words】　基本的運動技能　器械・器具を使っての運動遊び　マット運動　鉄棒運動　跳び箱運動
【key　words】マット　鉄棒　とび箱
【授業概要】器械運動の基本動作や技術を実技を通して学び、日常的生活では味わえな運動が、潜在的身体能力として重要であることを習得する。　また、器械運動は「できる」「できない」がはっきり現れる教材であり、段階的指導方法により、「できた」達成感や成就感を味わえ、人間性を高めることへの効果も高いことも学ぶ。
【教科書ページ・参考】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１３０～ｐ１４６　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」について学習しておく。

第１１回　陸上運動（基本の動き、走の運動、跳の運動）
【key words】短距離走　リレー　ハードル走
【授業概要】陸上運動の基本の動き（短距離走）走の運動（短距離、リレーハードル走）の説明、実技を通じて、低・中・高学年での技術のポイント、基本的なフォームの指導方法を学ぶ。また、仲間と走る速さを競い合ったり、目標を達成させる楽しみを体験する中で、「走・跳の運動遊び」から「陸上運動」へ移行することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１４７～ｐ１６５　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。

第１２回　水泳（基本の動き、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳）
【key words】水遊び　浮く　泳ぐ
【授業概要】水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりする中で、心地良さや楽しさを通じて手や足の動きを身に付けろとともに、安全の心得を学ぶ。泳法は、クロール・平泳ぎの習得をめざし、け伸び、プル、バタ足、呼吸法等の基礎的技術を学ぶと共に安全管理の知識も習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１６６～ｐ１８０　　小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」について学習しておく。

第１３回　ボール運動（ゴール型、ネット型、ベースボール型）
【key words】基本技術　ゲーム　技能　ゴール型　ネット型　ベースボール型　攻撃　守備　ルール　作戦
【授業概要】ボール操作の基礎技能の理解と技術の習得を通し、ボール運動の特性であるゴール型（バスケットボール・サッカー等）、ネット型（バレーボール等）、ベースボール型（ソフト

	ボール等）の特徴を学ぶ。また、ゲームを通じて、チームワークや役割分担等、お互いを理解する態度とコミュニケーション能力の向上を図る。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１８１～ｐ２０５　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動」について学習しておく。 第１４回　表現運動（表現リズム遊び、表現運動） 【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊かにする 【授業概要】表現遊び・リズム遊び（低学年）や表現運動（中･高学年）の表現、リズムダンスを通じて児童一人ひとりが踊りの楽しさや喜びに触れられ、こころと体を解放、表現できることを学ぶ。また、地域に伝承している踊りや、発想やイメージによる動きつくりや表現方法も学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２０６～ｐ２１８　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】健康的な生活について確認する。 第１５回　まとめ【課題・予習・復習・授業準備指示】 【key words】体育　スポーツ　健康 【授業概要】体育概論の授業で実施した体育・スポーツ活動を通じて、子どもたちが、こころと体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全について理解し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力をの基礎を育てると共に、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度ができるかをまとめる。【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）、小学校学習指導要領解説 【課題・予習・復習・授業準備指示】生涯スポーツの基礎つくりとして小学校体育科のあり方をまとめておく
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講者に関する事項〕 ・前半は講義、後半は実技を中心とする。・水泳は夏期集中講義でおこなう。・運動着、運動靴やメモ用紙の準備をする。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具準備をおこなう。・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子どもたちの状況を理解しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望の場合はアポイントをお願いしたい。
評価方法	筆記試験、レポート（50%）実技試験（50%）の総合評価
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編：東洋出版社：平成29年　高島二郎：小学校体育：玉川大学：平成29年
参考書	下山伸二：体育の教科者：山と渓谷社：平成23年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教職（保健体育科）、障がいスポーツ・生涯スポーツ・体育スポーツ行政指導経験（延べ52年）を通して指導に当たっている。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉に関する制度とサービス　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。 【到達目標】精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。
授業の概要	精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の進め方、精神病者監護法・私宅監置

【key word】
私宅監置、呉秀三

【授業概要】
精神障害者の扱いの歴史をひも解く。

【教科書ページ・参考文献】
資料配布

第２回　精神障害者をめぐる法律の歴史的変遷

【key word】
保護者制度の廃止

【授業概要】
精神衛生法の誕生。そして１９６５年改正のもつ意味。同意入院、措置入院と自由入院。
精神疾患や精神医学についても扱う。
※入院形態と保護者制度の廃止について。

【教科書ページ・参考文献】
前回資料配布

第３回　クラーク勧告、Ｙ問題、宇都宮病院問題

【key word】
クラーク勧告

【授業概要】
精神衛生法、精神保健法から精神保健福祉法へ。
世界は脱施設化の中、日本の精神科医療は逆行し入院中心を進めてきた。

【教科書ページ・参考文献】
保健学７Ｐ（下段、精神科特例より下）を参照。

第４回　精神保健福祉法の誕生

【key word】
精神保健福祉法

【授業概要】
法の38条『処遇』から精神保健福祉法に入る。

【教科書ページ・参考文献】

、プリントと教科書。

第５回　精神保健福祉法の主な内容

【key word】
精神保健福祉
【授業概要】
精神障害者の人権を守る「精神医療審査会」。
精神保健福祉センターから精神科病院まで。

【教科書ページ・参考文献】
７P～

第６回　医療保護入院

【key word】
医療保護入院
【授業概要】
保護者制度の廃止から精神科病院、精神保健福祉士の業務が大きく変わった。
※退院後生活環境相談員。

【教科書ページ・参考文献】
19～26P

第７回　精神保健福祉法の改正、22年改正、25年改正

【key word】
宇都宮病院事件
【授業概要】
精神衛生法の改正を含め精神保健福祉法の流れを知る。
※教科書に従って。

【教科書ページ・参考文献】
26P～

第８回　入院の実際、退院の実際

【key word】
入院届
【授業概要】
病院の精神保健福祉士の仕事から実際を学ぶ。
※教科書に従って。

【教科書ページ・参考文献】
19～35P

第９回　障害者基本法と精神障害者の人権

【key word】
精神障害者の人権
【授業概要】
第4章における障害者の人権から入り、精神障害者に対する課題まで進める。
※差別の禁止、合理的配慮。
【教科書ページ・参考文献】
197～216P
次回から「理論と展開1」の教科書を持ってくる。

第１０回　精神障害者福祉の理念と人権

【key word】
障害者福祉
【授業概要】
ここから「理論と展開１」の教科書に入る。
※ノーマライゼーション

【教科書ページ・参考文献】
理論と展開1の1～37P

第１１回　障害者権利条約の理念と人権

【key word】
障害者の権利条約
【授業概要】
地域社会における精神障害者の人権。
※欠格条項、心神喪失、心神耗弱。

【教科書ページ・参考文献】
教科書37P～

第１２回　精神障害及び精神障害者

【key word】
能力障害と生活の障害
【授業概要】
生活のしずらさに焦点を当てボランティア体験を報告。
※ICIDHからICFに

【教科書ページ・参考文献】
教科書50～74P

第１３回　精神保健福祉の歴史と理念

【key word】
脱施設化
【授業概要】
英米の精神保健福祉の歴史から日本の取り組みまで。
※ケネディー教書。

【教科書ページ・参考文献】

教科書74～88P

第１４回　ノーマライゼーションをもう一度

【key word】
社会的不利
【授業概要】
教科書に従い進める。
※能力障害と生活のしずらさ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書90P～

第１５回　日本の精神保健福祉とソーシャルワーク

【key word】
PSWの始まり

【授業概要】
Y問題に注目。
精神保健福祉士が誕生。

第１６回　アメリカの巨大精神科病院

【key word】
アメリカの精神科病院
【授業概要】
映画「カッコーの巣の上で」を鑑賞。脱施設化の前の州立精神科病院の実際。
力動精神医学、巨大収容所（アサイラム）、治療共同体。

※婦長の行うグループワークに注目。

第１７回　16回の続き

【key word】
強制入院

【授業概要】
映画鑑賞と感想文

第１８回　国家資格とY問題

【key word】
国家資格・精神保健福祉士
【授業概要】
かって精神科ソーシャルワーカーが診察し入院させた？本当？強制入院？

【教科書ページ・参考文献】
119～149P

第１９回　精神保健福祉士の専門性

【key word】
F・ホリスを思い出す
【授業概要】
人と状況の全体関連性。
生活者の視点に立つ精神保健福祉士の視点。

※病院精神保健福祉士の仕事

第２０回　医療観察法と更生保護法

【key word】
措置入院から医療観察法入院
【授業概要】
本来の教科書に戻り、医療観察法を学ぶ。
※社会復帰調整官。

【教科書ページ・参考文献】
教科書111P～に従って。

第２１回　法的手続き

【key word】
入院しているのに退院届。
【授業概要】
判断の間違えはだれでも起こり得る。しかし法的手続きをしないことは人権を守っていないことになる。最悪訴えられて負ける。
任意入院、医療保護入院、措置入院の手続き。
【教科書ページ・参考文献】
資料参照

第２２回　関連法、医療保険制度と介護保険制度

【key word】
社会的不利
【授業概要】
障害者総合支援法との関連。
社会保障制度全般から見ていく。

【教科書ページ・参考文献】
44P～障害者総合支援法も

第２３回　年金制度と障がい者年金

【key word】
無拠出年金。
【授業概要】
教科書に従って。

	【教科書ページ・参考文献】 172～183P 第２４回　労災関連と精神障害者福祉 【key word】 リワークプログラム 【授業概要】 業務起因性、業務遂行性。 うつ病等精神疾患との係わり。 【教科書ページ・参考文献】 168Pを中心に。 第２５回　公的扶助と精神障害 【key word】 公的扶助 【授業概要】 仕事は励みになるし、ストレスになる。 仕事がゴールではない。 【教科書ページ・参考文献】 180～187P 第２６回　経済負担の軽減と生活支援 【key word】 社会的不利 【授業概要】 手帳は役に立つか？教科書に従う。 ※精神障害者の取得率が一番低い。 【教科書ページ・参考文献】 186P～ 第２７回　障害者雇用促進法 【key word】 就労支援 【授業概要】 障害者雇用促進法から職業リハビリテーションについて考える。 ※雇用義務。 【教科書ページ・参考文献】 256～274P 第２８回　精神障害者の生活支援システム 【key word】 きょうされん調査 【授業概要】 教科書に従う。 精神障害者の生活実態。 【教科書ページ・参考文献】 217P～ ※4年生で本格的に学ぶ。 第２９回　精神障害者の生活と人権 【key word】 精神障害者の実際の生活 【授業概要】 入院しても処遇改善要求ができる。「理論と展開Ｉ」の事例172Pを復習。 ※精神医療審査会。 【教科書ページ・参考文献】 「理論と展開Ｉ」の172P 第３０回　障害者総合支援法と生活支援 【key word】 ナラティブ 【授業概要】2人の当事者の話、230Pと231Pの語り。 生活実態をアンケート調査結果からをあわせ。 【教科書ページ・参考文献】 230Pと231P
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。年に1～2回映像での勉強を予定している。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神障害者の生活支援　制度・システムとサービス

参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者支援を中心にした社会福祉サービスと支援活動を学ぶ。 【到達目標】精神保健福祉士の専門技術と理論を学ぶ。
授業の概要	障がいに配慮した援助技術を理解するためグループワークから入る。初めにＳＳＴ(生活技能訓練)を学び、次の個別援助技術（ケースワーク）を学び、地域支援（コミュニティーワーク）を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の進め方
【key word】
指示的グループワーク、非指示的グループワーク。
【授業概要】
科目オリエンテーション。
デイケアプログラムを参考にする。

【教科書ページ・参考文献】
188P

第２回　障がいに配慮したグループワーク
【key word】
ソーシャルスキルとは？
【授業概要】
生活技能訓練（SST)を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
52P,190P

第３回　障害者を対象としたグループ
【key word】
生活技能訓練（SST)を学ぶ

【授業概要】
課題グループ、プログラム活動、治療グループ。
※リーダー練習のための準備。

第４回　集団援助技術とＳＳＴ（生活技能訓練）
【key word】
生活技能訓練（SST)を学ぶ

【授業概要】
ロールプレイ。ビデオから学ぶ。

第５回　グループプロセスから学ぶ
【key word】
生活技能訓練（SST)を学ぶ
【授業概要】
グループワーク共通のグループプロセス。
開始期から作業期。
※リーダー練習。

【教科書ページ・参考文献】
185P

第６回　障害者を対象としたグループワーク

【key word】
リーダーシップ
【授業概要】
グループワーク共通のグループプロセス。
開始期から作業期。
※リーダー練習。
支持的（サポーティブ）グループワーク。

※リーダーシップとは？

第７回　ＳＳＴの有効性

【key word】
ストレスに強くなる
【授業概要】
何でもあり、答えも用意されている。
※では何をする、…　スキルアップ！

【教科書ページ・参考文献】
☆前年の基盤の本を持ってくる。

第８回　認知行動療法の色々

【key word】
外在化
【授業概要】
基盤95Pのべてる式認知行動療法から学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
基盤95P

第９回　学びと般化

【key word】
正のフィードバック
【授業概要】
交代して学ぶ。宿題の報告。やってこなくて、パスしてほめられる。

※ドライラン

第１０回　送信技能、受信技能、処理技能

【key word】
認知の障害、認知症ではない。

【授業概要】
スキーマ、自動思考の説明。
理論的な話から認知機能に注目してもらう。

※問題解決法

第１１回　ある精神科デイホスピタルでの実践

【key word】
デイホスピタル？

【授業概要】
デイケアとデイホスピタル。ビエラのソーシャルクラブ。

第１２回　シナリオロールプレイ「役割と自分」

【key word】
SSTの実際

【授業概要】
ある大学病院デイホスピタルのSSTの実際をシナリオロールプレイで学ぶ。

※レポート提出

第１３回　ストレス―脆弱性モデルと防御因子

【key word】
防御因子

【授業概要】
統合失調症の発症モデル、再発モデルを理解し、防御因子としてのSSTを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
179P

第１４回　アミン仮説と抗精神病薬

【key word】
アミン仮説・神経伝達物質
【授業概要】
脳の生物学的視点。
精神医学理論とSST.

【教科書ページ・参考文献】
77Pのクロルプロマジン

第１５回　精神科病院の開放化

【key word】
回転ドア現象
【授業概要】
入院しよくなって退院したのに家に戻って悪化する。そして再入院。
これを打ち破ったのが患者作業。そして病棟の開放化、病院の開放化。

【教科書ページ・参考文献】
105P

第１６回　精神科デイケア、デイホスピタル

【key word】
中間施設
【授業概要】
これまで身に着けてきたグループワーク、SST,コミュニティーミーティングを整理する。
※プログラム活動

【教科書ページ・参考文献】
教科書188Pの表の５－１を参照。

第１７回　集団活動の中の暗黙の了解（アザンプション）

【key word】
※暗黙の了解（アザンプション）
【授業概要】
精神障害者を対象にしたグループワーク。
ホーソン実験の持つ意味。

【教科書ページ・参考文献】
185P　GWの作業期

第１８回　退院促進と回転ドア

【key word】
コミュニティーミーティング
【授業概要】
治療共同体の全体ミーティング。
自分の発言に責任を持つ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書188Pの表の５－１を参照。

第１９回　セルフヘルプグループ

【key word】
自助グループ
【授業概要】
もう一つの言葉だけによるグループ。自助グループ。
支援者、治療者のいないグループ。
※ワーカーの役割がない。ワーカーは何をする。

教科書283Pの支援事例を参照（イネイブリングとアスピレーション）

第２０回　家族支援と感情表出研究

【key word】
ブラウンやレフ
【授業概要】
ダブルバインド仮説から家族システム論的アプローチへ。
※高EE家族

【教科書ページ・参考文献】
191P、170P

第２１回　ビオンのグループワーク理論

【key word】
ペアリング
【授業概要】
1年生時のコミュニティーミーティングを振り返る。
そして体験グルグループを実施。
※3つのアザンプション。
【教科書ページ・参考文献】
184～186P

第２２回　個別援助技術と心理社会的アプローチ

【key word】
心理社会療法と言われたソーシャルワーク
【授業概要】
ホリスの心理社会療法を振り返る。見立てからアセスメントの原型を学ぶ。
※未解決問題。

【教科書ページ・参考文献】
140P

第２３回　個別支援プロセス

【key word】
ストレングスモデルよるケースマネジメント
【授業概要】
精神疾患に着目して教科書に従う。

【教科書ページ・参考文献】
162～170P

第２４回　事例1（30歳・統合失調症の青年）からケアプランを学ぶ

【key word】

	心理社会的視点 【授業概要】 30歳統合失調症の事例（プリント配布） ※4～5人のグループを編成、班活動で進める。 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 第２５回　教科書の事例（45歳）からのエコマップ、ジェノグラム、レーダーチャートを覚える 【key word】 ストレングスモデルよるケースマネジメント 【授業概要】 アセスメント、そして支援計画。 【教科書ページ・参考文献】 171～177P 第２６回　ストレングスモデルに基づくアセスメント、ケアプラン 【key word】 心理社会的視点 【授業概要】 ジェノグラムから見える家族の問題。ピアの登場をどう読み解くか？ ※この事例の未解決問題とは？ 【教科書ページ・参考文献】 171～177P 第２７回　ケアプランの完成 【key word】 カンサス大学のラップ 【授業概要】 ストレングスモデルの手順。デマンドから即サービスに結び付けない。ブローカリングモデルとの違い。※前回の未解決問題をいかにプランに生かすか？ 【教科書ページ・参考文献】 11P、234P、237P 第２８回　ケアプランの発表 【key word】 ほかの発表者から学ぶ 【授業概要】 教科書を読み解く。 ※週間予定表 第２９回　総合支援法のサービス等支援計画 【key word】 介護保険、総合支援法のマネジメント 【授業概要】 教科書2つ目の事例で仲介型（ブローカリングモデル）のケアマネジメントを学ぶ。 サービス等支援計画と個別支援計画。※計画相談とは？ 【教科書ページ・参考文献】 254～260P 第３０回　教科書の2つの事例を比較し仲介型のケアマネジメントを学ぶ 【key word】 外在化 【授業概要】 教科書では個別支援計画に触れていないのでこれを補完。 【教科書ページ・参考文献】 ※時間があれば279Pの統合失調症の事例も扱う。
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ
参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉情報処理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
村上　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 実社会で不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・資料作成能力の向上を目的とする。 〔到達目標〕 ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。 ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。 ③様々な機能を駆使してデザイン力の高い資料を作成できる。
授業の概要	本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、グループワークなども取り入れ、「聞く力」「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、スライド作成 【key words】 授業の進め方・レポート 【授業概要】 授業の目的、目標、進め方、評価方法の説明・課題を選びレポートを作成、提出 【教科書ページ・参考文献】 教科書なし・PP資料にてプロジェクターで説明 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までにUSBメモリ・テキストを用意
	第２回	グループワーク（インタビュー）、資料作成 【key words】 プレゼンテーションの基本・インタビュー 【授業概要】 プレゼンテーションを設計して実施するまでの基本的な流れの確認・インタビュー・資料作成 【教科書ページ・参考文献】 資料にて説明 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第３回	プレゼンテーションの作成（１） 【key words】 プレゼンテーションの作成（1） 【授業概要】 プレゼンテーションの新規作成から発表者用のノートや配布資料の印刷まで一連の流れを解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 【授業概要】 プレゼンテーションの新規作成から発表者用のノートや配布資料の印刷まで一連の流れを解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P40 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		授業で勉強した操作の復習
	第４回	プレゼンテーションの作成（２） 【key words】 プレゼンテーションの作成（２） 【授業概要】 プレゼンテーションの新規作成から発表者用のノートや配布資料の印刷まで一連の流れを解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P41～P53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第５回	訴求力のあるスライドの作成（１） 【key words】 訴求力のあるスライド（１） 【授業概要】 WordやExcelをPowerpointで活用する。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第６回	訴求力のあるスライドの作成（２） 【key words】 訴求力のあるスライド（２） 【授業概要】 図・ワードアートの挿入・ページ罫線の設定・文書の表現力をアップする機能・印刷の設定 【教科書ページ・参考文献】 P64～P91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第７回	訴求力のあるスライドの作成（３） 【key words】 訴求力のあるスライド（３） 【授業概要】 表やグラフ、図解の表現方法を理解し、訴求力のあるスライドを作成する基本的な手法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P92～P108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第８回	訴求力のあるスライドの作成（４） 【key words】 訴求力のあるスライド（４） 【授業概要】 オブジェクトの加工、SmartArtグラフィックスの作成と加工、図形の作成と加工 【教科書ページ・参考文献】 P109～P121 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第９回	紙面づくりの基本と作成・瓦版の作成（１） 【key words】 瓦版の作成（１） 【授業概要】 ポスターやちらし、瓦版、カタログ冊子などのビジュアル資料の紙面づくりをするための基本的な知識や手法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P122～133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１０回	紙面づくりの基本と作成・瓦版の作成（２） 【key words】 瓦版の作成（２） 【授業概要】 瓦版の作成を通して、紙面に図形やワードアート、テキストボックス、写真などのさまざまなオブジェクトを配置する方法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P156～P165 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１１回	紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（１） 【key words】 カタログ冊子の作成（１） 【授業概要】 カタログ冊子の作成を通して、スライドマスターを設定したり、各スライドに共通の書式を設定したりする方法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P167～P189 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
	第１２回	紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（２） 【key words】 カタログ冊子の作成（２）

	【授業概要】 カタログ冊子の作成を通して、スライドマスターを設定したり、各スライドに共通の書式を設定したりする方法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P190～P199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 第１３回　紙面づくりの基本と作成・カタログ冊子の作成（３） 【key words】 カタログ冊子の作成（３） 【授業概要】 カタログ冊子の作成を通して、スライドマスターを設定したり、各スライドに共通の書式を設定したりする方法を解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P190～P199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 第１４回　オートデモの作成 【key words】 オートデモの作成 【授業概要】 プレゼンテーションをオートデモとして利用する方法を解説します。また、アニメーションを設定する方法や目的別スライドショーを作成する方法も解説します。 【教科書ページ・参考文献】 P201～P211 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習 第１５回　総まとめ 【key words】 Powerpointのまとめ 【授業概要】 Powerpointの総まとめ・練習問題 【教科書ページ・参考文献】 P212～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で勉強した操作の復習
受講生に関わる情報および受講のルール	・USBフラッシュメモリーを各自用意し、毎回必ず持参すること。 ・演習は、毎回が成果の積み重ねとなるため、欠席で成果が途切れることのないよう心掛けること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	前回の授業内で操作・課題が終わらなかった受講者は、すべての課題を完了させた状態で授業に臨むこと。（欠席時も同様）
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	①　平常点（出席状況・授業態度）（60%） ②　実技試験（40%）
教科書	よくわかるPowerPoint2010ビジネス活用編　FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 企業や学校、自治体などの情報処理の授業およびセミナーなどの講師として長年従事した経験を活かし、社会に出て活用できる技術を指導している。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や施設に就労し、ボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身につける。また、社会貢献活動ができる人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か？を体験し探求できる能力を身につける。
授業の概要	これまでのボランティア活動は、予め決められた内容あるいは募集掲示された活動体験が主であった。この講義では、自ら社会との接点としてのボランティア活動とは何か？を探求し、実践する。1年生のボランティア活動へのアドバイスや具体的なボランティア活動を支援する。毎時間、それまでのボランティア活動の実践発表を行う。最後に、年間の活動報告書をまとめ、提出する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動の目的とは何か？①学生ボランティア活動史（世界・日本）
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上としてのボランティア活動とは何か？
	第４回	発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第５回	発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第６回	発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第７回	前期の活動のまとめ。報告書にて中間発表会実施及び質疑応答を行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
	第８回	発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後ディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
	第９回	発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１０回	発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１１回	発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１２回	発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１３回	発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１４回	年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。
	第１５回	年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。

受講生に関わる情報および受講のルール	１．受講希望者が１０名未満の場合は開講しない。 ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域社会の福祉向上のために行われているボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動参加すること。　　２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や人集めには何が重要かを探求する。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『わかる　みつかる　できる』　財団法人　内外学生センター
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライエントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワーキングの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べることができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3)ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べることができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。 (16～30) 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。4) 相談援助活動に不可避な個人情報の保護と活用について理解を深めます。5) Ⅰ・Ⅱの総括として、クライエントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①相談援助活動の対象を適切に認識することができる。 ②適切なケア・プランに至るケース・マネジメントの過程・各段階を説明できる。	◎	○	○	○
③クライエントが属しうる各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。 ④地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワーキングの主旨を説明できる。	◎	○	◎	○
⑤各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べることができる。	◎	○	◎	◎
⑥相談援助活動の基	◎	○	○	○

盤となる各実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べることができる。				
⑦スーパービジョンの意義を説明できる。 ⑧ケース・カンファレンス開催と意義と参加する際の望ましい姿勢について述べることができる。	◎	○	◎	○
⑨個人情報の活用と管理について説明できる。	◎	○	◎	◎

授業計画

第１回　科目オリエンテーション　相談援助活動の考え方　福祉ニーズの多様性

【key words】
社会福祉　制度と実践の相補性　ソーシャルワークの定義　対象化　システム論

【授業概要】
相談援助の対象・領域・ニーズについて、どのような観点から、どのようにとらえるのか、その本質と意義を検討します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp1－8。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

多様で複雑な社会におけるクライエントの生活課題にかかわって、その問題解決の道筋をどのように見出していくのか、ソーシャルワーカーとしての根本的背景的な考え方を整理しましょう。

第２回　相談援助の対象

【key words】
クライエント個人　家族力動　集団力動　地域　互酬性

【授業概要】
クライエント個人と、そのひとを取り巻く環境；家族・集団・地域との相互作用を、それぞれソーシャルワーカーとしてどのようにとらえるか、具体的に考えていきます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp8－19。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントというひとと環境との相互作用状況を理解することは、クライエントの内的能力に力添えする相談援助活動の基盤です。

第３回　ケースマネジメント 1　目的と構成要素

【key words】
在宅介護支援センター　障害者総合支援法　生活支援　QOL　社会資源

【授業概要】
相談援助活動での基本的な要素である社会資源の適切な利用について、クライエントの個別性を念頭に考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp21－26。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントは、ノーマライゼーション思潮の下、コミュニティケアを推進するものです。ソーシャルワークの価値・視点として理解しましょう。

第４回　ケースマネジメント 2　実践過程の概要

【key words】
ケースマネジメント過程　支援者の知・情・意　クライエントとの協働　生活ニーズ

【授業概要】
ケースとしての発見から支援の終結に至る一連の過程の概要を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－32。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントを必要としているクライエントの特徴にも注目しましょう。

第５回　ケースマネジメント 3　アセスメントとケアプラン

【key words】
社会資源　ストレングス　ニーズ優先アプローチ　パートナーシップ　調整機能

【授業概要】
ケースマネジメント過程の中核となるアセスメントの意味を理解し、ケアプランに盛り込まれることになる目標と支援計画の概要を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp33－52。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエント自身とそのひとが身をおく生活状況の個別性をふまえ、ケースとしての身体・心理・社会 3側面の相互バランスを意識した調整と支援が重視されます。

第６回　相談援助活動における集団の活用
【key words】
集団経験　集団力学　参加の動機づけ　グループ規範　サブグループ

【授業概要】
個人の成長を促す社会的環境として注目すべき、集団（グループ）を活用したグループワークの意義と展開過程について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－64。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

集団に属していることにともなう安心と不安の両面性と、ソーシャルワーカーによる支援介入・調整の考え方を理解しましょう。

第７回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 1　自助グループ　当事者組織
【key words】
自助グループ　当事者組織　自発的市民活動　ソーシャルアクション　体験のわかちあい

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第８回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 2　サポートグループ　グループワーク
【key words】
サポートグループ　グループワーク　専門職のかかわり　専門機関の支援

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第９回　地域福祉関係者間のコーディネーション
【key words】
地域福祉　連携　協働　コーディネーション　相互の立場性

【授業概要】
地域福祉の有効実現のために必要な、多専門職種間および専門職－住民間の連携・調整について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp75－85。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

一職種の専門常識は、必ずしも他専門職にとっての常識とは限りません。ましてや、地域住民をや。連携の基本は、相手の立場に立ったていねいな働きかけと相互理解です。

第１０回　地域福祉実践とネットワーキング
【授業概要】
コーディネーションを有効機能化する前提として必要な、支援関係者の内発的・能動的な結びつき方；ネットワークの形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp86－94。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ミクロ、メゾ、マクロの各水準での多様で広範なつながり方が、地域福祉を具体化する大きな原動力となっていることを理解しましょう。

第１１回　地域ケアシステム
【key words】
地域ケアシステム　重層的ネットワーク　ケース発見　QOL

【授業概要】
クライエントへの早期対応を可能にし、そのQOLを確保しようとする 地域福祉の重層的かつ有機的な仕組みの構築について学びます。

【教科書ページ・参考文献】

教科書pp94－98。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

制度の狭間のニーズをもリアルタイムに受け止めようとする地域福祉の役割を考えましょう。

第１２回　社会資源 1　定義と目的
【key words】
フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　内的資源　肯定的自己概念

【授業概要】
ウェル・ビーイングの具体的な側面に関わって援用しうる有形・無形の社会資源とは何か について、確認します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp99－104。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

他者による支援だけが社会資源ではなく、クライエント個々が備えている適応の力；内的資源を、支援関係の中で見い出し、クライエント自らがそれらを活用し始められるのかが、実はポイントである点に注意して下さい。

第１３回　社会資源 2　活用と調整
【key words】
人と環境の相互作用　個人の力　環境の力　言語化　適応支援

【授業概要】
社会資源の活用とは、その資源のあてがい/ほどこしではありません。各クライエントが自ら将来に眼を向けるための契機となるように、個別に調整された 適応支援であることを理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp105－109。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

適切な社会資源の活用のためには、面談を通じて支援者が、クライエントに語り（言語化）を促し、それを助け、受け止める役割を適時担っていることを自己認識する必要があります。

第１４回　社会資源 3　開発　ソーシャルアクション
【key words】
社会資源の整備状況　再資源化　資源創出　アドヴォカシー機能　ソーシャルアクション

【授業概要】
質的にも量的にもより十分にクライエントへサービス提供するためには、支援者は、社会における資源整備の現状を認識し、社会資源の展開にも積極的に関与していくことになります。社会のさまざまなシステムへの働きかけや当事者の権利擁護のためのソーシャルアクションまで、その連続性について理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp109－120。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントを中心とした 同心円状の「環境」との 多様な相互作用の局面を、支援者として忘れないことが重要です。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方について、概ね3/4を学修しました。多くの履修学生は、この時期に相談援助実習にも臨むことになりますが、支援者としての根拠を具体的に意識するようにして下さい。

第１６回　ガイダンス　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助のシステムを実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 1　治療モデル　生活モデル　ストレングスモデル
【key words】
ジェネラリストソーシャルワーカー　ソーシャルワーク実践　モデル　アプローチ　パースペクティヴ
【授業概要】
クライエントの複雑多様な生活をリアルにとらえ、かかえる生活課題を精確に理解するよりどころとしての実践モデルを概観します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp121－141。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの視点の差異を知るとともに、その総合が なぜジェネラリストソーシャルワーカーに必要なのかを説明できるようになりましょう。

第１８回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 2　心理社会的アプローチ　機能的アプローチ　問題解決アプローチ
【key words】
社会的診断　精神分析　自我　潜在的可能性　動機づけ

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、心理社会的　機能的　問題解決　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp143－152。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第１９回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 3　課題中心アプローチ　危機介入アプローチ　行動変容アプローチ
【key words】
課題　短期処遇　危機介入　対処行動　学習理論　般化

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、課題中心　危機介入　行動変容　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp153－162。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２０回　相談援助活動に基盤としての実践モデル 4　エンパワメントアプローチ　ナラティブアプローチ　その他のアプローチ
【key words】
ストレングス　リジリエンス　社会構成主義　問題の外在化　実存主義　ジェンダーレンズ　解決志向
【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、エンパワメント　ナラティブ　実存主義　フェミニスト　解決志向　の各アプローチについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp163－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２１回　スーパービジョンとコンサルテーション 1　スーパービジョン
【key words】
スーパービジョン　スーパーバイザー/スーパーバイジー関係　スーパーバイザリープロセス

【授業概要】
ソーシャルワーカーとしての成長を支援する支持的・教育的仕組みであるスーパービジョンの意義と目的について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－200。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

困難なクライエント支援の状況でもポジティブに考えていこうとする、ソーシャルワーカーの姿勢・自己覚知のようすを理解しましょう。

第２２回　スーパービジョンとコンサルテーション 2　コンサルテーション
【key words】
コンサルテーション　コンサルタント/コンサルティ関係　コンサルテーション・リエゾン

【授業概要】
複雑多様化するクライエントのニーズに対応する際に、ある特定の専門領域についての助言をその専門家から得ることが必要になります。すなわち、ジェネラリストソーシャルワーカーがコンサルテーションを受ける意義と目的について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp201－204。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前項 スーパービジョンと 本項 コンサルテーションの違いを理解しましょう。

第２３回　ケースカンファレンス 1　ケースカンファレンスの意義と目的

【key words】
ケースカンファレンス　サーベイランス　連携　共通理解　エビデンス・ベイスト

【授業概要】
相談援助実践過程における情報共有・役割分担・方針決定の場であるケースカンファレンスのあり方について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp205－210。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

多職種（他職種）との相互理解が、相談援助活動の基盤であることを意識しましょう。

第２４回　ケースカンファレンス 2　ケースカンファレンスの展開と運営
【key words】
カンファレンス委員　カンファレンス資料　個人情報保護　カンファレンススケジュール　カンファレンス進行
【授業概要】
ケースカンファレンスの開催の準備と進行について具体的に学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp210－216。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスに出席参加する際の姿勢についても考えていきましょう。

第２５回　ケースカンファレンス 3　実例の読み解き
【key words】
ケースカンファレンスの評価　ケースカンファレンスの普遍化

【授業概要】
ケースカンファレンスでは何がテーマとなり、出席参加者が何を取り決めて、次の支援につなげていくのか、実例を読み解きながら理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスは、やりっぱなしではいけません。記録を残すこと、カンファレンスそのものを振り返り、今後のさまざまな支援に生かしていくこと に注意して下さい。

第２６回　相談援助活動にともなう個人情報の保護
【key words】
個人情報　プライバシー　OECD8原則　個人情報保護法　倫理綱領　守秘義務

【授業概要】
ソーシャルワークは、個別性を尊重する＝個人情報にふれる業務であるといえます。現代社会における個人情報保護の重要性を認識しながら、福祉展開上の固有課題について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ボランティア活動や実習においても、広く守秘義務・個人情報保護の意識を高くもち続けて下さい。
第２７回　相談援助におけるICTの活用
【key words】
ICT　福祉情報　情報弱者　情報管理

【授業概要】
パソコンあるいはそのネットワークを活用した福祉情報のやり取り（提供と入手・利用）とそれらの管理について概観します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp243－256。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

福祉情報の利用に障壁がある 情報弱者 の存在に留意して下さい。

第２８回　事例の研究と分析
【key words】
事例研究　エビデンス・ベイスド・プラクティス　アカウンタビリティ　研究デザイン　研究倫理
【授業概要】
担当事例の振り返りは、相談援助実践上の有用・重要な知見を生み、支援サービスの質を向上させる契機となるものです。研究倫理に則った事例研究・事例分析のあり方について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp257－282。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

事例の研究と分析は、自己研鑽と職業倫理認識のよい機会となります。自ら進んで、それをもとめましょう。
第２９回　相談援助の実際

	【授業概要】 提示された事例を読み解き、ジェネラリストソーシャルワークのありようを総括します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp283－298。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各事例を理解し支援のポイントを押さえるのに必要となる関連知識も整理しましょう。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ 【key words】 エビデンス･ベイスド･プラクティス　職業倫理 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、現代社会でもとめられているソーシャルワーカー像を考えます。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を通算2年間学びました。十分に復習をするとともに、自らが理想とするソーシャルワーカーイメージを具体的に考えて下さい。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしばk教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅱ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　低所得者に対する支援と生活保護制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
土屋　昭雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。 ・公的扶助の意義と役割について理解している。 ・生活保護制度の動向についての説明ができる。 ・関連法規、施策について理解している。 ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。 ・社会福祉士国家試験過去問題・模擬問題等において正答を導きだすことができる。
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実状などについても言及していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い 【key words】 生活保護・公的扶助・社会保険・社会福祉士 【授業概要】 ・授業の進め方、評価、社会福祉士国家試験における本科目について ・社会保険と公的扶助の違い 【教科書ページ・参考文献】 p1～p6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会保険と公的扶助の相違点の把握に努めること。第1章の熟読 第２回　　公的扶助の概念 【key words】 所得再分配機能・ナショナルミニマム・セーフティネット・ 【授業概要】 ・公的扶助の概念および範囲 ・公的扶助の意義と役割 【教科書ページ・参考文献】 p6～p15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第2章の熟読 第３回　　貧困・低所得者問題と社会的排除 【key words】 貧困線・社会的排除・雇用、失業問題

【授業概要】
・貧困と社会的排除
・貧困および低所得者問題の現代的課題　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p17～p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第3章の熟読

第４回　公的扶助制度の歴史
【key words】
エリザベス救貧法・恤救規則・救護法・生活保護法・リーマンショック
【授業概要】
・海外の歴史
・日本の歴史
・貧困および低所得者対策の動向
【教科書ページ・参考文献】
p35～p62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読

第５回　生活保護制度の仕組み
【key words】
基本原理・基本原則・扶助・金銭給付/現物給付
【授業概要】
・生活保護法の原理・原則
・保護の種類と内容および方法　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p63～p88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読

第６回　生活保護制度の仕組み
【key words】
保護施設・不服申立て・朝日訴訟
【授業概要】
・保護施設
・被保護者の権利および義務
・不服申立てと訴訟　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p89～p104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第5章の熟読

第７回　最低生活保障水準と生活保護基準
【key words】
生活保護基準・ナショナルミニマム
【授業概要】
・最低生活保障水準および生活保護基準の考え方
・生活保護基準額の実際　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p105～p135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第6章の熟読

第８回　生活保護の動向
【key words】
保護率・被保護人員/被保護世帯数
【授業概要】
・被保護人員および被保護世帯数
・保護の開始および廃止の動向
・医療扶助および介護扶助の動向
【教科書ページ・参考文献】
p137～p162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第7章の熟読

第９回　低所得者対策の概要
【key words】
生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付制度・社会手当・ホームレス・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法
【授業概要】
・生活困窮者自立支援法の概要
・生活福祉資金貸付制度
・社会手当制度
・ホームレス対策　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p163～p203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第8章の熟読

第１０回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体
【key words】
福祉事務所・社会福祉主事・スーパービジョン・スーパーバイザー
【授業概要】
・国、都道府県、市町村の役割
・福祉事務所の役割
・福祉事務所専門職の役割
【教科書ページ・参考文献】
p205～p221

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第9章の熟読 第１１回　貧困・低所得者に対する相談援助活動 【key words】 アセスメント・就労支援・連携/協働・チームアプローチ・ケースカンファレンス 【授業概要】 ・生活保護制度における相談援助活動 ・他機関、他職種との連携、協働　ほか 【教科書ページ・参考文献】 p223～p252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第10章の熟読 第１２回　生活保護における自立支援 【key words】 自立・経済的自立/日常生活自立/社会生活自立・自立支援プログラム 【授業概要】 ・自立とはなにか ・自立支援プログラムの位置づけ ・自立支援プログラムの策定および実施 【教科書ページ・参考文献】 p253～p272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの再確認・積極的に国家試験過去問題等に取り組むこと 第１３回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 第１４回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 第１５回　授業総括〔重要事項の確認〕 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 重要箇所の再確認 【教科書ページ・参考文献】 p1～p272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・アンダーライン箇所の把握に努め教科書を熟読すること
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識向上に向け、予習、復習を励行すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。
オフィスアワー	月曜日〔14：20～17：30〕及び昼休み〔12：00～12：30〕
評価方法	定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版
参考書	福祉小六法、その他は授業内で紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　レクリエーション活動援助法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）　として、実践できるようになることを目的とする。 [到達目標]： 1.レクリエーション活動の社会的意義と支援方法を身につける。 2.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を身につける。 3.レクリエーション支援が十分に効果をあげるために組織論、事業論を理解し、活用できる。 4.安全な活動とそのための危険を回避する能力を身につける。
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 第２回　基礎理論　レクリエーションの意義 【key words】 RE-CREATE 【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出

してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。

第３回　基礎理論　レクリエーション運動を支える制度(歴史とその背景)
【key words】
厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動

【授業概要】
レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P11～P24　参考書　レクリエーション活動援助法P12～P16

【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。

第４回　基礎理論　レクリエーションへの期待
【key words】
生活者　支援者　人を支える
【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。

第５回　基礎理論　生活のレクリエーション化
【key words】
生活のレクリエーション化

【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。

第６回　基礎理論　レクリエーションの生活化
【key words】
レクリエーションの生活化

【授業概要】
日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。

第７回　基礎理論　社会福祉の中でのレクリエーションインストラクターの役割
【key words】
劣等処遇原則　ノーマライゼーションとQOL思想

【授業概要】
社会福祉の制度変化の中でレクリエーションの役割がどのように変わってきているのかを理解する。またレクリエーションの支援方法について、どんな働きかけができるのか、また支援者の姿勢について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P26～P33

【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの対象ごとに応じたレクリエーションの役割とはどのようなものがあるのか確認しておく。レクリエーションインストラクターに期待される役割について確認しておくこと。

第８回　日常生活におけるレクリエーションの捉え方
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活
【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと

第９回　日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求

【授業概要】
福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48

【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。

第１０回　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングの意義と基本技術　～アイスブレーキングとは意義～
【key words】
コミュニケーションワーク　アイスブレーキング

【授業概要】
アイスブレーキングが、目指すべき対象者の良好な変化、変容に向けたレクリエーション支援の一環として行われるものであることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P246～249

【課題・予習・復習・授業準備指示】
アイスブレーキングの活用が期待される現場・局面をイメージしてみる。

第１１回　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングの意義と基本技術　～アイスブレーキングの方法　同時発声　同時動作　合図出し～
【key words】
同時発声・同時動作　合図出し
【授業概要】
アイスブレーキングを、単に「素材を楽しませる」ものではなく、一体感、安心感を提供するための方法とし展開するための基本的な技術が同時発声・同時動作であることを理解する。また同時発声・同時動作に含まれる合図出し中心に技法を体験的に学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P250～255

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P254～255の演習を解いておくこと。

第１２回　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング　　～プログラミングの原則～
【key words】
アイスブレーキングモデル

【授業概要】
レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P259～269

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P268　演習を解いておくこと。

第１３回　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング　～アイスブレーキングモデルの作成～
【key words】
アイスブレーキングモデル

【授業概要】
レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P259～269

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P268　演習を解いておくこと。

第１４回　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング・実践　発表
【key words】
アイスブレーキングのプログラミング

【授業概要】
アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質

疑応答含む)
【教科書ページ・参考文献】
教科書P259～269

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと

第１６回　支援論　ライフスタイルとレクリエーション　乳幼児期～児童期～青年期～老年期
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題

【授業概要】
年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。

第１７回　支援論　少子高齢社会の課題とレクリエーション
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題

【授業概要】
少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P92～P141

【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみること。

第１８回　支援論　　地域とレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
【key words】
コミュニティ、リージョン

【授業概要】
身近な地域「コミュニティ」とより広い範域の「リージョン」。それぞれの「地域」が抱える課題を理解し、解決のためのレクリエーションの活用について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P142～157

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きかけることができる課題をあげてみる。

第１９回　支援論　　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション

【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。

第２０回　目的にあわせたレクリエーションワーク　素材アクティビティの提供
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス

【授業概要】
レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目

的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P274～P277

【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　ハードル設定　CSSプロセス
【key words】
素材・アクティビティ、すり合わせ
【授業概要】
素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。
レクリエーション実技　リズム手合わせ″

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287

【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P288～P297

【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。

第２３回　目的にあわせたレクリエーションワーク　指導実習
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと

第２４回　事業論　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ

【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。

第２５回　事業論　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス　～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス

【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45

【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。

第２６回　事業論　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方　～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】
レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス

	【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 第２７回　事業論　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方　～市民を対象とした事業のつくり方～ 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 第２８回　事業論　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方　～安全管理～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 第２９回　事業論　事業計画　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 第３０回　一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる　態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	月曜日　5時間目　（変更時は掲示する）
評価方法	筆記試験　６０％　　授業中レポート　２０％　　グループワーク及び発表　２０％
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～

	(財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域スポーツクラブでの指導経験あり アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　卒業論文指導　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 乾明美（障害福祉・知的障害者支援） 益子徹（聴覚障害（情報保障・ろう文化）・障害者福祉） 巣立佳宏（社会的養護・児童心理） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、研究計画のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回

	第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　福祉サービスの組織と経営　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
高井　健二			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。 【到達目標】 経営とは、経営資源であるヒト（人的資源）、モノ　（物的資源）、カネ（財源）、シラセ（情報資源）を効果的に活用して組織の目標を達成することである。社会福祉サービスの中核を担う専門職員として、①「経営管理」のとらえ方に関する理念・理論を理解し、リーダーシップやモチベーション等について考察できる。②規制緩和の流れの中でサービス提供組織の現状や課題を理解するとともに、特に社会福祉法人、特定非営利活動法人について理解する。③「経営管理」の構成要素として、業務管理（サービス管理）、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理、リスクマネジメント、建物・設備管理等についての知識を学ぶ。④組織経営のマネジメントには、幅広い知識・素養が求められる。オールランドプレイヤーとして諸課題が認識できるとともに、社会福祉施設での実践に当てはめることができる。
授業の概要	この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄ついて、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第１回から第６回までは補助プリントを配布、第７回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第１５回は試験準備として前期の総復習、第３０回は後期の総復習とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。 第２回　社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革　社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）を学ぶ。 第３回　企業経営・経営理念　企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。 第４回　経営理論（伝統的管理論）　テイラーの科学的管理法、フアヨールの管理過程論を学ぶ。 第５回　経営理論（人間関係論）　メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求５段階説、マグレガーのＸ理論・Ｙ理論を学ぶ。 第６回　企業形態と株式会社　企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。 第７回　福祉サービスにおける組織と経営　福祉サービスとは、経営管理とは、事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。 第８回　法人とは　法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。 第９回　社会福祉法人　社会福祉法人法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、

	課題等を学ぶ。 第１０回　特定非営利活動法人　特定非営利活動法人とは、管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。 第１１回　戦略　経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜等を学ぶ。 第１２回　事業計画　事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。。 第１３回　組織論　組織構造と組織原則、組織形態等を学ぶ。 第１４回　管理運営の基礎理論　管理とは、管理の手法（ＰＤＣＡサイクル）、集団の力学等を学ぶ。 第１５回　まとめ　前期の総復習、中間テスト対策等を行う。 第１６回　リーダーシップ　リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。 第１７回　サービスマネジメント　福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント等を学ぶ。 第１８回　サービスの質の評価　福祉サービスの質の向上、評価システム、第3者評価の仕組みと課題等を学ぶ。 第１９回　苦情処理とリスクマネジメント　リスクマネジメントとは、事故・苦情発生のメカニズムと対応、リスクマネジメントの取り組み等を学ぶ。 第２０回　人事・労務管理（１）　動機づけ理論、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動等を学ぶ。 第２１回　人事・労務管理（２）　職員の処遇、給与体系（職能資格等級制度）、人事考課、人事評価と課題等を学ぶ。 第２２回　労働法規　労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。 第２３回　労働基準法（１）　人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。 第２４回　労働基準法（２）　労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業等を学ぶ。 第２５回　人材育成　福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。 第２６回　会計管理・財務管理（１）　会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人おける会計制度等を学ぶ。 第２７回　会計管理・財務管理（２）　社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書等を学ぶ。 第２８回　社会福祉施設の建物・設備管理　建物・設備の分類、点検・防災、アメニテイ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。 第２９回　情報管理　情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。 第３０回　まとめ　後期の総復習、期末テスト対策等を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業にかかわる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価（100%）する。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　心理学実験実習Ⅲ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理的アセスメントに関する基礎的な知識を理解し，観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになること。 ［到達目標］ ①心理的アセスメントの手法，意義，目的について説明できるようになること ②代表的なパーソナリティ検査，知能検査，神経心理学的検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになること ③事例を読み解く際に，どういった心理的アセスメントが必要かについて想定できるようになること
授業の概要	心理的アセスメントとは「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し，その情報を統合し，事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業」と定義される。本講義ではその手法である面接や観察，心理検査の概要と事例での運用，報告のまとめ方について解説を行う。また心理検査を実施に体験する。 授業は双方向性で進めるため、教科書等で予習が必要である。授業の初めに前回の授業内容の確認のためにミニテストを行うので準備をしておく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①心理的アセスメントとは何か、心理的アセスメントの目的は何かについて理解・説明できる。	◎			○
②さまざまな面接法があることを理解し、説明できる。		◎	○	○
③知能検査と発達検査について、理解し説明できる。		◎		
④検査バッテリーとは何か、理解して、説明できる		◎	○	○
⑤心理的アセスメントの報告書の書き方を理解して説明できる。	◎	○		
⑥心理職の倫理について、理解し説明できる。	◎	◎	○	○

授業計画	第１回　　科目オリエンテーションと授業契約 講義の進め方 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 講義の概要 心理的アセスメントとは「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての統合的な査定を行う作業」と定義される。 本講義ではその手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。 授業の目標

		社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる心理セスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 成績評価の方法 ①ミニテスト　10% ②調べ発表内容　10% ③グループディスカッション　10% ④課題　10% ⑤学期末試験　60% ＊出席が規定に満たしてはじめて評価の対象になる。
	第２回	心理的アセスメントとは何か、心理的アセスメントの目的 【Key words】 アセスメントと診断　アセスメントの手続き　面接法　観察法　検査法 【授業概要】 心理学的アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。本質的にイン理学的アセスメントは会え移審医学的診断とは異なる特徴を持っているが、その両者の特徴と違いを学ぶ。また、アセスメントの諸技法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P40～P41（1アセスメントとは何か） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、アセスメントと診断について、違いや共通する側面について議論し、発表する。心理学的アセスメントの目的を確認する。
	第３回	ケース・フォーミュレーション(Case Formulation:CF) 【Key words】 介入　仮説　事例定式化　介入計画 【授業概要】 ケース・フォーミュレーションとはクライエント個々人の問題がなぜ生じたのか、問題はどのように変化しているのか、問題が消失せずに続いているのはなぜか、問題を改善するためにはどのような介入が必要なのかに関する仮説を立てて、介入に発展させることである。なぜ、ケース・フォーミュレーションが必要なのか、ケース・フォーミュレーションの特徴とプロセスを知って実際にケース・フォーミュレーションに取り組んでみる。 【教科書ページ・参考文献】 P42～P43（2ケース・フォーミュレーション） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、ケース・フォーミュレーションのプロセスについて、グループで議論し、発表する。心理学的アセスメントの目的を確認する。
	第４回	初回面接 【Key words】 初回面接　協働関係　情報収集　言語・非言語的情報 【授業概要】 初回面接とは、クライエントと公認心理師・臨床心理士とがはじめて出会い、クライエントのどの問題をどのように扱っていくのかということを話し合う場である。この場では、問題を明確化するための情報や援助方針の決定、そしてクライエントとの協働関係の形成が求められる。授業では初回面接の進め方を実際に体験する。 【教科書ページ・参考文献】 P44～P45（3.初回面接） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、面接における協働関係の形成について隣席で議論し、発表する。
	第５回	面接法を用いたアセスメント 【Key words】 構造化面接　半構造化面接　非構造化面接　ロールプレイ 【授業概要】 面接とは、人同士が顔を接しながら相手を理解しようとすることである。この面接をデータの収集方法として用いるのが面接法であり、具体的には、比較的制限の少ない状況において、研究者が対象者と対面し、言語を媒介としたやりとりを通して、データを収集する方法である。面接法の種類や手続きを学び、実際に面接法を体験する。 【教科書ページ・参考文献】 P46～P47（1.面接法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際にロールプレイをして面接の練習を体験し、振り返りを発表する。
	第６回	観察法を用いたアセスメント 【Key words】 観察　行動の生起頻度や連続性　観察法の利点と限界　観察法に対応した記録法 【授業概要】 観察法は、対象となる人や行動を、自然な状況や統制された状況の下で観察する方法である。観察法は、個人が与えられた環境の中で実際にどのようにふるまうかを査定するには」、最も適した方法といえる。 【教科書ページ・参考文献】

		P48～P49（2.観察法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、観察法の留意点について隣席で議論し、発表する。
	第７回	質問紙法によるアセスメント 【Key words】 リッカート尺度　介入効果　質問紙法の長所と短所 【授業概要】 質問紙法は、印刷された質問文に対し、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する方法である。質問法の長所・短所・使用上の注意点を理解する。授業では実際に標準化された質問紙を体験する。 【教科書ページ・参考文献】 P50～P51（3.質問紙法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際に質問紙法を体験して、隣席の人と議論し振り返りを発表する。
	第８回	投影法によるアセスメント(1)　描画法 【Key words】 あいまいな状況　バウム・テスト　統合型S-HTP法　家族画法 【授業概要】 投影法は、質問紙法や作業検査法と並ぶ人格検査の一方法である。投影法の特徴は「被験者があいまいな状況におかれること」であるといえる。授業では投影法のなかの描画法を体験する。描画法もいくつかの種類があるのでその種類と特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P52～P53（4.検査法(2)投影法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、描画法を実際に体験して、隣席で体験状況を話し合い、発表する。
	第９回	投影法によるアセスメント(2)　ロールシャッハ・テスト　文章完成法(SCT)　P-Fスタディ 【Key words】 あいまいな状況　SCT　インクのしみ　反応 【授業概要】 投影法の代表的なロールシャッハ・テストや文章完成法・P-Fスタディの実施方法・内容を理解する。また質問紙法との比較をする。授業では実際にその中の一つを体験する。 【教科書ページ・参考文献】 P52～P53（4.検査法(2)投影法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、SCT法を実際に体験して、隣席で体験状況を話し合い、発表する。
	第１０回	作業検査法によるアセスメント 【Key words】 連続加算作業　作業曲線　作業の安定性や注意力 【授業概要】 作業検査とは、一定の作業を課し、そこでの反応に認められる特徴から被験者のパーソナリティを推定する。質問紙法のように認知面からではなく、実際の行動面からパーソナリティにアプローチする。また、具体的で明確な作業を課すため、投影法のような反応の自由度を持たない点が特徴である。わが国で実際に行われている内田クレペリン精神作業検査を授業で体験する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、作業検査法を実際に体験して、隣席で体験状況を話し合い、発表する。
	第１１回	知能検査と発達検査 【Key words】 知的活動　精神年齢　知能指数(IQ) 【授業概要】 臨床心理学における「知能」は「賢さ」や「頭の良さ」というものより、もう少し広い要素を含めた概念である。「脳神経系の機能として生じる心のうち、知的活動に関する側面であり脳や神経の働きとして心をとらえるということである。知的活動には、目や耳を通して入力された情報を整理する、理解する、目的に従って行動する、考える、集中する、等が含まれる。知能検査の歴史を知る。また知能指数とは、知能検査にはどのようなものがあるのか学ぶ。また、子どもの発達麺差の特徴と種類・実施に関する留意点を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57（5.検査法(3)知能検査） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 グループワーク　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、子どもの発達検査方法について隣

	席で議論し、発表する。 第１２回　個別式知能検査 【Key words】 WAIS　WISC　WPPSI4つの指標得点 【授業概要】 知能検査が用いられる場面としては、臨床現場・教育現場などが考えられる。臨床現場では、知的障害の有無を判別したり、高次脳機能の指標を得たりするために用いられる。教育現場では、全国的な学力調査の一環として実施されることがある。わが国で主に用いられている堅穂のはどのようなものがあるか知る。ウェクスラー式知能検査・ビネー式知能検査について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P52～P53（4.検査法(2)投影法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 グループワーク　調べてきた用語を他者に説明し合う。 第１３回　神経心理学的検査と発達段階を踏まえたアセスメント 【Key words】 高次脳機能障害　言語　認知　行為　読み書き　記憶　注意　前頭葉機能　認知症　乳幼児期から老年期までのアセスメント 【授業概要】 神経心理学的検査は、高次脳機能の生涯の同定とその測定をもくてきとして開発された。高次脳機能障害には、外傷、疾病などによる脳の損傷によって生じ、おもには言語、認知、行為、読み書き、記憶、注意、前頭葉機能に障害を示すもの、および認知症がある。授業では、各高次脳機能とその代表的な検査法について学ぶ。また、臨床心理アセスメントでは、多くの人が人生の一定時期に共通して経験しがちなことと偶発的に経験しがちなことという一般性と個別性、双方の視点を踏まえることが求められる。発達段階を踏まえたアセスメントに必要な着眼点について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P59（6検査法(4)神経心理学的検査） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 グループワーク　調べてきた用語を他者に説明し合う。 第１４回　検査バッテリーとは 【Key words】 各検査の性質・調子・短所　背景にある理論　被験者の心身の状態 【授業概要】 人間のあらゆる側面を評価できる単独の心理検査は存在しない。そこで通常は、被験者を多面的にとらえるため、複数の異なる検査を組み合わせて使用する。テスト・バッテリーの組み方に関しては特定の決まりがあるわけではなく、検査目的や被験者の状態・状況に即した検査を、権者者がその時々で選択して用いる。心理検査の利用にあたっての注意点を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、実際に検査バッテリーを組んでみる。さらにその結果を隣席で話し合い、発表する。 第１５回　心理的アセスメントの報告書・倫理とまとめ 【Key words】 読み手のニーズ　守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセント 【授業概要】 報告書作成に際して心がけるべきことは、読み手のニーズを考えることである。心理検査が活かされ、真にクライエントに利するものとなるためには、検査のデータについて考えるだけではなく、面接時に受ける印象、家庭に関する情報など、心理検査結果以外の情報までを含めた総合的な査定が行われる必要がある。このように役立つ報告書について概説する。また、心理臨床における職業倫理として、クライエントの益になることを為し、害になることを為さないこと」について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 プリント参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当具群を読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、心理的アセスメントの倫理について隣席で話し合い、発表する。さらに心理的アセスメントのまとめとして印象に残ったことを発表する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・その他，詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	講義内で紹介したアセスメント手法に関するレポート課題を各回で課すため，事前にシラバスの記載内容を確認し予習をしておくこと。また授業内での指示に留意すること。また、授業の始めにミニテストを行うので前回の学習内容を復習しておくこと。
オフィスアワー	月曜16時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	①ミニテスト　10%　　②調べ発表内容　10%　③グループディスカッション　10%　④課題　10%　⑤学期末試験　60% ＊出席が規定に満たしてはじめて評価の対象になる。
教科書	下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人の心の諸相について、社会との関係を軸にしてとらえる社会・集団・家族心理学の視点を学習する。それにより、個人が他者との関係においてよりよい関係づくりができるようにするためには何が必要かについて理解を深めることを目指す。 また、人が集まって作られている社会現象そのものを深く理解するための社会心理学の知識や用語について学んでいく。 【到達目標】 ①人の心理や行動について、社会的状況との関係性から理解する視点を得る。 ②よりより人間関係を阻害したり促進する要因について理解をし、よりよい関係づくりのために必要なことについて考えることができる。 ③社会現象を理解するための社会心理学の視点を学ぶことで、集団間の対立を越えるために必要なことについて考えることができる。
授業の概要	人は社会に生まれ育ち、社会的存在として発達を遂げるが、社会心理学では特にこのことに注目をし、個人の心理や集団の行動に現われる社会的な影響について学んでいく。様々な実験等によって明らかにされた説明原理や社会心理学的な考え方を理解し、社会的状況下で変化する人の心理や行動について考察を加えていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション、社会的認知①

【授業概要】
・社会心理学は何をどのように学んでいくのか。その基本的方向性を、科目オリエンテーションとして示していきます。
・まず、社会心理学という学問分野の特徴を理解するために、「人は本質的に社会的な存在である」という説について検討します。
・人は社会的場面で、あるものごとを捉えるとき（社会的認知）、ヒューリスティックに振る舞ってしまう傾向があることを学び、その理由について考えます。
【キーワード】
・ヒューリスティック処理、システマティック処理、統制的処理、自動的処理、心的表象
【教科書・参考文献】
(1-6ページ)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ヒューリスティック、という言葉をあらかじめ調べておくこと。身近なヒューリスティック処理の例を探して一つ挙げられるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・グループで調べてきたヒューリスティック処理の例について挙げ、なぜそうなるのかについて考えを出し合う。

第２回　社会的認知②

【授業概要】
・前回に続きヒューリスティックな振る舞いを説明する心理学理論について学びます。
【キーワード】
・連合ネットワークモデル、ノード、リンク、代表制ヒューリスティック、可能性ヒューリスティックステレオタイプ、アンカリング効果

【教科書・参考文献】
（1-6ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・アンカリング効果を使って、購入を勧めようとする宣伝を見つけて、ワークシートを作成して次週提出
【アクティブラーニング】
・授業中に示される、思考実験について実施し、グループ内で互いの回答理由を説明し合う。

第３回　感情：感じたことの影響過程

【授業概要】
・さまざまな出来事により人は揺り動かされ、心が動くことで「感情」が生じます。
・生得的に備わっている感情は、人が生きる上でどのように役立っているのか、また、感情はそもそもどのように発生してくるのかについて、社会心理学の複数の説を提示します。
・また、生じた感情が、実際の生活上での認知や行動にどのような影響を及ぼすかについ学びます。
【キーワード】
・顔面フィードバック説、気分一致効果、感情ネットワークモデル
【教科書・参考文献】
（1-6ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・アンカリング効果を使って、購入を勧めようとする宣伝を見つけて、ワークシートを作成して次週提出
【アクティブラーニング】
・授業中に示される、思考実験について実施し、グループ内で互いの回答理由を説明し合う。

第４回　態度と説得

【授業概要】
・人は、なぜあるものを好きで、あるものを嫌いだという反応を示すのか。心理学で「態度」として研究されてきた、物事への価値判断や感情表明について学びます。
・また、意図して態度の変容を図る「説得」の理論や、説得メッセージに満ちたメディアの影響についても検討をしていきます。
【キーワード】
・態度、認知的機構理論、認知的不協和理論、単純接触効果、三つの説得技法、一面提示、両面提示、魔法の弾丸理論、限定効果論　他
【教科書・参考文献】
（37-53ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・自分の好き嫌いについて振り返り、理由を考えておくこと。
・「アファーマティブ・アクション」について調べておくこと。
【アクティブラーニング】
・授業中に示された「アファーマティブ・アクション」の例を通して、それぞれの態度を明確にし、ディベートを行う。

第５回　自己の成り立ち①

【授業概要】
・人の人格や心はどこを切っても同じなのではなく、多様な側面をもっていること、そして、どの側面が現れるかは、それを引き出すものとの関係で異なるということを解説していきます。
・特に、社会的アイデンティティという言葉を手掛かりにして、ある人が自分を外部のどの集団と同じ存在だと考えるかが、人の行動に大きく影響を及ぼすことを学んでいきます。
【キーワード】
・家族システム、親との同一化、主我・客我、自己概念、社会的アイデンティティ、自己スキーマ
【教科書・参考文献】
（55-59ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・社会的アイデンティティについて、用語調べを行っておくこと。また、社会的アイデンティティと個人的アイデンティティがぶつかるような場面を考えて、発表できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・紙切れを用意し、「対話的自己論」のワークを行う。結果についてグループ内で話し合い、シェアをする。

第６回　自己の成り立ち②

授業概要】
・自己を肯定したり否定したりする認識に関わる動機について学んでいきます。
・特に、自尊感情をキーワードに、「他者との比較」によっていかに人の自尊感情が左右されるかについて理解をしていきます。
【キーワード】
・自己高揚動機、ポジティブ・イリュージョン、セルフサービング・バイアス、社会的比較、潜在的連合テスト　他
【教科書・参考文献】
（60-75ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・インターネットを通じて、ハーバード大学が実施している「ＩＡＴ」を実際に体験しておくこと。
【アクティブラーニング】
・「自己肯定意識尺度」を実施する。結果をグループ内でシェアしながら、なぜそのような数値になるのかについて話し合う。

第７回　公正さに関わる問題

【授業概要】
・人は公正な世界を望みながらも、不公正さを感じないで生きることは難しい。そもそも不公正もしくは不公平を感じる、という心理はどのようなものなのかについて考えていきます。
【キーワード】
・最後通告ゲーム、衡平理論、公正世界理論、手続き的公正、被害者を非難する心理、内在的正義の推論、公正世界信念　等
【教科書・参考文献】

（77-94ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・マイケル・サンデル（2010）『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房）から抜き刷りしたプリントを読んで感想をまとめておくこと
【アクティブラーニング】
・グループで「まんじゅう問題」に取り組む。また、アファーマティブ・アクションの公正さについて話し合う予定。

第８回　対人行動①
【授業概要】
・人が人に対して行う働きかけ（対人行動）のうち、特に人を助ける行動、すなわち「援助行動」に焦点を当てて、それに影響を与える要因やプロセスについて検討していきます。
【キーワード】
・援助行動：傍観者効果、多元的無知、責任の分散、評価懸念、援助成果、援助要請、心理的負債、自我脅威　他
【教科書・参考文献】
（95-103ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ここ数年で、自分が直接得をすることがないにも関わらず、誰かを助けたり支援をしたりした出来事（援助行動）を2つ以上思い出して、説明できるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・

第９回　対人行動②
【授業概要】
・人は人と関係を結ぼうとする一方、人を傷つけ、関係を破壊しようともする。他者に危害を加えようとしたり、否定したりする「攻撃行動」は、どのような心理に基づいて発動するのかを解説していきます。
【キーワード】
・攻撃行動の種類、フロム、スキナー、バスの3次元モデル、タナトス、動機づけ水圧モデル、攻撃てがかり説、他
【教科書・参考文献】
（104-107ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・フロムの次の言葉についてそれぞれの答えを考えておくこと。
「人間の歴史は暴力と破壊と残酷の記録で満ちている。他の動物と違って人間だけが何の理由もなしに声明を破壊することに快楽を覚えるようにみえる。人間には人間独自の潜在的破壊性があるのだろうか」
【アクティブラーニング】
・考えてきたことについて、グループで話し合い、まとめる。

第１０回　対人関係
【授業概要】
・人は日々様々な他者と出会い、相互作用を行い、様々なレベルで人と対人関係を結びながらつながっていることを前提に、ではなぜある人と親密になり、ある人とはならないのかを説明することを考えていきます。
・対人関係の生成と崩壊まで、幅広く対人関係に影響を与える要因は対人関係のプロセスについて学んでいきます。
【キーワード】
・対人魅力、ＳＶＲ理論、自己開示、単純接触効果、自己評価維持モデル、ＤＶのサイクル理論、インターネット・パラドックス　他
【教科書・参考文献】
（113-134ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「基本的対人態度測定インベントリー」を実施しておくこと。
【アクティブラーニング】
・

第１１回　受容と排斥
【授業概要】
・人は基本的に他者から受容されることを望むものであるはずですが、現実には、孤独になりたがったり、他者を排斥することさえ日常的に生じるものです。なぜ、人は受容をしたり排斥をするのか、そのメカニズムについて学んでいきます。
【キーワード】
・ソーシャルサポート、緩衝仮説、直接効果仮説、社会的排斥、ソシオメーター、安心探し行動他
【教科書・参考文献】
（136-152ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ソーシャルサポートという用語と、具体的な例を挙げられるようにしておくこと。
【アクティブラーニング】
・グループになり、「サイバーボール課題」を実際にやってみて、感想をシェアする。

第１２回　集団の中の個人①：家族集団
【授業概要】
・人は家族という基本的な社会集団の中に生まれ、そこでの価値観や習慣などに影響を受けながら事故を形成するという基本的な流れを理解していきます。
・しかし、家族は常に「機能する家族」になるばかりではないのはなぜなのか。また、家族や集団に所属したりすること自体が、人の認知や行動にどのような影響を与え、その人格形成や行動に対してどのような影響を与えるのかについて検討をしていきます。
【キーワード】
・家族集団、機能不全家族、ミーム論、ＡＩＤ　他
【教科書・参考文献】
（153-165ページ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・中根千恵（1967）『タテ社会の人間関係』（講談社現代新書）から、タテ社会の特徴について

	調べ、まとめておくこと。 【アクティブラーニング】 ・グループになり、「機能する家族と機能しない家族の違いについて」話し合う。 第１３回　集団の中の個人②：集団の及ぼす力を理解する 【授業概要】 ・集団の中に生きることで、人は個人としてどのような影響をうけるのかについて、社会心理学で明らかになっている法則について学んでいきます。 ・特に、集団に属することによって、行動や意思決定がどのように変化しやすくなるのかに焦点を当てて検討をしていきます。 【キーワード】 ・社会的アイデンティティ理論、内集団ひいき、自己カテゴリー理論、社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、ホーソン効果、ただ乗り（フリーライド）、集団意思決定、集団極性化、リスキーシフト、コーシャスシフト、集団思考　他 【教科書・参考文献】 （154-165ページ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・キーワードが多いので、あらかじめ用語調べを行っておくこと。また、南アフリカの「アパルトヘイト」について調べておくこと。 【アクティブラーニング】 ・今自分が、アパルトヘイトによって差別を受ける立場になったら、どのように考え方や生き方が変わるかについて、グループで話し合う。 第１４回　集団間関係①：集団の中の個人と集団間関係 【授業概要】 ・手段の一員として生きることで初めて人は社会的に居場所を得て、安心して生きることができます。 ・その分、集団の中にいるだけで影響を受け、個人としての振る舞いに変化が起きてきます。社会心理学で多く法則化された、集団に影響を受けるあり方について学んでいきます。 【キーワード】 ・社会的促進、社会的抑制、ケーラー効果、リンゲルマン効果、ホーソン効果、ただ乗り（フリーライダー）問題、集団意思決定、コモンズ（共有地）の悲劇、共有情報バイアス、集団思考他 【教科書・参考文献】 （158-173ページ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・キーワードが多いので、あらかじめ用語調べを行っておくこと。 【アクティブラーニング】 ・「八甲田山雪中行軍遭難事件」を題材に、集団思考についてグループで話し合いながら、理解を深める。 第１５回　集団間関係②：集団と集団が争うことのない世界をつくるには 【授業概要】 ・人は基本的に、家族集団を基本の単位として、自己のルーツを共通にする人々と社会を形成することが多くなります。そのため、同質性の高い集団の中で生きることが普通になりやすい中で、異なる特質を持つ人が集団に入ることで、互いの社会的アイデンティティへの意識が高まることをまず理解して生きます。 ・ここで、集団間葛藤をキーワードとして、集団と集団がぶつかり合うような状況を理解し、その対立の解消のために必要なことを考えて、授業のまとめとしていきます。 【キーワード】 ・内集団ひいき、テロリズム、ジェノサイド、ルワンダ大虐殺、民族、害集団同質視、道徳的排除と非人間化 【教科書・参考文献】 （184-191ページ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・ユーチューブで、What would you do? と検索し、いくつか視聴し、感想を発表できるようにしておくこと。 【アクティブラーニング】 ・フランク・パブロフ（2003）『茶色い朝』（大月書店）を読み、感想をシェアする。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士等国家試験に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	多くの用語が出てくるので、概要に基づき教科書中の該当部分を予習し用語調べをしておくこと。 授業の最初に数名を指名し、確認をする。
オフィスアワー	水曜　16：00～18：00
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート ・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点））
教科書	・脇本竜太郎編著（2014）『基礎からまなぶ社会心理学』（サイエンス社）
参考書	・小川一夫監修、吉森 護・市河 淳章他(編)『社会心理学用語辞典』（北大路書房、1995）　他　適宜指示をする。

実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師などに代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として，こころの病理・失調，心理アセスメント、心理療法に関する概要（歴史となりたち、概念、意義、適応及び限界）、その知識を有する者としての社会的責任に関する知識を習得すること。 ［到達目標］ ①こころの異常／失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの理論的枠組みについて説明できるようになること ②心理アセスメントの目的と意義，代表的な手法の種類と特徴と適応に関する基礎的な内容について説明できるようになること ③代表的な心理療法のなりたちと概要、特徴的な技法，効果と限界／課題について説明できるようになること
授業の概要	臨床心理学とは，「科学，理論，実践を統合して，人間行動の適応調整や人格的成長を促進し，さらには不適応，障害，苦悩の成り立ちを研究し，問題を予測し，そして問題を軽減，解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では，対人援助職として「こころの失調／異常」を抱える人への適切な対応／他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ，その成り立ちや実践との関連を紹介する予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，異常心理学（1）こころの異常・失調をどのように捉えるか 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p69-70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で指示を受けた用語の意味を調べてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
	第２回	臨床心理学のなりたちと展開（1） 【key words】 診断・査定・評価、臨床心理学・カウンセリング・心理療法、臨床心理士、PTSD 【授業概要】 わが国における臨床心理学の成り立ちについて、特に医療や社会情勢との関連を中心に知識を学ぶ。また、医療との関連で必須となる診断の基準について、各自が作成したレポートを用いたグ

ループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ2-9,18-25.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：『心理学理論と心理的支援』などを参考に、問題焦点型／情動焦点型コーピングの定義を調べ、それぞれ身近な例を5つ挙げてまとめること。

第３回　異常心理学（2）ストレッサーとストレス反応，対処方略

【key words】
ストレッサー、ストレス反応、コーピング

【授業概要】
ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p36-37

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第４回　〃　（3）発達障害と二次障害

【key words】
発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害

【授業概要】
福祉領域をはじめ、心理的アプローチの重要性が指摘されている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、その対応や支援を検討する際の視点について、各自が作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p122-127
札幌市：発達障がいのある人たちへの支援ポイント　職場で使える『虎の巻』″

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第５回　心理療法（1）精神分析／力動論的アプローチ①理論的背景

【key words】
意識・前意識・無意識（局所論）、リビドー、イド・エス・超自我（構造論）

【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである精神分析／精神力動的アプローチの成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、実際にクライエントの困難を理解する際の視点について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p146-153

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：『心理学理論と心理的支援』などの教科書を参考に、指定された防衛機制パターンの定義と例をまとめること。

第６回　〃　②防衛機制と心理・性的発達段階

【key words】
防衛機制、心理・性的発達段階

【授業概要】
精神分析／精神力動的アプローチの特徴の1つである「心の平衡を保つために生じる心の中の働き（力動）」である防衛機制について、その個人差がどのように形成され、どのような形であらわれるのかを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの表現型について各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p146-153

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第７回　心理療法（2）行動療法／行動論的アプローチ

【key words】
レスポンデント条件づけ・系統的脱感作、オペラント条件づけ・トークンエコノミー法、観察学習・SST

【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである行動療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、具体的な技法とその基盤となった実験の対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p154-161

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第８回　　〃　　(3) 来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ

【key words】
無条件の肯定的関心、共感的理解、自己一致

【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである来談者中心療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その理念と技法との対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p142-145

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第９回　　〃　　(4) 家族療法／システムズ・アプローチ

【key words】
システムズアプローチ、IP、家族療法、家族の構造（境界・連合・権力）

【授業概要】
これまでに紹介した主要な「こころの異常・失調」を理解し介入するための理論とは大きく異なる観点を持つ家族療法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その家族療法の観点について、各自が完成させたワークシートを用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p162-165

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第１０回　心理アセスメント（１）面接法

【key words】
構造化面接・半構造化面接・非構造化面接、初回面接、アセスメント、ラポール

【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p40-47

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第１１回　　〃　　（２）観察法

【key words】
参加観察法・非参加観察法、交流的観察・面接観察・非交流的観察、サンプリング

【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、観察者の参加形態によって生じる変化と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p48-49

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること

第１２回　　〃　　（３）検査法

【key words】
質問紙法、投影法、作業検査法、テストバッテリー

	【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特にパーソナリティの測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、手法による差異と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p50-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 なし 第１３回　臨床心理学のなりたちと展開（2）専門性と社会的連携 【key words】 コミュニケーション、ケース・マネジメント、システム・オーガニゼーション 【授業概要】 これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての専門職である臨床心理士や公認心理師の実践活動、特に諸領域で共通して必要となる技能を中心に、その特徴について講義を通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p10-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で紹介のあった領域より1つ選び、その領域における臨床心理学を活用した実践について教科書を用いてまとめて持参すること 第１４回　〃　（3）各領域における実践の特徴 【key words】 保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働 【授業概要】 諸領域における臨床心理学を活用した実践活動について講義と各自の作成したレポート課題を用いて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p260-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で指示のあった追加課題について各自の興味関心と状況に応じて作成を行うこと 第１５回　まとめ 【key words】 倫理、法的義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行い、これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての学んだ者に求められる倫理や法的義務について講義を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p254-257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・子ども専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には事前に相談すること。 ・調べ学習等の課題が多く出されるため、図書館やPC室／LL室の利用が可能な状態にしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため，シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため，積極的かつ真摯な取り組むを望む。
オフィスアワー	初回に指示する。

評価方法	レポート課題の提出：25%，課題内容および授業内課題の取り組みの評価：35%，定期試験：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	授業テーマや課題に応じて各回で適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職経験 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人格心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人格（パーソナリティ）と感情に関わる事柄を考える際、常識的・経験的な視点ではなく、人格や人の感情の動きの理論に基づき、多面的に見る目を養うことを目的とする。 【到達目標】 ①人とその心の全体的な理解をめざして、多様な人格（パーソナリティ）理論と感情のメカニズムについて理解できる。 ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。 ③人格と感情の関係を理解し、その危機や回復について理解をし、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。
授業の概要	人格（パーソナリティ）と感情に関する心理的理論や心理学的な捉え方について、教科書に沿いながら学んでいく。人そのもののあり方やその感情の動きについて、時に了解しがたいものも抱え込む人間心理について理解をするため、人格や感情について編み出された概念や用語を学ぶことで、人間を深く理解する視点を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション（パーソナリティの理論）（1-18ページ）

【授業概要】
・科目のオリエンテーションを行います。
・人と人の違いをある程度内面に踏み込んで端的に説明しようとするとき、人はパーソナリティを捉えようとし、それを描こうとしてきたことを解説します。
・初回である本時は、このパーソナリティをおおまかにとらえる視点を学び、何がパーソナリティを考える軸となりうるかについて検討します。
【キーワード】
・気質、類型論、特性論、ビッグファイブ、人間ー状況論争
【教科書・参考文献】
・（1-18ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ワークシートを次の時間までに作成し提出すること。
【アクティブラーニング】
・

第２回　パーソナリティの測定①（23-32ページ）

【授業概要】
・パーソナリティは直接見たり触れたりすることができないものですが、時間や状況を越えて、一貫したその人独自の思考や行動を生み出す内部に存在するものと仮定されます。
・このようなパーソナリティをどのようにすれば理解することができるか。今回は、質問を通してパーソナリティを捉えようとする質問紙法について概観します。
【キーワード】
・質問紙法：ＭＭＰＩ、ＹＧＰＩ、16ＰＦ、ＭＰＩ、ＮＥＯ－ＰＩ－Ｒ、ＥＰＰＳ　等
【教科書・参考文献】
・（23-32ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ワークシートを次の時間までに作成し提出すること。
【アクティブラーニング】
・「質問で人を測るには？」というテーマで、どのような質問をすれば自分や他人のパーソナリ

ティを知ることができるかについて話し合いをします。

第３回　パーソナリティの測定②（33-39ページ）

【授業概要】
・前回に引き続き、パーソナリティをどのようにすれば理解することができるかについて検討をします。今回は、作業活動による検査や、刺激への反応を通してパーソナリティを捉えようとする投影法について概観します。
【キーワード】
・投影法、クレペリン検査、ロールシャッハ・テスト、ＴＡＴ、Ｐ－Ｆスタディ、ＳＣＴ　等
【教科書・参考文献】
・（33-39ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ワークシートを次の時間までに作成し提出すること。
【アクティブラーニング】
・「反応を通して人を測るには？」というテーマで、どのような質問をすれば自分や他人のパーソナリティを知ることができるかについて話し合いをします。

第４回　知能の測定（39-44ページ）

【授業概要】
・パーソナリティ検査と同様の手続きを行うもののうち、特に「知能」に特化した検査について概観します。
【キーワード】
・ビネー法、知能指数と偏差知能指数、ウェクスラー法、ＤＡＭ、ＣＨＣ（キャッテル、ホーン、キャロル）モデル、人工知能とパーソナリティ
【教科書・参考文献】
・（39-44ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・用語調べをしておくこと
【アクティブラーニング】
・「人工知能は、パーソナリティを獲得できるか？」について話し合いをします。

第５回　感情と認知（45-58ページ）

【授業概要】
・パーソナリティを形作る重要な側面である感情の働きについて、特に認知面との関連から学んでいきます。
【キーワード】
・感情価、感情、気分、情動、記憶欠損、感情依存記憶、感情一致記憶、ネットワークモデル、スキーマモデル
【教科書・参考文献】
・（45-58ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・簡単な実験をグループで実施し、報告を作成する。

第６回　感情と動機づけ①（59-70ページ）

【授業概要】
・パーソナリティを形作る重要な側面である感情の働きについて、特に動機づけとの関連から学んでいきます。
【キーワード】
・情動、期待、予期、原因帰属、自己効力、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果
【教科書・参考文献】
・（59-70ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・簡単な実験をグループで実施し、報告を作成する。

第７回　感情と動機づけ②（71-80ページ）

【授業概要】
・パーソナリティを形作る重要な側面である感情の働きについて、特に動機づけとの関連から学んでいきます。
・また、「人工知能に感情をもたらすには」どうすればいいのかについても検討する。
【キーワード】
・自己決定論、基本的欲求理論、目標内容理論、達成目標理論、達成感情
【教科書・参考文献】
・（71-80ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】

第８回　発達①（パーソナリティ心理学の視点から）（81-99ページ）

【授業概要】
・生涯にわたって継続していくパーソナリティの発達の様相について、それを規定するのは何か、という観点から検討をしていきます。
【キーワード】
・クロニンジャーの気質・性格理論、行動遺伝学、アタッチメント・スタイル
・アイデンティティとパーソナリティ、加齢とパーソナリティの変化
・ＳＯＣ理論、制御理論、赤の女王仮説　等
【教科書・参考文献】
・（81-99ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・範囲が長いので、該当箇所をよく読んでおくこと
【アクティブラーニング】
・

第９回　発達②（感情心理学の視点から）（101-109ページ）

【授業概要】
・人生の流れに伴って、感情やそれに関連する認知面がどのように変化をするかを学んでいきま

す。
【キーワード】
・感情、認知的評価理論、感情発達、微笑の発達、微笑の変化、デュシェンヌ・スマイル
・自己意識的感情、口紅課題、社会的参照、表示規則
【教科書・参考文献】
・（101-109ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・範囲が長いので、該当箇所をよく読んでおくこと
【アクティブラーニング】
・

第１０回　発達③（感情心理学の視点から）（109-119ページ）
【授業概要】
・前回に引き続き、感情やそれに関連する認知面がどのように変化をするかを学んでいきます。
・特に、「感情の賢さ」を育むために必要なことについても考えていきます。
【キーワード】
・性ホルモン、脳の変化
・社会感情的選択理論、感情知性、社会感情的学習
【教科書・参考文献】
・（109-119ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・ＥＩ、ＥＱについて調べておくこと
【アクティブラーニング】
・

第１１回　対人関係①（パーソナリティ心理学の視点から）（121-133ページ）
【授業概要】
・対人関係は、パーソナリティのあり方に影響を及ぼしていきます。今回は、対人関係の中でも青年期において特に重要となる友人関係と恋愛関係に焦点をあてて学習を進めます。
【キーワード】
・友人関係とパーソナリティ、恋愛関係とパーソナリティ、成人の愛着理論（アダルトアタッチメント理論）
【教科書・参考文献】
・（121-133ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・「友人・恋人選びの傾向とパーソナリティはどのように関連するか？」について話し合います。

第１２回　対人関係②（感情心理学の視点から）（135-154ページ）
【授業概要】
・対人関係において、感情がどのような働きをしているかを中心に学んでいきます。
・その際、人が対人関係の中でどのように感情を表し、理解し、またどのように扱おうとしているのかを通して、感情とパーソナリティの関連性について検討していきます。
【キーワード】
・自己システム内におけるシグナル機能、感情のコミュニケーション機能
・感情経験と感情表出、表出誇張、表出抑制、感情抑制
・感情隠蔽、感情偽装、感情調整、感情コンピテンス
【教科書・参考文献】
・（135-154ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・
【アクティブラーニング】
・「感情を抑えること、表すこと」の良い点、悪い点について話し合いをします。

第１３回　適応・健康①（パーソナリティ心理学の視点から）（155-171ページ）
【授業概要】
・健康や病気につながるようなパーソナリティのあり方はあるのか。今回は、こうした問いを考えてみます。
【キーワード】
・タイプＡパーソナリティ、タイプＣパーソナリティ、タイプＤパーソナリティ
・アレキシサイミア、アレキシソミア、楽観性、レジリエンス、完全主義
【教科書・参考文献】
・（155-171ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・レジリエンスについてよく調べておくこと
【アクティブラーニング】
・心理検査などもしながら、テーマについて考えを深めていきます。

第１４回　適応・健康②（感情心理学の視点から）（173-189ページ）
【授業概要】
・感情は人間の適応・不適応と関連していると考えられます。ここでは、感情の問題を憎悪させる要因について学んでいきます。
【キーワード】
・ポジティブ感情、ネガティブ感情、精神疾患と感情、社交不安
・パニック、強迫症、身体的健康、反復性思考、心的イメージと内的自己表象
【教科書・参考文献】
・（173-189ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・「そもそも適応、健康とはどのような状態か」について、話し合います。
【アクティブラーニング】
・心理検査などもしながら、テーマについて考えを深めていきます。

第１５回　まとめにかえて：偉い人（パーソナリティ）とはどういう人か（プリント）
【授業概要】
・人格心理学の総まとめとして、様々に学んだことも通しながら、では、「理想的なパーソナリティ」とはどのようなものかについて考えていきます。

	・「健康な人格」についてまとめた、シュルツの考えを参考に、よりよい生き方、あり方には何が必要なのかを考え、授業をしめくくります。 【キーワード】 ・健康な人格（パーソナリティ） 【教科書・参考文献】 ・シュルツ（1982）『健康な人格』（川島書店） 【課題・予習・復習・授業準備】 ・あらかじめ、「健康なパーソナリティ」だと思われる偉人などについて調べ、説明できるようにしておくこと。 【アクティブラーニング】 ・
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士や公認心理等国家資格に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業範囲を読了して授業に臨むこと。授業時に発言を求めながら確認をする。
オフィスアワー	火曜日　11：00～13：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点）） ・
教科書	島　義弘（2017）『パーソナリティと感情の心理学』（サイエンス社）
参考書	・シュルツ（上田吉一訳）『健康な人格』（川島書店、1982） ・西平直喜『偉い人とはどういう人か』（北大路書房、2004） ・Dan.P.McAdams The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA.2009. 他適宜指示。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　社会福祉法制　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 ″社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 pp3～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp18～34 第２回　社会福祉の法と行政のあゆみ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 pp18～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp14～18 第３回　日本国憲法と社会福祉 【key words】 幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治 【授業概要】 社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp14～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp71～78

	第４回	社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など） key words】 目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所 【授業概要】 社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp71～78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp79～95
	第５回	社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など） 【key words】 社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス 【授業概要】 ″社会福祉法人について説明する。 社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 pp79～95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp239～255
	第６回	生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など） 【key words】 目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認定 【授業概要】 ″生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。 福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。 保護決定のための収入認定について説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 pp239～255 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第７回	生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など） 【key words】 保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務 【授業概要】 ″保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。 保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 pp256～276 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp211～229
	第８回	児童福祉法、教育基本法 【key words】 児童　児童相談所　児童福祉事業 【授業概要】 児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 pp211～229 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp229～237
	第９回	母子及び父子並びに寡婦福祉法 【key words】 母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法 【授業概要】 母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。 児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp229～237 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp175～193
	第１０回	身体障害者福祉法Ⅰ（目的、定義、実施機関と専門職務者など） 【key words】 身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司 【授業概要】 身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp175～193 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp204～208
	第１１回	身体障害者福祉法Ⅱ（更生援護、事業および施設など） 【key words】 身体障害者手帳　盲導犬　身体障害者更生施設 【授業概要】 身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp204～208 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp208～210
	第１２回	知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 【key words】 知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳

	【授業概要】 知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp208～210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp193～204 第１３回　障害者総合支援法 【key words】 目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法 【授業概要】 ″障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。 就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。″ 【教科書ページ・参考文献】 pp193～204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 pp141～174 第１４回　老人福祉法、介護保険法 【key words】 目的　基本理念　老人　被保険者　要支援・要介護 【授業概要】 老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp141～174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書（pp3～276）、プリントの見直し 第１５回　労働三法、労働安全衛生法、刑法、少年法　関連法規のまとめ 【key words】 社会福祉法　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法 【授業概要】 社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 pp3～276 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2019年
参考書	宇山勝義　他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 臨床心理学特講(神経・生理心理学)　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
公認心理師 学部科目	B. 心理学発展科目 ⑩神経・生理心理学		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづくことが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。 【到達目標】 1)中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。3)高次脳機能障害の病態を説明できる。4)多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。
授業の概要	1)中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2)認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3)脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4)当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。	◎	○	○	○
②)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。	◎	○	○	○
③高次脳機能障害の病態を説明できる。	◎	○	○	○
④多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。	○	◎	◎	◎

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　ヒトの心理事象とその生物学的基礎　神経・生理心理学を学ぶ意義 【key words】 精神機能　行動　生物学的基盤　全体論と局在論　研究方法 【授業概要】 心と脳は“同一”のものであるという作業仮説にもとづいて、多彩な精神機能・行動と脳との関係をどのように考えるか、その学問的背景を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 pp.1-10、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 第２回　神経系の解剖・生理　１　神経系の構成と情報伝達　連絡線維　髄鞘化　神経系の発生と成長・発達 【key words】 神経細胞（ニューロン）　グリア細胞　血液-脳関門（BBB）　神経信号伝達の物理/化学　跳躍伝導 【授業概要】 神経活動の基本単位であるニューロンの機能解剖を概観し、特に中枢神経系の発達（髄鞘化）に

ともなう跳躍伝導が迅速な認知行動の下地であることを理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.11-13,18-46、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第３回　神経系の解剖・生理　２　大脳の3次元構成　皮質と皮質下　機能局在と全体　連合野　　脳動脈系　画像診断
【key words】
前頭葉　頭頂葉　側頭葉　後頭葉　大脳基底核　視床　機能局在　連合野　脳血管系　責任病巣　CT/MRI
【授業概要】
大脳の各部位(脳葉皮質および皮質下構造)が分担しかつ統合する生理・心理機能とあわせて、それらを維持するのに不可欠な栄養・酸素供給の仕組み(脳血管系・脳血流)を知り、臨床上基本的な画像診断情報について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第４回　小テスト　１　および　神経活動の背景・一般機能　意識　注意　認知適応のための構え
【key words】
意識レベル　見当識　感情　気分　意欲　(汎性)注意　精神反応　機能変動

【授業概要】
臨床上、大脳巣症状に多様に影響をおよぼし修飾しうる大局的・全体的な背景機能・一般機能の状態について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第５回　視覚　聴覚　体性感覚　運動　大脳の機能的非対称性(側性化)　利き手
【key words】
視覚　聴覚　体性感覚　身体運動　大脳の側性化　利き手

【授業概要】
感覚様式ごとの知覚・認識や身体運動の調整にかかわっている経路・仕組みを概観し、利き手や言語中枢と関係する大脳の機能偏倚を知ります。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.47-64,185-200、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第６回　小テスト　２　および　言語(speechとlanguage　言語中枢　角回　縁上回　右半球と言語)
【key words】
話しことばと言語　運動言語中枢　感覚言語中枢　弓状束　角回　縁上回

【授業概要】
ヒトに固有な高次脳機能である言語行動を支持する神経系の機能解剖を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.185-200、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第７回　学習　記憶
【key words】
ワーキングメモリ　長期記憶　側頭葉内側部　間脳　健忘　学習　意思決定　脳の可塑性

【授業概要】
適応行動の基盤でもある学習と記憶の生理・病理について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.65-80,81-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第８回　小テスト　３　および　情動　感情　動機づけ　発動性　人格　ストレス
【key words】
情動　自律神経系　大脳辺縁系　情動の表出　情動の認知　ストレス　動機づけ

【授業概要】
喜怒哀楽が行動の組織化にどのようにかかわってくるのかについて言及します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.111-136,137-164
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		授業での重要項目の復習を重視
	第９回	睡眠　概日リズム 【key words】 睡眠　睡眠周期　脳波　脳幹網様体賦活系　概日リズム 【授業概要】 日常生活の大きなリズムである睡眠の生理について系統発生的・生涯発達的に学ぶとともに、睡眠の病態にもふれる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp201-226、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１０回	小テスト　４　および　脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害　１　失語　１　臨床分類と特徴的症状 【key words】 脳損傷の病態　失語症　古典的分類　臨床症状 【授業概要】 脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患を概観し、失語症の臨床分類・特性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１１回	高次脳機能障害　２　失語　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 言語治療　失語症リハビリテーション　失語症者の心理・社会的問題 【授業概要】 失語症リハビリテーション過程ならびに治療的コミュニケーションの意味を理解します。また、失語症者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１２回	小テスト　５　および　高次脳機能障害　３　失行・失認　１　臨床分類と特徴的症状(遂行機能障害を中心に) 【key words】 高次脳機能障害　失行　失認　臨床症状 【授業概要】 一見不可解に感じられてしまいがちな高次脳機能障害の神経心理学的病態を、障害当事者の視点に立って理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１３回	高次脳機能障害　４　失行・失認　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 高次脳機能障害リハビリテーション　高次脳機能障害者の心理・社会的問題 【授業概要】 高次脳機能障害リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。また、高次脳機能障害者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１４回	器質性精神疾患(認知症を中心に)　特徴的症状　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 認知症　臨床症状　認知症リハビリテーション　認知症者の心理・社会的問題 【授業概要】 記憶障害の特徴的進展が中核の認知症者について、その心理・社会的問題を中心に、リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp.165-184,249-272、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１５回	小テスト　６　および　臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説　授業全体のまとめ 【key words】 神経心理検査　臨床評価　エビデンス　職業倫理

	【授業概要】 神経心理検査の代表的なものについて、その評価守備範囲・構成内容を紹介します。あわせて、支援対象者を評価し支援するということの職業倫理を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
受講生に関わる情報および受講のルール	各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進展していきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする 一人でも多くのひと(＝皆さん)の支援現場登場を待っているのです。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	6回の小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。
教科書	岡田隆・広中直行・宮森孝史　生理心理学　第2版　脳の働きから見た心の世界　サイエンス社　2015年
参考書	ジョン・ピネル　佐藤敬 他 訳　ピネル バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学　西村書店　2005年 山鳥　重　神経心理学入門　医学書院　1985年 メディックメディア　脳・神経　病気がみえる 第7巻　メディックメディア　2014年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 言語聴覚士として、聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育者論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育者の役割と職務内容について理解し、保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 ①保育者の役割と倫理について理解する ②保育士の制度的位置づけについて理解する ③保育士の専門性について考察し、理解する ④保育者の協働について理解する ⑤保育者の専門職的成長について理解する
授業の概要	保育士の制度的な位置づけから、保育者に求められる役割や倫理について理解する。また、保育士に求められる専門性について考察を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義についての説明と解説（保育者論を学ぶにあたって） 【授業概要】 ・授業の目的、授業の概要、授業計画、評価方法などを伝え、保育者論を学ぶ取り組みについて説明。 ・働く目的と保育哲学について。 ・社会人、保育士となる準備と心構えについて。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１１～１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予定の教科書Ｐ１６～２７を読んでおくこと
	第２回	保育現場が求める保育者像 【key words】 「せんせい」と呼ばれる条件 【授業概要】 ・ペスタロッチが広めた３Ｈ＋３つの条件の合わせて６つの条件について説明。 ・保育の振り返り、評価を生かしてさらに改善していくことの大切さを伝える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１６～２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予定の教科書Ｐ２８～３２を読んでおくこと
	第３回	園での保育者の役割と信頼 【key words】 「気づき」と「気働き」 【授業概要】 ・授業保育者に求められる「気づき」の力について説明。 ・「気働き」ができる保育者を目指すには具体的にはどのようなことなのか、実例をいくつか挙げて解説。　【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２８～３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 周囲の人達に「気働き」を念頭に接していくことを試みる

	第４回	保育者の仕事内容と留意点①　保育者の仕事と役割 【key words】 「自由保育」と「一斉保育」 【授業概要】 ・「自由保育」と「一斉保育」の形態について。またその対比。 ・自由保育の具体的な支援についてその方法ややり方を具体例を出して説明。 ・主活動における保育者の仕事と役割について。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ６２～７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自由保育」と「一斉保育」の利点をまとめておく
	第５回	保育者の仕事内容と留意点②　子どもに寄り添う生活者としての保育者 【key words】 保育者の存在 【授業概要】 ・自分が幼少期の頃にかかわった先生との思い出のエピソードをあげてみる。 ・子どもの育ちと保育者のかかわりについて一日を通して考えてみる。 ・職員間の連携、保護者との連携について。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７１～７４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のＰ７１～７４をもう一度読んでおくる
	第６回	保育者の仕事内容と留意点③　子どもの安全に対する配慮 【key words】 環境を整える 【授業概要】 ・子どもの安全に対する配慮として、求められる配慮を考える。 ・実際にあった子どもの事故や怪我の実例を話し、どのような配慮が必要であったか、考え話し合うようにした。 ・安全指導の行い方について。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７５～７８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のＰ７５～７８をもう一度読んで、安全に対する配慮を心がけるようにしておく
	第７回	保護者・地域社会と保育者の役割①　信頼される保育者になるために 【key words】 「受容」「傾聴」「共感」 【授業概要】 ・信頼されるために必要な専門性について。 ・信頼される保育者の基本姿勢として「受容」「傾聴」「共感」について説明。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１００～１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人と接する時、「受容」「傾聴」「共感」を普段から心掛けること
	第８回	保護者・地域社会と保育者の役割②　子ども理解を深める 【key words】 子どもを理解する視点 【授業概要】 ・子どもの発達過程からの理解と子どもが生活する家庭 ・家族をどのようにとらえて子どもの理 解を深めるのか、という２つの視点から考えてみる。 ・虐待の実態とその対策について。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１０９～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予習として、一年間の行事を考えておく
	第９回	行事に対する保育者の取り組み①　「行事」はなぜ必要か 【key words】 「行事」はなぜ必要なのか 【授業概要】 ・行事とは何か、行事がもつ意味や意義を考える。 ・年間の行事をあげて、一年間にどのくらいの行事があるのか確認する。 ・行事に関する絵本や紙芝居の紹介。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１１７～１２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予習でＰ１２２～１３３を読んでおく
	第１０回	行事に対する保育者の取り組み②　「行事」における保育者の役割 【key words】 行事に向けた指導法 【授業概要】 ・行事に向けて体制をどのように整えるべきか考える。そこで導入の大切さに着眼し、子どもの自然な姿を引き出せる指導方法を、事例を挙げながら説明。 ・行事にかかわる保育者の取り組みと学びについて図式化して説明。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２２～１３３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予習でＰ１３４～１４２を読んでおく
	第１１回	保育環境の課題と問題点①　多様化する保育需要 【key words】 保育需要 【授業概要】

	・保育需要の多様化の背景について。 ・保育需要の多様化への対応と保育者の役割について考える。 ・早期教育の是非を考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３４～１４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予習で自分の小学校での様子を思い返してみておく 第１２回　保育環境の課題と問題点②　保幼小連携 【key words】 育ちの問題 【授業概要】 ・子どもの育ちの問題から、「学級崩壊」「小１プロブレム」についての説明。 ・幼小連携の現状について。具体的な取り組みと課題を考える。 ・幼保一体化と社会の方向性について考える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４３～１５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週の予習として、各国の特徴を考えておく 第１３回　諸外国の保育から学ぶこと 【key words】 諸外国の保育を知る 【授業概要】 ・ドイツ、フランス、中国、スウェーデン、オーストラリアの保育施設や保育方法について説明。 ・社会と文化が生み出す保育の違いについて考える。 ・保育の国際化がもたらすものを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１５１～１６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の復習としてＰ１５１～１６７を読み返しておく 第１４回　保育者の専門職的成長①　専門性の発達 【key words】 プロとしての保育者の資質 【授業概要】 ・プロフェッショナルとは何か考え、プロになるためには自覚的努力が重要であることの説明。 ・プロの保育者としての最低必要条件を伝える。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１６８～１７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プロの最低必要条件を念頭において行動するよう、普段から心掛ける 第１５回　保育者の専門職的成長②　生涯発達とキャリア形成 【key words】 保育を「わかる」ために 【授業概要】 ・常に学びの姿勢をもち、保育を「知る」から「わかる」へ変化させていけるようにすることの大切さを説明。 ・子育ての情報、保育施策への関心をもつよう伝える。 ・専門的知識・技能を保育の「知恵」へ発展させる。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１７３～１８０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだところで疑問やさらに学びたいことを紙面に書き出す
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること ・授業シラバスを確認し、積極的に授業 jに取り組むこと ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁 ・配布されたワークシートはまとめておき、毎授業持参する。 ・「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと ・欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・保育についていつも関心を持っておくこと（保育関係の時事問題には必ず目を向けること）
オフィスアワー	月曜10:30～12：00　それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。
評価方法	筆記試験60%、授業への取組、授業時に課すレポート40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	上野恭裕編：プロとしての保育者論．保育出版社．2011
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、②デスカッション、ディベート、③グループワーク　【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭で技術、価値、倫理について講じます。また「保幼少連係」についての重要度から課題解決に向け ての意識を高めていきます。

	アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育課程論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程の編成、指導計画の作成を行う。この教育課程の作成は単なる技術論ではない。幼児教育の本質に根ざしていなければならない。保育者はこども一人ひとりの特性と発達の課題に即した教育環境を構成する。
授業の概要	世界とわが国における幼児教育の歴史を振り返り、現状の諸問題点を探る。入園から卒園までのこどもの生活を総括的に知り、保育所の保育計画を含めたカリキュラム、教育課程、指導案について考察を加える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　自己紹介　保育課程
【授業の概要】
自己紹介をする。授業の受け方・進め方、評価の仕方、保育課程について説明する
【key words】
教育、保育、課程、カリキュラム
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. iv~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幼児期に受けた幼稚園、または保育園での生活を思い出してみよう。

第２回　幼児期の特質
【授業の概要】
幼児期の特徴、乳幼児期の発達、人生乳幼児期の発達課題、生涯学習期の意義について知る。
【key words】
エリクソン、ルソー、乳児期、幼児期、人類進化の歴史的視点
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院P. 1~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
まわりの乳幼児に目を向けよう。

第３回　教育課程の意義と方向
【授業の概要】
教育課程の意義と方向、教育課程の4要素、教育観の類型、幼児教育に関する法律について知る。
【key words】
教育主体、期待される育ち、経験カリキュラム
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 21~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第４回　幼稚園、保育所、認定こども園
【授業の概要】
幼稚園、保育所、認定こども園の基本的性格、保育と教育、環境を通して行う。
【key words】
物的環境、人的環境、
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 39~
【課題・予習・復習・授業準備指示】

講義のイメージをもつ。

第５回　教育課程の基準（Ⅰ）

【授業の概要】
教育課程の基準、幼稚園、保育所、認定こども園、幼稚園教育課程の変遷ついて説明をする。
【key words】
幼稚園の発足、幼稚園保育及設備規定、幼稚園令
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 59~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第６回　教育課程の基準（Ⅱ）

【授業の概要】
教育課程の基準、幼稚園、保育所、認定こども園、保育要領、幼稚園教育要領（昭和39年）、幼稚園教育要領（平成元年）、幼稚園教育要領（平成10年）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成26年）について説明をする。
【key words】
保育要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 68~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第７回　幼児教育課程の基本

【授業の概要】
幼児教育課程の基本、環境を通して行う教育、幼児期の生活の展開について説明する。
【key words】
保育、環境、教化、保育者のあり方、依存からの出発
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 80~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第８回　遊びの役割

【授業の概要】
自立と共同、幼児の主体的生活、遊びを通しての指導、心身の関連性、心身の発達課題、集団生活について考える。
【key words】
遊びと仕事、一人ひとり異なる発達課題
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 90~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第９回　基礎となる幼児の姿

【授業の概要】
基礎となる幼児の姿、幼児の遊びから説明をする。
【key words】
遊び、エネルギー説、遊びの新理論、教育的意義
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 102~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第１０回　「楽しさ」をどうとらえるか

【授業の概要】
子どもの「楽しさ」をどのように捉えたらいいのかについて考える。
【key words】
自発性、自主性、全力活動、能力の伸長、知識の習得
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 111~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第１１回　目的と目標、ねらい、内容

【授業の概要】
幼稚園教育の目的と目標、ねらい、内容について説明をする。
【key words】
法律、目的、目標
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 122~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第１２回　ねらい、内容とその領域

【授業の概要】
ねらい・内容とその領域、5領域の関係について説明をする。
【key words】
5領域、幼児期
【教科書ページ・参考文献】
岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 132~
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義のイメージをもつ。

第１３回　教育課程の編成と指導計画の作成

【授業の概要】
教育課程の編成と指導計画の作成について学ぶ。
【key words】

	入園、終了、発達、指導計画 【教科書ページ・参考文献】 岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 141~ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義のイメージをもつ. 第１４回　「指導」の意義 【授業の概要】 「指導」の意義、教育・保育・指導、環境による指導について説明する。 【key words】 教育、環境、指導、 【教科書ページ・参考文献】 岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 148~ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導案を作成しよう。 第１５回　教育課程の評価、アンケート実施 【授業の概要】 教育課程の評価、教育評価の意義、指導計画と指導の評価、指導計画の評価等について説明する。アンケート実施 【key words】 教育評価、指導計画の評価 【教科書ページ・参考文献】 岸井勇雄他著『あたらしい幼児教育課程総論』同文書院 P. 162~ 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席や遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。授業中は私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容に関係する内容をレポートでまとめる課題が課せられたら、必ず指定日までに提出すること。
オフィスアワー	なし
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　授業への取り組み（20%）　ディベイトなどで総合的に判断する。
教科書	岸井勇雄他著 『あたらしい幼児教育課程総論』 同文書院
参考書	マリア・モンテッソーリ著 『子ども―社会―世界』 ドンボスコ社　授業中にもそのつど紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 東京モンテッソーリ教育研究所付属教員養成コース・東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター・広島モンテッソーリ教師養成コース アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　子どもの保健Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもの心身の健康増進と健やかな生活の確立をめざし、実際の保育現場で実践できる子どもの保健に関する知識や技能の習得を目的とする。 【到達目標】 　①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。 　②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。 　③保育における安全な環境を提供することができる。
授業の概要	子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション、日常の保育における健康観察 【Key Word】 授業の目的、注意事項、健康・発育観察 【授業概要】 従業の位置づけ、目的、授業の評価方法、注意事項、子どもの日常保育における健康観察、発育観察について説明する。 【教科書ページ】 ｐ１１～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ３０～４２ 第２回　発育の観察 【Key Word】 発育の観察、身体測定、発育の評価 【授業概要】 身体発育の観察と評価、身体計測の方法、発育・栄養状態や体格の評価方法 【教科書ページ】 ｐ３２～４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ４２～４９ 第３回　生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価 【Key Word】 生理、感覚、運動、精神機能 【授業概要】 生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価について学ぶ。 【教科書ページ】 ｐ４２～４９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ５０～５８、ｐ６８～７２

第４回　子どもの健康増進と保健環境

【Key Word】

健康増進、保育環境、生活リズム、抱き方、寝かせ方、おんぶひもの使い方

【授業概要】

保育環境の条件、保育環境の整備、１日の生活リズム形成のための生活習慣、生活習慣形成のための支援技術について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ５０～５８、ｐ６８～７２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ５８～６５、ｐ７２～８２

第５回　健康的な生活習慣形成のための支援技術（１）食事、排泄

【Key Word】

食事習慣、排泄習慣、授乳・離乳、おむつ交換

【授業概要】
食の役割、食事習慣形成における留意点、排泄の意義、排泄習慣形成における留意点、授乳・離乳方法、おむつ交換方法について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ５８～６５、ｐ７２～８２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ６５～６７、ｐ８２～９１

第６回　健康的な生活習慣形成のための支援技術（２）衣服着脱、清潔

【Key Word】

衣服着脱、清潔、入浴

【授業概要】

衣服の意義、着脱習慣形成における留意点、清潔保持の意義、清潔習慣形成の留意点、乳児の服の着せ方、入浴の方法、浴後ケアの習慣形成について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ６５～６７、ｐ８２～９１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ９４～１０１

第７回　子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア

【Key Word】

発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘、薬の与え方

【授業概要】
発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘の原因と観察・ケア、薬の与え方について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ９４～１１２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１１２～１１９

第８回　子どもの疾病と適切な対応

【Key Word】

てんかん、脳性まひ、心室中隔欠損、ネフローゼ症候群、糖尿病、喘息、食物アレルギー、発達障害

【授業概要】
先天性疾患、慢性疾患、発達障害のある子どもへの適切対応について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ１１２～１１９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１２０～１３７

第９回　事故防止および健康安全管理

【Key Word】

子どもの事故、安全保育、災害時

【授業概要】

子どもの事故の特徴、保育における安全教育、災害時等の対応について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１２０～１３７

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１３８～１４３

第１０回　保育の場における救急蘇生法

【Key Word】
救急蘇生法、反応、呼吸、大出血、体位、体温、救急車

【授業概要】

救急蘇生法の概念と目的、アルゴリズム、観察ポイント、体位管理、体温管理、救急車の要請方法について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１３８～１４３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１４３～１５５

第１１回　子どもにおける一次救命処置

【Key Word】

意識・呼吸確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AED、気道異物

【授業概要】

一次救命処置の意義、ガイドライン、手順、留意点、気道異物の除去方法について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１４３～１５５

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１５５～１７０

第１２回　起こりやすい事故と応急手当

【Key Word】

外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥

【授業概要】

外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥など起こりやすい事故と応急手当について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ１５５～１７０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１７１～１９２

第１３回　予防すべき感染症

【Key Word】
感染症、予防接種

【授業概要】
保育園・幼稚園・学校において予防すべき感染症と発生時の対応、予防接種について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ１７１～１９２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１９２～１９７

第１４回　予防接種、保育の場で行う感染の予防

【Key Word】

保育の場、感染症予防

	【授業概要】 手の清潔、保育室・教室の消毒と清掃、トイレ・おむつ交換台のの清潔、屋外の清潔の確保について学ぶ。 【教科書ページ】 p１９２～１９７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末まとめ 第１５回　まとめ 【Key Word】 健康発達観察、保健環境整備、生活習慣形成、病気予防、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防 【授業概要】 子どもの健康発達の観察、保健環境の整備、生活習慣形成の支援、病気の予防と対応、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防について復習する。 【教科書ページ】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験の準備
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（80%）、ノート（20%）
教科書	今井七重　編著　　子どもの保健Ⅱ　　（株）みらい　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	-	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 音楽表現の国での活動内容を理解し、指導するための知識や技能を習得する。 【到達目標】 「表現」の構造から学び、乳幼児の発達とそれに伴う音楽表現についての認識・理解を深め、表現技術Ⅰで習得した技術を十分生かしながら、歌・手遊び・表現遊び・合奏など、様々な実践的音楽活動を通して、学生自身の感受性、表現力を向上させ乳幼児が楽しんで音楽にかかわり、自由な音楽表現が育つよう、発達段階に即した音楽指導を習得する。
授業の概要	①保育の音楽表現におけるいくつかの活動が単体での活動ではなく、発達段階を考慮しながら園での生活の中に総合的に取り入れられていることを理解し、活動の指導法や留意点を習得する。 ②保育の様々な場面で展開される音楽活動の基礎となる歌唱や弾き歌いなどに対し、幼児の感性や表現力を養い、表現活動を活発にするための指導法やコードネームによる伴奏付けを習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　前期オリエンテーション 第２回　コードネーム①音程と三和音の関係・基礎コードについて 第３回　コードネーム②メジャーコードとマイナーコード 第４回　コードネーム③セブンスコードとその他のコード 第５回　ハ長調、ヘ長調、ト長調における和音進行とコードの関係 第６回　和音の転回形による和音進行 第７回　各調（ハ調、ヘ調、ト調）におけるコードネームによる伴奏付け 第８回　即興的な伴奏法と伴奏の変化（分散和音等）について 第９回　前奏、後奏、アインザッツの入れ方 第１０回　「手遊び」「指遊び」について年令別指導のポイントについて 第１１回　学生による「手遊び」「指遊び」 第１２回　伴奏付けにおける旋律に対する和音の選択について 第１３回　和音の選択と非和声音について 第１４回　前期の復習 第１５回　前期のまとめ試験

	第１６回　　後期オリエンテーション 第１７回　　移調①指定された調や音程への旋律の移調 第１８回　　移調②コードの移調 第１９回　　移調③幼児の声域内への移調 第２０回　　保育の音楽表現における年令別の特徴について 第２１回　　音楽表現の5つの活動について 第２２回　　「歌う」活動について　年令別による教材選びや指導法 第２３回　　「歌う」活動について　指導上の留意点 第２４回　　「ひく」活動について　年令別による指導法 第２５回　　楽器の種類（無音程打楽器・有音程打楽器）と扱い方と奏法について 第２６回　　合奏 第２７回　　「聴く」「つくる」活動の年令別指導法と留意点 第２８回　　「動く」活動の年令別指導法と留意点 第２９回　　後期復習 第３０回　　後期のまとめ試験
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	実践しながら学ぶ子どもの音楽表現　保育出版社
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓・曽田　梨央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。 【到達目標】 　ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。子どもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場においての表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理　解し、実践できる。
授業の概要	５名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目（前期）オリエンテーション
【key words】
前期授業概要
【授業概要】
クラス分け・今年度の到達目標の説明（課題曲数や学生の進度に合わせた課題の達成を目指す）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示（全体としての準備：コード奏について）

第２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
カデンツ　　アレンジ　　移調　　コード
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジの説明後に演奏）
マーチ曲（移調・記譜の説明後演奏）
コード奏（ハ長調で説明し、♯・♭１つ付いた調に挑戦するor演奏 ）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示（全体としての準備：カデンツ・①左手による3和音・②両手によるカデンツの練習）

第３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：使用教本からハ長調の曲を選び、その曲を2度上のニ長調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２０

０・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第５回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第６回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）マーチ・移調・記譜
試験曲選曲：（マーチ原曲＋移調１調とそのカデンツ）（前期に修了した弾き歌い1曲1コーラス）を申告し、当日指定された1曲を暗譜で演奏する。1,2年で履修した曲は不可。
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜
課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
課題曲数のクリア
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲仕上げ

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要

【授業概要】
学生それぞれの進度に応じたレッスン
（ピアノの森以降のレベルのピアノ曲1曲＋弾き歌い4曲、そのうち2曲とそのカデンツを2つの調に移調し移調譜を提出）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第１９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法

【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２５回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２６回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
試験課題選曲（弾き歌い2曲４調とそのカデンツを申告し、任意の1曲を記譜し提出。当日1曲1調とそのカデンツを暗譜。）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
試験曲仕上げ
課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

第２９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
試験曲仕上げ
課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示

	第３０回　　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期試験に向けて：リハーサル 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 試験曲仕上げ 課題曲クリア 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲仕上げ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内評価30%
教科書	①『新訂ピアノの森２』田丸信明編：GAKKEN　②『新訂ピアノの森３』田丸信明編：GAKKEN　③『ブルクミュラー　25の練習曲』全音楽譜出版社　④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑥『こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社　⑦『続こどものうた200』小林美実編：チャイルド本社
参考書	授業内で適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　乳児保育Ⅰ（演習）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目的とします。また、乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを学んでいきます。 【到達目標】 ①乳児期の発達の特性と発達過程を理解する。 ②乳児保育における基本的な援助やかかわりについて知る。 ③保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解する。
授業の概要	乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習していきます。また保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解し、基本的な援助やかかわりについて学んでいきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
【key words】
乳児保育の定義
【授業概要】
・乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について学ぶ。
・乳児保育の役割と機能について理解する。
・養護と教育の理解を深め、乳児期にいける養護および教育の一体性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp4～18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ウォークシートを読み返しておく
【アクティブラーニングについて】
乳児の定義を隣の座席の人に説明し合う

第２回　乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
【key words】
社会的状況
【授業概要】
・子育て世代を取り巻く社会的状況を考え、「大人の生活変容と子育ての困難さ」や「家庭や地域における子育て機能の低下」についての課題を明確化する。
・乳児保育の重要性と保育所の子育て支援について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp20～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートのふり返りと、グループワークで出た意見をまとめておく
【アクティブラーニングについて】
乳児保育の重要性と保育所の子育て支援についてグループワークを行う

第３回　保育所における乳児保育
【key words】

		保育所の位置づけや役割 【授業概要】 ・保育所における現状と課題についての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp32～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークで話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 「増加する3歳未満児保育の現状」について意見交換を行う
	第４回	保育所以外の児童福祉施設（乳児院答）における乳児保育 【key words】 乳児院 【授業概要】 ・児童福祉施設と乳児保育の関連を理解する。 ・乳児院について（乳児院の生活と役割と理念）学ぶ。 ・乳児院の現状と課題、社会的養護の方向性と乳児院について考え、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp44～56 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の地域にはどのような児童福祉施設があるか調べておく 【アクティブラーニングについて】
	第５回	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 【key words】 家庭的保育・小規模保育 【授業概要】 ・家庭的保育・小規模保育の位置づけと、それぞれの課題と展望について学ぶ。 ・その他の地域型給付の保育についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp58～68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてまとめておく 【アクティブラーニングについて】 家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてそれぞれ調べ、3～4人のグループで説明し合う
	第６回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 【key words】 子育て支援の現状 【授業概要】 ・求められる乳児保育の在り方について考える。 ・子ども理解だけでなく、保護者理解の見識も持てるよう学ぶ。 ・子育て支援施設や保育所などの「子育て支援」の実際について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp70～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「子育て支援」について新聞でピックアップされた記事を見つけておく 【アクティブラーニングについて】 どのような子育て支援が必要か自分なりの考えを話し合う
	第７回	3歳未満児の生活と環境 【key words】 生活と環境 【授業概要】 ・乳児保育における生活の場としての環境の整え方を学ぶ。 ・生活の場としての環境の整え方を学ぶ。 ・乳児保育室の環境に関する研究に触れる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp82～90 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの振り返りをしておく 【アクティブラーニングについて】 保育環境を自分で考え、意見交換しながらグループで乳児保育室の間取り見取り図を描き上げてみる
	第８回	3歳未満児の遊びと環境 【key words】 環境を通して行う保育 【授業概要】 ・0歳児の発達や運動機能について理解する。 ・0歳児の遊び環境の整え方と、0歳児の遊び環境の安全配慮について考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp92～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 0歳児の運動機能の発達段階を復習しておく 【アクティブラーニングについて】 1歳以上3歳未満児の遊び（学び）環境の整え方について意見交換を行う
	第９回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 【key words】 保育の移行 【授業概要】 ・乳児保育の前提を確認する。 ・0歳児から1歳児の移行の検討と展開、1歳児から2歳児の検討とこの時期の養護と教育、2歳児から3歳児の移行の検討、3歳以上児の保育へ移行する時期の保育の配慮について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp106～115

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習をしておくこと
【アクティブラーニングについて】
0歳児から1歳、1歳児から2歳児、２歳児から３歳児、３歳以上児の保育へ移行するときの配慮について調べ、説明し合う

第１０回　3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり
【key words】
３歳未満児の保育の原則
【授業概要】
・保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実際について理解する。
・０歳児・１歳以上３歳未満児の発達過程と保育者のかかわり（援助）、保育の配慮事項について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp120～130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【アクティブラーニングについて】

第１１回　3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮
【key words】
３歳未満児の発育・発達
【授業概要】
・保育全般にかかわる配慮事項と、３歳未満児に共通する配慮事項について説明する。
・「児童状況票」と「個人面談」について学び、健康状態の早期発見のポイントや、保育中の安全管理について学ぶ。
・チャイルドビジョン（幼児視覚体験メガネ）を装着し、幼児の視野で見る経験をする
・言語習得と音環境について理解する
【教科書ページ・参考文献】
テキストp132～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
チャイルドビジョンを装着して感じたことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
チャイルドビジョンで体験した幼児の視覚から、安全面での配慮点や留意事項など気づいたことを話し合う

第１２回　乳児保育の計画・記録・評価とその意義
【key words】
保育の実践と計画
【授業概要】
・実践の記録から評価の仕方について説明し、記録の取り方のポイントを学ぶ。その記録から保育の質の向上のための方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp144～152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第１３回　職員間の連携・協働
【key words】
チームですすめる保育
【授業概要】
・子どもにとっての保育者の役割と、保護者にとっての保育者の役割について理解を深める。
・子どもや保護者、職員との信頼構築のための学びをする。
・事例からみる支援の実際について意見交換しながら、支援の手立ての探り方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp154～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【アクティブラーニングについて】
事例を参考に子育て支援のあり方や、実際の支援についての手立てを話し合う

第１４回　保護者との連携・協働
【key words】
子育て支援の必要性
【授業概要】
・保護者に対する相談助言の原則について学ぶ。
・「保育の専門性」を活かした保護者支援の方法を学ぶ。
・外国籍家庭への支援について考えを深める。
・事例を通じてみる保護者との連携・協働について考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp166～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【アクティブラーニングについて】
事例から保護者との連携方法についての意見交換を行う

第１５回　自治体や地域の関係機関等との連携・協働
【key words】
保育所と地域の社会資源
【授業概要】
・保育所における関係機関との連携について理解する。
・児童虐待防止対策の強化について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp178～188
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域の社会資源の一覧表を確認しておく
【アクティブラーニングについて】
虐待の事例をあげ、どのような手立てを組み、どこから連携していくのかシュミレーションした

ことを話し合い、意見交換を行う。

第１６回　乳児保育の基本

【key words】
子どもと保育者の関係性
【授業概要】
・乳児（０歳）と１歳以上３歳未満児の保育内容について説明する。
・演習1「応答的なかかわりと言葉の育ち」にはどんな関係があるか考えてみる。
・演習2「物」をめぐって他者との関係性がどのように発達していくか考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp192～198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う

第１７回　子どもの生活の流れ（0歳児クラス）

【key words】
０歳児のデイリープログラム
【授業概要】
・乳児のデイリープログラムの特徴について学ぶ。
・演習1「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみる。
・演習２「育児担当制」を実施する場合の
【教科書ページ・参考文献】
テキストp202～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う

第１８回　子どもの保育環境（0歳児クラス）

【key words】
家庭的な環境
【授業概要】
・指針からみる保育環境について説明する。
・演習1「家庭的な雰囲気」にするために、どのような工夫が出来るか考えてみる。
・演習2玩具を使った遊びが発達課題にどのように関連するのか考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp212～220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う

第１９回　子どもの援助の実際（0歳児クラス）

【key words】
生活と遊びの援助
【授業概要】
・「保育のねらい」と保育者の配慮を学ぶ。また、乳児の主体性を考える。
・演習1「0歳児クラス」の食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみる。
・演習2①食事場面の環境設定　②オムツ交換の環境構成（交換台、マット等のメリット、デメリット、注意点など）を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp222～230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う

第２０回　子どもの生活流れ（1歳児クラス）

【key words】
生活リズムの情報共有
【授業概要】
・デイリープログラムからみる1歳児クラスの生活の流れについて説明する。
・演習「朝の視診」について考えてみる。
・トイレトレーニングにおける家庭との連携を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp232～239
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【アクティブラーニングについて】
演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う

第２１回　子どもの保育環境（1歳児クラス）

【key words】
環境の整備
【授業概要】
・この時期の子どもの「ミンナノモノ」と「ジブンノモノ」のとらえ方を学ぶ。
・演習1　子どもの目の高さで地域を歩いてみる。
・演習2　手作りのおもちゃを作ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp242～250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
製作が出来る用具等を準備して授業に挑む
【アクティブラーニングについて】

		演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２２回	子どもの援助の実際（1歳児クラス） 【key words】 生活と遊びの援助 【授業概要】 ・「かみつき」についての留意点、配慮点、対応策などの説明をする。 ・演習1　排泄の自立について保護者はどのように考えているか調べてみる。 ・着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp252～258 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２３回	子どもの生活の流れ（2歳児クラス） 【key words】 2歳児のデイリープログラム 【授業概要】 ・2歳8か月の事例から、一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者のかかわりについて考える。 ・子どもの生活場面について、自立をうながす保育者のかかわりを考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２４回	子どもの保育環境（2歳児クラス） 【key words】 見立て遊び 【授業概要】 ・玩具のそろえ方のポイントと手指の発達をうながすあそびについて説明する。 ・演習1　2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるか考える。 ・演習2　子どもが探索行動を通して、遊びこむことのできる安全で活動しやすい環境を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp272～278 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２５回	子どもの援助の実際（2歳児クラス） 【key words】 2歳児の育みたい資質と能力 【授業概要】 ・演習1　2歳児の発達をうながす遊びを考える。 ・演習2　自分で排泄をしようとするための適切な援助を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp282～288 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２６回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 【key words】 危機管理 【授業概要】 ・子どもの死亡および事故の現状と課題について説明する。 ・睡眠中の事故予防について学ぶ。（乳幼児突然死症候群と睡眠時チェック表） ・演習1　乳幼児の発達と、発達段階によって起きそうな事故を予測してみる。 ・演習2　乳幼児の愛着形成を考慮した保育者のかかわりを考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２７回	集団での生活における配慮 【key words】 家庭との連携の手段 【授業概要】 ・集団保育と個々への援助について説明する。 ・演習1　保護者との連携について考えてみる。 ・保育者同士、他職種との連携を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp302～309 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
	第２８回	環境の変化や移行に対する配慮 【key words】 移行とはなにか 【授業概要】

	・演習1　子どもがスムーズに移行するためになにをしたらよいのか考えてみる。 ・演習2　年度途中に行う園内での移行における対応を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp312～324 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う 第２９回　長期的な指導計画と短期的な指導計画 【key words】 保育の振り返り 【授業概要】 ・演習1　なぜ指導計画が必要か考えてみる。 ・演習2　次の計画や実践に活かせる記録の書き方を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp326～336 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う 第３０回　個別的な指導計画と集団の指導計画 【key words】 個と集団 【授業概要】 ・演習1　個別の計画作成にあたり、月齢差による発達の違いについて考える。 ・演習2　個別の計画作成にあたり、個人差について考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp338～346 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【アクティブラーニングについて】 演習1.2について課題解決型学習、グループワークを行う
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。 地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜 10:30～12:30　それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	講義内でのレポート・小テスト（３０％）提出物（１０％）定期試験（６０％）
教科書	乳児保育　新基本保育シリーズⅠ　Ⅱ　寺田清美 大方美香 塩谷香 編集　　中央法規出版
参考書	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①課題解決型学習、②ディスカッション・ディベート、③グループワーク、④実習、フィールドワーク、⑤実技演習 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 幼稚園・保育所等での実践、病児保育施設での経験を活かし、乳児における基本的な留意事項から、健やかな成長のために保育者が配慮していくことなどを講じます。また、実際の乳児と触れ合う経験を取り入れ、赤ちゃんとのかかわりを肌で感じる実技演習も行う。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育実習指導Ⅰ（施設）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　自らの実習を振り返ることで、保育士となるための今後の自己課題を明確化する。また、他者の報告をとおして体験を共有することで、幅広く児童福祉施設等の社会福祉施設についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 　①自分の実習を客観的に振り返り、自己課題を発見できる 　②自分の実習先以外の施設についても概要を理解し、基本的事項を説明できる 　③支援者となるための職業倫理を身につけ言語化できる
授業の概要	実習報告書の作成や自己評価を行うことにより、自身の課題を明確化した上で、グループ単位（種別ごと）で実習を振り返る。さらに、実習スーパービジョンを行い個々で実習レポートを作成し、報告会を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（振り返りの意義・自己評価と実習先評価・自己課題の明確化） 【key words】 振り返りの意義　　自己評価と実習先評価　　自己課題の明確化　　学びの往還 【授業概要】 実習後に、客観的に自分自身の実習や実習日誌を振り返り、評価すること、仲間と情報交換や学び合いで視野を広げていくことをとおして、保育士としての自分を高め、自分の体験に対して理論的整合性を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２６～Ｐ１３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習日誌を持参すること
	第２回	グループで体験の共有①　施設の概要・実習内容 【key words】 施設の概要　　実習内容　　情報の共有　　施設の多様性理解 【授業概要】 実習体験は各自異なり、多様な現場についての情報を交換することで自分の知らない現場を知ることに価値がある。さらに、子どもや福祉に対する見方や考え方、さらには職業意識にまで学びを広げていく。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習日誌を持参すること
	第３回	グループで体験の共有②　子ども（利用者）および職員とのかかわり 【key words】 　子ども（利用者）および職員とのかかわり　　情報の共有　　施設の多様性理解 【授業概要】 実習先の種別ごとのグループで、各回のテーマにそって情報交換と体験共有を行いながら、ワークシートに共通点と相違点（独自性）をまとめる。

【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を持参すること

第４回　グループで体験の共有③　事前学習のあり方・記録の視点
【key words】
事前学習　記録　情報の共有　施設の多様性理解
【授業概要】
実習先の種別ごとのグループで、各回のテーマにそって情報交換と体験共有を行いながら、ワークシートに共通点と相違点（独自性）をまとめる。

【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を持参すること

第５回　グループで体験の共有④　グループ発表
【key words】
情報の共有　施設の多様性理解
【授業概要】
実習先の種別によって、実習で体験した内容は多種多様である。第２回～４回までに整理したものを、グループごとに発表し、各種別についての理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内でワークシートを記入し、終了時に提出すること。

第６回　個別スーパービジョン（学籍番号０１～０８）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成①
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成　②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。

第７回　個別スーパービジョン（学籍番号０９～１６）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成②
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成　②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。

第８回　個別スーパービジョン（学籍番号１７～２４）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成③
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成　②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。

第９回　個別スーパービジョン（学籍番号２５～３２）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成④
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成　②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。

第１０回　個別スーパービジョン（学籍番号３３～４０）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成⑤
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成　②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。

	【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。 第１１回　実習報告会①（乳児院・児童養護施設） 【key words】 乳児院　児童養護施設　一時保護所 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 第１２回　実習報告会②（児童発達支援センター・福祉型障害児入所施設） 【key words】 児童発達支援センター　福祉型障害児入所施設 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 第１３回　実習報告会③（医療型障害児入所施設・障害者支援施設） 【key words】 医療型障害児入所施設　障害者支援施設 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 第１４回　実習報告会④（障害者支援施設） 【key words】 障害者支援施設 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 第１５回　実習報告会⑤（障害福祉サービス事業所）　後期のまとめ 【key words】 障害福祉サービス事業所 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 使用しない 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻や欠席の連絡は必ず事前に届け出ること ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意する。配付資料の予備は保管しないので、出席者からコピーしてください。 ・実習体験の共有化を図るために他者の発表は真剣に聴くこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	明確化された個々の課題克服にむけた目標を立てること。施設を就職先の選択肢として考慮する場合は、日頃からボランティア等を継続しておくこと。
オフィスアワー	金曜（１０：３０～１２：００）
評価方法	授業内での発表・取り組み姿勢（３０％）　実習関係書類の提出状況（２０％）　実習レポートの内容（５０％）
教科書	１　群馬医療福祉大学『実習へのガイドブック』群馬医療福祉大学２０１６ ２　施設実習パーフェクトガイド　わかば社２０１７
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　みらい２０１７
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	障害児入所施設、児童相談所等での障害のある子どもや社会的養護の対象児童への支援および相談援助の経験を生かし、より具体的で実践的な教授内容の発信に努めている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　介護技術Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
春山　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な　知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。 「到達目標」 ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。 ②認知症に伴うこころとからだの変化と介護について理解することができる。 ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。 ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。
授業の概要	本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明） 第２回　介護の意義と役割　①　（介護の意義　介護と生活） 第３回　介護の意義と役割　②　（尊厳を支える介護　生活の質と介護） 第４回　介護の意義と役割　③　（自立に向けた介護　ノーマライゼーションの理念　介護予防とリハビリテーション） 第５回　生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護） 第６回　介護を必要とする人の理解　（高齢者の暮らしと生活　身体障害のある人の暮らしと生活） 第７回　人のこころとからだのしくみ　①（こころのしくみ） 第８回　人のこころとからだのしくみ　②（脳のはたらき） 第９回　生活行為に関連したこころとからだのしくみ　（食事　　排泄） 第１０回　高齢者と健康　①　（高齢者の病気の特徴　　身体機能低下が及ぼす生活への影響） 第１１回　高齢者と健康　②　（運動機能低下とＡＤＬ） 第１２回　心身状態、生活状態のアセスメント技術　①　（全身観察とバイタルサインの観察） 第１３回　心身状態、生活状態のアセスメント技術　②　（バイタルサインの計測　） 第１４回　心身状態、生活状態のアセスメント技術　③　（医療機関、関係機関への連絡　他職種との連

	携） 第１５回　　まとめ　（総括） 第１６回　　後期　科目オリエンテーション（授業概要） 第１７回　　身体不調時・異常時の介護①　（発熱時と脱水の対応） 第１８回　　身体不調時・異常時の介護②　（呼吸困難時、意識障害時のケア） 第１９回　　身体障害のある人への理解①　（視覚障害） 第２０回　　身体障害のある人への理解②　（聴覚・言語機能障害） 第２１回　　身体障害のある人への理解③　肢体不自由（運動機能障害） 第２２回　　身体障害のある人への理解④　内部障害（腎臓機能障害） 第２３回　　認知症のある人への理解①　（認知症の医学的理解） 第２４回　　認知症のある人への理解②　（認知症に伴う心身の変化と日常生活） 第２５回　　認知症のある人への理解③　（認知症に対する介護技術） 第２６回　　介護における安全確保と危機管理①　（緊急時の応急手当） 第２７回　　介護における安全確保と危機管理②　（緊急時の介護） 第２８回　　終末期の介護①　（死にゆく人のこころとからだの変化） 第２９回　　終末期の介護②　（終末期における介護技術） 第３０回　　まとめ（総括）
受講生に関わる情報および受講のルール	「受講生に関わる情報」 演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。 長い爪と　マニュキアは禁止、長い髪は束ねること。 「受講のルール」 他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。 演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。 教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験　６０％　　レポート　２０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	「新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論」　第一法規
参考書	講義の中で適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　公民科教育法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大島　登志彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・公民科で指導する各科目の主要項目や重要用語・内容、指導上の留意状況などを考察する。 ・「政治・経済」「現代社会」で扱う現代日本の主要な時事課題について、受講生各自が大枠に沿ったテーマを決めて、模擬授業を想定した指導案形式のレポート（以下模擬指導案レポート）を作成し、指導計画を立案する資質を身に付ける。また、それに沿った発表・考察・討論を重ねて、その内容及び科目全体を指導・批判・課題解決できる指導力と評価の指針を養う。
授業の概要	・前期：「政治・経済」のなかで、三権分立や経済の変動などや高校生の日常認識事項を事例考察する。 ・後期：「現代社会」「倫理」では、環境や国際関係、人間（日本人）の思想・宗教・文化などの取扱いを学ぶ。 ・「政治・経済」と「現代社会」で扱う内容の一端を、模擬授業を想定した指導案形式のレポート（以下模擬指導案レポート）を作成させ、それを授業実践として発表させ、考察・討論させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	授業の概要説明（公民科の概要、授業の主眼と到達目標、授業の進め方や課題提出、評価方法）
	第２回	学習指導要領とその包括科目の変遷と課題、中学校との学習の関わり公民分野に係る問題意識
	第３回	戦後日本の経済発達や情報化社会の進展に関わる生活や学習事情の変遷（新聞、テレビ、インターネット・電子メール等の功罪、第３～１４回が政治・経済分野の学習）
	第４回	模擬指導案レポート執筆の指示（テーマの決め方や、執筆方法と内容の分担などの討論を含む）
	第５回	生徒の実態（学校所在地域の特性、生徒の通学事情や地域との関わりなど）と把握と授業への反映
	第６回	模擬指導案レポートの提出とその発表（レポートの内容紹介と発表順序等）の指示
	第７回	模擬指導案レポートの即した発表（①主に政治＝行政・選挙・地方自治などの内容を主体）
	第８回	政治に関わる専門用語の考察や公約の実現や留意事項、発表の考察と討論
	第９回	模擬指導案レポートに即した発表（②主に司法・裁判などの内容を主体）
	第１０回	司法に関わる専門用語の確認とそれに関わる諸問題や留意事項習事項、発表の考察と討論
	第１１回	模擬指導案レポートに即した発表（③主に経済・金融・規制緩和等に関わる内容を主体）
	第１２回	経済に関わる専門用語の確認と国際動向の指導に関わる留意事項、発表の考察と討論
	第１３回	政治・経済の時事問題の重要性と考察指針（新聞の読み方、マスコミの対応など）（第１２・１３回では、政治経済の時事課題に関わる資料や統計データのインターネット検索を実践）
	第１４回	「政治・経済」の総括、レポートやコメントカードなどの返却

	第１５回　「現代社会」の模擬指導案レポート作成を指示（夏休みの課題＝日本の労働や医療・環境問題等）ここまでを前期での学習計画とし、前期（中間）試験を行う 第１６回　現代社会における色々な問題意識と高校での学習内容の示唆（第１６～２４回が現代社会分野）（近年顕著となった日本の諸問題：労働と福祉・医療・年金・少子高齢化、環境問題など） 第１７回　模擬指導案レポートの提出（夏休み前の第１５回で指示したもの）と発表の留意事項と分担 第１８回　模擬指導案レポートに即した発表（①主に労働問題に関わる内容を主体） 第１９回　労働に関わる専門用語の確認と諸問題や留意事項、発表の考察と討論（現代日本の労働各種課題を物語る資料・統計をインターネット検索して、考察する資質を磨く） 第２０回　模擬指導案レポートに即した発表（②主に福祉・医療・年金・少子高齢化に関わる内容主体） 第２１回　福祉・医療・年金等に関わる専門用語の確認と課題の留意事項、発表の考察と討論 第２２回　模擬指導案レポートに即した発表（③主に環境問題に関わる内容を主体） 第２３回　環境に関わる専門用語の確認とそれに関わる現実と日常生活との関わりの対比や留意事項 第２４回　「現代社会」の指導上の留意事項などを総括した上で、後期提出の模擬指導案レポートの返却 第２５回　現代人の思想・宗教に関わる諸課題を考察（第２５～２７回は倫理分野、講義と学生相互の討論） 第２６回　日本文化の歴史や種別の概要を把握し、その重要性と将来に伝承していく重要性を理解する。 第２７回　現代日本の社会環境の特性やその長短所を捉える。（深刻な環境事情の事例を把握し、それを解決する指針となる動画や資料を検索して考察する） 第２８回　「倫理」の授業での捉え方を総括し、学習項目や指導上の留意事項などを確認する。 第２９回　後期の模擬授業指導案・レポートやコメントカードなどの返却 第３０回　公民科全体の課題とポイントを総括・討論するなどによる１年間のまとめ、期末試験の指示
受講生に関わる情報および受講のルール	健康に留意し、欠席しないようにして下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・毎回穴うめ作業や演習問題を含んだプリントを配布します。プリントや教科書でよく復習して下さい。 ・レポートを課します。図書館で本を検索したり、新聞など資料を集めて、しっかり書いてください。
オフィスアワー	授業終了後30分程度（目安）
評価方法	前後期とも定期試験を行う（50%）、授業への参加状況（25%、下記小テストを含む）、模擬指導案レポートの内容とそれに即した発表・討論（25%） 毎回の授業での評価は、コメントカードで行う（小テスト等を含む）。
教科書	『公民科教育』（社会認識教育学会編、学術図書出版社）　『高等学校学習指導要領　公民編』（文部科学省）　『高等学校学習指導要領解説　公民編』（文部科学省）
参考書	『政治・経済用語集』『現代社会用語集』『倫理用語集』（いずれも山川出版社）　高等学校用教科書『政治・経済』『現代社会』『倫理』（いずれも東京書籍）　中学校用教科書『新しい社会　公民』（東京書籍）　『理解しやすい政治・経済』（松本美保）　『理解しやすい現代社会』（真渕勝）　『理解しやすい倫理』（藤田正勝）（いずれも文英堂） 授業の要目に沿って、毎回穴埋め事項を含めたプリントを配布する。 授業の内容と学生の興味関心に合わせて、個別に参考図書を紹介する。 模擬指導案レポートの執筆に際して、分担テーマに即した参考図書を紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習

	□ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。
授業の概要	教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　子どもの存在と「生きる力」
【Key Word】
生きる力　教育相談の考え方　自己育成
【授業概要】
オリエンテーション　シラバス　教育相談の目的及び必要性について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１２～２９

第２回　教育相談のカウンセリングの考え方
【Key Word】
教育相談の考え方　教育相談と生徒指導　カウンセリングの発想
【授業概要】
教育相談の考え方・教育相談と生徒指導・カウンセリング感覚について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２～２９
【課題・予習・復習・授業準備】
予習課題　教科書Ｐ３１～４４

第３回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　①
【Key Word】
子どもとかかわる基本原理
【授業概要】
教師として自己開示すること、子どもの気持ちを聴き取り感情の明確化をすることの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ４４～５７

第４回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　②
【Key Word】
スピーディーな対応　子どものメッセージに応じる　事実に即して叱る・ほめる
【授業概要】
子どもにかかわる基本原理について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４４～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ５９～７２

第５回　子どもの人間関係づくり①　学級の「まとまり」をつくる　＜かかわる力＞をはぐくむ
【Key Word】
学級のまとまり　かかわる力
【授業概要】
学級のまとまりをつくること、「かかわる力」を育むことの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５９～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ７２～８７

第６回　子どもの人間関係づくり②　コミュニケーション能力を育成する　指導観・授業観の転換
【Key Word】
コミュニケーション能力　指導観・授業観の転換
【授業概要】
コミュニケーション能力を育成することの大切さや指導観・授業観の転換について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７２～８８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　前半まとめのテストに向けて教科書Ｐ１～８９

第７回　前半のまとめとテスト
【Key Word】
カウンセリング実習　ロールプレイ
【授業概要】
前半まとめのテスト　カウンセリング実習のオリエンテーション
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～８８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題Ｐ８９～１１４

第８回　教育相談の計画と活動の実際　　カウンセリング実習①
【Key Word】
教育相談の計画　計画立案の実際例　教育相談活動
【授業概要】
学級担任による教育相談計画の必要性を理解し、日々の教育相談に活かす大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１１５～１２３

第９回　学級担任が向き合う危機的な問題①　学級崩壊を防ぐ　　カウンセリング実習②
【Key Word】
学級崩壊　状況分析　事態改善の方向　予防対策
【授業概要】
学級崩壊の意味を理解し、学級崩壊の要因を考える。状況分析の仕方を知り予防対策の大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１５～１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１２４～１４４

第１０回　学級担任が向き合う危機的な問題②　いじめや自殺とその対応　　カウンセリング実習③
【Key Word】
いじめの基本認識　いじめ集団　指導体制　教師に求められる指導
【授業概要】
いじめの基本認識を理解し、「いじめ集団」をつくらないようにするために、一人一人の教師にどのような指導が求められているのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２４～１４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１４５～１５７

第１１回　学級担任が向き合う危機的な問題③　不登校とその支援　　カウンセリング実習④
【Key Word】
不登校の実態　不登校のきっかけ　不登校のサイン　子どものサイン
【授業概要】
不登校の実態を知り、不登校対策としてカウンセリングの考え方を活かした対応や子どものサインに気づくことの大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４５～１５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１５８～１７１

第１２回　学級担任が向き合う危機的な問題④　保護者支援　　カウンセリング実習⑤
【Key Word】
保護者との対応力　関係づくり　保護者の不安を解消する　体罰
【授業概要】
保護者との対応力を高めるために必要なポイントを理解する。
体罰について知り、予防・防止のポイントを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１５８～１７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題　教科書Ｐ１７２～１８１

第１３回　問題行動の理解と指導①　　カウンセリング実習⑥
【Key Word】
早期発見　組織的対応　近年の問題行動の考え方
【授業概要】
問題行動の考え方と早期発見や組織的対応など対応の基本を理解する。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１７２～１８１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習課題　教科書Ｐ８９～１８１ 第１４回　問題行動の理解と指導②　後半のまとめとテスト 【Key Word】 事例から学ぶ　対応の実際例 【授業概要】 後半まとめのテスト　事例から実際の対応例を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８９～１８１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題　教科書Ｐ１８２～２０４ 第１５回　まとめ 【Key Word】 事例から学ぶ　対応の実際例 【授業概要】 テストを基に後半の復習をする　対応の実際例を通して解決の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８２～２０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習課題　試験に向けて復習をする　教科書Ｐ１～２０４
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）、授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	有村久春著　学級教育相談入門　金子書房　２，５００円＋税
参考書	学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）　幼稚園教育要領　幼保連携子ども園教育・保育要領
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭経験（担任）　19年　学級担任として教育相談の考え方を活かしてまとまりのある学級集団をつくった。 中学校教諭経験（副担任）3年　教科担任として一人一人の生徒を大切にした教科指導をした。 教頭経験　11年　教頭として保護者対応・地域との連携に教育相談の考え方を積極的に活用した。 校長経験　6年　校長として一人一人の子どものよさを活かした学校経営に教育相談の考え方を活用した。 スクールカウンセラー経験　7年　子どもの気持ち・保護者の気持ちに寄り添い共感的理解をすることで、自己決定できるよう支援している。関係の先生方や関係機関と連携し「チーム学校」のメンバーとして支援している。 このような現場での経験を活かして教育相談の授業をしていきます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　特別活動研究　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。			
授業の概要	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を講義やグループ協議を通して理解する。			
■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係 ◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項				
授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
授業計画	第１回　オリエンテーション　特別活動はどんな学習活動か 第２回　特別活動の教育上の特性 第３回　特別活動の目標と主な内容 第４回　特別活動の教育課程上の位置づけ 第５回　特別活動で教師に求められる力量 第６回　特別活動と学級経営　学級集団の心理学 第７回　前半のまとめとテスト 第８回　特別活動の全体計画と指導計画 第９回　学級活動・ホームルーム活動とは 第１０回　学級活動の指導の実際 第１１回　児童会・生徒会活動とは 第１２回　児童会・生徒会活動の指導の実際 第１３回　クラブ活動の内容と指導の実際 第１４回　学校行事の内容と指導の実際　後半のまとめとテスト 第１５回　特別活動における評価			
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。			
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード			

授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）・授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	川村茂雄　編著　特別活動の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小・中・高等学校学習指導要領　特別活動編　文部科学省
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生徒指導論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的資質や能力の育成を図る。
授業の概要	生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について講義やグループ協議等を通して、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション　生徒指導とは 第２回　これからの生徒指導の方向性 第３回　児童生徒理解の方法 第４回　教師に必要とされる指導行動 第５回　進路指導・キャリア教育とは 第６回　特別支援教育と生徒指導 第７回　前半のまとめとテスト 第８回　現代の子どもを取り巻く問題 第９回　不登校の現状・理解と対応 第１０回　いじめの現状・理解と対応 第１１回　非行問題の現状・理解と対応 第１２回　学級崩壊・授業崩壊の現状・理解と対応 第１３回　キャリア形成に関する諸問題と社会的排除 第１４回　後半のまとめとテスト 第１５回　連携による生徒指導の充実
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）・授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　生徒指導・進路指導の理論と実際　図書文化　定価２，２００円＋税
参考書	文部科学省　生徒指導提要　教育図書株式会社　定価２９０円
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習（高等学校）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	「実習時期及び実習日数・時間」 　原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許に必要な科目を履修することで取得できる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 － 【福祉科　教育実習履修資格者】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職　　概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科　　教育法を履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されな　　い教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること） 第２回 － 【公民科　教育実習履修資格者】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者

	３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職　　概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるい　　は履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されな　　い教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること） 第３回 － 第４回 － 第５回 － 第６回 － 第７回 － 第８回 － 第９回 － 第１０回 － 第１１回 － 第１２回 － 第１３回 － 第１４回 － 第１５回 －
受講生に関わる情報および受講のルール	「実習上の注意」 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること ［実習中止の措置］ １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等で必ず報告し、課題･疑問点等を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約

評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（１０％） ２　実習校の評価（５０％） ３　教育実習の記録の評価（４０％）
教科書	１　群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 ２　文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』 ３　文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年度告示）福祉編』（福祉科の教員免許状取得希望者） ４　文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年度告示）公民編』（公民科の教員免許状取得希望者）
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着けられるよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(90)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。 　本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。 [到達目標] １　学校の組織・運営や生徒指導および学習（教科）指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができ　　る。 ２　本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。
授業の概要	１　２年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意 　することを中心に講義を行う。 ２　生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教育実習に臨み　　－教育実習の範囲と内容－

【授業にあたり】
１　教育実習の期間が異なるため、提示した回の内容での実施とならない場合がある。
　※　変更した内容を適宜提示する。
２　本実習中は、必ずメール等で実習内容についてメールで報告を行うこと（週3回）
３　本実習中に困ったこと、不安なこと、わからないこと等、自分で判断せず、必ず相談すること。

【Key Word】
学生指導、生徒指導、学級／クラス活動、校務分掌

【授業概要】
教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について確認を行う。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：中学生の特徴について調べておくこと。

第２回　実習を受け入れる立場から　　①　－中学校の立場から－

【Key Word】

		思春期、生徒指導、進路指導、学習指導 【授業概要】 実習を受け入れる中学校の立場から、思春期真っ只中の中学生との接し方、学習面で開きがある生徒の指導について等、学ぶ。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・配布資料等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習を受け入れる中学校の立場から、実習生に必要とされる資質・能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：高校生の特徴について調べてくること。
	第３回	実習を受け入れる立場から　　②　－高等学校の立場から－ 【Key Word】 青年期、生徒指導、進路指導 【授業概要】 実習を受け入れる高等学校の立場から、子どもでも大人でもない、「高校生」という時期の接し方、将来の自分像を考え･悩む進路指導について等、学ぶ。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・配布資料等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習を受け入れる高等学校の立場から、実習生に必要とされる資質･能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：教育実習で留意することについて考えてくること。
	第４回	教育実習で留意すること 【Key Word】 規則正しい生活、守秘義務、報告･連絡･相談、提出物 【授業概要】 教育実習で留意することについて、確認する。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・レジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：教育実習で留意することについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
	第５回	教育実習録の書き方 【Key Word】 実習校の特徴、時間割、実習日誌、実習内容、総括 【授業概要】 教育実習録（実習日誌）の書き方について学ぶ。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P82～ ・配布資料：書き方例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布資料の書き方例を参考にして実習日誌を書き、期日までに提出すること。 ・自身の教育実習録に必要事項を記入しておくこと。 授業準備指示：次回、授業実習に使用するテキスト、プリント等を用意すること。
	第６回	教育実習･本実習における教材研究の進め方 【Key Word】 教材研究、教材･教具、補助教材、確かな学びの保障 【授業概要】 教育実習･本実習における教材研究の進め方について学ぶ。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：教育実習･本実習における教材研究の進め方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
	第７回	本実習前・大学オリエンテーション 【Key Word】 実習の心構え、守秘義務、留意事項 【授業概要】 本実習前・大学オリエンテーションを実施する。 学長、学部長先生より訓話・講話をいただく。 心構え、留意事項等、担当教員より 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』

・大学オリテンのレジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：大学オリエンテーションの内容をまとめて期日までに提出すること。

第８回　教育実習･本実習の流れ　一日の流れ：日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）

【Key Word】
一日の流れ、観察実習、授業実習、実習内容

【授業概要】
教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れ：日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）について確認をする。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：各実習校の教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れについて確認をしておくこと。

第９回　研究授業案の作成　①　各実習校の形式に合わせて　－準備－

【Key Word】
学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障

【授業概要】
研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・観察実習記録

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。
次回の授業で研究授業案を作成するため、準備をしておくこと。

第１０回　研究授業案の作成　②　各実習校の形式に合わせて－作成－

【Key Word】
学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障

【授業概要】
研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
P17～P36、P35～P45
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成しておくこと。

第１１回　実習校における挨拶の仕方・御礼状の書き方

【Key Word】
実習前後の挨拶、全体集会での挨拶、担当学級･クラスにおける挨拶
御礼状

【授業概要】
実習校における挨拶・御礼状の書き方について考える。

【教科書ページ】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・挨拶の仕方：レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：それぞれの場での挨拶の仕方について、まとめたものを期日までに提出すること。
予習：教育実習報告会に向けて、報告書を作成しておくこと。

第１２回　教育実習報告・検討会　①　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会）

【教育実習報告会について】
・教育実習報告書は、『教育実習へのガイドブック（学生用）』P95、P96を参考にして作成すること。
・作成した教育実習報告書に基づき、教育実習報告会を実施する。
・報告者の順番は、本実習前に決定する。

【Key Word】
学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動

【授業概要】
・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。
・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。
・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。

	【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・教育実習報告書 ・研究授業を録画したDVD 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各実習生の報告書の発表について、ミニレポートにまとめて期日までに提出すること。 予習：次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。
	第１３回　教育実習報告・検討会　②　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【Key Word】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・教育実習報告書 ・研究授業を録画したDVD 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各実習生の報告書の発表について、ミニレポートにまとめて期日までに提出すること。 予習：次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。
	第１４回　教育実習報告・検討会　③　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【Key Word】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・教育実習報告書 ・研究授業を録画したDVD 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各実習生の報告書の発表について、ミニレポートにまとめて期日までに提出すること。 予習：次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。
	第１５回　教育実習報告・検討会　④　中学校及び高等学校教育実習 【Key Word】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・教育実習報告書 ・研究授業を録画したDVD 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各実習生の報告書の発表について、ミニレポートにまとめて期日までに提出すること。 次年度の教員採用試験に向けて準備を行うこと。後期から始まる教員採用試験対策講座に向けて、一般教養、教職教養、専門教養のテキストに目を通しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。

	４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（40%）、実習報告書の内容（50%）、試験またはまとめのレポート等（10%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習実施に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習（中学校）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	4単位(120)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	【実習時期及び実習日数・時間】 　原則として当該学年の6月中に、120時間(3週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 【実習履修資格者】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職　　概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日　　本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　１年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで) ８　実習後に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者 第２回 第３回 第４回 第５回

	第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	【実習上の注意】 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること 【実習中止の措置】 １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等で必ず報告し、課題･疑問点等を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（１０％） ２　実習校の評価（５０％） ３　教育実習の記録の評価（４０％）
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領解説（平成29年3月告示）社会科編』、文京出版 ４　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着けられるよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　知的障害者の心理・生理・病理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、知的障害児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①知的障害者（児）の心理・生理・病理特性の基本的知識について説明することができる。 ②知的障害者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。知的障害の心理・生理・病理の特性を理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション

【Key Word】

知的障害、知能障害、適応行動の障害、発達期

【授業概要】

知的障害の概念、分類、疫学、原因、症状、診断について学ぶ。

【教科書ページ】
なし

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：周産期に生じる脳障害

第２回　周産期に生じる脳障害

【Key Word】

周産期、低酸素、虚血状態

【授業概要】

低酸素・虚血状態の原因、胎児仮死・新生児仮死の症状、頭蓋内出血、早期産児の異常症状について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：染色体異常

第３回　染色体異常

【Key Word】

ダウン症候群、脆弱X症候群

【授業概要】

染色体異常の疾病の病因、症状、疫学、診断、治療について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：先天性風疹症候群

第４回　先天性風疹症候群

【Key Word】

風疹、白内障、ろう、先天性心臓病

【授業概要】

先天性風疹症候群の原因、疫学、症状、診断、治療、予防について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：二分脊椎、水頭症

第５回　二分脊椎

【Key Word】

二分脊椎、水頭症

【授業概要】
二分脊椎、水頭症の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：脳炎、髄膜炎

第６回　脳炎、髄膜炎

【Key Word】

細菌性、無菌性

【授業概要】

髄膜炎・脳炎の原因、症状、疫学、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：先天性代謝異常

第７回　先天性代謝異常

【Key Word】

遺伝子異常、代謝障害、マススクリーニング検査

【授業概要】
先天性代謝異常の定義、原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：頭部外傷、脳血管障害

第８回　頭部外傷、脳血管障害

【Key Word】

不慮の事故、頭部外傷、脳血管障害

【授業概要】

小児の頭部外傷の実態とその予防対策、脳血管障害について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：てんかん

第９回　てんかん
【Key Word】

てんかん、全般発作、部分発作

【授業概要】

てんかんの定義、病因、症状、分類、検査、診断、治療、予防、応急手当について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：先天性筋ジストロフィー

第１０回　先天性筋ジストロフィー
【Key Word】

遺伝性疾患、骨格筋、変性、壊死

【授業概要】

先天性筋ジストロフィーの定義、分類、症状、治療、予後等について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：胎児性アルコール症候群、胎児性水俣病

第１１回　胎児性アルコール症候群、水俣病
【Key Word】

アルコールの摂取、有機水銀中毒

【授業概要】

胎児性アルコール症候群・胎児性水俣病の定義、疫学、原因、症状、検査、診断、治療、予防について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：発達障害総論

第１２回　発達障害
【Key Word】

発達障害、自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害

【授業概要】

発達障害の定義、疫学、原因、分類、症状、治療等について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）乳幼児期～学童期

第１３回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）　乳幼児期
【Key Word】

心理発達、認知特性

【授業概要】
乳幼児期から学童期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：思春期から成人期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性

第１４回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（２）　思春期・青年期～成人期
【Key Word】

思春期、青年期、成人期

【授業概要】

	思春期・青年期～成人期における知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。 【教科書ページ】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 第１５回　まとめ 【Key Word】 知的障害児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ知的障害児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（100%）
教科書	なし
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　肢体不自由者の心理・生理・病理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、肢体不自由児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①肢体不自由をきたす疾患および障がい者（児）を取り巻く状況について説明することができる。 ②運動発達と認知発達の関係、肢体不自由者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。特別支援学校教諭として必要な医学知識と障がい者（児）の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション

【Key Word】
肢体不自由、二次障害、障害の受容

【授業概要】

肢体不自由者の概念、小児の肢体不自由の原因・特徴、二次障害、障害の受容について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１～１０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　ｐ１３～３１

第２回　脳性麻痺

【Key Word】

脳性麻痺、周産期

【授業概要】

脳性麻痺の概念、原因、分類、症状、診断、合併症、治療、予後等について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１３～３１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　ｐ３３～４２

第３回　二分脊椎

【Key Word】

二分脊椎、中枢神経系の奇形、合併障害

【授業概要】

二分脊椎の定義、疫学、原因、分類、症状、治療、予防等について学ぶ。

【教科書ページ】

	p３３～４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p４３～５１
第４回	筋ジストロフィー 【Key Word】 筋ジストロフィー、遺伝性、登はん性起立 【授業概要】 筋ジストロフィーの定義、分類、症状、診断、治療等について学ぶ。 【教科書ページ】 p４１～５１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p５３～５９
第５回	ペルテス病 【Key Word】 股関節、壊死、装具、手術 【授業概要】 ペルテス病の概念、疫学、症状、診断、治療、予後について学ぶ。 【教科書ページ】 p５３～５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p６１～７０
第６回	骨系統疾患 【Key Word】 軟骨無形成症、骨形成不全症 【授業概要】 軟骨無形成症、骨形成不全症の概念、原因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ】 p６１～７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p７１～７９
第７回	手足の先天奇形 【Key Word】 手の先天奇形、足の先天奇形 【授業概要】 多指症、合指症、母指形成不全、裂手、先天性切断、分娩麻痺、先天性内反足等について学ぶ。 【教科書ページ】 p７１～７９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p８１～８５
第８回	先天性多発性関節拘縮症 【Key Word】 関節拘縮症、先天性、多発性、非進行性 【授業概要】 先天性多発性関節拘縮症の定義、病因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ】 p８１～８５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p８７～９１
第９回	ダウン症の整形外科の合併症 【Key Word】

関節弛緩性、環軸椎亜脱臼、膝蓋骨脱臼、股関節脱臼、外反扁平足

【授業概要】

ダウン症の整形外科的合併症の発症率、症状、治療について学ぶ。

【教科書ページ】

p８７～９５

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p９７～１０４

第１０回　先天性股関節脱臼

【Key Word】
脱臼、亜脱臼、臼蓋形成不全

【授業概要】
先天性股関節脱臼の原因、症状、治療について学ぶ。

【教科書ページ】

p９７～１０４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１０５～１３７

第１１回　リハビリテーション

【Key Word】

リハビリテーション、ADL、QOL、ノーマライゼーション

【授業概要】

リハビリテーションの定義、内容、ADLとQOLの定義、リハビリテーションの目標について学ぶ。

【教科書ページ】

p１０５～１４４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１４５～１５９

第１２回　肢体不自由者（児）の心理（１）障害の受容

【Key Word】

障害の受容、受容の過程

【授業概要】

肢体不自由児の障害の告知・受容・支援について学ぶ。

【教科書ページ】

p８～１１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１６１～１６５

第１３回　肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制

【Key Word】

適応、適応規制

【授業概要】

肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制について学ぶ。

【教科書ページ】

資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p　２２５～２３６

第１４回　肢体不自由者（児）の心理（３）心理的な支援

【Key Word】

エンパワーメント、自己決定力

【授業概要】

肢体不自由児、保護者への援助の基本姿勢、具体化する援助法について学ぶ。

【教科書ページ】

	p２２５～２３６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 第１５回　まとめ 【Key Word】 肢体不自由児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ肢体不自由児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（100%）
教科書	篠田達明監修　　肢体不自由児の医療・療育・教育　　金芳堂　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　知的障害教育Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している障害児の実態を考慮しながら、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習内容が理解できる。個々の障害児に合った学習法について考察できる。 【到達目標】 　①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子が理解できる。 　②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。 　③特別支援教育の学習の方法が理解できる。
授業の概要	知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに、知的障害児には難しいといわれている教科的な学習についても、その実践事例を通して理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することにより知的障害教育の支援の方法を知る。今後の知的障害教育の在り方についても考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　知的障害教育1の復習（教育課程　領域・教科別の指導他） 【key words】 　知的障害教育　知的障害児の特徴　各教科　教科別の指導　領域別の指導 【授業概要】 　知的障害児について知的障害教育Ⅰで学んだことを復習する。知的障害とは？ 知的障害児の特徴につい　て、知的障害の歴史。　知的障害児の学習について、教科、領域別の指導　等。 【教科書ページ・参考文献】 　資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　領域・教科を合わせた指導について復習しておくこと。 第２回　知的障害教育Ⅰの復習（領域・教科を合わせた指導他） 【key words】 　日常生活の指導　遊びの学習　生活単元学習　作業学習 【授業概要】 　領域・教科を合わせた指導の歴史　それぞれの指導形態について復習　現場で行われている指導と課題について話し合う 【教科書ページ・参考文献】 　前回配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　アヴェロンの野生児の資料配付、次回までに読んでおくこと。 第３回　知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①　捕らえられた野生児の様子 【key words】 　観察された行動　動物との比較　人間性とは 【授業概要】 　観察された野生児の様子をどう見るか　当時の人の考え方　野生児に見られる変化等を資料から読み取り考察する。　イタールの指導方針と野生児の対応について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 　配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】

今回の復習・整理をし、次回使用の資料に目を通しておく。

第４回　「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②　人間の社会に入れられた野生児、野生児の変化

【key words】
野生児の変化　　人との係わり方　　イタールの指導

【授業概要】
野生児に対して試みたイタールの指導について資料から読み取り考察する。イタールの指導、野生児の対応について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「アヴェロンの野生児」について復習。「アヴェロンの野生児」について感想文を提出する。次回のテキストｐｐ２７－３５を読んでおくこと。

第５回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法①（教材とは、日常生活行動の学習）

【key words】
日常生活行動　　学習の見通し　　学習の区切り　　自発の尊重　　見るということ　　教材の役割

【授業概要】
学習とは？学習の見通しとは？子どもの現状保障とは？教材の果たす役割などなど　基本的なことからを説明し重要なことであることを知る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ２７－３５　　配付資料、参考になる書物等紹介

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次に学ぶテキスト（ｐｐ３５－５９）を読んでおく。

第６回　知的障害児の教材・教具について参観

【key words】
教材・教具　　自作教材　　学習するということ

【授業概要】
今後の学習に関係する知的障害児の学習場面の様子を見学するか、もしくは知的障害児の学習場面で使用している教材・教具を手にとって学ぶ。授業に関係する学習方法と知的障害児との係わり、子どもと教材との　係わり、教材に対する工夫の仕方など実際の場面を通して考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料、参考になる書物等紹介

【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観を通して次回以降に行う授業との係わりについて、見通しをつける。参観の感想文を提出する。

第７回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法②（初期学習、課題学習）

【key words】
目と手の使い方　　初期学習　　教材・教具　　自作教材　　自発行動　　考えるということ

【授業概要】
学習に必要な条件が整うことの大切さ、学習を前進させるための基礎的な課題（初期学習）について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、３６ー５９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習（ｐ５９～ｐ７４）を読んでおく

第８回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法③（概念行動の学習）

【key words】
位置　　順序　　形　　概念行動　　棒指し　　目と手の協応

【授業概要】
様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が次のステップに行う学習とはどのようなものがあるのか、概観的に知る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５９ー７４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（ｐ７４～ｐ８９）を読んでおく

第９回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法④（見本合わせの学習）

【key words】
見本合わせ　　宝探し　　遅延見本合わせ　ことば　　型はめ　　形の分類　　形の分解と合成

【授業概要】
学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習となるまでの一連の流れを理解し、初期学習の重要性について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、７４ー８９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（ｐ８９～ｐ１０３）を読んでおく

第１０回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑤（記号操作の学習）

【key words】
大小　　比較　　文字の重ね合わせ　　形の構成　　位置の記号化　　方向　　目と手の使い方

【授業概要】
そもそも教材とはどのようなものか、なぜ大切なのか？また、概念行動とは何なのか等、文字学習に至る前におこなう学習の内容について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ８９－１０３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習

第１１回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑥（絵と実物　　文字と単語の学習）

【key words】
見本合わせ　　文字と文字　　絵と文字　　絵と単語　　５０音表

【授業概要】

	教材の確認　　教材の工夫　　概念行動について　　物には名前があること等を具体的に検討する 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ１０３ー１１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶテキスト（ｐｐ１１３ー１２７）を読んでおく 第１２回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑦（文書と数の学習） 【key words】 数の系列化　　順序数と集合数　　３と５までの分解合成　　属性 【授業概要】 学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習に繋がることまでの一連の流れを理解し、基礎の学習の重要性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp１１３-１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶテキスト（ｐｐ１２７ー１４４）を読んでおく 第１３回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑧（ことば・文字・数の基礎学習） 【key words】 文の構成と計算　　お金の計算　　お金のそろばん　　足し算　　引き算　　文章問題 【授業概要】 様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が行う学習とはどのようなものであるのか、今まで学んできたことを積み重ねて整理する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ１２７ー１４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ箇所（テキストｐｐ、７－２６）を読んでおく 第１４回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑨（基礎学習、概念行動形成の学習、記号操作の学習） 【key words】 基礎学習　　コミュニケーション　　概念行動形成の学習　　記号操作学習 【授業概要】 今まで学習してきた知的障害教育について復習し、整理、まとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ７～２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と整理。　今までのテキストの中から「障害児の指導」に関して自分なりの考え方をまとめ提出する。 第１５回　知的障害児の教育の可能性と学習法、今後の展望について 【key words】 知的障害　　教科　　生活単元　　個に応じた教育 【授業概要】 知的障害児の学習や教育課程について検討してきたことを、テキストや資料を通してふり返る。知的障害児の学習は可能か、出来ない原因は何かなど話合いを通して考察する。自分なりの考えをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト　　今までの配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストと配付資料のまとめ。
受講生に関わる情報および受講のルール	①知的障害児を指導している現場の視察、もしくは実際に使用している教材・教具の見学を計画予定。 ②進捗状況によって講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。 ③予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に必ず熟読すること。 ④授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ⑤授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か教材・教具のあるところを参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表（内容、適切さ）４０％ ②筆記試験（正確性、客観性、論述）６０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材づくりと学習法」　明治図書　２００６
参考書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞国語・算数の基礎学習と指導の実際」　明治図書　２００７　他プリント配付をする
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の実践を通して、障がい児の様々な問題を広い視野から講じます。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　肢体不自由教育Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　肢体不自由教育の実際を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の実践的知識、技能を獲得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育の実践に関する教育・心理・生理、福祉等について概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、医療的ケア、食事指導、排泄指導
	第２回	呼吸障害と姿勢づくり、ポジショニングと変形・側弯
	第３回	発作の理解と対応、外部専門家との連携、教育課程の基準と学習指導要領
	第４回	教育課程の原理と編成、障害特性をふまえた教科指導、体育の指導
	第５回	肢体不自由者と各教科等を合わせた指導、自立と社会参加を目指す総合的な学習の時間、高等部卒業後の進路
	第６回	進路指導、キャリア教育、自立活動とは
	第７回	自立活動の指導と個別の指導計画、身体の動きの指導、人間関係の形成の指導と評価
	第８回	コミュニケーション、チームティーチングの指導と評価、訪問教育、学習指導要領における重複障害者への対応
	第９回	肢体不自由特別支援学校の専門性、地域支援、特別支援学校教諭免許状の制度と種類、取得
	第１０回	特別支援学校教員の養成、採用、現職教員の研修、肢体不自由教育を学ぶ機会、保護者との連携
	第１１回	脳性まひへの治療と最新アプローチ、小児リハビリテ―ション、理学療法、障害者福祉関連法
	第１２回	肢体不自由者、障害児の福祉サービス、身体障害者手帳、肢体不自由者の雇用
	第１３回	障害者の権利擁護、障害者権利条約、肢体不自由児とインクルーシブ教育、肢体不自由教育における合理的配慮
	第１４回	就学前の肢体不自由教育・療育、交流及び共同学習
	第１５回	地域生活と余暇活動、肢体不自由者と家族、肢体不自由者関連団体

受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発言等）　　定期試験
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　2017　ミネルヴア書房
参考書	-
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（算数）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小学校の教材に即した指導方法を実践的に深め、指導案を作成して模擬授業ができるようにする。さらに算数教師としての必要な数学的知識・技能の習得を通して、教員採用試験の数学問題に対応できる能力を向上させることを目的とする。 〔到達目標〕 ①指導要領改訂期にあり、現行と新指導要領の改訂ポイントをつかむみ、算数指導に役立てることができる。 ②小学校学習指導要領（算数）の解説書を活用して教材研究ができる。 ③学習指導案の作成の仕方を理解し、模擬授業のための指導案が作成できる。 ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、わかる授業を行うための創意工夫の仕方がわかる。
授業の概要	授業前半は指導要領の学年別目標の理解と、領域別の指導内容の理解を深め、教科書・教材等を具体的に究明する。これらの成果を生かして、後半は指導案作成と模擬授業を実施し、相互に授業分析等を通して小学校教師としての算数指導力を磨きあう。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①指導要領改訂期にあり、現行と新指導要領の改訂ポイントをつかむみ、算数指導に役立てることができる。	◎		○	○
②小学校学習指導要領（算数）の解説書を活用して教材研究ができる	◎			
③学習指導案の作成の仕方を理解し、模擬授業のための指導案が作成できる	◎	○		○
④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、わかる授業を行うための創意工夫の仕方がわかる。	◎	○	○	
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　講義・演習　オリエンテーション（到達目標と授業概要、評価方法等） 【授業概要】 小学校指導要領　算数 学年別目標と新指導要領改訂内容、30回分のシラバス確認、小学校算数の基礎（必要な用具、ノート作成、授業のルール、図の活用、ICT活用）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 シラバス確認、授業のルール 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 第２回　講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容 【授業概要】 講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】

【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）

第３回　講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容

【授業概要】
講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
新指導要領改訂内容、授業方法を深めるための教材研究の仕方
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）

第４回　講義・演習　第１・２学年の「数と計算」

【授業概要】
講義・演習　第１・２学年の「数と計算」の領域内容を理解する。１対１対応、数図ブロックと数図、集合数・順序数、数の合成・分解、加法・減法、求差、求減、求部分等の理解と指導に活用する方法、十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、乗法の意味、乗法九九のＡＶ（アクティブラーニング）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第５回　講義・演習　第３・４学年の「数と計算」

【授業概要】
講義・演習　第３・４学年の「数と計算」の領域内容を理解する。万の単位の記数法、数の相対的な大きさ、３位数・４位数の加法減法、乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則、除法の筆算、等分除・包含除、小数の仕組み、分数の仕組み、算盤について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則,等分除・包含除
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第６回　講義・演習　第５・６学年の「数と計算」

【授業概要】
講義・演習　第５・６学年の「数と計算」の領域内容を理解する。偶数・奇数、約数・倍数、整数と小数の十進位取り記数法、少数の乗法・除法、分数の意味、通分・約分、分数の加法-・減法、分数の乗法・除法、文字式、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
少数の乗法・除法,通分・約分
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第７回　講義・演習　第１・２学年の「図形」

【授業概要】
講義・演習　第１・２学年の「図形」　ものの形、図形の構成分解、三角形や四角形、正方形、長方形直角三角形、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
図形の構成分解
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第８回　講義・演習　第３・４学年の「図形」

【授業概要】
講義・演習　第３・４学年の「図形」二等辺三角形、正三角形、操作活動、コンパスによる作図、平行四辺形、ひし形、台形、立方体、直方体、見取り図、展開図　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
操作活動,見取り図、展開図
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第９回　講義・演習　第５・６学年の「図形」

【授業概要】
講義・演習　第５・６学年の「図形」　平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積、立体図形の体積、縮図、拡大図、対称な図形、円の面積、角柱や円柱の体積について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積
【教科書ページ・参考文献】
小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書

第１０回　講義・演習　第１・２学年の「測定」

【授業概要】
講義・演習　第１・２学年の「測定」量の大きさの直接比較・間接比較、絵や図を用いた数量の表現
長さやかさの単位と測定、時間の単位、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ
【Key　words】
直接比較・間接比較,長さやかさの単位と測定、時間の単位
【教科書ページ・参考文献】

		小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１１回	講義・演習　第３第３学年「測定」・４学年「変化と関係」 【授業概要】 講義・演習　第３学年「測定」長さ重さの単位と測定、時刻と時間、 ４学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量、簡単な場合についての割合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 時刻と時間,簡単な場合についての割合、 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１２回	講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」 【授業概要】 講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量の関係・比例、異種の2つの量の割合、割合、比例、反比例、比、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 割合、比例、反比例、比、 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１３回	講義・演習　第１・２学年の「数量関係」 【授業概要】 講義・演習　第１・２学年の「データの活用」絵や図を用いた数量の表現、簡単な表やグラフを読む力について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１４回	講義・演習　第３・４学年の「データの活用」 【授業概要】 講義・演習　第３・４学年の「データの活用」表と棒グラフ、データの分類整理、統計データの特徴を読み取り判断することについて理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 データの分類整理、統計データの特徴 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１５回	講義・演習　第５・６学年の「データの活用」 【授業概要】 講義・演習　第５・６学年の「データの活用」円グラフや帯グラフ、測定値の平均、データの考察、起こりうる場合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【Key　words】 測定値の平均、データの考察、起こりうる場合 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１６回	後半授業オリエンテーション　模擬授業（師範授業） 【授業概要】 後半授業オリエンテーション　模擬授業（示範授業）指導案の実際、単元構想の実際、展開例、予測される発言についてつかむ 【Key　words】 指導案の実際、単元構想の実際 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１７回	模擬授業の分担計画と指導案作成準備 【授業概要】 模擬授業の分担計画と指導案作成準備 【Key　words】 指導案の構成要素 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１８回	指導案作成の実際　１ 【授業概要】 指導案作成の実際　１　１年から６年まで領域別に担当グループを作り単元構想、指導案作成 【Key　words】 単元構想 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
	第１９回	指導案作成の実際　２ 【授業概要】 指導案作成の実際　２　学習評価の方法を踏まえて、実際に指導案を作成し、グループごとに事前検討会を行う 【Key　words】 評価の方法 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検

	定済み教科書 第２０回　指導案作成の実際　３ 【授業概要】 指導案作成の実際　３　事前検討会を経て、指導案を完成させる 【Key　words】 事前検討会の方法 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２１回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１ 【授業概要】 「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２２回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２ 【授業概要】 「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２３回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開１ 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２４回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開２ 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２５回　「図形」領域に関する模擬授業の展開１ 【授業概要】 「測定」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２６回　「図形」領域に関する模擬授業の展開２ 【授業概要】 「変化と関係」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２７回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開１ 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２８回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開２ 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第２９回　模擬授業の分析、指導案の改善 【授業概要】 模擬授業の分析、指導案の改善 【Key　words】 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 第３０回　指導案、ノート、模擬授業の反省等の提出 【授業概要】 １年間のまとめ（特に模擬授業や教材研究について振り返り、成果と課題について、学生間で意見交換を行う。） 【Key　words】
受講生に関わる情報	〔受講生に関わる情報〕

および受講のルール	授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験に関する資料を配布するので、試験対策も併行して行うこと。 ・模擬授業実施に当たっては先輩模擬授業を参考にすること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。
評価方法	・授業ノート（板書・問題解答）をレポートとする。４０％ ・模擬授業の充実度（指導案、教材準備、授業態度、発問等の指導力）３０％ ・授業への積極性３０％
教科書	・小学校学習指導要領解説　算数編 ・文部省検定済教科書　模擬授業実施学年のものは各自購入する（分担が決まったら一括購入します） ・文部科学省平成２９年度告示準拠「小学校指導要領解説　算数遍」東洋出版社 小学校児童用教科書「あたらしい算数　１年上下、２年上下、３年上下、４年上下、５年上下、６年上下」
参考書	新指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 廣田敬一著「算数の基礎基本を楽しく学べる授業」（教育出版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教員（担任）として１５年、中学校数学教師として４年、管理職として１０年、市教育委員会学校教育課長として３年など小学校及び中学校数学教育に携わり、退職後は市教育研究研究所所長として教員研修にも深くかかわった。また、社会教育に１０年携わり、とりわけ青少年の健全育成の施策振興を主に担当した。 実務経験を活かし、示範授業も十分取り入れ、体験的に授業指導法を学ぶ機会とし、指導案を作成方法し、学生各自模擬授業が実践できるようにする。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（体育）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導について必要な知識･技能を学び、実践できることを目的とする。、 【到達目標】 ①心と体を一体として捉え、運動や健康･安全についての理解ができる。 ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的にできる。 ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。
授業の概要	基本の運動、ゲーム、体つくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法） 小学校教科教育法（体育）とは 【key words】教育　体育 【授業概要】科目の位置づけとシラバスの説明。初等科体育改訂経緯、趣旨、要点の説明、体育の概念、総則と体育、スポーツ基本法と学校体育等の概要を通じて初等科体育の目的について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ1～ｐ5 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体ほぐし運動」について学習しておく。
	第２回	体つくり運動①（体ほぐし運動）　体ほぐし運動のねらい、運動の具体例 【key words】体を動かす楽しさ　心地よさ 【授業概要】手軽な運動や律動的な運動（のびのびとした運動、リズムに乗った運動、ペアでのストレッチ運動、伝承遊びや集団での運動遊び等）を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分の体の状態に気づき、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ12,13､23、40、62 【課題・予習・復習・授業準備指示】「多様な動きをつくる運動」について学習しておく。
	第３回	体つくり運動②（多様な動きをつくる運動）　多様な動きをつくる運動のねらい、運動の具体例 【key words】バランス　移動　操作　力試し 【授業概要】体のバランスをとったり（姿勢や方向を変えておこなう運動）、移動をしたりする動き（速さ、リズム、方向を変えて体を移動する運動）や、用具を操作したり（用具を掴んだり、くぐりぬけたりする運動）力試しをしたり（人を押す、引く、運ぶ、支える運動）する動きを、意図的に育む運動遊びを通じて、体の基本的な動きを総合的に身につけることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ24､41、 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体力を高める運動」について学習しておく。
	第４回	体つくり運動③（体力を高める運動）　体力を高める運動のねらい、運動の具体例 【key words】　体力　力試し　持続性 【授業概要】「多様な動きをつくる運動」で身につけた動きや動きの組み合わせを基に、体力の必要性や体力を高めるための運動（体の巧みな動き、力強い動きや持続する能力を他かむる動きの運動）のおこない方を理解し、自己の体力に応じて体力つくりが実践できることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ62-p63 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」についてまとめておく。
	第５回	体つくり運動④（体つくり運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究

【key words】　体つくり運動　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】体つくり運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になる、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ86-p90
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（マット運動）」について学習しておく。

第６回　器械運動①（マット運動）　マット運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　回転　腕支持　倒立　バランス
【授業概要】ゆりかご、前転、後転、側転などマットを使用した運動を学ぶ中で、前転では、背支持倒立の練習を活かした大きな回転へ、後転では腰の持ち上げ、両手の押しを意識させ、側転では、下を見ての支持での回転と倒立との関連など発展した技術への段階的指導を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ28,44,65
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（鉄棒運動）」について学習しておく。

第７回　器械運動②（鉄棒運動）　鉄棒運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　振動　腕支持　回転
【授業概要】前方回転、後方回転、こうもり、逆上がり等鉄棒での回転、支持した運動を学ぶ。前方回転では、前まわりおり、抱え込みまわり、後方回転では、足ぬきまわり、逆上がり、後方膝かけ後転、こうもりでは、足ぬき回り、膝掛け下がり振りを学び、関連する発展した技術の段階的指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ28,45,66
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（跳び箱運動）」について学習しておく。

第８回　器械運動③（跳び箱運動）　跳び箱運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】踏切　支持　着地　回転　切り返し
【授業概要】またぎ越しや台上前転、はね跳び等、跳び箱を飛び越す運動を学ぶ。またぎ越しでは、馬跳び、ウサギ跳びなどの習熟から開脚跳び、台上前転、跳ね跳びでは、重ねたマットでの前転から台上前転や跳ね跳びへの発展など関連した技術の段階指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ16-17、28、67
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」についてまとめておく。

第９回　器械運動④（器械運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】　器械運動　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】器械運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（走の運動）」について学習しておく。

第１０回　陸上運動①（走の運動）　短距離･リレーの指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　リズム　フォーム　ダッシュ　記録　達成感
【授業概要】かけっこ、リレー、では調子よく走り、一定の距離を全力で、リズミカルに走ることを学ぶ。また、走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競走したり、自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら一定の距離を全力で走ることや、計測、スタートの指導方法も習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ30,47、69
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（跳の運動）について学習しておく。

第１１回　陸上運動②（跳の運動）　幅跳び・ハードル走の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　リズム　フォーム　ハードル　記録　達成感
【授業概要】インターバルの距離やハードルの台数などのルールを定めて競走したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら、ハードルをリズミカルに走り越えることを学ぶ。また、計測やスタートの指導方法もあわせて習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ30、48、70
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」についてまとめておく。

第１２回　陸上運動③（陸上運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】　陸上運動　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】陸上運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。

第１３回　水泳①（基本の動き、水遊び、浮き・泳ぎ運動）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　水慣れ　キック（ばた足、かえる足）　呼吸　クロール　平泳ぎ　安全
【授業概要】　基本の動き（顔つけ、ばた足）水遊び（水に慣れる遊び、浮く・もぐる遊び）浮く･泳ぐ運動（ビート板浮き、けのび、補助具を使用したばた足、かえる足、めんかぶりクロール等）の初歩的な運動をおこない、クロール、平泳ぎへと繋げていく段階的指導のポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ31,32
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（基礎泳法）」について学習しておく。

第１４回　水泳②（基礎泳法：クロール・平泳ぎ）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　キック（ばた足、かえる足）、呼吸、クロール、平泳ぎ、プル
【授業概要】クロールでは、呼吸を効率的におこなえるよう、横向き呼吸を取り入れたばた足（ビート板使用）を学び、フォームつくりではローリングの姿勢が自然とできるように泳ぐことを習得する。平泳ぎでは、かえる足の構えや動きを段階的に指導することを学び、「キック・伸び・呼吸」のリズムを習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ49、50
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（応用泳法）」について学習しておく。

第１５回　水泳③（応用泳法：背泳・ターン・飛込み）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　クロール　平泳ぎ　遠泳

【授業概要】クロールでは、ばた足、プル、伸びをリズミカルに取り入れて、続けて長く泳ぐことを目標とする。また、平泳ぎも、キック、伏し浮き、プル、呼吸をリズミカルに行い、続けて長く泳ぐことを目標とする。心地よく泳いだり、距離を伸ばしたりすることに楽しさや達成感を味わうことを体得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説 p 71,72
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」についてまとめておく。

第１６回　水泳④（水泳の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】　水泳　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】水泳を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ゴール型）」について学習しておく。

第１７回　ボール運動①（ゴール型：バスケットボール、サッカー）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ゴール型
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、コート内で攻守が入り混じり、ボールを手や足で操作したり、あいている場所にすばやく動いたりして攻防を組み立て、ゴールにシュートしたり、陣地を取り合って得点を競うゲームをおこなう。ポートボール、ミニサッカー、ミニバスケットのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 33、51、73
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ネット型）」について学習しておく。

第１８回　ボール運動②（ネット型：バレーボール、バドミントン）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ネット型
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立てながら、自軍から相手コートに向かって相手の取りにくいようなボールを返し、得点を競うゲームをおこなう。ソフトバレーボールのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 34,52、74
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ベースボール型）」について学習しておく。

第１９回　ボール運動③（ベースボール型：ソフトボール）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ベースボール型
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、攻守で規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競うゲームをおこなう。三角ベースのコートで、柔らかいボールを打つ簡易ベースボールの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 53
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」についてまとめておく。

第２０回　ボール運動④（ボール運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】　ボール運動　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】ボール運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】各グループ作成の指導案
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動（表現・リズム）」について学習しておく。

第２１回　表現運動①（表現とリズム運動：模倣、表現）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊か
【授業概要】身近にある題材や空想の世界をイメージしながら動きを表現する「表現」や、軽快なリズム感にあわせて全身で踊ったり、友達と自由にかかわりあって楽しく踊る「リズムダンス」を学ぶ。また、「表現遊び、表現リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、表現運動につながる即興的な身体表現能力やリズムにのって踊る能力、コミュニケーション能力などを習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 35,53、75
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動」についてまとめておく。

第２２回　表現運動②（表現運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】　表現運動　指導計画　教材　展開　まとめ
【授業概要】表現運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学校実技で実施した教材」についてまとめておく。

第２３回　小学校実技教材・教具の研究とまとめ
【key words】　体つくり　教材　教具　工夫
【授業概要】小学校体育で実技に使用する教材・用具を、低学年、中学年、高学年に分けて、どのように教材・教具として使用すればより効果的な授業展開ができるかを学び、各運動指導の中で効果的な使用方法や工夫の方法をグループワークで研究して発表する。また、その教材の指導方法も合わせて習得する。ＤＶＤ健康･体力づくり視聴覚教材「みんなで楽しく健康つくり」を活用する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：エクササイズでコミュニケーション（健康･体力づくり事業財団）
【課題・予習・復習・授業準備指示】「準備運動」について学習しておく。

第２４回　課題研究①（準備運動の作成：テーマの設定、事例紹介）
【key words】　教材　運動　安全
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）

	【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について、各自テーマを設定して内容をまとめておく。 第２５回　課題研究②（準備運動の作成：ねらい、目的、内容、まとめの計画作成） 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。 第２６回　課題研究③（準備運動の作成：各動きのポイント映写、ＰＰの作成） 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果そして指導方法をわまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成して、発表する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。 第２７回　課題研究④（準備運動の作成：ＰＰの作成、作品のレポート作成） 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成する。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。 第２８回　課題研究⑤（研究発表と評価：前半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】「課題発表方法について」についてまとめておく。 第２９回　課題研究⑥（研究発表と評価：後半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究発表を通じて、効果的な準備運動についてまとめておく。 第３０回　まとめ 【key words】　学校　児童　体育　スポーツ　健康 【授業概要】小学校教科教育法（体育）の目的・内容を確認するとともに、教育現場でどのように実践しているかをテーマとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）ｐ99～109 【課題・予習・復習・授業準備指示】まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・実技の実践的な学習と模擬授業および指導研究をおこなう。 ・課題研究（作品制作と研究発表）はＣＤに収録する。 ・運動着、運動靴の準備、実技でもメモ用紙は準備する。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具等の準備をおこなう。教材の整理･整頓、会場の清掃は全員で協力する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施し、野外活動やプール指導等でこども達の状況を理解しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望する学生はアポイントをいただきたい。
評価方法	筆記試験･レポート試験（50%）　実技試験（50%）　総合評価とする
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説（体育編）：東洋館出版社：平成29年　高島二郎：小学校体育：玉川大学出版：平成29年
参考書	下山伸二：体育の教科書：山と渓谷社：平成23年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校教職（保健体育科教諭…管理職）、体育・スポーツ行政（教育委員会）、障がい者スポーツ（県障害福祉課、社会福祉課、保健福祉課）等の指導経験（延べ52年）を元に指導を行っている。

	アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。 ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。 ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	1　学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。 2　現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。 3　模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解①（意義と目的、３年次・４年次の流れ）、実習アンケート、実習書類の確認１ 【key words】 シラバスの概要、教育実習の意義と目的、履修の資格者、教育実習の実施 【授業概要】 ①全30回の概要を知る。 ②「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の意義と目的、実習履修の資格者、具体的な教育実習の実施（教育実習前・教育実習中・教育実習後）について、理解する。 ③母校への教育実習依頼の事務の流れについて理解する。（教委一括依頼<前橋市・桐生市・伊勢崎市・みどり市等>には注意する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第２回	教育実習の理解②（実習オリエンテーション）、観察実習について（前橋市立大利根小学校にて５・６月実施）、実習アンケートの結果、実習書類の確認２、履修カルテの記入 【key words】 教育実習の心得、観察実習、教員採用試験 【授業概要】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、実習の心得について理解する。実習事務の進行について確認する。 ②「実習へのガイドブック」を活用し、観察実習の実施や心得について、理解する。 ③教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。〃 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第３回　小学校教師の基礎基本①（諸注意【SNS,体罰、守秘義務】、児童の心身の発達、教師の一日）

【key words】
個人情報、児童の発達段階、観察実習

【授業概要】
①教員の体験談より、個人情報、児童の発達段階について理解する。
②観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
③実習事務の進行について確認する。
④受験自治体の一般教養について調べる。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第４回　小学校教師の基礎基本②（職員・保護者とのコミュニケーション）、実習書類の確認、観察実習に向けての諸注意

【key words】
学習指導案の作成、コミュニケーション力、観察実習

【授業概要】
①「実習へのガイドブック」を活用し、学習指導案作成の意義、作成方法について理解する。実習事務の進行につ　いて確認する。
②教員の体験談より、職員や保護者とのコミュニケーションについて話し合う。
③観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
④大学推薦について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第５回　観察実習の実施①（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～３校時、休み時間の参観と参加）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
″①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。″

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第６回　観察実習の実施②（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～３校時、休み時間の参観と参加）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

″「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。″

第７回　観察実習の実施③（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～３校時、休み時間の参観と参加）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第８回　観察実習の実施④（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～３校時、休み時間の参観と参加）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第９回　観察実習の実施⑤（前橋市立小学校　高学年：朝の会・朝行事・第１～３校時、休み時間、特別支援教育について）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１０回　観察実習の実施⑥（前橋市立小学校　実習中の本学４年生による研究授業の参観及び授業研究会）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１１回　観察実習の報告会①（うまくいったこと・課題等５名が発表）

【key words】
授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に高年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〝「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「観察実習報告書」を作成し、次回報告できるよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。〞

第１２回　観察実習の報告会②（うまくいったこと・課題等５名が発表）
【key words】
観察実習の省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〝「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「観察実習報告書」を作成し、次回報告できるよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。〞

第１３回　観察実習の振り返り（観察実習記録の提出、振り返りアンケート等）、教育実習の理解③（書類の確認、実習校の理解）
【key words】
観察実習の省察

【授業概要】
①観察実習記録や観察実習アンケートに記入する。
②本実習をする学校について調べる。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「実習へのガイドブック」を熟読するよう指示。自己受験自治体の過去問を解くよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１４回　学習指導と生活指導①（具体的な場面、「忘れ物」「学校のきまり」「安全指導」）
【key words】
学習指導、生活指導

【授業概要】
①採用試験での面接（場面指導）をとりあげる。
②教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「学習指導要領及び解説」を熟読するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１５回　学習指導と生活指導②（学級経営、「友達のよさを認め合う活動」「休み時間の大切さ」「発達障害」）
【key words】
学習指導、生活指導、学級経営

【授業概要】
①学級経営の実践例（友達のよさを認める活動）を知る。
②採用試験での面接（学級経営）をとりあげる。
③教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年

・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
″夏休みの学習計画に基づき、教員採用試験合格に向け学習するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。″

第１６回　教育実習を迎えるにあたって①（悩みや不安の軽減、コミュニケーション能力）
【key words】
教育実習への不安や悩み

【授業概要】
①教育実習への不安や悩みについて話し合い、軽減または解決を図る。
②児童に伝わる話し方について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１７回　模擬授業①、授業研究会（道徳Ｔ・Ｔ「１年　はしの　うえの　おおかみ」　授業者は代表学生２名）、特別な教科としての道徳
【key words】
模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「小学校学習指導要領解説、道徳編（東洋館出版社）」を熟読するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１８回　教育実習を迎えるにあたって②（学校組織、学級経営）
【key words】
学校組織、学級経営

【授業概要】
①教職員名簿、学校組織図より、職名・主任・委員会等学校組織について理解する。
②「学級だより」「学級経営案」より学級経営について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学級経営についてまとめるよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第１９回　模擬授業②、授業研究会（音楽Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）
【key words】
音楽授業、Ｔ・Ｔ

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２０回　教育実習を迎えるにあたって③（４年生の先輩からの教育実習体験を聞く。）
【key words】
教育実習、悩み、不安

【授業概要】
①実習を終えた先輩の悩みや不安、解消方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、

・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
『実習へのガイドブック』を熟読する。
自己受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を補強するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２１回　模擬授業③、授業研究会（英語科Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）
【key words】
英語科授業、Ｔ・Ｔ

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
『実習へのガイドブック』を熟読する。
自己受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を補強するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２２回　教育実習を迎えるにあたって④（４年先輩の教育実習報告。１～４初等教育コース年合同）
【key words】
教育実習、悩み、不安

【授業概要】
①１～３年初等教育コースの学生が、４年生初等教育コースの実習報告を聞く。
②１～４年生の混合班で、意見交換をする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬試験に備え特に教職教養の復習をすることを指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２３回　教員採用模擬試験（事前学習、事後学習を行い、教員採用試験について理解するとともに自己課題を見つける。）
【key words】
模擬試験①

【授業概要】
①模擬試験を受けさせ、自己の課題に気付かせ、課題解決を図るようにする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬試験の自己採点を行い、弱点を補強するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２４回　小学校現場の先輩教師による講話（本学既卒、初任者に、志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場一年目の様子を話してもらう。１～４初等教育コース年合同）
【key words】
教育実習、褒め方・叱り方

【授業概要】
①本学卒の現場教員の体験談を聞く。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬試験の自己採点を行い、弱点を補強するよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２５回　教育実習を迎えるにあたって⑤（生活指導、具体的な場面での指導を協議する。）
【key words】
生活指導

【授業概要】
①私語をなくす方法、忘れ物防止、整列のさせ方等、具体的な生活指導について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
友達同士で面接練習を行うよう指示。面接ノートによりよい応答を書き足していくよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２６回　校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい。１～４初等教育コース年合同）
【key words】
教員像

【授業概要】
①元校長を招へいし、求められる教員像について知る。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
友達同士で面接練習を行うよう指示。面接ノートによりよい応答を書き足していくよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２７回　教育実習を迎えるにあたって⑥（学校事故：具体的な場面での指導を協議する。）
【key words】
危機管理

【授業概要】
①学校内、通学路での危機管理の実践例を知る。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
友達同士で面接練習を行うよう指示。面接ノートによりよい応答を書き足していくよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２８回　教育実習を迎えるにあたって⑦（実習に必要な教育法令、憲法・教育基本法・学校教育法・地方公務員法等を学ぶ。）
【key words】
教育法令

【授業概要】
①教育実習、教員採用試験に必要な教育法令について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
友達同士で面接練習を行うよう指示。面接ノートによりよい応答を書き足していくよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第２９回　教員採用試験合格者体験談（合格した４年先輩からの体験談を聞く。１～４初等教育コース年合同）
【key words】
教員採用試験、体験談

【授業概要】
①実際に教採に合格した４年先輩の講話を聞き、今後の学習課題を見つける。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
友達同士で面接練習を行うよう指示。面接ノートによりよい応答を書き足していくよう指示。
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

第３０回　１年のまとめ、履修カルテの記入
【key words】
教育実習、教員採用試験

【授業概要】
①面接ノートを学生同士提示し、学びあう。
②教育実習や教員採用試験の自己課題をまとめる
③履修カルテの記載。

	【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 春休みには、自己受験自治体の過去問題の総復習をするよう指示。 「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・観察実習への取り組み（３０%）、観察実習報告会（２０％）、ミニテスト（３０%）、授業への取り組み（２０％）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、教育実習生の事前事後指導を具体的かつ実践的に行う。特に、３年次５・６月には、６回程度、近隣の小学校に出向き、学習補助を行い、１年後の教育実習に備える。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学習指導と学校図書館　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に 学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。 【到達目標】1）学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2）情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。3）児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。
授業の概要	受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1）図書館および図書館員の役割・業務、2）学校図書館という館種の機能特性、3）学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4）司書教諭の役割、5）学校図書館というインフラの整備・経営、6）レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。	◎	○	○	○
②情報リテラシー育成の諸段階を具体的に述べることができる。	○	○	◎	○
③児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。	○	○	○	◎

授業計画

第１回　科目オリエンテーション　社会における図書館とは何か

【key words】
情報社会　図書館　図書館員　学校図書館　司書教諭

【授業概要】
情報社会における図書館および図書館員の役割・業務を概観し、学校図書館という館種が担う機能と司書教諭・学校司書の位置づけを理解します。

【教科書ページ・参考文献】
プリント資料、教科書pp1－11。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

館種間の機能差異をふまえた上で、学校図書館とはどのような特徴をもったところなのか、概要をまとめましょう。

第２回　学校図書館の意義・目的

【key words】
学校教育法　学校図書館法　読書センター　学習情報センター　発達段階

【授業概要】
学校図書館の意義と目的を理解し、各学年の学習指導要領；すなわち児童生徒の発達段階と連動して、学校図書館が学習指導展開に対してどのように密に関わるのかを考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp12－28。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

目的的に活発な読書センター/学習情報センターとしての学校図書館の役割を整理して下さい。

第３回　図書館活用教育と情報リテラシー教育
【key words】
図書館活用教育　情報リテラシー教育　学校図書館経営

【授業概要】
従来的な図書館教育・学校図書館利用指導から発展して、卒業後の生涯学習につながる、学び方の学びのための学校図書館活用ひいては情報リテラシーのスキル・アップを支援することについて、具体的に理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp29－55。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

図書館教育→学校図書館利用指導→学校図書館活用・情報リテラシー教育 各観点の差異をまとめて下さい。

第４回　学校図書館というインフラの整備と経営
【key words】
学校図書館基準　学校図書館の施設と設備　学校図書館資料選定　学習活動の充実

【授業概要】
教育課程の展開と実践に寄与するインフラとしての学校図書館の整備・経営について、そのハードウェア/ソフトウェア双方の有機的な関連を意識ながら、学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－245、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

よりよい学校図書館の構築・整備に関係する要因と現代的な課題を書き出してみましょう。

第５回　学習/教育活動を支援する情報サービス業務
【key words】
情報要求　情報サービス　二次資料　レファレンスプロセス　相互貸借

【授業概要】
情報サービスの種類のうち、特にレファレンスサービスについてその概要を学び、教員を含めた利用者のニーズに対応した資料・情報提供のための準備について理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業の第13回・第14回で、レファレンスサービスの演習を予定しています。それより前の時点で、演習課題が提示されますので、注意して下さい。

第６回　教科学習と学校図書館活用
【key words】
知識基盤社会　ＩＣＴ　分類法（NDC）　配架　教員間連携

【授業概要】
発達段階に即した知識修得を児童生徒に重ねさせることの前提として、調べ学習等に対応した学校図書館資料の整備と教員間の準備と連携について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp169－195。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

資料を探しやすい学校図書館とは何か、その条件要素をまとめましょう。

第７回　総合的な学習における学校図書館活用
【key words】
総合的な学習　調べ学習　問題意識の醸成

【授業概要】
総合的な学習における授業展開と学校図書館の活用の連動について理解を深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp196－214。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

領域横断的で探求的・協働的な学習に対する司書教諭としての支援のあり方を具体的に例示してみましょう。

第８回　特別支援教育における学校図書館活用
【key words】
特別な教育的ニーズ　個別の指導計画　障害特性　学校図書館サービスの工夫

【授業概要】
重複障害例も含め、特別支援教育の対象となる児童生徒の教育的ニーズを個別かつ総合的に把握し、普通教育と同質同等の学校図書館サービスを提供するために必要な工夫を認識します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp215－230。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校図書館の施設・設備、資料・メディア、活動の各々について、工夫の具体例を整理して下さい。

第９回　情報リテラシー教育の理論的背景

【key words】
情報探索過程　メタ認識　情報活用プロセス　情報リテラシー基準　司書教諭の関わりのレベル

【授業概要】
学習者の視点からの情報探索過程を概観し、目標としての児童生徒の情報リテラシー基準ならびに情報活用プロセスでの指導の基本事項を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp67－82。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報探索過程の児童生徒のニーズに沿った司書教諭の支援・指導；関わりの各水準をまとめて下さい。

第１０回　全校的組織的体系的指導　年間計画　チームティーチング　実施評価

【授業概要】
児童生徒の情報リテラシー育成にかかる全校教職員の共通理解の下で組織的体系的かつ計画的に取り組むことの重要性と教育実践後の評価の有用性について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83－103。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報リテラシー教育の計画的なチーム連携実践とそこでの司書教諭の役割をまとめて下さい。

第１１回　情報リテラシー教育の実際　1

【key words】
情報活用プロセス　情報リテラシー　情報活用スキル　問いの可視化　テーマ設定

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、テーマの設定と情報探索の計画について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp104－124。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿ったテーマ設定の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１２回　情報リテラシー教育の実際　2

【key words】
分類　目録　参考図書　情報カード　プレゼンテーション

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、情報・資料の探索・収集および活用、まとめ方や発表の方法について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp125－167。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿った資料検索とまとめ方の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１３回　レファレンスサービス各論

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回および第12回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務演習のための準備をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスを実践するための実務的な準備について確認して下さい。

第１４回　レファレンスサービス演習

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回、第12回および第13回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務の演習をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスの実務的な流れと参考資料群を確認して下さい。

	第１５回　　まとめ　司書教諭という仕事 【key words】 司書教諭の役割　教科間の連携　職員間の協働 【授業概要】 教育課程と図書館学の双方に通じている司書教諭が担う多面的な役割をまとめ、学校教育における学校図書館の意義を再確認しましょう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp264－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 司書であり教諭であることの二重性と期待される活動内容について、発展的にまとめておきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	受講学生の多くは、初めて図書館情報学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらためて通読する、ノートを見返す ことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	図書館情報学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です(本授業担当者に まずは相談して下さい)。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	堀川照代・塩谷京子　改訂新版 学習指導と学校図書館　放送大学振興協会　2016年
参考書	図書館ハンドブック編集委員会編　図書館ハンドブック　第6版補訂版　日本図書館協会　2010年 他
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （図書館司書資格を有している。） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　学校経営と学校図書館　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
井ノ口　雄久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。従業に関わるための学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。 【到達目標】 １）現行の学校教育の問題点を整理する。 ２）現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。 ３）期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。
授業の概要	学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を制度化される課程と、これからますます重要となる児童生徒の自主性を育むために、学校図書館はいかにあるべきか、また実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習 第２回　福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会 第３回　これからの学校教育とあるべき学びの形 第４回　メディアと人間の循環 第５回　学校の中の図書館 第６回　学校図書館の歴史（アメリカ） 第７回　学校図書館の歴史（日本） 第８回　日本の学校図書館の現状 第９回　学校図書館の目的と機能 第１０回　学校図書館の図書館サービス 第１１回　学校図書館の教育活動 第１２回　学校図書館の担当者 第１３回　学校図書館のマネジメント 第１４回　学校図書館の設計 第１５回　学校図書館研究と学校図書館の発展

受講生に関わる情報および受講のルール	毎回、次の講義の課題を配布する。課題に基づいて、テキストの該当部分は事前に読んで、自分なりに課題をこなし、授業に臨む。授業は、課題について、グループ学習を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。
オフィスアワー	授業後、３０分程度対応可能。また、場合によっては、場所・時間等メールにて調整するも可
評価方法	授業の参加態度（40%）、レポート提出（２回－各30%）
教科書	司書教諭テキストシリーズⅡ…０１　『学校経営と学校図書館』　中村百合子編著　２０１５　樹村房
参考書	授業で、適宜紹介
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　読書と豊かな人間性　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース／選択
担当教員			
中里　昌之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の計画を作成し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書の意味(読書観／読書指導の三原則／読書についての思索)と学校図書館法 読書の意味を明らかにすると共に、その根拠を提示する。
	第３回	読書ノートの作成と読書指導の一環としての図書館利用指導プログラム 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、図書館における読書指導計画の方法を理解する。
	第４回	読書の発達段階(読書能力／読書興味)とその構造 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価ノートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス― 読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学ぶ。
	第１１回	読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。
	第１２回	読みの原理(読書以前としてのブックスタート／読みの発達過程)と読書人格 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。
	第１３回	学校図書館における読書資料と読書環境の整備／読書療法 教育課程の具体化としての読書資料と読書環境をどう整備するかについて検討する。
	第１４回	読書体験のひろがり(生徒委員会活動／教科教師との協力／図書館広報活動)と地域社会との連携 読書体験のひろがりとしての図書館活動や地域社会との連携の方法を学ぶ。

	第１５回　　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後１０分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	司書教諭テキストシリーズ…04朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』樹村房（2002）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） ステーブン・クラッシェン（長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳）『読書はパワー』金の星社（2002）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者および精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。 【到達目標】 ①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②学習をとおして精神疾患を抱えている人を理解する。 ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを明確にする。 ⑤実習の意義について考え、理解する。
授業の概要	実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　本講義のオリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習の理解」を予習しておく。 第２回　各実習先種別の学習①　精神科医療機関 【key words】 ・精神科病院，精神科診療所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・p30-p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。 第３回　各実習先種別の学習②　精神科医療機関

【key words】
・精神科デイ・ケア施設，総合病院精神科

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。

第４回　各実習先種別の学習③　精神科医療機関
【key words】
・アルコール専門病棟，認知症疾患医療センター，児童思春期病棟

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「アルコール専門病棟」と「認知症疾患医療センター」、「児童思春期病棟」について予習をしておく。

第５回　各実習先種別の学習④　障害福祉サービス事業所
【key words】
・グループホーム，生活介護および自立訓練

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「グループホーム」と「生活介護および自立訓練」について予習をしておく。

第６回　各実習先種別の学習⑤　障害福祉サービス事業所
【key words】
・就労移行支援，就労継続支援（A型・B型）

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「就労移行支援」と「就労継続支援（A型・B型）」について予習をしておく。

第７回　各実習先種別の学習⑥　障害福祉サービス事業所
【key words】
・相談支援事業，地域活動支援センター

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「相談支援事業」と「地域活動支援センター」について予習をしておく。

第８回　各実習先種別の学習⑦　行政機関
【key words】
・精神保健福祉センター，保健所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深め

る。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神保健福祉センター」と「保健所」について予習をしておく。

第９回　各実習先種別の学習⑧　行政機関
【key words】
・市町村保健センター，保護観察所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「市町村保健センター」と「保護観察所」について予習をしておく。

第１０回　各実習先種別の学習⑨　行政機関
【key words】
・更生保護施設，児童相談所，児童自立支援施設

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「更生保護施設」と「児童相談所」、「保護観察所」について予習をしておく。

第１１回　各実習先種別の学習⑩　その他
【key words】
・児童福祉関連施設，法務省関連施設，など

【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p40-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「児童福祉関連施設」や「法務省関連施設」などについて予習をしておく。

第１２回　倫理と秘密保持について①　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・ソーシャルワークにおける価値，ソーシャルワークにおける倫理

【授業概要】
・ソーシャルワークにおける価値や倫理について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワークにおける価値や倫理についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「ソーシャルワークにおける価値と倫理」について予習をしておく。

第１３回　倫理と秘密保持について②　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・倫理綱領
【授業概要】
・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士の倫理綱領についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・精神保健福祉士の倫理綱領を参照し、その内容について予習をしておく。

第１４回　自らの課題検討

	【key words】 ・実習先の理解 【授業概要】 ・いくつかのグループを設け、グループごとに実習計画書を作成してみる。 ・グループごとに実習計画書の発表を行い、質疑応答を行うことで、実習先に対する理解を深める。 ・実習先について解説を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでに学習した内容を復習しておくこと。 第１５回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・これまでに学習した内容の振り返りを行い、理解を深める。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの学習した内容を復習しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	3年生春休み期間中に精神科病院事前見学会を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。 ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外の日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015／「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015／「実習生必携　ソーシャルワーク実習ノート　第2版」杉本浩章・田中和彦　みらい　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉援助演習（基礎）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。 ②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ③精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ④精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を習得する。 ⑤専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉士としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。尚、授業のなかでは相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げることとする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「演習の意義と目的」を予習しておく。
	第２回	自己覚知①　精神障害を抱えて生きる人の理解① 【key words】 ・自己覚知，精神障害者の理解，ストレス脆弱性モデル 【授業概要】 ・「精神」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。 ・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。 ・一般的に言われている精神障害の特徴について解説する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

・「精神障害とは何か」について、テキストなどを参照して予習し、自分自身の言葉で説明できるようにしておくこと。

第３回　自己覚知②　精神障害を抱えて生きる人の理解②

【key words】
・自己覚知，精神障害者の理解，ピアサポート，ストレングス

【授業概要】
・「べてる流女の一生」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。
・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。
・ピアサポートやストレングスをキーワードに精神障害のある人の生活について解説する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・第2回の授業で、自分自身が精神障害について抱いた感想が何だったかを確認しておく。

第４回　コミュニケーションおよび面接技術の習得　ストレングスモデル

【key words】
・ストレングスモデル，リフレーミング，ケースマネジメント，社会資源

【授業概要】
・医学モデル・病理欠陥モデルとストレングスモデルの違いについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ストレングス視点のアセスメントについて理解する。
・ロールプレイを通して、ストレングス視点に基づいた声かけや対応の方法を学習する。″

【教科書ページ・参考文献】
・p210-p214
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「ストレングスモデル」について予習をしておく。
・さらに学習したい場合には、チャールズ・A・ラップ・リチャード・J・ゴスチャ（2014）「ストレングスモデル～リカバリー志向の精神保健福祉サービス」を参照すると良い。

第５回　グループダイナミクス活用技術の習得①　SSTについての理解

【key words】
・SST（社会生活機能訓練）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、SSTの機能や必要性を理解する。
・ロールプレイを通して、SSTの具体的な方法について学習する。
・ロールプレイ後のグループディスカッションを通して、SSTにおけるリーダー、コ・リーダーの役割について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p215-p219
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「SST」について予習をしておく。

第６回　グループダイナミクス活用技術の習得②　心理教育についての理解①

【key words】
・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト

【授業概要】
・心理教育やEE研究について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、心理教育について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・p220-p224
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「心理教育」について予習をしておく。

第７回　グループダイナミクス活用技術の習得③　心理教育についての理解②

【key words】
・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト

【授業概要】
・「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット（グループワークの実際）」というDVDを鑑賞し、心理教育におけるグループワークの実際を理解する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・さらに学習したい場合には、心理教育実施・普及ガイドライン・ツールキット研究会（大島巌・福井里江）（2011）「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキットⅠ」を参照すると良い。

第８回　グループダイナミクス活用技術の習得④　集団精神療法についての理解

【key words】
・集団精神療法
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、集団精神療法の特徴を考察する。
・集団精神療法について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p225-p229
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「集団精神療法」について予習をしておく。

第９回　情報収集および課題解決技術の習得①　ソーシャルサポートシステム

【key words】
・ソーシャルサポート，社会資源，エコマップ

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルサポートについて理解する。
・事例に基づき、エコマップの作成を行うことで、エコマップについて理解する。
・精神障害者を支援するためのソーシャルサポートシステムについて解説する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「社会資源」や「ソーシャルサポート」について予習をしておく。

第１０回　情報収集および課題解決技術の習得②　家族関係の理解　家族システム

【key words】
・精神障害者家族，EE（感情表出），循環的因果律（円環的因果律），心理教育

【授業概要】
・精神障害者の家族が置かれてきた状況（歴史）について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害者家族が精神保健福祉士に期待することなどを考察する。
・家族をシステムとして捉えることについて解説する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「精神障害者家族」について予習をしておく。

第１１回　情報収集および課題解決技術の習得④　アウトリーチについての理解

【key words】
・アウトリーチ，面接技術，社会資源，ネットワーク形成

【授業概要】
・アウトリーチについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、援助を拒否するクライエントの気持ちや訪問支援を行う際の留意点，アウトリーチの有効な点などについて考察する。
・アウトリーチに関連する制度等について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p235-p239
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「アウトリーチ」について予習をしておく。

第１２回　情報収集および課題解決技術の習得⑤　チームアプローチについての理解

【key words】
・高次脳機能障害，チームケア，チームワークの原則

【授業概要】
・高次脳機能障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、チームアプローチについて考察する。
・チームワークの原則などについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p240-p244
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「チームアプローチ」につて予習をしておく。

第１３回　情報収集および課題解決技術の習得⑥　ケアマネジメントについての理解①

【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF

【授業概要】
・事例を読み、グループごとに「サービス等利用計画」を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「ケアマネジメント」や「サービス等利用計画」について予習をしておく。

第１４回　情報収集および課題解決技術の習得⑦　ケアマネジメントについての理解②

【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF

【授業概要】
・第13回授業にて作成した「サービス等利用計画」をグループごとに発表し、良い点や改善点などについて議論をすることで、ケアマネジメントの理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・第13回授業で取り組んだ「サービス等利用計画」を授業開始までに完成させ、発表の手順をグループごとに確認しておく。

第１５回　前期のまとめ

【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・これまでの授業を復習しておくこと。

第１６回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション

【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・前期の授業内容を復習しておくこと。

第１７回　危機介入について理解する

【key words】
・危機，危機介入
【授業概要】
・危機とは何かについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、危機状態の特徴や必要な支援について考察する。
・必要な支援について解説する。
・ソーシャルワーカーが危機介入をしなければならない状況としてどのような場面が想定されるかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p230-p239
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「危機介入」について予習をしておくこと。

第１８回　医療に結びつける援助について理解する

【key words】
・摂食障害，家族関係，病識がない人へのアプローチ，治療拒否をしている人へのアプローチ，入院
【授業概要】
・摂食障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、病識がない人や治療拒否をしている人へのアプローチについて考察する。
・精神保健福祉法における入院について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p252-p256
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「医療に結び付ける援助」について予習をしておく。

第１９回　自殺予防について理解する

【key words】
・自殺予防，バイステックの7原則
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、自殺を思い詰めるに至る課題や面接のポイントについて考察する。
・ロールプレイを通して、精神保健福祉士としての面接の仕方を学習する。
・自殺の危機にある人をどのような機関や人に繋げれば良いかを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p257-p261
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「自殺予防」について予習をしておく。

第２０回　社会復帰①　地域移行支援について理解する

【key words】
・精神保健福祉士としての価値，施設症，地域移行支援，精神科病院

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、退院に消極的な患者の気持ち等を考察する。
・精神保健福祉士が行う地域移行支援について解説する。
・グループディスカッションを通して社会的入院や求められる支援について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p267-p271
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「地域移行支援」について予習をしておく。

第２１回　社会復帰②　地域定着支援について理解する

【key words】
・ICF，チームアプローチ，地域定着支援，ACT（包括型地域生活支援）

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害のある人の地域生活支援について考察する。
・ICFについて解説する。
・グループごとに地域生活の支援をどのように展開するか、そのなかでの精神保健福祉士の役割を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p272-p276
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「地域定着支援」について予習をしておく。

第２２回　社会復帰③　医療観察法について理解する
【key words】
・医療観察法，社会復帰調整官
【授業概要】
・医療観察法について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、加害者側の気持ち、被害者側の気持ちを考察する。
・グループディスカッションを通して医療観察法の機能について考察する。
・医療観察法に関する批判的な意見について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p277-p281
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「医療観察法」について予習をしておく。
・さらに学習したい場合には「医療観察法」に関する様々な意見を自分自身で探し、学習すると良い。

第２３回　就労支援（IPS援助付き雇用）について理解する
【key words】
・IPS援助付き雇用，EBP（科学的根拠に基づく実践），就労移行支援

【授業概要】
・IPS援助付き雇用について解説する。
・「IPSを学ぶ　ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方）」というDVDを鑑賞し、IPSの実際について理解する。
・我が国の一般的な就労支援とIPSの違いについて各々で考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・さらに学習したい場合には、デボラ・R・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）「精神障害をもつ人たちのワーキングライフ　IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド」を参照すると良い。

第２４回　地域生活支援（ACT）について理解する
【key words】
・ACT（包括型地域生活支援），EBP（科学的根拠に基づく実践），地域生活支援

【授業概要】
・ACT（包括型地域生活支援）について解説する。
・「ACTは地域精神医療を変えるか」というDVDを鑑賞し、ACTの実際について理解する。
・我が国においてACTを実践するうえでの課題等について考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・さらに学習したい場合には、西尾雅明（2004）「ACT入門　精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム」を参照すると良い。

第２５回　権利擁護について理解する
【key words】
・社会権，権利擁護，自己決定，障害者の権利に関する条約，成年後見制度

【授業概要】
・各々で権利とは何かについて考察する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、権利侵害とは何かについて考察する。
・権利擁護について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士が行う権利擁護について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p282-p286
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「権利擁護」について予習をしておく。

第２６回　地域の組織化について理解する
【key words】
・コミュニティワーク，地域福祉計画，住民参加

【授業概要】
・コミュニティワークの3つのゴール（タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴール）について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域の精神保健福祉ニーズ

	の把握方法や計画の作成方法について考察する。 ・地域福祉計画や住民参加について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p297-p301 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「地域の組織化」について予習をしておく。 第２７回　障害年金について理解する 【key words】 ・障害年金，自立支援 【授業概要】 ・障害年金について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、障害年金の受給と自立の関係について考察する。 ・障害年金を受給しやすい社会について、各々に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p302-p305 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「障害年金」について予習をしておくこと。 第２８回　社会資源につなげる支援について理解する 【key words】 ・アウトリーチ，ACT（包括型地域生活支援），ホームレス支援 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アウトリーチ支援を行ううえで必要な配慮等について考察する。 ・アウトリーチ支援における精神保健福祉士の関わりについて、事例に基づいて解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・p307-p311 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「社会資源につなげる支援」について予習をしておく。 第２９回　自己覚知③　ゲストスピーカーによる講話 【key words】 ・精神障害者の実体験 【授業概要】 ・当事者であるとともに専門職でもある方をゲストスピーカーに招き、講話をして頂く。 ・講話を聞き、各々に精神保健福祉士として求められる役割を考察する。″ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。 第３０回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・後期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 　a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 　b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016
参考書	Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press.（＝2014, 田中英

	樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版） Becker, D. R. and Drake, R. E.(2003) Working Life for People with Severe Mental Illness, Oxford University Press.（＝2004, 大島　巌・松為信雄・伊藤順一郎監訳『精神障害のある人たちのワーキングライフ―IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』金剛出版） 西尾雅明（2004）『ACT入門―精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神科リハビリテーションの概念、構成について学ぶ。 【到達目標】理論と展開Ⅰで学んだ理論実践方法をさらに具体的事例や訓練によって内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。精神障害者支援のかなめ「エンパワーメント」「リカバリー」の概念を体得できることを目指す。
授業の概要	この講義では医療機関をはじめ地域でのソーシャルワーク実践の視座および活用方法を順次学び、理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション
【key word】
精神保健福祉士の専門性
【授業概要】
理論と展開Ⅰの総まとめ、復習。ソーシャルケースワークを振り返る。
※次回から去年の教科書を持ってこさせる。

【教科書ページ・参考文献】
理論と展開Ⅰ

第２回　ストレングスモデル
【key word】
二つのケースマネジメント
【授業概要】
支援計画のポイントをおさらいする。

※ラップは何を根拠に理論を発表したか！
【教科書ページ・参考文献】
理論と展開Ⅰの11P、234P、２３７P

第３回　心理社会的アプローチと未解決問題
【key word】
心理社会的アプローチ、社会診断とは？
【授業概要】
これまでの事例の中の未解決問題。
30歳男性の事例、45歳男性の事例から。

【教科書ページ・参考文献】
コピー等

第４回　相談支援専門員とサービス管理責任者
【key word】
総合支援法の支援計画
【授業概要】
福祉サービスのケアマネージャーが相談支援専門員とサービス管理責任者。
※仲介型ケアマネジメント

【教科書ページ・参考文献】

254P～

第５回　精神科リハビリテーション

【key word】
アンソニー、スレッシュホールズ
【授業概要】
戻って「理論と展開２」の教科書に入る。
ICIDHの確認とICFの新しい視点。

【教科書ページ・参考文献】
1～10P

第６回　WHOのリハビリテーションの定義

【key word】
4つのリハビリテーション
【授業概要】
医者中心から多職種チームに。

※注意することは心理社会的リハビリテーション。これがアンチスティグマにつながる。
【教科書ページ・参考文献】
3P、33P～

第７回　日本の精神科リハビリテーションの歴史

【key word】
精神科リハビリテーション
【授業概要】
外勤委託作業（院外作業療法）や職親制度。

※部分入院とは？
【教科書ページ・参考文献】
41～45P。177P。179P。

第８回　ストレス－脆弱性モデルと精神医学の視点

【key word】
ストレス－脆弱性モデル
【授業概要】
パラダイムの転換。入院中心から地域中心に。

※精神科リハビリテーションの実施機関

第９回　精神科デイケアの登場

【key word】
精神科デイケア
【授業概要】
デイケアの内容から診療報酬について学ぶ。プログラム活動というグループワーク。

※小規模、大規模デイケア。デイナイトケア。ナイトケア。
【教科書ページ・参考文献】
157P～

第１０回　治療共同体からデイホスピタルまで

【key word】
イギリスの退院促進、コミュニティーケア
【授業概要】
退院促進の送り手と受け皿。

※M・ジョーンズとビエラ
【教科書ページ・参考文献】
10P。128P～。88Pも参考に

第１１回　中間施設の限界からEE研究と家族支援

【key word】
※回転ドア現象

【授業概要】
EE研究の成果。家族心理教育プログラムの誕生。

【教科書ページ・参考文献】
11P。88P。188P。

第１２回　精神科リハビリテーションの展開

【key word】
精神科リハビリテーションのプロセス
【授業概要】
教科書に従い基本を押さえる。
※技術開発計画と資源開発計画

【教科書ページ・参考文献】
75P～

第１３回　第6章、西尾雅明の精神科リハビリテーション

【key word】
医学モデル
【授業概要】
精神医学をからめ①187P～入り、②195Pのケアマネジメントの視点を押さえ、③205PのACTについても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
上記進行で進める

第１４回　精神科リハとソーシャルワーク

【key word】
ケースマネジメント概論

【授業概要】
野中猛のケースマネジメントからイギリスのCPAまで。

【教科書ページ・参考文献】
38、79、86、109、195P

第１５回　新しい精神科リハビリテーションの展開
【key word】
アンチスティグマ理解を！

【授業概要】
SHG(セルフヘルプグループ) とピアサポートグループの違い。

【教科書ページ・参考文献】
209P～

第１６回　精神科リハビリテーションと作業療法
【key word】
作業療法士

【授業概要】
患者作業の歴史と開放化。そして現在の作業療法。

【教科書ページ・参考文献】
115～127P

第１７回　職業リハビリテーションと就労支援
【key word】
ILO 条約
【授業概要】

障害者雇用促進法に基づく就労支援。そして居住支援も。

【教科書ページ・参考文献】
3、6、33、70P。176P～

第１８回　アウトリーチとピアサポート
【key word】
二つのセルフヘルプグループ
【授業概要】
教科書に従いながらアノニマス系と障害系の違いを理解する。
リカバリーからプロシューマー。

【教科書ページ・参考文献】
200P～

第１９回　デイケア・ナイトケアとプログラム活動
【key word】
SSTの多様性。

【授業概要】
医療機関の取り組みと福祉サービス事業所のグループ活動。

【教科書ページ・参考文献】
157～167P

第２０回　実践的SSTトレーニング
【key word】
防御因子とは？

【授業概要】
138Pから入りベラックのステップバイステップに。

【教科書ページ・参考文献】
138P～

第２１回　初めてSSTを導入したデイケア
【key word】
※外在化、自動思考とスキーマ。

【授業概要】
A・Tベックの認知行動療法の違い。

【教科書ページ・参考文献】
※精神医学の教科書から

第２２回　中断したデイケアでのSST
【key word】
実践的SST

【授業概要】
急いでプログラムに入らない。
傷つきに目を向ける。

第２３回　厳しい指摘が友情
【key word】
二つのグループの戦い

	【授業概要】 治療共同体のコミュニティーミーティングでも同じ。 現実に直面し人は成長する。 ※成長そして成熟 第２４回　茶の湯の技法「花月」 【key word】 グループワークの妙 【授業概要】 どんな状況でもSSTに持って行ける。 茶の湯の「花月」 ※ロールプレイ 第２５回　コ・リーダーは何をする 【key word】 共同リーダー 【授業概要】 うまくいったところ、難しかったところ、次回の工夫点。 ※みんながリーダー 第２６回　家族心理教育プログラム（家族教室）での実践 【key word】 家族も入るSST 【授業概要】 パスができる。パスして誉めてもらえる。 第２７回　ピアサポートグループでの実践 【key word】 SSTはサポーティブグループが前提 【授業概要】 自助グループ、ピアリンクでの活動。 ナラティブ活動の延長線上に位置づける。 【教科書ページ・参考文献】 209P～ 第２８回　指示的グループと非指示的グループ 【key word】 グループワークの色々 【授業概要】 楽しくないと飽きてしまう。 ウォーミングアップを多用する。 第２９回　話し合い、学び合い、助け合い 【key word】 ワークグループになる 【授業概要】 グループはメンバーを見捨てない。 自由に楽しくそしてスキルが身につく。 第３０回　実践ＳＳＴを終えて 【key word】 グループで自由にふるまえる 【授業概要】 これで皆さん精神保健福祉士援助実習に行ける。
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ
参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。 アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職対策講座Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。 [到達目標] １　教職教養の知識を身につける。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取組む。 ２　個人面接、集団面接試験対策を行う。 ３　学内模擬試験を実施する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　学習指導要領の変遷－改訂の推移－ 【受講にあたり】 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくこ　とを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2020年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること。 第２回　小学校学習指導要領－総則を読み解く－ 第３回　中学校学習指導要領－総則を読み解く－ 第４回　高等学校学習指導要領－総則を読み解く－ 第５回　関連法規の概要－教育基本法、学校教育法、学校保健安全法－ 第６回　教育基本法－教育の目的・理念－ 第７回　学校教育に関する法規　①　答申からみる 第８回　学校教育に関する法規　②　学校教育法

	第９回　　教職員に関する法規　　①　答申からみる 第１０回　　教職員に関する法規　　②　地方公務員法 第１１回　　児童生徒に関する法規　①　答申からみる 第１２回　　児童生徒に関する法規　②　学校保健安全法 第１３回　　生徒指導のあり方（生徒指導提要、答申） 第１４回　　個人面接の内容・進め方 第１５回　　集団面接の内容・進め方
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　10時～１２時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2020年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教員採用試験に向けて、教職教養、専門教養を中心に指導・支援を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　介護体験実習指導　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	介護体験実習の意義と目的、教員として必要な福祉倫理、実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についての調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（シラバス説明、授業方法及び留意事項）、自己紹介カード作成 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える
	第２回	障害者の理解、ＤＶＤ視聴（障害者の自立について） 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【keywords】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
	第３回	対人援助技術の原理原則 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの７原則について学ぶ

【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

第４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【授業概要】
なぜ実習事前指導が必要かを考える
【keywords】
介護体験　福祉施設
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
実習先として希望する種別・施設名をあらかじめ考えておく

第５回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【授業概要】
実習先を理解する（高齢者施設）
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第６回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【授業概要】
実習先を理解する（児童福祉施設）
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第７回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設）
【授業概要】
実習先を理解する（障害者支援施設）
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第８回　実習先機関・施設の理解（その他の施設）
【授業概要】
実習先を理解する（その他施設）
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第９回　事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
【授業概要】
実習先訪問についての具体的指導
【keywords】
連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第１０回　実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）
【授業概要】
実習開始まで準備しておくべきことについて考える
【keywords】
実習先概要　職員配置
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

第１１回　記録方法の理解（実習記録①）
【授業概要】
実習記録の記入方法
【keywords】

【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する

	第１２回　記録方法の理解（実習記録②） 【授業概要】 実習記録の記入方法 【keywords】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 第１３回　コミュニケーションスキルを磨こう 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【keywords】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 第１４回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理） 【授業概要】 実習生に求められる基本姿勢について理解する 【keywords】 職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理 【教科書ページ・参考文献】 資料配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 第１５回　実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」 【授業概要】 実習先に提出する資料の作成 【keywords】 実習計画書　実習生紹介票　誓約書 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の練習、実習計画書の作成、実習生紹介票、誓約書等の作成は授業時間外に各自で行うこととなる。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	レポート及び実習計画書・実習報告書による評価とする。書類の提出状況、演習への参加状況を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　介護体験実習Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　介護体験実習Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 〔授業の目的〕 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回

	第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人間と宗教　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
相澤　伸央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだして初めて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。
授業の概要	グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解しあえる人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　本科目の目的とシラバスの説明等 第２回　宗教の基礎知識①　人間の特徴と弱点 第３回　宗教の基礎知識②　縄文人と現代人の比較　現代日本人の特性 第４回　宗教の基礎知識③　宗教・科学・芸術・哲学の比較　宗教の特性 第５回　世界の宗教①　アジアの環境の中で活動する宗教としての仏教の特性 第６回　世界の宗教②　インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特徴を見る 第７回　世界の宗教③　オリエントの自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る 第８回　世界の宗教④　キリスト教の成立と成長 第９回　世界の宗教⑤　イスラム教の成立から現代へ 第１０回　日本の宗教①　空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特性を知る 第１１回　日本の宗教②　鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る 第１２回　日本の宗教③　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(1) 第１３回　日本の宗教④　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(2) 第１４回　日本の宗教⑤　宗教(仏教)を経験を通して知る

	第１５回　　まとめ　人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える
受講生に関わる情報および受講のルール	○授業資料の再発行はしない。必要な場合、学生間でコピーするなど対応すること。 ○受講にふさわしくない態度（ふざける、礼儀に欠ける）を取る学生には受講を拒否することがある。その場合、その講義は欠席扱いとする。 ○授業に関係のないものの教室への持込みは禁止とする。 ○携帯電話、スマートフォン等は机上に出さない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業態度（積極的な授業参加）を30%とし、筆記試験（自分の生き方の問題を中心）を70%として評価します。
教科書	特になし（必要に応じてレジュメ、資料等を配布）
参考書	授業ごとに必要に応じて紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　生涯学習概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第1回　オリエンテーション
【key words】
生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習
【授業概要】
科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.1～4
参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会、香川正弘他編「よくわかる生涯学習」ミネルヴァ書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。

第2回　国際社会の議論
【key words】
ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格
【授業概要】
21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。

第3回　日本での議論・政策
【key words】
誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス
【授業概要】
教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明
ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.9～14
参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局
【課題・予習・復習・授業準備指示】
世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。

第4回　生涯学習の理念と理論1

【key words】
公教育　知識を育てる
【授業概要】
ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。
コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.5～6
参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー、コンドルセ著「人間精神進歩史第1部」「人間精神進歩史第２部」岩波文庫
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。

第5回　生涯学習の理念と理論2
【key words】
ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　PISA
【授業概要】
ユネスコとOECDの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。
最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.20～22
参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会、マルカム・ノールズ著「成人教育の現代的実践」鳳出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ユネスコとOECDの基本的な考え方を整理
PISAの日本の推移をどこに問題点があるかを知る。

第6回　生涯学習の内容と形態
【key words】
役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ
【授業概要】
生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明
生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。
最近のの民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.37～40
参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、山本思外里「大人の学校」中央公論社、廣瀬隆人「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」ぎょうせい、田中雅文編著「社会を創る市民大学」山本慶裕笹井宏益編著「メディアと生涯学習」玉川大学出版部
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。

第7回　学校教育と生涯学習
【key words】
リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム
【授業概要】
学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明
初等・中等教育を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.49～64
参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房、教師養成研究会編著「教育原理八訂版」学芸図書、坂田仰その他編著「開かれた学校とこれからの教師の実践」学事出版、佐藤晴雄「生涯学習概論」学陽書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。

第8回　外国の生涯学習1
【key words】
宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル
【授業概要】
ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。
豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書、野崎俊一「スウェーデンの生涯学習支援」『生涯学習e辞典』日本生涯教育学会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。

第9回　外国の生涯学習2
【key words】
ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング
【授業概要】
テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社、嶺井明子「シティズンシップ教育」東信堂、藤村好美「地域を変えるサービスラーニング」東洋館出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。

第10回　生涯学習の先駆け1
【key words】
初心　修身　学は一生の大事
【授業概要】

	生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。 第11回　生涯学習の先駆け2 【key words】 致良知　　五事を正す　職分　心学 【授業概要】 学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明 生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。 第12回　社会教育制度 【key words】 公的社会教育生　涯学習センター 【授業概要】 生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp.65～86 参考文献：田中雅文「現代生涯学習の展望」学文社、今西幸蔵・村井茂編「現代における社会教育の課題」八千代出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会教育を担う人々の役割を考えること。 第13回　生涯学習支援の動向と課題 【key words】 ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会 【授業概要】 生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp.87～97 参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版、白石克己・廣瀬編隆人編「生涯学習の新しいステージを拓く１」ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身が主体となり学習支援を考える。 第14回　まちづくりと生涯学習 【key words】 生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化 【授業概要】 自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp.99～110 参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店、柴田彩千子「市民主体のまちづくり活動の成立」日本女子大学大学院人間社会研究科紀要第10号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。 第15回　グローバリゼーションと生涯学習 【key words】 ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い 【授業概要】 生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp. 111～121 参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会、アンソニー・ギデンズ「モダニティとアイデンテティ」ハーベスト社、斉藤純一著「公共性」岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 レポートは必ず提出すること。 ５回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分

評価方法	定期試験・レポートを総合的に評価する。（目安）定期試験70%、レポート30%
教科書	「テキスト生涯学習　　新訂版」学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅳ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設関係団体等への就職後の任務（活動）を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネート力を身に付けることことでである。他人を「動かす」リーダーシップと依頼先（施設等）と学生を結びつけるコーディネート力は、人間形成にも通じる。
授業の概要	これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、他人を動かすリーダーシップと依頼先と学生を結びつけるコーディネート力を身に付けるためのプログラムである。正に、本学の建学の精神である「仁」の精神を具体的活動から理解し身に付けることである。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動の実践である。実践を通して、建学の精神を身に付けるプログラムである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動に求められているのは何か？①学生ボランティア活動史（災害支援・弱者支援）
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動を支援する方策とは？
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上を目指したボランティア活動とは何か？（身近から考える。）
	第４回	発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第５回	発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第６回	発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第７回	前期の活動のまとめ。中間発表会実施及び活動に関するディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
	第８回	発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後、批判的精神でディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
	第９回	発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第１０回	発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第１１回	発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
	第１２回	発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

	第１３回　　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。 第１４回　　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。 第１５回　　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．メンバーで地域社会の現状を検討し把握する。求められる活動計画書を作成・実践・評価・改善する。(ＰＤＣＡサイクルで改革改善する) ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。 ４．受講生希望者が10名未満の場合開講しない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域の社会福祉協議会による福祉向上のための活動に関心を寄せ、ボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動に参加すること。 ２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や広報活動を学び、他人集めには何が重要かを探求する。 ３．災害ボランティア活動に関心を寄持ち、出来れば活動に参加し実践する事が望まれる。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出・未発表の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『よくわかる　NPO法人・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルバ書房
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　更生保護制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。
授業の概要	相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	オリエンテーション　更生保護は、罪を犯した者又は非行少年を社会内で処遇改善するものであり、福祉との関連も説明する。
	第２回	仮釈放等　仮釈放は収容期間満了前に仮に釈放し、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを概説する。
	第３回	保護観察　保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて概説する。
	第４回	生活環境の調整　刑事施設又少年院収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整を考える。
	第５回	更生緊急保護・犯罪被害者対策　刑期を終えて出所した人や保護観察中の人の保護。被害者への救済を考える。
	第６回	恩赦・犯罪予防活動　政令恩赦、個別恩赦について説明。犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。
	第７回	保護観察官・保護司　わが国の保護観察制度は官民協働であり、保護観察官と保護司の役割とその実際を説明する。
	第８回	更生保護施設・民間協力者　更生保護施設の役割・機能を説明。更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活躍を概説する。
	第９回	裁判所との連携　少年事件は家庭裁判所と密接に関係している。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明する。
	第１０回	検察庁・矯正施設との連携　検察官、更生保護委員会、刑務所、少年院、拘置所の役割と児童相談所について概説する。
	第１１回	公共職業安定所・福祉事務所との連携　公共職業安定所、福祉事務所のあり方、民間団体とのかかわりを説明する。
	第１２回	医療観察法に基づく処遇　重大な他害行為を行った人の社会復帰を目的とする医療観察制度を概説する。
	第１３回	地域社会における処遇、関係機関との連携　医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団

	体の連携について概説する。 第１４回　社会復帰調整官等の業務の実際　専門知識を有する社会復帰調整官の業務の実際を説明する。 第１５回　更生保護の今後の展望　更生保護改革、国民・地域社会の理解の拡大、官民協働、保護観察の充実強化を概説する。
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各授業内容の重要項目は、周辺の知識を得ておくこと。
オフィスアワー	講師室で授業後３０分
評価方法	定期試験、小テストを総合的に評価する。（目安）定期試験結果70%、小論文・小テスト30%
教科書	新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　権利擁護と成年後見制度　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ（人権） 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P7～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P19～26 第２回　権利擁護と憲法Ⅱ（統治） 【key words】 権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P19～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P27～33　P44～45 第３回　権利擁護と行政法Ⅰ（行政組織、行政活動） 【key words】 行政主体　行政行為　行政手続 【授業概要】 行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果、それをチェックするための行政手続について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P27～33　P44～45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P33～44

	第４回	権利擁護と行政法Ⅱ（行政救済） 【key words】 行政不服審査　行政事件訴訟 【授業概要】 行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P33～44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P46～63
	第５回	権利擁護と民法Ⅰ（契約など） 【key words】 契約　不法行為 【授業概要】 ″契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。 契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 P46～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P64～75
	第６回	権利擁護と民法Ⅱ（親族・相続） 【key words】 婚姻　親子　相続　遺言 【授業概要】 近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P64～75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P78～85
	第７回	成年後見の概要 【key words】 成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立 【授業概要】 ″成年後見制度（法定・任意）について説明する。 法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 P78～85　P108～122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P86～93
	第８回	保佐の概要、補助の概要 【key words】 被保佐人　被補助人　権限付与の申立 【授業概要】 補佐および補助につき、対象、申立等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P86～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P94～102
	第９回	法定後見制度の手続等 【key words】 欠格事由　行為能力　資格制限　鑑定　登記 【授業概要】 ″後見人等の欠格事由を説明する。 成年被後見人等の行為能力・資格制限等について説明する。 鑑定、登記といった法定後見制度の手続について説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 P94～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P103～107　P124～132
	第１０回	任意後見制度、日常生活自立支援事業 【key words】 任意後見契約　代理権　日常生活自立支援事業 【授業概要】 任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。 日常生活自立支援事業について、その目的、内容、成年後見制度との連携等を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 P103～107　P124～132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P134～164
	第１１回	成年後見制度利用支援事業、権利擁護にかかわる組織、団体 【key words】 成年後見制度利用支援事業　家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会 【授業概要】 成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。 権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P134～164 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P166～186
	第１２回	権利擁護にかかわる専門職の役割

	【key words】 弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ 【授業概要】 権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P166～186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P188～233 第１３回　権利擁護活動の実際Ⅰ（成年後見活動の実際） 【key words】 成年後見制度の利用　クーリングオフ　市町村長申立て　児童虐待 【授業概要】 権利擁護活動の実際として、教科書の事例を題材にその対処例を提示・検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P188～233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P78～122 第１４回　権利擁護活動の実際Ⅱ（権利擁護活動の実際） 【key words】 成年後見制度　根抵当 【授業概要】 成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P78～122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P7～233 第１５回　まとめ 【key words】 憲法　行政法　民法　成年後見制度 【授業概要】 権利擁護と成年後見制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P7～233
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座19）」中央法規
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2018年） 森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　就労支援サービス　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。 【到達目標】 ①労働の権利性について理解し、言語化できる。 ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。 ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。 ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。 ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。
授業の概要	労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。 この授業では、①就労と就労支援の意義、②労働市場の動向、③労働法規の概要、④就労支援制度の概要、⑤就労支援サービスの実施体制、⑥就労支援を取り巻く各分野（労働、福祉、教育など）における連携と実際、これらの内容を中心に「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。 随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の目的、到達目標、評価方法等の理解

【key words】
・オリエンテーション
【授業の目標】
・現行の社会福祉士養成カリキュラムのなかでの“就労支援サービス（本授業科目）”の位置づけを理解するとともに、この科目を学ぶことの意味について考える。
・ソーシャルワークのグローバル定義、地域共生社会の実現、社会福祉士養成カリキュラムの改定などを概観し、今後、社会福祉士に期待されることについて考える。
・就労支援サービス（本授業科目）のなかで学んでもらいたい（考えてもらいたい）ことなどを説明する。
【授業概要】
・社会福祉士のカリキュラム（就労支援サービスの位置づけ）
・社会福祉士養成のなかで、就労支援サービスを学ぶ意味
・これからの社会福祉士に求められること①（社会福祉士の現状）
・これからの社会福祉士に求められること②（授業に望むことのメッセージ）
【教科書ページ・参考文献】
・該当なし

第２回　労働の意義　働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割

【key words】
・労働の意義、動機づけ、キャリア発達
【授業の目標】
・就労の意義は“生計の維持”、“社会的役割の実現”、“個性の発揮”など多義的であることを理解する。
・就労の場において、労働者がその持てる個性を発揮するためには、仕事に対する“動機づけ”

		が重要であることを理解する。 ・人間は生涯を通して、多様な役割を果たしつつ、“キャリア発達”していくことを理解する。 ・就労支援のプロセスを理解する。 【授業概要】 ・労働の多面的な意義 ・動機づけ ・キャリア発達と就労支援 ・就労支援のプロセス 【教科書ページ・参考文献】 ・就労支援サービス（弘文堂）p1-p16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「労働の意義等」について予習をしておく。
	第３回	現代の労働を取り巻く状況　労働市場の変化 【key words】 ・労働市場、雇用課題 【授業の目標】 ・労働力の概念や労働指標を通じて、労働市場の動向をみる基礎を学ぶ。 ・今後も人口減少が進む中、就労支援の経済的意義も考える。 ・産業別、職業別の就業者数の動向と特徴を考える。 ・様々な日本の雇用課題を理解する。 ・雇用、生活をめぐる新しい概念をみることで、あるべき労働の姿を考える。 【授業概要】 ・労働市場の動向 　・就業状態の把握と労働指標 　・労働市場の変化 ・労働をめぐる課題 　・非正規雇用の増大、長時間労働、など 　・労働をめぐる新たな概念 【教科書ページ・参考文献】 ・p10-p33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「現代の労働を取り巻く状況等」について予習をしておく。
	第４回	労働に関する法律と制度 【key words】 ・労働法規 【授業の目標】 ・労働法規として、労働三法や労働三権について、労働契約について、労働紛争解決制度の動向について理解する。 ・労働に関する公的保険として、労働災害補償保険法（労災保険法）と雇用保険法の概要を理解する。 ・就労支援にかかる主な法律として、雇用対策法、職業安定法、職業能力開発促進法、最低賃金法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律の概要を理解する。 【授業概要】 ・労働法規の動向 ・労働に関する公的保険 ・就労支援にかかる主な法律 【教科書ページ・参考文献】 ・p19-p33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「労働に関する法律と制度」について予習をしておく。
	第５回	障害者と就労支援①　障害者の就労の現状 【key words】 ・授産事業、障害者総合支援法、障害者雇用制度 【授業の目標】 ・わが国における授産事業の歴史、その後の障害者雇用の概要を理解する。 ・障害者の就労支援に関する、厚生省、労働省それぞれにおける就労支援、そして厚生労働省発足後の、就労支援について理解する。 ・旧制度（自立支援法以前）の就労支援の課題、そして、障害者自立支援法（現、障害者総合支援法）における就労支援について理解する。 ・就労支援にかかる諸制度と、現在の障害者雇用の状況について理解する。 【授業概要】 ・職業補導事業－授産 ・厚生省と労働省 ・就労支援施策の統合機運 ・障害者総合支援法と就労支援 ・就労支援にかかる諸制度 ・障害者雇用の状況 【教科書ページ・参考文献】 ・p34-p43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「障害者の就労の現状」について予習をしておく。
	第６回	障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援 【key words】 ・就労移行支援事業、就労継続支援（A型・B型）事業 【授業の目標】 ・福祉分野のサービス体系と、障害者の（就労）支援において大切なポイントを理解する。 ・障害者総合支援法における就労支援（就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業）について、それぞれの違いを意識しながら理解する。 【授業概要】 ・福祉分野のサービス体系 ・障害者の就労支援において大切なこと ・福祉分野のサービス組織 ・福祉施策と雇用施策の連携

【教科書ページ・参考文献】
・p44-p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策における就労支援」について予習をしておく。

第７回　障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援

【key words】
・障害者雇用促進法
【授業の目標】
・障害者雇用促進法の内容について、その主な内容である、①障害者雇用率制度（雇用義務制度、納付金制度）、②職業リハビリテーションを理解する。
・雇用サービスの組織、団体について、①ハローワーク、②障害者職業センター、③職業能力開発施設を理解する。
・雇用支援の具体的な内容を（なんとなく）理解する。
【授業概要】
・雇用分野のサービス体系
・雇用分野のサービス組織と団体
・雇用支援の内容
【教科書ページ・参考文献】
・p51-p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者雇用施策における就労支援」について予習をしておく。

第８回　障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み

【key words】
・特別支援学校、民間企業、CSR、SDGs、ソーシャルファーム
【授業の目標】
・特別支援学校における就労支援について、特に、対象となる障害別の取り組みについて、その概要を理解する。
・特別支援学校における就労支援において、“個別の教育支援計画”の必要性や有効性について理解する。
・民間企業で働く障害者の現状（一般企業に雇用されている障害者数の推移など）を理解する。
・企業の社会的責任（CSR）やSDGs、社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）について（なんとなく）理解し、（可能であれば）自分なりの意見をもつ。
【授業概要】
・特別支援学校における就労支援、
　・特別支援学校の現状、
　・特別支援学校での就労支援、
　・移行期での連携と個別の教育支援計画、
・民間の取り組み、
　・民間企業で働く障害者の現状、
　・CSR、SDGs、社会的企業（ソーシャルファーム）
【教科書ページ・参考文献】
・p66-p80
・沖大幹，小野田真二，黒田かをり，ほか（2018）『SDGsの基礎』，東英弥
・C. ボルザガ，J. ドゥフルニ，ほか（2004）『社会的企業（ソーシャルエンタープライズ）；雇用・福祉のEUサードセクター』，日本経済評論社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「特別支援学校における就労支援・民間の取り組み」について予習をしておく。

第９回　障害者と就労支援⑤　諸外国の取り組み

【key words】
・IPS、EBP、フィデリティ
【授業の目標】
・IPS（Individual Placement and Support）について（なんとなく）理解する。
・特に、IPSと従来の職業リハビリテーションサービスの違いについて理解し、説明できるようになる。
・そのうえで、我が国の就労支援の現状や課題について、受講生それぞれが自分なりに考えることができるようになる。
・EBP（Evidence-Based Practices）やフィデリティ尺度について（なんとなく）理解する。
【授業概要】
・IPS（Individual Placement and Support）とは何か、
・IPSの理念、
・DVD（IPSを学ぶ）、
・Japan Individual Placement and Support Association（JIPSA）とフィデリティ尺度
【教科書ページ・参考文献】
・デボラ・D・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）『精神障害をもつ人たちのワーキングライフ－IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』，金剛出版

第１０回　低所得者と就労支援①　低所得者等の就労の現状

【key words】
・生活保護受給世帯、ひとり親世帯、ホームレス、生活困窮者
【授業の目標】
・生活保護受給世帯の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・母子世帯（ひとり親世帯）の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・ホームレスの現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・生活困窮者の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
【授業概要】
・低所得者の就労を学ぶ意味
・生活保護受給世帯
・母子世帯
・ホームレス
・生活困窮者
【教科書ページ・参考文献】

・p90-p99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「低所得者等の就労の現状」について予習をしておく。

第１１回　低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯への就労支援

【key words】
・自立、生活保護制度、自立支援プログラム
【授業の目標】
・生活保護制度において“自立”という概念がどう変化してきたのか、現在は“自立”をどうとらえているのかを理解する。
・自立支援プログラムの概要について理解する。
・生活保護法による就労支援について、特に、①生活保護受給者等就労自立促進事業、②被保護者就労支援事業、③被保護者就労準備支援事業、を中心に理解する。
【授業概要】
・社会保障制度の目的と機能
・生活保護制度における自立概念の再検討
・自立支援プログラムの導入
・生活保護法による就労支援の実際
　・生活保護受給者等就労自立促進事業
　・被保護者就労支援事業
　・被保護者就労準備支援事業
　・その他生活保護制度における就労支援の取り組み
【教科書ページ・参考文献】
・p100-p113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「生活保護受給世帯への就労支援」について予習をしておく。

第１２回　低所得者と就労支援③　母子世帯への就労支援

【key words】
・ひとり親世帯
【授業の目標】
・母子及び父子ならびに寡婦福祉法や児童扶養手当法が改正され、ひとり親家庭の就労支援施策が充実してきた経緯を理解する。
・ひとり親世帯を支援する様々な事業について（なんとなく）理解し、そのうちのいくつかは、自分の言葉で説明できるようになる。
・ひとり親世帯を対象とした就労支援において、どのようなことが大切なのか、各々に考えてみる。
【授業概要】
・母子世帯の年間就労収入の状況
・就労支援の実際
　・母子及び父子ならびに寡婦福祉法、児童扶養手当法等による就労支援
　・母子家庭等就業・自立支援事業
　・母子・父子自立支援プログラム策定事業
　・自立支援教育訓練給付金
　・高等職業訓練促進給付金
　・専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金
　・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業
・就労支援の成果と今後の展望
【教科書ページ・参考文献】
・p114-p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ひとり親世帯への就労支援」について予習をしておく。

第１３回　低所得者と就労支援④　ホームレス・生活困窮者への就労支援

【key words】
・ホームレス、生活困窮者
【授業の目標】
・ホームレスの自立支援に対する基本的な方針と、具体的な施策（とりわけ、就労支援に関するもの）について理解する。
・生活困窮者自立支援制度における基本的視点について理解する。
・生活困窮者自立支援制度に規定される事業（自立相談支援事業、住居確保給付金、就労準備支援事業、認定就労訓練事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業）について理解する。
【授業概要】
・ホームレスへの就労支援
　・ホームレスの自立支援対策と就労支援
　・ホームレスの自立に向けた施策と今後の展望
　・ビッグイシュー
・生活困窮者への就労支援
　・生活困窮者自立支援制度の基本的視点
　・生活困窮者自立支援制度における具体的支援
　・就労支援を展開するにあたっての今後の課題
【教科書ページ・参考文献】
・p123-p137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ホームレス・生活困窮者への就労支援」について予習をしておく。

第１４回　専門職の役割と実際①　障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割

【key words】
・障害者福祉施策、障害者雇用施策
【授業の目標】
・障害福祉施策における専門職（サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活支援員、障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員）の役割について理解する。
・障害者雇用施策における専門職（ハローワークの職員、職業カウンセラー、障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員、ジョブコーチ、職業訓練指導員）の役割について理解する。
【授業概要】
・障害者福祉施策における専門職の役割

	・サービス管理責任者 ・就労支援員 ・職業指導員 ・生活支援員 ・障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員 ・障害者雇用施策における専門職の役割 ・ハローワークの職員 ・障害者職業カウンセラー ・障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員 ・職場適応援助者（ジョブコーチ） ・職業訓練指導員 【教科書ページ・参考文献】 ・p138-148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割」について予習をしておく。
	第１５回　専門職の役割と実際②　低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者 【key words】 ・低所得者等の就労支援 【授業の目標】 ・低所得者等の就労支援における専門職（生活保護の就労支援員、福祉事務所の就労支援コーディネーター、福祉事務所の総括コーディネーター、ハローワークの就労支援ナビゲーター、生活困窮者自立支援制度における支援員）の役割を理解する。 ・特別支援学校の進路指導担当者、企業の従業員、発達障害者支援センターの就労支援担当職員、などを（なんとなく）理解する。 【授業概要】 ・低所得者等の就労支援における専門職の役割 ・生活保護の現業員 ・福祉事務所の就労支援員 ・福祉事務所の就労支援コーディネーター ・福祉事務所の総括コーディネーター ・ハローワークの生活保護受給者等就労支援ナビゲーター ・生活困窮者自立支援制度における支援員 ・その他の就労支援の従事者 ・特別支援学校の進路指導担当者 ・企業の従業員 ・発達障害者支援センターの就労支援担当職員 ・その他の専門職 【教科書ページ・参考文献】 ・p149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者」について予習をしておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。 したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。 なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①定期試験40% ②提出物や課題40% ③授業への取り組み（授業内での発言等）20%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　アクティビティ・サービス援助技術　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
廣池　利邦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	福祉サービス利用者の心身と生活の活性化を支援するための知識・技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と教養を体得し、まず福祉サービスの担い手として国家資格の取得を第1の目的とし、さらにその資格を補強するアクティビティ・ワーカー資格取得を目指すことを到達目標とする。
授業の概要	近年、福祉施設や医療機関だけでなく日常の生活の中に『アクティビティ』という言葉が使われますが、その正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳』『自立支援』『その人らしい生き方とは』『高齢者の生きてきた道』などの言葉の意味と内容について、講義と演習により学習する。時には昔の歌を歌ったり、有名な映画や歴史的なDVD を鑑賞したりする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	オリエンテーション：履修上の注意と講義の進め方と受け方について説明します。
	第２回	導入の話「なぜアクティビティ・サービスなのか」
	第３回	レクリエーションからアクティビティ・サービスへ
	第４回	アクティビティ・サービスの定義
	第５回	アクティビティ・サービスの効果と対象について
	第６回	お年寄りと自分の人生の比較
	第７回	高齢者の知っている歌と文化を知る
	第８回	アクティビティ・サービスと介護過程
	第９回	高齢者を理解する
	第１０回	高齢者の生きがいについて
	第１１回	DVD鑑賞『認知症に効果的な音楽療法』
	第１２回	生活支援学とは
	第１３回	生活支援学としてのアクティビティ・サービスとは

	第１４回　　日本におけるアクティビティ・サービスの誕生 第１５回　　アクティビティ・サービスとICFについてと前期のまとめ 第１６回　　後期オリエンテーション 第１７回　　アクティビティ・サービスの計画 第１８回　　アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（1） 第１９回　　アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（2） 第２０回　　アクティビティカレンダーの作成上の留意点 第２１回　　グループワーク『カレンダーの作成』 第２２回　　グループ発表 第２３回　　ユーモアとは何か・DVD鑑賞『チャップリンの映画』（前編） 第２４回　　ユーモアとは何か・DVD鑑賞『チャップリンの映画』（後編） 第２５回　　グループワーク『テキストの演習課題について話し合う』 第２６回　　有名なDVD鑑賞（前編） 第２７回　　有名なDVD鑑賞(後編) 第２８回　　アクティビティ・ワーカー資格取得のレポート作成法について 第２９回　　アクティビティ・サービスと死について考える 第３０回　　アクティビティ・サービスのまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	私語を慎み、積極的な受講態度を評価する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	日頃より高齢者、障害者に関する新聞記事やTV番組などに興味をもつことを心がける。
オフィスアワー	原則として講義の前後
評価方法	定期試験60％、授業態度、小テスト、提出物等40％で総合的に評価する。
教科書	新訂アクティビティ・サービス(中央法規出版・.2014)
参考書	講義中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　特設科目・論語　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
中里　昌之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 建学の精神を深く理解し、実践することによって人を生かし自己を生かす力を身につける。 【到達目標】 ① 論語が示した道徳を説明し実践できる。 ② 論語と日本の道徳文化の影響関係が説明できる。 ③建学の精神と論語の関係が説明できる。
授業の概要	本学の建学の精神は、論語が示した道徳の実践にある。論語や陽明学がもたらしたわが国の道徳文化の受容史を学び、建学の精神と日常生活の結びつきを深め実践する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	建学の精神と日本の道徳文化の構造／論語とは何か／建学の精神の典拠について 建学の精神と日本の道徳文化の構造を解明するための方法論の説明。
	第３回	イデオロギーとしての論語の受容（日本書紀・和漢朗詠集・方丈記・雨月物語において検証） 論語の学道思想や五倫思想などがわが国にどう受容されたかを日本書記、和漢朗詠集、方丈記、雨月物語において検証する。
	第４回	論語における文学の発生とその受容（万葉集・竹取物語・古今和歌集・おくの細道などにおいて検証） 文学としての論語の思想がわが国にどう受容されていったかを万葉集、竹取物語、古今和歌集、伊勢物語、おくの細道などにおいて検証する。
	第５回	第1回から第4回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第4回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第６回	論語における道の思想の受容（夏目漱石・釈迢空・斎藤茂吉などにおいて検証） エクリチュールとしての論語の道の思想とは何かを学び、それがわが国にどう受容されたかを、古典や近代文学において検証する。
	第７回	風雅としての道の受容と日本近世思想の内部構造（仁斎・徂徠・真淵・宣長などにおいて検証） 論語における風雅としての道の思想がわが国にどう受容されたかを仁斎、徂徠、真淵、宣長において検証する。
	第８回	論語における述志と貧道の精神（松尾芭蕉・村上鬼城において検証） 論語における述志と貧道の精神がわが国にどう受容されたかを芭蕉、鬼城において検証する。
	第９回	論語における道の形而上的性格／行乞の道とその深層（芭蕉・良寛において検証） 論語における道の形而上性格がわが国にどう受容されたかを芭蕉、良寛において検証する。
	第１０回	第6回から第9回までの授業のまとめと課題レポート作成 第6回から第9回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１１回	論語における自己回帰の思想と日本の中世転形期の思想（道元・西行・兼好などにおいて検証） 論語における自己回帰の思想がわが国にどう受容されたかを道元、西行、兼好において検証する。
	第１２回	論語学としての王陽明の思想と日本の中世芸道思想の構造（世阿弥・利休などにおいて検証） 論語学としての王陽明の思想がわが国にどう受容されたかを世阿弥、利休において検証する。
	第１３回	反近代思想と論語（森鴎外・正岡子規・高浜虚子などにおいて検証） 反近代思想としての論語がわが国にどう受容されたかを鴎外、子規、虚子において検証する。
	第１４回	疑似原郷テクストとしての論語の基本構造（斎藤茂吉・北原白秋・萩原朔太郎において検証） 類似原郷テクストとしての論語がわが国にどう受容されたかを茂吉、白秋、朔太郎において検証する。

	第１５回　　第11回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第11回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後10分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	鈴木利定監修／中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院。
参考書	鈴木利定監修／中田勝著『咸有一徳』中央法規　鈴木利定著『儒教哲学の研究』明治書院
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　卒業論文　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動を実践する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践し論文としてまとめる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：論文執筆に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、卒業論文のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回

	第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　カウンセリング　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職の援助技法としてのコミュニケーション，カウンセリング技法やアセスメント結果や支援計画の伝達等について，その基本的技能と研鑽の方法について具体的な場面を想定したロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き，その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり，受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，対人援助場面におけるコミュニケーションとは 【key words】 カウンセリング，自己一致、無条件の肯定的配慮、共感的理解、熟練性、魅力性、信頼性、援助専門職の欲求、援助動機 【授業概要】 ・コース及び公認心理師養成課程における科目の位置づけ、授業契約の説明 ・心理に関する支援を要する対象とのコミュニケーションで必要となる知識を学び、知識を活用した技法によって期待される効果を左右する要因について学ぶ ・「対人援助」に関わることへの欲求や動機が、対人援助場面におけるコミュニケーションにどのような影響を与えうるかを学び、 自分自身の欲求や動機を題材に考えを深める″ 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1-12. 参考書①pp10-48.″ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布した事例の中から1つ選び、相談者の立場となって10分程度のロールプレイが出来るようワークシートを完成させ、次回持参すること
	第２回	ロールプレイを用いた演習の意義と方法 【key words】 ロールプレイ、ロールテイキング、オブザーバー、PNP技法

【授業概要】
・カウンセリング技法をはじめとする言語的／非言語的コミュニケーション技法の訓練方法について学ぶ
・事例を用いたロールテイキングによる模倣学習を体験する
・課題を用いたロールプレイとその観察を体験し、それぞれの立場からフィードバックする体験をする″

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp129-142.
参考書②pp8-20.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p25-35を通読し、「明確化」と「感情反映」がどんな技法かを理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること

第３回　傾聴技法（１）明確化・感情反映

【key words】
明確化、思考、感情、態度、行動、感情反映、生理反応、動機、欲求

【授業概要】
・傾聴技法である「明確化」と「感情反映」の定義と期待される機能について知る。
・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp25-35.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p35-40を通読し、「言い換え」と「要約」がどんな技法かを理解しておくこと
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること

第４回　〃　（２）言い換え・要約

【key words】
言い換え、意訳、要約、簡略化

【授業概要】
・傾聴技法である「言い換え」と「要約」の定義と期待される機能について知る。
・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。
・「明確化」「感情反映」も含めた一連の傾聴技法を用いたコミュニケーション方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp25-40.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p41-45を通読し、「探索」がどんな技法かを理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と質問するかを記入し、次回持参すること

第５回　活動技法（１）探索

【key words】
開放型Q（なぜ・どのように）、閉鎖型Q（いつ・誰・何・どこで）

【授業概要】
・活動技法である「探索」の定義と特徴について知る
・傾聴技法の明確化との差異をロールプレイを通じて体験し、理解を深める
・意図しない「探索」の乱用を避けるための工夫を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp41-45.
参考書①142-144；4-2 初心者が抱く心配と恐れ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p54-58、68-71を通読し、「情報提供」と「自己開示」の特徴と差異を理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：配布したワークシートの事例に対して自分なりの「情報提供」と「自己開示」を記入し、次回持参すること

第６回　〃　（２）情報提供と自己開示

【key words】
情報提供、心理教育、自己開示

【授業概要】
・活動技法である「情報提供」の定義と特徴について知る
・援助的コミュニケーションの中で用いられる自己開示の特徴と期待される効果、留意点を知る
・ロールプレイを通じて「情報提供」と「自己開示」について体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp54-58（情報提供）,68-71（自己開示）
参考書①pp124-126

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p81-97を通読し、「A-B-Cモデル」の特徴を理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること

第７回　困りごと・問題を定義づける技法

【key words】
A-B-Cモデル、問題の特定性、問題の的確性

【授業概要】
・心理に関する支援を要する対象の理解とニーズの把握及び支援計画を検討する中で困りごとや問題を定義する枠組みの1つであるA-B-Cモデルを知り、事例に応用する
・問題行動（B）を理解する際に、特定性（いつ・誰・何・どこで）の視点で整理できるようになる
・問題行動（B）を理解する際に、的確性（何・どのように）の視点から思考・情動・行動・生理を整理することを体験する

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp81-97.
参考書①pp110-112.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p13-23を通読し、観察技法とその枠組みを理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること

第８回　対人援助場面における観察技法

【key words】
観察、非言語的要素、矛盾提示、語調反射

【授業概要】
・対人援助場面における非言語的要素の重要性と観察の技法について学ぶ
・身振り、表情、生理的反応、身体的特徴、容姿、声と話し振りなどの非言語的要素の特徴とそれが持つ意味を理解する
・非言語的要素に注目した面接技法（矛盾提示、語調反射）についてロールプレイを通じて体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp13-23（観察技法）、45-49（矛盾提示）、63-67（語調反射）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：配布された事例のロールプレイ原稿の冒頭に「自己紹介」、「守秘義務の説明」を自分なりに加え、次回持参すること

第９回　伝える技法（1）必要なことを伝える（自己紹介、守秘義務、インフォームドコンセント）

【key words】
初回面接、自己紹介、守秘義務、タラソフ判決、インフォームドコンセント

【授業概要】
・初回面接を題材に、自己紹介と守秘に関する説明を行う方法とその重要性について学ぶ
・守秘義務とその例外事項について、タラソフ判決等を含めてその条件や考える観点を理解する
・相談者に説明を尽くして同意を得ることの重要性と難しさをロールプレイを通じて体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
参考書③pp44-45.
参考書①pp197-211

【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：指定された班内で、配布された簡易版の性格検査を実施し、相手へのフィードバック用の資料をA4用紙1枚以内で作成し、次回持参すること。

第１０回　〃　（2）分かったことを伝える（アセスメント結果等）

【key words】
臨床心理査定、フィードバック、倫理的配慮

【授業概要】

・心理検査や面接、観察を通じて得られたアセスメントの結果のフィードバックの実際とその意義について学ぶ
・ロールプレイを通じて、「伝える内容」と「伝え方」にどのような配慮が求められるのかを体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
参考書④pp7-23. 第1章 心理検査の伝え方と活かし方
参考書③p40-41 Ⅲ-1.アセスメントとは何か

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：教科書p99-114を通読し、目標設定とその援助手続きについて理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること

第１１回　〃　(3) これからのことを伝える（支援計画と同意）

【key words】
目標設定、最終目標の設定と具体化・現実化、利益と損失、小目標

【授業概要】
・相談者との間での目標設定とその達成に向けた経過支援について学ぶ
・相談者自身が目標達成に向けて動きやすく工夫された支援計画について学ぶ
・相談者の現実生活を検討した上で、地域資源を活用した支援方法とその計画を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp99-114.
参考書①pp129-133.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：これまでに作成・提出・評価を受けたロールプレイの振り返りワークシートを次回、持参すること

第１２回　自分の対人援助技法を振り返る方法（1）これまでのロールプレイを振り返る

【key words】
ロールプレイ、クライエント体験、自己の価値観

【授業概要】
・これまでのロールプレイで得られた感想やオブザーバー役からのコメントを振り返り、自分自身の対人的コミュニケーション方法の特徴について省察する。
・自分が苦手とする場面や得意とする場面について振り返り、グループワークを通じて受講生間でその共有を行う
・自分の特徴に沿ってどのような自己研鑽／訓練の計画を立てることができるかを考え、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
参考書②pp8-20.
参考書①pp245-253.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：指定されたペアで模擬面接を行い、その録音データをUSB等に入れて次回持参すること

第１３回　〃　(2) 録画や録音を用いた振り返り

【key words】
ロールプレイ、自己の面接技法のクセ

【授業概要】
・録画された各自のロールプレイの映像を見直し、自分の対人援助場面におけるコミュニケーション技法を振り返る
・振り返りとグループワークを通じて自分のコミュニケーション技法の特徴について省察を行う
・他者の面接映像を通じて、自分とは異なる特徴や技法を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
参考書②pp8-20.
参考書①pp245-253.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

最終レポート課題　：第12回と第13回の振り返りを経て、自分の対人援助場面におけるコミュニケーションの特徴と、その研鑽方法についてA4用紙3枚以内にまとめ、指定された期日に提出すること
課題②：指定されたグループ内で参考書③pp262-281を参考に、教育、医療・保健、福祉、司法・矯正、産業領域でどのような専門職と協働し得るかを分担し、A4用紙1枚以内にまとめて次回持参すること

第１４回　福祉、保健医療、教育等の分野におけるチームアプローチを考える

【key words】
多職種連携、守秘義務、倫理的ジレンマ

【授業概要】
・相談援助の場面で協働しうる専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、医師、カウンセラー等）の専門性と役割について学ぶ

	・公認心理師をはじめとした対人援助職としての職業倫理及び法的義務について学ぶ ・相談者に関わる専門職間で連携をとりながらチームアプローチを行う場合の留意点について学ぶ ・倫理的ジレンマに関する事例についてグループ討議を行い、その捉え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 参考書③p38-39, pp262-281 参考書①pp184-195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでの提出物等を綴じたファイルを持参すること
	第１５回　まとめ 【key words】 面接技法、自己研鑽 【授業概要】 ・これまでの講義およびロールプレイで得られた知識と考えについて振り返りを行う。 ・公認心理師をはじめとした対人援助職に求められる職業倫理と法的義務に基づく自己研鑽・生涯学習について、各自の進路設計に応じた今後の自己研鑽を検討し、グループでの共有を行う 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp129-142. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終レポート課題について期日までに作成を行い、提出すること
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること ・授業で使用したワークシートを講義後半で振り返りに用いるため、フラットファイル等で各自保管すること ・模擬面接を録画したVTRや音声の保管が必要となるため，指示に応じてUSBメモリー等を用意すること ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	(1) レポート課題の提出：35% ・100%の提出で35点評価。また規定の方法で連絡のあった欠席のみ後日の提出を認める。 ・ルーズリーフ等、規定の用紙や様式以外の提出は評価の対象としないので留意すること。 ・ワークシートの形式では、指示された全ての欄に記述があることを条件とする。空欄や不足がある場合には評価の対象としない。 ・欠席による後日の提出、または不足があった場合の再提出は講義のあった週の金曜18時までとする。 (2) 課題内容および授業内課題の取り組みの評価：65% 以下の2つの基準で評価を行う。なお最終レポートについても同様である。 基準①（7点）：指示に沿った内容の記述や考察が行われている。 基準②（3点）：レポートの体裁面の評価として、「誤字脱字なし」・「論文調の表現」・「文字数の規定」を評価する ；①②を満たして1つの課題あたり10点満点。 最終評価では総得点を100点満点に換算し、0.65をかけた値を評価点とする。
教科書	大谷 彰（著） カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）.
参考書	氏原 寛・藤田博康（著） ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）. 竹内健児（著） 事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版（2009）.
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　国際福祉論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 世界各国の福祉を検証するとともに国際社会福祉を理解して、国際的な視野・知見を、福祉・介護・保健・教育・保育・行政の現場で活かせるようにする。 〔到達目標〕 ①国際社会福祉の意義と活動を理解できる。 ②世界各国の福祉の知見を仕事・実務に活かすことができる。 ③社会福祉士試験対策や国際社会理解についての知識・情報を得ることができる。 ④グローバルな視点で現代社会を多面的に分析できる。 ⑤コミュニケーション能力・表現力・文章力を高められる。
授業の概要	国際社会福祉論及び世界各国の福祉について講義を行う。社会福祉士試験対策や国際理解について特別講義・実践報告をする。 授業は、社会情報学・都市地理学・地域政策学をベースとし、世界の思想史・法制度・経済・生活文化などから、解りやすく行う。 学生個人及びグループで発表を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（自己紹介・授業の進め方）　国際社会福祉とは
	第２回	国際社会福祉の位置づけ・沿革・課題
	第３回	国際社会における支援活動　Ⅰ．国際社会における展開
	第４回	国際社会における支援活動　Ⅱ．国内・在外社会における展開
	第５回	社会福祉の国際比較　（個人・グループ　発表）　アメリカ、スウェーデン
	第６回	社会福祉の国際比較　（個人・グループ　発表）　デンマーク、イギリス
	第７回	社会福祉の国際比較　（個人・グループ　発表）　フランス、ドイツ
	第８回	社会福祉の国際比較　（個人・グループ　発表）　オーストラリア、ニュージーランド
	第９回	社会福祉の国際比較　（個人・グループ　発表）　中国、韓国
	第１０回	世界の社会・生活・福祉（フィジー）、国際ボランティア（JICA）活動から　[実践報告・特別講義　（ 英語 ）]
	第１１回	世界各国の福祉　Ⅰ．欧米の福祉政策を中心に　[社福士試験対策を含む]
	第１２回	世界各国の福祉　Ⅱ．アジア諸国の福祉政策を中心に（その1）

	第１３回　　世界各国の福祉　　Ⅱ．アジア諸国の福祉政策を中心に（その2） 第１４回　　世界の社会・生活・福祉（ドイツ・スイスほか）、教育現場から　　［ 実践報告・特別講義（ ドイツ語 ）］ 第１５回　　まとめ （ 諸外国の福祉 ） 試験について
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業時に配布するレジュメ・資料を理解すること。 ・質問や意見また要望について、積極的に行うこと。 ・発表は、順番を守ること。学生相互の質疑応答を能動的に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業について、役立つ情報・解り易い内容・楽しい話題に心掛け、充分に準備すること。また、オリジナリティを発揮すること。
オフィスアワー	授業時に指示する。
評価方法	授業への取り組み：20点、発表：30点、試験 （ レポート提出 ）：50点。
教科書	「国際社会福祉論」 （川村匡由 ミネルヴァ書房）
参考書	「世界の社会福祉年鑑」 （ 旬報社 ）、「世界国勢図会」 （ 公財・矢野恒太記念会 ）、 「社会福祉のあゆみ」 （ 金子光一 有斐閣アルマ）、世界地図 （成美堂出版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　住環境福祉論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】高齢者・障害者が地域で安心・安全に生活し、社会参加ができる基盤となる住環境はどうあるべきか。身近な住宅のバリアフリーを通して住環境整備の方法を理解し、実際に問題解決を提案できる能力を養う。 【到達目標】①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。②在宅生活において、疾患別・生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。③基本的な建築用語を理解でき、設計図面から簡単な情報を読み取ることができる。
授業の概要	高齢者や障害者をとりまく住環境の問題点を抽出し、医療・福祉・建築など多方面から解決方法をアプローチする。主に建築について基本的な知識を身につけ、バリアフリーの具体的な手法を理解する。福祉住環境コーディネーター検定試験２級に準拠し、資格習得に役立てる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、超高齢社会と日本の木造住宅の問題点、住環境整備の必要性
	第２回	高齢者の心身の特性、高齢者に多い疾患（脳血管障害）における住環境整備
	第３回	高齢者に多い疾患（廃用症候群、骨折、認知症）における住環境整備
	第４回	高齢者に多い疾患（関節リウマチ、パーキンソン病、糖尿病　他）における住環境整備、　到達確認テスト①配布
	第５回	到達確認テストの解答と解説、障害者の生活と住環境、障害別（肢体不自由）にみた住環境整備
	第６回	障害別（内部障害、視覚・聴覚障害　他）にみた住環境整備
	第７回	住宅建築の基礎知識①（建築図面の読み方）
	第８回	住宅建築の基礎知識②（住環境整備における留意事項）
	第９回	介護保険制度における住宅改修の進め方、バリアフリーとユニバーサルデザイン、到達確認テスト②配布
	第１０回	到達確認テストの解答と解説、住環境整備の共通基本技術①（段差の解消）
	第１１回	住環境整備の共通基本技術②（床材の選択、手すりの取付）
	第１２回	住環境整備の共通基本技術③（建具・スペース・冷暖房等への配慮　他）
	第１３回	外出（アプローチから玄関ホール、廊下）における住環境整備の手法
	第１４回	屋内移動・排泄（階段・トイレ・浴室）における住環境整備の手法、到達確認テスト③配布
	第１５回	到達確認テスト解説、入浴・更衣・調理・就寝（脱衣室・キッチン・寝室）における住環境整備の手法、まとめ

受講生に関わる情報および受講のルール	講義範囲はシラバスで明示するので、授業前に必ずテキストを読んでおくこと。　到達確認テストは、次の講義までにやってくること。テスト用紙は解答・解説後に回収し、返却しない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	第４、９、１４回の講義終了後、住環境コーディネーター試験問題に準拠した到達確認テストを配布する。解答を授業で解説する。
オフィスアワー	授業のあと３０分は対応可能
評価方法	定期試験85%、到達確認テストの提出15%（全３回×5%）
教科書	東京商工会議所編・出版：福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト　改訂4版
参考書	授業中に随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　相談心理学　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　対人援助職の中でも，公認心理師をはじめとした心理学の専門職が関わる心理的援助の具体的な活動や，そこで求められる知識・職責を理解すること。 【到達目標】 ①福祉，保健医療，教育その他の分野における心理職の役割，求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。 ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。 ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点ついて具体的に述べることができ，各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。 ④心理職として求めらる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し，将来的な実践に沿って計画できるようになる。 ⑤心理職の立場から多職種間の連携や地域資源の活用の意義とその実践について説明できるようになる。
授業の概要	福祉，保健医療，教育等の領域で実践されている心理的支援やその業務の具体像を学び，それぞれの領域で求められる専門性や資格とその職責について理解することを目指す講義である。様々な領域における心理職やその支援の実際について座学と演習を通じて紹介する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 公認心理師法，公認心理師 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、平成29年7月に施行された「公認心理師法」によって誕生した国家資格である公認心理師について紹介を行い、主な活動分野である保健医療・福祉・司法犯罪・教育・産業労働における相談についてグループワークを通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 なし 第２回　福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の役割 【key words】 心理職の役割，相談，関係 【授業概要】 各領域における心理職の業務とその役割について、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。

【教科書ページ・参考文献】
福山清蔵（著）改訂版「独習 入門カウンセリング・ワークブック」 金子書房，2006年

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：グループワークの中で担当した事例への対応における倫理的問題への対応ついて調べてまとめ、次回持参すること

第３回　福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の法的義務，倫理

【key words】
法的義務，倫理綱領，行動規範，信用失墜行為

【授業概要】
各領域の心理職に求められる法的義務・倫理について、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。

【教科書ページ・参考文献】
石隈利典（著）「学校心理学；教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房,1999年
水野修次郎（著）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」 河出書房新社，2006年.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

なし

第４回　相談をはじめとする心理的支援の場でどのようにクライエントの安全を確保するか

【key words】
インフォームド・コンセント、秘密保持、リファー、制限の設定、多重関係、治療契約

【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められるクライエントの安全確保のための手段や考え方について、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
村本詔司（著）「心理臨床と倫理」朱鷺書房,1998年
津川律子・元永拓郎（編）「心理臨床における法と倫理」放送大学教育振興会，2017年.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：「相談の場で聞いた話を外でしてはいけない理由」について、『守秘義務違反だから』という理由以外で自分の考えをまとめ、次回持参すること

第５回　誰に・どこまで・何を？；心理的支援を行う上で得た情報の取り扱いと守秘義務

【key words】
守秘義務、警告義務、守秘義務の例外的状況

【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められる情報の取り扱いと守秘義務に関する留意点とジレンマについて、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。

【教科書ページ・参考文献】
水野修次郎（2006）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」河出書房新社.

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：福祉領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

第６回　福祉施設や障害者支援センターをはじめとする福祉領域における心理的支援の実際

【key words】
エンパワメント、権利擁護、アウトリーチ

【授業概要】
福祉分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
適宜指示

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：保健医療領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

第７回　病院をはじめとする保健医療分野における心理的支援の実際

【key words】
心理面接、心理査定、心理療法、緊急対応

【授業概要】
保健医療分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
適宜指示

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：教育領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

第８回　学校や教育センターをはじめとする教育分野における心理的支援の実際

【key words】
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談

【授業概要】
教育分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
適宜指示

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：司法犯罪領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

第９回　裁判所や少年刑務所等をはじめとする司法・犯罪分野における心理的支援の実際

【key words】
家庭裁判所調査官、心理技官、保護観察官

【授業概要】
司法犯罪分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
適宜指示

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：産業労働領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

第１０回　健康管理センター等をはじめとする産業・労働分野における心理的支援の実際

【key words】
ストレスチェック、EAP、復職支援

【授業概要】
産業労働分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
適宜指示

【課題・予習・復習・授業準備指示】

レポート課題：5つの領域のうち、興味関心に応じて領域を1つ選び、社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士の立場でどのように連携することができるかについて、自分の考えをA4用紙1枚以内でまとめること

第１１回　心理的支援を行う専門家としての自己課題の発見とその解決

【key words】
知識、技術、職業的ウェルビーイング、自己覚知

【授業概要】
各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己覚知と自己研鑽について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
対人援助実践研究会HEART（2003）「77のワークから学ぶ 対人援助ワークブック」久美株式会社 pp44-47

【課題・予習・復習・授業準備指示】

最終レポートの提示

第１２回　心理的支援を行う専門家としての生涯にわたって学び続けるために

【key words】
自己研鑽、ロールプレイ、スーパーヴィジョン、教育分析

	【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己研鑽についてスーパーヴィジョンとロールプレ、教育分析などの手法についての知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 大谷 彰（2004）「カウンセリングテクニック入門」二瓶社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：配布された第10回レポートの冊子を熟読し、グループワーク時に他の学生の考えが意見が分かるようにしておくこと 第１３回　多職種と連携した心理的支援の実際 【key words】 チーム医療、チーム学校、リエゾン 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種の連携について知識を学び、それぞれの作成したレポートを教材としたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 第１４回　地域資源を活用した心理的支援の実際 【key words】 アウトリーチ、包括型地域支援、一次予防、二次予防、三次予防 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う地域支援について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 石隈利典（著）「学校心理学；教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房,1999年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 第１５回　まとめ 【key words】 自己研鑽、生涯学習 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う相談活動とそこで求められる資質とその向上について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深め、講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・原則として、将来的に公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等をはじめとした相談職としての活動を志望する者を対象とする講義である。 ・受講の際は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また，やむを得ない理由で欠席する場合には事前に担当教員に申し出ること。 ・講義内での提出物や課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用，コンピューター室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード

授業外時間にかかわる情報	各回ごとに事前学習として事例や記事を配布し，その感想や自分なりの対応案をレポート課題として課すため，授業内での指示に留意すること。積極的かつ真摯な取り組むを望む。
オフィスアワー	初回に指示。
評価方法	授業ごとの小レポート課題：60%，学期末レポート課題または研究課題発表：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	なし
参考書	鑪幹八郎 ・名島潤慈（編著） 心理臨床家の手引［第3版］ 誠信書房 (2010) マリアン・コーリィ，ジェラルド・コーリー（著） 心理援助の専門職になるために；臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト 金剛出版 (2004)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　発達心理学特講　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師などに代表される対人援助職に求められる実践的な心理学として、ストレスと心身の疾病との関連，災害時に必要な心理に関する支援に関する知識を学び，医療・保健現場における実践に求められる倫理について知ることを目的とする。 ［到達目標］ ①ストレスと心身の疾病の関係について概説できる ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる ③さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援について説明できる ④災害時等に必要な心理に関する支援について説明できる
授業の概要	主に保健医療関連分野における予防，治療，リハビリテーションに関する心理的支援を行うために必要となる心理学の知識とその実践について理解することを目指す講義である。そのため、グループワークを中心にして知識の獲得と実践の授業を実施する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①ストレスと心身の疾病との関係について理解し、説明できる。	◎	○		○
②医療現場における心理社会的課題と必要な支援について理解し、説明できる。	○	◎	○	◎
③さまざまな保健活動において必要な心理社会的支援について理解し、説明できる。		◎	○	◎
④災害時などに必要な心理に関する支援について理解し、説明できる。	◎	○		◎
⑤心理師の役割とスキルについて理解し、説明できる。	◎	◎	○	
⑥報告書の作について理解し、説明できる。	○	○	◎	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【講義の概要】 社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる実践的な心理学として、ストレスと心身の疾病との関連、災害時に必要な心理に関する支援の知識を学び、医療・保健現場における実践に求められる倫理について学ぶ。 【授業の目標】 ①ストレスと心身の疾病の関連について概説できる。 ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。

③さまざまな保健活動において必要な心理支援について説明できる。
④災害時に必要な心理に関する支援について説明できる。
【成績評価の方法】
①ミニテスト　10%
②調べ発表内容　10%
③グループディスカッション　10%
④課題　10%
⑤学期末試験　60%
＊出席が規定に満たしてはじめて評価の対象になる。

第２回　ストレスと心身の疾病との関係(1)ストレス の心理学と生理学
【Key words】
ストレッサー　特異的反応　非特異的反応　恒常性（ホメオスタシス）
【授業概要】
ストレスと心身の疾病との関係について学ぶ。医療現場における心理社会的課題とその支援方法について説明する。さまざまな保健活動において必要とされる心理に関する支援について理解するとともに災害時などにおいて必要とされる心理に関する支援を知る。
【教科書ページ・参考文献】
公認心理師　必携テキストP367～P369（1ストレスとは　2キヤノンのストレスとセリエのストレス学説　3ストレスに対する生体の反応）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、ストレスとストレッサーについて、どのような関係にあるのか議論し、発表する。ストレス反応について確認する。

第３回　ストレスと心身の疾病との関係(2) 心理社会的ストレス
【Key words】
ライフイベンツ　ソーシャル・サポート　日常生活のいらだちごと
【授業概要】
種々の病気の発症前のライフイベントを評価することで、心理社会的ストレス要因を客観的に評価することや、日常生活の苛立ち事が心身の健康状態の予測に有効であるとする考え方等、の理論について理解する。【教科書ページ・参考文献】
公認心理師　必携テキスト369～P375（4心理社会的ストレスについて）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、認知的ストレス理論について隣席の人と議論し、発表する。

第４回　ストレスと心身の疾病との関係（３）　認知的ストレス理論とコーピング
【Key words】
コーピング　脆弱性モデル　心身症とその周辺領域
【授業概要】
ストレッサーとストレス反応を媒介するものとして認知的評価とコーピングが重要視されている。問題焦点型コーピングと情動焦点型コーピング理論を理解する。またポジティブコーピングの理論を知る。
【教科書ページ・参考文献】
公認心理師　必携テキストP370～P373（5認知的ストレス理論とコーピングについて　6精神疾患発症に関するストレス脆弱性モデル　7心身症と機能性身体症候群について　8身体疾患とストレスについて）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、身体疾患とストレスについて隣席の人と議論し、発表する。

第５回　医療現場における心理社会的課題と必要な支援(1)　医療現場と医療に関する法律
【Key words】
医療法による医療提供施設　病床の分類　医療倫理の4原則
【授業概要】
患者およびその家族を支えるためには、医療と福祉、保健は切り離すことができず、それぞれが密接に関係をもちながら役割を果たして遂行している。医療現場における心理社会的課題と必要な支援について概説する。また、医療に関する様々な法律および医療倫理の4原則を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
公認心理師　必携テキストP376～P380（1医療現場とは　2医療に関する法律　3医療における医療者ー患者関係と倫理）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【アクティブラーニングについて】
ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、医療における医療者と患者関係の倫理について議論し、発表する。

第６回　医療現場における心理社会的課題と必要な支援(2)　チーム医療と医療現場における公認心理師の業務
【Key words】
多職種連携　精神科医療提供施設　身体科医療提供施設　精神科リエゾンチーム　心理アセスメント　心理療法　心理カウンセリング
【授業概要】
医療現場では様々な領域でチーム医療と多職種連携が行われている。チーム医療について理解する。また精神科医療提供施設も精神科病院、精神科クリニック、精神科地域医療では、それぞれの施設によってチーム医療の在り方も異なることを知る。精神科リエゾンチームについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】

		公認心理師　必携テキストP380～P385（4チーム医療について　5医療現場での心理社会的な問題について　6医療現場における公認心理士の業務について） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、チーム医療と多職種連携について、および医療現場における公認心理士の業務について議論し、発表する。
	第７回	さまざまな保健活動において必要な心理社会的支援(1)　保健活動と保健活動における心理的な問題 【Key words】 地域保健　保健所　市町村保健　市町村保健センター　地方衛生研究所 【授業概要】 健康の保持および増進のために、予防医学の分野では、単に疾患を予防するだけでなく、早期発見、早期治療やリハビリテーション的な観点も含めて重要である。様々な保健活動がどのように行われているのかを理解する。また、保健活動における心理的な問題がどのようなものがあるのか概説する。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師　必携テキストP386～P391（1保健活動について　2保健活動における心理的な問題について） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、保健活動における心理的な問題は多種多様である。問題の一つを取り上げ隣席の人と議論して、発表する。
	第８回	さまざまな保健活動において必要な心理社会的支援(2)　公認心理師としての保健活動へのアプローチ 【Key words】 地域援助のアプローチ方法　予防教育　アウトリーチ　ケアマネジメント　アドボカシー　コンサルテーション 【授業概要】 地域援助における心理士のアプローチの方法はどのようなのもがあるのかを知る。とくに臨床心理学的支援の利用が困難な人に対して、当事者もしくはその保護者などの要請をもとに現地に出向き、信頼関係の構築やサービス利用の動機づけを行うにはどうすればよいのかを知る。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師　必携テキストP391～P392（3臨床心理士としての保健活動へのアプローチ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、地域援助における公認心理師のアプローチ方法について、隣席の人と議論し、発表する。
	第９回	災害時などに必要な心理に関する支援(1)　災害とメンタルヘルス 【Key words】 発災期　緊急対応期　復旧・復興期／リハビリテーション期　静穏期　準備期　前兆期 【授業概要】 災害への対応は災害をさいくるとしてとらえることが重要である。メンタルヘルスについても同様である。災害サイクルについては防災や支援などさまざまな視点からいくつかのモデルがある。どのようなものがあるかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師　必携テキストP393～P396（1災害とメンタルヘルス） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、DPATの活動について、グループで議論し、発表する。
	第１０回	災害時などに必要な心理に関する支援(2)　急性期の心理的支援　中長期の心理的支援 【Key words】 超急性期　急性期　亜急性期　慢性期 【授業概要】 急性期における問題としては、発災前から精神疾患を有する人では環境の急激な変化による精神症状の増悪や不適応、服薬中断による精神症状の増悪などがある。このような精神症状遺体してどのような時期にどのような支援が必要なのか概説する。また、災害・紛争など緊急時における精神保健・心理社会的支援に関するIASCガイドラインについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師　必携テキストP396～P401（2急性期（超急性期、急性期、亜急性期）の心理的支援　3中長期の心理的支援　4とくに配慮を要する支援） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、とくに配慮を要する支援についてグループで議論し、発表する。
	第１１回	心理師の役割とスキル(1)　精神医療にかかわる心理師の必須技能 【Key words】 技能の枠組み　必要な基本技能　中核技能 【授業概要】 心理師に求められる技能とその基準について理解する。コミュニケーション、ケースマネジメント、システム・オーガニゼーションの内容を把握し、それぞれの技能により心理師が何をはたすべきかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】

	公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　P170～P172（精神医療にかかわる心理師の必須技能） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、心理師に求められる技能とその基準について、グループで議論し、発表する。 第１２回　心理師の役割とスキル(2)　医療・保健分野での心理的支援における義務及び倫理 【Key words】 職業倫理　法律との違い　秘密の保持　多重関係　専門的能力 【授業概要】 商業倫理とは何かについて、概略を知る。陥りやすい問題を踏まえ、職業倫理を実践するには何が必要なのか理解する。また、法律との違いを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法P172～P174（心理師の倫理） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、秘密の保持についてグループで議論し、発表する。 第１３回　心理師の役割とスキル(3)　生物ー心理ー社会モデルと機能分析 【Key words】 生物ー心理ー社会モデル(BPS)　アセスメント　三項随伴性 【授業概要】 生物ー心理ー社会モデルとは何かについて知る。心理師を目指すうえで、なぜ生物ー心理ー社会モデルの考え方が重要なのかについて理解する。機能分析の概要、前提、臨床的意義を学ぶ。機能分析の実施手続きを学ぶ。機能分析の臨床応用例と留意点について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法P175～P178（生物ー心理ー社会モデル　機能分析） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。また、機能分析での三項随伴性に基づく行動理解と介入のポイントについて議論し、発表する。 第１４回　心理師の役割とスキル(4)　ケース・フォーミュレーションとエビデンスベイスド・アプローチ 【Key words】 アセスメント情報　データの分析　具体的問題　仮説　CBT　効果研究　受賞的データ　メタ分析 【授業概要】 ケース・フォーミュレーションの進め方や診断との違いについて理解する。ケース・フォーミュレーション作成の一連の流れを把握する。また、効果研究を実施・利用する際の留意点を知る。メタ分析を実施・利用する際の留意点を知る。エビデンスを当事者の視点から見てみる。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法P178～P18241（ケース・フォーミュレーション　エブデンスド・アプローチ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 調べてきた用語を他者に説明し合う。また、グループでCBTのケース・フォーミュレーションを作成して発表する。 第１５回　報告書の作成とまとめ 【Key words】 作成の基本的事項　報告書の構成　表現に関する注意事項 【授業概要】 報告書の機能を把握し、作成の基本的事項を理解する。ケース・フォーミュレーションのための報告書の構成を知る。依頼に応じた報告書を作成してみる。全授業の振り返りをして、学習成果と課題を明確にする。 【教科書ページ・参考文献】 公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法P183～P186（報告書の作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【アクティブラーニングについて】 ディスカッション　調べてきた用語を他者に説明し合う。またケース・フォーミュレーションの報告書を作成して、発表する。心理学的アセスメントの目的を確認する。授業のまとめとして、グループで振り返りを実施する。
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては，「心理学理論と心理的支援」「臨床心理学（社会福祉専攻）」の授業を受講済みであることが望ましい。 ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，小レポートや小テストを適宜行う予定である。 [受講のルール] ・授業には，遅刻，居眠り、忘れ物，私語，スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中 して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、など）はしないこと。 ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話など）は鞄の中にしまうこと。各自の諸事情によ

	り、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項をチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，授業の始めに小テストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	火曜日：16:00～18:00　以外の時間帯は応相談。
評価方法	①ミニテスト　10% ②調べ発表内容　10% ③グループディスカッション　10% ④課題　10% ⑤学期末試験　60% ＊出席が規定に満たしてはじめて評価の対象になる。
教科書	福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　2018年 丹野義彦（編著）「公認心理師の基礎と実践」シリーズ⑯健康・医療心理学 遠見書房、2018年
参考書	臨床発達心理士認定運営機「公認心理師の基礎と実践臨床発達心理学の基礎（講座・臨床発達心理学)2017 下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　子どもの保健Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につける。 【到達目標】 　１）子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 　２）子どもの身体の成長や運動機能・生理機能・精神機能の発達について理解できる。 　３）子どもが健康に成長できる環境について考えることが出来る。 　４）子ども保健の講義で学んだことを、社会人（親、保育士）になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。
授業の概要	子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。前期では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、後期では、子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について学び、理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション、「子ども」の健康概念 【Key Word】 子どもの保健、健康，子どもの権利の条約 【授業概要】 子どもの保健Ⅰの概要、目的、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの概念、子どもの健康の定義、子どもの権利の条約について学ぶ。 【教科書ページ】 p８～９、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p　９～１１ 第２回　「健やか親子21（第２次）」 【Key Word】 健やか親子21(第２次)、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率 【授業概要】 健やか親子２１（第２次）の課題、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率について学ぶ。 【教科書ページ】 p９～１１、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p１２～１４ 第３回　子どもの保健の実践と課題

【Key Word】

発育、発達、児童虐待

【授業概要】

子どもの発育と発達の保障、社会的育児支援、疾病障害予防、地域における保健活動と児童虐待防止について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ１２～１４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１５～１８

第４回　子どもの発育・発達

【Key Word】

胎内発育、発育期、発育曲線、発育原則

【授業概要】

受精と胎内発育、発育の区分、発育の経過と発育曲線、発育の原則について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１５～１８

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ１８～２１

第５回　新生児期の身体発育

【Key Word】

出生時体重、新生児黄疸、生理的体重減少

【授業概要】
出生時の身体計測、低出生体重児、成熟新生児の身体特徴、新生児黄疸、新生児生理的体重減少について学ぶ。

【教科書ページ】
ｐ１８～２１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ２１～２３

第６回　乳児期以降の身体発育

【Key Word】

乳児期、幼児期、学童期、思春期

【授業概要】

乳児期、幼児期、学童期、思春期の身体発育と特徴について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ２１～２３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ２４～３０

第７回　乳幼児身体発育の評価

【Key Word】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMI

【授業概要】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMIの読み方、判定基準について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ２４～３０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ｐ３１～３４

第８回　呼吸・循環機能の発達

【Key Word】

呼吸機能、循環機能

【授業概要】
子どもの呼吸機能の発達、呼吸形式の変化、循環機能を構成する組織、出生後の循環変化、血

		圧・血液の成分の変化について学ぶ。 【教科書ページ】 p３１～３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p３４～３８
	第９回	免疫機能・消化機能の発達 【Key Word】 免疫機能、消化機能 【授業概要】 免疫の概念、免疫のしくみ、消化機能を構成する器官および各々の機能について学ぶ。 【教科書ページ】 p３４～３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p３８～４１
	第１０回	尿排泄機能・水分代謝・体温調節機能の発達 【Key Word】 尿排泄機能・体温調節機能 【授業概要】 尿排泄機能を構成する組織、尿排泄機能の発達，身体の水分構成、水分必要量、子どもの平熱、体温調節機能の発達について学ぶ。 【教科書ページ】 p３８～４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４２～４４
	第１１回	内分泌機能の発達、睡眠リスム 【Key Word】 内分泌機能、睡眠リスム 【授業概要】 子どもの内分泌機能の発達、主な内分泌器官と分泌するホルモンの作用、子どもの睡眠・覚醒リズムの変化について学ぶ。 【教科書ページ】 p４２～４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４５～４７
	第１２回	感覚機能の発達 【Key Word】 感覚機能 【授業概要】 子どもの皮膚覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚の発達について学ぶ。 【教科書ページ】 p４３～４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４５～４８
	第１３回	神経機能の発達 【Key Word】 神経機能、原始反射 【授業概要】 こどもの神経系を構成する組織とその発育、神経機能の発達、原始反射、乳幼児期の運動発達について学ぶ。 【教科書ページ】 p４７～５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	p５１～５８ 第１４回　精神機能・情緒・行動の発達 【Key Word】 精神機能、言語発達、愛着行動、社会性 【授業概要】 子どもの知能の発達、言語の発達、情緒の発達、愛着行動の変化、社会性の発達について学ぶ。 【教科書ページ】 p５１～５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　いままで配布したプリントの問題を完成する。 第１５回　前期のまとめ 【Key Word】 子どもの正常な発育発達 【授業概要】 前期で学んだ子どもの正常の身体の発育、生理機能の発達について復習する。 【教科書ページ】 p９～５６、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。 第１６回　後期オリエンテーション、子どもの病気の特徴 【Key Word】 病気の特徴 【授業概要】 子どもの保健Ⅰ後期の概要、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの病気の特徴について学ぶ。 【教科書ページ】 p５７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p５７～６３ 第１７回　ウイルス性感染症 【Key Word】 感染症、予防接種、ウイルス感染症 【授業概要】 感染症の概念、感染症の分類、感染の経路、予防接種、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性疱疹、伝染性紅斑、手足口病、日本脳炎、インフルエンザについて学ぶ。 【教科書ページ】 p５７～６３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p６３～６５ 第１８回　細菌性感染症 【Key Word】 細菌性感染症 【授業概要】 扁桃炎、溶連菌感染症、破傷風、乳児ボツリヌス症、マイコプラズマ感染症、クラミジア感染症、寄生虫症について学ぶ。 【教科書ページ】 p６３～６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p６５～６８ 第１９回　先天異常 【Key Word】 先天奇形、先天代謝異常

【授業概要】

先天異常の概念、遺伝子病、染色体異常、外因・環境要因による先天異常について学ぶ.

【教科書ページ】

p６５～６８

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６５～７１

第２０回　アレルギー性疾患

【Key Word】

アレルギー

【授業概要】
アレルギー反応、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について学ぶ。

【教科書ページ】
p６５～７１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７１～７５

第２１回　消化器疾患

【Key Word】

消化器、食中毒

【授業概要】

肥厚性幽門狭窄症、腸重積、鼠径ヘルニア、虫垂炎、食中毒、ウイルス性胃腸炎について学ぶ.

【教科書ページ】

p７１～７５

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７５～７７

第２２回　呼吸器・循環器・血液系の疾患

【Key Word】
呼吸器、循環器、血液系

【授業概要】
かぜ、グループ症候群、細気管支炎、先天性心疾患、不整脈、貧血、小児白血病について学ぶ。

【教科書ページ】

p７５～７７

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７７～８０

第２３回　神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の疾患

【Key Word】

神経系、けいれん、泌尿器、皮膚

【授業概要】
髄膜炎、脳炎、脳性まひ、けいれん性疾患、けいれん発作時の手当、尿路感染症、包茎、ネフローゼ症候群、水いぼ、伝染性膿痂疹、おむつかぶれについて学ぶ。

【教科書ページ】
p７７～８０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８０～８３

第２４回　眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患

【Key Word】

眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患

【授業概要】

目の病気、中耳炎、成長痛、0脚、X脚、低身長、糖尿病、小児期の肥満、先天性代謝異常症について学ぶ。

【教科書ページ】

p８０～８３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

p８３～８４
第２５回　人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
【Key Word】

狂犬病、乳幼児突然死症候群

【授業概要】
狂犬病、乳幼児突然死症候群について学ぶ。

【教科書ページ】

p８３～８４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８９～９９
第２６回　子どもの心の健康
【Key Word】

精神保健、虐待

【授業概要】

子どもの精神発達課題、乳児期・幼児期・学齢期・思春期の精神保健、問題行動とその対応、虐待について学ぶ。

【教科書ページ】

p８９～９９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p９９～１０１
第２７回　発達障害
【Key Word】

発達障害、広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害

【授業概要】

広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害について学ぶ。

【教科書ページ】

p９９～１０１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１１９～１３３
第２８回　保育現場における衛生管理と安全対策
【Key Word】

不慮の事故、事故予防対策

【授業概要】

子どもの不慮の事故、事故の背景・要因と内容、保育所での事故、事故防止と安全対策について学ぶ。

【教科書ページ】

p１１９～１３３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１３６～１４０
第２９回　主な母子保健対策と保育
【Key Word】

健康診査、保健指導、療養援護

【授業概要】
母子保健対策における健康診査、保健指導、療養援護について学ぶ。

【教科書ページ】

p１３６～１４０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
　いままで配布したプリントの問題を完成する。
第３０回　後期のまとめ
【Key Word】

	子どもの主な病気、精神保健、衛生安全管理 【授業概要】 配布したプリントの問題を沿って、今まで学んだ子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について復習する。 【教科書ページ】 教科書p５７～１４０、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	期末筆記試験（80%）とノート（20%）を総合して評価する。
教科書	佐藤益子編著　　子どもの保健Ⅰ　　ななみ書房　　最新版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　保育内容総論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育内容とは、保育の目標を達成するために展開される全ての内容を示すものであることを理解し、その内容を保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれの目的や方法について学び、基本的な保育内容の意図を理解することを目的とする。 【到達目標】 新改訂の保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿及び、保育内容５領域を理解する 保育における、養護と教育の一体的な展開と保育計画について学ぶ
授業の概要	保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本を理解し、保育現場のエピソードや実践事例に沿いながら５領域の総合的な展開を理解していきます。また、今後の保育はどうあるべきか自分なりの考えを持てるよう、グループワークを多く取り入れ、アクティブラーニングを導入していきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　オリエンテーション 授業概要説明 第２回　幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容 保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂のポイント。 幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容について。 第３回　幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力 遊びの中に見る、「資質・能力」の三つの柱について。 第４回　養護と教育が一体的に展開する保育①　～砂遊びから～ 乳児及び1歳以上３歳未満の保育の視点について。 第５回　養護と教育が一体的に展開する保育②　グループワーク　日案を通して 養護と教育が一体的に展開する保育を考え、グループワークでより具体的な保育の展開を考える。 第６回　アクティブラーニングが展開される、小学校との連携・スタートプログラムについて 幼児教育における「主体的・対話的で深い学び」 小学校との接続を意識した記録や研修。 第７回　感性と表現を豊かにするための絵本とは 保育内容表現の領域から感性と表現とは何かを探る。持参した絵本をとおして、保育者として必要な専門性を高める。 第８回　保育内容と保育者の専門性　～保育の内容を深める遊びや児童文化財①～ 材を利用したおもちゃ作りを通して、環境設定や事前準備の大切さを体感する。 牛乳パックシアター　作成 必要なもの　ハサミ・のり・ポスターカラー・テープ・白ガムテープ 第９回　保育内容と保育者の専門性　～保育の内容を深める遊びや児童文化財②～ 牛乳パックシアター　完成・まとめ

	必要なもの　ハサミ・のり・ポスターカラー・テープ・白ガムテープ 第１０回　保育内容の今日的な課題と保育者の専門性　　新聞などの時事問題　レポート 仕事に関わる記事を収集し、制度や問題点を考える 教育・福祉・保育・子どもなど、関心のある記事を収集し、保育者としての観点から問題点を分析し、グループで話し合う。 第１１回　「環境」を通しておこなう保育　（めぶきの１　外で遊ぶ　めぶきの２　友達とかかわる　めぶきの３　自然に触れる　めぶきの４　道具を使う） 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領 まえばし幼児教育充実指針『めぶく～幼児の育ち～』を活用して、「環境」を通して行う保育を考える。 第１２回　保育の全体構造と保育内容①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿　グループワーク 自分の幼少期の思い出や実習やボランティアでの子どもとの関わりを発表し、グループでまとめる。グループワークをとおして、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を分析する。 第１３回　保育の全体構造と保育内容②５領域　グループワーク グループワークで幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を分析し、保育全体の構造から保育内容五領域を細分化した内容を考える。 子どもの姿を書き出し、ブレーンストーミングによって五領域を知る。 第１４回　「あそび」による総合的な保育　グループワーク 様々なあそびを通して育つ保育とは。５領域に関連して総合的な保育を考える。 第１５回　特別な支援を必要とする子どもの保育 インクルーシブ保育について　DVD学習
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は積極的に授業に参加すること ○関係書類などの提出期限は必ず守ること ○他の受講生の迷惑になる行為は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照すること
オフィスアワー	授業終了の30分
評価方法	筆記試験（60%）　授業内レポート・提出物（40%）の総合評価
教科書	イラストで読む　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領 まえばし幼児教育充実指針『めぶく～幼児の育ち～』　前橋市教育委員会・2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習（幼稚園）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(160)	子ども専攻・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義、演習を通して得た専門的知識・技能を活かし実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。１幼稚園の保育教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能・態度を修得する。２　保育教育活動の実践を通して、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神および保育者としての使命感を養う。
授業の概要	原則として4学年の6月に160時間（4週間）の実習を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	1. 教育実習に参加できる要件を備えていること。（必修単位取得） 2. 事前ガイダンスの受講および「教育実習の記録」を必須とする。 【実習中止の措置】 本学指導教員および実習先指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことが出来ない。

	実習前のオリエンテーションを行っていなければ、実習することは認められない。また、実習中に不適切な言動等があった場合は直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	巡回指導時にて対応
授業外時間にかかわる情報	実習園で弾く曲（園歌・挨拶の歌・季節の歌　など）を弾けるように、ピアノの個別レッスンも行う。 その他、実習についての不安や悩みについても随時対応する。
オフィスアワー	放課後（実習後）
評価方法	実習園の評価（70%） 「教育実習の記録」の評価（30%）
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」ひかりのくに
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　障害児保育Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子どもたちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。
授業の概要	障害を理解するということ、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりに気づき、障害の本質を研究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　障害児保育とは（総論） 第２回　障害とは何か 第３回　障害児保育の始まりとそこから現れてきた問題 第４回　子どもを一個も主体として受け止めることの意義 第５回　発達障害について 第６回　障害のある子の保護者の思い　医療現場とのかかわり 第７回　障害のある子どもを交えた集団保育 第８回　保護者のニーズについて 第９回　保護者のあり方 第１０回　自閉症の子どもへのかかわり方 第１１回　「共に生きる」関係の広がり 第１２回　ケース会議の展開 第１３回　障害児保育における考え違い 第１４回　障害児保育の制度（制度化以前） 第１５回　障害児保育の制度（現在）　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	・人との出会いを大切にする学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。 ・欠席・遅刻者の代返は認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	0
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業に取り組む姿勢　＊リポート　＊提出物（提出期日厳守）　＊定期試験
教科書	障害児保育（鯨岡　峻　編）　ミネルヴァ書房
参考書	指定しない
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　家庭支援論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。 ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。 ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。 【到達目標】 相談・援助を基盤にした、家族支援のプロセスを修得する。
授業の概要	テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション
＜key words＞
抗議の受け方
＜授業の概要＞
講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する
＜教科書＞
目次

第２回　現代社会と家庭
＜key words＞
家庭の変容、家庭支援、ワーク・ライフ・バランス
＜授業の概要＞
家庭や地域社会の変容を経時的に見ながら、支援の必要性や意味を知る
＜教科書＞
１－２３

第３回　家庭支援の意義と役割１
＜key words＞
家庭支援、家族支援、相談援助技術
＜授業の概要＞
家庭支援の目的を知り、それに必要な相談技術を概観する。ソーシャルワークに基本を知る
＜教科書＞
２４－４７

第４回　家庭支援の意義と役割２
同上

第５回　家庭支援と法制度
＜key words＞
支援に必要な法制度
＜授業の概要＞
家庭支援を推敲するために知っておきたい法制度について概観する
＜教科書＞
４８－７３

第６回　家庭を支援する技術１
＜key words＞
援助技術、相談技術、スーパービジョン
＜授業の概要＞

	家庭支援で使われる援助技術と相談の組み立てのためのプロセスを学ぶ ＜教科書＞ ７４－１００ 第７回　事例検討 ＜key words＞ 事例 ＜授業の概要＞ 事例を見ながら、具体的な糧支援の方法をみる 第８回　家庭を支援する技術２ 第６回に同じ ＜授業の概要＞ 事例検討で得た実際の援助プロセスを生かす 第９回　家庭支援の形態 ＜key words＞ 支援のバラエティ ＜授業の概要＞ 支援のバラエティを見ながら、具体的な支援の展開を見る ＜教科書＞ １０１－１２８ 第１０回　家庭支援に関わる社会資源 ＜key words＞ 社会資源 ＜授業の概要＞ 家庭支援に生かせる専門機関や地域の資源を見ていく ＜教科書＞ １２９－１５５ 第１１回　子育て支援政策 ＜key words＞ 次世代育成支援、待機児童、少子化社会対策 ＜授業の概要＞ 子育て支援施策の歴史的展開を見ながら、効果等について検証する ＜教科書＞ １５６－１８２ 第１２回　保育所の子育て支援機能 ＜key words＞ 保育の中での支援機能 ＜授業の概要＞ 保育所における支援の実際を見ていく ＜教科書＞ １８３－２１４ 第１３回　保育所における子育て支援サービス ＜key words＞ 保育サービス ＜授業の概要＞ 保育事業の現状から、支援の課題や問題を掘り起こしていく ＜教科書＞ ２１５－２４３ 第１４回　特別な配慮の必要な家庭への支援 ＜key words＞ 支援の意味、児童虐待、発達障害 ＜授業の概要＞ 児童虐待や発達障害等配慮の必要な家庭への支援の方法を考えていく ＜教科書＞ ２４４－２７４ 第１５回　まとめ まとめ 質疑応答
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習、復習をすること ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで必要に応じて伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	小野・田中・大塚編「家庭支援論」ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、児童福祉司、SV、言語聴覚士等） アクティブラーニング要素

	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　地域子育て支援論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。 【到達目標】 ①子育てへの社会的支援の具体的方法を知る。 ②社会的支援における多職種連携のあり方を理解する。
授業の概要	テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション ＜key words＞ 講義の受け方 ＜授業の概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する ＜教科書＞ 目次 第２回　子育て支援の理念 ＜key words＞ 子育て支援 ＜授業の概要＞ 子育て支援は何のためにあるか、経時的に見てその変遷を知る ＜教科書＞ １－１４ 第３回　子育て支援の歴史文化的諸相 ＜key words＞ 子育ての歴史的変容、子育て不安 ＜授業の概要＞ 子育ての歴史的変容を見ながら、現代の子育て不安の状況を把握する ＜教科書＞ １５－２３ 第４回　幼稚園における子育て支援の取り組み ＜key words＞ 子育て支援 ＜授業の概要＞ 幼稚園の実際の支援例を見ながら、その展開を見ていく ＜教科書＞ ２９－４４ 第５回　幼稚園による地域の子育て支援 ＜key words＞ 地域における支援、アウトリーチ ＜授業の概要＞ 幼稚園の地域を対象とした支援の意義と実際を概観していく ＜教科書＞ ４５－５８

	第６回　保育所における子育て支援 ＜key words＞ 保育所保育指針、子育て支援 ＜授業の概要＞ 保育所保育指針にある子育て支援の必要性と意味を知る ＜教科書＞ ５９－７５ 第７回　子育てセンターの活動と課題 ＜key words＞ 子育て支援、子育てセンター ＜授業の概要＞ 子育てセンター等支援の具体的な活動内容と課題を考える ＜教科書＞ ７６－９１ 第８回　事例検討 ＜key words＞ 事例検討 ＜授業の概要＞ 支援の事例を通して、活動内容の実際を知る 第９回　地域子育て支援活動１ ＜key words＞ 子育て支援センター、障害家庭 ＜授業の概要＞ どこがどんな役割を持って、また連携をして支援を展開していくかを学ぶ ＜教科書＞ ９２－１２４ 第１０回　地域子育て支援活動２ 同上 第１１回　子育て支援の効果 ＜key words＞ 支援の効果判定 ＜授業の概要＞ 子育て意識に基づいた支援の実施と効果の判定について概観する ＜教科書＞ １２５－１４０ 第１２回　父親の子育て支援活動 ＜key words＞ 父親支援 ＜授業の概要＞ 母親主体の養育から父親の養育参加の支援の方法について学ぶ ＜教科書＞ １４１－１６１ 第１３回　事例検討 ＜key words＞ 事例検討 ＜授業の概要＞ 支援の事例を通して、支援内容の実際を知る 第１４回　子育て支援活動の展望と課題 ＜key words＞ 今後の展望と課題 ＜授業の概要＞ 子育て支援の今後の展開とそこにある課題について見ながら、支援の必要性を協議する ＜教科書＞ １６２－１７６ 第１５回　まとめ まとめ 質疑応答 補足説明
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで適宜伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	子育て支援プロジェクト研究会編「子育て支援の理論と実践」　ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、児童福祉司、SV、言語聴覚士等）

	アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　人権教育論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。 【到達目標】 人権の面において、新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になるよう努力することである。
授業の概要	真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　人権教育の推進は真の国際化につながる 第２回　人格教育のための国連10年 第３回　“みんな同じ”　という幻想 第４回　国際的な人格基準の歴史 第５回　国際交流では本来、対立が生じることになる 第６回　多様性教育と人格教育の関わり 第７回　偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い 第８回　日本の人格教育の特徴 第９回　日本の政府関係者の取り組みとこれからの課題 第１０回　真の国際化と間違った国際化 第１１回　人格文化とは 第１２回　善意の姿勢 第１３回　絶縁社会

	第１４回　　江戸時代の子育てについて学ぶ 第１５回　　経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　青少年の理解と援助　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
廣池　利邦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、最近の事件をテーマにした話し合いを通して、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。
授業の概要	不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・キレる青少年・親殺しなどといったことが社会現象になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育、地域社会教育の実態について教育学的視点から分析し、わかりやすく概説する。また、転校生へのいじめ、地域の縄張り争いのけんか、校内暴力の激しかった時代の映画などを鑑賞しながら、青少年には何が必要なのかをクラスで考えます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　：　シラバスの読み方と授業の進め方を説明する。 第２回　青少年と教育の現状について。 第３回　教育学の復習　：　教育とは何か。教えることの意味について。 第４回　学習の意味。 第５回　青少年の人間形成の過程。青少年の教育環境。 第６回　DVD鑑賞：「理由なき反抗」転校生を主人公(ジェームス・ディーン）にした､戦後の名画の一つ。 第７回　DVD鑑賞：「理由なき反抗」（後編） 第８回　家庭教育の限界と学校の成立。 第９回　少年期とは。少年のこころとは。無邪気に遊ぶ意味。 第１０回　DVD鑑賞：「ウエスト・サイド・ストーリー」縄張り争いと人種偏見で有名なニューヨークを舞台にしたミュージカルの傑作。 第１１回　DVD鑑賞：「ウエスト・サイド・ストーりー」（後編） 第１２回　青年期とは。青少年の心に関する話し合い。 第１３回　DVD鑑賞：「スクールウオーズ」校内暴力からラグビーを通して立ち直った京都の高校の実話の映画化。 第１４回　DVD鑑賞：「スクールウオーズ」（後編） 第１５回　青少年の理解と援助のまとめ。

受講生に関わる情報および受講のルール	出席を重視し授業態度を評価するので、積極的な授業参加や鋭敏な反応を期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	日頃から青少年に関する事件や情報、文化活動、社会活動等に興味関心を示す態度で生活すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。
教科書	廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版、2008
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（幼稚園）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。 【到達目標】 ・子どもの姿のとらえ方、援助の言葉掛け等ができるようにする。 ・環境構成の考え方を学ぶ。 ・実習での指導案、日誌、記録が書けるようになる。 ・運動遊び、製作活動などさまざまな保育が行えるようにする。 ・責任実習での1日を想定できるようにする。
授業の概要	事前指導では教育実習（幼稚園）の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに実習日誌の記録方法・指導案立案・保育技術等を習得する。事後指導では実習の総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　教育実習（幼稚園）の意義・目的　実習関係書類作成 【key words】 幼稚園教育実習とは 【授業概要】 ・教育実習を行うための事前準備のポイントを把握する。 ・実習生紹介票の下書きを書く（自分の長所、短所、実習目的を明確に相手に伝わる文章を書く） 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブックP146～147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回「実習生紹介票」の清書を書く準備をしておく 【アクティブラーニングについて】 第２回　教育実習（幼稚園）の実習計画、実習方法と心構え　オリエンテーションについて 【key words】 教育実習の準備、心構え① 【授業概要】 ・実習生としての身なりや服装、立ち振る舞い、言葉についての説明を受け、準備するものを書き出してみる。 ・実習生紹介票の清書をする。 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブックP146～147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習園の概要、沿革等を調べ、ノートに書いておくこと 【アクティブラーニングについて】 第３回　実習記録について　実習記録の意義と内容、実習日誌の書き方 【key words】 教育実習の準備、心構え②　【 授業概要】 ・実習記録の書き方や、着眼点についての説明を受け、その日の流れを実習日誌にどのように書き込んでいくか理解できるようにする

・実習日誌の書く分量や、相手にとって読みやすい文字の書き方や大きさ、保育での言いまわしの表現方法のポイントを把握できるようにする。 ・オリエンテーションの大切さについて知り、
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第４回　指導計画①指導計画と指導案の書き方、指導案作成
【key words】
部分実習・責任実習
【授業概要】
部分実習・責任実習、それぞれの指導案の書き方と、書く際の留意点の説明を聞く。 実際の指導案を何枚か読んでみる。
【教科書ページ・参考文献】
実習の日誌と指導案　　保育雑誌「ピコロ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第５回　指導計画②指導案作成　教材研究と指導技術（1）
【key words】
絵本と手遊び
【授業概要】
実際に部分実習指導案を書いてみる。そおの指導案に合わせて「手遊び」と「読み聞かせ」をグループ内で発表し合う。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
手遊び2つ、読み聞かせ用の絵本を2冊を各自準備しておくこと
【アクティブラーニングについて】

第６回　指導計画③指導案作成　教材研究と指導技術（2）
【key words】
子どもの製作
【授業概要】
ひとり2つ以上の製作物を発表する 発表の後に意見交換や、気になるものがあったら作り方などを聞き、共有しながら学び合ってい く。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
2つ以上の製作物の見本をつくって持ってくる。 材料や作り方の手順、材料の購入先や値段等も答えられる準備をしておく
【アクティブラーニングについて】

第７回　指導計画④指導案作成　教材研究と指導技術（3）
【key words】
子どもの運動遊び
【授業概要】
外部講師（やまて幼稚園園長）による、子どもが楽しめる運動遊びの指導をいただく
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きやすい格好をしてくること、メモをとること
【アクティブラーニングについて】

第８回　指導計画⑤指導案作成（1）
【key words】
指導案の記入
【授業概要】
教材研究と指導技術（1）（2）でやったことを、指導案に書いてみる
【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を書くので、各自参考になる保育雑誌を持ってくる
【アクティブラーニングについて】

第９回　指導計画⑥指導案作成（2）
【key words】
指導案の記入
【授業概要】
教材研究と指導技術（1）（2）でやったことを、指導案に書いてみる 「実習の記録と指導案」
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を書くので、各自参考になる保育雑誌を持ってくる
【アクティブラーニングについて】

第１０回　幼稚園教育実習直前指導
【key words】
実習生の心得
【授業概要】
学長、学部長、子ども専攻児童福祉コース教員から、実習に行く心得の講話をいただく
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
制服着用、メモを取ること
【アクティブラーニングについて】

第１１回　実習スタートの総まとめ
【key words】
実りある実習にするために
【授業概要】
指導案、日誌の書き方等の質疑応答。ピアノ指導等。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【アクティブラーニングについて】

第１２回　事後指導①　実習での自己評価

	【key words】 お礼状・自己評価 【授業概要】 実習園にお礼状を書く 実習での自己評価をワークシートに書く 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 便箋・封筒・82円切手を持参する（お礼状） 【アクティブラーニングについて】 第１３回　事後指導②　実習報告会 【key words】 責任実習 【授業概要】 責任実習を行った年齢別にわかれ、グループワークを行う 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 責任実習で書いた指導案を持ってくる 【アクティブラーニングについて】 第１４回　実習反省会 【key words】 保育者になるために 【授業概要】 実習に向けて準備不足を感じたことや、実習中に困ったことなど意見交換を行い、情報を共有し、保育者になるためにどんな力が必要か課題を見つけ、検討する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の実習内容を振り返り、課題を書き出しておく 【アクティブラーニングについて】 第１５回　まとめ 【key words】 実習生評価票 【授業概要】 園から送られてきた実習生評価票に基づき、よかった点や課題となるところを伝え、実習での学びを生きた経験にする 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習日誌の回収 【アクティブラーニングについて】
受講生に関わる情報および受講のルール	・幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修すること ・すべての講義に出席すること ・課せられた課題の提出期限は厳守すること ・欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	製作や運動遊び、手遊び、読み聞かせ等いつでも出来るように準備しておく
オフィスアワー	月曜13：00～15：00　それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。
評価方法	平常点（授業への取り組み、授業中に課す課題等）５０％　　授業中に実施したレポート、発表および提出物５０％　を総合的に評価する。
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」（ひかりのくに）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、②デスカッション、③グループワーク、④プレゼンテーション、⑤実習、フィールドワーク 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭の経験を活かし、幼稚園教諭としての知識、技術、価値、倫理について講じます。 アクティブラーニング要素 ■協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　幼児理解　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
塚越　康子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間の成長・発達を学び、その過程における子どもや家族の課題を理解したうえで、子どもを対象とした援助者として必要な子どもおよび家族を理解し、支援できる具体的方法を考え、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもを含む人間の成長・発達過程における課題についてを学び、理解する。 ②子どもを取り巻く環境について学び、理解する。 ③保護者について学び、理解する。 ④保護者からの教育相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。 ⑤対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。
授業の概要	子どもの援助を行うためには、子どもの成長・発達の過程を理解するとともに子どもを取り巻く家族の理解も必要である。子どもおよびその家族を支援することができる援助方法や関わり方を学び、子どもおよび家族への援助を考えていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①子どもを含む人間の成長・発達過程における課題についてを学び、理解する。				
②子どもを取り巻く環境について学び、理解する。				
③保護者について学び、理解する。				
④保護者からの教育相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。				
⑤対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。				
⑥				

授業計画	第１回　本講義のオリエンテーション　講義の進め方および対人援助専門職における自己覚知 授業概要：科目の位置づけとシラバスの説明を含めた講義オリエンテーション。 幼児理解に必要な方法を自己理解を深めるための自己表現をとおして学ぶ。 Key words:子ども理解、人間理解、自分のことを知る、考える、表現する 教科書ページ・参考文献：まえがき　第1章　幼児理解の必要性と概要　P2-19 課題・予習・復習・授業準備指示：子どもの目線での絵本を選定し、第2回目に持参する。 第２回　子どもを理解する　①子どもを理解する方法 授業概要：子どもへの支援方法を具体的に考え、学ぶ。 子ども理解のために必要な子どもの側に立つことを理解する。 key words：子ども理解、まなざし、子どもの側に立つ 教科書ページ・参考文献：第1章　幼児教育の基本　P8－19 課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。 子ども（または人間）の目線での絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。 第３回　子どもを理解する　②絵本をとおして子どもを理解する 授業概要：子どもや他者の表現を受けとめるために、絵本を使い、内面の表現を掴む。

その表現を掴む援助者自身の視点を学び、理解する。
key words：非言語の表現、絵本、表現を感じる、子どもの内面
教科書ページ・参考文献：　第1章　幼児教育の基本　P8－19
第8章　幼児理解の方法3－パーソナリティ　P91－100.
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。
子ども（または人間）の目線の絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。

第４回　子どもを理解する　③子どもの内なる視点
授業概要：子どもや他者の表現を受けとめるために、絵本を使い、内面の表現を掴む。
その表現を掴む援助者自身の視点を学び、理解する。さらに、自分の感じたことを他者に伝える。
key words：　子どもの内面、絵本の表現、他者の視点・表現を受けとめて考える、他者に伝える
教科書ページ・参考文献：第9章　幼児理解の方法4－社会性　P101-110
第10章　具体的な幼児の捉え方－保育カンファレンス　P111-120
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。
子ども（または人間）の目線の絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。

第５回　子どもを理解する　④子どもの成長と発達
授業概要：援助者のからだとこころをとおして行うには、子どもの何を理解し、何を援助するのか。理解と援助の内容や方法を具体的に知り、考える。
key words：かかわる、観る、聴く、考える
教科書ページ・参考文献：　第5章　発達段階　第6章　発達段階　幼児理解の方法1－行動観察　P68-77
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第６回　子どもを理解する　⑤援助の必要な子どもの特徴
授業概要：発達障碍の内容及び特徴を理解する。さらに当時者の言葉から障碍を持つ人の気持ちを理解して、　障碍を持つ人との関わり方を具体的に考える。
key words：　発達障害の特徴・関わり方・積み重ね
教科書ページ・参考文献：第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.・配布資料
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第７回　子どもを理解する　⑥援助の必要な子どもとの関わり方
授業概要：障碍のある子どもとの出会いを援助者側がどのように捉え、関わるのか事例をとおして理解する。
key words：　子どもとの出会い、障碍のある子ども、援助者側の揺れ・迷い
教科書ページ・参考文献：第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.
東田直樹著 あるがままに自閉症です エスコアール2013
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第８回　子どもと保護者を理解する　支援が必要な家庭と保護者
授業概要：支援が必要な子どもを抱える家庭や保護者の状況を理解するために必要な支援者の視点を考える。
key words：支援が必要な家庭、保護者の気持ち、援助者の視点
教科書ページ・参考文献：第10章　具体的な幼児の捉え方－保育カンファレンス　P111-120
第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.　・　配布資料
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第９回　保護者を理解する ①子どもにとっての環境　②保護者からの訴え　③保護者との関わり方
授業概要：気になる子どもの特徴を理解した上で、気になる子どもや保護者との関わり方を具体的に考える。
key words：　親子関係・家庭環境・背景
教科書ページ・参考文献：第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.　・　配布資料
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第１０回　子どもと家族を支援する　①子どもと保護者の特徴を理解する　②背景を理解する
授業概要：子どもにとって保護者とは、どのような存在なのかを学び、子どもを持つ保護者や家庭について
理解を深める。
key words：背景、親子関係、関わり方・伝え方
教科書ページ・参考文献：第14章　幼児を知るための保護者理解　P154 - 164
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第１１回　子どもと家族を支援する　③相談援助と保護者を支えること
授業概要：気になる保護者の特徴を理解した上で、気になる子どもや気になる保護者との関わり方を教科書
および配布資料の事例から具体的に考える。
key words：保護者支援・家庭支援、自らの価値観、関わり方・伝え方、援助者の姿勢
教科書ページ・参考文献：第14章　幼児を知るための保護者理解　P154 - 164　第13章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P143－153
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。

第１２回　学校における教育相談の意義と理論
授業概要：学校での教育相談の意義について学び、具体的な援助方法を考える。
key words：教育相談・話を聴く・背景・保護者との関わり方
教科書ページ・参考文献：第13章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P143－153
第14章　幼児を知るための保護者理解　P154 - 164　配布資料
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。

第１３回　教育相談の基礎的知識　カウンセリングマインド
授業概要：子ども理解のため、カウンセリングマインドの考え方を学び、援助者自身の視点を考える。
key words：子どもの内面、子どもの側に立つ、援助者の視点、カウンセリングマインド
教科書ページ・参考文献：第13章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P143－153
課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。

第１４回　教育相談の具体的な進め方

	授業概要：保護者の話を聴くことの意味を考え、具体的な方法を学ぶ。 key words：カウンセリングマインド・傾聴と受容・つなぐ 教科書ページ・参考文献：第13章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P143－153 第15章　保育の改善の視点　P165 - 175 配布資料 課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。 第１５回　地域の専門機関との連携、全体のまとめ 授業概要：外部機関について学び、保護者を繋ぐ方法を考える。 key words：専門機関・医療機関・福祉制度・心理専門家・つなぐ 教科書ページ・参考文献：第13章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P143－153　配布資料 課題・予習・復習・授業準備指示：本日の学習について教科書を熟読する。
受講生に関わる情報および受講のルール	①子どもに関わる対人援助専門職の資格取得にかかわる講義のため、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本となります。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めません。 ②授業参加状況（相談・連絡･報告ができる、講義理解の確認のためのコメントカードの記述内容）を重視します。 ③自ら具体的に考え、工夫し、現場における子どもの援助についての視点が持てることを目標に主体的的な授業参加を期待します。 ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。 ⑤欠席をした場合、授業配布プリント等は次週自ら申し出てください。欠席者の分を出席者が受け取ることはできませ　ん。 ⑥提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。
オフィスアワー	講義後の20分間、初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み(グループワークなど授業への参加状況)20% ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%③ 定期試験および課題レポート40%
教科書	新版幼児理解　谷田貝公昭監修　大沢裕編著　一藝社　2018
参考書	①最新保育講座　こども理解と援助　高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房　2011 ②新･保育講座３　幼児理解と保育援助　森上史朗+浜口順子編　ミネルヴァ書房　2003 ③ 新時代の保育双書 「子どもの理解と保育・教育相談」　小田豊･秋田喜代美編（株）みらい 2009　④ 「子ども理解と保育実践　子どもを知る・自分を知る」塚本美知子編著　萌文書林　2013　その他参考書は講義内で適宜指示します。　⑤保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　その他参考書は講義内で適宜指示します。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士として児童養護施設での被虐待児への心理療法、小中学校でのスクールカウンセラーとして児童生徒や保護者および教職員への支援、キンダーカウンセラーとして就学前の幼児や保護者および職員への幼稚園での心理的支援、地方自治体の子ども発達支援センターでの母子相談に従事。子どもにかかわる様々な現場での心理的支援の実務経験を活かし、子どもやその保護者、教職員の理解方法や具体的支援方法について、知識と具体的事例をとおして講義します。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（特支）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援学校の教育実習にあたり、本実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通して特別支援学校の教員と　なる資質・意欲を高める。 【到達目標】 1　特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。 2　障害のある児童生徒理解に努め、一人一人の障害特性に合った個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、児　童生徒の実態に即した指導方法を組み立てることができる。
授業の概要	1　特別支援学校教育実習の意義・目的を十分理解し、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を　　行う。 2　障害のある児童生徒一人一人の理解に努め、障害特性を踏まえた個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、　教育課程の自主編成を理解する。 3　本実習終了後、報告書を作成し発表する。研究授業の指導案をもとに授業実習の振り返りを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテ―ション　教育実習の意義と目的、心構え

【key words】
　教職　免許法、特別支援教育、特別支援学校、校務分掌、守秘義務
【授業概要】
　教育実習へのガイドブックをもとに、教育実習の意義と目的、実施の方法と内容、手続き、心得等について　学習する。
【教科書ページ・参考文献】
　教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-11、Ｐ46-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　教科書を事前に読んで予習しておくこと。授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこ　と。

第２回　特別支援学校実習にあたり、ＤＶＤ視聴によるガイダンス（知的障害）

【key words】
　知的障害を主な対象とする特別支援学校、教科等を合わせた指導、自立活動
【授業概要】
　学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が　映像を止め説明を加える。特に、知的障害を対象とする特別支援学校における特徴的な指導形態である教科　等を合わせた指導について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

　授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。

第３回　特別支援学校実習にあたり、ＤＶＤ視聴によるガイダンス（肢体不自由）

【key words】
　バリヤフリー設備、自立活動、医療的ケア、摂食指導、食形態
【授業概要】

学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が　映像を止め説明を加える。特に、肢体不自由を対象とする特別支援学校における特徴的な校舎設備（バリヤ　フリー、自立活動室等）や自立活動の指導、医療的ケア等について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。

第４回　障害特性の理解（知的障害）と教育課程　①
【key words】
学校教育法施行規則22-３　就学基準　（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）、知的障害　の特性
【授業概要】
教育実習へのガイドブックを中心に、基本的事項の確認を行うとともに、知的障害の特性に対応した教育的　配慮について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ61-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。知的障害の特性について整理しておく。

第５回　障害特性の理解（知的障害）と教育課程　②
【key words】
特別支援学校の教育課程の類型
【授業概要】
教育実習へのガイドブックを中心に、特別支援学校の教育課程の基本的な類型について確認するとともに、　それぞれの特徴について理解する。また、知的障害教育において特徴的な指導形態である教科等を合わせた　指導について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ65-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。知的障害教育における教科等を合わせた指導について、説明できるよ　うにしておく。
第６回　障害特性の理解（肢体不自由）と教育課程　①
【key words】
肢体不自由の障害特性、教育的な配慮
【授業概要】
教育実習へのガイドブックを中心に、基本的事項の確認を行うとともに、肢体不自由の特性に対応した教育　的配慮について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ62-64　　特別支援学校学習指導要領解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。肢体不自由の障害特性について整理しておく。

第７回　障害特性の理解（肢体不自由）と教育課程　②
【key words】
準ずる教育課程　自立活動を主とする教育課程、自立活動の指導
【授業概要】
自立活動を主とした教育課程について、学習指導要領を読み解くことで教育課程状の位置づけを理解する。　また、自立活動を主とした教育課程については、児童生徒の実態によってさまざまな類型があることも理解　する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ65-67　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。自立活動を主とする教育課程について整理しておく。

第８回　障害特性の理解（病弱）と教育課程
【key words】
病弱を主たる対象とする特別支援学校　分校　院内教室　準ずる教育課程　病弱児に対する自立活動
【授業概要】
病弱に対する既習の基本的内容をもとに、学習指導上の配慮や自立活動の内容等について、教科書、参考文　献、資料等を参考に学習する。県内の病弱特別支援学校の現状についても把握する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ64-65　　特別支援学校のすべてがわかる　教員をめざすあなた　へ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。

第９回　学習指導案の作成　　生活単元学習　①
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性
【授業概要】
生活単元学習の学習指導案の作成例をもとに、特別支援教育における学習指導案の作成方法について理解す　る。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深め　る。
【教科書ページ・参考文献】

教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書及び学習指導要領を読んでおくこと。各教科等を合わせた指導について、説明できるようにしておく
こと。

第１０回　学習指導案の作成　　生活単元学習　②
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性
【授業概要】
学生が作成した学習指導案及び授業について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生活単元学習の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。

第１１回　学習指導案の作成　自立活動　①
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性
【授業概要】
自立活動の学習指導案の作成例をもとに、特別支援教育における学習指導案の作成方法について理解す　る。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動の学習指導要領解説書を読んでおくこと。

第１２回　学習指導案の作成　自立活動　②
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性
【授業概要】
学生が作成した学習指導案及び授業について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。

第１３回　学習指導案の作成　日常生活の指導　①
【key words】
日常生活の指導（朝の会、帰りの会、基本的生活習慣の指導等）
【授業概要】
日常生活の指導の学習指導案の作成例をもとに、特別支援教育における学習指導案の作成方法について理解　する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深　める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の各教科を合わせた指導についてを読んでおくこと。各教科等を合わせた指導について説明で　きるようにしておくこと。

第１４回　学習指導案の作成　日常生活の指導　②
【key words】
日常生活の指導（基本的生活習慣等）
【授業概要】
学生が作成した学習指導案及び授業について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。

第１５回　学習指導案の作成　各教科の指導　①
key words】
国語、算数・数学、図工・美術等の指導
【授業概要】
各教科の学習指導案の作成例をもとに、特別支援教育における学習指導案の作成方法について理解する。特　に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び段階的な指導について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領各教科の解説を読んでおくこと。

第１６回　学習指導案の作成　各教科の指導　②
【key words】

国語、算数・数学、図工・美術等の指導
【授業概要】
学生が作成した学習指導案及び授業について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各教科の学習指導案について指示された項目を作成しておく。

第１７回　教育実習で留意すること、教育実習録の書き方
【key words】
教育実習録　評価　教育実習報告会
【授業概要】
教育実習を実施するにあたり、教育実習録や教育実習報告会資料の書き方について、資料（様式）をもとに　学習する。また、これらの書類の作成については、事務的な面だけでなく、作成過程を通じで自己評価をす　るということを学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ9-10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで予習しておく。

第１８回　本実習前オリエンテーション
【key words】
教育実習に向けての個人目標、守秘義務、安全管理
【授業概要】
教育実習を実施するに当たり、実習生としての心得を改めて確認するとともに、学生が一人ずつ自分の目標　について発表する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-11、Ｐ46-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習に向けての自分の目標を明確にしておくこと。

第１９回　インクルーシブ教育と特別支援教育　①
【key words】
障害者の権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮、基礎的環境整備、特別支援教育の現状、医療的ケア
【授業概要】
障害者関係法規の変遷を押えながら、現在の障害者をめぐる社会の動きについて概要を理解する。併せて、　特殊教育から特別支援教育への概念の変化、現在、今後の課題等についても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。

第２０回　インクルーシブ教育と特別支援教育　②
【key words】
障害の捉え方　障害モデル（医学モデル、社会モデル）　多様性　想像力
【授業概要】
人の多様性や障害の捉え方について事例や実地体験をとおして改めて考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。

第２１回　教員として働くことについて
【key words】
学習指導、生徒指導、学校組織（チームで働く）、保護者との連携、コミュニケーション力

【授業概要】
今後求められる教員としての資質（教師像）について、現在の教育現場の課題や教育実習等の経験から考え　る。（講義、協議）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から教育関係の情報について収集しておく。

第２２回　教育実習報告会・検討会　①　教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等
【key words】
学習指導、生徒指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、校務分掌、保護者との　連携
【授業概要】
教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について　検討を加えることで、教育実習をより充実したものとする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習報告書を作成しておくこと。発表したい事項をまとめておくこと。

第２３回　インクルーシブ教育と特別支援教育　①
【key words】
障害者の権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮、基礎的環境整備、特別支援教育の現状、医療的ケア
【授業概要】
障害者関係法規の変遷を押えながら、現在の障害者をめぐる社会の動きについて概要を理解する。併せて、　特殊教育から特別支援教育への概念の変化、現在、今後の課題等についても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。

第２４回　インクルーシブ教育と特別支援教育　②、　教員として働くことについて
【key words】
障害の捉え方、障害モデル（医学モデル、社会モデル）、多様性、想像力学校組織（チームで働く）、保護　者との連携、コミュニケーション力
【授業概要】
人の多様性や障害の捉え方について事例や実地体験をとおして改めて考える。今後求められる教員としての　資質（教師像）について、現在の教育現場の課題や教育実習等の経験から考える。（講義、協議）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。

第２５回　教育実習報告会・検討会　②　教育実習の内容、授業実習・研究授業について、児童生徒との関わり等
【key words】
学習指導、生徒指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、校務分掌、保護者との　連携
【授業概要】
教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について　検討を加えることで、教育実習をより充実したものとする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習報告書を作成しておくこと。発表したい事項をまとめておくこと。

第２６回　研究授業の指導案をも元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ　知的・肢体　①
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】
教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その　後、検討会を行う。担当になった学生は、自分が作成した指導案や実施した授業について、質疑に答えられ　るように準備をしておく。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業について、コメ　ントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。

第２７回　研究授業の指導案をも元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ　知的・肢体　②
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】
教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その　後、検討会を行う。担当になった学生は、自分が作成した指導案や実施した授業について、質疑に答えられ　るように準備をしておく。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業について、コメ　ントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。

第２８回　研究授業の指導案をも元に授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ　知的・肢体　③
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】
教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その　後、検討会を行う。担当になった学生は、自分が作成した指導案や実施した授業について、質疑に答えられ　るように準備をしておく。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業について、コメ　ントをする。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。 第２９回　教育実習のまとめ　① 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 研究授業指導案検討会を通じて検討してきた各教科等の指導案について、改めて各教科等ごとに作成上のポ　イントを確認、整理する。また、自分が作成した指導案について、改めて推敲をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業中に指摘された箇所を修正しておく。 第３０回　教育実習のまとめ　②　学校の危機管理 【key words】 危機管理 【授業概要】 現在の学校現場における様々な危機管理について、想定される危機とそれぞれの危機への対応方法について　具体的に学ぶ。また、併せて教育公務員としての意識（識見）の向上を図る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日　日頃から学校の危機管理の情報について、新聞記事等から情報収集をしておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	1　本講義は4年時に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届けること。欠席　　や遅刻の多い学生（3回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止もあり得るため、熱心　　な受講態度を求める。 2　教育実習に向けて、児童生徒の障害特性を理解し、個別の指導計画及び学習指導案の作成に積極的に取り組み、授業　　構成や教材研究を熱心に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指　定された形式に則り、教育実習報告会の1週間前までに提出すること。 ・実習校の情報に注意を向け、学習支援ボランティア等に積極的に参加すること。 ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。 ・学習指導要領、解説書を読んでおくこと。
オフィスアワー	授業時に指示する。
評価方法	授業中に課したミニレポート・コメントカードの内容（40%）、実習報告書の内容（40%）、試験またはまとめのレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』、『解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）と（高等部）』、『自立活動編』
参考書	宮崎英憲　監修　全国特別支援学校長会　編著　　『特別支援学校のすべてがわかる　　教員をめざすあなたへ』　ジアース教育新社 2017
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教育実習（特別支援学校）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
10日間	4年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　障害のある児童生徒一人一人の実態に即した教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を立て、児童生徒が主体的に 　活動し、全人的発達を促せる指導･支援ができるような実践力や指導技術を習得することを目指す。 [到達目標] １　特別支援学校の教育活動の場に臨み、特別支援学校の仕組みを知り、障害のある児童生徒の理解に努め、教育課 　　程の自主編成が理解できる。 ２　一人一人の障害特性にあった個別の指導計画･教育支援計画、学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に 　　即した学習指導（教材教具の開発や工夫等）ができる。ティームティーチングの方法を知る。 ３　保護者理解や地域と学校との関連を理解する。
授業の概要	１　実習校（特別支援学校）において、原則として10日間（80時間以上）の実習を行う。 ２　教育実習前に立案した自己目標に対しての評価を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	就務式　　配属学級での実習（授業観察・授業参加）　校長講話 職員への挨拶、指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第２回	配属学級での実習（授業参観・授業参加）　　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第３回	配属学級での実習（授業参観・授業参加）　　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第４回	配属学級での実習（授業参観・授業参加） 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第５回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第６回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第７回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第８回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習、研究授業）、授業研究会 実指導教諭との打ち合わせ、授業研究会への参加、授業説明、評価、実習録記入
	第９回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
	第１０回	解務式、配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 職員への挨拶、実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入（まとめ）

	第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の全ての履修条件を満たしている者。 １　将来、教員として学校現場で働く意思を満たしている者。 ２　特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲を持っている者。 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。 ４　中学校もしくは高等学校教員免許状取得可能な単位を持っている者。 ５　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、　Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、Ⅱ、重複障害教育総論、ＬＤ等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者へ　の心理・生理・病理、病弱者への心理・生理・病理、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。 ７　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。 ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科があ　る。その場合は私立学校主催の適性検査を必ず受験すること。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習校では、指導教諭から指導を受ける。大学担当者へは、進捗状況をメール等で報告する。また、担当者の巡回指導時にも進捗状況を報告する。必要があれば指導を受ける。
授業外時間にかかわる情報	１　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に体験しておく。 ２　ＨＰ等で実習を希望する特別支援学校等の情報を得ておく。
オフィスアワー	火曜日（終日）　水曜日（10:30～18:00）
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（10%） ２　実習校の評価（50%） ３　教育実習録の評価（40%）
教科書	群馬医療福祉大学：「教育実習へのガイドブック」
参考書	文科省：特別支援学校小学部・中学部・高等部学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説　総則編・自立活動編・各教科　編」
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： 政治学Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち続けることができるようになる。 【到達目標】 取り分け、問題を抱えている外国の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考え、実践する。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　21世紀の世界秩序 第２回　グローバリゼーションの時代に旅をすることは 第３回　文明の衝突 第４回　中東、そしてアラブとユダヤ文化 第５回　ロシア正教文化など 第６回　神の文化と和の文化 第７回　南北朝鮮問題 第８回　キリスト教文明とイスラーム文明間の対立と対話 第９回　ユーゴスラヴィアの完全解体 第１０回　Think globally,act locally! 第１１回　分裂と統合　～母語以外のことばを学ぶとは～ 第１２回　イスラームのスンナとシーア 第１３回　Re-nationalization　～二重国籍を拒否している日本～

	第１４回　　民から官へ 第１５回　　余暇・研究・仕事か、仕事・余暇・研究か
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　政治学Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち続けることができるようになる。 【到達目標】 取り分け、問題を抱えている外国の人たちにもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考え、実践する。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　国際社会を生きる人材を育てる 第２回　開国と通商という宿命 第３回　日朝の深い関わり 第４回　明治の戦争と文化 第５回　平和について考える　～聖遷（ヒジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～ 第６回　日本を取り巻くアジアの冷戦 第７回　社会福祉と平和憲法、そして平和憲法の共有 第８回　カリタス・ジャパンと社会福祉 第９回　ダブリン（Dublin）の聖母ホスピスを訪ねて 第１０回　日本における国際ボランティア活動　～真の国際貢献とは～ 第１１回　歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道　～聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点～ 第１２回　鎖国は何故なされたのか 第１３回　日中は同文同種？　脱亜入欧

	第１４回　　中東諸問題　～イスラーム世界の変化を巡って～ 第１５回　　世界と日本の間違い　～日本や諸外国を巨視的に捉える～
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　マスメディア論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井　英司			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。現実の社会に情熱的にアプローチするジャーナリズムの世界から実際の取り組みや工夫、さらに客観的認識の在り方を学ぶ。 【到達目標】 ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。
授業の概要	テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　オリエンテーション マスメディアと私たち　① 【 key words 】 令和元年の風景 【　授業概要　】 ・オリエンテーション ・考えてみよう　「味噌汁の味って何種類ある？」 ・考えてみよう　「赤城山ってどんな姿をしていますか？」 ・「令和」という時代、どんな風景？ ・ファクト(事実)とフェイク(偽) 【　教科書ページ・参考文献　】 米国映画『記者たち』と日本映画『新聞記者』➡政府はウソをつく 【　課題・予習・復習・授業準備　】 ・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 ・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。 ・ものの見方、考え方はひと様々、これが複眼的視点、基本です。 第２回　　おしゃべりは明るく元気にありがとう マスメディアと私たち　② 「おしゃべりは明るく元気にありがとう」 【 key words 】 モチベーション(motivation)は強く、大きく、広く 【　授業概要　】 ・モチベーションとは何か ・秋の到来をどう気付くか ・「ありがとう」で始まる人間的コミュニケーション ・コミュニケーションとは考えてみよう ・コミュニケーションの相手は？ 【　教科書ページ・参考文献　】 コミュニケーションはまず、挨拶から始めよう 【　課題・予習・復習・授業準備　】 おしゃべりは頭で考えるより慣れろ

第３回　　恥かき、汗かき、原稿書き
マスメディアと私たち　③
恥かき、汗かき、原稿書き
【　key words　】
はじめに言葉ありき
【　授業概要　】
・「はじめに言葉ありき」とは
・理想のキャンパス空間
・「学ぶ」とは「離陸すること」＝ブレークスルー(breakthrough)
・人生はいつも学び
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「人々に光を与えた偉人」
【　課題・予習・復習・授業準備　】
・学びの合言葉「知りません。教えて下さい」
・学ぶとは自分の手持ちの価値判断の「ものさし」を捨てること
・他者とのコラボレーションを通して自分は鍛えられ、
自らの包容力が養われる

第４回　　３分間スピーチは四コママンガ
マスメディアと私たち　④
３分間スピーチは四コマまんが

【　key words　】
目は口ほどに物を言う
【　授業概要　】
・江戸時代の詩人、頼山陽の作品です。（　）に漢字ひと文字を入れよ。

京都三条　糸屋の娘
姉は十八　妹は十六
諸国諸大名　弓矢で殺す
糸屋の娘は（　）で殺す
・明眸皓歯　―の婦人　・眉目秀麗　―の青年
・起承転結
・自分の考えや気持ちを伝えるには
・「目は口ほどに物を言う」
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「４５秒のお話」
【　課題・予習・復習・授業準備　】
起承転結を意識して４５秒のお話を来週までに作文して下さい

第５回　　《　演　習　》　　みんなで４５秒のお話に挑戦
マスメディアと私たち　⑤
演習　４５秒のお話に挑戦してみよう
演習　三分間スピーチに挑戦してみよう

【　key words　】
４５秒のお話・三分間スピーチ
【　授業概要　】
・４５秒のお話を各自が発表
・感想を述べ合いましょう
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「三分間スピーチの例文」
【　課題・予習・復習・授業準備　】
お話をつくることの楽しさを知ろう

第６回　　身近なところにヒントあり
マスメディアと私たち　⑥
身近なところにヒントあり

【　key words　】
冷静に物事を見る
【　授業概要　】
・ピカソのキュビズムも身近にあった浮世絵の影響？
・『平家物語』の書き出しにみる視点　「諸行無常」とは
・相手は鏡
・冷静に物事を見るということは
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「ピカソの人と作品」「生老病死の四苦を超克しよう(小沢章友)」
【　課題・予習・復習・授業準備　】
冷静に見ると今まで見えなかったものも視界に入る(生活態度)

第７回　　地名は知らないとチメイ的
マスメディアと私たち　⑦
地名は知らないとチメイ的

【　key words　】
常識では読めない地名、人名。
【　授業概要　】
・身近にある難読地名を上げて下さい
・次の人名を声に出して読んで下さい
有島武郎　在原業平　安倍晋三　伊藤博文　伊能忠敬　岩倉具視　運慶
大隈重信　遍照金剛　小林一茶　小村寿太郎　最澄　志賀直哉　島崎藤村
菅原道真　鈴木利定　滝廉太郎　田中正造　谷崎潤一郎　徳川慶喜　杜甫
朝永振一郎　夏目漱石　野口英世　萩原朔太郎　東山魁夷　福沢諭吉
正岡子規　松尾芭蕉　松本清張　森鴎外　湯川秀樹　吉田兼好　吉田茂
若山牧水　和辻哲郎
・地名は文化、共に暮してきた道連れ

地名研究家、都丸十九一さんの「地名の諸原則」について
・　あなたの名前はどんな意味？（『名前の暗号』山口　謠司著　新潮新書）
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「名前は誰のものか」(2019/02/20　毎日)
【　課題・予習・復習・授業準備　】
地名・人名は常識では読めません、覚悟を

第８回　日本語はハイブリット言語

マスメディアと私たち　⑧
日本語はハイブリッド言語

【　key words　】
ハイブリッドな日本語
【　授業概要　】
・「日本語は天才である」
翻訳家、柳瀬尚紀(ヤナセ　ナオキ　1943－2016)の著書
・「生」という恐ろしい漢字
・ことば、慣用語の働きと意味
・大和言葉いろいろ
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「美しい日本語を伝えたい」(2018/11/17　毎日)
【　課題・予習・復習・授業準備　】
日本語の単語は漢語、外来語、大和言葉の三種類

第９回　番組づくりは八木節音頭

マスメディアと私たち　⑨
番組作りは八木節音頭

【　key words　】
働くとは利他
【　授業概要　】
・人が動くと書いて働く＝働く(はた　らく→　端　楽)
・番組作りは八木節音頭
・能力は開発するもの
・自己完結できない生物
・相互依存関係
【　教科書ページ・参考文献　】
配布資料「アブになれ」(2014/02/04　毎日)
【　課題・予習・復習・授業準備　】
異質な他者こそ必要な私、遠ざけたい人こそ大切

第１０回　メディアはビジネスか？

マスメディアと私たち　⑩
マスメディアはビジネスか

【　key words　】
ジャーナリズム（ Journalism ）とは
【　授業概要　】
・ジャーナリズム（ Journalism ）とは
・市場から逃れる「社会的共通資本」
・市場に委ねられた医療、教育
・世論とビジネスに滅ぼされたメディア？
【　教科書ページ・参考文献　】

【　課題・予習・復習・授業準備　】
ニュースってなんだろう、次回はニュースについて考える

第１１回　ニュースとは何か

マスメディアと私たち　⑪
ニュースとは何か

【　key words　】
情報とニュース
【　授業概要　】
・今日の新聞に注目
・情報とは
・事実、真実、真理
・ニュースとは何か
・フェイクニュースとは
【　教科書ページ・参考文献　】
きょうの新聞、朝日、毎日、読売、上毛を準備
【　課題・予習・復習・授業準備　】
誰かが選択し加工したものがニュース、主観的なものです

第１２回　客観報道とメディア・リテラシー

マスメディアと私たち　⑫
客観報道とメディアリテラシー

【　key words　】
メディアリテラシー
【　授業概要　】
・「不偏不党」と「客観報道」はマスメディアの二大原則
・客観報道とは「主観をとぎすます」
・事実によって本質を描く
・メディアリテラシー(media　literacy)
【　教科書ページ・参考文献　】

【　課題・予習・復習・授業準備　】

	国とは何か、次回は討論「国家と選挙」です 第１３回　《　演　習　》　メディアと選挙 マスメディアと私たち　⑬ 討論「国家と選挙」 【　key words　】 選挙に参加しよう 【　授業概要　】 ・「税金って何だろう」国家、暴力、税金について深める 朝日新聞　2019/07/04　オピニオン＆フォーラム　（　別紙資料　） ・参政権って何だろう ・国民がひとつ一つ勝ち取ってきた選挙権、大いに行使しよう 【　教科書ページ・参考文献　】 新聞の特集記事を読んでみんなで討論します 【　課題・予習・復習・授業準備　】 「決断、行為、責任を伴う主体的な人を自由人という」 第１４回　見えないもの、見えるもの マスメディアと私たち　⑭ 見える　見えない 【　key words　】 物事をどう深めるか 【　授業概要　】 ・恩を忘れない白鳥　助けた白鳥と奇跡の再会 ・高校の並び順、どうして？ ・昨日の敵は今日の友　日露の友情物語 【　教科書ページ・参考文献　】 「自分で考える社会を取りもどす」(2015/03/13　毎日) 【　課題・予習・復習・授業準備　】 最終回は物事を客観的に見るにはどうしたらよいか 第１５回　満点を狙わぬ結果が合格点 マスメディアと私たち　⑮ まとめ「客観的認識とは」 【　key words　】 客観的認識とは 【　授業概要　】 ・客観的 ・主観と客観 ・「客観的認識」に大切な三つの視点ありがとうの心でたくましく ・ありがとうの心でたくましく 【　教科書ページ・参考文献　】 「人は生きたように死んでゆく」(2015/11/14　毎日) 【　課題・予習・復習・授業準備　】 「誰のせいだ」という他責的言葉は止めて、明るく前向きに
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後、３０分は対応可能。
評価方法	筆記試験１００％
教科書	テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県の県域テレビ、群馬テレビで40年以上に渡って、報道、制作,事業、さらに編成、営業に携わり、取締役として、報道局長、業務局長、営業局長を歴任。ローカル局の全般を担って来ました。特にこの間、テレビの地上デジタル化に取り組み、新時代の幕明けを切り開きました。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職実践演習（中・高）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子、大島由之、森田隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえ、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできることを目的とする。 [到達目標] １　履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足してい　　る知識や技能等を補うことができる。 ２　急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。 ３　教師に求められる規範意識を確認することができる。
授業の概要	１　講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福祉、 　　スクールカウンセラーの立場から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。 ２　教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。 ３　社会性や対人関係能力を養う。 ４　教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　　共生社会を生きる 【受講にあたり】 1　全15回の授業はオムニバス方式となっているため、タイトル自体の変更はないが、回の入れ替わりがあ　　る。その旨を授業の初日に配布資料等で説明する。 2　資料等に関しては、各担当の教員が用意する。 【Key Word】 　～との共生、共生･共育の思想と実践 【授業概要】 今やどの分野においても「共生」という言葉があふれかえっている。こんなに「共生」という言葉が流行り言葉になっているのは、それだけこの現実社会において、人と人、モノや自然が疎外し合って生き難くなっているといえるだろう。障害のある子どもが「共に生き共に学び合う」ことを共生社会を生きる意味を探る。 【教科書ページ】 参考図書：嶺井正也･小沢牧子(1996)『共生・教育を求めて』赤石書店. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：共生･教育の思想と実践について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習:子ども観について調べてくること。 第２回　　子どもの世界　-子ども観とは- 【Key Word】 子供の世界、子供観

【授業概要】
子供観とは、子供をどのような存在とみなすかに関する大人社会で広く共有されている見方のことである。近世になって、子供はただの「小さな大人」なのではなく、子供という独自な存在であるとみなされるようになった。
子供観の変遷について学ぶ。

【教科書ページ】
参考図書：宮澤康人、星薫(1992)『子供の世界』放送大学教育振興会.
舘昭、広瀬洋子(1991)『子供観』放送大学教育振興会.
資料、レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：子供観とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:インテグレーションとインクルージョンについて調べてくること。

第３回　障害児教育を考える
【Key Word】
障害者の定義、障害児教育の成立、養護学校義務化

【授業概要】
生産性の低い原始・古代社会は、多くの障害児（者）の遺棄・殺害が行われ、生産力向上･キリスト教の普及になると、障害児（者）の保護・救済が行われるようになった。貧困からの開放の手段として、子ども･障害児（者）の教育・訓練に着目されるようになった歴史的変遷を辿り、現在の障害児教育を考える。

【教科書ページ】
参考図書：後藤安彦(1988)『逆光の中の障害者たち』千書房
資料、レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：障害児教育の歴史的変遷を理解し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:障害者の権利条約･教育について調べてくること。

第４回　学校における合理的配慮と環境整備
Key Word】
障害者の権利に関する条約、合理的配慮、環境整備

【授業概要】
平成26年1月、わが国は「障害者の権利に関する条約」を批准し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育を推進していく必要がある。学校における合理的配慮と環境整備について具体的に学ぶ。

【教科書ページ】
障害者の権利条約･教育
資料・レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：学校における合理的配慮と環境整備について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：教師に必要とされる資質について考えてくること。

第５回　教職について考える　①　A小学校教諭のドキュメンタリー番組の映像から教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感　について学ぶ
【Key Word】
教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感

【授業概要】
A小学校教諭のドキュメンタリー番組の映像を視聴し、教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ。
グループになり、意見交換を行う。

【教科書ページ】
ドキュメンタリー番組の録画
レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：配布資料を読んでおくこと。学校文化と教師文化について調べてくること。

第６回　教職について考える　②　学校文化、教師文化からみる教師像
【Key Word】
学校文化、教師文化

【授業概要】
学校文化、教師文化からみる教師像について学ぶ。
わが国における学校文化、教師文化についてグループ討議を行う。

【教科書ページ】
参考書：長田勇他(1990)『なぜ少女は走ったか』川島書店.
配付資料･レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：わが国における学校文化、教師文化について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。

予習：配布資料と生徒指導提要を読んでおくこと。
生徒指導提要を持参すること。

第７回　教職について考える　③　生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える

【Key Word】
生徒指導の在り方、家庭との連携

【授業概要】
生徒指導（「断念を教えることのつらさ－家庭に複雑な事情のある生徒－」）の事例から教師と家庭との連携について考える
グループになり、意見交換を行う。

【教科書ページ】
参考書：関根正明(1998)『子どもの心にせまる生徒指導』学事出版.
配付資料、レジュメ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：生徒指導の在り方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：第12回、13回に実施する授業設計と模擬授業①、②の発表原稿を作成し、プレゼンテーションの準備をしておくこと。

第８回　スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える　①　スクールカウンセラーの業務

【Key Word】
スクールカウンセラー，教育相談主任，特別支援教育コーディネーター

【授業概要】
　中学校・高等学校において『心のケア』を担当する職種であるスクールカウンセラーの導入に至る社会背景と業務内容，および校務分掌上で「相談」に関わる職種との関連について，群馬県での実態を含めて解説を行う。

【教科書ページ】
参考書として以下を用いる
・群馬県教育委員会 教育広報誌「教育ぐんま（平成28年度2学期号）」
・群馬県広報紙「ぐんま広報（No.334,平成29年3月号）」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：最新版「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（速報値）」を確認し，学校における『心の問題』がどんなものかを考えること。
課題：講義内での指示を受け『指摘されている心の問題』と『必要と思われる心のケア』についてレポートを作成し，次回講義時に持参すること。

第９回　スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える　②　教職員として「心の問題」を理解
する

【Key Word】
学校における心のケア，ストレッサー，ストレス反応

【授業概要】
　中学校・高等学校の教職員に求められる「こころの問題とそのケア」について，事例を用いた検討を行い，教員としてスクールカウンセラーをはじめとした他業種とどのように連携した対応を行うかについて考察を行う。

【教科書ページ】
参考書；
文部科学省（2014）「学校における子供の心のケア；サインを見逃さないために」
https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/seikatsu07.pdf

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語についてまとめ，次回講義時に持参すること。

第１０回　スクールカウンセラーの立場から中・高校生の心の問題について考える　③　心の問題として心身症

【Key Word】
心身症，自傷行為，希死念慮への対応

【授業概要】
　中学校・高校に通う思春期～青年期において見られやすい心身症の状態像や，自傷行為や希死念慮への対応について，近年の精神医学の知見に基づく基本原則について解説を行う。

【教科書ページ】
参考書として以下を用いる。
・松本俊彦（2018）「健康ライブラリーイラスト版 自傷・自殺のことがわかる本；自分を傷つけない生き方のレッスン」 講談社
・文部科学省（2009）「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」リーフレット版
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/046/gaiyou/1259186.htm

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特になし

第１１回　教育法規－教師がよってたつべき法規範－①日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則

【Key Word】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、体罰

【授業概要】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則の重要な条文を音読してもらった

		後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、体罰に関する判例を用いて討論を行なう。 【教科書ページ】 配布プリント（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）の特に下線が引かれた条文を確認しておくこと
	第１２回	教育法規－教師がよってたつべき法規範－②学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法 務員特例法、著作権法 【Key Word】 学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法、著作権 【授業概要】 学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、著作権に関する具体例例を用いて討論を行なう。 【教科書ページ】 配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 練習問題の答案提出と交換に解説を渡すので、よく復習をしておいてほしい
	第１３回	授業設計と模擬授業　① -中学校の教育実習から- 【Key Word】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計 【授業概要】 中学校の教育実習で実施した授業実習を振り返りながら、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ】 発表者が作成した資料 レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
	第１４回	授業設計と模擬授業　② -高等学校の教育実習から- 【Key Word】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計 【授業概要】 高等学校の教育実習で実施した授業実習を振り返りながら、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ】 発表者が作成した資料 レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
	第１５回	「教職実践演習」のまとめ；改めて教師とは－使命感・責任感、教育的愛情等を確認する－A小学校の実践事例を通して－ 【Key Word】 使命感・責任感、教育的愛情 【授業概要】 F県B小学校のLD通級指導教室に通う子どもの「わかった」に寄り添う指導の実際の場面を録画したビデオを視聴し、教師としての使命感・責任感・教育的愛情とは何かを確認する。 【教科書ページ】 B小学校の実際の指導の様子を録画したDVD レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：改めて教師とは－使命感・責任感、教育的愛情等について、ミニ 定期試験に向けて、準備をしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート	
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出す	

	ること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確　認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	各担当者に確認を行うこと。
評価方法	授業中に課したミニレポート・小テスト、発表、シャトルカードの内容（８0%）、試験またはレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	各担当教員が準備する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・教育委員会の適応指導教室、中学校の特別支援学級を担当した経験をもつ教員が、一人一人の子どもの障害特性を理解し、多様性を受け入れられる広い視野がもてる教師の育成を目指す。 ・カウンセラー経験のある教員が、学校現場で求められる教育相談についての解説や、スクールカウンセラー・外部機関との連携の重要性、カウンセリングの 基本的な考え方、技法などについて指導を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職実践演習（小学校）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 今までの大学での学習を振り返り、次年度、教職にスムーズにつけることを目的とする。 【到達目標】 ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけることができる。 ②教師に求められる力量、学級経営、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。
授業の概要	１　次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、発達障害、学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。 ２　まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なＫＪ法、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。 ３　自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　科目オリエンテーション、履修カルテの記入、教師に求められる力量①（KJ法により班ごとにまとめる。）

【key words】
オリエンテーション、履修カルテ、教師に求められる力量、ＫＪ法

【授業概要】
①本授業の意義とシラバスの説明。15コマの概観と評価方法。
②履修カルテの確認と記入。
③教師に求められる力量について、ＫＪ法を用いて班ごとにまとめる。
④教員体験の成功談・失敗談。

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
履修カルテの記入を指示。次週、提出すること。

第２回　教師に求められる力量②（班ごとに発表をする。）、教育者・哲学者の格言（カント・モンテスキュー等）

【key words】
教師に求められる力量、中教員答申、教育者の言葉

【授業概要】
①求められる力量について、班ごとの発表する。
②教育者・哲学者の「教育に関わる格言」を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○参考文献：中教審答申（2005）「新しい時代の義務教育を創造する」、中教審答申（2012）「教職生活の全体を通じた資質能力の総合的な向上方策について」

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回授業、発達障害について、調べておくよう指示。

第３回　映像授業①「発達障害」（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）
【key words】
発達障害、特別支援教育

【授業概要】
①発達障害の意味について理解する。
②通常学級で見られる発達障害の具体的な指導方法について、グループワークで意見交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○映像資料「発達障害」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発達障害に関する事柄を整理しておく。

第４回　映像授業②「多様な性について（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）
【key words】
ＬＧＢＴ、多様な性

【授業概要】
①ＬＧＢＴ、多様な性について理解する。
②通常学級で見られる多様な性の課題について、グループワークで意見交流を行う。

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○映像資料「多様な性」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
多様な性に関する事柄を整理しておく。

第５回　模擬授業①、授業研究会①（道徳：代表学生が教育実習時実施した授業をさらに改善したものを提示する。）
【key words】
模擬授業、道徳の時間、特別の教科
【授業概要】
①教育実習で行った「道徳の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
小学校学習指導要領道徳の目標・内容を熟読しておくことを指示。ワークシート（①昔の遊びの実演をまじえた紹介、②昔と今の遊びの比較、③遊びと学びの関係）により下調べをするよう指示する。

第６回　次期学習指導要領について（アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネージメント、道徳・英語の教科化等）
【key words】
アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネージメント、道徳・英語の教科化

【授業概要】
①アクティブ・ラーニングの具体的指導事例を理解する。
②カリキュラム・マネージメントの具体例を理解する。
③道徳と英語の教科化について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
現在児童が行っている遊びについて調べる。

第７回　模擬授業②、授業研究会②（外国語活動：代表学生の授業提示が無理な場合は、他領域・教科を実施する。）
【key words】
模擬授業、外国語活動、教科としての英語

【授業概要】
①教育実習で行った「外国語活動の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等

【教科書ページ・参考文献】

		○配付資料（教師自作レジュメ） ○　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　外国語活動編」開隆堂、平成30年2月。 ○　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　外国語編」開隆堂、平成30年2月。 ○　文部科学省：小学校外国語活動教材「Let’s Try!1」「Let’s Try!2」、小学校外国語教材 ○「We Can!1」「We Can!2」、それらのデジタル教材（DVD） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校学習指導要領外国語活動の目標・内容を熟読しておくことを指示。
	第８回	小学校教育実習報告会（４年生は、教育実習録を提示しながら、後輩に報告する。班別及び全体の協議を行う。１～４年合同） 【key words】 教育実習の実際、教育実習録の記載 【授業概要】 ①１～３年の初等教育コース学生に向け、４年生が教育実習の報告を口頭で行う。 ②班別（１～４年混合）になり、協議する。 ③後輩代表が、お礼を述べる。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作　報告会の流れ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ハンドブックをよく読んでおくよう指示。
	第９回	小学校現場の先輩教師の講話（本学既卒の初任者より志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場１年目の様子等を話してもらう。１～４年合同） 【key words】 学校現場、学級担任、教師の失敗談 【授業概要】 ①本学を卒業した、１年目の初任者教師としての先輩を招へいし、講話と質疑応答を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ″○配付資料（教師自作レジュメ） ○参考文献：時田詠子「教職員改革と人事行政～子どもたちの未来を支える教師～」小松茂久編著『教育行政学 ～教育ガバナンスの未来図』昭和堂（2013/04）、唐澤富太郎『唐澤富太郎著作集５』ぎょうせい1989）、杉原誠四郎『必携　学校小六法』協同出版（2012/02）、安彦忠彦・石堂常世『最新教育原理』勁草書房（2010）、河野和清『教育行政学』ミネルヴァ書房（2006）″ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩講師の配付資料を用い、復習をするよう指示。
	第１０回	学校・学年・学級経営（学校組織、学級経営案、学級通信） 【key words】 学級経営の意味、学級経営案、学級経営実践例、学級通信 【授業概要】 ①学級経営の意味、学級経営案の意義や項目について理解する。 ②学級経営実践例「級友の宝探し」「ゲームを活用した学級作り」「学級通信を活用した保護者との連携」等、教員の体験をもとに、提示された実物を見たりしながら理解を深める。″ 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作のレジュメ） ○参考文献：教師自作の「学級通信」を提示する。″ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学級経営の配付資料を用い、復習をするよう指示。
	第１１回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい　１～４年合同） 【key words】 校長と学校経営、新任教師に求めること 【授業概要】 ①学校組織について知る。 ②新任教師のよい面、改善したい面についての話を聞く。 ③１～３年初等教育コースの学生も参加する。 【教科書ページ・参考文献】 ○外部講師にレジュメを依頼する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講話を受けレポートを書き、次回授業で提出することを指示。
	第１２回	「宝自慢～自己そして友の再発見～」（自己の大切にしている物、体験等を発表する） 【key words】 友達の長所、自己の長所 【授業概要】 ①友達や自己の長所（＝宝）を知る。 ②「児童の宝を認め合う活動」の実践例を学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作のレジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学級で児童の長所を認め合う活動についてまとめておく。 第１３回　現代的な教育課題①（いじめ、体罰など）、履修カルテの記入 【key words】 いじめ、体罰 【授業概要】 ①いじめ・体罰の定義と現状について知る。（パワーポイント） ②体罰防止について、協議する。その際、学生が司会・板書を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ、パワーポイントスライド資料） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 いじめ・体罰について整理しておくよう指示。 第１４回　現代的な教育課題②（教師のメンタルヘルス、特別支援教育など） 【key words】 教師の多忙感、メンタルヘルス、特別支援教育 【授業概要】 ①教師の多忙感、メンタルヘルスの現状と課題について知る。（パワーポイント） ②メンタルヘルスを保つための方策について協議する。その際、学生が司会・板書を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作ワークシート、パワーポイントスライド資料） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教師のメンタルヘルス、特別支援教育を整理しておくよう指示。 第１５回　魅力的な指導者を目指して（児童理解、保護者対応、感じのいい話し方・聞き方など）、履修カルテの提出 【key words】 話す・聞く力、子どものほめ方・叱り方、履修カルテ 【授業概要】 ①　感じのいい話し方・聞き方、ほめ方・しかり方について協議する。その際、学生が司会・板書を行う。 ②　子どものよさを見つけ、引きだし、認めることについて、「宝カード」交換をし、実感を待って学ぶ。 ③　履修カルテの記入を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作ワークシート） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 半年間の授業を振り返り、４月からの仕事や学習に不足している部分を補うよう指示。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・授業への取り組み（50%）、提出物（30%）、グループ活動（20%）
教科書	・授業者担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任として指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方、模擬授業の実施・振り返り、現場教員・校長による講話など、理論と実践の融合を目指した指導

	を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　病弱者の心理・生理・病理　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、病弱児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①病弱児の生理・心理の基礎知識について説明することができる。 ②「特別支援教育」などに携わる際に「子どもの慢性疾患」の基本的知識を身につけることができる。
授業の概要	病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。特別支援学校教諭として必要な医学知識と病弱児の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション

【Key Word】

健康、病気、障害、病弱者（児）

【授業概要】

健康、病気、障害の定義、病弱者両育児の対象疾患について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ１～７

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：ｐ２８～４４

第２回　発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害

【Key Word】

発達障害、自閉症、ADHD

【授業概要】
発達障害の定義、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害の原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ】

ｐ２８～４４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　ｐ４５～５４

第３回　知的障害を伴わない発達障害と二次障害

【Key Word】

発達障害、二次障害、予防

【授業概要】

		発達障害の二次障害の症状と予防対策等について学ぶ。 【教科書ページ】 p４５～５５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p５９～７３
	第４回	循環器疾患の理解と支援 【Key Word】 先天性心疾患、後天性心疾患 【授業概要】 先天性心疾患と後天性心疾患の症状、診断、治療および学校における心疾患児童への対応の注意点等について学ぶ。 【教科書ページ】 p５９～７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p７４～８５
	第５回	呼吸器疾患の理解と支援 【Key Word】 呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群 【授業概要】 呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群の定義、原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。 【教科書ページ】 p７４～８５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p８６～１０２
	第６回	悪性腫瘍の理解と支援 【Key Word】 小児がん、白血病、脳腫瘍 【授業概要】 小児がんの特徴、白血病、脳腫瘍の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、緩和医療とターミナルケア等について学ぶ。 【教科書ページ】 p８６～１０２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１０３～１１４
	第７回	腎・泌尿器疾患の理解と支援 【Key Word】 腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症 【授業概要】 急性、慢性腎疾患の原因・疫学・症状・検査・診断・治療、子どもの学校生活における留意点について学ぶ。 【教科書ページ】 p１０３～１１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１１５～１３３
	第８回	成長障害、内分泌疾患の理解と支援 【Key Word】 成長障害、低身長、肥満、糖尿病 【授業概要】 成長障害、低身長、肥満、糖尿病の原因・診断基準・症状・治療等について学ぶ。 【教科書ページ】

p１１５～１３３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１３４～１４９
第９回　消化器疾患の理解と支援
【Key Word】

嘔吐、下痢、便秘、胃・十二指腸潰瘍

【授業概要】

嘔吐下痢症、便秘、消化道潰瘍の原因・症状・治療・予防について学ぶ。

【教科書ページ】

p１３４～１４９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１５０～１７３
第１０回　神経系疾患の理解と支援（１）　てんかん、脳性まひ、ダウン症
【Key Word】

てんかん、脳性麻痺、ダウン症

【授業概要】
てんかん、脳性麻痺、ダウン症の原因・疫学・症状・診断・治療・支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ】

p１５０～１７２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１７３～１９４
第１１回　神経系疾患の理解と支援（２）　知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー
【Key Word】

知的障害、脊髄性筋萎縮症（SMA）

【授業概要】
知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィーの定義・疫学・症状・診断・治療・予後について学ぶ。

【教科書ページ】

p１７３～１９４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１９７～２０５
第１２回　病気、障害の受容とセルフケア
【Key Word】
受容、セルフケア

【授業概要】

病気・障害の受容とセルフケアの定義、過程と特徴について学ぶ。

【教科書ページ】
p１９７～２０５

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２０６～２１４
第１３回　病気、障害の子どもの心理的特性
【Key Word】

疾患、病気、、社会、心理問題

【授業概要】
病弱児の病気への理解、抱えやすい心理、社会的問題について学ぶ。

【教科書ページ】

p２０６～２１４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２１５～２２４
第１４回　教育・医療・保健・福祉の連携と支援
【Key Word】

	フォーマル・サービス、インフォーマル・サポート、ノーマライゼーション、全人的ケア 【授業概要】 地域で暮らすことへの包括的支援、全人的ケアの理念と機能等について学ぶ。 【教科書ページ】 p２１５～２２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習内容を復習する。 第１５回　まとめ 【Key Word】 病弱児の基礎疾患 【授業概要】 今まで学んだ病弱児の原因疾患について、疾病の定義、原因、疫学、分類、症状、検査、診断、治療、予後、支援法などを復習する。 【教科書ページ】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講生に関わる情報および受講のルール	病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（100%）
教科書	小野次朗ら　編著　　病弱児の生理・病理・心理　　ミネルヴァ書房　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称： LD等教育総論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。 [到達目標] 1　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。 2　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。 3　LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。
授業の概要	1　特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD,ADHD,高機能自閉症といわれる発達障がい 　　のある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。 2　LD 通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探 　　り、個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を学ぶ。 3　学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　特殊教育から特別支援教育へ ※　15回の予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。 【Key Word】 特殊教育、特別支援教育 【授業概要】 障害の種類や程度等に応じ特別の場で指導を行う特殊教育から、障害のある児童生徒まで含めて一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切に支援を行う特別支援教育とは何かを学ぶ。 【教科書ページ】 参考書：石部元雄『よくわかる障害児教育　第3版』(2015) ミネルヴァ書房 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361225.htm 第1章　特殊教育から特別支援教育へ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：特殊教育から特別支援教育へと変わっていった歴史的変遷を復習し、本時の授業内容をミニレ　ポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習：テキストP64～P79　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論の該当ページを熟読し、発達障害とは何か、LDとは何かを事前に学習しておくこと。 第２回　LDとは：　LDの定義・特性（視･聴覚）-アメリカにみる歴史的な背景 - 【Key Word】 LDの定義、特性(視覚･聴覚)

【授業概要】
LDの概念がS.A.Kirkによって提唱された当時のアメリカの社会的背景に目を向ける。
LDの定義に言及し、その特性（視覚･聴覚）を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP64～P71　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習･課題：LDとは何か、LDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：テキストP64～P71、P80～P92　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論の該当ページを熟読し、発達障害とは何か、ADHDとは何かを事前に学習しておくこと。

第３回　ADHDとは：　ADHDの定義・特性(感覚と知覚)

【Key Word】
ADHDの定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】
ADHDの定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP64～P71、P80～P92　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：ADHDとは何か、ADHDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：テキストP64～P79、P93～P102　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論の該当ページを熟読し、発達障害とは何か、高機能自閉症とは何かを事前に学習しておくこと。

第４回　高機能自閉症と自閉症：　自閉症の定義・特性(感覚と知覚)

【Key Word】
高機能自閉症、自閉症の定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】
高機能自閉症、自閉症の定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。

【教科書ページ】
テキストP64～P79、P93～P102　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：高機能自閉症とは何か、高機能自閉症の定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：発達の遅滞や広汎性発達障害の判定のために用いられることの多い、WISC知能検査について、配布資料を熟読し、事前に学習しておくこと。

第５回　WISC知能検査から子どもの特徴を捉える

【Key Word】
WISC知能検査、子どもの特徴･特性

【授業概要】
発達の遅滞や広汎性発達障害の判定のために用いられることの多いWISC知能検査を学び、子どもの特徴･特性を捉える。
実際のWISC知能検査に触れる。

【教科書ページ】
WISC知能検査
WISC知能検査についての配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：実際にWISC知能検査に触れ、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1402251.htm「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」についてを熟読し、事前に学習しておくこと。

第６回　個別の教育支援計画・指導計画

【Key Word】
個別の教育支援計画、個別の指導計画

【授業概要】
個別の教育支援計画、個別の指導計画とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ】
文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1402251.htm　「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」についての資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」とは何か、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP12～P19　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしてを熟読し、読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方について、事前に学習しておくこと。

第７回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　①　読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方

【Key Word】
発達障がい、「困り感」、読み書きの指導

【授業概要】
読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ】
テキストP12～P19　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしてを熟読し、算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、事前に学習しておくこと。

第８回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　②　算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方

【Key Word】
発達障がい、「困り感」、算数の指導

【授業概要】
算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ】
テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしてを熟読し、不注意･多動･衝動性あるの子どもの理解と指導の在り方について、事前に学習しておくこと。

第９回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　③　不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方
在り方

【Key Word】
発達障がい、「困り感」、不注意･多動･衝動性

【授業概要】
不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ】
テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP44～P61　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしてを熟読し、高機能自閉症の子どもの理解と指導の在り方について、事前に学習しておくこと。

第１０回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　④　対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方

【Key Word】
発達障がい、「困り感」、対人関係

【授業概要】
対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ】
テキストP44～P61　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・課題：対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習:テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し、準備をしておくこと。

第１１回　LD通級指導教室の指導の実際　　①　子どもの実態を把握する
※プレゼンテーションの順番について;予め学生相互で話し合って決定する。
　レジュメ等、プレゼンテーションに必要な資料は予め用意をして配布する。

【Key Word】
LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際

【授業概要】
ＬD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導の実際を学ぶ。
テキストの第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う①。

【教科書ページ】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：LD指導教室の指導の実際例

		【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてレポートにまとめめ、期日までに提出すること。 予習:テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し、準備をしておくこと。
	第１２回	LD通級指導教室の指導の実際　　②　子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える 【Key Word】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導･支援方法 【授業概要】 ＬＤ通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導・支援方法を捉える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う②。 【教科書ページ】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：LD指導教室の指導の実際例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：LD通級指導教室の指導・支援方法を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習:テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し、準備をしておくこと。
	第１３回	LD通級指導教室の指導の実際　　③　子どもの実態に合った教材・教具を考える 【Key Word】 LD通級指導教室、子どもの実態、教材･教具 【授業概要】 ＬＤ通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の在り方について考える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼン テーションを行う③。 【教科書ページ】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：LD指導教室の指導の実際例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：LD通級指導教室の指導実際から、一人ひとりに合った教材･教具の在り方を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習:テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し、準備をしておくこと。
	第１４回	LD通級指導教室の指導の実際　　④　教材・教具の有効的な活用方法 【Key Word】 LD通級指導教室、教材･教具の有効的な活用方法 【授業概要】 ＬＤ通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の有効な活用方法について考える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う④。 【教科書ページ】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：LD指導教室の指導の実際例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：LD通級指導教室の指導実際から、一人ひとりに合った教材･教具の有効な活用方法を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 予習:テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしてを復習しておくこと。
	第１５回	保護者との関わり／まとめ 【Key Word】 保護者との関わり、寄り添う 【授業概要】 LD通級指導教室等、通常学級に在籍している発達障がいのある子どもとの指導・支援を通して、当該子どもの保護者との関わり、寄り添う支援を考える。 まとめを行う。 【教科書ページ】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：保護者との関わりについて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習・課題：LD通級指導教室等、通常学級に在籍する子どもとの関わりを通して、当該子どもの保護者との関わり方についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 LD等教育総論で学んだことを復習し、発達障害のある子どもの指導･支援について、教材・教具の有効的な活用方法を踏まえ、復習をしておくこと。 定期試験に向けて、準備をしておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	1　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得	

	る。 2　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	独立行政法人国立特殊教育総合研究所『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』東洋館出版、2005年
参考書	佐藤暁(2008)『見てわかる　困り感に寄り添う支援の実際』学習研究社
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学習障害コーディネーターの経験をもつ教員が、通常学級におけるLDの特性が見られる児童の指導、さらにはLD通級指導教室に通う児童の指導、担当教諭の指導を通して、一人一人に合った教材・教具の工夫・作成ができ、子どもの「困り感」に寄り添う指導･支援ができる教師を養成する。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　病弱教育　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目標〕 病弱教育では特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。また、近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入級してきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解する。 〔到達目標〕 ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。 ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。 ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。
授業の概要	病弱教育は対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質についても考えながら、病弱教育の専門性と病弱教員としての基本的な知識が習得出来る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画

第１回　オリエンテーション　病弱教育とは　病気の子どもの現状

【key words】
病弱　虚弱　病弱教育　病弱の子の現状　障害者白書　全国病弱調査

【授業概要】
病弱、虚弱の意味。テキストについて説明。県内の病弱特別支援学校について。学校参観について。　普通教育、特別支援教育、病弱教育のそれぞれの専門性について。学生に病気について発表依頼。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．８－１４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発表担当の病気について調べること、及びそのまとめをすること。本日のまとめをする。「①病弱教育ではどんな教員が求められているか？②また、それに対してどんな対応が求められると思うか？この授業で何を学習したいか」をレポートにより提出。

第２回　病弱教育の変遷と現状

【key words】
海外の病弱教育　日本の病弱教育　病弱児の学校教育

【授業概要】
海外の病弱教育の歴史　日本の病弱教育の歴史　休暇集落　養護学園など病弱教育の歴史と用語の説明　病弱教育の意義　病気の子どもの学校教育

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．１５－２１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日のまとめと整理、課せられた病気について調べまとめておくこと。次回の発表者は発表資料を準備すること。

第３回　特別支援教育の現状　病気の理解について①～例：色素性乾皮症　膠原病

【key words】
インクルーシブ教育　特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　XP　紫外線　コラーゲン病　エリテマトーデス　あざ

【授業概要】
特別支援教育の現状を理解する。また、色素性乾皮症、膠原病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．２２－２８、　参考書「病気の子どもの理解のために」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第４回　指導への配慮事項　病気の理解について②～例：腎疾患　てんかん　等

【key words】
子どもの不安　組織的な対応　腎臓の働き　発作　コントロール　診断と治療法　退院後　セルフケア

【授業概要】
病気になった子どもの不安、対応の仕方について考える。　発表者に腎疾患等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、３０－３７　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第５回　学校視察　出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
【key words】
病弱教育の現場　　全国にある病弱の特別支援学校
【授業概要】
県内の病弱特別支援学校を訪問、参観と説明を聞き、病弱教育の現状を知る。授業で出てきた病弱教育特有の特徴の確認を行う。見学の日を変更しても参観実施出来ない場合は全国にある病弱特別支援学校について資料等を通して実態調査をする。
【教科書ページ・参考文献】
必要に応じて病弱特別支援学校の資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病弱の特別支援学校の感想文を提出すること。次回の発表者は発表資料準備を行うこと。学校参観が実施出来なかった場合は、授業で出された日本国内にある病弱特別支援学校についてまとめ、課題等まとめる。

第６回　病気の子どもに関する手続きと関係法令　　病気の理解について③～例：アレルギーとぜんそく　　クローン病　等
【key words】
学校教育法　　病院にある学級　　退院後　　気管支　　アレルゲン　　治療　ピークフローメーター　　炎症性腸疾患
【授業概要】
病気に罹患した子どものための教育環境について考える。法令に基づいた対応とは。　病気について発表してもらった後、病弱教育としての配慮事項を考察する
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、４０－５２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第７回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について①　　病気の理解について④～例：肥満　　糖尿病　等
【key words】
個別の教育支援計画　　訪問教育　　自立活動　　食事　　運動　　生活　　血糖値　　インシュリン
【授業概要】
学習指導要領を踏まえて行う病弱教育の中にある個別の教育支援計画、教育課程編成に当って注意することについて考える。また、発表者に肥満、糖尿病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事　項等を考察する
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５４－９２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第８回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について②　　病気の理解について⑤～例：筋ジストロフィー　　潰瘍性大腸炎　等
【key words】
高等部　　自立活動　　教科書　　ベッドサイド　　ジストロフィン　　筋力低下　大腸　　二次障害　　クローン病
【授業概要】
前回に引き続けて学習指導要領を踏まえた指導について考える。　発表者に筋ジストロフィ、腫瘍性大腸炎等について発表してもらた後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５４－９２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第９回　具体的な指導事例①（身体の病気）　　病気の理解について⑥～例：心疾患　　ペルテス病等
【key words】
身体の病気の例　　チアノーゼ　　大腿骨　　早期診断　　早期治療
【授業概要】
身体の病気の事例について検討する。　　発表者に心疾患、ペルテス病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、９４－１１２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。

第１０回　具体的な指導事例②（こころの病気）　　病気の理解について⑦～例：もやもや病　　ムコ多糖症　等
【key words】
心の病　　脳血管　　バイパス手術　　GAG　　酵素補充　　喪失の体験
【授業概要】
心の病の具体的ケースを検討する。　発表者にもやもや病、ムコ多糖症等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、１１３－１２５　　必要に応じて参考書の該当箇所

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。 第１１回　具体的な指導事例③（退院後）　病気の理解について⑧～例：白血病　血友病等 【key words】 前籍校　連携　骨髄　プロトコール　造血組織　出血症状　インヒビター 【授業概要】 退院後に考えられることを事例を通して理解する。発表者に白血病、血友病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１２６－１５２　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。 第１２回　病気の状態に応じた配慮事例①（総合失調症、うつ病）　病気の理解について⑨～例：こころの病気　等 【key words】 ストレス、　脳の病気、１００人に一人 【授業概要】 心の病は誰もが罹患するものであり、適切な治療で完治するものでもあるが、こじらせてしまうこともありうる。様々な心の病気について知り、正しい理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１８９－１９７　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。 第１３回　病気の状態に応じた配慮事例②（発達障害：LD、ADHD、自閉スペクトラム症）　病気の理解について⑩～例：脳腫瘍　他 【key words】 発達障害　LD　ADHD　自閉スペクトラム症 【授業概要】 発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症など）と病弱教育について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、２０２－２１１、２１６－２２０　他　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。 第１４回　病気の状態に応じた配慮事例③（摂食障害、緘黙、不登校） 【key words】 配慮事項　受容　多軸評価　連携　知能検査　授業　活動 【授業概要】 現代社会の片隅で生じている様々な問題（摂食障害、不登校、緘黙等）について、考える目を持ち、理解し、対応について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１９８－２０１、２１２－２１５、２２１－２２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめをする。今までの様々な検討から病弱教育の教師像を考える。 第１５回　病弱教育の展望と今日的課題について 【key words】 病気と社会　自立と病気　進路問題　教師の専門性 【授業概要】 病弱教育の抱えている問題、課題について今まで受講した中から明確にさせていく。病弱教育の現状から問われる教師としての専門性についても考察する。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特別支援教育の一つである病弱教育について理解が深めたかを自分でチェックする。病気と児童生徒の関係を正しく理解すること。　「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①病弱教育の現地視察ができれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分健康に注意する必要がある。 ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒の知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意する必要がある。 ③学校参観の日程などは不確実な面がある。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある. 〔受講のルール〕 ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。 ②将来自分が病弱教育の担任になったつもりで課題を明確にすること。 ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①発表（取り組みと内容）　２０％　②レポート（内容、適切さ）２０％　③筆記試験（客観論述）６０％　総合評価は①②③の合計が６０％を超えていること

教科書	全国特別支援学校病弱教育校長会：「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた　病気の子どもガイドブック」ジアーズ教育新社
参考書	全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」　より引用するのでプリントアウトする。http://www.nise.go.jp/portal/elearm/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（社会）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 授業とはどの様なものか学ぶこと。 小学校社会科の指導方法や教材・教具について学ぶこと。 学習評価について学ぶこと。 指導案の作成について学ぶこと。 【到達目標】 授業の組み立てや求められる授業技術について理解する。 求められる資質・能力を育てるための授業について理解する。 主な指導方法や教材・教具について理解する。 地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。 学習評価について理解すること。 指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。
授業の概要	授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。　　様々な学習指導方法や教材・教具について理解すること。 実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけること。 地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶこと。 社会科における学習評価について学ぶこと。 指導案の作成方法を学ぶこと。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

授業の到達目標	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①学習方法について理解する。	◎	◎	△	◎
②教材・教具について理解する。	◎	◎	△	◎
③地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになる。	◎	○	△	○
④実地調査をし、簡易的な地図を作成する。	◎	○	△	◎
⑤学習評価について理解する。	◎	◎	◎	○
⑥指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養う。	◎	◎	◎	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション、「主体的対話的で深い学び」とは何か。 【key words】 主体的な学び、対話的な学び、深い学び 【授業概要】 授業の進め方等について知る。「主体的対話的で深い学び」について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 第２回　　授業とは①・・授業の組み立て。本時の授業をつくる。 【key words】 主役は子どもである。 【授業概要】 授業とはどのように組み立てられているのかを知る。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第３回　授業とは②・・求められる授業技術(発問・板書・ノート)
【key words】
発問、計画的な板書、児童理解の手だてとしてのノート
【授業概要】
求められる授業技術(発問・板書・ノート指導)について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第４回　授業とは③・・動機付け、主体性と指導性
【key words】
動機づけ、主体性と指導性
【授業概要】
学習への動機づけについて考える。児童の主体性と教師の指導性について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第５回　授業とは④・・望ましい学習環境のあり方
【key words】
学習環境
【授業概要】
望ましい学習環境について考える。PC、電子黒板の活用について触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第６回　社会科の授業とは①・・社会科の教科目標
【key words】
公民としての資質・能力の基礎の育成
【授業概要】
小学校社会科の目標について知る。
【教科書ページ・参考文献】
P17～P24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第７回　社会科の授業とは②・・主体的に調べて考える授業
【key words】
問題解決学習
【授業概要】
主体的に調べて考える授業について考える。基礎的基本的な知識や概念を身につける授業について
考える。思考力・判断力・表現力を育てる授業について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第８回　社会科の授業とは③・・能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業
【key words】
観察・調査、資料活用能力、社会的な見方や考え方
【授業概要】
能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業について考える。
デジタル教科書を使用した指導例も示す。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第９回　社会科の学習・指導方法①・・個別学習、グループ学習、一斉学習、ごっこ・劇化・構成活動
【key words】
個別学習、グループ学習
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第１０回　社会科の学習・指導方法②・・系統学習、問題解決学習
【key words】
つかむ、調べる。まとめる
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。

第１１回　社会科の学習・指導方法③・・作業学習・体験学習、プログラム学習
【key words】

体験学習
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１２回　社会科の学習・指導方法④・・ロールプレイイング、ディベート、シミュレーションゲーム
【key words】
ディベート
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１３回　社会科の学習・指導方法⑤・・問答・討議法、講義法、支援
【key words】
認識の深化、支援
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１４回　社会科の学習・指導方法⑥・・表現活動、ティーム・ティーチング、複線型授業
【key words】
表現活動の方法、TTの利点
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１５回　社会科の学習・指導方法⑦・・見学・調査・観察(社会科見学・地域調査)
【key words】
見学・調査・観察
【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。社会科見学・地域調査の方法について学ぶ。
事前準備でのICT活用についても触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１６回　教材・教具について①・・教科書、学習ノート、郷土資料、現物資料
【key words】
学習ノート、郷土資料
【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１７回　教材・教具について②・・統計資料、年表、博物館・郷土資料館の活用、副読本、放送利用、コンピュータ利用
【key words】
統計資料、博物館等の活用
【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
インターネットによる社会科ゲームの体験と授業での活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第１８回　教材・教具について③・・地図指導　様々地図について知る。地図を読む。
【key words】
地図記号・方位、地球儀
【授業概要】
地図の基礎事項を学ぶ。地図を読む。地球儀について学ぶ。
デジタル教材(地図・地球儀)の活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
地図を読む問題に取り組む。
第１９回　社会科における学習評価①・・学習評価の分類、評価規準と評価基準、評価計画の作成
【key words】
学習評価、評価規準と評価基準
【授業概要】
学習評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第２０回　社会科における学習評価②・・観点別学習状況の評価（４観点）
【key words】
4観点
【授業概要】
観点別学習状況の評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第２１回　社会科における学習評価③・・具体的な評価方法、学習評価の記録法、学習評価の課題
【key words】
具体的な評価方法
【授業概要】
評価方法の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
第２２回　指導案の作成①(学習指導案とは・教材研究とは・学習活動研究とは・児童理解とは)
【key words】
教材研究、学習活動研究、児童理解
【授業概要】
学習指導案とは、どのようなものであるか学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をし、指導案作成準備をする。
第２３回　指導案の作成②(基本的な指導案の作成方法)
【key words】
児童の実態、教材観、教材の系統、単元の目標、評価規準、指導方針、指導と評価の計画
【授業概要】
基本的な形式、記述内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をし、指導案を書き進める。
第２４回　指導案の作成③(模擬授業用略案の作成)
【key words】
児童の実態、本時のねらい、ねらいを達成するための手だて
【授業概要】
模擬授業用略案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を完成させる。
第２５回　模擬授業及び授業研究①　※原則として全員が模擬授業を行い、授業後に授業研究会を実施する。
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
第２６回　模擬授業及び授業研究②
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
第２７回　模擬授業及び授業研究③
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
第２８回　模擬授業及び授業研究④
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 第２９回　模擬授業及び授業研究⑤ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 第３０回　模擬授業及び授業研究⑥ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 社会科概論を履修していること。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	筆記試験７０％、学習指導案２０％、模擬授業１０％を目安として総合的に評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　社会編」日本文教出版株式会社
参考書	「小学校指導法　社会」玉川大学出版部
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（理科）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 　小学校理科の指導に必要な知識・技能の修得、学外での理科施設体験、質の高い授業を立案し実践できる力の獲得 ［到達目標］ ①学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項等を十分に理解する。 ②野外実習で得た知識や経験等を実際の指導に活かすことができる。 ③基礎的な学習指導理論の本質を理解し、児童の実態やニーズを十二分に考慮した授業設計を行い、指導に活きる学習評価を加味した優れた授業を実践することができる。
授業の概要	①小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本（理科を学ぶ意義、学習指導要領改訂の背景と経緯、学習指導要領で示された教科と各学年の目標・内容の深い理解、理科で育成を目指す資質・能力、年間指導計画の意義や計画の立て方とその利用、実験・観察・野外活動の行い方、実験・観察等における配慮など）を身に付ける。 ②野外実習を体験することにより、理科施設利用の意義や課題を考え、現場での指導に活かす。 ③①の理解を基に、学習指導要領・解説と教科書を利用しての教材研究、優れた授業のあり方、学習指導案の立案、模擬授業の実施等を学ぶことをとおして、質の高い授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価方法の説明、講師・学生の自己紹介など） 【授業タイトル】 オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価方法の説明、講師・学生の自己紹介など） 【Key Word】 講義の概要、授業の受け方、評価方法、自己紹介 【授業概要】 ①「年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等を説明する。 ②自己紹介用アンケートに各自記入後、それをもとにクイズ形式で自己紹介を行う。 ③講義後の振り返りシートの記入上の約束事の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○理科教科書(東書､大日本図書)､学習指導要領解説（理科編）を購入しておくこと ○毎回配付されるワークシートをファイリングしておくこと 第２回　１.児童に力がつく「理科の授業」を行うためには！　２.学習指導要領の中身を確認しよう！ 【Key Word】 学習指導要領・解説、年間指導計画、教科書、授業構想 【授業概要】 ①教師が授業前に行うべきことについて、対話形式で確認する。 ②「学習指導要領の記述内容の構成」「目標の構成と内容」を学習指導要領で確認する。 ③３年の学習内容「植物を育てよう１～４」の体験のための準備と具体的方法について考える。 【教科書ページ・参考文献】 ３年の教科書：Ｐ12～17（東書）、Ｐ12～19(大日本)　　学習指導要領・解説：Ｐ12～28、Ｐ118～129 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家で植物を育てながら観察記録カードに記録し、後日提出すること（３回提出）

	第３回	１.学習指導要領の中身を確認しよう！　２.年間指導計画を確認しよう！ 【Key Word】 理科の目標、学年の目標、年間指導計画が必要な理由、年間指導計画の細案と略案 【授業概要】 ①「理科の目標、学年の目標」を確認する。 ②年間指導計画の略案と細案について学ぶ。 ③年間指導計画が必要な理由について考える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説：Ｐ12～28、Ｐ118～129　　東京書籍Ｗｅｂページの年間指導計画 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家で植物を育てるための準備を行うこと
	第４回	１.各学年の「問題解決の力」｛具体目標(2)｝を確認してみよう！　２.東京書籍が「教科書づくり」で工夫している点を見つけてみよう！ 【Key Word】 問題解決の力、具体目標、教科書づくりの工夫 【授業概要】 ①「各学年の目標」の「問題解決の力」について学ぶ。 ②５年の教科書の工夫点を見つけ、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説：Ｐ12～28、Ｐ118～129　　５年の教科書：全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家で植物を育て、その様子を記録すること
	第５回	１.教科書会社（東書）の工夫点をまとめる。　２.「理科の学び方・進め方」を確認しよう！ 【Key Word】 教科書会社（東書）の工夫、理科の学び方・進め方 【授業概要】 ①教科書会社（東書）の工夫点を見つけてまとめ発表する。 ②４～６年の教科書を見て、学習過程や「分け方・内容」の「意図や意義」を考える。 【教科書ページ・参考文献】 ３～６年の教科書：全ページ　　４～６年の教科書：Ｐ2～3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家で植物のめんどうを見ながら育て（水やり、除草、追肥など）、その様子を記録すること
	第６回	１.教育実習をふり返って　２.教員採用試験等に向けて 【Key Word】 教育実習、教育実習の発表の仕方、教員採用一次試験、対策 【授業概要】 ①教育実習の「成果や課題」等をまとめ、仲間と私に発表するための目的・方法を確認する。 ②教員採用試験に関するアンケートに答える。 ③一次試験（教職教養・一般・専門教養）の対策を考えながら学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 一次試験に関する記述のある各種Ｗｅｂページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○教育実習の概要の発表に向け、プレゼン資料を作成すること ○観察記録カードを次時に提出すること
	第７回	１.二次試験に向けて 【Key Word】 個人面接、集団面接 【授業概要】 ①個人面接 　○事前に、定番と想定外の質問を考える。 　○３人（面接官、受験生、観察官）のグループになり面接を体験し、改善点等を論議する。 ②集団面接 　○私が面接官になって質問する。面接をしていないグループは観察し、終了後助言する。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○教育実習の発表資料を次時までに作成すること
	第８回	１.教育実習のプレゼンテーション 【Key Word】 教育実習の発表、発表の評価 【授業概要】 ①順番に発表する（１人１０分）。 ②発表者に対する評価を評価カードに記入する（自分のプレゼンは自分で自己評価する）。 ③質疑応答（１人２分）。 　○発表者の「よかったところ、参考になったこと、改善点」を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学外体験学習施設への経路や乗り合わせ等を相談しておくこと
	第９回	１.教育実習のプレゼンテーション(続き)　２.二次試験に向けて　３.観察記録カードについて 【Key Word】 教育実習の発表、発表の評価、面接試験対策、論文・作文対策、観察記録カードの改善 【授業概要】 ①教育実習プレゼン（続き） ②面接試験、論文・作文について 　○資料（面接試験を受けるにあたっての重要ポイント、基本的な小論文・論作文の書き方）で学ぶ。 ③提出された、みんなの観察記録カードを見て 　○今後の「観察記録カードの書き方」の改善すべき点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 面接及び論作文に関する記述のある各種Ｗｅｂページ　　３年の教科書：Ｐ148（東書）、Ｐ15(大日本)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○観察記録カードの書き方の改善すべき点を学んだので、今後はそれに即してカードを書くこと

第１０回　１.群馬自然史博物館での学外施設学習（前半）
【Key Word】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、博物館の歴史と概要
【授業概要】
①化石のレプリカor海藻ハーバリウムを作る。
②博物館の歴史と概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ　　学習指導要領・解説Ｐ１02～１03
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること

第１１回　２.群馬自然史博物館での学外施設学習（後半）
【Key Word】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学
【授業概要】
①バックヤードを見学し説明を受ける。
②館内を見学して、教師（引率者）の視点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ　　学習指導要領・解説Ｐ１02～１03
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること

第１２回　１.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（前半）
【Key Word】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、野外観察の仕方、虫取り体験
【授業概要】
①野外観察の仕方を実際に体験したり説明を受けたりする。
②虫取りを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ　　学習指導要領・解説Ｐ１02～１03
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること

第１３回　２.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（後半）
【Key Word】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学
【授業概要】
①バックヤードを見学し説明を受ける。
②館内の見学を見学して、教師（引率者）の視点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ　　学習指導要領・解説Ｐ１02～１03
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること

第１４回　１．学外施設での体験研修から　２．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！
【Key Word】
学外施設での体験研修、学外施設の具体的な活用方法、学外施設利用の課題と対策、理科を学ぶ意義・理由
【授業概要】
①学外施設で学んだことを発表する。
②学外施設との連携・活用、具体的な活用方法、課題とその対策について考える。
③「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について考える。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ　　学習指導要領・解説Ｐ１02～１03
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○他教科を学ぶ意義・理由についても考え、自分なりの考え・答えをしっかりともっておくこと

第１５回　１.理科（小・中・高）の内容構成を確認してみよう！　２.ものづくりに挑戦してみよう！
【Key Word】
小学校の内容区分、理科（小・中・高）の内容構成、小・中・高校の内容の系統、ものづくり、ものづくりの大切さ
【授業概要】
①「小学校の内容区分、小・中学校の内容構成、小・中・高校の内容の系統」を学ぶ。
②各学年のものづくりの単元を探す。ものづくりの大切さを学ぶ。作ってみたいおもちゃ等を決める。必要な材料等を考える。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説Ｐ１～29、Ｐ118～129　　３～６年の教科書のものづくり単元
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自分が作るおもちゃに必要な材料を次時までに用意すること

第１６回　１.実際にものづくりに挑戦しよう！
【Key Word】
ものづくり、ものづくりのための準備・材料、ものづくり報告書、作品評価カード
【授業概要】
①「ものづくり報告書」や「作品評価カード」の説明を受ける。
②実際にものづくりを行う。
③自分の作品をみんなに披露する。
④作品評価カードで評価する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説Ｐ１～29、Ｐ118～129　　３～６年の教科書のものづくり単元
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○時間内に作品が完成しなかった場合は、次の講義までに完成させておくこと

第１７回　１.小学校教師が苦手と感じている分野の克服法を考えよう！
【Key Word】
指導が苦手な理科の分野、高学年のエネルギー・地球分野の内容、指導が苦手な分野の克服法

【授業概要】
①小学校教師が苦手だと感じている指導分野を知る。
②苦手な、高学年のエネルギー・地球分野の内容を確認する。
③理科指導で不安に感じている分野の克服法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野　　学習指導要領・解説Ｐ６１～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業をする単元を決め、どんな授業にするか、構想を練っておくこと

第１８回　１.実際に授業を構想し、模擬授業に挑戦しよう！
【Key Word】
模擬授業、５・６年のエネルギー・地球分野、素案づくり
【授業概要】
①５・６年のエネルギー・地球分野で模擬授業にチャレンジする。
②どの分野・単元にするか、考える。
③実際に授業を構想し、素案づくりを始める。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野　　学習指導要領・解説Ｐ６１～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○観察記録カードを次回持ってくること

第１９回　１.私の模擬授業を体験しよう！　２.優れた授業の１０条件（私の発案）を学ぼう！
【Key Word】
模擬授業、優れた授業の条件、燃焼の仕組み
【授業概要】
①Ａ区分の（１）燃焼の仕組み（６年）の模擬授業を受ける。
②「優れた授業を行うためにはどうしたらよいか」を考える。
③優れた授業の１０条件の説明や解説を聞きながら、自分のストロングポイントとウィークポイントを考える。
【教科書ページ・参考文献】
６年の教科書Ｐ12～27(東書)、Ｐ8～27（大日本）　　学習指導要領・解説Ｐ75～78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○今日の模擬授業と講義を参考に、自分の模擬授業をどうするかを考え、学習指導案（略案）を完成させること
○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること

第２０回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ１)！
【Key Word】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業の行い方、受け方を確認する。
②模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
③授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること

第２１回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ２)！
【Key Word】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること

第２２回　１.ぐんま天文台での学外施設学習（前半）
【Key Word】
天文台の役割・仕事、ぐんま天文台の概要、天体観測、星、太陽系、惑星、恒星、銀河、宇宙
【授業概要】
①ぐんま天文台の概要の説明を受ける。
②天体観測の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
３～６年の教科書の地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること

第２３回　２．ぐんま天文台での学外施設学習（後半）
【Key Word】
天体望遠鏡の使い方、天体観測、惑星、恒星、星座
【授業概要】
①天体望遠鏡の使い方を学び、実際に観測する。
②施設（バックヤードを含む）を見学し説明を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
３～６年の教科書の地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること

第２４回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ３)！
【Key Word】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること 第２５回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ４)！ 【Key Word】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。 ②授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること 第２６回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ５)！ 【Key Word】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。 ②授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること 第２７回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ１）！ 【Key Word】 水溶液の性質、なぜ解き、指導力向上 【授業概要】 ①６年「水溶液の性質」を題材に、「なぜ解きの面白さ」を味わいながら、「指導力のさらなるアップ」をめざす。 ○６種類の無色・透明な水溶液のどれが何の水溶液なのかを３人で手順と方法を考える。 ○教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開にしているのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の教科書Ｐ146～165(東書)、Ｐ94～111(大日本)　学習指導要領・解説Ｐ78～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○６種類の水溶液のどれが何の水溶液なのかを調べるための方策を、３人で考えてまとめておくこと 第２８回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ２）！ 【Key Word】 水溶液の性質、なぜ解き、実験計画、実験、結果・結論の発表 【授業概要】 ①自分たちが立てた実験計画に従って、実験を行う。 ②実験結果の発表の仕方を考える。 ③結果の発表の内容と仕方を３人で確認し、準備を始める。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の教科書Ｐ146～165(東書)、Ｐ94～111(大日本)　学習指導要領・解説Ｐ78～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○発表の準備が終わらなかった班は、次時までに仕上げておくこと 第２９回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ３）！ 【Key Word】 水溶液の性質、なぜ解き、教科書での展開、比較、指導力向上 【授業概要】 ①実験結果を班ごとに発表する。 ②教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開にしているのかを考える。　○自分たちで取り組んだ方法と教科書の展開を比較する。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の教科書Ｐ146～165(東書)、Ｐ94～111(大日本)　学習指導要領・解説Ｐ78～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○教科書の授業展開と自分たちの方法を比較し、それぞれのよさと課題を明らかにしておくこと 第３０回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ４）！　２.１年間をふり返ろう！ 【Key Word】 水溶液の性質、なぜ解き、指導力向上 【授業概要】 ①教科書の展開の仕方がわかった時点で、そのよさと課題を考える。 ②発展・活用として、日常生活での応用例・実例を考えたり調べたりして、さらなる理解を深める。 ③１年間、講義を受けて、自分が成長したところと課題をまとめる。 ④後期定期試験に向けて勉強しておくべきことや留意点等の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の教科書Ｐ146～165(東書)、Ｐ94～111(大日本)　学習指導要領・解説Ｐ78～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○1年間で学んだことをワークシートや資料でふり返るとともに、しっかりと復習し、後期試験にそなえること
受講生に関わる情報および受講のルール	１　小学校教諭、保育士等、教職を目指す者としての自覚をもち講義に臨むこと。 ２　各課題に対し、自らの考えをしっかりともち積極的に意見を発表するとともに、周りの意見や考えに謙虚に耳を傾けること。 ３　振り返りシートに、講義の評価、内容の理解、質問、感想等を毎回明記し、提出すること。 ４　毎回配布されるワークシートについては、復習を行うとともにきちんと保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他（ワークシート）

授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの動植物や自然に関心をもち、自ら体験しようとする意欲と習慣を身に付けること。
オフィスアワー	・質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（30％）、 授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、振り返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新編 新しい理科」、大日本図書「新版 たのしい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小学校教員（５年間）、公立中学校教員（１４年間）、県教育委員会学校指導課指導主事（３年間）、県教育委員会東部教育事務所学校教育課指導主事及び主任指導主事（３年間）、公立小学校教頭（２年間）、公立小・中学校長（小学校７年間、中学校３年間） アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（生活）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。 【到達目標】 １）　児童が体験・実践・共同学習をとおして学ぶために効果的なワークシートを作成することができる。 ２）　児童の様々な発語をすくい上げながら授業を展開することができる。 ３）　幼児教育からの接続を意識するとともに、３年生以降の学習への興味につなげる内容を工夫できる。
授業の概要	生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　ガイダンス　（生活科の目標　・生活科の内容） 【key words】 人・社会とのかかわり　自然とのかかわり　自分自身　家族 【授業概要】 生活科の目標について示すとともに、内容（９項目）について詳説する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説生活編』を概観しておく。 復習：配布された資料をよく読み、内容をつかむ。 第２回　実践研究　：　春の景色 【key words】 春の景色　スケッチ 【授業概要】 四季の変化を理解するために、適する場所（定点）を選んで景色をスケッチする。各季節とも同じ景色を描くため、変化がよくわかる場所を選ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 第３回　実践研究　：　植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実施する）〈開始〉

【key words】
種　土　水やり
【授業概要】
各グループで用意した苗・種と栽培用品を用いて植えつけ・種まきを行う。以後、受講生同士で登板を決めて水やり・手入れを行う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：栽培に必要な材料・物品をグループ毎に持参する。

第４回　実践研究　：　春を探そう（植物）
【key words】
春の植物
【授業概要】
春の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第５回　実践研究　：　春を探そう（生き物）
【key words】
春の生き物
【授業概要】
春になると現れたり、特に春に特徴のある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第６回　実践研究　：　生きものの採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる）
【key words】
春の生き物　鳥　魚　昆虫
【授業概要】
学校周辺に生息している生き物（昆虫）を捕えて調べ、特徴をワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第７回　実践研究　：　植物の栽培と観察
【key words】
発芽　子葉　本葉　開花　水やり　日光
【授業概要】
第３回の授業で種をまいた植物の様子を観察してスケッチし、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第８回　実践研究　：　夏の景色
【key words】
夏の景色　春の景色
【授業概要】
夏の景色をスケッチし（春にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春の景色と比較する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第９回　実践研究　：　夏を探そう（植物）
【key words】
夏の植物　春の植物の様子との違い
【授業概要】
夏の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

第１０回　実践研究　：　夏を探そう（生き物）
【key words】
夏の生き物
【授業概要】
夏に現れたり、夏に特徴があらわれる生き物を探して、スケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

		準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
	第１１回	課題研究　：　家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える） 【key words】 家族　日常生活　役割（お手伝い） 【授業概要】 「自分の家族」「家族の一員としての自分」に気づかせる方法について話し合い、発表する。≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
	第１２回	課題研究　：　自分を取り巻く環境について考えよう 【key words】 家族　先生　友だち　お世話になっている人たち　地域の人々 【授業概要】 学校・地域・自分の活動場所などでお世話になっている人たちを正しく理解し、感謝の気持ちを持つことができるための教育方法について話し合い、発表する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
	第１３回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（調査・計画） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
	第１４回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（製作） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
	第１５回	実践研究　：　植物の栽培と観察のまとめ 【key words】 観察記録 【授業概要】 今まで作成してきた観察記録を集約・検討し、気づいたことや授業づくりのポイントなどを発表し合う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生の観察記録にコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
	第１６回	生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等） 【key words】 生活科の特質　配慮事項　指導計画 【授業概要】 指導計画作成の要点と配慮事項・学習の進め方・年間計画と単元計画・評価の観点などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料を熟読し、内容をしっかり理解すること。
	第１７回	実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（製作） 【key words】 不用品（ペットボトル・牛乳パック・空き箱・段ボールなど） 【授業概要】 生活の中で生じる不用品を用いて大きなおもちゃなどを共同で作る。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：製作に必要な材料と道具を持ってくる。
	第１８回	実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（実践） 【key words】 遊び　工夫 【授業概要】 前回作った大きなおもちゃを使って遊んでみる。他グループが製作したもので遊んだり、新しいあそび方を考える。　≪グループ学習≫

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作したおもちゃの作り方（ワークシート）をまとめる（次回提出）。

第１９回　実践研究　：　秋を探そう（植物）
【key words】
秋の風景　秋の植物　秋の生き物のようす
【授業概要】
秋の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
日本の秋の自然の情景を体感する。秋の実や葉などを集める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

第２０回　実践研究　：　秋を探そう（生き物）
【key words】
秋の風景　秋の生き物　「秋をみつけたよ日記」
【授業概要】
秋に特徴がある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。また、日本の秋の自然と風物を体感する。「秋をみつけたよ日記」を書く。
【教科書ページ・参考文献
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシート・「秋をみつけたよ日記」にコメントを書く（次回提出）。

第２１回　実践研究　：　秋の景色
【key words】
秋の風景
【授業概要】
秋の景色をスケッチし（春・夏にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春・夏の景色と比較する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

第２２回　実践研究　：　秋の植物や実を使った製作
【key words】
木の葉　枝　木の実
【授業概要】
第19回「秋を探そう」で集めた自然の産物を使って、おもちゃ・生活用品・アクセサリーなどを作る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：第19回の授業で見つけた材料と、製作に必要なものを持ってくる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

第２３回　実践研究　：　冬の植物・生きものを探そう
【key words】
冬の植物　冬の生き物　冬の気象現象
【授業概要】
冬に咲く花や実などの植物、冬の生き物の様子・風物などを観察してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆・防寒対策をすること。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

第２４回　課題研究　：　学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考案する
【key words】
学校　先生　友だち　学校を支えている人々
【授業概要】
学校生活を楽しく有意義に過ごすとともに学校を支えている人々や友だちについて分かるための学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

第２５回　課題研究　：　植物の栽培についての学習指導を考案する
【key words】
植物　栽培　変化　成長
【授業概要】
植物の栽培についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

	第２６回　課題研究　：　動物の飼育についての学習指導を考案する 【key words】 生き物　飼育　変化　成長　生命 【授業概要】 生き物の飼育についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 模擬授業終了後、ディスカッションを行う。 年間を通じて飼うことができる生き物を選んで、授業を展開する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 第２７回　実践研究　：　冬の景色　冬の暮らし 【key words】 冬の景色　スケッチ 【授業概要】 冬の景色をスケッチし、既に描いた春・夏・秋の景色と比較する。また、冬ならではの暮らし方・遊び・行事について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 第２８回　課題研究　：　季節の変化と生活についての学習指導を考案する（春夏秋冬のスケッチをもとに） 【key words】 四季の変化　植物　風物　文化　日本人の美意識 【授業概要】 季節の変化と生活についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 第２９回　課題研究　：　家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考案する 【key words】 家族　自分の役割　　地域の人々と暮らし　安全 【授業概要】 家庭と生活・地域と生活について学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 第３０回　課題研究　：　公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　まとめ 【key words】 公共施設　施設を支えている人々　安全　自分の成長　友だち 【授業概要】 公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（指定された提出日）。
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	実践活動に対する積極性（５０％）、提出物（５０％）・・・全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領生活編』　／　加藤明・濱田純・吉田豊香ほか　『新編 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上、東京書籍、平成26年　／　加藤明・濱田純・吉田豊香ほか　『あしたへジャンプ 新編 新しい生活』下、東京書籍、2016年
参考書	0
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（音楽）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
小嶋　彩			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践できることを目的とする。 【到達目標】 ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラム構造と内容を理解する。 ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得する。 ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につける。
授業の概要	小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を演習を通して学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	前期オリエンテーション（到達目標と概要、授業の進め方・課題・評価方法の説明等）　学習指導要領について（音楽科の目標） 【key words】 シラバス、学習指導案、模擬授業、成績評価、学習指導要領、 【授業概要】 この授業の目的や到達目標、授業概要、授業計画、評価方法について理解する。 また、学習指導要領における音楽科の目標について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P8～13 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストを購入し、P8～13を読んでおく。 ソプラノリコーダーを継続的に使用するので、全員が用意し毎回持参すること。また、鍵盤ハーモニカを持っている人は指定した日に持ってこられるよう用意をしておくこと。
	第２回	各学年の目標と音楽科の指導内容 【key words】 学習指導要領、児童の発達特性、2つの領域と3つの分野 【授業概要】 学習指導要領における音楽科の各学年の目標について学ぶ。また、音楽科の指導内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P14～26 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP14～26を読んでおく。
	第３回	音楽科の指導計画と評価 【key words】 教育計画、教育課程、題材、目標と指導内容、学習指導案、音楽学習の評価 【授業概要】 教育の目的を確認し、学習指導計画の必要性や指導内容及び題材の構成、学習指導案の作成について学ぶ。また、教育評価の意義と目的、音楽学習の評価の観点と評価方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P27～42 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP27～42を読んでおく。
	第４回	授業実践にあたって

【key words】
発達特性、学習特性、教材研究、主体的・対話的で深い学び
【授業概要】
児童期の発達特性と音楽的発達の特性を踏まえた音楽学習について学ぶ。
また、学習指導要領の重要なキーワードである「主体的・対話的で深い学び」に基づいた音楽科の授業実践について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P44～51
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP44～51を読んでおく。

第５回　歌唱の学習と指導（１）「歌唱」の意義と留意点について
【key words】
範唱、発声、合唱、楽曲の分析、伴奏、歌う喜び
【授業概要】
音楽科における歌唱の意義と留意点について学ぶ。また、教師に必要な歌唱指導のスキルについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P52～53
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP52～53を読んでおく。

第６回　歌唱の学習と指導（２）歌唱の指導法について
【key words】
自然で無理のない歌い方、発声、姿勢、呼吸、発音、変声期
【授業概要】
学習指導要領における「自然で無理のない歌い方」を指導するために、声の仕組みと発声、学年に応じた発声指導について学ぶ。また、音高・音程を合わせられない児童に対する指導について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P54～55、60
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP54～55、60を読んでおく。

第７回　歌唱の学習と指導（３）歌唱教材研究について
【key words】
共通教材、分析と解釈、移動ド唱法
【授業概要】
歌唱共通教材を学習する意義や、歌唱教材の研究の方法と指導方法について学ぶ。
また、移動ド唱法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P56～59
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP56～59を読んでおく。

第８回　器楽の学習と指導（１）「器楽」の意義と留意点について、楽器の奏法と指導法について①
【key words】
音楽表現、楽器との出合い、打楽器、和楽器
【授業概要】
音楽科における器楽の意義と留意点について学ぶ。
また、打楽器や和楽器などの種類や奏法、指導法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P61～68、74～79
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP61～68、74～79を読んでおく。

第９回　器楽の学習と指導（２）楽器の奏法と指導法について②
【key words】
リコーダー、美しい音、タンギング、指づかい
【授業概要】
リコーダーの種類や奏法、指導法について学ぶ。ソプラノリコーダーは3年生から学習する楽器で担任が指導することもあるため、リコーダーについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P69～71
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP69～71を読んでおく。
ソプラノリコーダーを忘れずに持ってくる。

第１０回　器楽の学習と指導（３）楽器の奏法と指導法について③、器楽教材研究について
【key words】
鍵盤ハーモニカ、
【授業概要】
鍵盤ハーモニカの種類や奏法、指導法について学ぶ。鍵盤ハーモニカは1年生から学習する楽器で担任が始動することが多いため、鍵盤ハーモニカについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P72～73、80～83
【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP72～73、80～83を読んでおく。
鍵盤ハーモニカを持っている人は、必ず持ってくる。

第１１回　音楽づくりの学習と指導（１）「音楽づくり」の意義と留意点について
【key words】
音遊び、即興的な表現、〔共通事項〕
【授業概要】
音楽づくりの特徴や〔共通事項〕との関係を理解し、音楽科における音楽づくりの意義と留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

		P83～84 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP83～84を読んでおく。
	第１２回	音楽づくりの学習と指導（２）音楽づくりの指導法について 【key words】 学習指導要領、音遊び、即興的な表現 【授業概要】 学習指導要領における音楽づくりの各学年の指導内容とその方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P85～92 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP85～92を読んでおく。
	第１３回	鑑賞の学習と指導（１）「鑑賞」の意義と留意点について 【key words】 音楽の聴取、知覚・感受 【授業概要】 音楽鑑賞の特徴を理解し、音楽科における鑑賞指導の意義と留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P93～94 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP93～94を読んでおく。
	第１４回	鑑賞の学習と指導（２）鑑賞の指導法、教材研究について 【key words】 指導のステップ、ねらいの焦点化、楽しく聴く活動 【授業概要】 鑑賞指導の組み立て方と各学年の指導法、鑑賞の授業におけるトラブルシューティングについて学ぶ。また、鑑賞教材選択の観点と教材研究について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P95～107 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP95～107を読んでおく。
	第１５回	表現と鑑賞との関わり 【key words】 指導の関連、〔共通事項〕 【授業概要】 表現と鑑賞との関連の意義と、〔共通事項〕を活用した実践例について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P108～112 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP108～112を読んでおく。 今までの学習内容をよく復習して前期試験に臨むこと。
	第１６回	後期オリエンテーション（後期の授業概要、評価方法の説明等）　学習指導案の作成について（１）題材・目標の設定 【key words】 学習指導案、模擬授業、学習指導要領、目標、題材・教材 【授業概要】 後期の授業内容と進め方について理解する。模擬授業の学習の流れや日程を確認する。 また、学習指導要領をもとにしながら、学習指導案の題材・目標の設定の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P33～35、227～241 【課題・予習・復習・授業準備】 この講義までに模擬授業で自分が担当する題材について、どんな授業ができるかいくつかの案を考えておくこと。 授業で学んだことをもとに、自分の学習指導案の作成を進めておくこと。
	第１７回	学習指導案の作成について（２）題材の指導と評価の計画 【key words】 題材の目標、題材観、児童観、学習指導要領、評価基準 【授業概要】 教材研究から、題材の指導をどのように進めていくか考え、学習指導案の題材、教材についての記述方法、また題材の評価基準の設定の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P33～35、227～241 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で学んだことをもとに、自分の学習指導案の作成を進めておくこと。
	第１８回	学習指導案の作成について（３）学習指導案作成演習 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、評価基準 【授業概要】 題材の目標、教材研究をもとに本時の展開を考え、学習指導案を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 P33～35、227～241 【課題・予習・復習・授業準備】 授業で学んだことをもとに学習指導案を完成させて、次回の講義で全員提出する。
	第１９回	音楽科と他教科等との関連 【key words】 目標、活動内容、違いと共有点、カリキュラムマネジメント 【授業概要】 音楽科と他教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連と、カリキュラムマネジメントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P116～122

【課題・予習・復習・授業準備】
テキストP116～122を読んでおく。
＊模擬授業の学習指導案提出締切日。

第２０回　学生による模擬授業（１）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２１回　学生による模擬授業（２）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２２回　学生による模擬授業（３）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２３回　学生による模擬授業（４）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２４回　学生による模擬授業（５）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２５回　学生による模擬授業（６）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２６回　学生による模擬授業（７）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】
本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。

第２７回　学生による模擬授業（８）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
P33～35、227～241
【課題・予習・復習・授業準備】

	本時の模擬授業の授業者の指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくること。 第２８回　校種間、地域との連携と音楽科 【key words】 実態、連携、協働、共感、共有、学校段階等間の接続、学習指導要領 【授業概要】 音楽科における、地域と学校、幼稚園と小学校、小学校と中学校との連携について学ぶ。 また、特別支援教育における音楽教育について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P123～127 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP123～127を読んでおく。 第２９回　日本の伝統音楽と諸外国の音楽 【key words】 音楽文化の多様性、異文化理解、教材化、学習指導要領 【授業概要】 日本の伝統音楽の定義や特徴を学び、指導の意義を理解する。また、自国の音楽文化の理解、異文化の理解等の観点から、諸外国の音楽を学ぶ意義を理解し、指導や教材化の方法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P128～131 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP128～131を読んでおく。 第３０回　小学校における音楽科の指導法についてのまとめ 【key words】 学習指導要領、生涯学習、著作権、ＩＣＴ 【授業概要】 音楽科と生涯学習、著作権、音楽科とＩＣＴについて学ぶ。 音楽科の課題、指導等、既習事項振り返りながら1年間の学習のまとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 P132～134 【課題・予習・復習・授業準備】 テキストP132～134を読んでおく。
受講生に関わる情報および受講のルール	リコーダーの実習があるため、ソプラノリコーダーを各自用意し、授業へ毎回持ってくること。 予習、事前準備をしっかりして授業に臨むこと。 課題の提出期限は必ず守ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。 歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。また、リコーダーの演奏技術向上のため、演習の復習を各自ですること。 様々な音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。
オフィスアワー	授業終了後30分間は対応可能
評価方法	筆記試験（５０％）　学習指導案作成と模擬授業及び授業検討会への取り組み（４０％）　実技試験及びレポート課題（１０％）
教科書	「最新　初等科音楽教育法〔改訂版〕　小学校教員養成課程用」　音楽之友社
参考書	小学校学習指導要領解説音楽編　文部科学省
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭としての経験をもとに、音楽科の指導法にとどまらず、全教科に共通する指導法、児童への対応の仕方、小学校教諭としての在り方等、学生が卒業後小学校教諭として働くことを意識した講義を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　小学校教科教育法（家庭）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。 【到達目標】 １）　実践的・体験的な授業を考案することができる。 ２）　「家庭生活と家族」「衣食住の生活」「消費生活と環境」について,それぞれの領域にまたがる総合的な考え方ができる。
授業の概要	家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイディア豊かな教材開発も行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　ガイダンス 【key words】 衣・食・住・経済（家計）　家庭生活　日常生活 【授業概要】 家庭科とは、より良い家庭生活を営むことを中心に据え、そのための衣・食・住・家庭経済における知識と技能を身につける教科であることを解説する。また、家庭科教育の意義について、家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育の視点から説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』を概観しておくこと。 第２回　家庭科教育の目標 【key words】 家庭　地域社会　現代家族 【授業概要】 家庭科の学習内容（家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎・快適な住まい・身近な消費生活と環境）を現代家族や地域社会との関係でどのように学習させるかについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料を見ながら、家庭科教育のポイント（目標・内容）をつかんでおくこと。 第３回　家庭生活と家族　：　家族の生活と役割しらべ 【key words】 家族の生活・家族の仕事・生活時間

【授業概要】
家族のメンバーはどのような日常生活を支える仕事（家事など）をしているかを考え、自分に出来ることを発見するための話し合いを行う。その後、児童の家庭生活の実態を考えながら、授業づくりのポイントについて発表し合う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第４回　家庭生活と家族　：　ライフコースの作成
【key words】
ライフコース　ライフステージ　ライフサイクル
【授業概要】
ライフステージを念頭に置きながらライフコースを考え、家族のメンバーに思いを寄せる。また、老後の過ごし方についても検討し、人の一生について考える。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
『家政学概論』　6～9ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシート（ライフコース）にコメントを書く。

第５回　物や金銭の使い方と買い物　：　賢い消費者になるための工夫・環境への配慮
【key words】
買ったにもかかわらず使っていないもの　金銭　買い物　欲しいもの　必要なもの
【授業概要】
購入しても使っていないものについて何故使わないのか、何故買ったのかを考える。また、欲しいものがあったら、それは必要なものかどうかを再考することにより、賢い買い物のしかたを検討する。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第６回　衣服への関心　：　衣服の形態・素材の観察
【key words】
TPO　素材　形態　色彩　暖かさ　涼しさ
【授業概要】
衣服には季節や場に合った形態・色・素材などがあることを、それぞれが持ち寄った各種の衣服を検討することにより理解する。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
『家政学概論』　97～107ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：各自好きな衣服を持参する（多種多様なものが望ましい）。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第７回　衣服への関心　：　洗濯に関する実験
【key words】
洗濯　洗剤
【授業概要】
手洗いで洗濯の実験を行う。「家庭科概論」で学んだ界面活性剤の作用を実践して理解する。≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『家政学概論』　127～135ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：「小学校教科教育生活」の植物栽培において使用した汚れた軍手（左右）を持参する。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第８回　生活に役立つものの製作（計画）
【key words】
家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い
【授業概要】
家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。家族の生活を考えながら計画を立て、製作を始める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。

第９回　生活に役立つものの製作（実践）
【key words】
家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い
【授業概要】
家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。基礎縫いの技法を用いて製作し、作品を仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作品（完成品）の作り方の手順や工夫をまとめる。
授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。

第１０回　食事への関心　：　献立作り
【key words】
６つの基礎食品群　栄養　朝食の献立
【授業概要】
栄養のバランスを考えながら、簡単にできる朝食の献立をグループ毎に考える。その結果を発表し共有し合う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
『家政学概論』　58～63ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：朝食にふさわしい献立を調べる（主食がパンの場合とご飯の場合の両方）。

第１１回　簡単な調理　：　調理実習（計画）
【key words】
簡単な調理（ゆでる・いためる・炊く）　食材　買い物
【授業概要】
グループ毎に第10回で考えた献立の調理実習の計画を立てる。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：野菜・肉加工品・卵の値段を調べる。

第１２回　簡単な調理　：　調理実習（実践）
【key words】
材料の洗い方　切り方　加熱　味付け　盛りつけ　準備と後片付け
【授業概要】
第11回で計画した内容を実践する。　≪グループ学習≫
また、各グループの作った料理を試食し合い、全体で反省会を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：調理実習用の身じたくを準備し、食材を購入する。

第１３回　住まいへの関心　：　汚れ調べと清掃に関する実験
【key words】
汚れと場所　道具　用具
【授業概要】
どのような場所にどんな汚れがあるかを観察し、それらをきれいにするための実践活動・実験を行う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：各家庭の清掃道具・用剤について調べる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第１４回　住まいへの関心　：　明るさ・風通し・暖かさ（涼しさ）に関する実験・実践
【key words】
明るさ　暖かさ（涼しさ）　風通し
【授業概要】
学内の各場所に行き、明るさ・暖かさ（涼しさ）・風の通りの違いなどを調べ、それらをもとに、どうすれば快適な環境を作れるかについて考える。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第１５回　家庭生活の工夫　：　家族との団らんの工夫
【key words】
家族のメンバー　団らん　おやつ　お茶
【授業概要】
お茶を飲みながら家族と団らんするための工夫を考えるとともに、日本茶の正しい入れ方を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：日本茶に合うお茶菓子を考え持参する。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第１６回　家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①　：　指導の形態（一斉指導・グループ学習・個別学習など）
【key words】
一斉指導　グループ学習　個別学習
【授業概要】
家庭科は、それぞれ異なる家庭背景を持つ児童を対象に実践的・体験的な学習を行う教科である。「家庭科」の各領域における指導形態別の注意事項を説明する。
第21回以降に行う模擬授業の分担を決定する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
『小学校わたしたちの家庭科５・６』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領

		域・単元を見て確認しておくこと。
	第１７回	家庭科教育の特徴をふまえた学習指導②　：　様々な学習指導の方法と効果的な領域 【key words】 教育方法　領域の複合 【授業概要】 さまざまな学習指導の方法と、それぞれがどの領域の学習に適しているかについて、具体例をあげて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 『小学校わたしたちの家庭科５・６』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領域・単元を見て確認しておくこと。
	第１８回	家庭科教育の学習指導計画①　：　種類と形式・年間指導計画 【key words】 学習指導の種類　年間計画 【授業概要】 各領域の内容をどのように計画的に指導するか、また複合領域の組み合わせ方について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 『小学校わたしたちの家庭科５・６』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業の準備
	第１９回	家庭科教育の学習指導計画②　：　題材指導計画・時案 【key words】 題材指導計画　時案　実習・実践・実験 【授業概要】 各領域の指導計画の作成方法について解説する。 各領域において模擬授業を行うに際してのポイントを説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業の準備
	第２０回	家庭科教育の評価　：　目的と対象・手順など 【key words】 自己評価　相互評価 【授業概要】 実践的・体験的学習を行い、かつ家庭背景がそれぞれ異なる児童の学習成果に対しての評価のあり方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：模擬授業の準備
	第２１回	実践研究（１）　：　衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実施する。 【key words】 衣生活　暖かい（涼しい）着方　衣服の手入れ 【授業概要】 衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。
	第２２回	実践研究（２）　：　被服製作の基礎技能を楽しく身につけるための学習の指導例を考え、実施する。 【key words】 手縫い　ミシン縫い 【授業概要】 被服製作の基礎技能を楽しく身につけさせるための学習指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。 授業準備指示：裁縫道具一式
	第２３回	実践研究（３）　：　調理に関する2年間を見通しての学習計画を立案する 【key words】 買い物　価格　ゆでる・いためる・炊く　栄養　食品群 【授業概要】 調理に関する２年間を見通しての学習計画を立案するとともに指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。

第２４回　実践研究（４）　：　体験を通して調理の基礎技能を身につけるための学習指導例を考え、実施する。

【key words】
材料の切り方　加熱　味付け　盛り付け　衛生管理　手順
【授業概要】
調理の基礎技能を、体験を通して見につけさせるための学習指導を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。

第２５回　実践研究（５）　：　住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。

【key words】
暖かさ（涼しさ）　明るさ・温度・風通し・騒音　清掃　整理整頓
【授業概要】
住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第２６回　実践研究（６）　：　環境に配慮した生活の工夫について体験的学習の指導例を考え、実施する。

【key words】
リサイクル　ゴミの分別　買い物　地球環境
【授業概要】
環境に配慮した生活の工夫について、体験的学習の指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第２７回　実践研究（７）　：　家庭生活と家族の内容と、日常の食事・調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する

【key words】
家族　だんらん　会食　仕事の分担（お手伝い）
【授業概要】
家庭生活と家族の内容と、日常の食事と調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第２８回　実践研究（８）　：　被服等の製作と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え実施する

【key words】
手縫い　ミシン縫い　家族にとって便利な物　家族の生活
【授業概要】
布を用いた製作学習と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。

第２９回　実践研究（９）　：　身近な消費生活と環境について課題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。

【key words】
地球環境　リサイクル（再利用）　ゴミの分別　賢い消費者　本当に必要なもの
【授業概要】
身近な消費生活と環境について、問題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書き提出。

第３０回　まとめ　：　衣・食・住・家庭経済（家計）の内容を盛り込んだ会食を企画し、実施する。

【key words】
テーブルセッティング　献立　調理　買い物　だんらん
【授業概要】
衣・食・住・家庭経済の内容を盛り込んだ会食を企画・実施する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	課題：１年分のワークシートを整理し、まとめる。 授業準備指示：調理実習の材料を購入する。
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	実践活動に関する積極性（２０%）　提出物（８０%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領家庭編』　／　ワークシートを配布 内野紀子・鳴海多恵子・石井克枝他　『小学校わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、2016年
参考書	佐々井啓監修『家政学概論』（共栄出版）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　道徳の理論及び指導法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	30	学校教育コース・初等教育コース・必修
担当教員			
2019年度休講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　道徳科学習指導要領の目標・内容を理解し、道徳科の理論や基本的な指導法を身に付けることができる。 〔到達目標〕 ①「領域としての道徳」及び「特別の教科としての道徳科」誕生の背景について理解することができる。 ②道徳科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ③道徳科の理論や基本的な指導法を身に付けることができる。
授業の概要	１　道徳科の学習指導要領の目標・内容が実際の道徳科教科書にどのように具体化しているか、理解する。 ２　学習指導要領及び解説「道徳編」を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。 ３　上記１と２を踏まえ、グループで教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	オリエンテーション（全15回の授業概要、本授業の学生への評価方法等）、道徳科指導の基礎基本①（「道徳」の本質・意義について、「道徳性」、「道徳の時間」と「道徳教育」の違い）、教師の体験談１（道徳科授業の実践例：小学校低学年「いじめ」）
	第２回	道徳科指導の基礎基本②（道徳教育の歴史：「領域としての道徳」の誕生から現在の「特別の教科として道徳」まで、特に考え議論する道徳について）、教師の体験談２（道徳科授業の実践例：小学校中学年「勤勉・粘り強さ」）
	第３回	道徳科指導の基礎基本③（道徳の指導計画：全体計画・年間指導計画について）、教師の体験談３（道徳科授業の実践例：小学校高学年「生命尊重」）
	第４回	道徳科指導の基礎基本④（学習指導案の基本的な作成方法、児童生徒の実態把握の方法、各教科・他領域との横断的指導）、教師の体験談４（道徳科授業の実践例：中学校「情報モラル」）
	第５回	様々な指導法（ティーム・ティーチング〈管理職と担任、複数担任、地域人材と担任〉、ロールプレイング、新聞利用、ペープサートや場面絵、発問の工夫、類型化、討論、板書の仕方、ワークシート、板書、ネームプレート、説話の活用等）
	第６回	評価方法（記述による評価・個人内評価・ポートフォリオ評価、座席表・通知表・指導要録等、管理職や道徳教育推進教師等との組織的な評価）
	第７回	教材研究の仕方について①（実際の学習指導案概要「小学校　１年　はしのうえのおおかみ」から学ぶ。具体的な自作教材として動物のお面、紙芝居、ペープサート、指人形等を扱う。）
	第８回	教材研究の仕方について②（実際の学習指導案概要「中学校　１年　この子のために」から学ぶ。具体的な指導方法としてネームプレートやディベートを扱う。）
	第９回	学習指導案の作成・模擬授業準備①（小学校班は「１年　はしのうえのおおかみ」、中学校班は「１年　この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。）

	第１０回　学習指導案の作成・模擬授業準備②（小学校班は「１年　はしのうえのおおかみ」、中学校班は「1年　この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。） 第１１回　学習指導案の作成・模擬授業準備③（小学校班は「１年　はしのうえのおおかみ」、中学校班は「1年　この子のために」の展開部分を作成、小学校班は主に視覚的教材やロールプレイング、中学校班は主にディベート的な討論を中心に授業設計をする。また、ワークシートと板書計画を作成する。作成後、授業シミュレーションを行う。） 第１２回　模擬授業・授業研究会①（小学校班代表者２名が「１年　はしのうえのおおかみ」のT・T模擬授業者となり45分間の模擬授業を行う。その後、授業研究会を開き、省察を行う。） 第１３回　模擬授業・授業研究会②（中学校班代表者が「１年　この子のために」の模擬授業者となり50分間の模擬授業を行う。その後、授業研究会を開き、省察を行う。） 第１４回　道徳科教科書の概観。道徳教育用教材「わたしたちの道徳（小学校）」「私たちの道徳（中学校）」について（学習指導要領が本教材にどのように反映されているか探求する、道徳の目標・内容、内容項目の指導の観点等） 第１５回　学習指導要領及び解説の総復習、道徳科と学級経営、まとめ（シャトルカードを用いた半期の振り返りと発表）
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要を見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをすること。 ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・道徳科や教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。
オフィスアワー	初回授業時に、指示する。
評価方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み・模擬授業・学習指導案作成（30%）、ミニテストまたはレポート（20%）
教科書	１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」廣済堂あかつき、2015年7月。 ２　文部科学省：「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」教育出版、2015年7月。
参考書	・文部科学省：「わたしたちの道徳（小学校１・２年、３・４年、５・６年）」 各文溪堂、教育出版、廣済堂あかつき 2015年６月。 ・文部科学省：　「私たちの道徳（中学校）」廣済堂あかつき 、2015年6月。 ・文部科学省：「私たちの道徳」活用のための指導資料。 ・講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(90)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力」を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。 ②教育実習後の報告会を通して、教育実習の省察することができる。
授業の概要	1　現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。 2　模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合うことができる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	1．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	2．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	3．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 4．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	5．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解（実習の心構え、事務手続き、実習録のファイル作成・記入方法） 【key words】 教育実習の心構え、書類 【授業概要】 ①実習の心構えについて、「実習へのガイドブック」を用いて理解する（特にＳＮＳ、体罰、守秘義務）。 ②オリエンテーション日程の決定、実習校への提出書類、実習手続きを確実に行うことを理解する。 ③教員採用試験の志望受験自治体、大学推薦希望有無及び希望自治体について決定し、志願書を書き始める。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習校の実態について調べ、実習録で記入できるところは記入することを指示。受験自治体の志願書の下書きをするよう指示。
	第２回	教育実習の理解と手続き①（諸注意【特にSNS、体罰、守秘義務】、実習計画、事前打ち合わせ日の決定、実習録の記入１） 【key words】 教育実習の事務手続き、オリエンテーション、実習録 【授業概要】 ①オリエンテーション内容の確認、実習計画書作成、誓約書等の実習手続きを確実に行う。 ②教員採用試験の志願手続きを理解し、実際に書類を作成する。 ③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。 ④実習録を作成し、記入できる部分は記入する。実習校への送付書類の袋詰めを行い、送付する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」

・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習校の実態の詳細について調べること、受験自治体志願に向け試験要項の熟読、書類作成、実習校のオリテン日時を決定すること、実習録で書ける場所は書くことを指示。

第３回　教育実習の理解と手続き②（参観授業、授業実践、研究授業の方法、三種の挨拶【職員室で、全校の前で、配属学級で】）
【key words】
実習録の記入、参観授業、授業実践、研究授業

【授業概要】
①学長先生、学部長先生より、実習前の訓話・講話をいただく。
②授業実施時数、巡回指導、授業参観記録、お礼状の書き方を理解する。
③三種の挨拶（職員室で、全校児童の前で、配属学級の前で）について学ぶ。
④小論文の書き方の復習をする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
受験自治体志願に向け試験要項の熟読、書類作成を指示。また、小論文を次週までに提出する。

第４回　教育実習の理解と手続き③（実習校の理解：事前に調べておき、実習録該当ページに記入する。）
【key words】
実習校の理解

【授業概要】
①実習録の書けるページの記入をする。（１～６頁、実習校の概況、教育実習の予定）
②ホームページ等を用い、実習校の理解、地域の理解を図る。
③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習校周辺の地域の実態について調べること、受験自治体合格に向けての勉強を行うことを指示。

第５回　教育実習の理解と手続き④（児童・先生方への対応、休み時間や給食の対応、事前打ち合わせの報告１）
【key words】
教育実習の心得、コミュニケーション力

【授業概要】
①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の心得について学ぶ。
②児童・先生方への対応、コミュニケーションについて学ぶ。
③面接練習をする。
④受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
⑤オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
過去に出された論文問題を書くこと、面接問題の回答を「面接ノート」にまとめておくことを指示。

第６回　教育実習の理解と手続き⑤（実習録の記入２、お礼状の書き方、事前打ち合わせの報告２）
【key words】
教育実習の心得、実習録

【授業概要】
①オリエンテーションについて学生同士で情報交換をし、本実習に生かすようにする。
②実習録の６頁以降の書き方を学ぶ。
③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年

・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教職教養の過去問題を解くことを指示。

第７回　教育実習の理解と手続き⑥（褒め方・叱り方、朝の会・帰りの会、事前打ち合わせの報告３）
【key words】
実習トラブル

【授業概要】
①実習におけるトラブルの対応について学ぶ。
②教員採用試験面接試験の問題（例　学校での様々なトラブル）について考える。
③受験自治体の過去問題を解く。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
専門教養の過去問題を解くことを指示。

第８回　教育実習の理解と手続き⑦（トラブルの対応、特別支援教育、事前打ち合わせの報告４）
【key words】
褒め方・叱り方

【授業概要】
″①実習を行った先輩の褒め方・叱り方から学ぶ。
②実際に褒め方・叱り方のロールプレイングを行い、よい点・課題を自覚する。″

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
面接についての自己課題のレポートをまとめることを指示。

第９回　教育実習報告会その１（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】
報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
お礼状を書くことを指示。受験自治体合格に向け、試験勉強をするよう指示。

第１０回　教育実習報告会その２（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】
報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、
・「学習指導要領及び解説」
・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年
・その他、講義の中で、随時紹介する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
お礼状を書くことを指示。受験自治体合格に向け、試験勉強をするよう指示。

第１１回　教育実習報告会その３（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】
報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。

	【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「教員採用試験受験報告書」を書くことを指示。 第１２回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。【課題・予習・復習・授業準備指示 第１３回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示 第１４回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。【課題・予習・復習・授業準備指示 第１５回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、 ・「学習指導要領及び解説」 ・時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。【課題・予習・復習・授業準備指示
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、授業概要やシラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・授業概要やシラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・教育実習報告会（５0%）、提出物（３0%）、授業中への取り組み（20%）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、教育実習生の事前事後指導を具体的かつ実践的に行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　読書指導と文芸　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
中里　昌之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書の意味と読書指導の方法を、文芸学の視点を通して学び身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の方法を説明し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	幼児・児童・生徒・成人を対象とした読書指導の理論と実際を、具体的な文芸作品とかかわらせながら学ぶ。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書とは何か―多様な読書論の現在―／読書指導の三原則／読書についての思索 読書の意味を明らかにすると共に多様な読書論の現在について探求する。
	第３回	読書ノートの作成とその評価―読書と図書館―／要約の方法／読書材の読後評価 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、読書において図書館が果たす役割を考える。
	第４回	読書指導と発達段階―多様な読書材の選択―／読書のタイプ／読書の構造―読者とは何か― 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークとは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価シートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス― 読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学ぶ。
	第１１回	読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。
	第１２回	読書法の指導―ブックスタート・読みの多様さ・読書学の誕生―／読書療法 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。
	第１３回	読書と古典―日本書紀の読み方・西行の読み方・平家物語の読み方・方丈記の読み方・おくの細道の読み方― 古典をどう読むか、日本書記、西行、平家物語、方丈記、おくの細道などにおいて検証する。
	第１４回	読書と近代文芸―鴎外を読む・漱石を読む・鬼城を読む・朔太郎を読む・有流を読む― 近代文芸をどう読むか、鴎外、漱石、鬼城、朔太郎、有流などにおいて検証する。

	第１５回　　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後10分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	大越和孝・泉宜宏・宮絢子編著『読書』東洋館出版社（2017）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） 岩波書店編集部編『日本古典のすすめ』岩波書店（2007）
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健の課題と支援　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】こころと社会について深い関心を持ち、主体的に学習を続け基本知識を理解させる。 【到達目標】ライフサイクルで見る精神保健学の視点を理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。
授業の概要	精神保健を縦軸（ライフサイクル）　と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ、現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の進め方
【key word】
海馬
【授業概要】
昔は異常心理学と重なっていた。
今は精神保健・メンタルヘルスと呼び、切り口がライフサイクルになっている。
メンタルヘルスの啓発講話を実際に体験してもらい精神保健の理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料

第２回　精神保健とは？メンタルヘルスの予防とは？
【key word】
ウエルビーン
【授業概要】
カプランの第一次予防、第二次予防、第三次予防を理解する。
ウエルビーン。ヘルスプロモーション

【教科書ページ・参考文献】
１～3P

第３回　ライフサイクルと精神保健
【key word】
疾病性、事例性

【授業概要】
WHOの健康の定義。疾病性、事例性を理解する。
腕のいい医者は疾病化させない。腕のいいワーカーは事例化させない。
※スピリチュアルな健康も忘れない。

第４回　これまでの精神保健教育
【key word】
ライフサイクル

【授業概要】
精神疾患についての捉え方、学校保健教育の問題。
人生の節目（ライフサイクル）、ここに目を向ける。

第５回　学童期前、学童期・青年期の精神保健
【key word】
思春期の課題

【授業概要】
エリクソンの発達課題から教科書に従って。

【教科書ページ・参考文献】
17～28P

第６回　モンスターペアレントを精神保健で見ると
【key word】
※キーワードは罪悪感！

【授業概要】
クライマー、モンスターペアレントはどこにもいる。

【教科書ページ・参考文献】
資料参照

第７回　不登校・いじめ
【key word】
不登校・いじめ

【授業概要】
引きこもりの悪循環。

【教科書ページ・参考文献】
29～40P

第８回　虐待とその背景
【key word】
解離性障害
【授業概要】
暴力の連鎖、NHKの教育番組から。斉藤学の調査。
精神疾患との関連。境界性人格障害、解離性障害　…等。

【教科書ページ・参考文献】
精神医学の教科書をひも解く

第９回　成人の精神保健
【key word】
うつ病

【授業概要】
成人期の危機。職場、家庭での新たな精神保健課題。

【教科書ページ・参考文献】
50P～

第１０回　アルコール関連問題・薬物乱用について
【key word】
薬物乱用

【授業概要】
依存と乱用の区別、違い。

【教科書ページ・参考文献】
107～121P

第１１回　高齢者の精神保健
【key word】
二つの失語

【授業概要】
認知症対策を中心に

【教科書ページ・参考文献】
61～69P、82～92P

第１２回　精神保健福祉法の成立と精神保健
【key word】
精神障害者対策。
【授業概要】

歴史と入院形態。パラダイムの転換。

【教科書ページ・参考文献】
71P～、136P～

第１３回　精神保健福祉の歴史
【key word】
新しい取り組み

【授業概要】
新しい取り組み、精神保健医療福祉の改革ビジョン。

【教科書ページ・参考文献】
226Pを中心に

第１４回　学校精神保健
【key word】
非行

【授業概要】
犯罪の低年齢化は本当か？
非行の二つのタイプ。家庭裁判所の調査報告を基に。

【教科書ページ・参考文献】
12、37, 181P

第１５回　DALYと精神保健
【key word】
疾病調整生命年（DALY)を知る。
【授業概要】
新しい精神保健の捉え方。
※21世紀はメンタルヘルスの時代。

【教科書ページ・参考文献】
１P,312P

第１６回　精神保健を精神病理から見る
【key word】
異常とは？
【授業概要】
量的異常と質的異常。では病的とは？
※清風堂書店「精神保健学」から

【教科書ページ・参考文献】
３P

第１７回　西のゲール、東の岩倉
【key word】
スピリチュアル

【授業概要】
ベルギーゲールの取り組み。伝説と家庭看護の実際の取り組み。
日本では京都、岩倉の実際。
※スピリチュアルの世界。スピリチュアルな健康！

第１８回　記憶の異常
【key word】
記憶
【授業概要】
前期、認知症の単元を復習。神経伝達物質、ドーパミン、セロトニンだけでなくアセチルコリンも。

【教科書ページ・参考文献】
大脳中枢神経について精神医学の教科書から。

第１９回　知能・　知覚の異常
【key word】
知覚

【授業概要】
幻覚としての幻聴、幻視の違い

【教科書ページ・参考文献】
精神医学をひも解く。

第２０回　感情の異常
【key word】
感情の障害

【授業概要】
気分障害と感情の異常。
抑うつ、不安、パニックも感情の障害。
パニック障害を正確に知る。

第２１回　不眠と精神保健
【key word】
新しい不眠対策
【授業概要】
不眠のメカニズム。時差ボケがどうして起こるか？
うつ病の不眠。入眠導入剤。新たに非ベンゾジアゼピン系も出た。

【教科書ページ・参考文献】
精神医学をひも解く。

第２２回　精神障害者の現状
【key word】
退院後生活環境相談員

【授業概要】
平成25年精神保健福祉法の改正で「退院後生活環境相談員」が誕生。
そして地域移行が加速化。

※精神障害者制度改革

第２３回　障害者総合支援法
【key word】
総合支援法と相まって

【授業概要】

	教科書のポイントから総合支援法を押さえる。 【教科書ページ・参考文献】 238P～。136P～ 第２４回　医療観察法、更生保護法 【key word】 CPA 【授業概要】 ソーシャルワークとプロベーションの違い。 更生保護制度を絡めて。 【教科書ページ・参考文献】 149～164P 第２５回　精神保健関連法 【key word】 精神科特例 【授業概要】 地域精神保健の実際と課題。 生活臨床も忘れずに！ 【教科書ページ・参考文献】 225P～ 第２６回　世界の精神保健 【key word】 国連やWHOの新しい取り組み 【授業概要】 DALYをもう一度。アルコール関連問題での社会的損出をについても扱う。 【教科書ページ・参考文献】 307P～ 第２７回　緩和ケアと精神保健 【key word】 在宅で看取る 【授業概要】 ターミナルケアからの転換。 【教科書ページ・参考文献】 164～179P 第２８回　精神保健学の新しい取り組みと調査研究。 【key word】 エビデンス 【授業概要】 国際調査研究。参与観察からトライアングレーション。 ※プログラム研究とフディリティ尺度。 【教科書ページ・参考文献】 260P～ 第２９回　精神保健分野における精神保健福祉士の役割 【key word】 司法から学校精神保健 【授業概要】 教科書に従って。 ※スクールソーシャルワーク、スクールカウンセリング。 【教科書ページ・参考文献】 277P～ 第３０回　精神保健の課題と支援を学んで 【key word】 精神保健福祉を学んで 【授業概要】 1年間のまとめ。また4年間を通して。
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０％
教科書	へるす出版　　精神保健学　　精神保健の課題と支援
参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニン	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

グ	具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。中でもこの講義は精神科医と始めた病院看護師勉強会の経験が役に立っている。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神疾患とその治療　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
重田　理佐			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学の知識を身につける。 【到達目標】 １、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。 ２、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。 ３、精神医学の概念、診断の基本について理解する。 ４、代表的な精神障害について理解する。 ５、精神障害の治療の概要について理解する。 ６、病院精神医療について理解する。 ７、司法精神医学、産業精神医学、学校精神保健について理解する。
授業の概要	精神科病院の勤務医としての臨床経験を伝えながら精神保健福祉士の仕事の基礎となる精神医学の知識を習得出来るよう援助する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。

授業計画	第１回　授業オリエンテーション 第２回　精神医学、精神医療の歴史 第３回　精神現象の生物学的基礎 第４回　精神医学の概念 第５回　精神疾患の症状と診断１ 第６回　精神疾患の症状と診断２ 第７回　精神科検査法 第８回　精神科検査法2 第９回　器質性精神障害 第１０回　精神作用物質使用による精神及び行動の障害 第１１回　統合失調症１ 第１２回　統合失調症２ 第１３回　気分障害１ 第１４回　気分障害２

	第１５回　　神経症性障害１ 第１６回　　神経症性障害２、摂食障害 第１７回　　人格障害 第１８回　　知的障害、発達障害 第１９回　　小児期及び青年期に通常発症する行動および情緒の障害 第２０回　　精神科薬物療法 第２１回　　電気けいれん療法、身体療法 第２２回　　精神療法 第２３回　　作業療法、精神科リハビリテーション 第２４回　　精神医療の現在 第２５回　　医療観察法、司法精神医学 第２６回　　精神科救急 第２７回　　産業精神医学 第２８回　　学校精神保健 第２９回　　復習１ 第３０回　　復習2
受講生に関わる情報および受講のルール	予習復習を行う。積極的な授業への参加、質問を行うことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	前期末にレポート課題を行い、後期末に筆記試験を行う。筆記試験により評価を行う。
教科書	新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療　中央法規
参考書	講義のなかで適宜紹介していく。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解をとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。 ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人を理解し、受容できるようになる。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。
授業の概要	実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え 【key words】 ・オリエンテーション，精神保健福祉援助実習 【授業概要】 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰでこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 ・精神保健福祉援助実習について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習」について予習をしておく。 第２回　精神保健福祉現場実習について　配属施設の決定 【key words】 ・精神保健福祉援助実習 【授業概要】 ・各自の配属先施設について伝える。 ・実習に向けて作成する各書類と作成におけるポイントについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 第３回　自己紹介表の作成①　自己紹介表の意義と目的および作成 【key words】 ・自己紹介表

【授業概要】
・自己紹介表の意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。

第４回　自己紹介表の作成②　自己紹介表の作成
【key words】
・自己紹介表
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。

第５回　実習計画書の作成①　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習機関・施設の概要
【授業概要】
・実習機関・施設の概要を整理することの意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。

【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。
・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。

第６回　実習計画書の作成②　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習機関・施設の概要
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。

【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。

第７回　実習計画書の作成③　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習計画書
【授業概要】
・実習計画書を作成することの意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。

【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。
・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。

第８回　実習計画書の作成④　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習計画書
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。

【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。

第９回　現場実習に係わる留意事項①　守秘義務および契約・契約書
【key words】
・守秘義務，契約書
【授業概要】
・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習生としての守秘義務について理解を深める。
・誓約書を作成する（印鑑持参）。
【教科書ページ・参考文献】
・p69-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「実習に向けての心構え」について予習をしておく。
・誓約書を作成するので、印鑑を持参すること。

第１０回　現場実習に係わる留意事項②　卒業生講話

【key words】
・卒業生講話
【授業概要】
・卒業生の講話を聞き、精神保健福祉士の仕事や精神保健福祉援助実習について具体的に理解する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・卒業生講話に向けて、質問したいことなどを整理しておくこと。

第１１回　実習記録・日誌の記述方法①

【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・実習記録・日誌の意義や目的について説明する。
・事例を読み、実際に実習記録を作成してみることによって、実習記録・日誌の書き方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「実習記録・実習日誌」について予習をしておく。

第１２回　実習記録・日誌の記述方法②

【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習記録・日誌の目的や書き方について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習記録・日誌を作成しておくこと。

第１３回　実習先への事前訪問について

【key words】
・事前訪問
【授業概要】
・事前訪問の目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、事前訪問の目的や確認すべき内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p64-p68
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「事前訪問」について予習をしておく。

第１４回　自らの課題検討

【key words】
・課題
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。

第１５回　前期のまとめ

【key words】
・まとめ
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
・実習に向けての最終確認を行う。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。

第１６回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション

【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・精神保健福祉援助実習で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149

・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「事後学習」について予習をしておく。

第１７回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第１８回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第１９回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２０回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２１回　配属実習の振り返り⑤　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２２回　配属実習の振り返り⑥　個別事例の検討

【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２３回　配属実習の振り返り⑦　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２４回　配属実習の振り返り⑧　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２５回　配属実習の振り返り⑨　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

第２６回　実習報告会①
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。

第２７回　実習報告会②
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。

第２８回　実習報告会③
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 第２９回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 第３０回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015／「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015／「実習生必携　ソーシャルワーク実習ノート　第2版」杉本浩章・田中和彦　みらい　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉援助演習（専門）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ②精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ③精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術を習得する。 ④専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。尚、授業のなかでは総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習形態の授業を行うこととする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）で学習してきた内容について復習をしておくこと。 第２回　セルフヘルプグループについて理解する 【key words】 ・セルフヘルプグループ，ヘルパーセラピー原則，非専門性 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションによる検討を通して検討することで、セルフヘルプグループの役割などを理解する。 ・セルフヘルプグループの成り立ちや役割、専門職との関係について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p312-p316 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「セルフヘルプグループ」について予習をしておく。 第３回　ピアサポートについて理解する

【key words】
・ピアサポート，ピアサポーターのバウンダリー，ピアサポーターのヒエラルキー

【授業概要】
・ピアサポートについて解説する。
・「WRAPその魂に触れる」というDVDを鑑賞し、WRAPの実際からピアサポートに期待される要因について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ピアサポートの必要性などを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p317-p321
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「ピアサポート」について予習をしておく。

第４回　自死遺族に対する支援について理解する
【key words】
・ソーシャルワークのグローバル定義，自死遺族への支援，グリーフワーク・グリーフケア

【授業概要】
・ソーシャルワークのグローバル定義について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワーカーとしての自死遺族への支援について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
・p327-p331
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「自死遺族に対する支援」について予習をしておく。

第５回　地域との連携について理解する
【key words】
・地域住民，ボランティア
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域住民が主体となる精神保健福祉の推進について考察する。
・地域住民が主体となる精神保健福祉の推進における精神保健福祉士の役割について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p332-p336
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「地域との連携」について予習をしておく。

第６回　薬物事犯者の更正保護について理解する
【key words】
・保護観察所，社会復帰調整官，薬物依存，ダルク（自助グループ）

【授業概要】
・更生保護の目的や保護観察所について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、覚せい剤使用の影響や必要な支援について考察する。
・薬物事犯者の更生保護における自助グループや精神保健福祉士の役割について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p337-p343
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「薬物事犯者の更生保護」について予習をしておく。

第７回　発達障害のある子ども・若者の支援について理解する
【key words】
・発達障害，ライフステージ，教育現場との連携

【授業概要】
・「発達障害へのアプローチ」および「発達障害の理解と支援」というDVDを鑑賞し、発達障害の特徴について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、発達障害のある子ども・若者の支援について考察する。
・発達障害のある子ども・若者の支援について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p344-p348
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「発達障害のある子ども・若者の支援」について予習をしておく。

第８回　うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について理解する
【key words】
・うつ病性障害（うつ病），自殺のリスク，家族への支援

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について考察する。
・うつ病性障害（うつ病）支援や家族支援について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p384-p388

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「うつ病性障害（うつ病）の成人の支援」について予習をしておく。

第９回　ひきこもりの若者の支援について理解する

【key words】
・ひきこもり，家族への支援，社会資源

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ひきこもりの若者の支援について理解する。
・ひきこもりの若者の支援について解説する。
※ 可能であれば、ゲストスピーカーによる講話を行う。

【教科書ページ・参考文献】
・p369-p373
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「ひきこもりの若者の支援」について予習をしておく。

第１０回　アルコール依存症の成人の支援について理解する

【key words】
・アルコール依存症，自助グループ（断酒会）

【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アルコール依存症の成人の支援について考察する。
・断酒会を含んだ、アルコール依存症の成人の支援について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p379-p383
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「アルコール依存症の成人の支援」について予習をしておく。

第１１回　相談援助場面を想定した実技指導①　インテーク

【key words】
・インテーク（受理面接）
【授業概要】
・インテーク（受理面接）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、ロールプレイを通して検討することでインテーク（受理面接）の実際を理解する。
・インテーク（受理面接）のポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p124-p128
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「インテーク（受理面接）」について予習をしておく。

第１２回　相談援助場面を想定した実技指導②　アセスメント

【key words】
・アセスメント
【授業概要】
・アセスメントの目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アセスメントの実際について理解する。
・アセスメントのポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p129-p133
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「アセスメント」について予習をしておく。

第１３回　相談援助場面を想定した実技指導③　プランニング

【key words】
・プランニング（支援計画の作成）
【授業概要】
・プランニング（支援計画の作成）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、プランニング（支援計画の作成）の実際について理解する。
・プランニング（支援計画の作成）のポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p134-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「プランニング（支援計画の作成）」について予習をしておく。

第１４回　相談援助場面を想定した実技指導④　モニタリングおよび評価

【key words】
・モニタリング，評価
【授業概要】
・モニタリング及び評価の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、モニタリング及び評価の実際について理解する。
・モニタリング及び評価のポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p139-p148
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「モニタリング及び評価」について予習をしておく。
第１５回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
第１６回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・前期の授業内容を復習しておくこと。
第１７回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
第１８回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
第１９回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
第２０回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
第２１回　配属実習の振り返り⑤　実習報告書の作成
【key words】
・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。
第２２回　配属実習の振り返り⑥　実習報告書の作成
【key words】

・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。

第２３回　配属実習の振り返り⑦　実習報告書の作成
【key words】
・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。

第２４回　配属実習の振り返り⑧　実習報告会の準備
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。

第２５回　配属実習の振り返り⑨　実習報告会の準備
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。

第２６回　配属実習の振り返り⑩　実習報告会の準備
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。

第２７回　実習報告会①
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。

第２８回　実習報告会②
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。

第２９回　振り返りと今後の課題
【key words】
・振り返り，今後の課題
【授業概要】
・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。

第３０回　全体のまとめ
【key words】

	・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016
参考書	Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press. (＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版)
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神障害者の生活支援システム　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者の生活支援、相談支援、居住支援、雇用・就労支援を精神保健福祉士のかかわりから学ぶ。 【到達目標】地域生活支援と相談支援援助に焦点を当て事例を重ね実戦的なソーシャルワークを学ぶ。
授業の概要	これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の地域生活支援に焦点をあて「意義」と「特徴」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方 【key word】 パラダイムシフト 【授業概要】 精神保健福祉士と精神保健福祉。 授業の進め方とパラダイムシフトについて。 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 第２回　精神障害者の概念 【key word】 精神保健学の歴史 【授業概要】 オープンドアからオープン・ザ　ドア ICFとアンチスティグマ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1～26P 第３回　パラダイムの転換とピア活動 【key word】 支援関係の転換。 【授業概要】 地域移行・地域定着とピア活動 【教科書ページ・参考文献】 教科書26～46P 第４回　精神障害者の生活実態 【key word】 内閣府の障害者白書、患者調査。 【授業概要】 教科書に従い 【教科書ページ・参考文献】

		教科書51～60P
	第５回	居住支援 【key word】 中間施設 【授業概要】 宿所提供 ケアホーム、グループホームの一元化。ほか 【教科書ページ・参考文献】 教科書135P～
	第６回	障害者雇用 【key word】 職業準備性 【授業概要】 教科書に従う。 障害者雇用と職業リハビリテーション。 【教科書ページ・参考文献】 理論と展開Ⅱの122Pあたりを ※体験グループの開始
	第７回	作業療法と就労支援 【key word】 作業療法と就労支援 【授業概要】 キーワードは「職業レディネス」。 ソーシャルワークと障害者雇用。 【教科書ページ・参考文献】 教科書174～190P
	第８回	ストレングスモデル、ＩＰＳの考え方 【key word】 クライシスシステム 【授業概要】 脱施設化による地域移行とクライシス。対応するクライシスシステム。 【教科書ページ・参考文献】 教科書113P
	第９回	障害者の自立と社会参加のための政亜kつ支援システム 【key word】 WRAPによるケアシステム。 【授業概要】 障害者のための生活支援システム。 コープランドと仲間たちによるケア。 【教科書ページ・参考文献】 教科書57P,120P
	第１０回	社会療法のための病院機構 【key word】 治療共同体 【授業概要】 社会療法のための病院機構いわゆる精神科病院が本来あるべき姿を見直す。 社会学的視点。クラーク・Dの著書を読みあう。 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布
	第１１回	退院時訪問指導と地域移行 【key word】 コミュニティー支援 【授業概要】 コミュニティーミーティングのルール。 自我志向の発言、「私」を主語にした発言。 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布
	第１２回	新しい精神科医療の流れ 【key word】 イギリスのTTC 【授業概要】 新しい役割とグループワーク。 ①退院後生活環境相談員の仕事。②英国の新しい取り組み。 【教科書ページ・参考文献】 268Pを中心に
	第１３回	福祉的就労 【key word】 発言の自由。 【授業概要】

	医療機関でのグループ、福祉サービス事業所でのグループ。 【教科書ページ・参考文献】 165P～ 第１４回　行政による相談支援 【key word】 ストレングスモデル 【授業概要】 精神保健福祉センター。保健所活動。 引きこもりの青年にミーティング。ミーティングは人を育て、成長させる。 【教科書ページ・参考文献】 211P～ 第１５回　世界の退院促進の流れに遅れない 【key word】 精神科救急 【授業概要】 精神科スーパー救急。入院は3か月以内。精神保健福祉士は病棟に2名以上。 【教科書ページ・参考文献】 252P～
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	（注意）中央法規出版　　精神障害者の生活支援システム
参考書	適宜紹介する
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神保健福祉士として精神科病院や社会復帰施設で現場支援に関わった経験を元に、治療共同体を指向する教員としてソーシャルワークの重要性・必要性について講じる。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	4単位(180)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活することを具体的に理解・把握し、援助実践の具体的技術を体得する。 ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を習得する。 ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。
授業の概要	実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回

	第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	（実習履修資格者） 本学における実習履修者資格は原則として「精神保健福祉法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。 ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。 ②精神保健福祉の学習および実践に対しての熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。 ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。 ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。 ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。 ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	（実習上の注意） ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園　最新版を参照し、遵守すること。 ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を充分に事前学習すること。 ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。
オフィスアワー	授業のなかで説明する。
評価方法	①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合評価（40%） ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%） ③実習記録（10%） ④実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） 注意１：実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。 注意２：精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。
教科書	授業のなかで適宜紹介する。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

講義科目名称：　教職対策講座Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。 [到達目標] １　願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　３年次の後期から開講している教職対策講座Ⅰを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。 ２　外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。 ３　願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。 ４　学内模擬試験を実施する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

	〈知識理解〉	〈汎用的技能〉	〈態度・志向性〉	〈統合的な学習経験と創造的思考力〉
授業の到達目標	１．福祉・教育に関する知識を修得し，生活上の課題を多面的に考察できる。	２．人の思いを引き出し，分析した上で生活上の課題に対する解決方法を提案できる。	３．本学の仁の精神に則り，人の尊厳を踏まえた専門職としての職業倫理を身に付けている。 ４．地域や人の変化に対する知識を自ら学び，地域に還元する意欲を持っている。	５．多職種の専門性を理解し，自他の自己実現や生活上の課題解決のための方法を創造できる。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明　教員採用試験対策　教員採用試験の概要説明 【受講にあたり】 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくこ　とを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2020年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること。
	第２回	願書の書き方
	第３回	自己アピール文の作成方法・解説
	第４回	小論文の書き方
	第５回	試験直前対策問題　①　教育原理・専門教養
	第６回	試験直前対策問題　②　教育原理・専門教養
	第７回	試験直前対策問題　③　教育原理・専門教養

	第８回　　試験直前対策問題　④　教育法規・専門教養 第９回　　試験直前対策問題　⑤　教育法規・専門教養 第１０回　　試験直前対策問題　⑥　教育法規・専門教養 第１１回　　試験直前対策問題　⑦　教育時事・専門教養 第１２回　　試験直前対策問題　⑧　教育時事・専門教養 第１３回　　個人面接試験対策 第１４回　　集団面接試験対策 第１５回　　集団討論試験対策
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておき、授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。４　全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　10時～12時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2019年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務経験のある教員による授業科目/アクティブ・ラーニング	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、間近に迫る教員採用試験に向けて、願書の作成、小論文、模擬授業の実践、個人面接、集団討論･面接を中心に指導・支援を行う。 アクティブラーニング要素 □協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習 □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない